福岡県文化財保護行政100周年記念誌の発刊にあたって

大正10年（1921）3月3日に「大宰府跡」と「水城跡」が国の史跡に指定され、福岡県において「記念物」（史跡・名勝・天然記念物）保護の取組が始まってから、今年で100年の節目を迎えます。

福岡県教育委員会では、この史跡指定100周年という節目を迎えたことで、これまで本県が保護に取り組んできた、様々な文化財を対象に、大正時代から現在までどのように文化財の保護が図られてきたのかを振り返り、将来に引き継ぐための「記念誌」を発行する運びとなりました。

これもひとえに、長きにわたり様々な文化財の保護を支えてくださった県民の皆様や、国や市町村、大学などの関係機関の皆様の御支援、御協力があったからこそであり、またその期待に応えられるよう本県の文化財保護行政に携わった先輩方が日々奮闘努力した賜物であります。

これまで高い評価を受けている福岡県の文化財保護行政の取組の歴史を基盤として、今後の様々な社会情勢の変化や時代の要請に対応した、福岡県ならではの、福岡県らしい地域主体の文化財保護行政を一層充実させ、県民に親しまれ、愛される文化財の保護の環境づくりの実現に邁進していく所存です。

福岡県文化財保護行政のこれからの新しい100年、そしてさらに次世代に向けて、県民をはじめ、関係各位の皆様の引き続いての御支援と御協力をお願い申し上げ、発刊の御挨拶とさせていただきます。

令和3年3月

福岡県教育委員会
教育長　城戸秀明

例　言

1　本書は、今年度（2021）、大正10年（1921）3月3日に大宰府跡と水城跡が我が国最初の史跡に指定されて100年の節目の年を迎えたことを記念し、令和2年12月現在の福岡県における文化財保護行政の歩みを記録するものとして刊行した。ただし、100年を振り返る中で、史跡指定以前の取組についても記述した。

2　本書に掲載した写真は、福岡県教育委員会が撮影したものである。

3　本書の企画編集は、伊﨑俊秋（九州歴史資料館）・大庭孝夫（福岡県教育庁教育総務部文化財保護課）が行い、執筆は、田上稔・杉原敏之・入佐友一郎・岸本圭・宮地聡一郎・大庭・坂元雄紀・城門義廣・松本将一郎（福岡県教育庁教育総務部文化財保護課）、久野隆志・正田実知彦（福岡県人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産室）、吉村靖徳・伊﨑・秦憲二・吉田東明・森井啓次・松川博一・加藤和歳・小川泰樹・井形進・酒井芳司・今村洋次・岡寺良・遠藤啓介・坂本真一・日野綾子（九州歴史資料館）が担当し、編集及び校正にあたっては、吉村・森井・梶佐古幸謙・桑野暢子・江上佳子・中田千枝子・松島加代子の協力を得た。

4　本書を執筆するに当たり、『福岡県教育要覧』『福岡県教育便覧』『九州歴史資料館年報』の刊行物、「文化財保護行政のあゆみ―福岡県教育庁文化課発足50周年記念―」福岡県教育庁教育総務部文化財保護課・九州歴史資料館　2019年、「福岡の文化財保護行政―50年の歩みとこれから―」文化財保護行政50周年記念シンポジウム　福岡の文化財保護行政を考える実行委員会　2019年を主に参考にした。

目次

発刊にあたって
例言
目次

本文

Ⅰ　福岡県の文化財保護行政の100年 …… 3
1　福岡県文化財保護行政のあゆみ…… 3
（1）文化財保護の思想…… 3
（2）文化財保護観念の萌芽…… 3
（3）明治期…… 3
（4）大正期～昭和20年…… 4
（5）昭和20年9月以降 …… 5
（6）福岡県の文化財保護行政…… 6
（7）福岡県の文化財保護行政の年表…… 12
2　福岡県文化財保護組織の変遷…… 17
はじめに…… 17
（1）明治期～昭和20年8月 …… 17
（2）昭和20年9月以降 …… 18
（3）昭和44年4月以降 …… 18
3　福岡県の文化財保護の黎明期…… 21

Ⅱ　福岡県文化財保護の事業と活動…… 35
1　文化財保護課の活動…… 35
（1）福岡県文化財保護審議会…… 35
（2）福岡県文化財保護指導委員…… 35
（3）建造物…… 36
（4）美術工芸品…… 38
（5）無形文化財…… 39
（6）無形民俗文化財…… 40
（7）有形民俗文化財…… 41
（8）史跡…… 43
（9）史跡整備…… 44
（10）名勝…… 46
（11）天然記念物…… 47
（12）文化的景観…… 48
（13）伝統的建造物群…… 49
（14）選定保存技術…… 50
（15）埋蔵文化財…… 51
（16）旧福岡県公会堂貴賓館…… 53
（17）国際交流事業…… 54
（18）九州国立博物館・アジア文化交流センター… 58
（19）世界遺産室…… 60
（20）教育事務所…… 61
2　九州歴史資料館の活動…… 63
（1）大宰府史跡調査…… 63
（2）美術工芸…… 66
（3）古文書・典籍（木簡含む）…… 69
（4）考古…… 71
（5）保存科学…… 72
（6）埋蔵文化財（九歴移転後）…… 74
（7）分館（求菩提資料館・甘木歴史資料館
・柳川古文書館）…… 75
3　文化財の普及公開事業…… 77
（1）文化財保護課の会議・普及公開事業…… 77
（2）旧福岡県公会堂貴賓館の普及活動…… 78
（3）九州歴史資料館の普及・活用事業…… 79
（4）ボランティア育成と活動…… 82
（5）九州歴史資料館の展示…… 85
（6）九州歴史資料館講演会・講座…… 90
（7）九州歴史資料館の普及イベント…… 106

Ⅲ　参考資料…… 109
1　組織の変遷…… 110
（1）福岡県文化財保護組織の変遷…… 110
（2）福岡県文化財保護審議会委員…… 112
（3）福岡県文化財保護指導委員…… 115
（4）九州歴史資料館協議会委員…… 116
（5）大宰府史跡調査研究指導委員会委員…… 118
2　事業の変遷…… 119
（1）大宰府史跡調査…… 119
（2）埋蔵文化財関係主要事業の推移…… 125
（3）文化財担当職員研修会…… 126
（4）文化財指導者講習会…… 129
（5）埋蔵文化財安全衛生講習会…… 133
（6）歴史民俗資料館等研修会…… 134
（7）文化財めぐり…… 135
（8）九州地区民俗芸能大会…… 136
3　刊行物…… 137
（1）福岡県文化財調査報告書…… 137
（2）大宰府史跡発掘調査報告書…… 147
（3）九州歴史資料館刊行物…… 149
（4）福岡県文化財関係刊行物…… 159
4　その他
（1）県内の文化財保護条例…… 161

編集後記・奥付…… 162

挿図目次

第１図　福岡県文化財保護組織の変遷……　20
第２図　渡邉先生の遺物メモ……　21
第３図　本県における埋蔵文化財調査の推移……　61
第４図　大宰府政庁周辺官衙配置図……　64

表目次

第１表　福岡県文化財保護に関する年表……　12
第２表　福岡県の指定文化財等の件数……　32
第３表　史跡整備担当者一覧……　45
第４表　国際交流事業派遣・招聘一覧……　55
第５表　古代オリエント博物館との連携事業……　58
第６表　大宰府史跡発掘調査５ヶ年計画……　63
第７表　九歴ボランティアの変遷……　83
第８表　古代体験・バックヤード解説の体験者数　83
第９表　ボランティア研修の主な内容……　83
第10表　バス研修……　84
第11表　ボランティアイベント……　84
第12表　自主研究の主なテーマ……　84
第13表　九州歴史資料館の展示……　85
第14表　九州歴史資料館の講演会・講座一覧……　90
第15表　九州歴史資料館の普及イベント……　106
第16表　福岡県文化財保護組織の変遷……　110
第17表　福岡県文化財保護審議会委員……　112
第18表　福岡県文化財保護指導委員……　115
第19表　九州歴史資料館協議会委員……　116
第20表　大宰府史跡調査研究指導委員会委員……　118
第21表　大宰府史跡発掘調査一覧……　119
第22表　水城跡発掘調査一覧……　122
第23表　筑前国分寺跡発掘調査一覧……　123
第24表　大野城跡発掘調査一覧……　124
第25表　埋蔵文化財関係主要事業の推移……　125
第26表　文化財担当職員研修会……　126
第27表　文化財指導者講習会……　129
第28表　埋蔵文化財安全衛生講習会……　133
第29表　歴史民俗資料館等研修会……　134
第30表　文化財めぐり……　135
第31表　九州民俗芸能大会……　136
第32表　福岡県文化財調査報告書……　137
第33表　大宰府史跡発掘調査報告書……　147
第34表　九州歴史資料館刊行物……　149
第35表　福岡県文化財関係刊行物……　159
第36表　県内の文化財保護条例……　161

写真一覧

写真１　島田寅次郎氏……　5
写真２　筑紫豊氏……　6
写真３　『筑紫の文化』……　6
写真４　藤井功氏……　7
写真５　文化課職員一同……　7
写真６　九州歴史資料館の開館……　8
写真７　皇太子・皇太子妃両殿下九歴行啓……　9
写真８　九州歴史資料館開館式典……　11
写真９　旧福岡県庁舎……　18
写真10　戦後、教育委員会があった旧貴賓館……　18
写真11　現福岡県庁舎……　19
写真12　九州国立博物館……　19
写真13　小郡市へ移転後の九州歴史資料館……　19
写真14　御所ヶ谷神籠石中門での渡邉先生……　21
写真15　聞き取り時の渡邉先生……　22
写真16　渡邉先生からの聞き取り状況……　27
写真17　福岡県立福岡高等学校校舎……　36
写真18　文化財レスキュー活動状況……　39
写真19　『福岡県諸職関係民俗文化財調査報告書』…　42
写真20　『福岡県重要・大規模遺跡の基本計画』…　43
写真21　整備後の大宰府政庁跡……　44
写真22　『福岡縣の天然記念物』……　47
写真23　シュロ蓑製作……　50
写真24　『埋蔵文化財調査に関する安全規準』序文…　52
写真25　旧福岡県公会堂貴賓館……　53
写真26　北九州教育事務所文化財専門研修会……　62
写真27　大宰府史跡第１次調査……　63
写真28　観世音寺講堂の調査……　65
写真29　筑前国分寺塔跡の調査……　65
写真30　『水城』銘墨書土器……　66
写真31　大野城跡太宰府口城門……　66
写真32　九州の寺社シリーズ『筑前今津誓願寺』　68
写真33　旧九州歴史資料館の保存科学室……　72
写真34　発掘現場での遺物取り上げ作業……　73
写真35　呰見大塚古墳（県史跡）……　74
写真36　埋蔵文化財発掘調査基礎研修……　75
写真37　貴賓館建築展示コーナー（旧休憩室）…　79
写真38　大宰府史跡50周年記念シンポジウム……　79
写真39　名誉館長講座……　80
写真40　夕べのギャラリートーク……　81
写真41　古代体験まつり……　81
写真42　小郡高校との連携……　82
写真43　ボランティア研究成果発表会……　84

Ⅰ　福岡県の文化財保護行政の 100 年

本　文

Ⅰ　福岡県の文化財保護行政の100年 …… 3
1　福岡県文化財保護行政のあゆみ…… 3
（1）文化財保護の思想…… 3
（2）文化財保護観念の萌芽…… 3
（3）明治期…… 3
（4）大正期～昭和20年…… 4
（5）昭和20年9月以降 …… 5
（6）福岡県の文化財保護行政…… 6
（7）福岡県の文化財保護行政の年表…… 12
2　福岡県文化財保護組織の変遷…… 17
はじめに…… 17
（1）明治期～昭和20年8月 …… 17
（2）昭和20年9月以降 …… 18
（3）昭和44年4月以降 …… 18
3　福岡県の文化財保護の黎明期…… 21

挿図目次

第1図　福岡県文化財保護組織の変遷…… 20
第2図　渡邉先生の遺物メモ…… 21

表目次

第1表　福岡県文化財保護に関する年表…… 12
第2表　福岡県の指定文化財等の件数…… 32

写真目次

写真1　島田寅次郎氏…… 5
写真2　筑紫豊氏…… 6
写真3　『筑紫の文化』…… 6
写真4　藤井功氏…… 7
写真5　文化課職員一同…… 7
写真6　九州歴史資料館の開館…… 8
写真7　皇太子・皇太子妃両殿下九歴行啓…… 9
写真8　九州歴史資料館開館式典…… 11
写真9　旧福岡県庁舎…… 18
写真10　戦後、教育委員会があった旧貴賓館…… 18
写真11　現福岡県庁舎…… 19
写真12　九州国立博物館…… 19
写真13　小郡市へ移転後の九州歴史資料館…… 19
写真14　御所ヶ谷神籠石中門での渡邉先生…… 21
写真15　聞き取り時の渡邉先生…… 22
写真16　渡邉先生からの聞き取り状況…… 27

Ⅰ　福岡県の文化財保護行政の100年

1　福岡県文化財保護行政のあゆみ

（1）文化財保護の思想

昭和25年(1950)5月30日公布(8月29日施行)の「文化財保護法」は、その第1条で「この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする」としている。文化財を保護していく基本理念である。

第2条で示される文化財は、その後の法律改正により、現在は有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造遺物群の6つが位置づけられ、それ以外に文化財の保存技術、埋蔵文化財がある。

「文化財」という言葉は、古く大正時代から社会学、哲学の用語として使われ始めたというが、その意味内容は人によって異なっていたらしい。文化財という現今のような意味の文言としては、戦後の文化財保護法の立案・審議過程における昭和24年（1949）4月の参議院文部委員会での発言中に見られるのが議事上の初出であろうとされる。やはり「文化財」という言葉は、この文化財保護法から人口に膾炙したというべきであろう。

人間活動の痕跡として古く存在した所（遺跡）やもの（遺物）などについての興味関心については、例えば8世紀前半期に編纂された『常陸国風土記』に大串貝塚のことが巨人伝説として語られるように、より古い時代から見られた。しかし、人間社会の生活において、また将来に向けて、文化財を必要不可欠なものとして保護していく考えが位置づけられたのは近代以降とみなければならない。

そうした文化財保護の流れについて、主に遺跡の調査を中心に福岡県の様相を概観するが、各分野の詳細は第Ⅱ章の該当する箇所及び第Ⅲ章の参考資料、12～16頁の第1表を参照していただきたい。

（2）文化財保護観念の萌芽

江戸時代以前　福岡県において、遺跡・遺物に関する発見記録としては、『百錬抄』（13世紀末頃成立か）に、安元元年（1175）7月に大宰府安楽寺の東南の嶺から銅矛10本が出土したという記述があり、これが最古と思われる。このことは時代が下った江戸期の筑前の地誌類にも採録されているが、中世期には文化財の発見事象は多くはない。

江戸時代　長い戦乱の世が終わり江戸時代になって、200年以上にわたって概ね平穏な時代が経過した。現在の福岡県域は、筑前は黒田藩、筑後は田中家から久留米有馬藩と柳河立花藩、豊前は細川家のあと小笠原藩が藩政を執って幕末に至る。

筑前黒田藩では、藩主が神社仏閣への尊崇の念が高く、また特に大宰府の保存については重視した。天明年中（1781～1788）には大宰府の礎石の除去を厳禁し、寛政5年（1793）には藩主が都府楼跡や観世音寺を巡検し礎石配置図を作成させた。文政3年（1820）にも礎石改め図が作成される。

さらに、藩主により貝原益軒や青柳種信ほかに地誌の編纂が命じられ、『筑前国続風土記』や『同附録』・『同拾遺』が成ったが、それらには遺跡や遺物、現在の観点での「文化財」に関する記述が多々見られる。

また、各藩の国学者等が著した地誌その他の著作においても文化財に触れた記述が見られる。筑前ではほかに伊藤常足、筑後では矢野一貞、豊前においては西田直養・渡辺重春などがいた。

（3）　明治期

神仏分離と古器旧物保存方　慶応3年（1867）12月に発せられた王政復古の大号令により、江戸幕府に代わる新しい政治が始まった。明治政府が目指したものは神祇官を再興しての祭政一致の政体であり、翌慶応4年（明治元年：1868）3月には「神仏分離令」が布告された。この神仏分離が昂じて廃仏毀釈となり、その嵐が全国各地で吹き荒れた。福岡県でも例外ではなく、寺院（仏教）に関わる多くの貴重な物（文化財）が路傍に捨てられたり、除却されたりした。

あまりにも急激な寺院の没落や古物の除却等の事態に対処するものとして、政府は明治4年（1871）5月に「古器旧物保存方」の太政官布告を行った。それは、「各地方ニ於テ歴世蔵貯致シ居候古器旧物類別紙品目ノ通細大ヲ不論厚ク保全可致事」として、「品目並ニ所蔵人名委詳記載シ其官庁ヨリ可差出事」にしたものであり、別紙品目には祭器・古鏡古鈴・銅器・古瓦・古書画・印章・農具・布帛・貨幣・陶磁器・化石などのものが列記され、「上ハ神代ヨリ近世ニ至ス迄和品舶齎ニ不拘」とされた。

有形の動産文化財のみではあったが、この布告は我が国における初めての文化財の保護に係る法律であったと評価される。

明治初期の政府内において、現在の各種文化財の所管は一定せず、社寺関係は民部省ののち大蔵省が、城郭関係は兵部省が、陵墓関係は教部省ののち内務省、そして宮内省、古跡は内務省が所管する状況であった。

廃藩置県・地方官官制　一方、政府は明治4年（1871）7月14日に廃藩置県を行い、全国に3府302県が誕生した。同10月28日に「府県官制」、同11月27日には「県治条例」を制定して、県に庶務・聴訟・租税・出納の4

課が設置されたが、まだ地方が積極的に文化財に関わる状況ではなかったといえよう。

その後、府県の統廃合が行われ、明治 9 年（1876）8 月 21 日、1 使 3 府 35 県となった際に福岡県は現在の範囲が定まったが、全国的には同 21 年（1888）12 月に 1 道 3 府 43 県という現在の枠組みができた（北海道は明治 19 年から道庁、東京都は昭和 18 年 7 月 1 日に都政を敷く）。

各府県において文化財を所管する事務を行う部署が機能し始めたのが何時からであるか明確にしえないが、明治 4 年の「古器旧物保存方」に続いて、同 7 年（1974）5 月には「古墳発見ノ節届出方」の太政官布告が出され、こうした布告に対する文書（届出）の受理や進達はあったものと思われる。明治 8 年（1875）11 月の「府県職制並事務章程」において、地方官の事務として名所旧跡の査定のことが示されているが、文化財に対する地方自治体の役割を考えさせるものの、その具体的な実態は把握できていない。基本的には、国の方針・動向に従って府県はその施策に追随する方向であったといえよう。

明治 19 年（1886）に地方官官制が制定される。同 21 年（1888）4 月には市制・町村制が制定され、同年 12 月には現在の都道府県と同じ枠組みができた。各府県には地方長官（知事）のもと、市、町村があり、同 23 年（1891）からは県の中に郡役所もできた。

地方官官制はその後何度も改正が行われるが、明治 19 年の制定時には府県に知事以下の部署として第一部（庶務課・農商務課）・第二部（土木課・兵事課・学務課・衛生課・監獄課・会計課）・収税部・警察本部が置かれたものの、その所掌事務に名勝旧跡などの文化財にかかる文言は見られなかった。明治 23 年、同 26 年の全部改正においても名勝旧跡等は触れられていないが、部の管掌事務として同 32 年（1899）の改正で内務部第一課に「名勝旧跡ニ関スル事項」が、同 38 年（1905）改正の第二部（学務・兵事）にも同じことが明記された。

ただ、同 40 年（1907）や大正 2 年（1913）の改正では名勝旧跡等の文言はなくなった。

また、明治 32 年（1899）5 月の府県制・郡制の全文改正において、一部の条項において「学術美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ処分シ若ハ大ナル変更ヲ為ス事」には内務大臣の許可を要するものとされたので、そこには文化財に関する事案が見えることになる。

古社寺保存法　明治 30 年（1897）6 月に「古社寺保存法」が施行される。

これはその名称のとおり古社寺に関する法律であるが、我が国における文化財保護に関する本格的法律といってよいものであった。第 1 条に「古社寺ニシテ其ノ建造物及宝物類ヲ維持修理スルコト‥‥」に対して国へ保存金の下付を出願できることとなり、また第 4 条で「特別保護建造物又ハ国宝ノ資格アルモノ」について内務大臣が定めることができることとなった。これにより建造物を含む有形文化財に対しての実質的な指定措置が執られることとなった。

福岡県では、同 35 年（1902）4 月に「筥崎宮楼門」が特別保護建造物（国宝）となった。県内での国指定文化財の第 1 号である。同 37 年（1904）2 月には太宰府観世音寺の「梵鐘」のほか、彫刻として同じ観世音寺の「木造阿弥陀如来坐像」や東長寺の「木造千手観音立像」、宗像大社の「木造狛犬」など 27 件が国宝に指定されており、続けて同年 8 月に 3 件、39 年 4 月に 9 件、40 年 5 月に 8 件、44 年 4 月に 7 件など、明治期のみでも古文書・考古資料・絵画等が多数指定された。

そして、地方長官の役割として、第 3 条で建造物・宝物の修理に対する指揮監督、第 10 条で下付された保存金の管理がうたわれており、府県ではそれを担当する部署があったか若しくは事務担当者がいたことになろう。

なお、この法律の第 19 条では「名所旧蹟ニ関シテハ社寺ニ属セサルモノト雖仍本法ヲ準用スルコトヲ得」とあって、古社寺以外の名所旧跡も指定対象になりうるものであったが、この条項は適用されることなく大正 8 年（1919）の「史蹟名勝天然紀念物保存法」の施行により削除された。

国においては内務省社寺局の所管であり、福岡県ではこの段階で内務部第一課庶務係で古社寺を含む文化財を担当したと思われる。明治 42 年頃（1909）には内務部庶務課社寺係で文化財関係を担当していたらしい。

明治の終盤近くになると、史跡等の保護に関する動きが出てくる。

明治 42 年 5 月、内務省地方局の地方長官会議において「史蹟、勝地調査保存に関する件」が訓示され、同 44 年 3 月には第 27 回帝国議会に「史蹟及天然記念物保護ニ関スル建議案」が提出され可決された。その 7 月には史蹟名勝天然紀念物保存協会が設立された。

（4）大正期～昭和 20 年

史蹟名勝天然紀念物保存法　大正 5 年（1916）9 月、「福岡県史蹟名勝旧跡保存訓令」が発せられた。これは内務大臣訓示を契機とするもので、県下各郡市役所あてに訓令を発し、名勝旧蹟古墳墓天然紀念物等に関する保護機関の督励及び未設置の場合は組織することを促して、要項に準拠して保護並びに顕彰の策を講ずるよう訓示したものである。

大正 8 年（1919）4 月に「史蹟名勝天然紀念物保存法」が公布された。史跡等の不動産文化財に関する法律が整備されたことになる。その第 1 条で内務大臣の指定及び地方長官の仮指定のこと、第 3 条で現状変更に際しては地方長官の許可が必要であること、また第 5 条で史跡等の管理について地方公共団体が行うよう内務大臣が指定

できる旨が明記されている。さらに同年12月の同法施行令・施行規則においても、地方長官の役割が示されていることから、地方長官たる県知事のもとに文化財を所管する担当部署が存在した。福岡県ではこの8月までは内務部の庶務課が担当していたが、9月からは内務部学務課社寺係が担当することとなった。

福岡県の文化財保護と島田寅次郎　大正12年（1923）4月、それまで高等女学校長であった島田寅次郎氏が内務部学務課に奉職する（写真1）。嘱託であったと思われる（大正14年4月作成の「福岡縣統計書」[大正12年12月31日現在]では、学務課は奏任官1・判任官13・県吏員3・雇5の22人となっている）。島田氏は昭和7年（1932）7月まで学務課・社寺兵事課に勤務し、その間に福岡県の文化財行政に大きな足跡を残した。その業績の第一としては『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』の刊行が挙げられる。第1輯が大正14年3月の刊行で、社寺兵事課を退職した昭和7年3月発行の第7輯までは島田氏が編集したものと思われる。そのほかには『福岡県史蹟名勝天然紀念物国宝分布図』の作成（第35表）、また史跡等への榜示板の設置など、多くの事績を見る。島田氏は退職後の同7年6月からは史蹟名勝天然紀念物調査委員を務め、少なくとも戦前期までは務めていたらしい。島田氏の業績は多大なものであった、と評価できる。氏は戦後の昭和24年（1949）に逝去した。

大正15年（1926）6月の地方官官制改正をもとに、福岡県の内務部学務課（社寺係）が所管していた文化財関係は学務部社寺兵事課史蹟名勝天然紀念物係が所管することとなり、太平洋戦争の途中、昭和17年（1942）までその体制で推移した。

昭和4年（1929）3月、「古社寺保存法」に代わって「国宝保存法」が、同8年（1933）には「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」が制定された。

太平洋戦争に突入し、戦局が悪化していく昭和17年11月には行政簡素化実施のための勅令による地方官官制改正をうけて、福岡県は内政部教学課が文化財を所管

写真1　島田寅次郎氏（朝倉高等女学校校長時代）

することとなった。国は同18年（1943）11月からは文部省教学局文化課の一係にて文化財の保存事務が執り行われた。戦時中の文化財保護への対応は難しい局面があったが、国も文化財疎開を行ったように、地方も同じく文化財を守る措置が執られ、福岡県では福岡市・久留米市などに所在する重要な仏像等について浮羽郡への疎開が行われた。

（5）昭和20年9月以降

戦後まもない頃　昭和20年（1945）8月15日、太平洋戦争は日本の敗戦で終戦を迎えた。まだ復興への足がかりも得られていないような状況下ではあったが、文部省では10月には史跡名勝天然記念物の保存事務を社会教育局所管で再開した。戦後の混乱の中にも、GHQ占領下において日本は復興に向けての歩みを進め、新しい憲法と地方行政の仕組みの改定を行い、同22年（1947）5月3日に日本国憲法・地方自治法が施行された。日本は平和国家への歩みを始めた。

戦前の神話の世界とは違った事実を追究するという考古学の調査で特筆すべきは、戦時中に発見されていた静岡県登呂遺跡の昭和22年（1947）7月からの発掘であろう。物資が乏しい中でも、調査には全国から多くの考古学者が集まり、それを起点として翌23年（1948）4月には日本考古学協会が発足した。

その昭和23年には戦後の新しい社会形成に沿った多くの施策が実施されている。まず、4月には学制改革により新制高校が発足する。旧制中学校時代から文化活動として考古学部や郷土部を有していた福岡県内の小倉高校や朝倉高校などはそれを新制高校に引き継いで、様々な活動を開始した。特に昭和30～40年代の高校郷土部・考古部の活動には目覚ましいものがあった。

また、GHQの指導のもと同年6月29日に明治天皇聖跡377件の指定が解除された。福岡県でも昭和8～9年に史跡指定された6件（明治天皇久留米大本営・久留米行在所・岡山御野立所・藤田御野立所・小森野御野立所・荒木行在所及御講評所）が解除されている。

そして、同年7月には「教育委員会法」が公布施行され、福岡県教育委員会が11月1日に発足した。福岡県教育百年史編さん委員会の『福岡県教育百年史 第6巻 通史編（Ⅱ）』（1981）によると学務課と社会教育課で構成され、後に体育課が増設された。

なお、戦後すぐの頃から、登呂遺跡のような組織的発掘ではなく、無闇な盗掘が相次いだことから、文部大臣は各都道府県知事に対して昭和23年3月に「古墳その他の遺跡の濫掘防止について」という通達を発している。

福岡県教育委員会では、昭和23年11月から社会教育課で文化財を所管し、23～24年の係は不分明だが25年からは文化財保護係が担当した（第16表）。朝鮮半島

から引き揚げてきて後に京都大学教授となる有光教一氏は昭和24年10月から翌年3月まで事務嘱託として福岡県教育委員会に在籍した。

文化財保護法　戦後まだ1年も経たない昭和21年（1946）6月、国は民間の学者、評論家等十数人による古美術保存懇談会を開催し、国宝・重要美術品等の法律の改正や美術館・博物館の公開展覧などの諸問題について意見を求めた。

また、同23年1～4月には文部省と国立博物館の関係者で、戦前の文化財に関する法律の改正問題について、非公式ながら数回にわたり論議検討した。

そのような状況の中、昭和24年（1949）1月26日、奈良県法隆寺金堂の壁画が模写作業実施中に起きた火事で焼損した。世界に誇る文化財が被害を受けたのであり、その衝撃は大きかった。このことも大きな契機となり、国会での論議も重ねたうえで、「史蹟名勝天然紀念物保存法」（大正8年）、「国宝保存法」（昭和4年）、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」（昭和8年）を統合発展させて「文化財保護法」が昭和25年（1950）5月30日に公布され、8月29日に施行された。そして同日に文化財保護委員会が発足した。今日に続く日本の文化財保護行政の始まりである。

（6）福岡県の文化財保護行政

昭和26～34年（1951～1959）

福岡県文化課（第Ⅰ期）　昭和26年（1951）6月に社会教育課から分離して文化課が発足した。そして同年8月には「福岡県文化財保存規則」が施行された。これは国の文化財保護法施行をうけての措置かと思われるが、文化課は3年余り後の29年6月に再び社会教育課に併合される。同31～32年度は部制施行で教務部文化財保護係となるが、33年度以降は社会教育課文化財係として昭和44年3月まで15年弱を経過することになる。

「文化財保存規則」のもとでも、「潮見櫓」や「伊加利

写真2　筑紫豊氏

筑紫の文化

第一号

美術の旅

観世音寺

谷口鉄雄

写真3　『筑紫の文化』

人形」「伝習館文庫」など県指定文化財が幾つか指定されたが、「文化財保存規則」に代わって28年5月に「福岡県文化財保護条例」が施行される。この条例のもとでも「霊長寺の彼岸桜」や「立花氏庭園」「月ノ岡古墳出土品」などが県指定となった。

昭和28年（1953）6月には筑紫豊氏が文化課の技師として採用されている（写真2）。筑紫氏は歴史民俗や芸能などを専門とするが、福岡県の文化財専門職員として位置づけられたことは大きい出来事といえた。

『筑紫の文化』　昭和28年（1953）9月、文化課は「一は固有の文化に対する啓蒙に、一は文化財の周知に役立つものとして成長することを勇敢に祈念して‥‥一般の最も親しめる読物として育成して頂き度い」として「筑紫の文化」第1号を日本交通公社の支援を得て発行した（写真3）。わずか4頁の小冊子であるが（第35表）、その発刊の意義は大きい。この冊子は31年（1956）5月に6・7・8合併号として「太宰府観世音寺」が観世音寺復興会から発行されたのを最後に廃刊となったようである。

沖ノ島の調査　この時期の特記事項は宗像沖ノ島の第一次調査が始まったことであろう。主催は出光佐三氏を中心とする宗像神社復興期成会であり、九州大学（のちに考古学研究室）などが関わったが、福岡県教育委員会も武藤正行文化財保護係長を始めとして参画した。この沖ノ島の調査は同32～33年の第二次、同44～46年の第三次まで実施され、いずれも福岡県教育委員会も関与した。

福岡県文化財保護条例　昭和30年（1955）4月に「福岡県文化財保護条例」が施行された。これは28年5月の同条例を全部改正したものであり、現在ではこの条例

のもとに指定等がなされていることになる。

市町村文化財保護条例　県内の市町村では大牟田市が最も早く昭和 33 年（1958）4 月 19 日に文化財保護条例を制定しており、翌 34 年 12 月 12 日付で「四方佛塔 附五輪塔地輪」が市指定文化財となっている。福岡県内の市町村指定第 1 号である。因みに、平成の大合併前の 97 市町村が存在した時には平成 8 年（1996）の段階で全市町村に文化財保護条例が制定された（第 36 表）。

昭和 31 年（1956）5 月には、県立糸島高校において昭和 6 年に設置されていた郷土室が発展した郷土博物館が博物館相当施設に位置づけられた。福岡県内では現在でも朝倉・嘉穂・筑紫丘・宗像高校などに文化財資料室が設置されている。

昭和 33 年（1958）6 月、九州大学文学部に考古学講座が設置され、鏡山猛教授のもとで渡邉正気氏が助手を務めた。昭和 31 年 7 月の経済白書で「もはや戦後ではない」と謳われ、神武景気から岩戸景気に入っていく時期であり、国土開発が急激に進展していく時期であった。

昭和 35 ～ 43 年（1960 ～ 1968）

昭和 35 年（1960）2 月、九州大学考古学研究室助手から渡邉正気氏が社会教育課文化財係技師となる。福岡県で初めての考古学専門と位置づけられる技術職員であるが、全国的には都道府県における考古学専攻専門職員配置は 4 人目とのことであった（21 ～ 31 頁）。

昭和 37 年(1962)10 月に「全国総合開発計画〔一全総〕」が決定され、オリンピック景気とも相俟って国土開発は益々大規模に展開していった。昭和 39 年（1964）10 月には東京オリンピックがアジアで初めて開催された。

昭和 40 年後半からは超高度成長経済のいざなぎ景気が現出し、40 年代前半期は開発の一方で埋蔵文化財の危機が露わになってきた時期でもあった。

昭和 41 年（1966）7 月には九州自動車道の福岡 - 熊本間の施工命令が出された。昭和 43 年（1968）3 月には文化財保護委員会が『全国遺跡地図（福岡県）』を発行した。このとき全国の埋蔵文化財包蔵地は 14 万か所とされたが、福岡県の史跡・名勝・天然記念物を含む遺跡は約 5,300 か所が地図上に示された。

文化庁　昭和 43 年（1968）6 月に文化財保護委員会に代わり文化庁が発足する。

この頃には福岡県内各地でも開発が目白押しで、特別史跡大宰府跡の周辺も例外ではなかった。「大宰府跡」「水城跡」「大野城跡」などの大宰府史跡は大正 10 年（1921）以降早くに史跡指定がなされていたが、開発による損壊から遺跡を守るために史跡指定地拡張を推進したい国・県と地元との調整・折衝が続けられてきた中で、大宰府史跡の価値を明確にするために発掘調査が必要とされた。その対応のために大宰府史跡発掘調査指導委員会が設置されるとともに（第 20 表）、昭和 43 年（1968）9 月には奈良国立文化財研究所から藤井功氏が着任する

写真 4　藤井功氏

（写真 4）。そして 10 月には大宰府政庁跡で発掘調査の鍬入れ式が行われ、11 月末から現地での作業が始まった。大宰府史跡の調査は昭和 47 年度（1972）から九州歴史資料館が引き継いで現在に及んでいる（63 ～ 66 頁）。

昭和 44 ～ 46 年（1969 ～ 1971）

福岡県文化課　昭和 44 年（1969）4 月、福岡県教育庁に文化課が発足した（写真 5）。主に埋蔵文化財を担当する調査係は、この 4 月に新規採用された技師 9 人を含む 14 人の 技術職員がいて、その他の文化全般の文化係と庶務係はともに 3 人ずつの 3 係という構成で、総勢 22 人によるスタートであった。3 係体制は昭和 48 年度（1973）末まで続く。

この昭和 44 年 5 月には、開発可能性の全国土への拡大と均衡化を基本目標とし、同 60 年（1985）を目標年度とする「新全国総合開発計画（二全総）」が閣議決定された。まさしく国土開発が最高潮の時期であり、昭和 47 年 6 月の田中角栄通商産業大臣の「日本列島改造論」に連続するものであった。

九州縦貫自動車道関係調査　昭和 44 年 5 月に福岡県では九州縦貫自動車道関係の発掘調査が開始された。昭和 51 年度（1976）までの 8 年間で 120 を越す遺跡が調査され、昭和 53 年度末までに 31 集の報告書が刊行されたが、他の発掘調査もあって文化課職員のみでは賄いきれず、福岡教育大学や東京教育大学・国士舘大学等の複

写真 5　文化課職員一同
（昭和 56 年旧県庁から新県庁移転時）

数の大学などに応援を依頼して調査が進められた。こういった大規模開発事業の推移については参考資料の125頁、第25表を、発掘調査報告書は第32表を参照されたい。

今宿バイパス・福岡南バイパス関係調査　昭和44年（1969）8月からは今宿バイパス（以下、ＢＰと略）関係、9月からは福岡南ＢＰ関係の発掘調査が開始された。今宿ＢＰ関係遺跡は途中の中断期間を挟みながら平成元年度（1989）まで32遺跡が調査され、13集の報告書を刊行した。福岡南ＢＰ関係遺跡は昭和54年度（1979）までに延べ23遺跡が調査され、9集の報告書が刊行された。

国が明治百年記念事業として歴史民俗博物館を建設する構想を打ち出した際に福岡県も手を挙げたが、この昭和44年には千葉県佐倉市への建設が内定したため、福岡県ではそれに代わる歴史資料館の設置基本構想を9月に発表した。これはのちの昭和47年の九州歴史資料館開館につながっていく。この昭和44年は文化課発足と同時に、県内各地での発掘調査が一斉に開始され、また九州歴史資料館建設に進んでいく記念すべき年であったといっても過言ではない。

なお、この昭和44年4月には福岡市でも文化課が発足したが、県内の97市町村における埋蔵文化財担当職員はこの年で3人しかいなかった。次年度以降に少しずつ増加してはいくもののまだ十分ではなく、専門職員不在の市町村からは県に対して職員の派遣依頼がなされ、それに対して県職員が当該市町村事業の発掘調査を行った。この市町村支援事業は現在まで継続して行われる。

翌昭和45年には新規着手の大規模事業はなかったが、九州縦貫自動車道、今宿・福岡南ＢＰ関係遺跡の調査が継続して行われた。大規模の受託事業は後の平成年間（1990～2010年代）にまで継続していくことになる。

福岡県文化財管理調査員　昭和45年（1970）4月より、福岡県文化財管理調査員制度が発足した。これは昭和50年（1975）の文化財保護法改正で位置づけられた文化財保護指導委員制度に先立つもので、文化財パトロールを主眼とする福岡県の制度であった（35頁）。

山陽新幹線関係調査　昭和46年（1971）8月、山陽新幹線関係の発掘調査が開始される。昭和53年度までに44遺跡が調査され、主体は広大な面積の車両基地であり、13集の報告書が刊行された。また福間BP関係遺跡の調査も実施された。

写真６　九州歴史資料館の開館

この昭和46年度には新たに6人の技師が入庁若しくは復帰し、埋蔵文化財担当技術職員は20人となった。

なお、縦貫道から新幹線、バイパス関係などの調査に大学等の協力・支援を得たが、それは先に挙げた福岡教育大学、東京教育大学、国士舘大学のほかに東海・慶応・帝塚山大学などは研究室として教授・助教授・学生が参加し、早稲田・立正・別府・九州大学などの学生の参加もあった。また平安博物館・東国古文化研究所などにも協力を仰いだ。

昭和47～57年（1972～1982）

九州歴史資料館　昭和47年（1972）4月、九州歴史資料館が設置された（写真６）。副館長以下、総務課6、調査課5、学芸第一課3、学芸第二課4の総勢19人が発令された。館長には5月1日に鏡山猛九州大学名誉教授が就任した（写真７）。調査課所管の大宰府史跡の調査は4年目となり、同様に大規模遺跡を調査している宮城県（多賀城跡）・福井県（一乗谷朝倉氏遺跡）とともにこの年から大規模遺跡3県連絡会議が開催された。この会議はその後4県会議・5県会議・6県会議となり、現在では大規模遺跡調査連絡協議会の名称で24の遺跡にかかる30府県市が関わっている。

昭和48年7月30日から31日にかけて九州北部（とくに福岡市・筑紫郡太宰府町周辺）で集中豪雨・強風があり（31日の午前1時～3時には時間雨量115ミリを観測）、大きな被害が生じた。人的・物的被害のみならず、四王寺山の大野城跡では百間石垣や大石垣の一部が崩落し、尾花地区土塁などに崖崩れが生じた。

昭和49年度（1974）には教育庁に部制が導入され、文化課は管理部所属となった。昭和50年度に指導第一部となったが、51～60年度は管理部で推移した。また昭和49年度には文化課調査係が緊急調査担当の第一係と受託事業担当の第二係に分かれ、文化係・庶務係とで4係体制となった。

文化財保護法改正　昭和50年（1975）10月に文化財保護法が改正施行された。民俗文化財制度の整備や伝統的建造物群保存地区制度の新設など、大きな改正がなされた。

文化財シリーズ　昭和37年（1962）に『福岡県の天然記念物』、同47年の『福岡県の民家』、同49年に『九州の石塔 - 福岡県の部 -』といった報告書が発行されていたが、同52年（1977）から平成2年（1990）にかけて「福岡県の文化財シリーズ」として史跡、民俗芸能、名勝・天然記念物、有形民俗文化財、美術工芸品（Ⅰ～Ⅲ）、考古資料、建造物についての国・県指定物件にかかる解説を記した9冊が刊行された。また昭和59年

（1984）には『福岡県の荒神琵琶』『福岡県の近世社寺建築』、同 62 年（1987）に『福岡県の民謡』も刊行されるなど、文化財全般に対する普及活動の展開が見られる（第 35 表）。

昭和 50 年度には二丈浜玉道路関係、昭和 51 年度には若宮宮田工業団地と冷水ＢＰ関係の調査も始まった。

浮羽BP・九州横断自動車道関係調査　九州縦貫自動車道、山陽新幹線関係の調査や報告書は昭和 53 年度（1978）で終わり、福岡南ＢＰ、若宮宮田工業団地関係の調査・報告書も昭和 54 年度（1979）には終わったが、この昭和 54 年度からは浮羽ＢＰ、九州横断自動車道関係の調査が始まった。浮羽ＢＰは途中の中断も挟みながら現在まで継続している。九州横断自動車道は平成 2 年（1990）までに 65 か所に及ぶ遺跡の発掘調査を実施したが、報告書は同 10 年度（1998）までかかって 56 集を刊行した。

筑紫野BP関係調査　昭和 56 年度（1981）には筑紫野ＢＰ関係の調査が開始されたが、本調査に入ったのは昭和 59 年度（1984）からであり、平成 9 年度まで調査を継続して平成 10 年度までに 7 集の報告書を刊行した。

牛頸ダム関係調査　昭和 57 年（1982）10 月からは牛頸ダム関係の発掘調査が開始された。これは昭和 61 年度で現場終了、報告書は昭和 63 年度までに 2 集が刊行された。

遺跡分布地図　福岡県では昭和 51 ～ 56 年（1976 ～ 1981）に県内の遺跡等分布地図 16 冊を刊行した。これには県内 16 か所の教育出張所ごとの区割りで、福岡市と北九州市の両政令市を除く 95 市町村について、一部に天然記念物や寺社仏閣、石塔などを含むものとして 17,000 余か所が取り上げられた（第 35 表）。

そして文化課には昭和 47 年に 4 人、翌年に 3 人、49 年に 6 人が新規に採用され、転出者もあったが、昭和 49 年度には埋蔵文化財担当技術職員は 30 人となった。

発掘調査現場における事故　昭和 51 年 5 月 7 日、春日市大南遺跡の発掘調査現場において、溝掘削中に土砂崩落が発生し、作業員女性が死亡するという事故が起きた。これを機に、同年 9 月 1 日付で『埋蔵文化財調査に関する安全規準』が策定された。昭和 53 年 5 月 11 日、福間町（福津市）の古墳群調査において、住宅地開発の不動産会社が設置した仮設プレハブで火災が発生し、そこに間借りして宿泊していた県技術職員の前川威洋氏が同じく泊まっていた会社員とともに亡くなられた。

写真 7　皇太子・皇太子妃殿下（現上皇・上皇后両陛下）九州歴史資料館行啓時出土遺物整理状況ご視察（昭和 49 年、説明は鏡山猛九州歴史資料館初代館長）

翌昭和 54 年 5 月 24 日、前川氏の調査を引き継いだ上野精志氏は古墳の全体写真撮影中に足場が倒壊したことで亡くなられた。2 年続けての同じ現場での死亡事故発生であり、県は先に策定した『埋蔵文化財調査に関する安全規準』を全面的に改定して同年 12 月 24 日に策定しなおした（51 頁）。この痛恨事を再発させないように文化財行政における発掘に関する安全徹底が求められ、福岡県では 5 月を安全月間と位置づけて、毎年教育長等による安全パトロールを行い、また安全衛生講習会（第 28 表）を開催するなどしてきた。全国的にも発掘調査事業にかかる災害（事故）が起きていることから、労働災害の絶滅に向けたより一層の取り組みが求められる。

昭和 58 ～平成 9 年（1983 ～ 1997）

教育事務所　昭和 58 年（1983）4 月、福岡県教育庁は機構改革を行い、これまで県内に 16 か所あった教育出張所を 6 か所（福岡・北九州・北筑後・南筑後・筑豊・京築）の教育事務所に統廃合した。その際に、各教育事務所社会教育課指導班に文化財専門職員（発掘技師）を配置した。このときの 6 人は昭和 44 ～ 47 年に入庁して 10 年以上を経過した中堅の職員であり、教育事務所管内市町村における発掘調査のみならず、文化・文化財全般に対する指導・助言を行うこととなった。この 6 教育事務所への文化財担当職員配置は平成 16 年（2004）まで 22 年にわたって続けられ、その後は本庁の職員が各教育事務所ごとに地域担当を兼ねる形態となって現在に及んでいる（61・62 頁）。

昭和 59 年（1984）11 月、文化庁は 47 都道府県の遺跡に関する情報を集約して全国遺跡地図を刊行した。福岡県で遺跡として把握されたのは 14,754 か所であった。

昭和 60 年（1985）1 月、九州歴史資料館条例が施行され、同年に開館の甘木歴史資料館・柳川古文書館が、既存の求菩提資料館ともども九州歴史資料館の分館という位置づけがなされた（75・76 頁）。各分館はそれぞれの地元自治体が管理運営するという形態であったが、甘木歴史資料館については副館長に県からの派遣職員が充てられて今日に至っている。

昭和 61 年（1986）にも教育庁の機構改革が行われた。文化課は指導第二部に所属し、記念物係・調査班・文化係・庶務係という 4 つの係・班体制となった。

椎田BP関係調査　昭和 61 年 9 月から日本道路公団の委託による椎田ＢＰ関係の発掘調査が開始された。これ

は平成元年まで発掘調査を実施し、報告書は平成3年度（1991）までに9集を刊行した。

椎田道路、行橋BP、豊前BP関係調査　昭和62年になり、建設省からの委託により、5月から椎田道路関係、7月から行橋ＢＰ、11月から豊前ＢＰ関係の発掘調査が開始された。椎田道路は平成2年まで現場、同8年度までに報告書9集を、行橋ＢＰは平成2年にも現場があり平成3年度までに報告書2集を、豊前ＢＰは平成6年度（1994）まで現場で、平成9年度（1997）までに報告書10集を刊行した。この頃より行橋・豊前方面の周防灘沿岸部の大規模調査が始まっている。

九州国立博物館誘致　昭和63年（1988）4月には九州国立博物館誘致促進対策班が設置された。平成元年度には対策室となり、平成4年度まで文化課内にあったが、翌年度からは知事部局に移管された。平成8年（1996）3月には新構想博物館の整備に関する調査研究委員会(平成6年6月2日発足）が「九州国立博物館（仮称)」候補地を福岡県太宰府市に決定した（58～60頁)。

平成3年度（1991）には文化財保護係・調査班・文化振興班・管理係の4係・班体制となった。

平成4年（1992）4月、文化庁は文化財保護審議会に文化財保護企画特別委員会を発足し、同6年7月に「時代の変化に対応した文化財保護施策の改善充実について」の報告がなされた。バブル崩壊後の世相を見据えてのものと捉えられる。

山国川築堤関係調査　平成4年4月からは、山国川築堤関係の発掘調査が開始された。現場は平成8年度（1996）までで報告書は平成12年度までに刊行された。

同年6月、日本は世界遺産条約批准、9月に発効し、日本の遺産12件が一挙に世界遺産暫定一覧表に記載された。

文化財保存活用基本指針　平成8年9月、福岡県文化財保護審議会は「文化財保存活用基本指針」を建議した。「地域の文化財は地域で守る」の基本理念を明確に示したものであった。

平成10～21年（1998～2009）

文化財保護課　平成10年（1998）4月、福岡県教育庁は組織改編を行う。指導第二部文化課が総務部文化財保護課と改称し、文化財保護係、調査第一係、調査第二係、管理係の4係体制となった。この基本構成は、班や室の増設をみながらも平成22年度まで続く。

同年9月に文化庁次長から「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」の通知が出された。この中で埋蔵文化財の調査対象として扱う範囲について、中世までを対象としつつも近世～近現代に関しては条件付きながら対象とすることが示された。この「平成10年通知」の意義は大きなものがあった。

福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画　平成13年（2001）1月、国の省庁再編で文部科学省が設置される。

同じ1月に福岡県文化財保護審議会は「福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画」を建議した（43・44頁)。この中で8件の重要かつ大規模な遺跡について積極的に保存活用を図る方向性を示した。これをうけて平成13年4月に文化財保護課内に重要・大規模遺跡対策班が設置された。

平成13年11月、文化庁が2月に設置した文化審議会文化財分科会企画調査会は「文化財の保存・活用の新たな展開―文化遺産を未来へ生かすために―」の報告を行った。これ以降も企画調査会は新しい時代を見据えた施策のための提言・報告を行っている。

東九州自動車道、九州新幹線関係調査　平成13年9月から東九州自動車道、11月から九州新幹線関係の発掘調査が開始される。東九州道は平成27年度（2015）まで調査し、報告書作成も同時並行で28集が刊行された。九州新幹線は現場が平成19年度（2007）まで、報告書は平成21年度（2009）で16集をもって終了した。

有明海沿岸道路関係調査　平成14年度（2002）からは有明海沿岸道路関係の調査が始まった。既に平成2年度（1990）に文献調査を行っていた路線であるが、発掘調査はこの時から平成19年度まで行い、平成23年度（2011）までに12集の報告書を刊行した。

五ヶ山ダム　平成14年度からは五ヶ山ダム関係の文化財の総合調査を開始した。ダムの水没地区にかかる集落と周辺の自然・歴史・建造物・民俗等の調査であり、用地が佐賀県側にもかかるため両県で協力して委員会を立ち上げて調査を行い、その報告書は平成19年度に刊行した。埋蔵文化財の調査は集落移転後が中心となり、平成16年度から平成25年度（2013）まで行い、平成28年度までに報告書3集が刊行された。

自然災害　平成15年（2003）7月19日、筑紫郡から糟屋郡、嘉穂地方を中心とした一帯に集中豪雨があり、特別史跡大野城跡や水城跡など大宰府史跡だけでも362か所が被災した。大野城跡における崖崩れなどで遺構に関わる所はのちに復旧事業の対象となった。また、平成16年（2005）8～10月には台風17・18・21・23号が襲来し、平成17年3月20日には福岡県西方沖地震が発生した。度重なる自然災害により被災した文化財は多く、そのため、平成16年（2004）4月からは大規模遺跡対策班を大規模遺跡対策・災害復旧班に組織替えして平成21年度まで対応を行った（45頁)。

平成17年（2005）4月、新九州歴史資料館対策班が設置された（平成21・22年度は準備室)。平成22年度（2010）の移転開館に向けた準備が始まった。

九州国立博物館・アジア文化交流センター　平成17年10月16日、九州国立博物館及びアジア文化交流センターが開館する。県の組織であるアジア文化交流センターは知事部局の所管であるが、文化財保護課の専門職員も

5 人前後が併任で位置づけられた（58 ～ 60 頁）。

伊良原ダム　平成 18 年度から伊良原ダム関係の発掘調査が始まる。平成 7 ～ 9 年度に民俗関連の調査が行われていたが、集落移転後の発掘調査は平成 28 年度まで行われ、平成 29 年度までに報告書 7 集が刊行された。

世界遺産　平成 18 年（2006）9 月になって文化庁は世界文化遺産暫定一覧表に記載する案件の公募を開始した。平成 4 年（1992）6 月の世界遺産条約批准以降は日本政府が独自に暫定一覧表を更新していたが、地方自治体からの推薦案件を審査して決めていく方向が執られた。

福岡県では、平成 14 年度頃（2002）から「宗像沖ノ島と関連遺産群」についての世界遺産登録に向けた活動が始まり、平成 18 年度以降に本格化していった。一方、「九州・山口の近代化産業遺産群」については鹿児島県を主体に関係各県で平成 17 年度頃から活動が活発化した（60 頁）。そして平成 18 年度からの公募制の中で「九州・山口の近代化産業遺産群」と「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は 1 度見送られたものの、再挑戦の結果、21 年（2009）1 月に国内の暫定一覧表への記載がなされた。そこで同年 4 月に知事部局の総合政策課内に世界遺産登録推進室を設置して遺産登録に向けた取組を始め、文化財保護課の専門職員も複数人が併任で位置づけられた。その近代化産業遺産群登録の取組の中で、筑豊地方を中心とした炭鉱にかかる遺産が注目され、構成資産とはならなかったものの意外な展開となって脚光を浴びたのが「山本作兵衛氏の炭鉱の記録画並びに記録文書」であり、その 697 点が平成 22 年（2010）5 月末に「山本作兵衛コレクション」として、「世界の記憶」に登録された。

世界遺産委員会において登録数の増加への厳しい対処がなされ始めた中で、構成資産を巡る曲折もあったが、「明治日本の産業革命遺産」は平成 27 年（2015）7 月、「『神宿る島』沖ノ島と関連遺産群」は平成 29 年（2017）7 月に世界遺産に登録された。

平成 20 年度（2008）から九州歴史資料館は組織改編を行い、総務室と学芸調査室の 2 室体制となった。

福岡県文化財保護基本指針　平成22年(2010)2月、「福岡県文化財保護基本指針」が策定された。文化財を取り巻く様々な状況の変化を踏まえて、新たな枠組みを含めた総合的な検討を行ったものである。

なお、この平成22年2月段階で平成の大合併が収束し、福岡県の市町村数は 60 となった。

平成 22 ～令和 2 年（2010 ～ 2020）

九州歴史資料館移転　平成 22 年 7 月、九州歴史資料館が小郡市三沢の県指定史跡「三沢遺跡」の隣接地に移転設置され、11 月 21 日には西谷正館長（九州大学名誉教授）のもと、博物館と埋蔵文化財センターの両機能を併せ持つ施設として開館した（写真 8）。

新しい調査体制　平成 23 年（2011）4 月からは文化財保護課の調査第一・第二係の発掘調査機能が九州歴史資料館へ移り、文化財保護課は文化財保護係、企画係、管理係の 3 係となり、九州歴史資料館は総務室、学芸調査室（学芸普及班・調査研究班）、文化財調査室（文化財調査班・保存管理班）の構成となった。同 26 年（2010）には広報普及班が設置され、同 28 年（2016）からは、調査研究班と保存管理班が入れ替わり現在に至っている。

中近世城館跡調査　平成 24 年 4 月から平成 28 年度まで、文化財保護課と九州歴史資料館が福岡県の中近世城館跡の調査を実施し、4 冊の報告書を刊行した。

東九州自動車道関係調査と報告は平成 27 年度、九州新幹線関係調査と報告は平成 21 年度、五ヶ山ダム関係調査と報告は平成 28 年度、伊良原ダム関係調査と報告は平成 29 年度で終了した。この頃には大規模な開発事業そのものが収束してきた。

その後の受託事業としては、浮羽ＢＰ関係調査が平成 30 年度、山国川築堤関係調査が令和元年度に行われた。今後は、かつてのような幾つかの規模の大きな事業が重複して進行するといった状況は見られないと思われる。しかし、埋蔵文化財にかかる事業は散発的ではあっても、今後も発掘調査への対応が無くなることはないだろう。

福岡県戦争遺跡・近世窯業遺跡調査　平成 29 年 4 月から 3 か年で福岡県の戦争遺跡の調査を行い、令和 2 年 3 月に「福岡県の戦争遺跡」の報告書を刊行した。また、同様に令和 2 年度から 3 年間の予定で近世窯業遺跡の調査を実施している。いわゆる「平成 10 年通知」を踏まえた遺跡の周知化と開発への対応はこれからもまだ必要な事柄である。

福岡県文化財保護大綱　令和 2 年度には「福岡県文化財保護大綱」が策定される。これを基本として、各自治体は文化財保存活用地域計画の策定を行っていくことになる。地域では文化財を総合的に把握して、歴史的風致とともにあらゆる文化財を取り込んだ地域振興策が練られていくことだろう。「地域の文化財は地域で守る」ことを基本理念として、これからも福岡県の文化財保護行政は永遠に継続していくことになる。

写真 8　九州歴史資料館開館式典（平成 22 年）での文化財保護課・九州歴史資料館職員一同

（7）福岡県の文化財保護行政の年表

2020.11.10

年		国事項等		福岡県関係事項	福岡県の国指定	福岡県指定
1868	明治 1	3.28 神仏分離令布告〔廃仏毀釈〕	大蔵省・文部省			
1870	明治 3	7.17 民部省に社寺掛をおく 閏10.20 民部省に寺院寮をおく	社寺：民部省			
1871	明治 4	1. 5 社寺上地令 4.25 大学献言（大学による古器物の保護令布達の献言） 5.23 「古器旧物保存方」の太政官布告 7.11 城郭・陣屋は兵部省の管轄に 7.18 文部省設置 7.27 民部省廃止；社寺事務は大蔵省へ 8.19 大蔵省戸籍寮に社寺課をおく 8.20 城郭は兵部省管轄 9.25 文部省に博物局をおく	城郭：兵部省 社寺：大蔵省 社寺：大蔵省 城郭：兵部省	【7月 「都督府古趾」碑建立】		
1872	明治 5	3.13 社寺事務は大蔵省から教部省へ 4.12 名所旧跡において破壊伐木をしないことの大蔵省達 5.20 教部省が陵墓事務を所管 5.27 文部省の社寺宝物調査（壬申検査）	社寺：教部省 陵墓：教部省			
1873	明治 6	1.14 「全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方」（城郭は陸軍省と大蔵省）		3.20 太宰府博覧会（～5.10）		
1874	明治 7	1.10 内務省開庁；古跡保存を管掌 5. 2 「古墳発見ノ節届出方」	古跡：内務省	9.20 第2回太宰府博覧会（～11.8）		
1875	明治 8	5.22 陵墓管理は内務省地理寮で 8.25 官国幣社の宝物は教部省、勅封宝物は内務省博物館が管轄 11.30「府県職制並事務章程」：上款29条に名所旧跡を査定することが記される	陵墓：内務省	3.20 第3回太宰府博覧会（～4.18）		
1877	明治10	1.11 教部省を廃して社寺・陵墓事務は内務省社寺局へ 1.19 内務省社寺局で陵墓事務を管轄する	社寺・陵墓：内務省			
1878	明治11	2.28 内務省の陵墓事務を宮内省へ移す	陵墓：宮内省			
1879	明治12			2.20 福岡博物館・書籍館開館式		
1880	明治13	7. 6 内務省から古社寺保存金を交付 → M27まで539社寺に121,000円交付		1.15 県庁各課として庶務・勧業・租税・警察・学務・衛生・出納あり（福岡県布達乙11） 【8月 「太宰府址碑」建立】		
1882	明治15	3.20 上野の「博物館」の開館。町田久成が館長就任				
1884	明治17			福岡博物館を教育博物館と改称		
1885	明治18	12.22 内閣制実施；地理局の職掌に「旧蹟、名勝、公園地存廃処分ノ件」				
1886	明治19	7.12 地方官官制制定				
1887	明治20			坪井正五郎が苅田町御所山古墳を調査		
1888	明治21	9.27 宮内省に臨時全国宝物取調局 → M30までに約215,000点調査		11. 坪井正五郎がうきは市日岡古墳を発掘		
1889	明治22	4.1 市制 町村制				
1892	明治25	・11. 宮崎県古墳古物等取締規則				
1894	明治27	8. 1 日清戦争（～1895）				
1897	明治30	6. 5 古社寺保存法（内務省社寺局） → 第19条はT8に削除	内務省社寺局			
1899	明治32	3.24 遺失物法 ・7. 京都府名勝旧跡保存委員会規程 6.14 地方官官制改正〔内務部第一課の管掌事務に「名勝旧跡ニ関スル事項」〕 10.26 学術技芸若ハ考古ノ資料トナルヘキ埋蔵物取扱ニ関スル件〔古墳関係→宮内省、石器時代→東大〕				
1900	明治33	4.27 官制改革 〔内務省社寺局廃止。文化財は内務省宗教局へ〕 6.26 宮内省帝国博物館 → 宮内省帝室博物館	内務省宗教局			
1902	明治35				4.17 箕崎宮楼門〈建造物〉	
1904	明治37	2.10 日露戦争（～1905）			2.18 梵鐘（観世音寺）〈工芸〉／木造阿弥陀如来坐像（観世音寺）等26件〈彫刻〉〔全部で27件〕	

第１表　福岡県文化財保護に関する年表　①

年		国事項等		福岡県関係事項	福岡県の国指定	福岡県指定
1905	明治38	4.18 地方官官制改正〔第二部の管掌事務に「名勝旧跡ニ関スル事項」〕				
1906	明治39				4.14 絹本著色観興寺縁起(観興寺)〈絵画〉/ 銅板法華経・銅筥(国玉神社)〈考古資料〉	
1909	明治42	5.8 地方長官会議で地方改良事業を奨励、史蹟・勝地調査保存に関する件あり		この頃、内務部庶務課社寺係主任神武良知氏 / 警察部保安課に高川鐵馬氏		
1910	明治43	12.7 第1回史蹟老樹調査保存茶話会				
1911	明治44	3.13 史蹟及天然紀念物保存ニ関スル建議案 6.13 史蹟名勝天然紀念物保存協会設立 ・千葉県名勝旧跡保存規程			4.17 誓願寺盂蘭盆縁起(誓願寺)〈古文書〉	
1912	明治45			県庁;森弘氏		
1912	大正 1	・12. 宮崎県知事有吉忠一が西都原古墳群調査				
1913	大正 2	6.18 内務省宗教局が文部省宗教局へ(古社寺保存課) ・7.28 奈良県史跡勝地調査会規則	社寺;文部省宗教局 古跡;内務省地理課	【8月;橋爪県属】		
1914	大正 3			【6.21 「太宰府碑」建立】		
1915	大正 4	・2. 鳥取県古墳に関する規程 ・5. 大阪府史跡調査委員会規則 ・5. 愛媛県史跡名勝天然紀念物等の調査保存に付訓令 ・12. 熊本県名勝旧跡古墳墓天然紀念物に関する規程				
1916	大正 5	・7.12 鹿児島県史跡名勝天然紀念物調査会規則 9. 京都帝国大学文学部考古学講座		【5月 「水城大堤之碑」建立】 7. 福岡・鹿児島・神奈川で保存費補助、調査会規程、調査保存訓令 9.「福岡県史蹟名勝旧蹟保存訓令」		
1917	大正 6	・2.6 三重県名勝旧蹟調査会規程 ・京都府史跡勝地調査会規程 ・福井県史跡勝地職員設置規程				
1918	大正 7	・10.26 東京府史的紀念物天然紀念物勝地保存心得				
1919	大正 8	4.10 史蹟名勝天然紀念物保存法(内務省官房地理課) 〔6.1施行〕 ・9.3 岐阜県史跡名勝天然紀念物調査会規則		8年8月まで内務部庶務課、9月から学務課社寺係 (郡役所は庶務課)		
1920	大正 9	4.? 柴田常恵が内務省史跡考査官		福岡県内務部学務課社寺係 ;担当橋爪鎮氏		
1921	大正10	4.「郡制ノ廃止ニ関スル法律」 ・7. 埼玉県史蹟名勝天然紀念物調査会規則 ・栃木県史蹟名勝天然紀念物調査委員会			3.3 大宰府跡 / 水城跡 [史跡]指定	
1922	大正11	・3. 佐賀県史蹟名勝天然紀念物調査会 ・6.9 愛知県史蹟名勝天然紀念物調査会規程			3.8 太宰府神社のクスほか2件 [天然記念物]指定	
1923	大正12	4.1 郡制廃止		福岡県内務部学務課 ;4月から嘱託で島田寅次郎氏が担当(S7.3まで)		
1924	大正13	官制史蹟名勝天然紀念物調査会廃止		福岡県内務部学務課		
1925	大正14	・6.10 和歌山県文化財指定「高積神社古銭」 8. 内務省官房地理課		3.31 『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書 第1輯』 6.10 福岡県内務部学務課		
1926	大正15 (昭和 1)	6.3 地方官官制改正(郡役所廃止)、府県制、市制・町村制改正(府県の学務部社寺兵事課が史跡等を扱う) 7.1 郡役所廃止		5.3 鳥居龍蔵が福岡市で「わが国上古における考古学的諸問題」の講演 6.4 福岡県学務部社寺兵事課史蹟名勝天然紀念物係		
1928	昭和 3	12.1 史蹟名勝天然紀念物は文部省宗教局保存課へ;文化財は全て文部省が所管	文化財;文部省	＊史蹟名勝天然紀念物の顕彰の為の榜示板33か所設置 ＊遺物収集費を予算化する	2.7 旧亀石坊庭園 [名勝]指定	
1929	昭和 4	3.28 国宝保存法 〔7.1施行〕		2.9 福岡県史蹟名勝天然紀念物調査委員会規程(県告示第84号) 5.福岡県「史蹟名勝天然紀念物保存法規」 夏 森本六爾、9月に島田貞彦が須玖岡本遺跡の調査を行う		
1930	昭和 5	・6.1 神奈川県史蹟名勝天然紀念物調査会		2.2 九州考古学会設立総会が九大にて行われる 3.玉泉大梁氏が旧制福岡高等学校に歴史考古参考館(玉泉館)を建設、公開 10.30 福岡県立嘉穂中学校に郷土室が設置される ＊ この年の頃、『福岡県史蹟名勝天然紀念物国宝分布図』が作成される		

第１表　福岡県文化財保護に関する年表　②

年		国事項等		福岡県関係事項	福岡県の国指定	福岡県指定
1931	昭和 6	・10.3 茨城県史蹟名勝天然紀念物保存顕彰規程		この年、福岡県立糸島中学の郷土室が設置される 5.『福岡県史蹟名勝天然紀念物所在調査書』福岡県学務部社寺兵事課（島田寅次郎編集）	12.14 紙本墨書翰苑巻卅（太宰府天満宮）〈書跡・典籍〉指定	
1922	昭和 7			3. 島田寅次郎氏が、老をもって福岡県社寺兵事課嘱託を退く（69歳） 11. 川上市太郎氏が福岡県社寺兵事課嘱託となり、史蹟名勝天然紀念物に携わる	7.23 大野城阯竝四王寺阯［史跡］指定	
1933	昭和 8	4. 1 重要美術品等ノ保存ニ関スル法律〔公布・施行〕 11.2 明治天皇聖跡の指定開始 ・宮崎県史蹟名勝天然紀念物保存顕彰規程		9.9 福岡県史蹟名勝天然紀念物調査委員会規程改正（県告示第854号）		
1934	昭和 9	・1.10 大阪府史蹟名勝天然紀念物保存顕彰規程 3. 2 建武中興600年記念関係史蹟保存事業		9.30 桂川町王塚古墳発見。12月に調査 10.30 史蹟名勝天然紀念物保存協会福岡県支部発会式		
1936	昭和11	・9.8 広島県史蹟名勝天然紀念物保存顕彰規程 ・11.26 香川県史蹟名勝天然紀念物保存顕彰規程		4. 朝倉中学校郷土館落成（郷土部）		
1937	昭和12	歴代天皇聖蹟保存事業			12.21 基肄城阯［史跡］指定 大宰府跡（T15申請）、筑前国分寺跡（S7申請）の国による公有化	
1938	昭和13			12.5 宗像郷土館開館		
1940	昭和15	神武天皇聖蹟保存事業（紀元2600年記念）				
1942	昭和17		教化局総務課			
1943	昭和18	7. 1 東京都制・東京都官制制定	教学局文化課	4.10 福岡県史蹟名勝天然紀念物調査委員会規程改正（県告示第390号） 福岡県内務部教学課		
1945	昭和20			3. 5 福岡市東光院の仏像など8件54点が福岡県収蔵庫（うきは市の個人宅収蔵庫）に疎開収納される		
1945	昭和20	10月 史蹟名勝天然記念物の保存事務が社会教育局所管で再開	社会教育局			
1946	昭和21	11.3 日本国憲法公布		7. 旧制福岡中学考古学部発足		
1947	昭和22	4.17 地方自治法公布		10.11 筑紫野市五郎山古墳発見。11月より調査		
1948	昭和23	4. 2 日本考古学協会発足 7.15 教育委員会法 11.1 福岡県教育委員会発足		4. 1 福岡県立朝倉高等学校・併置中学校考古部 5. 福岡県立小倉高等学校考古学班（考古学部）の誕生		
1949	昭和24	1.26 法隆寺金堂炎上		10. 1 有光教一氏が福岡県教育員会事務嘱託となる（～S25.3.31） 4. 1 福岡県立朝倉高校史学部・小倉高校考古学部		
1950	昭和25	5.30 文化財保護法 公布 8.29 施行 8.29 文化財保護委員会発足	（文化財保護委員会）			
1951	昭和26	12.24 文化財保護法第一次改正		6.1 福岡県文化課 ～S29.6 8. 6 福岡県文化財保存規則 10. 1 筑紫豊氏が福岡県教育委員会文化課嘱託となる		
1952	昭和27	4. 1 奈良国立文化財研究所が設置される 7.31 文化財保護法第二次改正		4. 1 鏡山猛氏が九州大学文学部助教授となり考古学を講義	3.29 王塚古墳：特別史跡	3.29 (1)潮見櫓〈建造物〉 9.13 (1)伊加利人形〈無形[民俗]〉 12.23 (1)伝習館文庫〈古文書〉
1953	昭和28			5.27 福岡県文化財保護条例 6. 1 筑紫豊氏が福岡県教育委員会文化課職員となる 9. 1「筑紫の文化 第1号」	3.31 大宰府跡／水城跡／大野城跡：特別史跡指定	11.5 (1)霊長寺の彼岸桜〈天然記念物〉
1954	昭和29	5.29 文化財保護法第三次改正〔無形文化財、民俗資料、埋蔵文化財に関する制度充実〕 【12月 神武景気 ～S32.6】		1.15「筑紫の文化 第2・3号」 3.25「筑紫の文化 第4号」 5.29 沖ノ島第一次調査開始	3.20 基肄城跡：特別史跡指定	5.15 (1)木造十一面観音菩薩立像〈彫刻〉 5.15 (1)天秤〈有形民俗〉 5.15 (1)聖福寺〈史跡〉
1955	昭和30			4. 1 福岡県文化財保護条例（S28条例を全部改正）	〔史跡数40〕	3. 5 (1)立花氏庭園[松濤園]〈名勝〉 3. 5 (1)紙本著色黒田如水像〈絵画〉 3. 5 (1)月ノ岡古墳出土品〈考古資料〉

第１表　福岡県文化財保護に関する年表　③

年		国事項等		福岡県関係事項	福岡県の国指定	福岡県指定
1956	昭和31	6.30 地方教育行政の組織及び運営に関する法律		3.17 宮若市竹原古墳の石室が開口 5. 福岡県立糸島高校郷土博物館設置	4.26 傀儡子［有形民俗文化財］指定	1.16 (1)太刀 無銘（伝宗近）〈工芸品〉
1957	昭和32				4.25 久留米絣［無形文化財］指定	
1958	昭和33	【7月 岩戸景気 ～S36.12】		6.1 鏡山猛氏が九州大学文学部教授となり、考古学講座を担当		11.13 (1)掛川 〈無形文化財〉
1960	昭和35			2.1 渡邊正気氏が福岡県教育庁社会教育課文化財係技師		
1962	昭和37	10. 全国総合開発計画（一全総）閣議決定〔地域間の均衡ある発展：～1970〕				
1964	昭和39	〔10.10 第18回オリンピック東京大会（～10.24）〕 2.10「史跡名勝天然記念物及び埋蔵文化財包蔵地等の保護について」文化財保護委員会 → 建設省など		5. 松岡史氏が福岡県教育庁社会教育課文化財係技師		
1965	昭和40	【11月 いざなぎ景気 ～S45.7】		4.1「福岡県史跡調査会規約」施行；長沼賢海会長、委員7人。宗像東郷地区遺跡群、九州自動車道遺跡分布調査など		
1966	昭和41	1.13「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（古都保存法）」		4.；宮小路賀宏氏、5.；石松好雄氏が福岡県教育庁社会教育課入庁 7.25 九州縦貫自動車道の福岡-熊本間の整備施工命令		
1967	昭和42	※全国の遺跡地図刊行終了〔埋蔵文化財包蔵地14万か所；福岡県S43.3.31刊行(5,306所)〕		4. 柳田康雄氏が福岡県教育庁社会教育課入庁		
1968	昭和43	6.15 文化庁発足	（文化庁）	9. 藤井功氏が福岡県教育委員会に赴任 10.19 大宰府政庁跡の発掘調査鍬入れ式 11.28 大宰府跡の発掘調査開始		
1969	昭和44	5. 新全国総合開発計画（二全総）閣議決定〔開発可能性の全国土への拡大、均衡化：～1985〕		4.1 福岡県文化課・福岡市文化課発足 5.1 九州縦貫自動車道関係遺跡調査開始（～S51/報告書～S53） 8.6 今宿バイパス関係遺跡調査開始（～H1/報告書～H2） 9.29 福岡南バイパス関係遺跡調査開始（～S54）	〔史跡数43〕	〔県史跡数30〕
1970	昭和45	〔 3. 日本万国博覧会（大阪万博）〕		＊福岡県文化財管理調査員制度発足	9.21 特別史跡「大宰府跡」追加指定〔学校院跡・観世音寺 指定〕	
1971	昭和46			3月 歴史と自然をまもる会「ふるさとの自然と歴史」創刊 8.17 山陽新幹線関係遺跡調査開始（～S53）		
1972	昭和47	3.26 奈良県高松塚古墳の装飾発見発表 〔 2. 第11回冬季オリンピック札幌大会〕 6月 田中角栄「日本列島改造論」		4.1 九州歴史資料館設置		
1973	昭和48	【10. 第一次石油危機】		2.24 九州歴史資料館の展示室開館		
1975	昭和50	7.1 文化財保護法第四次改正〔伝建地区、選定保存技術、民俗文化財指定制度整備・文化財保護指導委員〕				
1976	昭和51				5.4 幸若舞［無形民俗文化財］指定	
1977	昭和52	11. 第三次全国総合開発計画（三全総）閣議決定〔人間居住の総合的環境の整備：定住圏構想：～10年間〕				
1979	昭和54	3.20 「九州地方開発促進計画」閣議決定 10. 第二次石油危機		7.8 浮羽バイパス関係遺跡調査開始（～H16・H30） 7.16 九州横断自動車道関係遺跡調査開始（～H2/報告書～H10）		
1980	昭和55					3.1 (1)仏山塾関係資料〈歴史資料〉
1982	昭和57			10.26 牛頸ダム関係遺跡調査開始（～S61/報告書～S63）		
1984	昭和59			5.14 筑紫野バイパス関係遺跡調査開始（～S54・H2～H9/報告書～H10）		
1986	昭和61	【12月 バブル経済 ～H3.3】		9.16 椎田バイパス関係遺跡調査開始（～H1/報告書～H3）		
1987	昭和62	6. 第四次全国総合開発計画（四全総）〔東京一極集中の是正と多極分散型国土〕		5.6 椎田道路関係遺跡調査開始（～H2/報告書～H8） 11.2 豊前バイパス関係遺跡調査開始（～H6/報告書～H9）		
1991	平成 3			9.14 台風17号襲来 / 9.27 台風19号襲来※近代化遺産総合調査	〔史跡数66〕	〔県史跡数49/市町村史跡数114〕
1992	平成 4	9.28「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」を日本が受諾		4.14 一級河川山国川築堤関係遺跡調査開始（～H8・R1～2） ※近代化遺産総合調査		
1994	平成 6	7.15「時代の変化に対応した文化財保護施策の改善充実について（報告）」：文化庁［文化財保護企画特別委員会の報告］				
1995	平成 7	1.17 阪神・淡路大震災		伊良原ダム関係文化財調査開始〔遺跡調査はH18～H28/報告書～H29〕		
1996	平成 8	6.12 文化財保護法第五次改正〔登録有形文化財、権限委譲など〕 7.8「近代の文化遺産の保存と活用について（全体報告）」：文化庁［協力者会議の報告］		9.19「文化財保存活用基本指針」	12.10 吉井町筑後吉井伝統的建造物群保存地区［重伝建］選定 12.26 筑後川昇開橋 ［登録有形文化財］登録	
1998	平成10	3. 第五次全国総合開発計画（五全総）〔地域の自立へ向けた多軸型国土への転換〕 6.「埋蔵文化財の把握から開発事前の発掘調査に至るまでの取扱いについて（報告）」 9.29「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」		4.1 福岡県文化財保護課		
1999	平成11	7.16 文化財保護法改正〔権限委譲、出土文化財の都道府県帰属ほか〕				

第１表　福岡県文化財保護に関する年表　④

年		国事項等		福岡県関係事項	福岡県の国指定	福岡県指定
2001	平成13	1. 6 文部科学省設置 11.16「文化財の保存・活用の新たな展開 ―文化遺産を未来へ生かすために― 」文化審議会文化財分科会企画調査会の報告		1.30「福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画」 →大規模班設置 9.12 東九州自動車道関係遺跡調査開始（～H27） 11.20 九州新幹線関係遺跡調査開始（～H19/報告書～H20）		
2002	平成14	4.24「文化を大切にする社会の構築について～一人一人が心豊かに生きる社会を目指して」 7. 3 文化財保護法第六次改正 12.10 「文化芸術の振興に関する基本的な方針について」（第一次基本方針）〈文化審議会）：閣議決定		五ヶ山ダム関係文化財調査開始〔遺跡調査はH16～H25/報告書～H28〕		
2003	平成15			7.19 集中豪雨 （大野城跡など被災）		
2004	平成16	5.28 文化財保護法第七次改正〔文化的景観、登録制度の拡充、民俗技術の追加〕		8～10 台風16・18・21・23号襲来		
2005	平成17	3.20 福岡県西方沖地震 10.16 九州国立博物館開館		2.18 福岡県装飾古墳保存連絡協議会発会式 4. 1 新九州歴史資料館対策班	3.2 津屋崎古墳群［史跡］指定	
2007	平成19	2. 1「埋蔵文化財の保存と活用―地域づくり・ひとづくりを目指す埋蔵文化財保護行政―（報告）」：文化庁［埋文調査研究委員会の報告］ 2. 9 「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第二次基本方針）〈閣議決定〉 10.30 「文化審議会文化財分科会企画調査会報告書 （文化財の総合的把握、社会全体で文化財を継承、歴史文化基本構想）」			2. 6 大濠公園［登録記念物］登録	
2008	平成20	3.31「今後の埋蔵文化財保護体制のあり方について（報告）」：文化庁 11.4 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）施行				
2009	平成21			7.23 集中豪雨（～7.27）		
2010	平成22			2.24「福岡県文化財保護基本指針」 11.21 九州歴史資料館が小郡市三沢に移転開館	3.11 玄界灘の漁労用具及び船大工用具［登録有形民俗文化財］登録	3.24 黒木の共同風呂の習俗〈記録選択〉
2011	平成23	2. 8「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）」：閣議決定 3.11 東日本大震災			5.25 ユネスコ世界記憶遺産に「山本作兵衛の炭坑絵画記録」697点が登録	
2012	平成24	9.28 「最近の情勢と今後の文化政策（提言） ～東日本大震災から学ぶ、文化力による地域と日本の再生～」		※ 福岡県の中近世城館跡の調査（～H28）	9.19 求菩提山の農村集落［重要文化的景観］選定	
2013	平成25	12.13 文化審議会文化財分科会企画調査会報告「今後の文化財保護行政の在り方について」				
2014	平成26	10.31「適正な埋蔵文化財行政を担う体制等の構築について」（報告）―これからの埋蔵文化財行政に求められる体制―」：文化庁［埋文調査研究委員会の報告］		水城・大野城・基肄城築城1350年事業		
2015	平成27	4.21 文化庁が「日本遺産」18件を認定する〔太宰府市：「古代日本大宰府の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」〕 5.22 「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）―文化芸術資源で未来をつくる―」：閣議決定		7.5「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」世界文化遺産登録		
2016	平成28	3.30 「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ―」 ：観光庁 4.16 熊本地震本震				
2017	平成29	10.31「水中遺跡保護の在り方について」（報告）：文化庁［水中遺跡検討委員会の報告］ 12. 8 「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用の在り方について（第一次答申）」		7月 九州北部豪雨 7.9「『神宿る島』沖ノ島と関連遺産群」世界文化遺産登録 ※ 福岡県の戦争遺跡の調査（～R1）	2.9 英彦山［史跡］指定 10.13 三雲・井原遺跡［史跡］指定 10.31 ユネスコ世界記憶遺産に「朝鮮通信使に関する記録」が登録	
2018	平成30	3. 6「文化芸術推進基本計画（第1期）」 ：閣議決定 6.8 文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律	10.1 新文化庁	7月 西日本豪雨 大宰府史跡発掘50年	10.15 筑豊炭田遺跡群［史跡］指定 12.25 有馬家霊屋［重要文化財（建造物）］指定	
2019	平成31 令和 1	3. 4「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画策定等に関する指針」：文化庁 4. 1 改正文化財保護法施行 5. 1 令和に改元			〔史跡数96〕	〔県史跡数80/市町村史跡数219〕
2020	令和 2	7.23 第32回オリンピック東京大会（～8.8） / 8.24 東京パラリンピック（～9.5）＜予定＞		「福岡県文化財保護大綱」 福岡県の近世窯業関係遺跡の調査		
2021	令和 3			「大宰府跡」「水城跡」指定100年		

第１表　福岡県文化財保護に関する年表　⑤

2　福岡県文化財保護組織の変遷

はじめに

現在、国における文化財の所管は文部科学省の外局である文化庁である。文部科学省は平成13年(2001)1月に、文部省と科学技術庁とが合体してできた。それまでは文化庁は文部省の外局であり、その前身である文化財保護委員会は昭和25年（1950）8月に文化財保護法の施行とともに設置された。

文部省は明治4年（1871）7月に設置されたが、その頃の文化財に係る所管部署は文部省というわけではなく、一定していなかった。社寺は民部省ののち大蔵省、そして明治5年（1872）には教部省が所管し、城郭は兵部省・大蔵省であった。遺跡や古跡については明治7年（1874）に開庁した内務省が所管し、同10年（1877）には社寺・陵墓事務も内務省所管となったが、陵墓については同11年（1878）から宮内省が所管した。

明治30年（1897）6月の「古社寺保存法」、大正8年(1919）4月の「史蹟名勝天然紀念物保存法」、昭和4年(1929）の「国宝保存法」などの文化財に関する法が整備されていく中で、担当部署の変更もなされていく。

大正2年(1913)6月に社寺関係事務、昭和3年(1928)12月には史蹟名勝天然記念物関係事務も、ともに内務省から文部省へ移り、陵墓や城郭を除く文化財全般を文部省が所管するようになった。この流れが昭和20年以降の戦後も続いていく。

一方、都道府県における文化財の所管部署は、地方官官制における知事のもとでの部・課が担当したのであるが、当初は内務部、その後に学務部などにおいて取り扱われていた。

以下、第Ⅰ章の「福岡県文化財保護行政のあゆみ」を踏まえて、一部重複しつつも、担当部署の明確でない点もあるが、主に名勝旧跡の所掌事務の所管について組織を中心に見ていく。全体の流れは20頁の第1図、110・111頁の第16表を参照されたい。

（1）明治期～昭和20年8月

明治期～大正8年12月

慶応3年（明治元年：1868）11月、王政復古の大号令が発せられた。新しい時代の到来である。

明治2年（1869）に版籍奉還が行われ、同4年7月には 廃藩置県により全国に3府302県が設置された。福岡県は同9年8月段階で現在の範囲が確定した。

明治4年（1871）10月の府県官制により、地方には知事以下、参事・典事などと租税・庶務・聴訟の課が置かれ、同11月の県治条例で県に庶務・租税・出納・聴訟の4課が置かれた。

明治8年（1875）11月、府県職制並事務章程が布告され、各府県は知事のもとで属吏の職務を6課に分けた。その中に「公園墓地ヲ撰定シ名所旧跡ヲ査定スル事」とあり、地方官の事務として名所旧跡に関する事項が示されている。また専決できるものとして「不用城郭ノ建物及官舎等例規ニ照シテ売却スル事」が挙げられている。

明治11年(1878)7月の府県官職制においては、府知事・県令・郡長等の事務に名勝旧跡のことは含まれていなかった。

明治19年（1886）7月の地方官官制制定では府県に知事以下の職員を置くことが規程され、警察署において「遺流失物埋蔵物ニ関スル事項」を所管することが示されるが、名勝旧跡については取り上げられていない。

明治22年（1889）2月、大日本帝国憲法が発布される。

明治30年（1897）6月、古社寺保存法が制定される。事務は内務省社寺局が所管した。

明治32年（1899）5月、府県制・郡制が全文改正され、それぞれの中に「学術美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ処分シ若ハ大ナル変更ヲ為ス事」には内務大臣の許可を要することが規定される。6月の地方官官制の一部改正では府県に知事官房・内務部（第一課～第五課）・警察部（3課）・監獄署（3課）を置くこととし、内務部第一課の管掌事務に「名勝旧跡ニ関スル事項」が盛り込まれた。おそらく庶務係の所掌であろう。明治38年（1905）4月の地方官官制改正で、府県に知事官房・部（第一～第四部）・港務部を置くこととされ、第二部（学務・兵事）の管掌事務に「名勝旧跡ニ関スル事項」があった。これの所管は第二部の学務係か兵事係のいずれかであろう。

ところが、明治40年（1907）7月の地方官官制改正では、府県に知事官房・内務部・警察部・港務部を置くとしながらも名勝旧跡の文言がなくなっている。しかし、明治42年5月開催の地方長官会議における内務大臣訓示には、「史蹟、勝地調査保存に関する件」がある。

大正2年（1913）6月、地方官官制が全面改正され、府県に知事官房・内務部・警察部を置くとしたが、名勝旧跡の文言がなくなった。同年6月、社寺関係について内務省から文部省宗教局社寺保存課へ移管された。

大正5年（1916）9月の福岡県知事による名所旧跡等の保存に関する「福岡県史蹟名勝旧蹟保存訓令」が発せられ、県も、特に名勝旧跡に関して強く動いていることがわかる。この頃の県庁においては、文化財の所管は学務課であったと思われる。

大正8年9月～14年

大正8年（1919）4月、「史蹟名勝天然紀念物保存法」が公布され、いくつかの条項に内務大臣及び地方長官たる知事にかかる業務が示される。大正8年（1919）12月の「史蹟名勝天然紀念物保存法施行規則」にも地方長官への申告のことがある。こののち、昭和3年(1928)11

月まで内務省内務大臣官房地理課が所管したが、昭和3年12月1日からは文部省宗教局保存課が所管することとなる。県においては、大正8年（1919）9月以降は内務部学務課社寺係が文化財を担当し、大正14年（1925）まで同じ体制で進められる。

大正15年～昭和17年

大正15年（昭和元年：1926）6月、地方官官制の全部改正で、府県に知事官房・内務部・学務部・警察部を置くこととされ、学務部の所掌事務として「5. 史蹟名勝天然紀念物ニ関スル事項」が示された。福岡県でそれを所管するのは学務部社寺兵事課史蹟名勝天然紀念物係で、奏任官1・判任官10・県吏員1・雇4という陣容であった。また、郡役所が廃止された。課の人員数には変動があるが、この体制は昭和17年（1942）まで続く。

この間、大正12年（1923）4月～昭和7年（1932）3月までの9年間には島田寅次郎氏が学務部社寺兵事課史蹟名勝天然紀念物係に在籍し（写真1）、『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』を刊行するなどした。

昭和8年（1933）4月には「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」が公布された。

昭和16年（1941）12月に太平洋戦争に突入すると、文化財の周辺も慌ただしい状況となっていく。

昭和17年（1942）11月、地方官官制が改正され、行政簡素化実施のための組織変更がなされたが、知事官房、内政部、経済部、土木部、衛生部のうち内政部の事務として「15 史蹟名勝天然紀念物ニ関スル事項」があった。その後は、いよいよ戦争が激化する。

（2）昭和20年9月以降

昭和20年（1945）8月15日、太平洋戦争は日本の敗戦で終わった。文部省では10月には史跡名勝天然記念物の保存事務を社会教育局所管で再開した。

昭和23年（1948）7月には「教育委員会法」が公布施行され、福岡県教育委員会は11月1日に発足する。

福岡県教育委員会では、昭和23年11月から社会教育課で文化財を所管し、同23～24年の係は不分明だが同

写真9　旧福岡県庁舎

写真10　戦後、教育委員会があった旧貴賓館

25年からは文化財保護係が担当した。

昭和25年（1950）5月30日、「文化財保護法」が公布され、8月29日に施行された。そして同日に文化財保護委員会が発足する。この法律は「史蹟名勝天然紀念物保存法」（大正8年）、「国宝保存法」（昭和4年）、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」（昭和8年）を統合発展させたものであった。

昭和26年（1951）6月、福岡県では社会教育課から分離して文化課が発足するが、3年余り後の同29年（1954）6月に再び社会教育課に併合される。同31～32年度は部制施行で教務部文化財保護係となるが、同33年度以降は社会教育課文化財係として昭和44年（1969）3月まで15年弱を経過することになる。昭和28年（1953）6月には歴史民俗や芸能などを専門とする筑紫豊氏が文化課技師として採用されている（写真2）。

昭和30年（1955）4月に「福岡県文化財保護条例」が施行された。これは昭和28年（1953）5月の同条例を全部改正したものである。昭和35年（1960）2月、渡邉正気氏が社会教育課文化財係技師となる（21～31頁）。福岡県で初めての考古学を専攻する技術職員であった。昭和43年（1968）6月に文化財保護委員会に代わり文化庁が発足する。

（3）昭和44年4月以降

昭和44年（1969）4月、福岡県教育庁に文化課が発足する（文化課発足以後の組織変遷は第1図）。埋蔵文化財担当の調査係は14人、文化係と庶務係はともに3人ずつの3係で、総勢22人であった。3係体制は昭和48年度末まで続く。

昭和47年（1947）4月、九州歴史資料館が設置される。副館長以下、総務課6、調査課5、学芸第一課3、学芸第二課4の総勢19人で、初代館長の鏡山猛氏は5月1日に就任した（写真7）。昭和43年（1978）に始まっていた大宰府史跡の調査は調査課所管となった。

昭和49年度（1974）に教育庁に部制が導入され、文化

写真 11　現福岡県庁舎

課は管理部所属となる。昭和 50 年度に指導第一部となり、昭和 51 ～ 60 年度は管理部で推移する。また昭和 49 年度（1974）には調査係が第一係・第二係に分かれ、文化係・庶務係とで 4 係体制となる。

昭和 58 年（1953）4 月、福岡県教育庁の機構改革で、県内 16 か所の教育出張所が 6 か所の教育事務所（福岡・北九州・北筑後・南筑後・筑豊・京築）に統廃合された。そして、各教育事務所社会教育課指導班に発掘技師を配置した。6 教育事務所への文化財担当職員配置は平成 16 年（2004）まで続いたが、その後は本庁の担当職員が教育事務所ごとに地域担当を兼ねる形態となる（61･62 頁）。

昭和 60 年（1985）1 月、九州歴史資料館条例が施行される。同年開館の甘木歴史資料館・柳川古文書館と既設の求菩提資料館が九州歴史資料館の分館となった（75・76 頁）。

昭和 61 年（1986）にも教育庁の機構改革が行われ、文化課は指導第二部に所属、記念物係・調査班・文化係・庶務係という 4 つの係・班体制となる。

昭和 63 年（1988）4 月には九州国立博物館誘致促進対策班が設置される。平成元年度（1989）には対策室となったが､同 5 年度（1993）以降は知事部局に移管される（58 ～ 60 頁）。平成 3 年度には文化財保護係・調査班・文化振興班・管理係の 4 係・班体制となる。

平成 10 年（1998）4 月､福岡県教育庁は組織改編を行う。文化課が総務部となり文化財保護課と改称し、文化財保護係、調査第一係、調査第二係、管理係の 4 係体制となる。この基本構成は、班や室の増設をみながらも平成 22 年度（2010）まで継続する。

平成 13 年（2001）1 月、国の省庁再編で文部科学省が設置される。同じ 1 月の「福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画」をうけて 4 月に文化財保護課内に重要・大規模遺跡対策班が設置される（43・44 頁）。

平成 15 年（2003）7 月 19 日の集中豪雨により、特別史跡大野城跡や水城跡などが被災したことから、平成 16 年 4 月には大規模遺跡対策班を大規模遺跡対策・災害復旧班に組織替えした。平成 16 年 8 ～ 10 月の台風や平成 17 年（2005）3 月の福岡県西方沖地震による遺跡の災害復旧にも対応し、平成 21 年度まで継続した（45 頁）。

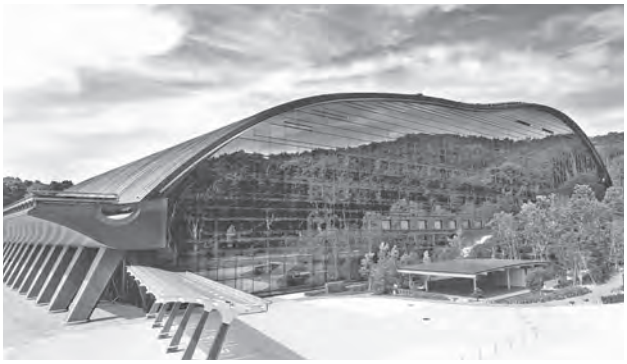


写真 12　九州国立博物館

平成 17 年（2005）4 月、新九州歴史資料館対策班が設置される。平成 21・22 年度は準備室となり、平成 22 年度（2010）の移転開館に向けた準備が始まる。

平成 17 年（2005）10 月 16 日、九州国立博物館及びアジア文化交流センターが開館する（写真 12）。県組織のアジア文化交流センターには文化財保護課の専門職員が併任で位置づけられた（58 ～ 60 頁）。

平成 18 年（2006）9 月になって文化庁は世界文化遺産暫定一覧表に記載する案件の公募を開始する。福岡県では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」についての世界遺産登録に向けた活動が平成18年度以降に本格化した。また､「近代化産業遺産群」についても関係各県で平成 17 年度頃から活動が活発化し、国による公募制において「九州・山口の近代化産業遺産群」と「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は平成 21 年(2009)1 月に国内の暫定一覧表へ記載された。福岡県では同年 4 月に知事部局の総合政策課内に世界遺産登録推進室を設置したことから、文化財保護課の専門職員も数人が併任で位置づけられた（60 頁）。

平成 20 年度（2008）から九州歴史資料館は組織改編を行い、総務室と学芸調査室の 2 室体制となる。

平成 22 年（2009）7 月、九州歴史資料館が小郡市三沢に移転設置され、11 月 21 日に開館した（写真 13）。

平成 23 年（2010）4 月からは文化財保護課の調査第一・第二係の大半が九州歴史資料館へ移った。文化財保護課は文化財保護係、企画係、管理係の 3 係、九州歴史資料館は総務室、学芸調査室（学芸普及班･調査研究班）、文化財調査室（文化財調査班・保存管理班）の構成となった。

写真 13　小郡市へ移転後の九州歴史資料館

文化課（文化財保護課）

①昭和 44 年 8 月 16 日当時

文化課長 (1)
- 課長補佐 (1)
- 課長技術補佐 (1)（調査係長兼務）
- 庶務係 (3)
- 文化係 (3)
- 調査係 (13)

※昭和 44 年 4 月文化課設置。

②昭和 47 年 8 月 1 日当時

文化課長 (1)
- 課長補佐 (1)
- 課長技術補佐 (1)
- 庶務係 (4)
- 文化係 (6)
- 調査係 (15)

③昭和 58 年 7 月 20 日当時

文化課長 (1)
- 課長補佐 (1)
- 庶務係 (5)
- 文化係 (6)
- 調査第一係 (3)
- 調査第二係 (10)

教育事務所 —— 社会教育課 —— 指導班 (1)（文化財発掘技師 (1)）

※教育事務所設置に伴い、6 教育事務所に各 1 人の文化財発掘技師を配置
※昭和 58 年 11 月現在の県庁に移転

④平成 10 年 8 月 1 日当時

文化財保護課長 (1)
- 参事 (1)
- 参事（兼課長技術補佐）(1)
- 課長補佐 (1)
- 管理係 (3)（管理係長は課長補佐兼務）
- 文化財保護係 (5)
- 調査第一係 (8)
- 調査第二係 (5)

※文化課から文化財保護課に改編

教育事務所 —— 生涯学習課 —— 文化班 (1)

併任：国立博物館対策室 (8)
朝倉市派遣（甘木歴史資料館）(1)

⑤平成 23 年 8 月 1 日当時

文化財保護課長 (1)
- 課長補佐 (1)
- 管理係 (4)
- 文化財保護係 (7)
- 企画係 (3)

併任：アジア文化交流センター (11)
世界遺産推進登録室 (3)
朝倉市派遣（甘木歴史資料館）(1)

※平成 17 年 4 月福岡県立アジア文化交流センター設置
※平成 21 年 4 月知事部局総合政策課世界遺産登録推進室設置

⑥令和 2 年 10 月 1 日現在

文化財保護課長 (1)
- 参事（兼課長技術補佐）(1)
- 課長補佐 (1)
- 管理係 (6)
- 企画・埋蔵文化財係 (4)
- 文化財保護係 (5)

併任：アジア文化交流センター (10)
世界遺産室 (4)
朝倉市派遣（甘木歴史資料館）(1)

※平成 31 年 4 月世界遺産登録推進室から世界遺産室に名称変更。
※令和元年 7 月より災害復旧業務のため、朝倉市に 1 名職員派遣。

※詳細な組織変遷は 110・111 頁の第 16 表参照。

九州歴史資料館

館長 (1) —— 副館長 (1)
- 総務課 (6)
- 学芸第一課 (3)
- 学芸第二課 (4)
- 調査課 (4)（調査課長は学芸第二課長兼務）

※九州歴史資料館設置

館長 (1) —— 副館長 (1)
- 総務課 (6)
- 学芸第一課 (3)
- 学芸第二課 (3)
- 調査課 (6)

館長 (1)（館長は教育長兼務）—— 副館長 (1)
- 参事 (3)
- 総務課 (5)
- 学芸第一課 (3)
- 学芸第二課 (2)
- 調査課 (4)

併任　豊前市派遣（求菩提資料館）(1)

館長 (1) —— 副館長 (1)
- 総務室 (6)
- 学芸調査室
  - 学芸普及班 (7)
  - 調査研究班 (3)
- 文化財調査室
  - 文化財調査班 (14)
  - 保存管理班 (2)

※九州歴史資料館、小郡市に移転開館
※平成 20 年 4 月グループ制に伴い、学芸第一・二課、調査課が学芸調査室に改編
※平成 22 年 11 月 21 日九州歴史資料館が小郡市に移転開館
※平成 23 年 4 月～　埋蔵文化財調査機能を九州歴史資料館が担う

館長 (1) —— 副館長 (1)
- 総務課 —— 総務班 (5)
- 学芸調査室
  - 学芸研究班 (6)
  - 広報普及班 (4)
  - 保存管理班 (2)
- 文化財調査室
  - 文化財調査班 (7)
  - 調査研究班 (3)

併任：朝倉市派遣（文化・生涯学習課）(1)

第 1 図　福岡県文化財保護組織の変遷

3　福岡県の文化財保護の黎明期
―渡邉正氣先生聞き語り―

※渡邉正氣（わたなべせいき）先生は、大正 10 年 (1921) 9 月 10 日、築上郡築城町（築上町）生れ。昭和 18 年 (1943)9 月に九州帝国大学法文学部国史学科専攻卒業。福岡県立中学校教諭を経て同19年3月に教育応召、同 20 年 8 月の終戦は宮崎県都濃町（日向市）で迎える。復員して県立中学校教諭へ復職後、九州大学大学院法文学部特別研究生となる（～昭和 26 年 (1951)9 月）。

昭和 28 年 (1953)8 月～同 34 年 (1959) の間は福岡県文化財専門委員（有形・考古）を務め、同 33 年 (1958)11 月から九州大学文学部助手となる。

昭和 35 年 (1960)2 月に福岡県教育委員会社会教育課文化財係技師となり、その後は福岡県の文化財行政に尽力される。同 37 年 (1962)9 月に社会教育課文化財係長、同 44 年 (1969)4 月に文化課課長技術補佐兼調査係長、同 47 年 (1972)4 月に九州歴史資料館学芸第二課長、同 50 年 (1975)4 月に九州歴史資料館参事兼学芸第二課長兼調査課長を経て同 55 年 (1980)3 月に退職された。

昭和 61 年 (1986)4 月～平成 10 年 (1998)3 月の間は福岡県文化財保護審議会専門委員（史跡部会）。平成 10 年 (1998) 度に福岡県教育文化表彰受賞。

平成 28 年 (2016)5 月・8 月に蔵書を九州歴史資料館に寄贈された。令和 2 年(2020)1 月 21 日に逝去された。享年 98 歳。

多数の報告書のほかに代表的著書として、『日本の古代遺跡 34 福岡県』（保育社 :1987.10）がある。

以下は、平成 27 年（2015）12 月 25 日（金）午後、福岡市中央区薬院のご自宅において、伊﨑俊秋と杉原敏之とが行った聞き取り（聞き語り）である。

渡邉先生はこのとき 93 歳 3 か月。

〔幼少期～青年期〕

-- 先生は大正10年（1921）の９月10日の生まれ、でよろしいのですね。

〈渡邉〉はあ、その辺はいきさつがあるんですよ。実はね、本当は大正11年の１月30日なんです。

写真 14　御所ヶ谷神籠石中門での渡邉先生（前列右端）

-- あ、そうですか・・・。

〈渡邉〉何というか、うちの事情でね。早く生まれたことに（したんです）。

-- まあ、いろいろと事情はあったとして、戸籍上は大正10年９月10日の生まれということでいいわけですね（笑）。先生は、そのあと、お父様の仕事の関係で福岡市に転居されて、昭和９年（1934）に旧制福岡中学に入学ですね。

〈渡邉〉はい、そうです。

-- 中学４年修了で、昭和13年４月に旧制佐賀高等学校入学。そして昭和16年４月に九州帝国大学法文学部国史学科に入学。同18年９月に卒業されて、そのあと築上中学校の先生として赴任されているんですね。そのあと応召されて、熊本の予備士官学校に行かれたあと、最後、昭和20年の８月は宮崎県の都農町で終戦を迎えられたということでよろしいんですか？

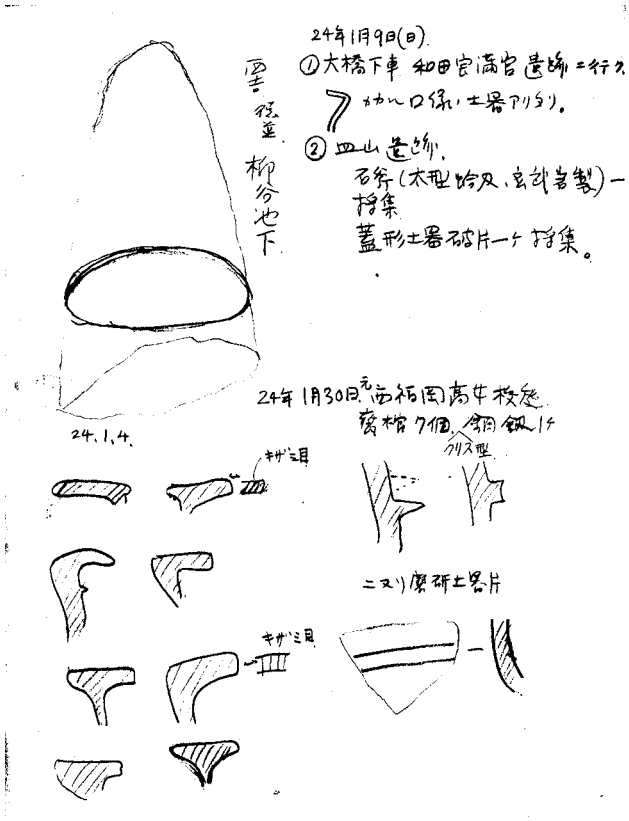
〈渡邉〉ええ、そうです。都農（つの）町ですね。

-- ９月に復員されて、また築上中学校に復職されて、そのあとすぐ九大の特別研究生になられたわけですね。

〈渡邉〉 そうです。

-- 愚問かもしれませんが、先生は何で歴史とか、考古学をしようと思われたのですか？

〈渡邉〉僕はね、小学校の時から（歴史が）好きだったんですよ。というのは、父がね、そういう話をよくしてくれていたんですよ。楠木正成とか、



第２図　渡邉先生の遺物メモ（昭和 24 年）

源平の話を。そういった話を聞いていたものだから・・・。

-- そのまま、大学でも歴史を勉強しようというような感じだったわけですか？

〈渡邉〉そうそう、そうです。中学に入った時に、ほかの成績はあれだけど、歴史だけは、１年の時は満点でしたね。あとはだんだん、こう・・・。中学１年の時はほんと・・

-- 先生は４年で中学修了で、高校に入られていますね。

〈渡邉〉うん。

-- 秀才で・・・。

〔九大時代〕

-- 先生の九大の特別研究生の終了というのは昭和26年９月というのを何かで見たんですけれども、そのぐらいなんですか？

〈渡邉〉ええ、５年でしたからね、特別研究生（特研生）という制度は。前期が２年、後期は３年でね。僕は前期から後期までいって、全部終わったときが卒業ということになるわけです。特研生に通ったけれども、実際は特研生として行ったのは数か月後ですね。

ちょうど戦後のごたごたしている時でしたからね。しかし、とにかく入学してから、前期の人は２年たったら卒業ということだけれども、僕は後期までおられたものだから、５年たって卒業した。しかし、そのあとすぐに、特研生の制度はなくなりましたね。

-- その後、先生は大学に籍を置いたかたちでおられた、ということでよろしいのですか？

そして、昭和35年２月１日付で福岡県の教育委員会社会教育課で・・・。２月１日でいいのですか？

〈渡邉〉ええ、２月１日です。そのあたりは厳格ですね。

-- その前が、九州大学の文学部の助手を昭和33年の11月からというふうに何かで見たのですが・・。

写真 15　聞き語り時の渡邉先生

〈渡邉〉それは、考古学講座というものが初めて正式に、文部省で決まったのですよ。だから正式に九大の考古学講座の助手ということになります。それまでは、何というか、ヤミでおったわけですね。特研生が終わったら何かないとおられないはずですけれどね。日野先生がね、・・

-- 日野開三郎先生・・

〈渡邉〉日野先生が随分と関わっておられた・・・。鏡山（猛）（写真７）先生あたりは（戦時中に）補助憲兵であったために公職追放に遭っていましたね。

（戦前に、）日野先生が東大を出て来られた。それから西洋史の小林先生は九大、それから東洋史の人も九大じゃないかな。そういった（大学に）残った人の中で（大学を維持していたが）・・・鏡山先生もほかの人もみんな講師だったわけですよ。残っておられた中で日野先生は助教授だった・・・（が、戦後になり、体制を立て直す際に）日野先生を筆頭に、先生は一番に教授になられた。小林先生は助教授じゃなかったかな。（皆さん）年齢は似たようなものだったけれども。

その日野先生がね、（私が）終戦になって特研生でおった時から九大にもぜひ考古学講座がないとおかしいから、考古学講座を作るように努力するから、鏡山先生を（公職追放の間は）助けてやってくれというので、考古学講座がない中で、（大学に籍を置く）資格もなしにずーっと残ったわけですよ。

ある程度したら、何の身分もなしに大学に行っていたらおかしいものだから、教授会でも文句が出たのでしょうね、研究生というようなことでずーっとおって・・・なかなか講座がすぐにはできないものだから・・・。結局10年ぐらいね・・・。

-- 講座ができたのが昭和33年ですね。

〈渡邉〉できたとたんに正式に考古学講座の助手になった。

-- その間にもいくつか（発掘）現場はやはりされていたのですか？

〈渡邉〉しょっちゅうですよ。沖ノ島もね、それから志登支石墓ね、国営発掘のね・・。全部僕が行きました。

〔福岡県教育委員会 社会教育課時代〕

-- 先生が昭和35年の２月１日に県の教育委員会に入られて、聞いたところでは、その頃には、全国には先生以外にほかに３人の専門の方がおられたとのことですが。

〈渡邉〉そのくらいですね。考古学関係の職員ね、担当

の。えーとね、京都はいましたね。大阪もいましたね。それから静岡がいました。それから僕。僕が入って４人目ですね〔註1〕。

-- その時はもう先生は30歳代の後半ぐらいになられていますよね。それは、県の方からぜひ先生に来てほしい、という要望があって（県に）入られた、ということでよろしいのですか？

〈渡邉〉えーとね。まあ、考えたらそういうことになると思いますけどね。

県の筑紫豊先生（写真２）が、県の・・・えーとね、ちょっとその辺は曖昧なのだけれども、・・・初め、県にそういった考古学とか美術工芸あたりの文化財の課があったんですよ、正式に。そこに麻生先生とか、それから筑紫先生とか、正式職員でいたんですよ。ところが、全国においてそういった（文化財の）会議があるでしょ。でも全国で担当の専門職員は４人ぐらいしかいないもんだから、会議というものにならないんですね。

それだったら文化課はいらないということになって、せっかくあった文化課をすぐ廃止したんですよ。だから、廃止して、・・・

-- 県に一時期文化課があったというのを記録で見たことがあります。

〈渡邉〉また社会教育課の方で文化財を見る、担当するようになったんですね。そのとき筑紫先生あたりは、その新しい制度（体制）で入って、それから波多江さん・・・

-- 波多江一俊さん・・

〈渡邉〉波多江さんもそういう形で入っとったんですね。

-- 渡邉先生が入られた時には、もう筑紫豊先生、波多江一俊さんはおられて、・・

〈渡邉〉筑紫先生が（九州）大学の方に来られて。

もう、大学の特研生というのはなくなっているけれども、（私は）ずっと鏡山先生のお手伝いをしていたものだから、僕に県の方に来るように、というお誘いがあったわけですよ。そして県の方でもそれが認められて・・・

-- 先生が入られた時には社会教育課だったんですよね？文化財係ですね？

〈渡邉〉そうそう、社会教育課だ。そこで文化財を担当していたんだ。文化財課というのはなかったんだ。

社会教育課でやっていたんだ。それが全国でも、県の考古学関係の文化財関係というのはそういう形だったですね。どこでもね。そうそう、そうそのうち、だんだん、社会教育課から離れて文化課というものを作り出すようになっていった・・・。

-- 福岡県の文化課ができたのが昭和44年の４月になりますので・・・。

ところで、以前の県庁は天神にありましたが、私（伊﨑）が入ったころ（昭和54年）は、県庁の横の、現在の旧福岡県公会堂貴賓館（写真10・25）の所に文化課がありましたけれども、先生の頃は（文化財を所管する社会教育課文化財係は）県庁の中だったのですか？それとも貴賓館の所だったのですか？勤務先は？

〈渡邉〉県庁の中でしたね（写真９）。中だけれども、教育庁関係（のスペース）が足りないものだから、新しく木造のバラックのようなものを建てているんですよ。その中の一つが社会教育課だった。そこにおりましたよ。木造でしたよ。

-- ああ、なるほど・・・。

〈渡邉〉そのあと、ある程度してから（貴賓館の方に）移ったわけですね。

-- 昭和35年２月に福岡県に入られて、次に松岡（史）さんが専門職として入ってこられるわけですね。松岡さんが昭和38年（の入庁）ですかね？39年ですかね？

渡邉先生は、入られてから考古学関係、文化財関係はお一人ですから、県内あちこちの現場に行かれているわけですよね。その頃。

〈渡邉〉藤井（功）（写真４）さんが課長になった頃からね。

あの頃は遺跡を破壊する土木工事が盛んだったものだから、藤井さんはその頃、よく言っていたけれども、キャッチャー１人にピッチャー10人だと・・・、そういう状態だと言っていました。

-- ははは（笑）。

〈渡邉〉ほんとにそうですね。西谷（正）さんが入った頃もそうですよ。西谷さんは、小郡のあの辺でね、正式に発掘調査をしているわけですね。そうするとすぐ隣で無届で古墳を壊しているんですよ。そういうふうな状態でね。ひどかったですね。

-- 一人であちこちというのは、全部は厳しいでしょうから・・・。

〈渡邉〉そういう状態ですね。何さま、戦争のような・・・。

-- 最初の話ですが、先生が大学におられて、九大の助手をされていたころは、県は筑紫豊先生がおられて、（文化財を）されていたということですよね。そして、（渡邉先生が県に）入られた時もおられて、ということですね。

〈渡邉〉うん。それと文化財は波多江（一俊）さん。お二人でね（担当していた）。

-- 先生が入られたあと、３年かそれくらいはお一人でずっとほとんど発掘の方とかは対応されて、そのあと松岡さんが、そして宮小路（賀

宏）さんが入られるかたちですかね。
〈渡邉〉　それと県に芥川（静夫）さんという方がおられた。
－－　芥川さん…。
〈渡邉〉その方が県の文化財のことをやっておられましたね。
担当者としては芥川さんがよく史蹟名勝天然記念物の関係で、一応担当者でおられたようですね。芥川さんの名前は聞いているけれども、芥川さんと僕は会ったことあるかなあ？覚えていません（笑）。
－－　それで、渡邉先生が（県に）入られた頃ですね。遺跡の発掘調査をやらなければならないという時は、電話がかかってきたりして、遺跡に行くというような感じだったのですか？
〈渡邉〉そうです。そうです。
－－　やっぱり、どこどこで遺跡が出てきたとか…。
そういう時というのは、電車に乗ったりして、県内いろんな所に行って、バスとか使って、遺跡の調査をしていた感じですか？
〈渡邉〉そうですね。
その道を開いてくださったのが筑紫（豊）先生ですね。筑紫先生の所で僕はずっとやりましたけれども、その前は筑紫先生が一人で頑張っておられましたからね。
－－　それでも、大変ですね。県内、あちこちですよね。
〈渡邉〉筑紫先生が大変だったと思いますね。
まあ、僕は補充みたいに入ったようなものですからね。役所の機構は、（僕は）法科ではないから全然知りませんでしたからね。
筑紫先生が係長で、僕はすぐ先生の下で、机は先生の座っておられる所のすぐ横におりましたからね。
－－　発掘調査の頃の話ですね？
〈渡邉〉そうです。
－－　じゃあ、係で、二人で、遺跡が出たということになったら、だいたい、連絡を受けたら、渡邉先生が現場に出かけて行っていたような感じですか？
〈渡邉〉その前は、筑紫先生と武藤先生ね。
－－　武藤正行さんでしたか？
〈渡邉〉あの方が初めは文化財の係長でしたからね。
えーと、沖ノ島の調査に最初に入ったのは武藤さんのときの仕事ですね。
－－　昭和29年の時の最初の頃ですね。
〈渡邉〉ただ、それからすぐ先生は県をお辞めになりましたね。僕が県に入る時には県にはおられなくて、（その前に）僕が（大学の位置づけも）何もなくて鏡山先生の所でやっている時に、武藤先生が県でいろいろやって、それを見せてもらうくらいね…。
－－　先生は、昭和28年から昭和34年まで県の文化財専門委員を、県庁に入られる前にされているんですよね？　有形・考古の両方ですね。
〈渡邉〉そうです。だから、そういうあれ（関係）で、県の武藤先生とか、筑紫先生とかと…
－－　退職後も、また県の文化財保護審議会の委員をお願いしていましたね。
－－　もう一度、入られた頃の話を…
渡邉先生が県に入られた頃に民俗文化財とかいろいんな分野の文化財をどんどん県指定にしていっていますが、その際に先生は、ほかの分野の調査についていく機会というのはあったのですか？遺跡以外で。
〈渡邉〉あの頃はね、建造物で、国から（補助）金をもらうとかの仕事のリーダーというのはほとんど僕がやりましたね。風浪神社とかね。それから…。
－－　やはり、現地に行かれて写真を撮ったり…。
〈渡邉〉それから、そういうので印象に残っているのは…、昼間はあれだから、向こうの担当者には夜に来てもらってね。そして、夜に２～３時間ほど付き合ってもらって…。
－－　あ、そうですか…。まあ、昼は当然発掘調査をしているから、ですかね？
〈渡邉〉あまりたくさんの件数はなかったですよ。私のほかにやる人がおりませんからね。
－－　いろんなことをやらなければならなかったわけですね。
〈渡邉〉そうそう。
－－　筑紫先生がいつくらいまでおられたのでしたか？昭和38年くらいまでですかね？
〈渡邉〉筑紫先生がね、定年までおられたと思います。
定年でお辞めになった。その後は、定年後も嘱託みたいなもので、数年県に来ていただいておりました。民俗資料とかああいったものは先生が一番お得意ですからね。
－－　波多江さんも同じくらいの頃にお辞めになられているんですか？
〈渡邉〉波多江さんはね、僕が県に入るために、文化財の担当を辞めてくださったんですよ。僕が入りやすいようにね。今度は県の広報の方に移られました。
波多江さんは警固小学校の時の（僕の）先輩ですもんね。昔からよく知っていました…。波多江さんは 旧制の（福岡）高等学校に入っておられたと思うんですよ。それが結核でね、休まれたんですよ。そのあとは、福高を卒業するのではなく、西南に行かれたのかな？
結核で休まれてのち、九大に入られて、美学の谷口鉄雄先生の所でしたね。

波多江さんが県庁に入った頃、ひとりで、国から文化財の予算をとるために、努力しておられることは、僕は県に入る前からよく・・（知っていました）。家が近所で、警固小学校の近所ですから。
波多江さんは、文化財が性に合って、ほんとに好きでしたからね。まだ続けたかった…（のだと思います。）波多江さんはいい方でしたね。
人生の先輩ですかね。

〔福岡県教育委員会社会教育課時代・大宰府〕

-- あちこちの調査の中で、先生が調査に携わられたというのはたくさん出て来るのですが、だんだん開発が進んできて、そのような中で、大宰府（史跡）がやはり指定地を拡張していかなければならないという話が、たぶん、昭和30年代後半くらいにはもう出てきたと思うのですが、その辺の経緯というか、そのあたりを覚えておいでの範囲で教えていただきたいのですが…。

〈渡邉〉はい。結局は史跡に指定した範囲が狭かったのですね。

-- そうですね。

〈渡邉〉ところが、だんだん真剣に考えればもう、それは指定範囲が足りないというのがすぐにわかってね。だからずっと広げなければならない、となったわけですね。
だから、未指定の所を思い切って（追加指定範囲を）ばあっと広げたわけです。
それは、文化庁の仲野さんという人がね。

-- 仲野浩さん…。

〈渡邉〉うん。あの人がね、指定して残していかないと（いけない）。大事なものは、指定すべきものは指定していかないと、絶対に残らない、と…。
あの人が、非常に、新しく指定することをやっていった…、まあ、ある意味で強権的にね、国の意向でやっていった。でもそれで（遺跡が）ずいぶん助かったんですね。
大宰府も何倍も広くなりましたし、むかしは大野城の指定も点・点・点（の指定）であったのが、山城として必要なところは全部指定するというような…。
仲野さんは本当に一所懸命だったですね。よく福岡県に来ておられましたよ。ところが、文部省での出張ではほかの所に行っていることになっていたのが、私たちの前では、福岡県には指定の件で来ましたと、そういうこともありましたよ。

-- はあー、そうですか（笑）。

〈渡邉〉とにかく、大野城とかは点での指定であって、大野城全体を指定するということはなかったし、大宰府もそれと似たようなもので、だから拡張したわけですよ。昔は（指定は）都府楼のあのあたりだけでしたもんね。

-- 観世音寺の子院跡を（追加指定に）くっつけるという発想は、…大野城跡の南側にある子院跡を一緒にして指定を広げていきますよね。政庁の裏あたりですね。それは渡邉先生が…。

〈渡邉〉政庁の裏にお寺があるでしょ。ああいうのも指定していったからね。助かりましたよ。
ほとんど手つかずのところがありますけれどね。
崇福寺の所は遺構も出たんですけれどね。あれはもう…崇福寺の跡は指定になっていないでしょ？大部分はね。

-- （指定ラインの）ぎりぎりのあたりですね。

〈渡邉〉あそこは調査したらやはり遺構が出てね。だから、「崇福寺跡」としてひとつの独立した史跡として残したかったんだけれども、どうしてもそれができなかったですね…
まあ、そういった状態でしたね。

-- 福岡県が国に申請をして指定を広げるという時に、昭和41年頃に、その申請を出す時ですね。
当時は、県の方でやるというのは、そういう流れでいったんでしょうか？
太宰府町には（専門の職員が）誰もいなかったという…（事情はあったと思いますが）

〈渡邉〉太宰府町にももちろん教育委員会にも松田さんという熱心な担当がおられましたよ。ただ、ほかの業務と兼務ですからね。よく相談に来られたけれども…。
松田さんは全部残したいと言っても・・・太宰府町教育委員会から県の方に（書類を）上げていくことに対しても、ストップがかかるということもあって、上がってこないこともありましたよ…。個人では何ともできなくて…。県としてはバックアップしてやらんといけないんだけれども。それもだんだんかなわなくなりましたね。

-- 地元の反対というか…。いろいろと…。
それで、国の方に（申請して）指定を広げるという話で、それは新聞記事に出ましたですよね。確か昭和41年の11月くらいですね。その時というのは、反対運動がワーッと盛り上がった時と言ったら変ですけど、その時、渡邉先生には、直接、何か印象に残っているようなこととかありますでしょうか？

〔新聞記事の写しを見ながら〕

-- 昭和41年11月１日に新聞報道があっているようですね。

〈渡邉〉どういうふうな記事で？

-- 大宰府史跡を追加指定するという、広くするんだ、という新聞報道が出ていますね。

〈渡邉〉ああ、ありましたね。

-- さっそく、その翌日には、今度は太宰府町議会が、指定拡張反対の陳情書を採択したという記録もありますね。

〈渡邉〉そうです。そうです。ありました。

-- そういう話が、県の方にも、渡邉先生のところとかにも、話が来ていたわけですか？
なぜ、追加（指定）するのか、みたいな話とかが…。

〈渡邉〉直接に、私のところに（話が）ポット来るということはなかったですね。
やっぱり、あの、僕らに話してもしょうがない、というようなところもあるんじゃないかな。

-- まあ、課長とか、教育長とか、知事とかに、いろいろ問い合わせというか、そういうものが来ていたという感じなんですかね？

〈渡邉〉うーん・・・。

-- それからですね。昭和43年に（大宰府の）調査が始まるまでの間ですけれども、大宰府の周りの開発とか、ほかの埋蔵文化財の遺跡の調査はどんなふうにしてされていましたか？　ちょうど文化課ができる前、松岡さんや宮小路さんが入って来られるくらいの時ですが…。宮小路（賀宏）さんたちがたぶん、昭和41年か42年くらいに入られていると思います。柳田（康雄）さんもその頃に入られていますから。
そして、昭和43年に大宰府の発掘調査が始まります（63～66頁）。
先生方は、竹内（理三）先生をはじめ、いろいろな先生方がおられますが、井上（光貞）先生、浅野（清）先生…。そのメンバーの人選というのはどのように進んだのでしょうか？竹内先生を委員長にするとか、鏡山先生を副委員長にするとか…（第20表）。

〈渡邉〉やはり、あのー、寧楽遺文から平安遺文まで、竹内先生がやられてね。ご専門があの辺でしょ。（大宰府に）一番詳しいからね。あのー、竹内先生が一番ふさわしかったのではないですかね。大宰府の調査については、ね。
それは、ああいった委員長については、福岡県からではなくて、仲野さんあたりがね…

-- 仲野先生ですか…。

〈渡邉〉国の方からそういうふうなもの（案）がありましたね。（竹内）先生を調査委員長に据える、という…、そっちだったと思います。県から言ったわけではないですよ。

-- それじゃあ、委員会をつくるというのも国の方から…。

〈渡邉〉そうそう、だいたいあれは仲野さんが一番力を入れてやられました。

-- 昭和43年の大宰府の調査が始まった時、九大美学の谷口先生は委員ではなくて臨時委員みたいな位置づけで確か入っておられるんですね。

〈渡邉〉それはあったですよね。

-- 臨時委員が３名くらいおられて、谷口先生と青木正夫先生、都市計画。造園で加藤退助先生が臨時委員で入っておられますね。

〈渡邉〉加藤退助さんは九大農学部でしょ。

-- 造園だからそうですね。

〈渡邉〉よく知っています。それともう一人は誰？

-- 青木正夫となっています。（青木さんは）九大助教授で都市計画となっています。

〈渡邉〉工学部関係ですよね。

-- そうですね、工学部ですね。はい。
それでは、その流れで、藤井さんが（福岡県に）９月に来られますよね。それは、国の方からの人選で、県が要望したわけではないですよね？

〈渡邉〉そうですね。あの、奈良の文化財研究所の坪井（清足）さんが、何といっても、ああいった都城の発掘は先鞭をつけてやったでしょ。だから、もう、実質的には、坪井さんが動かしたんですね。全部。

-- では、そういう話があって、福岡県では受け入れ態勢というか、そういう準備をするような感じですか？どんどん先生とか来られますよね。

〈渡邉〉そうですね。

-- いろいろ記録を読むと、最初の先生方の委員会というのは、太宰府天満宮でやったということのようですが、竹内先生とか皆さん揃って委員会を開いたという話が・・・。

〈渡邉〉なるほどね。そうかもわかりませんね。
九歴はなかったですからね。その時は太宰府天満宮の西高辻（信貞）宮司さんがね、九大の国史の出身ですからね。西高辻さんが僕の１級下ですからね。

-- そうなんですか…

〈渡邉〉僕が１級上なんですよ。
西高辻さんは、いつも応援団というか、とても理解があったもんで、いろんな調査をする上でもよかったですね。西高辻さんは考古学ではなくて文献ですね。
それはやっぱり、仲野さんが、記念物課の。あの時は仲野さんが一所懸命でしたもんね。もう、大宰府と心中するくらいの、そういうふうで来ておられましたよ。

-- なるほどですねえ。
それで、調査が始まってですね、奈良から藤井さんが来られて、渡邉先生と藤井さんとでどん

な話とかされたのですか？

〈渡邉〉あー。僕はね、藤井さんが来られたでしょ、大宰府をやるということで。

だから僕は、藤井さんがされることに一切口を挟まない、という方針でいきましたから。大宰府の発掘調査のことは全部藤井さんに任せたのです。

任せるというよりは、向こう（藤井さん）はベテランですからね、奈良で平城京とか、藤原宮とかね、ああいった所はみんな坪井（清足）さんの所でやって、その指導を受けてきていますから。

だから僕は、（大宰府の）保存と発掘調査については何も意見は言いませんでした。

-- むしろ、（渡邉先生は）保存とか、指定の話とか、そちらの方が中心になったということですか？

〈渡邉〉書類を出す時はね、福岡県から出すこともあるもんですからね。それは、宮小路君とか、石松（好雄）君とかが中心になってね。

そういったことはやってくれましたよ。

-- 大宰府はそのように動いて…。

文化課ができる時というのは、道路の開発が大きい（影響した）というお話でしたが、昭和44年に社会教育課から文化課になる時のですね、当時の雰囲気というか…。目の前に大きな開発があって、多くの遺跡の調査をしなければならない、ということになって、文化課をつくる時の課の雰囲気というのはどんな感じだったのですか？

最初、課ができた時というのは。

「これから、よしやるぞ」というような感じだったのですか？

〈渡邉〉ええ、やっぱりそういう感じでしたね。

ところが、そのための予算は道路公団の方でね、人手（職員）の給料とかそういう部分も含めて道路公団で…、鵜崎さん（の知事時代）で…。

-- 文化課が昭和44年４月にできていますけれど、大宰府の調査は太宰府でしながら、道路関係とか、道路公団の関係は、それはそれで、若い人たちが入られて（調査を）やられているわけですよね。

〈渡邉〉そうです。

-- 大宰府の担当というのは、その頃藤井さんが来られて、あと亀井明徳さんとか、されていたんですよね？　あと森田（勉）さんとかが入られて。横田賢次郎さんとかが…。

〈渡邉〉そう、そう。

〔福岡県教育委員会文化課時代・九州歴史資料館時代〕

〈渡邉〉昭和44年の、あの時の文化課というのはね、人数が増えたというのはね、…九州縦貫自動車道とかの道路を造るという事業があったんですよ。

その道路建設に際しては、斎藤忠先生あたりが、道路を造る前に調査をしなければいけないということを言っていて、そのことは道路を造る側の人たちはよくわかっているんですね。だから、新しい職員の費用は自分のところで（道路部局で）出すから、人間だけは（文化財部局で）とってくれ、ということなんです。それをまず優先的にやってくれ、ということなんですね。

-- 九州歴史資料館が昭和47年にできますけれど（写真６）、（九州歴史資料館の）計画そのものは、よく聞くのは、九州国立博物館がしばらくは（九州に）来ないので、あの用地の中に建てようと、県としての施設を建てようということで建てた、ということですけれど、その動きそのものというのは何年前くらいからあったのでしょうか？

（九歴の建設が）昭和47年ですから、その前、いつ頃からそういう動きというものはあったのでしょうか？

〈渡邉〉それはもう、僕が県に入った時に、とにかく、調査をやるには、建物とか（よりも）、機構をつくらないとだめじゃないか、ということを盛んに言っていましたけれどね。

とにかく、これは梅原（末治）先生から聞いたけれども、ヨーロッパあたりでは、とにかく建物をまず第一番につくらないかんと…。それを実際にやったのは、シュリーマン…。シュリーマンが一番いろいろと発掘をやっていますけれども…。遺物を入れたりする、研究するための建物・施設を、福岡県はまず整えないとどうにもならんじゃないか、と梅原先生は盛んにおっしゃっていましたね。

それは当たり前のことで、そういった施設をまず造らないと…。発掘したらもうあれですよ…

写真 16　渡邉先生からの聞き取り状況

（調査研究に支障が生じる）。
福岡県なんかは（施設が）無いものだから、あっちをちょっと借りて物（出土品）を置いたり（というような）…。

-- 今のお話ですけれども、九歴ができたら、そこと周りにプレハブをつくったりとかしていましたけれども、先生が昭和35年に入られて、あちこち緊急的に調査に行かれて、出土したものについては、持って帰って県庁の執務室のどこか適当な場所に置いていた、ということになりますか？

〈渡邉〉そうそう、それはね。僕や波多江（一俊）さんの時はね、古い県庁の地下室に、島田寅次郎先生あたりの時の（写真のガラス）乾板とか写真資料とか置いてあったんですよ。
それが、僕は県に入るまでは（地下室のことを）知らなかったんですね。そうしたら、大雨とかそういうときに、地下室が水浸しになって、それで乾板とかそういうものが全部パーになって…、そういうことがありました。

-- あ−、そうでしたか。

〈渡邊〉だから地下室に考古学の資料とかを置くのは絶対にいかん、と僕は思いましたね。
県立図書館というものができたときに、そこに、県にあったものを全部移さなければならなくなりましたが、やっぱりそこでも地下室にまた（資料を）置け、と言われたもんでね。そこでまた、水害に遭って・・・（笑）。
だから、九歴をつくる時には、もうとにかく地下室という所は、資料を置く所は絶対にいかん、と思いましたね。（しかし、）やっぱり、建築の方は、どんどん独自に進めてね、地下室に倉庫をつくって（しまって）、甕棺とか置いたら…。
ところが、そういったことはやかましく言ったもんで、九歴の方は、雨が降っても地下室に（水が）溜まることはありませんでしたね。それだけはよかったですね。
しかし、むやみに地下室をつくったら、みんな（ダメになってしまう）…

-- 島田寅次郎さん（写真１）の話が出ましたけれども、先生はお会いになったことはあったんですか？

〈渡邉〉ないんです。全然ない。どういう人かと思ったらね、福岡県の『史蹟名勝天然紀念物（調査報告書）』の古いところは、ほとんど考古学的なことは…。
あの人は本当によく、一人でね。あの当時の（旧制の）中学校と女学校の資料室に散在して置いてある資料は、だいぶ先生が…。自分が校長なものだから…、みんな預けていたんですね。
あちらの方は水害とかそんな全然聞きませんね。筑紫丘中学校ね。

-- あれは、県の島田寅次郎さんとかが関わった資料を、筑紫丘、当時の筑紫中学校に預けるといったことだったのですかね？〔註2〕

〈渡邉〉いや、詳しいことは全然知らないんです。全然ノータッチですからね。僕よりも前の話ですからね。
島田寅次郎さんという人はどういう方だろうかと、長いこと知りませんでしたね。会ったことがないしね。しかし、いろいろと調べてみると、結局は県立高女の校長さんということがわかって。
そうしたら、学校の中に大事なものを置いていてもね（大丈夫なわけです）…。

-- 戦前の福岡県のそういった文化財にほとんど携わってあるかたちですよね。

〈渡邉〉そして、よく勉強もされておられてね。書かれていることはだいたい正しい解釈が多いですよね。みんなね。あれで、いろんなことを知りました。装飾古墳でもね。

-- 渡邉先生が島田先生のあとに（県に）入られて、いろいろと調査する時に、島田先生の記録類とか、そういった『史蹟名勝天然記念物（報告書）』とか、そういうのは結構参考になりましたか？

〈渡邉〉ええ、参考になりました。特に、筑後の方の装飾古墳なんかはね、もう、正式にはあれしかないもんですからね。だいたい、こう…。
福岡県というのは古墳時代の遺物は多いんだなあと思いましたね。しかも、まあ第一級に近いわけね。できたら、一遍（島田さんの）お顔を拝見できたらよかったなあ、と思いますね。話もしたことがない。

-- 九歴ができてすぐもう、渡邉先生は九歴の方に移られたかたちですかね？
九歴が昭和47年に完成して…。

〈渡邉〉そう。そう。
（九歴が）完成したからね。九歴に移りました。
あの時は、亀井（明徳）君と石松（好雄）君、あ、石松君じゃない、副島（邦弘）君。それから横田義章君。４人やったね。

-- 開館するまでの思い出というのが何かありますか？
展示を次の年（翌年２月）にオープンさせていますよね。いろいろ大変だったとか…。

〈渡邉〉そうですね。これはね、僕の算段が狂ったんですけどね。
僕は奈良のような方式でね、県には行政職の者

が数人いればね、あとは考古学とか埋蔵文化財、考古学とか史跡とか、そういうことの人を全部九州歴史資料館の職員にしたかったわけですよ。奈良の国立文化財研究所みたいにね。
ところが、県の職員というのがね、みんな役人というのは、ある程度、ああいった組織が固まるとね、やはり役人でおった方がやりやすいんではないかな。若いのがみんなね。みんな役人として残りたいと言うんですね。文化課におれば、県の教育委員会の職員ということになるでしょ。研究所という研究一点張りでいくことになったら…。
だから、そういう算段が違いましたね。
僕は初め、本当にもう、必要最小限の人だけ、書類の（処理を行う）２～３人が（課に）残って、あとの10人ぐらいは全部（九州歴史資料館に移って）、将来は奈良文化財研究所と同じように、調査研究のみを行う20～30人の、そういった組織にしたかったんですね。

-- そういう話し合いをしたこともあったのですか？
教育委員会の中で。

〈渡邉〉うん。県の教育庁の幹部はね、そういう考えは全然なかったね。いわゆる研究というものと、行政的な仕事と（分けて考えるということは）。県の教育長も次長も、それから課長は誰でもそういう考えはなかったですね。
そして、県の埋蔵文化財の職員もそういう考えはなかったです。やっぱり、県の教育委員会の正式な職員の方がね…、みんなそっちを希望したね。

-- それで、九歴が開館してですね、（九州歴史資料館の）年報を見ると、皆さん、１年目から九州のいろいろな所に調査に行かれていますね。
あれは自主的に行ったとか、あるいは○○県からの連絡があって、こういう遺跡とか資料を見てくれないかということで、そういう相談があって各地に出かけて行かれたのでしょうか？
皆さん、結構いろんな所へ行かれているんですよね、最初の頃は。

〈渡邉〉ええ。九州歴史資料館という名前を付けた以上はね、一応九州全体の資料をね、（例えば）銅矛・銅剣でも、土器でも瓦でも、そういったものを全部集めようというような、九州単位で研究しようという気持ちがありましたからね。しかし、そういう考えがいかん、という県の職員もおりましたね。それはもう県の職分を逸脱している、とね。よその県のことまで何でやるのか、というね。

-- 九歴ができて、しばらくしてから（渡邉）先生が大宰府研究会という会をつくられた、と聞いているんですけど。

〈渡邉〉それは全然役所の仕事とは別ですね。
そういう意思のある人たちが集まってやるという…。亀井君なんかもね。それから福岡県の職員ではない人もね。

-- 九大の国史学研究室で定期的な会合を持った、というようなかたちですか？
会報を出されているんですよね。「大宰府研究会会報」という・・・、九歴にもいくつか入っておりますが。

〈渡邉〉そうそう。それは、やっぱり、（税制期）研究をする者だけでやろうじゃないか、ということでやったんですね。

-- もうひとつ、朝倉（橘広庭）宮の調査をされていますが、あの（調査に入る）きっかけというのは何だったのでしょうか？３次調査までされていますよね。〔註3〕（71頁）
昭和47年、48年くらいですかね？（九歴ができて）最初の頃ですが、その調査をやろうというきっかけは何だったのだろうと…。

〈渡邉〉朝倉（橘広庭）宮というの（遺跡）があるからね。何かあるだろうと…。手探りですよね。
ちょうどあそこに…。
鏡山先生が朝倉宮について、何かお書きになっていませんでしたかね？

-- 鏡山先生は『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』に玉泉（大梁）先生と連名で（朝倉宮のことを）書いてありますね。

〈渡邉〉ああ、連名でね。まあ、あの時代の歴史的な事実としては、斉明天皇がこちらに来ておられますからね。それから、大宰府の前身という（意味の）こともありますし…。

-- それは、（渡邉）先生の発議・発案ということではなかったのですか？

〈渡邉〉それは、やはり僕の意思もありますし、亀井君たちでもそういう意識はありましたね。

-- 朝倉宮を調査されたりとか、また、種子島の調査もされたと思うのですが、種子島に行かれてませんでしたか？（九歴）年報に書いてあったような…。

〈渡邉〉調査ということでは、九州全体に行くけれどもね。種子島？　いや、僕は種子島には行っていないな…。

-- ほかの方が行かれているのですかね？
とにかく、最初の頃は、皆さんは九州全体のいろいろな所に行かれているのですね？

〈渡邉〉そう。九州全体に…。国（文化庁）自身が、こういったような組織というものは、各地方に、九州とか東北とか（に設置して）、そういった広域のものをやりたいということがありましたからね。

-- 実践されていたということですね。だから、九州歴史資料館…。

〈渡邉〉そう。名前がね。九州歴史資料館。それから瀬戸内資料館などというものも、瀬戸内海のこと全体をやろうというようなことでね、香川県で。それから、それと似たようなもので、埼玉県かな、あれは…。

〔印象に残ったこと〕

-- （先生は、）昭和35年に福岡県に入られて、昭和55年にご退職ということで、その後も県との関わり（文化財保護審議会委員など）がありましたが、まずは、昭和35年から20年ほどおられた中で、発掘調査とか含めて印象に残っていることは、ありますか？

〈渡邉〉県で、それ以外も？

-- あの、以前でも結構ですけれど、遺跡・現場という意味で、印象に残っている・・・。先ほど装飾古墳の話がありましたが、それ以外でも、例えば、県に入られる前に昭和28年５月に朝倉の狐塚古墳の調査をされていますが、そういったものを含めて、すごく印象深かったものというものはございますか？

〈渡邉〉まあ、狐塚古墳だけは…。これは一番楽しかったですね。
あの古墳はね、（調査を始めて）あんなに遺物が残っているというのはびっくりしましたね。
それから、入口の扉を開閉するあれ（片開きの門の枢＝軸穴）が残っているでしょ。
あれは面白かったですね。

-- それと、昭和62年か63年くらいに『日本の古代遺跡』という保育社の本を先生が執筆されて、あの頃、私なども文化課にいて、先生がいろいろとお聞きになっていたというのが記憶にあるんですが、福岡市は除いてあるものの、県内全体で広い範囲ですから、遺跡は多いですし、結構大変だったのではないか、と思うのですが？

〈渡邉〉あれを企画した京都の森浩一さんが、是非やってくれと言われましたからね。森浩一さんが学生時代に、私がまだ九大でごろごろしている時に訪ねてきたりしてね。昔からの知り合いなものだから、それで引き受けたんですよ。

-- （執筆は）かなり大変だったのではないですか？

〈渡邉〉大変だったけれども、あれは楽しかったですね。

-- （あの会社の）企画自体はどうなったんでしょうか？全部は出ていないですね。

〈渡邉〉あれは楽しかったですね。
森浩一さんが亡くなられたのは数年前ですか？
ほんとに、僕は学生時代からよく知っているもので…。

-- ほかに、もう一つくらい、先生の遺跡の調査で印象に残っているものはありませんか？
例えば、鞍手町の銀冠塚ですとか…。

〈渡邉〉うん。ああいうものは、びっくりして楽しかったですね。鞍手町は本当にお世話になりました。
７～８年間、あそこの（文化財保護審議会の）委員にもなってね…。

-- 先生、お忙しいところ、本当にありがとうございました。
また機会がありましたら、お話を伺いたいと思います。

【註】

1 文化財担当者・・昭和35年（1960）段階で都道府県に専門職員としての文化財担当者がいたのは奈良県・大阪府・静岡県であったともされる。
・渡邉正気・佐伯弘次・山口輝臣　2014.3　「法文学部国史学研究室・文学部考古学研究室での研究生活―渡辺正気オーラル・ヒストリー―」『九州大学考古学研究室の記録―考古学研究室開設55周年記念―』

2 筑紫中学校に預ける・・福岡県は、昭和11年（1936）6.3に県立筑紫中学校に伝都府楼跡出土鬼瓦や四王寺山出土経筒、国分寺瓦など20件46点を委託保管してもらうこととした。〔このことを記した昭和31年5.19付ガリ版刷り文書がある〕

3 朝倉橘広庭宮・・朝倉郡朝倉町（朝倉市）大字須川の斉明天皇の「朝倉橘広庭宮」（伝承地）について、昭和48年12.1～12.26に第１次調査、昭和49年11.25～12.22に第２次調査、昭和50年12.1～12.20に第３次調査を行う。調査の結果、須川地区の伝承地には宮跡が存在しないことが明確にされた。（九州歴史資料館1974・1975・1976『朝倉橘廣庭宮跡伝承地第[1・2・3]次発掘調査報告』）なお、この遺跡は昭和8～9年に玉泉大梁・鏡山猛が調査を行っている。

＊ 芥川静夫・・福岡県教育委員会の吏員。社会教育課文化芸術係・文化教育係（文化財保護係）に昭和 24 年から数年間在籍した。

＊ 浅野　清・・明治 38 年（1905）2 月生れ。名古屋高等工業学校建築科卒業。昭和 27 年 9 月奈良国立文化財研究所入所。

＊ 麻生繁樹・・福岡県教育委員会の吏員。昭和 24 ～ 38 年に社会教育課文化教育係・文化財保護係・文化財係に所属。

＊ 石松好雄・・昭和 14 年（1939）8 月福岡県生れ。同 39 年九州大学文学部卒業、同 41 年 5 月福岡県教育庁入庁。昭和 42 年 4 月 1 日奈良国立文化財研究所。同 46 年 4 月 1 日

福岡県文化課。平成 12 年 3 月退職。

＊ 井上光貞・・大正 6 年（1917）9 月東京生れ。昭和 15 年 4 月東京帝国大学文学部国史学科入学、同 42 年 4 月東京大学国史学第一講座教授。同 53 年 4 月退官。

＊ 梅原末治・・明治 26 年（1893）8 月大阪生れ。同志社中学卒業。京都帝国大学文学部考古学教室に入り、昭和 14 年京都帝国大学教授。昭和 31 年 8 月退官。

＊ 鏡山 猛・・明治 41 年（1908）10 月福岡県生れ。昭和 7 年九州帝国大学法文学部史学科卒業（卒論は「西都条坊考」）。昭和 33 年 6 月九州大学教授。同 47 ～ 56 年 3 月九州歴史資料館長。

＊ 亀井明徳・・昭和 14 年（1939）4 月生れ。昭和 44 年九州大学大学院修士課程修了。同年 4 月福岡県教育庁入庁。同 63 年 4 月専修大学文学部教授。

＊ 島田寅次郎・・慶応元年（1865）生れ。明治 17 年福岡師範学校卒業後教諭、大正 9 年県立朝倉高等女学校校長。同 12 年～昭和 7 年 3 月に福岡県内務部学務課・学務部社寺兵事課。

＊ シュリーマン・・ハインリッヒ・シュリーマン。1822 年 1 月北ドイツ生れ。藍の商売で巨万の富を得てのち、1871 年にトロイア、1876 年にミケナイを発掘する。1890 年にナポリで急死。

＊ 副島邦弘・・昭和 21 年（1946）3 月福岡県生れ。昭和 44 年國學院大學文学部卒業。昭和 44 年 4 月福岡県教育庁入庁、平成 17 年 3 月退職。

＊ 竹内理三・・明治 40 年（1907）12 月愛知県生れ。昭和 5 年 3 月東京帝国大学文学部国史学科卒業。同 23 年 9 月九州大学法文学部教授。同 34 年 4 月東京大学史料編纂所教授。

＊ 谷口鉄雄・・明治 42 年（1909）11 月福岡県八幡市生れ。昭和 8 年九州帝国大学法文学部哲学科卒業。同 30 年 7 月教授。同 48 年 3 月退官。

＊ 玉泉大梁・・明治 19 年（1886）2 月福岡市生れ。大正 3 年 7 月東京帝国大学史学科卒業。同 11 年旧制福岡高等学校教授。昭和 25 ～ 40 年に福岡県史編さんに従事。

＊ 筑紫 豊・・明治 37 年（1904）9 月福岡市生れ。昭和 3 年國學院大學卒業。昭和 28 年 6 月福岡県教育委員会文化課技師、昭和 41 ～ 55 年は県文化財保護審議会委員。

＊ 坪井清足・・大正 10 年（1921）11 月大阪生れ。昭和 23 年京都帝国大学文学部卒業、同 30 年 1 月奈良国立文化財研究所入所。

＊ 仲野 浩・・昭和 3 年（1928）山形県生れ。昭和 26 年東京大学文学部国史学科卒業。同 35 年文化財保護委員会美術学芸課、後に昭和 61 年 3 月まで文化庁主任文化財調査官。

＊ 西高辻信貞・・大正 9 年（1920）生れ。昭和 23 年（1948）太宰府天満宮第 38 代宮司に就任。九州国立博物館誘致に尽力した。

＊ 西谷 正・・昭和 13 年（1938）11 月大阪府生れ。昭和 41 年京都大学大学院修士課程修了。同年 7 月奈良国立文化財研究所入所。同 44 年 4 月福岡県教育庁文化課技師。同 62 年 7 月九州大学教授。平成 20 ～ 25 年 3 月九州歴史資料館長。

＊ 波多江一俊・・福岡県教育委員会の吏員。入庁年次未詳。昭和 31・32・34 年度には社会教育課文化財保護係・文化財係の技術職員（美術工芸担当）。

＊ 日野開三郎・・明治 41 年（1908）5 月愛媛県生れ。昭和 6 年東京帝国大学文学部東洋史学科卒業。昭和 21 年 8 月教授。中国の唐・五代・宋史の研究を行う。

＊ 藤井 功・・昭和 6 年（1931）6 月山形県生れ。東京教育大学文学部史学科卒業。昭和 39 年奈良国立文化財研究所に入所。同 43 年 9 月 1 日に福岡県教育庁に赴任。同 49 ～ 59 年 3 月文化課長。

＊ 松岡 史・・昭和 7 年（1932）6 月佐賀県生れ。昭和 39 年 5 月 1 日福岡県教育庁入庁（社会教育課）。平成 5 年 3 月定年退職。

＊ 宮小路賀宏・・昭和 16 年（1941）1 月福岡県生れ。昭和 38 年國學院大學文学部卒業。昭和 41 年 4 月福岡県教育庁入庁。平成 13 年 3 月退職。

＊ 武藤正行・・明治 43 年（1910）福岡県生れ。昭和 6 年九州帝国大学法文学部国史科卒業。福岡県教育委員会吏員（昭和 28 年社会教育課文化財保護係長）。同 53 年国士舘大学客員教授。

＊ 森 浩一・・昭和 3 年（1928）大阪生れ。同 32 年（1957）同志社大学大学院修了。同志社大学教授。

＊ 森田 勉・・昭和 22 年（1947）2 月福岡県生れ。昭和 45 年福岡教育大学卒業。同年から大宰府史跡発掘に従事。昭和 46 年 8 月福岡県教育庁入庁。

＊ 柳田康雄・・昭和 18 年（1943）2 月福岡県生れ。昭和 41 年國學院大學文学部卒業。昭和 42 年 4 月福岡県教育庁入庁。平成 15 年 3 月退職。

＊ 横田義章・・昭和 16 年（1941）1 月長野県生れ。明治大学大学院を経て昭和 39 年 7 月奈良国立文化財研究所入所。昭和 44 年 4 月福岡県教育庁入庁、平成 13 年 3 月退職。

＊ 横田賢次郎・・昭和 20 年（1945）5 月福岡県生れ。昭和 43 年駒沢大學文学部卒業。同年 11 月からの大宰府史跡発掘に従事。昭和 46 年 4 月福岡県教育庁入庁、平成 16 年 3 月退職。

令和2年12月23日現在

種別／指定区分		国指定文化財			県指定文化財	市町村指定文化財	合計
		国宝	重要文化財	計			
有形文化財	建造物		42	42	55	134	231
	絵画		16	16	22	59	97
	彫刻		50	50	62	150	262
	工芸品	5	33	38	53	68	159
	書跡・典籍	1	14	15	1	35	51
	古文書	1	7	8	22	63	93
	歴史資料				5	44	49
	考古資料	6	35	41	105	213	359
	小計	13	197	210	325	766	1,301
無形文化財			3	3	8	8	19
民俗文化財	有形民俗文化財		1	1	85	168	254
	無形民俗文化財		12	12	62	133	207
	小計		13	13	147	301	461
記念物	史跡	5	91	96	80	219	395
	名勝		8	8	5	9	22
	天然記念物	2	26	28	123	163	314
	小計	7	125	132	208	391	731
合計		20	338	358	688	1,466	2,512
重要伝統的建造物群保存地区			5	5		5	10
重要文化的景観			1	1			1
登録有形文化財			171	171		21	192
登録有形民俗文化財			1	1			1
登録無形民俗文化財						24	24
登録記念物			2	2			2
記録作成			17	17	3		20
選定保存技術				0			0

注 （1） 国宝 …特別史跡、特別天然記念物を含む。
（2） 重要文化財 …重要無形文化財、重要有形民俗文化財、
重要無形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物を含む。
（3） 地方公共団体が長期借用している国有品を含む。
（4） 独立行政法人国立文化財機構が所有する有形文化財（美術工芸品）を除く。
（5） 市町村指定文化財の件数は、令和2年4月1日までに県への報告がされた分を反映。

第２表　福岡県の指定文化財等の件数（令和２年12月23日現在）

Ⅱ　福岡県文化財保護の事業と活動

本　文

Ⅱ　福岡県文化財保護の事業と活動…… 35
1　文化財保護課の活動…… 35
（1）福岡県文化財保護審議会…… 35
（2）福岡県文化財保護指導委員…… 35
（3）建造物…… 36
（4）美術工芸品…… 38
（5）無形文化財…… 39
（6）無形民俗文化財…… 40
（7）有形民俗文化財…… 41
（8）史跡…… 43
（9）史跡整備…… 44
（10）名勝…… 46
（11）天然記念物…… 47
（12）文化的景観…… 48
（13）伝統的建造物群…… 49
（14）選定保存技術…… 50
（15）埋蔵文化財…… 51
（16）旧福岡県公会堂貴賓館…… 53
（17）国際交流事業…… 54
（18）九州国立博物館・アジア文化交流センター… 58
（19）世界遺産室…… 60
（20）教育事務所…… 61
2　九州歴史資料館の活動…… 63
（1）大宰府史跡調査…… 63
（2）美術工芸…… 66
（3）古文書・典籍（木簡含む）…… 69
（4）考古…… 71
（5）保存科学…… 72
（6）埋蔵文化財（九歴移転後）…… 74
（7）分館（求菩提資料館・甘木歴史資料館
・柳川古文書館）…… 75
3　文化財の普及公開事業…… 77
（1）文化財保護課の会議・普及公開事業…… 77
（2）旧福岡県公会堂貴賓館の普及活動…… 78
（3）九州歴史資料館の普及・活用事業…… 79
（4）ボランティア育成と活動…… 82
（5）九州歴史資料館の展示…… 85
（6）九州歴史資料館講演会・講座…… 90
（7）九州歴史資料館の普及イベント…… 106

挿図目次

第3図　本県における埋蔵文化財調査の推移…… 61
第4図　大宰府政庁周辺官衙配置図…… 64

表目次

第3表　史跡整備担当者一覧…… 45
第4表　国際交流事業派遣・招聘一覧…… 55
第5表　古代オリエント博物館との連携事業…… 58
第6表　大宰府史跡発掘調査5ヶ年計画…… 63
第7表　九歴ボランティアの変遷…… 83
第8表　古代体験・バックヤード解説の体験者数 83
第9表　ボランティア研修の主な内容…… 83
第10表　バス研修…… 84
第11表　ボランティアイベント…… 84
第12表　自主研究の主なテーマ…… 84
第13表　九州歴史資料館の展示…… 85
第14表　九州歴史資料館の講演会・講座一覧…… 90
第15表　九州歴史資料館の普及イベント…… 106

写真目次

写真17　福岡県立福岡高等学校校舎…… 36
写真18　文化財レスキュー活動状況…… 39
写真19　『福岡県諸職関係民俗文化財調査報告書』… 42
写真20　『福岡県重要・大規模遺跡の基本計画』… 43
写真21　整備後の大宰府政庁跡…… 44
写真22　『福岡縣の天然記念物』…… 47
写真23　シュロ蓑製作…… 50
写真24　『埋蔵文化財調査に関する安全規準』序文… 52
写真25　旧福岡県公会堂貴賓館…… 53
写真26　北九州教育事務所文化財専門研修会…… 62
写真27　大宰府史跡第1次調査…… 63
写真28　観世音寺講堂の調査…… 65
写真29　筑前国分寺塔跡の調査…… 65
写真30　『水城』銘墨書土器…… 66
写真31　大野城跡太宰府口城門…… 66
写真32　九州の寺社シリーズ『筑前今津誓願寺』 68
写真33　旧九州歴史資料館の保存科学室…… 72
写真34　発掘現場での遺物取り上げ作業…… 73
写真35　呰見大塚古墳（県史跡）…… 74
写真36　埋蔵文化財発掘調査基礎研修…… 75
写真37　貴賓館建築展示コーナー（旧休憩室）… 79
写真38　大宰府史跡50周年記念シンポジウム…… 79
写真39　名誉館長講座…… 80
写真40　夕べのギャラリートーク…… 81
写真41　古代体験まつり…… 81
写真42　小郡高校との連携…… 82
写真43　ボランティア研究成果発表会…… 84

Ⅱ　福岡県文化財保護の事業と活動

1　文化財保護課（文化課）の活動

（1）福岡県文化財保護審議会

文化財保護審議会は、本県における文化財の保存及び活用に関する重要事項を調査審議及びこれらの事項について教育委員会に建議するための諮問機関として、文化財保護法及び福岡県文化財保護審議会条例に基づき、設置されている。また福岡県文化財保護条例により、教育委員会が文化財の指定をするときには、あらかじめ文化財保護審議会に諮問することとされている。なお、委員の変遷は、112 ～ 114 頁、第 17 表を参照されたい

文化財調査委員会

前身にあたる文化財調査委員会は定員 35 人で、歴史美術部門、自然科学部門、無形文化財部門、刀剣部門の４分科会にわかれて調査を行い、国指定ではない文化財のうち保存を要するものを県指定文化財として指定する取組を行っていた。なお、県に文化財専門職員が配置されていない時代であったため、『福岡県史蹟名勝天然記念物報告書』のかなりの部分は文化財調査委員会委員の手によって刊行されている。

文化財保護審議会へ

昭和 28 年（1953）５月 27 日制定の福岡県文化財保護条例によって、それまでの福岡県文化財調査委員会に代わり、本県における文化財の保存活用などについて、独任制である福岡県文化財専門委員制度が設けられ、有形文化財、天然記念物、無形文化財の３分科会からなる 31 人の文化財専門委員の委嘱が行われた。しかし、昭和 34 年（1959）に国史跡福岡城跡に係る現状変更問題により文化財専門委員 35 人全員が辞任したことは国史跡の現状変更の許可に係る問題ではあったが、本県の文化財保護行政の在り方に大きな反省点を与えた。それ以降 20 人で文化財専門委員は構成されていたが、史跡関連の諮問が多く、昭和 40 年（1965）に 25 人、昭和 44 年（1969）に 30 人、昭和 46 年（1971）に 33 人に増員し、保存活用に対する問題への対応を図った。

昭和 50 年（1975）12 月 27 日に文化財保護法の改正に伴い、福岡県文化財保護審議会条例を制定し、10 人の委員で構成する審議会と専門の事項を調査審議する 30 人（後 25 人）の専門委員で構成する「史跡部会」「名勝・天然記念物部会」「有形文化財部会」「無形文化財及び民俗文化財部会」４つの専門部会が置かれ、合議制がとられることとなり、その組織体制は現在まで続いている。

この組織体制の充実を受けて、さらなる県指定文化財の保存活用を図ってきたが、平成８年（1996）には福岡県文化財保護行政の特徴である地域に根ざした文化財保護の基本的指針や方針を示した「文化財保護基本指針」を教育委員会に建議するとともに、平成 13 年（2001）には県内の大規模遺跡の保存活用を推進するための「福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画」について教育委員会に建議を行った。このように個別の文化財のみならず本県の文化財保護行政で取り組むべき指針や方針の建議を行うなど、その都度あるべき本県の文化財保護行政の姿についても議論を行っている。

さらに、平成 22 年（2010）２月に文化財を取り巻く社会状況の変化や文化財保護法改正を踏まえ、臨時専門委員９名を加え審議会の下部組織として企画委員会を設置し、「福岡県文化財保護基本指針」を建議した。現在、令和元・２年度２か年かけて、臨時専門委員９人を加えた企画委員会を設置し、「福岡県文化財保護大綱」の策定を行っている。

（2）福岡県文化財保護指導委員

本県は、全国でも一・二を争う遺跡の密集地域であるうえ、昭和 30 年以降各種開発事業が著しく、特に昭和 40 年代は開発事業が増加し、数多くの遺跡が破壊、消滅し、保護を図る上での大きな問題となっていた。

福岡県文化財管理調査員

昭和 45 年（1970）７月１日から 16 か所の各教育出張所単位に、地元の学識経験者や郷土史研究者・教員など 18 人を福岡県文化財管理調査員に委嘱し、県教育委員会及び地元市町村教育委員会と連絡を密にして、管内の主に埋蔵文化財を巡視する制度を整備した。文化財管理調査員による巡視により破壊などの異常がある場合は、教育出張所を通じて県文化課あてに通報を受け、対応にあたるシステムは、市町村を介することなく、県が県内各地の文化財に関する様々な情報を直接的かつ多く入手でき、多大な効果をおさめた。

文化財保護指導委員

全国に先駆けて整備し、極めて高い効果があった福岡県文化財管理調査員制度については国も注目し、昭和 49 年度（1974）に国庫補助事業となり、昭和 50 年（1975）10 月１日改正施行の文化財保護法において、「文化財保護指導委員」として、文化財の巡視はもとより、文化財の所有者や関係者に対し、保護に関する指導・助言を行い、また地域住民への文化財保護思想の普及活動の業務を行うことが明文化された。

福岡県における文化財保護指導委員は現在 17 人で構成され、指定及び未指定の文化財の巡視や文化財の所有者その他の関係者への助言と協力などを担っている。なお、委員の変遷は 115 頁、第 18 表に掲載している。

（3）建造物

指定

古来より福岡の地は九州の玄関口にあり、天然の良港である博多湾は、西海道を管轄する大宰府の外港の役割を担う傍ら、早くから大陸との交易の窓口として発展した。中世の博多は大陸との交易の拠点としての都市化が進む一方で、度重なる戦禍に遭遇し、壊滅的な打撃を受けながらも町は再興を繰り返してきた。博多を含む県北部の沿岸は、交通の要衝にあるという地理上の利点も加味され、近代に入り地域経済の基盤として石炭・製鉄等の産業の成長を支えることになった。こうした歴史の積み重ねの結果、福岡県では中世から近現代にかけてつくられた建造物が各地に残されている。

福岡県には決して指定件数が多いとは言えないが、国指定重要文化財（建造物）が 42 件、県指定有形文化財（建造物）が 55 件ある。複合棟からなる寺院・神社も 1 件と数えているので、実質的な建物棟数は 1.5 倍以上になる。建造物の種別と件数の傾向を国、地方指定の順にみていきたい。

重要文化財（建造物）では神社に関連する建物が実に多くある。明治 30 年（1897）の制定の古社寺保存法にはじまり、昭和 4 年（1929）の国宝保存法で追加され、昭和 25 年（1950）の文化財保護法による旧法からの読み替えと追加によって、その数を増やし神社本殿だけでも 10 棟を数える。両流造を含む流造 4 棟を筆頭に住吉造・権現造・八棟造・香椎造など多彩な形式を有している。

この中で英彦山神社奉幣殿（添田町）は明治政府が出した神仏分離令が原因となって神社本殿へと変更を受けた建物で、そもそもは霊仙寺講堂という仏堂に由来する点は他の神社建築に比べ特異な来歴を有している。寺院建築は善導寺（久留米市）と普門院（朝倉市）の 2 件だけで、同じ宗教分野でありながら神社の数に比べると、寺院の少なさは意外な印象を受ける。

次に多い建物用途は住宅（民家）である。戦後日本の高度成長に伴う開発とライフスタイルの変化によって伝統的な生活を基調とする民家が各地で急速に失われ始めていた。文化庁では緊急調査を全国展開し、調査後に各県を代表する重要な民家の指定に取り組んだ。本県でも昭和 43 年（1968）から 2 ヶ年をかけ県下一斉に民家調査が実施され、その成果は『福岡県の民家』として昭和 47 年（1972） 6 月に福岡県教育委員会から刊行されている。当時調査できないものや同意が得られない民家も多分にあったが、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半にかけ、時代と地域を代表する農家建築 4 件、町家建築 2 件が指定を受け保存されることになった。

ここで時代別の傾向を見てみたい。国指定のうち鎌倉・室町期に遡る古建築は僅か 2 棟であり、神社・寺院・民家のほとんどは江戸期の建築で、明治期以降に建築された社寺・民家は指定を受けていない。これは明治期の古社寺保存法から始まり、国宝保存法を経て戦後の文化財保護法に至る建造物保護制度の歴史を具現化したものと言え、福岡県を代表する社寺・民家を意匠・構造・技法の観点から評価し、古いものから順番に保存してきた結果が指定の現状として如実に表れていると思われる。

一方、明治期以降に建設された近代建築の重要文化財（建造物）には本県ならではの傾向が見てとれる。そのうちの一つが洋風建築で、国指定は旧福岡県公会堂貴賓館をはじめ福岡市に 2 棟、北九州市に 3 棟存在する。

有形文化財である建造物の県指定は昭和 30 年の文化財保護条例改正以降、順次進められてきた。過去に指定が途切れた時期もあったが、ここ数年は、所有者の理解を得ながら、 2 年に 1 件以上のペースで指定を行っており、社寺・民家はもちろんのこと、これまで指定を受けることが少ない分野を重点的に拾うよう心がけている。

県指定有形文化財（建造物）の種別と数をみると、神社・住宅の件数が多い点は国指定と変わりがない。県指定らしさは、建物用途がバリエーションに富む点にある。建築では住宅 10 件を筆頭に寺院 9 件・城郭 6 件・学校 2 件・事務所 1 件・銀行 1 件と多様で、工作物では鳥居 4 件・石塔 4 件・灯篭 2 件、土木構造物では石橋が 5 件ほど指定を受けている。寺院建築は本堂以外の附属施設が多く、観音堂・経蔵・鐘楼・三重塔・楼門・山門などが単独で指定を受けており、本堂に相当するものは戒壇院本堂と観世音寺講堂の 2 棟のみである。

また本県では学校建築の保存にも取り組んでいる。昭和 60 年代以降、県立高校では校舎の老朽化が原因で建替えが始まり、かつ耐震性能が不足するという理由から、やむを得ず校舎を取り壊すことが見られるようになる。

旧制中学校時代建設の現役の学校建築で県下唯一となった福岡県立福岡高等学校（福岡市）は、昭和 4 年（1929）建設の本校舎の耐震改修が問題となり、学校を含む関係者間での調整が図られた結果、平成 24 年（2012）に指定が行われた。建物外観のうち正面にあたる西側の意匠

写真 17　福岡県立福岡高等学校校舎

は秀逸で、軒下や柱頭、窓台に幾何学模様の装飾が散りばめられ、左右対称の立面構成に変化を与えながら、学校の顔に相応しい外観を演出する。内部に施される質の高い室内意匠、外観に刻まれる意匠の完成度は高く、昭和初期における福岡県営繕課の設計水準を示す建築として評価される（写真 17）。

一方、ヴォーリズが設計した西南学院大学博物館（福岡市）は、大正 10 年（1921）、「中学西南学院」の中心的な学校施設（本館・講堂）として旧西新町に建設された。戦前における数少ない煉瓦造の学校建築として貴重であることから、私立の旧制中学校を代表する建築として県指定を受けている。

保存修理

建造物を健全な状態で永く保存するためには、小まめな日常管理と定期的な修理を行う必要がある。木造建築であれば、き損箇所を対象とした部分的な修理工事は 10 ～ 20 年、茅などの植物性屋根の葺替えや漆などの塗装は 20 ～ 30 年、半解体・解体を伴う大規模な修理工事は 30 ～ 50 年のサイクルで実施することが望ましい。福岡県でも、10 ヶ年にわたる修理計画を策定して、神社や民家の植物性屋根の葺替えを順次行いながら、主要構造部に劣化が進行している建造物を対象に半解体・解体修理を実施してきた。平成 15 年（2003）から着手した重要文化財善導寺広間他（久留米市）や平成 24 年から修理に取り組んだ重要文化財門司港駅（北九州市）などがその代表例である。

修理は傷んだ構造材を取り換えたり、組み直したりすることで建物の健全性を回復させることができる。かたや屋根や壁を解体する工事は耐震補強を行う絶好の機会とも言え、部分解体した床や壁などの主要構造を組み立てる際に、目立たない場所に補強用の部材を入れるなど、補強工事の手間が省け、両者の効率的な作業に繋がる。

現状変更を伴う大規模な修理工事に際しては、工事内容を広く知ってもらうことと、次世代への継承を目的として、建物の来歴や痕跡調査、復原の根拠や仕様のポイント、工事概要をまとめた報告書を作成する。平成 20 年（2008）以降では、重要文化財旧筑後川橋梁（大川市・佐賀市）、重要文化財善導寺広間他、重要文化財門司港駅などの大規模な修理工事を実施した重要文化財で報告書が刊行されている。

防火対策

火災による建造物への被害は放火や花火、失火、焚火等の火の粉による原因が多くを占める。文化財自体からの出火だけでなく、神社や民家などの建造物は、柿や茅などの植物性屋根で仕上げられることが多いため、燃焼性が高く近隣の建物火災からの飛び火や延焼には極めて弱い。また神社の本殿・拝殿・回廊のように木造建築が棟続きで建てられる場合は、建物の天井裏・小屋組に火が走り、短時間で火災が拡大する危険性を孕んでいる。

火災による文化財への被害を軽減するため、所有者・管理者は建造物の用途や特性に応じた防災計画や行動マニュアルを策定し、かつ万が一の事態に備え必要な防災設備を整備し、日頃から訓練を通して非常時の行動に備えなければならない。

国指定・地方指定の建造物は消防法施行令に定められた防火対象建造物で、自動火災報知設備等の設置が義務付けられている。先述のように植物性屋根や木造の建物は耐火性能が低く、延焼の恐れがあることから、消防による本消火が開始されるまでの間、延焼防止の措置や効果的な初期消火を行わなければならない。文化財防災の視点から設置される放水銃や易操作性消火栓は、消防法に定める消防設備の弱点を補完する重要な役割を担う。

火災の発生は日中だけとは限らない。特に夜間に火災が発生した際の初期消火の対応について、火災の感知と発見、通報から消火活動の実際を具体的にイメージして整備計画としてまとめることが必要である。これまで重要文化財住吉神社本殿（福岡市）、重要文化財宗像神社本殿拝殿（宗像市）において総合防災の実績がある。

耐震対策

平成 7 年（1995）1 月 17 日に起きた阪神・淡路大震災により、多くの歴史的建造物が被害を受けたことを契機に文化財建造物の耐震対策が本格化した。文化庁では地震発生時における安全性確保に関する指針、耐震診断に関する指針及び実施要領を作成し、重要文化財を対象とする耐震診断と耐震対策が国庫補助事業により行われることとなった。それまで重要文化財は建築基準法の適用を受けないこともあり、所有者等を含めた関係者の間でも建造物の耐震性については十分な認識がなかったように思える。

平成 17 年（2005）3 月 20 日、警固断層北部、玄界島沖を震源とする福岡県西方沖地震が発生、重要文化財旧福岡県公会堂貴賓館（福岡市）を始めとする多くの文化財が被災した。その後貴賓館では災害復旧事業の中で時刻歴応答解析による耐震診断を行い、仕口ダンパー約 240 個を用いた補強工事により所定の耐震性能を確保した。

文化庁の耐震診断指針では「耐震予備診断」「耐震基礎診断」「耐震専門診断」の 3 段階が示される。文化財保護課では平成 25 年度（2013）、公益社団法人福岡県建築士会の協力を得て、県内 33 棟の木造の重要文化財を対象に耐震予備診断を実施、診断の結果、合格となる総合評価（ア）の建物は 14 棟のみであった。

耐震対策にあたっては、建造物の構造特性に応じて適切な解析方法や解析モデルを選択し、かつ耐震補強によって生じる意匠等の変更は、文化財の価値に与える影響が最小限になるよう細心の注意が必要である。例えば、壁が少なく開放的な書院造の座敷では、柱間を耐震壁で区画するような補強計画は文化財保護の観点から厳に慎まねばならない。このように、文化財担当者が建造物の

価値を良く理解し、診断と補強計画に際し、構造設計者に十分な説明を行うことが求められる。

本県では、近年保存修理事業の実施に併せて耐震診断と補強工事を実施するよう努めており、重要文化財善導寺広間他、重要文化財高良大社本殿幣殿拝殿（久留米市）、重要文化財門司港駅などで実績がある。なお、県指定有形文化財（建造物）についても、大規模な保存修理工事に合わせ耐震対策を実施しており、福岡県立福岡高等学校校舎、旧福岡県立豊津中学校講堂「思永館」（みやこ町）で耐震補強工事が実施された。

（4）美術工芸品

指定の取組

文化財を後世に保存していく必要性から、明治30年（1897）に古社寺保存法が制定され、社寺に関わる物件を特別保護建造物や国宝の資格があるものとして定めるという指定の制度が始まった。美術工芸品として福岡県でも最も古い指定は明治37年（1904）の観世音寺梵鐘などである。

それらは戦後の昭和25年（1950）制定の文化財保護法に基づき重要文化財として位置付けられたが、福岡県としては昭和26年（1951）福岡県文化財保存規則以降に文化財の指定がスタートし、重要文化財を補完する形で進められた。最も早い美術工芸品の指定は、彫刻の木造十一面観音立像（須恵町）で、昭和29年（1954）のことである。その後昭和38年（1963）までの間に一気に指定への取り組みがなされ、現在の指定件数の6割以上がこの段階で指定されたものである。

当時、これらの指定がどのような調査に基づくものなのか現時点で明確にしえないが、福岡県教育庁に入庁した筑紫豊氏（昭和26年嘱託、昭和28年6月～40年在職、写真2）や波多江一俊氏（同31・32・34年在職）が民俗や美術工芸を専門としていたことも影響しているのかもしれない。

そして、昭和47年（1972）に発足した九州歴史資料館には美術工芸品の調査研究を行う学芸第一課が置かれ、今に至るまで福岡県における美術工芸品の調査研究と保護に中心的な役割を果たしている。特に「寺社シリーズ」の刊行はその代表的な事例である（66～68頁）。

本庁である文化課・文化財保護課では、美術工芸品の指定や、指定文化財の保護といった取組にあたってきた。平成に入り、本庁にも美術工芸品の専門職員が配置され、指定の取組を積極性に進めている。

美術工芸品の保護にあたっては、県内にどのようなものがどこに所在しているかを把握する悉皆調査が肝要である。これまでは『福岡県の絵馬』（平成2～11年度調査）があるが、今後も同様の調査を経て、指定等の保護の取組の基礎とすべきである。以下、各分野に沿って県指定の状況をみてみる。

絵画

昭和30年代に17件がなされた後は、昭和40年代・50年代に各1件、平成に入り2件がなされている。「紙本著色黒田如水像」（福岡市崇福寺、朝倉市円清寺、岡垣町龍昌寺）に代表される近世の肖像画と、「北野天神縁起」（太宰府市太宰府天満宮、久留米市北野天満宮）といった縁起絵が大部分を占める。

彫刻

先に述べたように県指定有形文化財指定の嚆矢となって以降、昭和30年代は27件と数多くの指定がなされ、その後も継続して指定がなされている。社寺所蔵の尊像が大部分を占めるが、近年は「銅造亀山上皇立像」（福岡市）やその原型木彫のように本県の近代美術史に残る作品も指定されている。

工芸品

昭和30年代は40件と多く、その後も少数ながらも継続した取組がなされてきている。工芸品と一口に言っても多様であるが、中でも梵鐘や刀剣に代表される金工分野を中心的になされてきており、近年は鍔口の指定が積極的になされている。

書跡・典籍

この分野は昭和30年代の指定（「和歌短冊並びに懐紙」福岡市筥崎宮）が1件のみである。十分な把握がなされていない以外に、古文書や有形民俗文化財として整理されている点に起因している側面がある。

古文書

昭和30年代に6件、昭和40年代に2件、昭和50年代に8件、平成に入り5件と比較的に継続的に指定がなされてきている。「高良大社文書」（久留米市）といった中世から続く社寺史料や、「竹田家文書」（福岡市）のように近世の学問関係の史料が多い。

歴史資料

歴史資料は昭和50年（1975）、文化財保護法上に位置づけられた概念であり、昭和55年の「仏山塾関係資料」（行橋市）を皮切りに、現在まで5件の指定がある。

考古資料

有形文化財の中で最も多いのが考古資料であり、現時点で105件を数える。昭和30年代は67件もの指定がなされたが、この年代は未だ発掘調査が本格的になされていない段階でもあり、出土品というよりも板碑や碇石といった石製品、経筒や瓦経などの経塚遺品が中心である。その傾向は昭和50年代まで続くが、平成10年代以降は発掘調査の出土品の中で「三雲南小路遺跡墳丘墓1号・2号甕棺出土品」のように福岡県を特徴付けるものが指定される傾向にある。

管理

指定文化財については、当該市町村の文化財担当者を通して所有者等と連携を取りながら日常的に適切な維持

管理を図っており、県文化財保護指導委員によるパトロールもまた重要な機能を果たしている（35 頁）。本庁である文化財保護課には各指定文化財の個別ファイルを作成し、諸履歴を管理しているが、定期的な実態把握も分野によっては行ってきた。すなわち、彫刻は昭和 43 年頃（1968）に管理調査票が、考古資料は昭和 47 年に実態調査票が作成されている。また各地で盗難事件が発生した事態をうけ、平成 14 年度（2002）に美術工芸品全般の管理状況調査票が作成された。こうした把握を基礎に、修理や収蔵環境の改善等の取組を行っている。

修理

美術工芸品の保護について、重要な作業として修理がある。美術工芸品が制作から相当の年数が経過していることは言をまたないが、今こうして我々の目前にあるのは、これまでも適切に修理がなされてきたことの恩恵である。現在も県指定文化財については県費による補助事業化や、民間の助成事業を活用した修理を実施しており、代表的なものとして「大悲王院文書」（糸島市大悲王院古文書）や石造三重塔（嘉麻市考古資料）の保存修理事業が挙げられる。今後も計画的に進めていく必要がある。また平成 18 年度（2006）より福岡県教育委員会と九州国立博物館、筑紫野市歴史博物館との共同主催により「古文書保存基礎講座」を実施している。これは古文書の扱いや修理の基本的考え方等を座学と実習を組み合わせて学ぼうという実践的な取組である。

収蔵環境－防火への取組－

指定文化財はその収蔵環境を適切に保つ取組が重要であるが、特に防災対策が求められる。防災・防犯対策の実態については、直近では平成 14 年度に実施されており、不備のある施設に対しては自動火災報知器や消火機器の設置に取組んできた。さらに平成 31 年（2019）のフランス・ノートルダム大聖堂の火災及び沖縄県首里城跡の復元建物火災を受け、文化庁は防災対策に大きく力点を置くこととなるが、福岡県としても重点的に実態の把握とその対策に取組むことに着手している。

写真 18　平成 29 年九州北部豪雨に伴う朝倉市内の文化財レスキュー活動状況

収蔵環境－防犯への取組－

文化財の盗難は全国的にみても後を絶たず、本県でも例外でなく、平成 21 年（2009）の重要文化財「木造聖観音坐像」（福岡市油山観音）の盗難事件があったが、幸いにも 3 ヶ月後に関係者の協力もあり発見につながった。盗難を未然に防ぐ対策が必要であり、指定文化財を中心に防犯カメラ・防犯センサーの設置等について継続的な働きかけを実施し、設置が進められている。

平成 25 年（2013）に文化庁により国指定文化財の所在確認調査が実施され、盗難や所有者変更による所在不明の国指定文化財が多く存在することが明らかとなった。県指定文化財についても平成 27 年度（2015）に調査が実施された。所在確認調査は継続的に行うものとされ、5 年毎に実施することとされた。

自然災害への取組

福岡県は古くから台風に代表される自然災害を受けていた地域であるが、ここ数年は地球環境の変化の影響もあり、集中豪雨による被害が後を絶たない。集中豪雨被害では各地で永きにわたり地域に伝えられてきた文化財が流失する、或いは水損し、その重要性が知られることなく廃棄されるという問題が大きい。福岡県では平成 29 年に朝倉市を襲った集中豪雨で多くの古文書等が被害を被ったが、地元教育委員会と連携してそのレスキューと保存処理等その後の対応に尽力した（写真 18）。その経験やノウハウは今後も継承される必要がある。

（5）無形文化財

無形文化財とは、文化財保護法で「演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの」と規定されている。いわゆる歴史的または芸術的にみて価値が高いと認められた伝統的な「わざ」のことを指す。

無形文化財の指定にあたっては、無形文化財の中で芸能や工芸技術などの高度な「わざ」を体現・体得している個人もしくは団体を、「保持者」又は「保持団体」として認定し、「わざ」の保護と継承を図っている。ちなみに、国指定重要無形文化財の保持者は一般的には「人間国宝」とも呼ばれ、一般の知名度も高い。なお、保持者全員が死亡した場合は指定解除となるため、下に挙げるものには現時点では指定解除となっているものを含んでいる。

無形文化財は、昭和 25 年（1950）の文化財保護法制定で法による保護対象となり、昭和 29 年（1954）には重要無形文化財制度及び無形文化財の選択制度の創設が行われ、制度の充実が図られた。

本県初の国指定重要無形文化財は、昭和 32 年（1957）、近世末期に考案された藍染から霰織と呼ばれる絣が作られ、織機改良により柄織物へと発展した久留米絣（久留

米市・筑後市・広川町）である。

本県でも工芸技術に関しては昭和33年（1958）に色柄が多彩ない草を編んだ縞文様の敷物である掛川（筑後市・大木町）を県無形文化財として指定したことを契機として、昭和30年代から40年代にかけて小柄の文様をくびる技術である久留米絣織締、福岡を代表する人形制作技術の博多人形、仏具の独鈷・華皿を図案化した絹織物である博多織、盲僧琵琶からの流れをくむ筑前琵琶制作、越前奉書の系譜を引く八女市の筑後手すき和紙が相次いで指定されている。しかし、その後長らく無形文化財の新規指定はなく、保護の取組は十分とはいえない。

なお、国指定重要無形文化財の工芸技術に関しては、帯地、羽織地、裃地として徳川将軍家に献上された献上博多織（昭和46年（1971）保持者 小川善三郎、平成15年（2003）保持者 小川規三郎）があり、さらに平成29年（2017）には文禄・慶長の役の後に伝えられた筑前高取焼の系譜を引く小石原焼（保持者 福島善三）が指定されたことは記憶に新しい。

一方、県指定の芸能については、昭和33年（1958）に舞台芸として近世から歴史のある博多独楽、昭和37年（1962）に福岡藩に伝承された武技の陽流抱エ大筒、昭和39年（1964）に天台宗の法要琵琶である玄清法流盲僧琵琶、昭和41年に普化宗に伝えられた尺八の演奏技術である一朝軒伝法竹と相次いで指定されて以降、新規指定がない点は工芸技術と同様の課題である。

指定等の保護の取り組みに対しては、悉皆的な把握が前提となる。「わざ」に関しては平成元年（1989）の『福岡県諸職関係民俗文化財調査報告書』（写真19）で継承されている手工業の実態調査が実施された。これには無形文化財における工芸技術と無形民俗文化財における民俗技術が含まれるが、今後指定の考え方の整理や、現在の継承状況の調査を進め、保護の措置を図る必要がある。芸能に関しては体系的な調査が実施されておらず、今後の課題である。

伝統的な「わざ」である無形文化財は、経済産業省が認定する伝統的工芸品として、地域の特産品等、商工・観光の側面から活性化の取組が進められている反面、近年の社会変化の中で使用する機会が減少するなど、日常生活から縁遠い存在となり、需要の減少につながっている。そのため、職業として成立せず、安定的な継承が困難な状況にある。また、用いられる器具の修理や部品、掛川のい草や博多人形の粘土等の素材といった工芸技術を支える技術や素材の確保にあたっても取組が必要である。

（6）無形民俗文化財

古くは「民俗資料」と呼ばれていた民俗文化財は、文化財保護法によると「衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」と規定されている。

無形民俗文化財は年中行事等の風俗慣習、神楽や風流などの民俗芸能、暮らしや生業に関わる技術である民俗技術からなるが、この3分野から構成されるようになったのは、平成16（2004）年の文化財保護法改正の際に民俗技術が規定されてからである。

無形の民俗文化財が保護対象となったのは、昭和25年（1950）文化財保護法制定時に民俗芸能が保護の対象になったことに始まるが、本県ではそれより遡ること、昭和7～10年（1932～1935）にかけて、県学務部社会教育課から『福岡県郷土芸能』5部の冊子が刊行されたことが保護の始まりといえる。福岡県女子専門学校（現・福岡女子大学）教授などを務めた平井武夫氏により編まれたこれらの冊子は、成人教育及び啓蒙を目的としたもので、文化財保護を目的としたものではなかった。しかし、この時期に無形民俗文化財の記録が実施されたことは貴重であり、福岡県文化財保護審議会委員を務めた筑紫豊氏も昭和55年（1980）の復刻版のはしがきに「本書によってその調査・指定・保護に遅滞のない推進を果たすことができたといっても過言ではない」と記している。

昭和29年（1954）年の文化財保護法改正により、無形の民俗資料は変化するものという点にかんがみ、風俗慣習は記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料として選択されるようになった。また、民俗芸能は無形文化財の一分野とされていたが、こちらでも記録作成等の措置を講ずべき無形文化財として選択されるようになった。なお、この時期には指定制度は設けられていない。

この頃選択されたものとして、昭和39年（1964）年選択の福岡市の「博多山笠行事」、昭和45年（1970）選択のみやま市の「幸若舞」、昭和46年（1971）年選択の八女市の「八女の灯籠人形」などがある（名称は選択時のもの）。

本県の取組としては、昭和29年（1954）に県文化財保護条例で無形文化財として指定を始め、北九州市の「道原楽」、福岡市の「今津人形芝居」、那珂川市の「岩戸神楽」などを指定している。

昭和30年（1955）に改正された県文化財保護条例のもとでも積極的に県指定を行っており、風俗慣習も無形文化財の対象として保護を進めた。なお当時、積極的に保護の網を掛けて文化財を残すといった方針のもと、指定を進めたと聞く。この頃の指定としては、福岡市の「香椎宮奉納獅子楽」、久留米市の「動乱蜂」、行橋市の「今井祇園行事」などがある。

昭和50年（1970）、文化財保護法が改正され、民俗資料が民俗文化財と改称された。この時点の民俗文化財の分野としては風俗慣習と、無形文化財として位置づけられていた民俗芸能であった。またこれにあわせて本県も

県文化財保護条例を改正した。その結果、国は重要無形民俗文化財及び記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（以下「国記録選択」と略）があり、県にも県指定無形民俗文化財及び記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（以下「県記録選択」と略）という現在まで続く保護措置の枠組みが作られた。

また条例の改正に伴い、これまで無形文化財として指定されていたものは、無形民俗文化財として取り扱うことになり、昭和 51 年（1976）年 4 月 24 日付けで無形文化財を解除し、同日、無形民俗文化財として指定した。しかし、当然ながら旧指定日が指定日の記録として残っているところが多く、無形文化財の指定日と無形民俗文化財の指定日が混同される場合があることには留意する必要がある。また、この際に指定番号も新たに付与されている。

この昭和 50 年の文化財保護法改正における無形民俗文化財の保護措置は現在も同様であり、福岡市の「博多祇園山笠行事」、春日市の「春日の婿押し」、苅田町の「等覚寺の松会」などが重要無形民俗文化財の指定を受けるとともに、「筑前・筑後の水車習俗」や芦屋町の「芦屋の八朔行事」、「北部九州の盆綱」などが国記録選択となった。

本県の取組としては、直方市の「直方日若踊」、柳川市の「どろつくどん」、桂川町の「土師の獅子舞」などを始めとして、多くの無形民俗文化財の指定を行った。

近年、県では県記録選択の運用を始め、平成 22 年（2010）年には八女市の「黒木の共同風呂の習俗」、平成 28 年（2016）年には大木町の「大木の川祭り」などが選択された。

一方、平成 16 年（2004）年の文化財保護法改正により規定された分野である民俗技術は、無形文化財の分野に位置づけられる歴史上、芸術上価値の高いわざとは異なる。本県においても民俗技術は多数存在するが、保護措置が講じられたのは、平成 29 年（2017）年に国記録選択を受けた「博多鋏の製作技術」のみであり、本県も保護措置を講じるよう民俗技術の調査などを行っているが、現在のところその保護には至っていない。

最後に、世界に目を向けるとユネスコの無形文化遺産がある。平成 18 年（2006）に発効した無形文化遺産の保護に関する条約に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に日本の様々な無形文化遺産が記載されている。その中に本県の「博多祇園山笠行事」及び北九州市の「戸畑祇園大山笠行事」が含まれる「山・鉾・屋台行事」がある。これらは、すでに登録されていた「京都祇園祭の山鉾行事」及び「日立風流物」を拡張提案し、登録されたものである。

（7）有形民俗文化財

有形民俗文化財は、文化財保護法で「衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」と規定されている民俗文化財のうち、「これらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件」を指す。すなわち、風俗慣習や民俗芸能などの無形民俗文化財があってこその物件が有形民俗文化財で、地域で育まれ、私たちの生活がより良いものになるよう改良が加えられながら、親から子、子から孫へと伝えられてきた文化財である。

昭和25年の文化財保護法制定時には、民俗文化財は「民俗資料」と呼ばれていた。この頃、有形の民俗資料は美術工芸品と同じく有形文化財の一分野として取り扱われていたが、「我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」に文化財としての価値が認められる有形民俗文化財は、歴史性、芸術性を重んじる美術工芸品とは本質的な価値が異なる部分も多かったため、重要文化財として指定を受けることはなかった。

このような課題があったため、昭和 29 年（1954）の文化財保護法改正では、民俗資料が有形文化財と並ぶ文化財の一類型として別に規定され、翌年からは重要民俗資料の指定が始まった。なお、昭和 50 年（1975）の文化財保護法改正の際に重要民俗資料は名称を重要有形民俗文化財に改められている。

本県の重要有形民俗文化財では、吉富町の八幡古表神社に伝わる「傀儡子」1 件のみである。昭和 31 年（1956）に指定を受けたもので、重要民俗資料の中でも比較的初期の指定である。傀儡子は操り人形の原形とも考えられるもので、重要無形民俗文化財「八幡古表神社の傀儡子の舞と相撲」（昭和 58 年（1983）指定）の細男舞と神相撲に用いられ、その数は御舞人形 20 体、相撲人形 22 体など計 47 体からなる。近年、昭和 31 年の重要民俗資料の指定時には所在不明であった傀儡子が発見されるとともに、その当時の傀儡子がまとっていたと考えられる御神衣が判明するなど、文化財としての新たな価値が高まっている。

平成 16 年（2004）年、文化財保護法が改正され、登録有形民俗文化財の制度が導入された。これは、保存と活用が特に必要とされる有形民俗文化財について指定よりも緩やかな登録制度で保護するものである。

本県の国登録有形民俗文化財は、平成 22 年（2010）に登録された宗像市の「玄界灘の漁撈用具及び船大工用具」がある。これは主に旧玄海町で収集された、明治時代から昭和 50 年代にかけて使用された漁撈用具と、木造船を製作するための船大工の用具合計 1,309 点からなり、この地域の漁撈の実態と変遷をよく示している資料

群である。

また、この地域は日本海沿岸の海女の発祥の地とされており、登録された文化財に含まれる海女漁の用具は注目されている。なお、この登録有形民俗文化財には、県指定有形民俗文化財の指定を受けている「海女の用具」は含まれていない。国や都道府県、市町村の有形民俗文化財の指定を受けている資料は登録有形民俗文化財に登録できないためであるが、同じ地域で収集された海女漁の漁撈具であり、今後、両者を含めた一体的な調査や整理、活用が望まれる。

本県では、昭和29年（1954）、交易に関する資料として北九州市の「天秤」をはじめ、多くの民俗資料が指定された。昭和50年（1975）、県文化財保護条例改正時に国と同様に県指定民俗資料は県指定有形民俗文化財に改められた。

以下、主な県指定有形民俗文化財をみていきたい。

衣食住に用いられるものとしては、福岡市の「どんざ」がある。木綿地に刺し子が施された衣装で、本県では主に漁師が身にまとった。持ち主が亡くなると一緒に棺に納められることが多く、現存するものが少ない。

生産、生業に用いられるものは、先述した「海女の用具」がある。また玄界灘東側の響灘に関わる資料として、芦屋町の「筑前芦屋の漁労用具」がある。玄界灘の隣でありながら地形的に海女漁がほとんど行われていないことは興味深い。その他、博多人形の製作用具の収集である福岡市の「博多人形師白水仁作・白水武平製作遺品」や久留米絣で現在使用されている織機よりも古い形の久留米市の「久留米絣いざり機」など、無形文化財としての「わざ」に欠くことのできないものも指定されている。

交通、運輸、通信に用いられるものとしては、主に江戸時代から明治時代にかけて石炭などの輸送船として活躍した北九州市・芦屋町の「ひらた船」がある。最盛期には数千艘あったともいわれる。

交易に用いられるものとしては、実際の色や素材などを確認することができる見本として用いられた福岡市の「博多織見本帳」や北九州市の「小倉織縞手本」などがある。

社会生活に用いられるものとしては、普段は納屋などの天井から吊るし、水害が発生した際などに使用した、久留米市の「合川のあげ船」や、青年が力比べに使用したとされる太宰府市の「太宰府天満宮の力石」、飢饉に備えた穀物の備蓄庫である朝倉市の「須賀神社の社倉」などがある。

信仰に用いられるものとしては、本県の特徴を示している添田町の「英彦山資料」、豊前市の「求菩提山修験道遺品」など県内各地の山岳信仰に関する資料がある。また、当時の山笠の姿が描かれ、国重要無形民俗文化財である「博多祇園山笠行事」の中心的な役割を担う櫛田神社に奉納された「博多祇園山笠絵馬」や、空也を祖とする踊り念仏の普及に努め、江戸時代にはこの地域に芝居や盆踊りなどを広めた「寺中」と呼ばれる集団がそれぞれの地に祀った空也上人像である芦屋町の「芦屋の空也上人像」、直方市の「植木の空也上人像」などがある。

民俗知識に関して用いられるものとしては、須恵町の「筑前須恵眼目療治関係資料」がある。江戸時代、福岡藩の藩医として、特に眼科医として名声を得ていた家が須恵にあったことから、眼療宿場として栄え、全国から多くの人が治療に訪れた。

民俗芸能、娯楽、遊戯に用いられるものとしては、国重要無形民俗文化財である「博多松囃子」に登場する三福神に関する、福岡市の「博多松囃子の古面」、農村舞台の中でも回り舞台や花道などの舞台装置を持ち、地方の芸能の様子が理解できる宮若市の「若宮の舞台（乙野の舞台、宮永の舞台）」などがある。また、平成27（2015）年に指定された飯塚市の「飯塚の紙芝居及び上演用具」は、演じ手に紙芝居を貸し出す絵元が所有していた紙芝居と拍子木などの上演用具である。紙芝居は全国で行われていた芸能であるが、福岡県でも例外なく行われ、生活の一部となっていたものである。

年中行事に用いられるものとしては、昼は幟大山笠、夜は提灯大山笠で知られる国重要無形民俗文化財である「戸畑祇園大山笠行事」で用いられていた豪華な幕類などの用具を収集した、北九州市の「戸畑祇園大山笠の勾欄・水引・切幕・見送等」、また江戸時代から明治時代にかけて小倉祇園祭で使用された北九州市の「小倉祇園祭のだし（山鉾）」などがある。

なお、上記の分類に含まれていないが、小倉藩の大庄屋を務めた中村平左衛門が書き残した日記である、北九州市の「中村平左衛門日記」や、明治時代を中心とした炭坑労働や当時の生活を描いた田川市の「山本作兵衛炭坑絵画資料」など人々の生活に関する記録類も指定の対象としている。昭和29年（1954）の文化財保護法改正

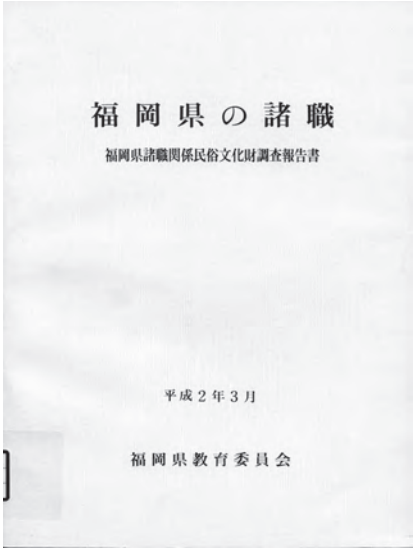


写真19　福岡県諸職関係民俗文化財調査報告書

時に国は記録類を保護の対象からは外していたが、本県はあえて保護の対象とすることで、当時の生活などの様子を残すことに努めている。

この「山本作兵衛炭坑絵画資料」は、田川市が所有する日記と、遺族が所有し福岡県立大学保管が保管する日記などを加えたものが、平成23年（2011）年、ユネスコの「世界の記憶」に登録されたことはよく知られる。

さらに、近年、本県では県指定内容の再評価にも取り組んでいる。具体的には、同じ地域、似通った内容で指定を受けた有形民俗文化財はないかどうか、指定されていない有形民俗文化財はないかどうかなどを再確認し、有形民俗文化財の統合や追加指定などにより、積極的にその保護措置を図ることとしている。すでに県指定されていた「梵字文神鏡」に宝満宮扁額や大般若経など未指定の有形民俗文化財を追加した、太宰府市の「宝満山山岳信仰関係資料」、同じく既指定の「修験板笈」に錫杖やほら貝など未指定の有形民俗文化財を追加した上毛町の「松尾山山岳信仰関係資料」がある。今後もこうした作業を丁寧に進めていく必要がある。

生産・生業に関する諸職の実態と変遷を探るために、使用されている施設や用具類の調査として「諸職関係民俗文化財調査」（写真19）を既に実施しているが、本県では、それを踏まえたさらなる調査も必要であろう。

民俗文化財は、その地域で育まれ、伝承されてきた。それはこれからも変わることはない。とすれば、やはり民俗文化財の中心には地域の人々がいる。その人々が民俗文化財を守り、伝えてきた。今後も地域の人々の声を真摯に聞きながら、民俗文化財のより良い保存活用を図ることが求められる。

最後に本県が民俗文化財の保存活用を考える際には、各市町村の文化財担当者及び県文化財保護指導委員、加えて県文化財保護審議会委員並びに無形文化財及び民俗文化財部会の専門委員の役割が大きかった。特に、県OBでもあった筑紫豊氏（写真2）、田川市石炭資料館長などを務めた佐々木哲哉氏が本県の民俗文化財の保存活用に尽力されたことは特筆される。

（8）史跡

文化財保護法では「貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの」のうち重要なものを史跡に指定すると規定されている（第2条、第109条）。また昭和26年（1951）告示の特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準では、史跡は、「我が国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、且つ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において学術上価値のあるもの」とされ、特別史跡は「史跡のうち学術上の価値が特に高く、我が国文化の象徴たるもの」と規定されている。

現在、全国の国指定史跡の数は1,800件を越え、うち63件が特別史跡として指定されている。福岡県内の国指定史跡は令和2年12月現在で96件、うち特別史跡が5件で（2県にまたがるものを含める）、いずれも奈良県に次いで2番目に多い。本県における特別史跡は、九州の古墳文化を象徴する装飾古墳の王塚古墳（桂川町）や、古代東アジアとの交流を物語る大宰府の主要施設である、大宰府跡、水城跡、大野城跡、基肄城跡の5件で、本県の歴史的・文化的特徴を良く示すものである。なお、県指定史跡は令和2年12月現在で80件を数える。

国指定史跡

史跡指定は、大正8年（1919）に史蹟名勝天然紀念物保存法が制定されたことで制度化され、歴史を表徴する土地を保護し継承する枠組が整えられた。大正10年(1921)3月に21都道府県の48件が国の史跡に指定され、福岡県内でも水城跡、大宰府跡がこの際に史跡に指定された。大正11年(1922)3月には、日輪寺古墳(久留米市)、楠名・重定古墳（うきは市)、乗場古墳（昭和53年に八女古墳群に統合 八女市)、10月には、筑前国分寺跡（太宰府市)、国分瓦窯跡（太宰府市)、友枝瓦窯跡（上毛町)、塚花塚古墳（うきは市）が指定となり、急速に指定が進んでいった。このころの史跡指定は、全国的な傾向として、古くからその存在が知られ、重要性が認識・顕彰されていた古墳や国郡庁跡といったものが、いち早く対象になっている。

昭和25年（1950）の文化財保護法では、特別史跡が制度化され、昭和27年（1952）3月に王塚古墳、昭和28年（1953）3月に水城跡、大宰府跡、大野城跡、昭和29年3月に基肄城跡がそれぞれ特別史跡となった。

昭和30年代以降、高度経済成長期に入ると、国土開発に伴う遺跡の破壊が全国的な問題となっていった。史跡保存の重要性が高まっていくとともに、国の公有化予算の創設や拡充が図られ、史跡の指定及び追加指定の数

写真20 『福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画』

が増加していった。これは名勝や天然記念物の指定件数がさほど増加しなかったのとは対照的である。

この動きの一つが、大宰府跡の指定拡張であり、発掘調査によって遺跡の重要性を明らかにし、地元への説明が進められた結果、昭和45年（1970）に、大規模な追加指定が実現した。なお、大宰府史跡の指定及び調査の詳細は63～66頁を参照いただきたい。

そのほか、女山神籠石（みやま市）は、昭和28年（1953）に指定されたが、水門や列石を対象に、帯状の限られた範囲の指定であったため、土砂採取工事によって山が破壊され、列石にも影響が及ぶという事態が発生した。このころから神籠石や古代山城の機能を評価するためには、周辺地形まで含めた保存の重要性が認識されていったこともあり、昭和52年（1977）に全山を指定すべきとの考え方から、広範囲に追加指定が行われた。

さらに開発に伴う記録保存調査の過程で遺跡の重要性が明らかになり、保存のために史跡指定へ舵を切った事例は多い。平成22年（2010）の田熊石畑遺跡（宗像市）の指定や、平成26年（2014）の大宰府跡の推定客館跡（太宰府市）の追加指定等は近年の代表的なものである。

平成に入ると、近代遺跡の保存の認識が高くなり、平成3・4年（1991・1992）に近代化遺産の統合調査を実施し、平成5年に『福岡県の近代化遺産』として報告書を刊行した。平成7年（1995）に史跡の指定基準の一部が改正され、当面、第二次世界大戦終結頃までの遺跡を史跡指定の対象とすることが適当とされた。福岡県でもこの動向の中で、平成12年（2000）に三井三池炭鉱跡の宮原坑（大牟田市）が、平成30年（2018）には筑豊炭田遺跡群（田川市・飯塚市・直方市）が指定になるなど、近代遺跡保存の取組が進みつつある。

また福岡県では、平成13年（2001）策定の「福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画」（写真20）に基づき、８つの地域を対象に調査や史跡指定等の取組を進めていったことも特筆される。その結果、平成16年（2004）に求菩提山、平成17年（2005）に津屋崎古墳群（福津市）、平成27年（2015）に英彦山（添田町）、平成29年（2017）に三雲・井原遺跡（糸島市）等の国史跡指定へと繋がった。

福岡県では全国的にも珍しい事例として、同一箇所に二つの史跡が指定されているものが存在する。これは昭和32年（1957）指定の福岡城跡（福岡市）の指定範囲の中に、新たに鴻臚館跡が平成16年（2004）に指定されたもので、鴻臚館跡を近世城郭としてではなく、古代の遺跡として保存と活用を図るために指定されたものである。

近年では、所有者と共に国や市町村と連携して史跡の保存に当たり、状況を踏まえて保存活用計画を策定し、史跡地の公有化、調査、整備、活用へとつなげていくことを推進している。また、「福岡県市町村文化財保存整備協議会」や「福岡県装飾古墳保存連絡協議会」等により、保存活用に関する情報交換や保全対策、整備について共同研究が行われている。

県指定史跡

昭和26年（1951）に福岡県文化財保存規則、昭和28年（1953）に福岡県文化財保護条例が制定され、県にとって重要なものを県指定史跡に指定することができる枠組が整えられた。これに基づき、昭和30年（1955）3月に、上坂廃寺跡（みやこ町）、大隈石棺（粕屋町）、菩提廃寺跡（みやこ町）、狐塚古墳（朝倉市）、新開村旧隄記碑（みやま市 平成20年に旧柳河藩干拓遺跡に統合）、9月にビワノクマ古墳（行橋市）を県の史跡に指定した。

また開発による消滅の危機から保存を図れたものも多く、九州歴史資料館横の三沢遺跡（小郡市）は、土砂採取予定地の予備調査によって、弥生時代の集落跡であることが分かり、昭和53年（1978）に指定された。

全国的に有名なものも多く、昭和52年指定の山鹿貝塚（芦屋町）は、縄文時代の装身具を多く身に着けた埋葬人骨の出土が有名である。さらに、昭和56年指定の宮ノ本遺跡（太宰府市）は、古代の買地券が出土したことで、よく知られている。

本県では、弥生時代から奈良・平安時代の県指定史跡が多く、それ以外の時代が少ないなど、時代や地域、分野等に偏りがある。本県の歴史を理解するためにも、時代性や地域性等を考慮した県指定の取組を進めている。

（９）史跡整備

福岡県の史跡整備

文化課に史跡整備の専任職員が置かれたのは昭和48年度（1973）であり、大宰府史跡指定拡張に伴う下記環境整備を実施するためであった。

大宰府歴史公園整備前期５ヵ年計画

初期段階における大宰府史跡整備の計画は、昭和47

写真21　整備後の大宰府政庁跡

年（1972）に提示された「大宰府歴史公園の基本構想（試案）」を具体化した「大宰府歴史公園整備前期５ヵ年計画」（事業期間：昭和 48 年度～ 52 年度）ならびに「同後期５ヵ年計画」（同：昭和 53 年度～ 57（58）年度）である。

前期５ヵ年計画では、「大宰府跡」、「大宰府学校院跡」、「観世音寺境内および子院跡」、「大野城跡」、「筑前国分寺跡」、「水城跡」の環境整備が行われた。整備内容としては、大宰府政庁における門・回廊・庁堂群・内庭・築地の平面復元、模造石復元を含んだ礎石整備、園路・水路整備、説明板・四阿・便所等の便益施設整備（写真 21）、大宰府学校院跡における掘立柱建物跡の一部平面復元、観世音寺境内及び子院跡における前面広場造成、大野城跡における礎石建物跡平面復元（尾花・増長天・八ツ波・猫坂）や石垣保全（百間石垣・大石垣）、筑前国分寺跡における回廊跡平面復元、水城跡における東門南側広場整備等を実施した。

大宰府歴史公園整備後期５ヵ年計画

それに続く後期５ヵ年計画では、「大宰府跡」、「観世音寺境内および子院跡」、「大野城跡」、「筑前国分寺跡」、「国分瓦窯跡」、「水城跡」の環境整備が行われた。整備内容としては、大宰府政庁における後殿等の平面復元及び蔵司地区平地部における建物跡平面復元や修景、観世音寺境内及び子院跡における僧坊跡の一部平面復元及び前面広場の緑化修景、大野城跡における建物跡平面復元（主城原・村上）、筑前国分寺跡における瓦積基壇及び回廊跡平面復元、国分瓦窯跡における修景工事（盛土・張芝・囲障）、水城跡における土塁保全等を実施した。

史跡ごとの環境整備事業

歴史公園整備計画終了後は、公有化等の進捗に合わせて、条件が整った個別の史跡について、順次環境整備事業が進められた。

昭和 61 年度（1986）から平成元年度（1989）においては、観世音寺の子院と想定される推定金光寺跡にて環境整備が計画され、礎石建物跡の平面表示に加え、井戸跡・池跡・柵跡・墓地跡・雨落溝などの遺構が立体的に整備された。また平成２～４年度（1990 ～ 1992）は、筑前国分寺跡を対象に、塔跡基壇の復原整備と周辺整備、講堂北側の造成工事等が実施された。続く平成４・５年度においては、月山東地区官衙跡の東側に事業地を移し、柱の一部復元を含む建物跡の平面表示が行われた。

平成６年度（1994）以降は、大野城跡の環境整備を継続している。はじめに取り掛かった箇所は、四王寺林道あるいは宇美町道を登り切った場所にある尾花駐車場近傍部である。この整備は、平成 11 年度（1999）の災害復旧事業まで延べ６年間実施され、太宰府口城門と周辺の土塁の一体的な環境整備が進められた。その後、平成 12 年度（2000）からは、百間石垣の整備に取り掛かるが、整備途中の平成 15 年（2003）７月にこの地を襲った集中豪雨による甚大な被害により、環境整備を中断せざるを得なくなった。そこで大規模遺跡対策・災害復旧班を文化財保護課内に組織し、平成 16 ～ 21 年度までの６年間にわたる災害復旧事業を進めた。主な復旧箇所は、百間石垣、太宰府口城門とその周辺土塁、大石垣、猫坂礎石群、主城原礎石群、北石垣、小石垣、屯水などであった。この復旧事業には、太宰府市教育委員会の助力も得た。

百間石垣の整備は平成 17 年度（2005）に完了し、翌 18 年度以降は、大石垣・増長天地区の環境整備に取り掛かっている。途中、水城跡整備を並行したことを理由に期間が長期になっているが、令和５年度の終了を目指している。なお、終了後には、主城原地区への整備地移行を検討している。

平成 25 ～ 29 年度（2013 ～ 2017）の５年間は、大野城跡と並行して水城跡の環境整備が進められた。これは、大野城市・太宰府市とともに立案した整備計画に基づき、県と大野城市・太宰府市の３者が同時に整備事業を進めるという全国でも珍しい形態であった。福岡県は、ＪＲ水城駅近傍の切通し部分を担当し、土塁の構造や築造方法を解説する「土塁断面ひろば」の整備を実施した。

以上の整備事業は、下記の担当者により進められた（第３表）。

担当者名	担当期間
芳澤　要	昭和 48 年９月～昭和 57 年３月
大塚　健	昭和 57 年４月～平成　３年３月
川述　昭人	平成　３年４月～平成　５年３月
木下　修	平成　５年４月～平成　６年３月
新原　正典	平成　６年４月～平成　８年３月
田上　稔	平成　８年４月～平成 19 年３月
入佐　友一郎	平成 19 年４月～平成 30 年３月
正田　実知彦	平成 27 年４月～平成 30 年３月
下原　幸裕	平成 30 年４月～

第３表　史跡整備担当者一覧

市町村の史跡整備

市町村の史跡整備は、昭和 20 年代から開始される。初期段階においては、王塚古墳や五郎山古墳（筑紫野市）など、装飾古墳の保存施設設置などが主であった。

また、福岡市では昭和 40 年代に元寇防塁と福岡城跡が整備され、その後も金隈遺跡、野方遺跡、板付遺跡、吉武高木遺跡などの事業を実施している。平成以降の大規模な事業としては、平塚川添遺跡（朝倉市）、下高橋官衙遺跡（大刀洗町）、沖出古墳（嘉麻市）などの整備が実施され、その後も文化財専門職員配置の充実や史跡指定件数の増加、史跡整備への機運の高まり、さらには豪雨災害の頻発などを背景として、市町村における史跡整備の実施件数は増加し続けている。特に最近 10 年間は、年間 20 ～ 30 件と多くの整備事業が進められている。

（10）名勝

名勝の保護制度と指定・登録

我が国における名勝保護の制度は大正８年（1919）制定の史蹟名勝天然紀念物保存法にはじまり、昭和25（1950）年制定の文化財保護法に引き継がれた。そして、平成16年（2004）の文化財保護法改正によって、文化財の緩やかな保護を図るための登録制度の対象が名勝を含む記念物まで拡充された。本県では､昭和28年(1953)に福岡県文化財保護条例が施行され、県指定による保護制度も始まった。

本県における初の国指定名勝は、昭和３年（1928）２月指定の添田町の旧亀石坊庭園（現英彦山庭園）である。同年には東京帝国大学教授で史蹟名勝天然紀念物保存法制定に関わる要綱草案（庭園関係）検討の中心人物であった原熙（1868-1934）が、内務省嘱託として福岡市近郊及び筑後地方の庭園調査を実施し、その結果、昭和４年（1929）にみやま市の清水寺本坊庭園が指定された。

その後、本県では約50年に亘って新たな国指定名勝は生まれなかったものの、昭和35年（1960）に糸島市の白糸の滝が、昭和43年（1968）に同じく糸島市の桜井二見ヶ浦が県の名勝に指定された。

また、昭和53年（1978）に柳川市の松濤園（現立花氏庭園）と戸島氏庭園、川崎町の藤江氏魚楽園が相次いで国指定名勝となり、2000年代以降は飯塚市の旧伊藤傳右エ門氏庭園などの近代庭園を中心とした名勝指定や登録が進められた。その結果、令和２年（2020）年10月現在、国指定名勝８件、県指定名勝５件、国登録記念物（名勝地関係）２件の計15件が指定･登録されている。

その内訳は、庭園をはじめとする人文名勝が11件（国指７･県指２･国登２）、自然名勝が４件（国指１･県指３）である（今回､柳川市の「水郷柳河」は自然名勝としたが、人文名勝としての要素も含む）。人文名勝と自然名勝の不均衡は、本県のみの課題ではないものの、今後は自然名勝に係る調査、指定等の保護措置を進める必要がある。

名勝に関する調査

福岡県では、平成26年（2014）からの２ケ年で県内における近世以前に造られた庭園の悉皆調査を実施した（文化庁委託事業）。その結果、久留米市、柳川市、朝倉市秋月地区、添田町英彦山地区を中心に133件の庭園が確認された。特に、作庭当初の状況をよく留めていた英彦山の庭園（旧座主院御本坊・旧座主院御下屋・旧政所坊・旧泉蔵坊・旧顕揚坊・英彦山神宮旅殿）については、令和２年（2020）３月に名勝旧亀石坊庭園に追加指定され、名称が英彦山庭園に改められた。

名勝の整備・修復

名勝に関する整備や修復事業は、所有者（個人・地方自治体）が文化庁等の補助金を活用し行われている。近年の事業としては、庭園の園路整備や池の漏水対策の他、名勝を構成する建造物の修理、地震や豪雨等によって被災した石垣や法面の整備などが挙げられる。事業主体となる所有者等は、有識者による委員会を組織し、名勝の文化財的価値を損ねない工法などを十分検討した上で整備等を実施する。なお、整備や修理の対象を明確化するための保存活用計画や整備計画などの策定も所有者等によって進められている。

文化財庭園の日常管理

名勝に指定されることが多い庭園は、屋外空間に存在しなおかつ植物を中心とした自然素材を多用することから、経年変化が大きく、気候変動による影響も受ける。そのため、ひとたび日常管理を怠ってしまうと瞬く間に文化財庭園の持つ芸術的価値が失われてしまうことから、適切な植栽管理、掃除などが必要不可欠であり、所有者または管理者の負担は大きい。そのため、文化庁の指定文化財管理費国庫補助事業（名勝等庭園の荒廃防止）が本県においても活用されている。

また、日本庭園を作庭、管理する機会が著しく減少している近年の状況に鑑み、庭園管理技術の維持・向上を図るため、本県の文化財庭園に関わる技術者に対しては、平成14年（2002）に選定保存技術保存団体に認定された「文化財庭園保存技術者協議会」の研修会への参加を促している。なお、福岡県では平成28年（2016）に文化財庭園フォーラムを同協議会や添田町と共催し、そのフォーラムに付帯した技術研修会（会場：旧亀石坊庭園）には、県内の技術者も参加した。なお、旧伊藤傳右エ門氏庭園及び旧藏内氏庭園では、年２回程度、文化財庭園保存技術者協議会の正会員による技術講習会が行われている。特に旧伊藤傳右エ門氏庭園では、当該技術講習会への参加を年間管理業務の入札資格要件としており、庭園管理技術の向上及び平準化、若手技術者育成に繋がっている。

福岡県市町村名勝庭園協議会

名勝に指定された庭園の増加に伴い、名勝庭園が所在する文化財担当職員の庭園に関する知識や保存管理技術の向上及び名勝庭園の魅力を広く発信するため、飯塚市･柳川市・みやま市・添田町・川崎町・築上町による福岡県市町村名勝庭園協議会が平成29年（2017）に設立された。同会によって名勝庭園をめぐるためのガイドブックの作成や庭園ゼミの開催などが実施され、自治体間における庭園に関する知識や技術の共有、名勝庭園の魅力発信が継続的に行われている。

（11）天然記念物

福岡県下の天然記念物の文化財指定は、大正 11 年（1922）3 月 8 日指定の「湯蓋の森・衣掛の森」（宇美町）と「本庄のクス」（築上町）の国指定が最も古い。県指定では、昭和 28 年（1953）11 月 5 日の「雲長寺のヒガンザクラ」（八女市：後に指定解除）、「鈍土羅のクス」（八女市）、「吉武のマキ」（宗像市）の指定が最も古い。これ以降、文化財指定の取組を継続する中で、令和２年（2020）4 月 1 日現在で、県内では国指定特別天然記念物 2 件、国指定天然記念物 26 件、県指定天然記念物 123 件を数える。

天然記念物が動物、地質鉱物、植物からなる中で、動物は、国指定の「カササギ生息地」、「船小屋ゲンジボタル発生地」（筑後市・みやま市）及び県指定の「英彦山のぶっぽうそう」（添田町）と限られている。国指定はいずれも戦前の指定で、県指定も昭和 32 年（1957）の指定と古いものである。なお、地域を定めない指定対象として、朝倉市・朝倉郡東峰村の山中の「ヤマネ」や宗像市沖ノ島周辺の「カンムリウミスズメ」の棲息については、必要に応じて現状変更等の対応を行っている。

地質鉱物では、国指定として、カルスト台地である「平尾台」が昭和 10 年（1935）の指定で、関連する洞穴地形の「千仏鍾乳洞」（北九州市）、「青龍窟」（苅田町）もそれぞれ、昭和 27・37 年に順次指定された。

またビュート地形の「鷹巣山」（添田町）、化石として「夜宮の大珪化木」（北九州市）や「名島の檣石」（福岡市）、鉱物として「長垂の含紅雲母ペグマタイト岩脈」（福岡市）など多彩な対象の指定が行われてきた。国指定 9 件のうち半数近い 4 件が戦前の指定で、昭和 41 年（1966）年以降長らく指定がなかったが、平成 9 年（1997）に「耳納断層」（久留米市）が指定されている。県指定も国指定同様に多彩で、化石、地形、地層、奇岩等の 9 件が指定に至っている。そのうち 5 件は、昭和 30 年代の指定で、以降長らく新指定がなかったが、平成 18 年（2006）以降に、「米ノ山断層及び石炭層の露頭」（大牟田市）、「千手川の甌穴群」（嘉麻市）、「岩屋・遠見ヶ鼻の芦屋層群」（北九州市）、「篠栗の埋没化石林」（篠栗町）と継続的に新たな指定が行われている。

国・県指定の中で、圧倒的に多数を占めるのは植物で、特に樹木（特定樹木や多種に及ぶ原始林、叢生林、社叢林等を含む）が多く、冒頭で示した最古段階の指定物件は、国・県いずれにおいても樹木である。

特筆すべきものとして、特別天然記念物では朝倉市と嘉麻市にまたがる「古処山ツゲ原始林」と新宮町と久山町にまたがる「立花山クスノキ原始林」がある。古処山のツゲ原始林は、昭和 2 年（1927）の天然記念物指定後、昭和 27 年（1952）に特別天然記念物として指定された。クスノキ原始林は、昭和 3 年（1928）の天然記念物指定後、昭和 30 年（1955）に特別天然記念物指定された。なお、植物の国指定（特天以外）の 13 件のうち 10 件が戦前の指定であり、以降では、昭和 40・49 年（1965・1974）の指定である。

県指定の樹木は、最も多いクスに見られるように古樹、巨木、高木が中心である。植物の県指定件数は、昭和 20 年代末に 5 件、昭和 30 年代は 60 件を超え　40 年代、50 年代は各 10 件超、60 年代 2 件、平成の期間で 10 件に満たず、昭和 30 年代の指定が多くを占めている。加えて、この昭和 30 年代の指定の段階で、古樹巨木が中心でありつつも、畸形木である「臥龍梅」（大牟田市）、「神宮院の石割枇杷」（香春町）、希少植物である「ツクシオオガヤツリ」（福岡市）、「岩屋のげんかいつつじ」（東峰村）、九州北限としての「夏井ヶ浜のハマユウ自生地」（芦屋町）、他にも「釣垂のヒノキシダ」（那珂川市）、「春日神社のセンリョウ叢林」（春日市）など多様な指定が既に行われている。

また、平成以降の少ない指定件数の中にあって、「麻生池のオグラコウホネ自生地」（八女市）、「御所ヶ谷のヒモヅル自生地」（行橋市）、「泉川のハマボウ群落」（糸島市）、「小原不動窟の大ソテツ」（築上町）の指定にみられるように、指定のあり方は、より多様性を増していると言える。

福岡県下の国・県指定の天然記念物は、昭和 30・36 年（1955・1961）刊行の『福岡県文化財調査報告書』第 18・23 輯や昭和 37 年（1962）刊行の『福岡縣の天然記念物』（写真 22）、昭和 54 年（1979）刊行の『福岡県の名勝・天然記念物』の報告書によって、各時点での取りまとめが行われている。平成 10 年（1998）には、福岡県文化財調査報告書第 136 集として、『天然記念物カササギ生息地保存管理計画策定調査報告』を刊行し、人間の生活域と重複して棲息するカササギの保存管理方針を策定した。

悉皆調査としては、福岡県の地質鉱物を対象に平成 6・7 年（1994・1995）に実施し、指定、未指定に拘わらず総合的な把握を行っている。

写真 22　『福岡縣の天然記念物』

（12）文化的景観

文化的景観とは

文化的景観は、平成16年（2004）の文化財保護法の改正により創設された新たな文化財の類型であり、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で私たちの生活又は生業の理解のための欠くことができないもの」（保護法第2条第5項）と定義されている。

文化的景観保護制度は、文化財保護法のみならず、保護法改正と同時期の平成16年に成立した景観法に基づき景観計画や景観条例を定めて保護措置を図る仕組みであり、条件を整えたものの中から、地方自治体の申出に基づき、特に重要なものを国が重要文化的景観に選定する。令和2年12月現在、全国では65件が重要文化的景観に選定されており、県内では「求菩提の農村景観」（豊前市）の1件が選定されている。

文化的景観の総合調査

福岡県は、筑前･筑後･豊前といった3つの国に分かれ、自然と文化が異なる地域で構成される。こうした多様性のある風土を基盤に、棚田や里山、農村、漁村、宿場町など人々が生活・生業を営み、長い年月をかけて築き上げてきた文化的景観が各地に所在する。

文化庁は文化的景観の全国的な所在状況の把握、評価手法、保護施策の検討等を目的に、「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」（平成12～15年度）と「採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」（平成17～19年度）を実施した。前者は第一次産業に係る文化的景観を調査対象としており、県内では「つづら棚田」（うきは市)、「星野村の棚田」（八女市)、「山田堰」（朝倉市)、「柳川」（柳川市・大木町）の4件が重要地域に選択された。後者は、都市や鉱工業に関連する文化的景観を調査対象としており、県内では、「大宰府」（太宰府市)、「筑豊炭田」（北九州市、飯塚市、田川市、直方市など)、「関門海峡」（北九州市、下関市）が重要地域に選択された。

これら重要地域に選択された文化的景観の中でも、「柳川」や「つづら棚田」では、柳川市やうきは市によって重要文化的景観選定申出を目指して文化的景観保存調査や文化的景観保存計画策定等の取組が進められている。

柳河の水郷景観（柳川市）

柳川市の中心部は有明海沿岸部の干拓地に立地する城下町であり、市街地や周辺農地には掘割が網の目のように巡らされた水郷景観が形成されている。柳川市は昭和46年（1971）に「柳川市伝統美観保存条例」を施行し掘割の景観保護に努めるなど全国的にも先駆的な地域である。文化庁では平成16～17年度にかけて柳川市を含む全国9地域を対象とした文化的景観の保存活用に係るモデル事業を実施し、「柳河の水郷景観」がその一つに選ばれ、文化的景観としての価値評価や保存活用計画の策定等、重要文化的景観選定に向けた基礎条件の整理を行った。これら調査成果を踏まえ、平成24年（2012）3月に柳川市景観計画が策定された。平成27年（2015）3月には旧柳河城下町の掘割の一部が柳川市出身の詩人、北原白秋の詩情を育んだ風景として国名勝「水郷柳河」に指定されており、今後、国指定名勝と一体となった文化的景観の保全が期待される。

新川田篭の棚田および農山村景観（うきは市）

うきは市新川田篭は、耳納連山の山間部に位置し、地区中心部に隈上川が流れ、谷筋に沿って棚田と集落が展開する。棚田は谷間の斜面に石垣で築かれており隈上川や山水を利用して棚田へと導水する。重要文化財である平川家住宅や農林水産省の「日本の棚田百選」であるつづら棚田をはじめ、茅葺き民家と棚田が谷に沿って連続する農村景観が形成されている。

うきは市では、平成19～22年度にかけて、新川田篭地区の保存調査を実施し、伝統的建造物群が集積する隈上川沿いの集落を重要伝統的建造物群保存地区として、その周辺の谷筋沿いの集落や棚田を重要文化的景観として一体的に保護を図る取組が進められている。平成24年7月には新川田篭地区の一部が重要伝統的建造物群保存地区に選定されたが、同月の九州北部豪雨により大きな被害を受けた。災害復旧事業が概ね完了したため、現在重要文化的景観選定申出に向けた作業を進めている。

重要文化的景観「求菩提の農村景観」（豊前市）

豊前市の求菩提山は平成13年（2001）10月に国史跡として指定を受けた山岳修験道の遺跡である。この求菩提山の麓には、修験者の生活の基盤となって形成された農村集落や石垣棚田が現在まで継承されている。

豊前市では、国史跡「求菩提山」と共に山麓の農村集落と農地を文化的景観として一体的に保護するため、平成17年（2005）より求菩提地区の文化的景観の保存調査に着手し、平成19年度（2007）に「求菩提地区文化的景観調査報告書」としてまとめ、平成20年度（2008）に「求菩提地区文化的景観保存計画」を策定した。一方、平成19年5月には景観行政団体となり、平成21年（2009）6月に「豊前市景観条例」を制定、求菩提地区を景観計画区域とする「豊前市景観計画」を策定し、平成23年(2011) 3月には豊前市全域を対象とするべく「豊前市景観計画」を改定した。これら文化財としての価値評価と保護措置を整えた後、文部科学大臣に対して選定申出を行い、平成24年9月19日には求菩提山山麓に広がる集落と棚田を含む約42.4haの範囲が重要文化的景観「求菩提の農村景観」として県内で初めて選定され、その保護が図られている。

（13）伝統的建造物群

伝統的建造物群保護制度の創設

戦後の高度経済成長による開発に伴い昭和40年代には市民団体による保存運動など、全国各地で歴史的な集落・町並み保存の取組が始まった。昭和50年（1975）に文化財保護法改正により、集落・町並みの保存を目的とした伝統的建造物群保存地区制度が創設された。

伝統的建造物群とは「周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの」（文化財保護法第2条第6項）と定義されており、伝統的な建造物群だけでなく、周辺の環境についても一体として保存の対象としている点に特徴がある。市町村が伝統的建造物群保存地区を決定し、保存条例に基づき保存活用計画を定め、国は市町村からの申出を受けて、特に価値が高いものを重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」と略）に選定する仕組みである。

令和2年12月現在、全国では120地区が重伝建地区に選定されている。県内では、うきは市筑後吉井地区・新川田篭地区、朝倉市秋月地区、八女市八女福島地区・黒木地区の5地区が重伝建地区に選定されている。

うきは市筑後吉井伝統的建造物群保存地区

筑後川中流域にある筑後吉井は、江戸時代中期以降に、商品作物の栽培・加工及びその集散や、「吉井銀」と称された有力商人の金融活動などにより、地域経済の拠点として繁栄した。旧豊後街道などの街路に沿って、漆喰塗の重厚な町家が連続する町並は、明治2年（1869）の大火を契機に、経済の最盛期であった大正期までにほぼ出来上がった。町家や土蔵が連続する町並みや吉井の経済基盤を支えてきた河川や水路などが一体となって、特色ある歴史的風致が現在まで継承されている。

保存の経緯は、平成5年度（1993）から吉井町（現うきは市）単費で個人住宅の修理・修景事業が始まり、平成6年度（1994）からは建設省（現国土交通省）の「街並環境整備事業」が開始され、家屋の修理・修景が進められた。平成6・7年度に伝統的建造物群保存対策調査を実施、平成8年度（1996）には地元住民組織である「吉井町町並みをよくする会」が発足、平成8年12月10日に重伝建地区に県内で初めて選定された。

朝倉市秋月伝統的建造物群保存地区

秋月は元和9年（1623）に黒田長興を藩主とする秋月藩の城下町として成立し、城下町として繁栄した。江戸時代に区画された地割と街路、水路網など近世城下町の基本的構造を良く伝え、武家屋敷、町家、寺社建築等が各所に残り城下町の歴史的風致を今に伝える。

保存の経緯は、秋月振興会が地域の将来像を描くため、昭和53年度（1978）にまとめた「保存と暮らしのまちづくり」において町並み保存の提言がなされたことに始まる。この提言を受け、甘木市（現朝倉市）は昭和54年度（1979）に伝統的建造物群保存対策調査を実施した。平成9年（1997）9月に甘木市歴史的景観条例を定め、平成10年（1998）4月17日に重伝建地区に選定された。

八女市八女福島伝統的建造物群保存地区

八女市の中心市街地である八女福島は、慶長6年（1601）には田中吉政が福島城を改修し城下町として発展した。元和7年（1621）に田中家が廃絶後、久留米藩の支配下となり福島城は廃城となったが、往還道路沿いの町人地はその後も交通、経済の中心地として発展する。居蔵造の町並みは、江戸時代以来の町割りを良く残し、特徴ある歴史的景観を今に伝えている。

保存の取組は、平成3年（1991）の台風による被害以降、解体が進む町並みに危機感をもった住民有志を中心に町並み保存の取組が行われ、平成7年に「八女福島町並み保存会」が結成された。平成8・9年度に伝統的建造物群保存対策調査を実施、平成13年（2001）6月に「八女市文化的景観条例」を定め、平成14年（2002）5月23日に重伝建地区に選定された。

八女市黒木伝統的建造物群保存地区

黒木は、福岡県筑後地方の南部、矢部川と笠原川の合流点に位置する。黒木地区は江戸時代に豊後別路の整備に伴い新たに町立てされた。高度な水利技術で知られる矢部川中流域の在郷町で、居蔵造の重厚な町家、矢部川の堰、町中を流れる水路と共に歴史的景観を今に伝える。

保存の経緯は、平成15年度（2003）に黒木の代表的な町家である「旧松木家住宅」の学術調査の実施が契機となり、平成16年（2004）3月に「黒木町文化的景観条例」を制定、平成16・17年度に伝統的建造物群保存対策調査を実施した。平成17年度には住民が主体となった「黒木地区町並み保存協議会」が発足、平成21年（2009）6月30日に重伝建地区に選定された。

うきは市新川田篭伝統的建造物群保存地区

うきは市の南東部に位置する山岳地帯で、大分県日田市を水源とする隈上川が南東部から北西に向かって流れ、筑後川に合流する。隈上川上流部が田篭地区、その下流部が新川地区となり河川に沿って集落が分布する。茅葺き民家が多く見られ、石垣で造られた棚田や河川と一体となり特徴的な歴史的風致を形成している。

保存の経緯は、平成20・21年度に伝統的建造物群保存対策調査を実施した。平成24年（2012）3月に伝統的建造物群保存地区を決定し、平成24年4月に保存計画を策定、平成24年7月9日に重伝建地区に選定された。平成24年7月11～14日にかけて発生した九州北部豪雨により、新川田篭地区は多大な被害を受けたが、直前に重伝建地区に選定されていたことで、伝建地区の災害復旧事業が導入された。

（14）選定保存技術

選定保存技術は、文化財保護法第147条第1項により「文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能で保存の措置を講ずる必要があるもの」とされた、文化財の保存技術のことをいう。

昭和25（1950）年の文化財保護法制定当時から文化財の保存技術の重要性は認識されてきたが、選定保存技術の制度が設けられたのは、昭和50（1975）年の文化財保護法改正による。

選定保存技術自体は直接文化財の類型に含まれないが、文化財の保存には欠かせない技術であり、歴史性、芸術性を重視する無形文化財のわざや、暮らしや生業に関わる技術である民俗技術とは異なる。また、選定保存技術は無形文化財や民俗文化財に限られるものではなく、建造物や美術工芸品、史跡など多岐に渡る。

例えば、重要無形文化財である「久留米絣」は糸を一部括り、藍が染まらない箇所を利用して文様を作り出していく綿織物である。この糸を括るために使用するのが、植物の皮から作られる粗苧で、現在生産者はほとんどいない。平成8年（1996）年、国はこの技術を保護するため、粗苧製造を選定保存技術として選定し、保持者として1人を認定した。この1名は平成11年（1999）年に亡くなり、選定は一度解除されたが、平成15年（2003）年に保持者1人を認定することで、再び選定保存技術となった。なお、この保持者も平成28年（2016）年に亡くなり、再び選定解除となっている。

また、平成14年（2002）年、国は重要無形民俗文化財である福岡市の「博多祇園山笠行事」や北九州市の「戸畑祇園大山笠行事」などの「山・鉾・屋台行事」に使用する山笠を伝統的に製作、修理する技術を祭屋台等製作修理として選定し、祭屋台等製作修理技術者会を保持団体として認定した。この保持者会の金工の部の会員として、「戸畑祇園大山笠行事」で使用する勾欄の金具の製作を手掛けた八女市在住の保持者1人が在籍している。

写真23　シュロ蓑製作

本県において選定保存技術の制度を初めて運用したのは、平成28年（2016）年に選定したシュロ蓑製作で、1人の保持者を認定した（写真23）。

シュロ蓑製作とは、県指定無形民俗文化財である朝倉市の「蜷城の獅子舞」で使用される獅子の蓑（胴の部分）をヤシ科のシュロで編み製作する技術である。製作方法は、シュロを割いて細かくし、木の枠に張った紐にシュロを2束掛け、それぞれ縄を作るように縒りを加えながら捻ることを繰り返し、格子網を編みながら、縦250㎝ほど、最大幅130㎝ほどの蓑を編む。この格子網を編む技術は、通常は藁蓑やカヤ蓑の製作に用いられるもので、シュロにこの技術が用いられるのは特徴的である。

惜しむらくは、この保持者は平成29年（2017）年7月に発生した九州北部豪雨により亡くなられたため、選定保存技術も選定・認定解除となった。しかし、この保持者はその技術について「蜷城の獅子舞」の保存団体であるおくんち保存会への伝承活動も行っていたことから、現在は技術を受け継いだ保存会の手によりシュロ蓑が編まれている。

なお、亡くなった保持者は東日本大震災で被災した民俗文化財を支援したことでも知られている。

平成23年（2011）3月、東北地方を中心に発生した東日本大震災の津波により、岩手県陸前高田市立博物館保管の国登録有形民俗文化財である「陸前高田の漁撈用具」が被災し、その修理の際にシュロで編んだ縄が必要になった。岩手県の地元ではシュロ縄は購入するもので、自ら製作するものではないとされており、また一般的に販売されているシュロ縄では縒りが弱く、解けやすいため、縒りの強いシュロ縄を求めていた。

その時、文化庁の文化財調査官が朝倉市の甘木歴史資料館で展示されていた「蜷城の獅子舞」のシュロ蓑を見たことを思い出し、本県に相談があった。本県は朝倉市教育委員会、美奈宜神社の神職を通じ、保持者にたどり着いた。早速、保持者と会い、依頼内容を伝えたところ、役に立てればということで、快諾された。

依頼されたシュロ縄の太さは数㎝単位で、太さ、二つ縒りや三つ縒りと縒りの異なるシュロ縄のサンプルを作成し、文化庁文化財調査官を介して作成すべきシュロ縄のサイズを決定した。サイズを決定した後は、長さ100m以上のシュロ縄をわずか三日間で編み上げた。早速、このシュロ縄は陸前高田市に送られ、伝統的技術を持つ職人の手により漁撈用具の修理に用いられた。

（15）埋蔵文化財

埋蔵文化財は、土地に埋蔵されている文化財であり、貝塚や古墳、都城跡、城跡等の遺跡（不動産）と、土器や石器、金属器といった遺物（動産）など、当時の人びとの様々な痕跡が含まれる。現在県内には、約 24,000 件にのぼる全国有数の遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が存在している。これは全国で約 46 万か所があるとされる遺跡数の実に 5%に及ぶ数である。

文化課発足以前

本県の考古学的な調査のはじまりは、古くは江戸時代の福岡藩の青柳種信による『柳園古器略考』や亀井南冥による志賀島出土の金印についての研究、久留米藩の三谷有信による高良山神籠石の図化や矢野一貞の業績などが挙げられる。

大正 8 年（1919）の国の「史蹟名勝天然紀念物保存法」の施行によって、福岡県も文化財保護行政への取組を開始するが、その成果として、大正 14 年（1925）に刊行が始まった『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』が挙げられる。これは九州帝国大学（現九州大学）教授の中山平次郎などの協力のもと、当時本県の嘱託であった島田寅次郎氏により作成されたもので、春日村（現春日市）伯玄祠の合口甕をはじめ、銅鉾銅剣発見地名表、装飾古墳についての報告が記載されている（5 頁）。

昭和 20 年代からは、京都大学考古学研究室の小林行雄や九州大学の協力により、筑紫野市五郎山古墳、糸島市一貴山銚子塚古墳の調査などが行われた。昭和 35 年（1960）2 月に渡邉正気氏が本県初の埋蔵文化財専門職員として採用されると、本格的な行政による発掘調査が開始され、頴田町（現飯塚市）のきょう塚古墳、鞍手町銀冠塚古墳をはじめ、住宅建設や道路建設に先立つ発掘調査や不時発見の発掘調査に対応した（21 ～ 31 頁）。

昭和 40 年代に入り、区画整理事業や宅地造成事業などのほか、市町村事業の支援に対応するため、県の専門職員が徐々に増員されていった。昭和 43 年 11 月には大宰府史跡の発掘調査が始まり、大幅な職員の増員による組織体制の充実、奈良国立文化財研究所出身の専門職員の採用による当時最先端の発掘調査技術の導入など、本県の文化財保護行政における一大画期となった（63 ～ 66 頁）。

文化課発足

昭和 41 年（1966）に、九州を大きく南北に貫く、北九州市―鹿児島市間の九州縦貫自動車道建設の施工命令が出された。この他にも国道バイパス建設などの大規模な開発が増加していたことから、昭和 44 年（1969）に一度に 9 人の埋蔵文化財専門職員を採用し、調査体制の大幅な拡充を図るとともに、文化財・文化行政を担う文化課が発足した（7 頁）。

九州縦貫自動車道の建設に加え、今宿バイパス、福岡南バイパスなどの大規模公共事業が始まり、昭和 46 年（1971）には山陽新幹線建設に伴う発掘調査が始まったため調査数が急激に増加した（125 頁、第 25 表）。

このような開発が増加する中、県内遺跡の分布状況を把握し、様々な開発に対応する必要があることから、昭和 51 ～ 56 年（1976 ～ 1981）に、当時の教育出張所所管地域ごとの埋蔵文化財の分布を示した『福岡県遺跡等分布地図』計 16 冊を刊行した（第 35 表）。

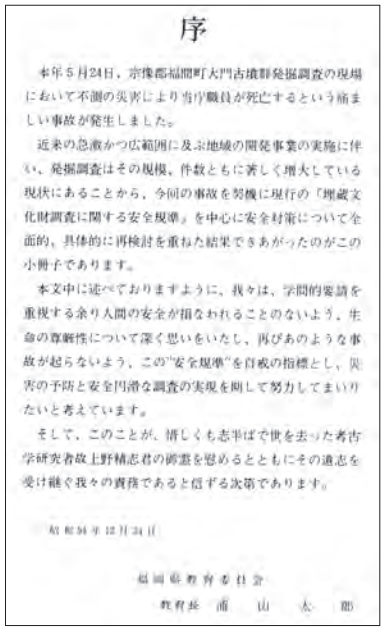
九州縦貫自動車道に係る発掘調査が一段落ついた、昭和 54 年（1979）からは九州横断自動車道建設に伴う発掘調査が開始された。文化課ではこのような大規模公共事業に伴う発掘調査を行うとともに、専門職員が不足している市町村における各種の開発に係る埋蔵文化財発掘調査の支援を実施するなど、大規模な発掘調査を次々に行った。専門職員間でも調査内容や調査方法について議論するなど、お互い切磋琢磨し合った。

この多数の専門職員を指揮したのが、奈良国立文化財研究所出身で、昭和 49 ～ 58 年（1974 ～ 1983）に文化課長を務めた藤井功である（写真 4 ）。地域主体の文化財保護行政を担うため、県内の 6 教育事務所への専門職員配置など、現在の本県の文化財保護行政の枠組みを形作った功績は大きい。

県内各地での開発の増加を受け、昭和 54 年（1979）には、県教育長名で市町村教育長宛てに、地域の文化財保護を地域の自治体で担ってもらうため、「文化財保護行政の体制整備について（通知）」を発出し、市町村における文化財専門職員の配置を促した。市町村の体制強化の一環として、昭和 58 年（1983）に、県教育庁の出先機関である教育事務所 6 か所（福岡、北九州、北筑後、南筑後、筑豊、京築）の社会教育課に専門職員を配置した。地域の文化財保護を支援すると同時に、市町村への専門職員の配置を直接促す役割を担うなど、県と市町村の連携の窓口となり、文化財の保護を地域行政に浸透させていった（61・62 頁）。

なお、昭和 51 年（1976）に春日市大南遺跡発掘調査現場で作業員の死亡事故が起きたことから、同年に「埋蔵文化財調査に関する安全規準」を策定した。さらに昭和 54 年（1979）に福間町（現福津市）大門古墳群発掘調査現場で、県職員が亡くなったことを受けて、同規準の再検討と冊子刊行を行い、安全衛生を徹底した発掘調査現場運営を行うようになった。この冊子序文で示された、「学問的要請を重視する余り人間の安全が損なわれることのないよう…」という文言は、現在でも遵守すべき内容であり、調査担当者の責務でもある（写真 24）。

平成 8 年（1996）、県内市町村教育委員会への専門職員の配置が増える中で、さらなる地域主体の文化財保護行政の推進、体制整備の方針を示すため「文化財保護基本指針」を策定した。平成 9 年（1997）には、埋蔵文化財の手続きを示した冊子である『埋蔵文化財取扱いの手引き』を作成した。



序

本年5月24日，宗像郡福間町大門古墳群発掘調査の現場において不測の災害により当庁職員が死亡するという痛ましい事故が発生しました。

近来の急激かつ広範囲に及ぶ地域の開発事業の実施に伴い、発掘調査はその規模、件数ともに著しく増大している現状にあることから、今回の事故を契機に現行の『埋蔵文化財調査に関する安全規準』を中心に安全対策について全面的、具体的に再検討を重ねた結果できあがったのがこの小冊子であります。

本文中に述べておりますように、我々は、学問的要請を重視する余り人間の安全が損なわれることのないよう、生命の尊厳性について深く思いをいたし、再びあのような事故が起らないよう、この"安全規準"を自戒の指標とし、災害の予防と安全円滑な調査の実現を期して努力してまいりたいと考えています。

そして、このことが、惜しくも志半ばで世を去った考古学研究者故上野精志君の御霊を慰めるとともにその遺志を受け継ぐ我々の責務であると信ずる次第であります。

昭和54年12月24日

福岡県教育委員会

教育長　浦　山　太　郎

写真 24　『埋蔵文化財調査に関する安全規準』序文

文化課から文化財保護課へ

平成 10 年（1998）には、文化課から文化財保護課と改組した。平成 13 年（2001）には東九州自動車道及び九州新幹線建設に伴う発掘調査が始まり、平成 16 年（2004）には五ケ山ダム、平成 18 年（2006）には伊良原ダム建設に伴う発掘調査が始まるなど大規模な発掘調査が続いた。

平成 17 年（2005）には、東九州自動車道の大型事業への対応及び市町村における専門職員の配置が進み、地域の文化財保護体制が一定程度整ったと判断したことから、6 教育事務所への専門職員の配置を常駐とせず、文化財保護課に地域担当を置く形に改めた。

現在の本県の基本的な文化財保護行政のスタンスである、「地域の文化財は地域で守る」、そして地域に成果を還元するという考え方のもと、国・県事業であっても、市町村での対応を依頼している。一方、上述したような複数市町村にわたる大規模事業や、国・県事業の中でも市町村の体制では対応できないもの、また、災害復旧など急を要する事業等については、市町村との協議の上、県が主体となっている。また、その他文化財保護のために必要な場合、発掘調査を行っている市町村に対し、専門職員による技術的な支援などを行っている。

近年では、発掘調査・報告書作成の経験が少なく、かつ大規模発掘調査の経験がない専門職員が増加している。そして、文化財に関わる業務の多様化・多忙化により、組織内で十分に技術の伝達がなされていない状況もしばしばみられる。このように専門職員に対する、基礎的な技術や能力の育成の必要性が高まっている。

また、県内市町村間においても、開発の多寡があり、都市部では開発に伴う発掘調査が多い一方で、ほとんど発掘調査の機会がない自治体があるなど、採用後の経験にも差がみられるようになってきている。さらには、専門職員採用の前提ともなる、採用試験の応募者が減少しているという実態もある。そのような状況も踏まえ、研修や講習の重要性が高まる中で平成 29 年度から「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」を実施してきているが(75 頁)、今後とも県と市町村が協力して、計画的に専門職員の資質向上を図っていく必要がある。

加えて、全国で増加している民間発掘会社の発掘調査の委託は、現段階では県内では一般的でない。調査成果を地域に還元するという点から、自治体が主体的に調査を行うことが望ましく、委託する場合も、適切な監理がその前提となる。適切な監理のためには自治体内で方針を定めることが必要となってきている。

埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会

発掘調査が増加する中、昭和 60 年（1985）12 月 20 日庁保記第 102 号「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について」（文化庁次長通知）の内容を、地区ごとに対応し、事業者等に説明する必要があることから、平成 4 年（1992）の九州各県・指定都市文化行政主管課長会議で、「埋蔵文化財発掘調査の基準作成」を行うことが提案された。これを受けて、「九州地区の埋蔵文化財発掘調査基準」の検討作成のため、平成 5 年（1993）に「埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会」（以下「埋九協」と略）が設置された。埋九協では、平成 8 年（1996）まで発掘調査基準の検討を行い、平成 8 年 8 月 8 日付で「九州地区埋蔵文化財発掘調査基準」を策定した。

その後も、社会状況の変化や文化庁の通知や文化庁が設置する「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」の報告を受けて、九州地区内での基準等を作成するために、現在まで継続している。

『九州地区埋蔵文化財発掘調査基準』（平成 8 年）
- 平成 13 年改正：調査基準について
- 平成 15 年改正：積算基準について
- 平成 18 年改正：調査基準について
- 平成 22 年改正：民間調査組織の導入について
- 平成 23 年改正：調査基準について
- 平成 27 年改正：小規模発掘調査の積算基準について
- 平成 30 年改正：専門職員の知識・技術の向上、民間調査関係組織の導入及び監理の考え方について

『九州地区出土品の取扱い基準』（平成 11 年）
『九州地区埋蔵文化財事前審査の取扱い』（平成 20 年）
『九州地区埋蔵文化財資料保存・活用基準』（平成 23 年）
『埋蔵文化財の調査にかかるデジタルカメラの導入について及びフィルムのデジタル化について』(令和 2 年)

福岡県指定都市等文化財担当職員連絡会議

開発の集中している都市部における開発側の動向や情報の共有化、事前審査対応について共通した取組を図るため、平成 16 年（2004）から、政令指定都市の福岡市、

北九州市及び中核市の久留米市と県とで、「福岡県指定都市等文化財担当職員連絡会議」を開催している。近年では、刻々と変化する社会状況に合わせて、各市及び県の課題についての情報共有、交換を行っており、県内の一体的な埋蔵文化財の保護行政の推進に努めている。

大規模災害からの復旧・復興に係る埋蔵文化財の支援

日本列島は地震が多い地域であり、また近年集中豪雨が増加するなどこれまで多くの災害に見舞われている。特に大きな災害の場合には、災害復旧のため、大規模なインフラの復旧や家屋の建替、集団移転などが極めて短期間で行われる。その場合、埋蔵文化財への対応が一気に集中することから、平成7年（1995）1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機として、復旧・復興事業に係る埋蔵文化財調査について、全国からの文化財専門職員の派遣により対応することとなった。

職員派遣については、基本的には文化庁が被災都道府県と協議の上、全国の自治体に派遣職員を要請し、取りまとめの上、派遣先の決定を行ってきた。本県も阪神・淡路大震災、東日本大震災（平成23年（2011）3月11日：岩手県・宮城県・福島県）、熊本地震（平成28年（2016）4月14日～16日）といった大規模災害のほか、県内で発生した平成29年（2017）7月九州北部豪雨（7月5・6日）からの復旧・復興事業に対して職員派遣を行っている。派遣先及び派遣職員は次のとおりである。

・阪神・淡路大震災復興支援

平成　7年度　兵庫県　秦憲二
平成　8年度　兵庫県　吉田東明
平成　9年度　兵庫県　重藤輝行

・東日本大震災復興支援

平成25年度　福島県　宮地聡一郎
平成26年度　福島県　宮地聡一郎
平成27年度　宮城県山元町　城門義廣
平成28年度　宮城県山元町　城門義廣（～9月）

・熊本地震復興支援

平成29年度　熊本県　秦憲二・坂元雄紀
平成30年度　熊本県　齋部麻矢
令和元年度　熊本県　飛野博文・大庭孝夫（～9月）

・平成29年7月九州北部豪雨復興支援

令和元年度　朝倉市　飛野博文（7月～）
令和　2年度　朝倉市　飛野博文

（16）旧福岡県公会堂貴賓館

貴賓館の愛称で知られるこの施設は、福岡市の天神中央公園の東端に佇むクラッシクな洋風建築で、高く聳えるとんがり屋根と緑色の外観が印象的な建物である。100年以上前の明治時代に作られ、それからずっと天神と西中洲一帯の歴史を見守り続けてきた。1970年代後半県庁の移転計画が始まった頃、当時教育庁舎として使用されていた貴賓館に存続の危機が訪れる。調査の結果、文化財的な価値が認められ、旧福岡県公会堂貴賓館の名称で昭和59年（1984）に国の重要文化財に指定され、復原を伴う本格的な修理が行われて以降、一般公開され今日に至っている。

貴賓館の概要

旧福岡県公会堂貴賓館（以下「貴賓館」と略）は、明治43年（1910）、第13回九州沖縄八県連合共進会（産業博覧会）の開催にあたり、会期中の迎賓館と宿泊所を兼ねた施設として建設された。設計監理は福岡県の技師であった三條栄三郎で、岩崎組が工事を請負った。後に三條は旧福岡県庁舎の設計にも従事する。工事は明治42年（1909）1月に始まり、翌年3月に竣工した。同共進会会期中、この建物は皇族の宿泊に利用されたほか、来賓を接待しての夜会が頻繁に催されたとの記録が残る。

貴賓館は木造二階建で、建物の正面中央部分に石柱付の玄関ポーチを張り出す。東には八角の塔屋が高く聳え、二階壁面にある丸窓から室内に光を取り込むようになっている。一階には東西に延びる廊下を挟んで食堂や遊戯室（ビリヤード・バー）、休憩室などの部屋が並び、来賓を接待した夜会の面影を偲ぶことができる。皇族用の赤い絨毯に沿って中央の階段をあがると、宿泊に使用された二階には東西寝室、貴賓室、談話室があり、各部屋の壁・天井に異なるデザインが凝らされて賓客に対する設計者の気遣いがうかがえる。貴賓館は当時のヨーロッパで盛んだった歴史主義の建築様式を基調とし、急勾配の石板葺屋根と丸みを帯びるマンサードの中央屋根、中央の小さなペディメント、尖塔付塔屋などフレンチルネッサンス様式を彷彿とさせる外観意匠となっている。（写真25）

写真25　旧福岡県公会堂貴賓館

修理工事と災害復旧

終戦後、貴賓館は度重なる改修を受けて往時の姿は失われ、また経年による老朽化が著しく保存の限界に達していた。昭和 59 ～ 62 年度（1984 ～ 1987）までの 4 ヶ年、総事業約 3 億円をかけ、室内・外観を対象に現状変更を伴う大規模な修理工事が実施され、詳細な調査にもとづき創建当時の姿に戻された。この時、西階段、屋根窓、屋根飾り、トイレ、浴室、壁紙、絨毯などが痕跡調査や古写真等の史料をもとに復原されている。

また保存修理工事に併せて防災事業も行われ、建物周辺に延焼防止のための放水銃 3 基が設置され、その他貯水槽・ポンプ室等の消防設備が新たに整備された。

平成 17 年（2005）3 月 20 日、M 7.0 の福岡県西方沖地震が発生、警固断層の東約 1.5 ㎞に位置する貴賓館は博多粘土層という軟弱地盤の上に建つため建物は南北に激しく揺さぶられ、外壁と内壁に大きな被害を受けた。文化庁の補助を受け、平成 17 年度から災害復旧事業が行われることになり、復旧工事に先立ち現状の貴賓館を対象とした耐震診断が実施された。貴賓館の外壁は下地の木摺りに瓦を張り、その上にラスをかけてモルタルを塗るという特徴のある構造となっている。観測波・告示波の 11 波を用いた時刻歴応答解析による評価では、震度 7 の地震で建物が倒壊する可能性が指摘されたため、柱・土台・梁が交差する一階主要軸部に表からは見えないよう仕口ダンパーを 240 個ほど設置して耐震補強が行われた。傷みが進行したエントランスポーチや窓、屋根等を対象に保存修理も実施され、平成 20 年（2008）3 月、事業を完了し 5 月に一般公開の運びとなった。

美装化工事

ところが、昭和 62 年の修理完了から 30 年余りが経過して、室内では屋根からの雨漏りで壁紙にシミができ、日焼けで色あせを起こすなど全体的に劣化が確認されるようなった。観光立国の政策によって国内外からの観光客が増加し、貴賓館への来館者も増加傾向にあったことから、建物見学者を落胆させないよう壁紙やカーペットを更新する計画をたてることとなった。そこで、新しく創設された文化庁の補助金（美装化事業）を活用して、平成30年(2018)1月から壁紙の貼替え工事に着手した。

当時の壁紙は復原工事から相当の年数が経過し色あせが著しかったため、現状の絵柄をスキャン後、新たに張る壁紙の色を検討することから始めた。貼替え工事では傷んだ壁紙をすべて剥ぎ取り、不用な紙を丁寧に取り除いた。壁紙を除却すると下地の木摺りが現れ、木摺りの間隔は人の手が届く高さまで密で天井近くになると疎らになる。昭和 62 年の修理の際に多くの木摺りが取替えられていたが、創建当時のものも良く残されていることが判明した。現代の住宅では壁の仕上げはボードにクロスを貼って仕上げる簡単なつくりだが、貴賓館では木摺りという細く薄い杉板を壁一面に打ち付けて、下地となる壁面を構成している。痛みが進行し再利用ができない木摺りを取替えた後、ベタ張りと袋張りで和紙を重ね張りした。これは襖の下地や書院造の壁をつくる伝統的な技法で 6 枚もの厚さの異なる和紙を米で作った専用の糊で張り重ねてゆくことで、湿気で伸縮する壁紙のひび割れを防止する役割が期待できる技である。ヨーロッパから輸入された当時の壁紙を日本の伝統技法で張り込む、近代の文化財ならではの工夫が垣間みえる。

（17）国際交流事業

福岡県は、中国大陸や朝鮮半島に近い地理的特性から、古くから対外交渉の窓口として、日本の歴史上重要な役割を担ってきた。そのため、中国や韓国から影響を受けた文化財が多く、福岡県の文化財を理解する上では、東アジア的視点で捉える必要があるものが多い。

そのため福岡県では、海外の文化財の研究機関との交流事業によって、実際に現地に赴き、福岡県の文化財と比較したり、海外の研究者との意見交換等によって、福岡県の文化財についての理解を深めてきた。その成果は、シンポジウム等で広く公開したり、九州歴史資料館や九州国立博物館の展示に反映させたりしている。

福岡県としてこれまで行ってきた文化財に関する国際交流事業では、韓国や中国、インドネシア、タイ、インドなど多くの国を対象にし、職員を相互に派遣してきている。特に韓国の国立文化財研究所との交流事業は長い歴史を持ち、現在も継続して行っている。

以下、これまで行ってきた代表的な事業についての概要を示すが、詳細は、第 4 表をご覧いただきたい。

大韓民国国立文化財研究所との交流事業

福岡県教育委員会と大韓民国国立文化財研究所との交流事業は、昭和 61 年（1986）から、福岡県と韓国の文化財の相互比較及び共通理解を図るという目的のもとに始まった。これは福岡県がアジアの窓口という地理的特性を持つことから、県内の各種文化財を理解していくために必要なものとして現在まで継続している。

基本的には毎年双方 1 名ずつ文化財専門職員を派遣しており、これまで福岡県・韓国双方 30 人以上を派遣している。始まった当初は 3 ヶ月間の派遣期間であったが、近年は 15 日間程度の派遣となっている。毎年度それぞれ福岡県の文化財を理解する上で有益なテーマを設定して派遣を行い、報告会を実施し、研究交流を通して得た知識、経験を業務に生かしている。令和元年（2019）には協定を締結し、相互の理解と友好を強固にするために当該交流事業を継承し発展させている。

なお、昭和 61 年度～平成 2 年度までは、派遣者の帰国報告を兼ねて国際シンポジウムを開催したほか、平成 18 年（2006）には、福岡と大韓民国でそれぞれ交流 20 周年記念国際シンポジウムを開催した。

1 海外への派遣

年度	派遣職員名	所属(当時)	派遣先	研究主題	期間
S61	石松好雄	九州歴史資料館 調査課長	大韓民国	大宰府と新羅・百済の文化	3ヶ月間
S62	柳田康雄	文化課 参事補佐	大韓民国	九州における古墳文化と朝鮮半島	3ヶ月間
S63	小池史哲	文化課 技術主査	大韓民国	北部九州における弥生文化の展開と朝鮮半島	昭和63年5月15日 ～8月14日
H1	橋口達也	福岡教育事務所 技術主査	大韓民国	日本における稲作の起源と朝鮮半島	平成元年7月9日 ～10月9日
	高倉洋彰	九州歴史資料館 技術主査	中華人民共和国	漢文化と日本	平成2年1月28日 ～2月13日
H2	井上裕弘	文化課 参事補佐	大韓民国	三国時代成立期前後の墳墓と副葬品 -九州における古墳文化成立期前後と朝鮮半島	平成2年10月15日 ～11月13日
	伊崎俊秋	京築教育事務所 主任技師	中華人民共和国	漢・唐代の墳墓	平成2年9月11日 ～10月23日
H3	副島邦弘	文化課 参事補佐	大韓民国	高麗磁器と中国磁器	平成3年10月23日 ～11月21日
	横田賢次郎	九州歴史資料館 技術主査	中華人民共和国	唐・宋代の陶磁器	平成3年10月3日 ～11月14日
H4	佐々木隆彦	文化課 参事補佐	大韓民国	原三国時代前後の集落遺跡の出土品	平成4年10月19日 ～11月7日
	磯村幸男	文化課 技術主査	中華人民共和国	中国古代の都城	平成4年9月21日 ～10月20日
H5	馬田弘稔	文化課 技術主査	大韓民国	弥生文化と原三国時代との比較研究	平成5年9月2日 ～10月1日
	児玉真一	文化課 参事補佐	中華人民共和国	有形文化財の保存と活用	平成5年9月21日 ～10月19日
H6	八尋和泉	九州歴史資料館 学芸第一課長	大韓民国	韓国仏像研究	平成6年10月19日 ～11月17日
	池辺元明	文化課 参事補佐	中華人民共和国	文物及び史跡の保存と活用	平成6年9月18日 ～10月25日
H7	中間研志	文化課 参事補佐	大韓民国	先史時代集落の構造と変遷についての日韓比較研究	平成7年10月2日 ～10月29日
	石山　勲	国立博物館対策室 室長補佐	インドネシア共和国	東部インドネシアの青銅器文化の成立と展開	平成7年10月16日 ～10月23日
H8	吉村靖徳	文化課 主任技師	大韓民国	三国時代の山城の構造 高麗時代以前の衡器研究の現状について	平成8年9月2日 ～9月21日
	楠井隆志	文化課 主任技師	インドネシア共和国	インドネシアにおける装飾芸術の成立と展開	平成8年9月30日 ～10月7日
H9	赤司善彦	九州歴史資料館 技術主査	大韓民国	百済山城を中心とした古代山城の構造と変遷	平成9年10月20日 ～11月8日
	清水圭輔	国立博物館対策室 室長	タイ王国	タイ文化の基礎的研究	平成9年11月7日 ～11月13日
	柳田康雄	文化課 参事			
	松本洋二	国立博物館対策室 技術主査	中華人民共和国	中国周辺地域に関する研究動向	平成10年3月23日 ～3月28日
	相場公博	国立博物館対策室 事務主査			
H10	重藤輝行	文化財保護課 主任技師	大韓民国	3～5世紀の鉄器・土器に関する日韓比較	平成10年10月6日 ～10月24日
H11	杉原敏之	九州歴史資料館 主任技師	大韓民国	旧石器時代石器群の技術構造に関する日韓比較	平成11年11月8日 ～11月29日
H12	岸本　圭	文化財保護課 主任技師	大韓民国	韓国の文化財保存及び整備に関する比較	平成12年10月30日 ～11月17日
H13	水ノ江和同	国立博物館対策室 技術主査	大韓民国	韓国における博物館の現状	平成13年10月29日 ～11月15日
	宮地聡一郎	文化財保護課 技師	大韓民国(釜山市) 日韓交流史理解促進事業	先史時代の日韓交流史 -特に農耕社会成立期の様相をめぐって-	平成14年1月25日 ～2月7日
	小澤佳憲	文化財保護課 技師		弥生時代と無文土器時代における集落構成要素の日韓比較	
H14	宮地聡一郎	文化財保護課 主任技師	大韓民国	新石器時代の日韓交流 文岩里遺跡の発掘調査	平成14年10月18日 ～11月15日
	進村真之	文化財保護課 主任技師	大韓民国(済州道) 日韓交流史理解促進事業	半島と列島の交流史	平成14年10月30日 ～11月12日
	大庭孝夫	文化財保護課 技師		弥生時代開始期における済州島と北部九州	

第４表　国際交流事業派遣・招聘一覧　①

年度	派遣職員名	所属(当時)	派遣先	研究主題	期間
H15	秦　憲二	文化財保護課 主任技師	大韓民国	弥生古墳時代の日韓交流 風納土城の発掘調査	平成15年11月3日 ～11月24日
	酒井芳司	九州歴史資料館 主任技師	大韓民国(慶尚南道) 日韓交流史理解促進事業	日本列島の古代国家成立期における日韓交流の様相及び韓国における博物館等での教育普及活動について	平成15年11月24日 ～12月6日
	坂元雄紀	文化財保護課 技師		先史時代の半島・列島間の交流と影響 -特に無文土器時代・弥生時代について-	
H16	吉田東明	京築教育事務所 主任技師	大韓民国	弥生古墳時代の日韓交流 風納土城の発掘調査	平成16年11月1日 ～11月22日
	今井涼子	文化財保護課 主任技師	大韓民国(全羅南道) 日韓交流史理解促進事業	中世における日韓交流と影響	平成16年11月17日 ～11月30日
	加藤和歳	九州歴史資料館 主任技師		有機質遺物・金属工芸品を中心とした日韓交流の様相及び博物館等での保存科学活動について	
H17	進村真之	文化財保護課 主任技師	大韓民国	須恵器・陶質土器の日韓比較研究	平成18年2月6日 ～2月24日
H18	下原幸裕	文化財保護課 主任技師	大韓民国	古代山城の比較研究 風納土城の発掘調査	平成19年3月11日 ～3月30日
H19	坂本真一	九州歴史資料館 主任技師	大韓民国	韓国における道路遺跡の調査	平成20年1月21日 ～2月4日
H20	小澤佳憲	文化財保護課 主任技師	大韓民国	日韓古代山城の比較	平成21年3月3日 ～3月19日
H21	小嶋　篤	九州歴史資料館 技師	大韓民国	統一新羅時代の武装-有機質甲冑-	平成22年3月16日 ～3月30日
H22	岡寺　良	九州歴史資料館 主任技師	大韓民国	壬申倭乱期城郭、陶磁器生産、山岳信仰の比較	平成23年2月28日 ～3月12日
H23	岡寺未幾	世界遺産登録推進室 主任技師	大韓民国	世界文化遺産の保存管理及び祭祀遺跡	平成24年3月5日 ～3月16日
H24	加藤和歳	九州歴史資料館 文化財調査室 保存管理班長	大韓民国	文化財保存施設における保存環境・保存修復	平成25年3月5日 ～3月23日
H25	井形　進	九州歴史資料館 技術主査	大韓民国	仏教美術の比較研究	平成26年2月23日 ～3月12日
H26	城門義廣	九州歴史資料館 主任技師	大韓民国	武器形遺物、祭祀遺跡の研究	平成27年2月16日 ～3月1日
H27	正田実知彦	文化財保護課 主任技師	大韓民国	日韓の名勝と庭園	平成27年11月18日 ～12月1日
H28	大高広和	世界遺産登録推進室 主任技師	大韓民国	古代の日韓交流-古代山城の比較研究を中心に-	平成28年12月1日 ～12月15日
H29	小林　啓	九州歴史資料館 主任技師	大韓民国	古墳時代出土馬具の自然科学的手法による構造解析 -船原古墳の出土馬具を中心に-	平成29年11月6日 ～11月17日
H30	遠藤啓介	九州歴史資料館 技術主査	大韓民国	日本の出土貿易陶磁器と韓国および中国陶磁器の編年と産地研究	平成31年2月8日 ～2月22日
R1	田上　稔	文化財保護課 参事兼課長技術補佐	インド デリー準州との交流事業	デリー準州の文化遺産保存の取組の視察	令和元年11月4日 ～9日
	松本将一郎	文化財保護課 主任技師			
	加藤和歳	九州歴史資料館 企画主査			
	梶佐古幸謙	九州歴史資料館 技師			

2 海外からの招聘

年度	招聘者名	国名	所属	研究主題(または発表テーマ)	期間
S61	趙　由典	大韓民国	国立文化財研究所 美術工芸研究室長	日韓古代山城研究	3ヶ月間
S62	南　時鎭	大韓民国	国立慶州文化財研究所 別定職5級	韓日古代史比較研究	3ヶ月間
S63	張　憲徳	大韓民国	国立文化財研究所 学芸研究士	日韓古代建築遺跡の比較研究	3ヶ月間
H1	洪　性彬	大韓民国	国立文化財研究所 学芸研究官	文化財発掘調査と保存整備に関する学術的研究	3ヶ月間
H2	崔　孟植	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査室学芸研究官	文化財発掘調査と保存整備に関する学術的研究	平成3年3月11日 ～3月20日
	金　吉植		国立清州博物館 学芸研究士		
H3	鄭　桂玉	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査室学芸研究士	文化財発掘調査ならびに保存整備に関する学術的研究	平成4年3月2日 ～3月11日
	任　鶴鐘		国立晋州博物館 学芸研究士		

第４表　国際交流事業派遣・招聘一覧　②

年度	招聘者名	国名	所属	研究主題（または発表テーマ）	期間
H4	尹　邦彦	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究官	文化財発掘調査ならびに保存整備に関する学術的研究	平成5年3月2日 ～3月11日
	權　相烈		国立晋州博物館 学芸研究士		
H5	尹　根一	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究官	日本と韓国の文化財保存及び整備に関する比較研究	平成6年3月7日 ～3月16日
	咸　舜燮		国立中央博物館 学芸研究士		
H6	沈　榮燮	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究士	日本と韓国の文化財保存及び整備に関する比較研究	平成7年2月15日 ～2月24日
	成　洛俊		国立中央博物館 学芸研究官		
H7	高　秀吉	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究官	日本と韓国の文化財保存及び整備に関する比較研究	平成7年9月25日 ～9月29日
H8	朴　鐘益	大韓民国	国立昌原文化財研究所 学芸研究士	古代山城築造技法研究	平成8年10月14日 ～11月1日
H9	金　聖培	大韓民国	国立昌原文化財研究所 学芸研究士	韓日古代山城に関する比較研究	平成9年11月17日 ～11月29日
H10	尹　根一	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究官	日本と韓国の文化財保存及び整備に関する比較研究	平成10年11月4日 ～11月18日
H11	朴　亨彬	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査室学芸研究士	16～17世紀における朝鮮と日本の陶磁比較研究	平成12年3月6日 ～3月18日
H12	林　瑩鎭	大韓民国	国立文化財研究所 芸能民俗研究室学芸研究士	韓日民俗学比較研究	平成13年1月29日 ～2月16日
H13	申　熙権	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査室学芸研究士	韓日古代城郭築造方式ならびに都城比較研究	平成14年1月21日 ～2月8日
	崔　問起	大韓民国（釜山広域市） 日韓交流史理解促進事業	釜山広域市立博物館 学芸研究士	保存科学	平成13年12月10日 ～12月13日
	李　海蓮		釜山広域市立博物館 福泉分館学芸研究士	陶質土器及び初期須恵器の研究	
H14	申　昌秀	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室長	高城文岩里遺跡発掘調査報告	平成15年1月25日 ～1月31日
	朴　玩貞		国立文化財研究所 遺跡調査室学芸研究士		平成15年2月13日 ～2月26日
	朴　成鐘	大韓民国（済州島） 日韓交流史理解促進事業	済州道文化芸術課 事務官	朝鮮時代における建築様式と遺跡の保存整備方法の日韓比較	平成14年11月12日 ～11月17日
	高　才元		済州道民俗自然史博物館 考古研究員	新石器時代における日韓交流について	平成14年11月12日 ～11月20日
	金　明徹		済州道文化芸術課 事務官	文化財保護行政・遺跡の保存整備方法の日韓比較	平成14年11月18日 ～11月20日
H15	劉　銀植	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査室学芸研究士	ロシア プロチカ遺跡発掘調査報告	平成16年2月16日 ～2月28日
	白　承玉	大韓民国（慶尚南道） 日韓交流史理解促進事業	咸安博物館 学芸研究士	埋蔵文化財（遺跡・遺物）等を通して見た日韓交流史	平成16年3月1日 ～3月7日
	金　錫煥		慶尚南道文化芸術課		
H16	鄭　子永	大韓民国	国立扶余文化財研究所 学芸研究士	扶余王興寺址発掘調査報告	平成17年2月28日 ～3月12日
	金　熹台	大韓民国（全羅南道） 日韓交流史理解促進事業	全羅南道文化芸術課 文化財専門委員	各種文化財からみた日韓交流史	平成17年2月28日 ～3月12日
	安　瑢燮		全羅南道文化芸術課 地方別定6級		
H17	林　承慶	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究士	文化財行政と教育普及活動に関する学術的研究	平成18年3月2日 ～3月12日
H18	田　庸昊	大韓民国	国立扶余文化財研究所 学芸研究士	日韓古代生産遺跡比較研究	平成19年2月20日 ～3月5日
H19	李　相俊	大韓民国	国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究官	日韓生産遺跡の研究状況の比較検討	平成20年3月12日 ～3月21日
	李　仁淑		国立文化財研究所 遺跡調査研究室学芸研究士	古代寺院ならびに廃寺跡調査	
H20	蘇　哉潤	大韓民国	国立文化財研究所 考古研究室学芸研究士	日韓古代瓦の比較研究	平成21年2月16日 ～3月6日
H21	徐　民錫	大韓民国	国立文化財研究所 自然文化財研究室学芸研究士	古代DNA遺伝子分析・考古化学の研究	平成22年3月15日 ～3月28日
H22	権　宅章	大韓民国	国立慶州文化財研究所 学芸研究士	日韓古代祭儀研究－井戸祭儀と地鎭具を中心に－	平成23年2月7日 ～2月27日
H23	孔　達用	大韓民国	国立文化財研究所 自然文化財研究室学芸研究士	日韓ストロマトライト（生物起源の堆積石）の比較研究	平成24年3月17日 ～3月30日

第４表　国際交流事業派遣・招聘一覧　③

年度	招聘者名	国名	所属	研究主題(または発表テーマ)	期間
H24	申　鐘国	大韓民国	国立文化財研究所 考古研究室学芸研究官	新石器時代農業遺跡の比較研究	平成25年3月11日 ～3月19日
	曺　美順		国立文化財研究所 考古研究室学芸研究士		
H25	卓　京柏	大韓民国	国立文化財研究所 研究企画課学芸研究士	百済比丘尼寺刹に対する検討	平成26年3月14日 ～3月31日
H26	張　誠允	大韓民国	国立文化財研究所 復元技術研究室学芸研究士	古代土器の製作ならびに自然科学的研究のための基礎調査- 縄文時代繊維土器を中心に-	平成27年3月9日 ～3月21日
H27	李　恩碩	大韓民国	国立扶余文化財研究所 学芸研究室長	三国時代馬具製作方法ならびに7世紀代土城構造研究	平成28年2月1日 ～2月13日
H28	李　慧淵	大韓民国	国立羅州文化財研究所 学芸研究士	複合材質遺物の保存処理ならびに分析技術調査	平成29年3月6日 ～3月19日
H29	韓　志仙	大韓民国	国立中原文化財研究所 学芸研究士	韓日古代製鉄技術比較研究－九州地方を中心に	平成30日2月1日 ～2月14日
H30	韓　旭	大韓民国	国立文化財研究所 学芸研究官	歴史環境の保存及び活用方法に関する研究(建造物・史跡を中心に)	平成31年1月11日 ～1月25日
	ビカス・マルー	インド デリー準州との交流事業	デリー準州芸術文化局 考古学部長	福岡県の文化遺産保存の取組の視察	平成30年11月26日 ～11月30日
	ウダイ・クマール		デリー準州芸術文化局 考古学部長補佐		
	M.N.カン		デリー準州芸術文化局 考古学部長補佐		
	ジャスパル・シン		デリー準州芸術文化局 考古学部調査員		
R1	張　誠允	大韓民国	国立文化財研究所 文化財保存科学センター 学芸研究官	縄文時代繊維土器の分析現況と研究方法論調査	令和2年2月17日 ～2月26日

第４表　国際交流事業派遣・招聘一覧　④

日韓交流史理解促進事業

当該事業は、日韓の歴史認識の共有化・両国民の相互理解をめざし、日韓の友好交流を学術面から推進することを目的として、平成 13 年（2001）～平成 17 年（2005）まで行われた。これは平成 11 年（1999）に佐賀県唐津市で開催された日韓海峡沿岸知事交流会議において、佐賀県ならびに全羅南道知事から提案されたもので、日本側は福岡県をはじめ、佐賀県、長崎県、山口県で実行委員会を設立し、韓国側の釜山広域市、全羅南道、慶尚南道、済州島と文化財専門職員の相互派遣を行った。

派遣は毎年度、派遣箇所を変え、福岡県からは計８人を派遣、韓国側から計９人を福岡県が受け入れ、各自の調査研究テーマに沿い、博物館や発掘調査現場等を訪問し、相互に意見交換を行った。

その成果として平成 17 年（2005）に九州国立博物館でシンポジウムを開催し、また『日韓交流史理解促進事業調査研究報告書』を実行委員会から発刊している。

インド・デリー準州との交流事業

福岡県とデリー準州との友好提携 10 周年を機会に、平成 30 年から文化遺産関係の交流も行うことになった。これはデリー準州から、クトゥブ・ミナールなどの世界遺産の保存・活用を推進するため、福岡県の遺跡や建造物の事例について、現地視察と意見交換を行うため提案されたもので、県国際局の事業として行っている。

古代オリエント博物館への調査協力

財団法人古代オリエント博物館からの依頼により、福岡県教育委員会は昭和 50 ～ 63 年（1975 ～ 1988）の間に 10 人の文化財技術職員（発掘技師）をシリア考古学調査団の一員として派遣した。シリアのテル・マストゥーマなどの遺跡の調査に従事し、農耕と牧畜の起源及び都市文明の成立に関する調査研究などに寄与した（第５表）。

年	派遣職員名	場所・遺跡
S50	石山　勲	水没地区遺跡:ルメイラ・ミショルフェほか（第２次）
S51	前川威洋	水没地区遺跡:ルメイラ・ミショルフェほか（第３次）
S52	酒井仁夫 橋口達也	水没地区遺跡:ルメイラ・ミショルフェほか（第４次）
S53	木下　修	水没地区遺跡:ルメイラ・ミショルフェほか（第５次）
S55	濱田信也	テル・マストゥーマ及び周辺遺跡（第１次）
S57	井上裕弘	テル・マストゥーマ及び周辺遺跡（第２次）
S59	新原正典	テル・マストゥーマ及び周辺遺跡（第３次）
S61	中間研志	テル・マストゥーマ及び周辺遺跡（第４次）
S63	川述昭人	テル・マストゥーマ及び周辺遺跡（第５次）

第５表　古代オリエント博物館との連携事業

（18）九州国立博物館・福岡県立アジア文化交流センター

九州国立博物館は東京、奈良、京都につぐ４番目の国立博物館として、平成 17 年（2005）10 月 16 日に福岡県太宰府市に開館した。福岡県では誘致運動、その後の設立準備、一部施設の建設・保有をはじめ、開館後では特別展・文化交流展示、教育普及、国際交流など、独立行政法人国立文化財機構と一体となった管理運営を実施している。

ここでは、福岡県による九州国立博物館の管理運営の組織である「福岡県立アジア文化交流センター」及びその前身となる「国立博物館対策室」等、主に九州国立博物館に関わる福岡県の動向を中心に記述する。なお、以下の内容は『開館 10 周年記念　九州国立博物館史』九州国立博物館　2016 年をもとに記述した。

誘致運動

九州国立博物館構想の先駆けは、明治６年（1873）に開催された「太宰府博覧会」やその流れを受けた「鎮西博物館」の構想、岡倉天心（覚三）による博物館構想など、

地元では戦後直後まで国立博物館に対する動きが途切れることなくあったが、いずれの活動も設置・建設までは至らなかった。

昭和41年（1966）、総理府に設置された明治維新百年記念準備会議が「明治百年記念事業」の一環として国立博物館新設の方針を打ち出し、翌年文化財保護委員会（現文化庁）は国立歴史民俗博物館の新設を決定した。

これを受けて福岡県ではその建設候補地として名乗りを上げ、昭和43年（1968）4月、福岡県は教育委員会を事務局として「国立九州博物館設置期成会」を結成し、官民一体となった誘致運動を開始した。しかし、翌年、国立歴史民俗博物館の建設地が千葉県佐倉市に内定したため、福岡県は太宰府天満宮から寄贈を受けた土地を中心とした予定地横に将来の国立博物館の受け皿も兼ねた県立歴史資料館を設置することとし、昭和47年（1972）4月に太宰府市に九州歴史資料館が設置された（8頁）。

その後、昭和51年（1976）、福岡県による九州国立博物館誘致運動が再燃し、「九州国立博物館の設置について」という要望書を国に提出した。あわせて「国立博物館設置期成会」が設立され、国関係者に陳情することを目的とした「九州国立歴史美術博物館誘致促進懇談会」（昭和63年には「九州国立博物館設置促進国会議員連盟」）も東京のホテル等を会場に開催された。

その誘致運動の母体となったのが、昭和55年（1980）に設立された「博物館等建設推進九州会議」である。この組織は政財界が一丸となった本格的な体制で、新たに誘致する国立博物館はアジアとの交流史をコンセプトにする博物館として学術的に位置付けたこと、また誘致運動を九州全体に広げることができ、九州国立博物館の必要性を具体的に発信したこと、九州各県知事の了承を取りつけ、国立博物館の誘致場所を太宰府市に特定したという大きな役割を果たした。

またこの「博物館等建設推進九州会議」の機関誌である「文明のクロスロード Museum　Kyushu」は、九州・アジアを対象に、人文系や自然系の垣根を越えて多くの分野の特集を組むなど、学際的な内容であるとともに、一般の人々にもわかりやすい内容であったことから高い評価を得た。この編集委員には県職員やOBも参加し、九州歴史資料館に編集事務局が置かれるなど、九州歴史資料館も九州国立博物館の誘致に間接的にせよ関わることになった。

昭和63年（1988）6月には、より強力な誘致運動を展開するため、博物館等建設推進九州会議や福岡県、太宰府市等が中心となって、九州各県及び関係自治体、諸団体等で組織された官民一体の「九州国立博物館誘致推進本部」が設立され、誘致運動は新たな局面を迎えることとなった。平成2年（1990）には全国の有識者20人からなる「九州国立博物館（仮称）基本構想策定委員会」を設置するなど、博物館の基本コンセプトの方向性の検討を進め、平成3年にはアジア諸地域の文明の発展と交流の歴史を解明し、国際的相互理解の推進を図ることをうたった「国立アジア文明博物館（仮称）基本構想」を策定した。

これを受けて福岡県では、昭和63年（1988）3月、県議会に「九州国立博物館誘致対策調査特別委員会」を設置し、これに対応する組織として教育委員会文化課内に3人からなる「九州国立博物館誘致促進対策班」を設置し、10月には「誘致推進対策室」に昇格させ、スタッフも5人に増員し、誘致に係る様々な取組を始めた。

平成4年（1992）、国は国立博物館の九州設置を前提とした費用を概算要求し、平成6年（1994）には「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」を設置するなど、（九州）国立博物館の新設に向けて動きを進めた。その平成4年には財団法人九州国立博物館設置促進財団が設置され、地元支援体制も整ってきた。

福岡県も平成5年（1993）に知事部局内に「九州国立博物館対策室」を設置し、翌年には「総務部国立博物館対策室」と組織を拡充させた。また平成5年12月には九州国立博物館（仮称）の関連施設として、「アジア学術・文化交流センター（仮称）」を整備する方針を決定した。

平成8年（1996）に文化庁が国立博物館の設置候補地を太宰府市とすることを正式に決定し、翌年には文化庁で基本構想案が取りまとめられた。

九州国立博物館の建設から開館まで

正式決定後、基本構想・基本計画、展示計画の策定や国と県等との間で施設規模及び建設、運営の分担等の調整が行われたが、福岡県では平成5年（1993）の国立博物館関連施設としての「アジア文化交流センター」の整備方針のもと、当初は国立博物館とは別の県立施設としての果たすべき役割の検討を進めてきたが、平成9年（1997）に国立博物館と一体化することとされ、その後の計画にも反映された。その計画では、アジア文化交流センターの機能として、九州歴史資料館が果たしてきた大宰府を中心とした展示、史跡の発掘調査を除く調査研究、教育普及とボランティアの育成、情報化、国際交流と地域交流等を業務とすることが盛り込まれ、国立博物館と連携し、相乗的な効果を生み出す役割が期待された。

博物館建設等の計画や設計が進む中で、平成12年（2000）5月に文化庁内に「九州国立博物館（仮称）設立準備調査室」を設置し、同室には福岡県からも学芸員を研修派遣し、共同で設立準備にあたった。また福岡県では同年に国立博物館対策室を大きく拡充し、文化財保護課併任の5人の専門職員・学芸員が配置され、地元においても開館準備にあたった。

九州国立博物館の本体工事は平成14（2002）年に起工、平成16（2004）年に竣工し、名称も「九州国立博物館」として正式決定した。平成17年、独立行政法人国立博物館が九州国立博物館を設置し、福岡県立アジア文化交

流センターも開所した（写真 12）。

平成 17（2005）年 10 月 15 日に九州国立博物館開館記念式典が執り行われ、翌日一般公開が始まった。

開館後の動き

独立行政法人文化財機構と一体的に九州国立博物館を運営する福岡県立アジア文化交流センターは、博物館機能のうち、主に情報機能、交流機能及び教育普及機能などを担当している。

その組織は、所長（兼九州国立博物館副館長）、副所長の下、広報課・展示課・交流課の 3 課で構成され、令和 2 年現在、教育委員会所属職員は文化財保護課併任として 10 人（うち専門職員･学芸員 6 人）を配置している。

業務区分については、広報課は国立博物館の広報、アジア文化交流センターの総務、会計、施設管理、情報システム管理を担っている。

展示課は、九州国立博物館の特別展・文化交流展示を含む展示の実施・運営、大宰府学研究、文化財の収集・収蔵等を担い、展示課職員が特別展の主担当となったものも少なくなく、また地元自治体の職員とのネットワークを生かし、実物展示を行う文化交流展示における他機関からの資料借用･展示にも重要な役割を果たしている。

交流課は、国際交流事業、交流イベント、教育普及（体験型展示室あじっぱの運営）、学校教育との連携、九州国立博物館ボランティア等を担当する。特に体験型の展示関連プログラムの開発や学校用教育キットである「きゅうぱっく」の開発・運営、アジア各国の博物館や研究機関との学術文化交流協定の締結など、アジア史的観点から日本文化の形成を捉える館のコンセプトを基礎とした調査研究・展示を実現する上で重要な役割を果たしている。

（19）世界遺産室

ユネスコ世界文化遺産の保存管理及び公開活用、世界の記憶、無形文化遺産に関する窓口を所管する組織として、現在知事部局の人づくり・県民生活部文化振興課内に世界遺産室が設置されている。ここでは、ユネスコ世界文化遺産に関することを取り上げる。

現在福岡県内の世界文化遺産としては、平成 27 年（2015）登録の「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船､石炭産業」､平成 29 年（2017）登録の「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」がある。

福岡県では、世界遺産登録推進活動を県及び地元の市で連携して推進するため、平成 21 年（2009）に県企画･地域振興部総合政策課内に世界遺産登録推進室を設置し、沖ノ島担当 2 人、近代化遺産担当 1 人の計 3 人の文化財保護課併任の専門職員を配置した。

その後宗像・沖ノ島は本県単独の登録活動であったことから、体制を増強し、平成 24 年（2012）に専門職員 3 人を増員し、計 5 人（現在 3 人）の体制となった。

登録後の平成 30 年（2018）に、人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産室に改組され、現在、室は産業革命遺産係、宗像沖ノ島遺産係の 2 係体制で、関係自治体等との調整や資産の価値向上のための国際的な調査研究やシンポジウム等の普及活動を実施している。

明治日本の産業革命遺産

明治日本の産業革命遺産は、19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけて、日本が西洋の科学技術を適合させ、極めて短期間で産業化を成し遂げたという歴史的価値が評価された。九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県）・山口県を中心に、静岡県や岩手県を含む 8 県 11 市、計 23 の構成資産からなり、相互に密接な関連性があることから、遺産群全体で一つの世界遺産としての価値を有する。本県では北九州市の官営八幡製鐵所、中間市の遠賀川水源地ポンプ室、大牟田市の三池炭鉱・三池港の 3 つの構成資産が存在する。平成 26 年（2014）にユネスコに推薦書を提出し、平成 27 年（2015）に登録された。

また、この構成資産の中には現役で稼働中の産業遺産を含むため、文化財保護法のみならず、景観法や港湾法、さらには協定による合意などの様々な方策を用いて、稼働資産の保護を図っている。そのため、福岡県を含む 8 県 11 市（県内では福岡県･北九州市･大牟田市･中間市）合同の「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会を設け、登録及び登録後の保存活用及び広報・普及活動について一体的な取組を行っている。

宗像・沖ノ島と関連遺産群

宗像・沖ノ島と関連遺産群は、4 世紀後半～ 9 世紀末までの約 500 年間、航海の安全などを願い、多くの装飾品などを用いた祭祀が行われていたこと、それが日本固有の信仰として今に伝えられていること、祭祀権を掌握した古代有力氏族に関連する遺跡群が遺され、現在でもその信仰が継続されていることが評価され、平成 28 年（2016）にユネスコに推薦書を提出し､平成 29 年（2017）に登録された。

平成 21 年（2009）にユネスコの世界文化遺産暫定リストに記載されたことを契機に、福岡県及び宗像市・福津市は市民団体、経済団体、文化･教育団体からなる「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を設立し、推薦書の作成、資産の保全にむけた体制作り、遺産群の価値についての広報啓発活動等、官民一体となった世界遺産登録へ向けた様々な取組を行った。

登録後、同会議は発展的に改組され、福岡県･宗像市･福津市・宗像大社の四者による「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会」を設置し、資産の保存や周辺環境の保全､公開･活用に取り組んでいる。なお、事務局は一貫して福岡県世界遺産登録推進室（世界遺産室）に置かれている。

（20）教育事務所

文化財保護行政の理念「54 年教育長通知」

本県における、地域主体の文化財保護理念の原点は、昭和 54 年（1979）に県教育長名で市町村教育長宛に発出した「文化財保護行政の体制整備について」（昭和 54 年 8 月 23 日 54 教文第 1419 号）（教育長通知）にみることができる。「…（前段省略）申すまでもなく、文化財保護行政は本来各地方公共団体の任務として遂行されるべき業務でありますので、埋蔵文化財の発掘調査のみならず、文化財に対する愛護思想の普及活動を推進していくうえにおいても、文化財保護行政を担当する専門職員は欠くことのできない存在であります。…（中略）それぞれの地域にはぐくまれてきた文化は、やはりそれぞれの市町村の行政の中で保護をしていくという基本的な観点に立って、今後における文化財保護行政の体制整備につき十分な御理解をいただき特段の配慮をされるよう御検討をお願いします。」とある。

この通知の背景には、文化課発足後しばらく継続していた国・県事業を中心とする埋蔵文化財調査の減少とともに、昭和 51 年以降、拡大する市町村事業への対応に追われ、市町村の文化財保護体制の整備が急務の課題となっていたことが挙げられる（第 3 図）。

理念の実践「教育事務所体制」の誕生

昭和 58 年（1983）、県教育庁は県内 16 の教育出張所を統廃合して 6 教育事務所（福岡、北九州、北筑後、南筑後、筑豊、京築）を設置した。その際、社会教育課指導班に文化財発掘技師を配置して、埋蔵文化財を主な職務としながらも、それぞれの教育事務所管内における全ての文化財業務を担当することとしたのである。

昭和 58 年 4 月 27 日、九州歴史資料館において、「昭和 58 年度教育事務所文化行政関係者会議」が開催された。専門職員配置後の教育事務所関係者が揃う最初の会議であり、6 教育事務所から所長（次長）、総務課長、社会教育課長、社会教育係長、発令を受けた技術主査（文化財発掘技師）、文化課から課長、課長補佐、庶務係、文化係、調査第一係、調査第二係、九歴副館長が出席した大規模な会議であったことが分かる。

主要な議題として、「文化行政推進上の諸問題について」、「埋蔵文化財発掘調査にかかる権限移譲に伴う事務処理及び調査計画について」、「文化財（埋蔵文化財除く）、芸術文化にかかる権限移譲に伴う事務処理について」等がある。注目されるのは、この会議で、最初に使用された資料が「54 年教育長通知」である。教育事務所への文化財専門職員の配置は、本県の文化財保護の理念を浸透させていく場として位置づけられていたことが分かる。

また、「教育事務所への権限移譲に伴う所掌事務内容」についてみると、教育事務所の所掌事務の 11 項目のうち 8 項目が埋蔵文化財で、他 3 項目の中に、「10. 市町村における文化財保護行政強化の指導に関すること」がある。ただし、権限移譲（案）の作成段階では、「文化財保護行政強化」は教育事務所の「特命事項」と記載され、ほかにも文化財保護条例設置の促進に関すること等が挙げられている。この状況からみて、教育事務所への文化財専門職員の配置は、埋蔵文化財の発掘調査とともに、市町村の文化財保護行政の体制整備が大きな目的であったことが分かる。

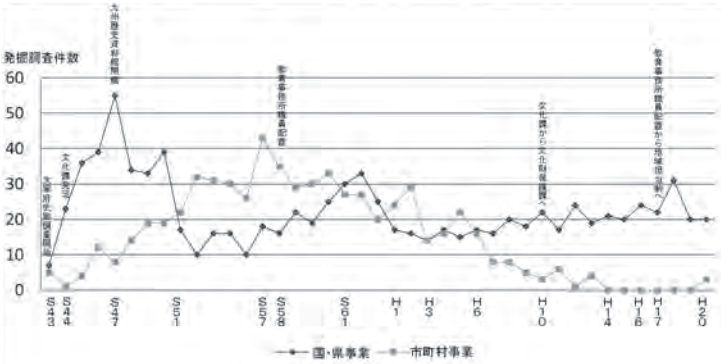
教育事務所における市町村文化財保護行政の体制整備に係る事項については、組織的役割として認識されていた。その後も、「文化財専門職員の配置について」（平成 3 年 2 月 18 日　筑豊教育事務所長）、「文化財担当専門職員の配置について」（平成 3 年 3 月 30 日　京築教育事務所長名）等、教育事務所長名で管内教育長宛に発出された文書にみることができる。特に京築地域については、昭和 61 年より本格化する椎田道路関係の調査とともに、圃場整備に伴う発掘調査が計画され、市町村における文化財専門職員の配置が求められた時期である。この時期以降、筑豊・京築地域の市町村では、多くの文化財専門職員が採用・配置されることとなった。

「教育事務所体制」の展開と理念の浸透

教育事務所社会教育課に配置された文化財専門職員は、全ての類型の文化財の担当として多様な業務に関わることとなり、地域の文化財保護行政を推進する役割を担った。時には、埋蔵文化財発掘調査の事業量の増加から、福岡・京築教育事務所では複数の職員が配置されたこともあった。また、当初の目的であった、県内市町村の体制整備に係る、埋蔵文化財を中心とした文化財専門職員の配置も着実に進んだ。県内の市町村職員は、昭和 59 年 85 人、昭和 61 年 111 人、平成元年 145 人、平成 6 年には 204 人に達した。そして、平成 9 年以降は 230 人強で推移し、平成 16 年には 230 人、81 ／ 94 市町村に文化財専門職員が配置された。

教育事務所の文化財専門職員は、管内文化財保護行政の現状や課題、ニーズを踏まえて、市町村職員を対象とした文化財専門研修会、地域の文化財保護に指導的役割を担う人を対象とした文化財指導者講習会を企画・開催した。また、地域と連携した文化財めぐりについても直接担当した。

平成 6 年（1994）、教育事務所社会教育課指導班から生涯学習課文化班となり、文化財専門職員はこ



第 3 図　本県における埋蔵文化財調査の推移

こに属した。この時期、「学社連携」、「学社融合」という言葉と共に、生涯学習の場における文化財の役割が増した。例えば、埋蔵文化財をはじめ、文化財そのものの専門性を中心とする内容であった文化財指導者講習会が、平成9年以降は、「まちづくり」、「博物館活動」、「生涯学習」、「学校教育」など、文化財の活用に関する事例が増加していった(第27表)。また、文化財めぐりについても平成10年度以降、6教育事務所のうち2管内ごとに実施して、地域の特徴ある、様々な文化財を取り挙げた（第30表)。さらに、教育事務所の文化財専門職員が社会教育主事講習を受講するなど、文化財調査の先に活用を見据えていくことの重要性が意識された。教育事務所における文化財保護行政は生涯学習と文化財をつなぐモデルとして、地域に文化財保護行政を浸透させていく役割を担ったのである。

「教育事務所体制」の終焉

教育事務所に配置された県文化財専門職員が、市町村と協定書を交わして、市町村事業の発掘調査に直接関わったのは、平成14年度（2002）が最後であった。

平成15年、6教育事務所の生涯学習課は生涯学習室となった。当時、県全体の組織改編の中で、生涯学習と社会教育の考え方と役割について検討が進められた時期にあたる。また、平成の大合併が計画・進行する中で、郡単位の社会教育振興協議会（社教振）や、地域における文化振興、スポーツ、文化財保護の在り方も変わろうとしていた。この動きと連動して、文化財保護課においても教育事務所の文化財業務の機能的見直しが進められた。

この頃、6教育事務所の文化財専門職員で教育事務所から文化財専門職員を引き上げることについて、月一度の定例会議に合わせて福岡教育事務所文化財作業室で幾度か議論された。その過程で、「教育事務所からの文化財専門職員の引上げと引上げ後の福岡県文化財保護行政」（教育事務所文化財担当 20040729）がまとめられた。そこでは、「個別的な市町村支援から組織的・計画的な市町村支援体制の確立」、「県内全体にわたる埋蔵文化財発掘調査の支援」、などが示された。また、別の教育事務所生涯学習室からは、「文化財担当職員の引上げにともなう課題」がまとめられ、「市町村支援や市町村間格差是正をどう進めるのか」等が示された。「生涯学習・社会教育の一環として文化財の保護・活用、芸術・文化の振興の働きかけ」、「地域的課題をどう解決するか」など、生涯学習・社会教育機能に位置づけられている文化財の課題について具体的に検討された。

写真26　北九州教育事務所　文化財専門研修会
（橋口達也氏「発掘調査の諸問題」）

教育事務所から文化財専門職員の引上げが具体的なものとして認識された頃、平成17年（2005）1月28日、福岡教育事務所において文化財行政担当者会が開催された。「福岡市埋蔵文化財保護行政のあゆみ」（折尾学氏 福岡市教育委員会 鴻臚館担当課長)、「福岡県における埋蔵文化財行政」（橋口達也氏 九州歴史資料館副館長）という内容で、県と市が今日の文化財保護行政の基盤をどのように築き歩んできたのか、そして今後を展望するものであった。その中で、文化財保護行政における「教育事務所体制」の意義、総括の必要性が示された。さらに、同年2月23日、北九州教育事務所において「文化財専門研修会」が開催された（「発掘調査の諸問題」橋口達也氏 九州歴史資料館副館長）（写真26)。この研修会が教育事務所の文化財専門職員の企画による最後の専門研修会となった。

平成17年2月、「文化財保護機構再編に伴う業務内容の変更と対応策」が文化財保護課職員に示された。そして、平成17年4月、教育事務所から文化財専門職員は引上げ、文化財保護課調査第一係員3人が2教育事務所ずつの地域担当として兼務発令された。ここに、昭和58年から22年間続いた本県の「教育事務所体制」は終焉を迎えた。

「教育事務所体制」の歴史的意義

「地域の文化財は地域で守る」。昭和54年の教育長通知を端緒とする、昭和58年の「教育事務所体制」は本県の文化財保護行政上の大きな画期となった。そして、文化財保護を地域行政に浸透させながら市町村の文化財保護体制の充実に大きく貢献し、文化庁をはじめ全国的にも県と市町村の文化財保護行政のあるべき姿として高い評価を受けてきた。この22年間に31人の県文化財専門職員が教育事務所を経験した。

往時に関する聞き取りによれば、教育事務所への職員配置は前年度に決定され、当時の藤井功文化課長より直接会議で説明を受けたようである。また、配置された職員は、市町村教育委員会の発掘調査、文化財保護指導委員との連携など、実際、現地で文化財保護をどのように進めるかという側面が大きかったという。

新設された各教育事務所には文化財作業室が設置され、ここに現場を終えた市町村の文化財専門職員が集い、地域の文化財に関する様々な意見交換が行われた。見方を変えれば、「教育事務所体制」は県文化財専門職員が地域の文化財保護行政を直接学ぶ場でもあったといえる。埋蔵文化財の発掘調査を手掛かりとし、県内各地域に入って市町村と共に模索しながら、地域の文化財保護行政を懸命に切り開いてきた感がある。

なお、「昭和54年教育長通知」、「58年教育事務所会議資料」をはじめとする本県の文化財保護行政資料については、故池邉元明氏が保管されていたものを参考として、本文を起こしたことを明記しておきたい。

2　九州歴史資料館の活動

（1）大宰府史跡調査

大宰府史跡の概要と保護の経緯

大宰府史跡は、古代西海道の中心であった大宰府政庁跡を中心に、大宰府跡、水城跡、大野城跡、基肄城跡の国指定特別史跡に、観世音寺境内及び子院跡 附老司瓦窯跡、大宰府学校院跡、筑前国分寺跡、国分瓦窯跡を加えた８つの史跡から構成され、太宰府市をはじめ、筑紫野市、大野城市、春日市、宇美町、福岡市、佐賀県基山町に及ぶ広大な史跡群である。

福岡県における大宰府史跡の本格的な調査の契機となったのは、戦後の高度経済成長によって、昭和 40 年代に巻き起こった大宰府の保存問題に端を発している。

昭和 40 年代以前、大宰府史跡は、土塁や礎石などの重要地点に限定された範囲の史跡指定に留まっていたため、緑地景観も含んだ史跡全体の保全に対する危機感が高まっていた。福岡県では、昭和 38 年（1963）に大野城跡が位置する四王寺山南麓の大規模宅地造成計画が表面化してきたことを受け、昭和 41 年（1966）10 月に、史跡指定の拡張を国に申請した。これに対し、地元住民による反対運動が展開され、指定拡張は思うように進まない状況であった。

そのため、史跡の地下遺構の重要性を明らかにすることで指定拡張に対する地元の理解と協力を得ようという機運が高まり、昭和 43 年（1968）7 月 1 日に、竹内理三氏（早稲田大学教授）を委員長とする大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足、同年 10 月 19 日、大宰府政庁跡において鍬入れ式が行われ、福岡県教育委員会によって、大宰府史跡の第 1 次調査は開始された（写真 27）。

調査の成果については後述するが、この第 1 次調査における重要な成果の発見と並行して、指定拡張への地元との協議を継続し、双方の妥協点を見出すことにより、昭和 45 年（1970）9 月 21 日、文化庁による大宰府史跡の指定拡張が官報告示され、現在に至っている（25 ～ 27 頁）。

写真 27　大宰府史跡第 1 次調査

このように、昭和 43 年（1968）に開始された大宰府史跡第 1 次調査以降、現在に至るまで福岡県教育委員会・九州歴史資料館によって大宰府史跡の発掘調査は計画的に実施され、現在、大宰府跡、観世音寺、学校院跡等の大宰府史跡調査は約 250 次を数える（119 ～ 121 頁、第 21 表）。また水城跡、大野城跡、筑前国分寺跡の調査についても、関係市町の調査を加えると、水城跡は 65 次（第 22 表）、筑前国分寺跡（第 23 表）、大野城跡は 56 次（第 24 表）は 29 次を数える調査次数となった。報告書一覧については第 33 表に掲載している。

これら計画的な調査については、昭和 47 年（1972）４月に九州歴史資料館が設置されたことで、大宰府史跡の調査が福岡県教育委員会から九州歴史資料館へ移管された。以来、九州歴史資料館が立案する「大宰府史跡発掘調査五ヶ年計画」が、大宰府史跡発掘調査指導委員会の検討・承認を経て、調査が遂行される形となり、現在は第 10 次を数えるに至っている（第 6 表）。また、昭和

計画調査	年度	調査地区
計画調査以前	S46まで	大宰府政庁跡（大宰府跡）、学校院跡、観世音寺、子院跡、政庁周辺官衙跡
第1次５ヶ年計画	S47～51	大宰府政庁跡（大宰府跡）、学校院跡、月山東地区（大宰府跡）、政庁周辺官衙跡
第2次５ヶ年計画	S52～56	大宰府政庁跡（大宰府跡）、蔵司地区（大宰府跡）、学校院跡、観世音寺、子院跡、政庁周辺官衙跡
第3次５ヶ年計画	S57～61	月山東地区（大宰府跡）、学校院跡、観世音寺、子院跡、政庁周辺官衙跡
第4次５ヶ年計画	S62～H3	学校院跡、観世音寺、子院跡、政庁周辺官衙跡
第5次５ヶ年計画	H4～8	観世音寺、子院跡、政庁周辺官衙跡、水城跡
第6次５ヶ年計画	H9～13	水城跡、大宰府政庁跡（大宰府跡）、筑前国分寺跡、学校院跡、政庁周辺官衙跡
第7次５ヶ年計画	H14～18	水城跡、観世音寺、子院跡、政庁周辺官衙跡
第8次５ヶ年計画	H19～23	蔵司地区官衙跡（大宰府跡）、大野城跡（クロガネ岩城門）、政庁周辺官衙跡
第9次５ヶ年計画	H24～28	蔵司地区官衙跡（大宰府跡）、大野城跡（クロガネ岩城門）、政庁周辺官衙跡
第10次５ヶ年計画	H29～R3	蔵司地区官衙跡（大宰府跡）、大宰府外郭線

第 6 表　大宰府史跡発掘調査５ヶ年計画

59 年からは指導委員会も「大宰府史跡調査研究指導委員会」に改称し、考古学・歴史学・建築史学・造園学・土木工学などの学識経験者 15 名の構成となっている（委員の変遷は 118 頁、第 20 表）。

これらの調査成果については、発掘調査開始 10 年ごとの節目に新しい成果を加えた特別展が以下のように開催されている。

10 周年展「甦る遠の朝廷　大宰府」（1978 年）

20 周年展「発掘が語る遠の朝廷　大宰府」（1988 年）

30 周年展「大宰府復元」（1998 年）

40 周年事業は、九州歴史資料館の小郡市への移転開館を間近に控え、特別展は見送られたが、財団法人古都大宰府保存協会との共催により大宰府展示館において「天平追想―古代都市・大宰府の栄華―」を実施するとともに、平成 22 年（2010）には、小郡市への移転開館記念特別展として「大宰府　その栄華と軌跡」を開催した。そして平成 30 年（2018）には、50 周年展「大宰府への道―古代都市と交通―」が開催されている。

発掘調査の周年事業以外にも、観世音寺報告書刊行記念の特別展「観世音寺」（2006 年）、九州歴史資料館移転開館 5 周年記念特別展「四王寺山の 1350 年―大野城から祈りの山へ―」（2015 年）というように、大宰府史跡の調査成果に因んだ展覧会も随時開催してきている。

また大宰府史跡で出土した重要遺物として、木簡については「大宰府跡出土木簡」として令和元年（2019）に重要文化財に指定され、現在木簡以外の出土資料についても、重要文化財指定に向けた調査を実施している。

大宰府史跡の調査成果

前述のように大宰府史跡の発掘調査は、併せて 300 次を越える次数となった（調査次数一覧は 119 ～ 124 頁、第 21 ～ 24 表）。それらの調査成果について、史跡ごとに概観する。

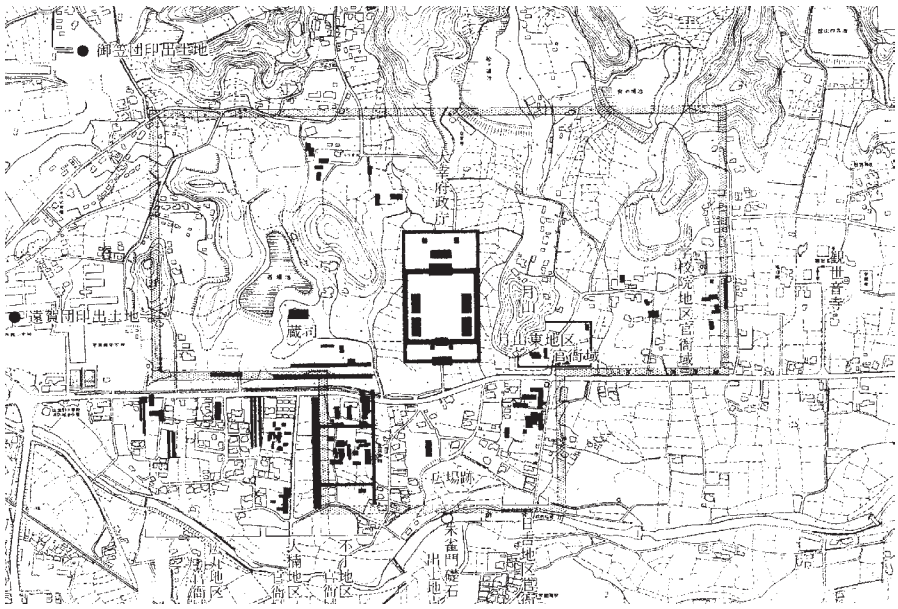
大宰府政庁跡　大宰府史跡の計画的な調査の嚆矢となった大宰府政庁跡では、第 1 次調査は今後の大宰府の調査の基準となる政庁中軸線を導き出すため、南門と中門の調査が行われた。当初は、地表面に残されている礎石が構成する建物群は、創建当初のものと考えられていたが、発掘調査の結果、天慶 4 年（941）5 月の藤原純友の大宰府侵攻によって焼失したのちに建て替えられていたことが、礎石下層の焼土層とそこから出土した「安楽之寺」銘文字瓦によって判明した（Ⅲ期政庁）。さらにその下層には 8 世紀初頭に建設された礎石建ちの建物群が見つかり（Ⅱ期政庁）、建設に先立った地鎮に使用された鎮壇具も発見された。そしてさらに下層で、掘立柱建物によって構成される建物群が発見され（Ⅰ期政庁）、これが 663 年の白村江の戦い後の 7 世紀後半～ 8 世紀初頭段階の所産であることが確認された。

その後、回廊、築地、脇殿、後殿など、政庁各所で発掘調査が実施され、現在、市民に「都府楼跡」の名称で広く親しまれている史跡公園に整備される調査成果がもたらされた。

そして、発掘開始 30 周年となる平成 10 年（1998）に実施されたのが、第 180 次調査の正殿跡の調査である。この調査では、正殿跡の規模や構造を確認するのみならず、最下層のⅠ期段階の掘立柱建物が、Ⅰ期（古段階・新段階）・Ⅱ期造営の 3 つの段階に細分されることが明らかとなった。特にⅠ期新段階における建物配置から、持統朝の飛鳥浄御原令による構築の可能性も指摘されるようになり、7 世紀段階における大宰府政庁像がより具体的に判明した。

大宰府政庁周辺官衙跡　政庁の南側は、指定地外ではあるが、「不丁」の小字名と「府庁」との関連が想定されることなどから、ここに大宰府政庁に付属する官衙群、いわゆる「政庁周辺官衙域」に想定されていた（第 4 図）。

昭和 47 年（1972）に実施された第 17 次調査では、その不丁地区において 8 世紀後半の礎石建物が確認され、その後の調査により、政庁の前面には、東側に日吉地区、広場を挟んで、西側に不丁地区の官衙域が広がっていることが判明した。さらに、不丁地区官衙の東側の南北区画溝 SD2340 からは 8 世紀前半の土器と共に、186 点の木簡が出土した。「薩摩国」「合志郡」「託麻」「大隅郡」など、西海道各地の地名が記載された木簡の他、「天平六年（734）」「天平八年（736）」銘木簡が見つかった。既に昭和 45 年（1970）には、蔵司西地区の流路内から、「久須評」



第 4 図　大宰府政庁周辺官衙配置図

銘木簡が見つかっており、8世紀前後における大宰府と西海道各地とのつながりは明らかとなっていたが、さらにこの発見によって天平期において、西海道諸国から大宰府に調庸物が貢進されていたことが明確になった。

その他、官衙あるいは官人居住域とされる大楠地区・広丸地区、7世紀末～8世紀初頭の金属工房、9世紀段階の造瓦工房が置かれた来木地区、官衙あるいは大宰府の長官である帥の邸宅との説もある月山東地区、政庁後背地区においても関連遺構が数多く見つかった。

平成22年（2010）からは政庁の西側丘陵の蔵司地区において発掘調査が開始され、現在も継続している。当地区は昭和8年(1933)に礎石群が発見され、小字名の「蔵司」から、大宰府に収められた税物を管理する官司の一つ、「蔵司」と想定されていた。10年にわたる発掘調査によって、大型礎石建物SB5000(昭和8年発見の礎石群)の他、その東側には、6棟の礎石建物により構成される倉庫群と広場が見つかり、8～9世紀段階における「蔵司」と想定される。加えて、礎石群下層から、複数の掘立柱建物群が見つかっており、7世紀後半段階のⅠ期政庁との関連が注目されている。

観世音寺・筑前国分寺跡　天智天皇が亡き母・斉明天皇の菩提を弔うために発願したとされる観世音寺は、古代西海道における宗教的な中心でもあった。約40次にわたる調査を行い、報告書を刊行した。

金堂・塔・講堂・僧房（大房）・回廊などの伽藍配置については、『観世音寺資財帳』や『観世音寺絵図』の記載に即した状況が考古学的に明らかにされた他、その周辺の寺域についても広範囲に調査が行われている。

金堂の調査（第188次）においては、Ⅰ～Ⅴ期の変遷が明らかとなり、さらに講堂の補足調査（第126次補足調査）では、創建当初のものと考えられていた現在地表面に見える講堂の礎石群の下層に礎石の抜き取り痕跡が見つかったことで、9世紀以降に講堂の建て替えが行われたことなども判明している（写真28）。

出土遺物についても、「府の大寺」たることを証明する重要資料が見られた。出土品としては、国内にほぼ例を見ない唐三彩の三足壺や、東大寺正倉院宝物に伝わる浄瓶に類似する奈良三彩は正倉院宝物の三彩と同一工房で製作された可能性が高く、共に戒壇を有する重要寺院としてのつながりによってもたらされた結果であろう。その他、「大寺」「東院」「西院」「厨」「安居」などの墨書・刻書土器も、観世音寺の威容たる一端を示していると言えよう。

また、観世音寺に隣接する学校院跡も国史跡に指定され、複数次の調査が行われている。大宰府の官人養成施設であった「府学校」の実態を示す遺構や遺物はまだ見つかっていないが、文様塼が数多く出土しており、古代大宰府を象徴する遺物ともなっている。

その他、観世音寺境内背後に広がる数多くの中世子院群のうち、金光寺や西福寺と推定される地点では、中世子院の中枢部分を調査しており、14～16世紀段階の子院に関連する遺構が確認され、大量の貿易陶磁も出土した。観世音寺境内でも中世の遺構・遺物が大量に出土しており、これらは中世の観世音寺の繁栄ぶりを示す。

写真28　観世音寺講堂の調査

写真29　筑前国分寺塔跡の調査

一方、筑前国分寺跡もまた29次の調査のうち、伽藍中枢部については九州歴史資料館が調査を行っている。塔跡は塔心礎を中心に四天柱礎を配し、その周りに3間×3間の側柱礎石が巡る構造であることや、基壇化粧は下成基壇が花崗岩の乱石積み、上成基壇が瓦積みであることなどが判明した（写真29）。また講堂跡、金堂跡、回廊跡などの伽藍配置がほぼ明らかとなっている。

水城跡　水城跡では現在65次の調査次数を数えるが、その半数以上を福岡県教育委員会・九州歴史資料館が行ってきた。博多から大宰府へと通じる地峡の平野部を遮断した水城は、日本書紀の記載のように、水を蓄えた堀を有するとされていたが、昭和50年(1975)の第5次調査の東門の博多側において、幅約60 mと推測される外濠が確認され、さらには「水城」銘墨書土器も出土しており（写真30）、改めて当時より水城と呼ばれていたことが明らかとなった。また外濠に注水するための導水管であった木樋も検出されている。

水城の東西城門のうち、残存状況の良い西門の調査では、創建当初の７世紀後半、８世紀前半、９世紀段階と、３期にわたる変遷が明らかとなった。創建期のⅠ期は、掘立柱建物の冠木門型式であったのに対し、Ⅱ期になると瓦葺きの礎石型式の八脚門、Ⅲ期には瓦葺きの礎石型式の四脚門へと変遷した。当初は軍事的機能を重視した堅牢な構造であったものが、後に外交使節を迎える壮麗な門へと変貌を遂げていったことが判明した。

大野城跡　大野城跡は、過去 56 次の調査の大半を、福岡県教育委員会・九州歴史資料館が実施してきた。その多くは、史跡整備に伴う調査であり、平成 15 年（2003）に発生した豪雨災害の復旧事業に伴う調査でもあった。大野城跡は水城跡とともに長大な土塁遺構を伴う巨大構造物で、その構築においては、百済の亡命官人が関与したことが日本書紀に記され、朝鮮半島の最新の技術が用いられた。水城跡においては、基底部土塁の最下層部に樹木や葉を敷き詰めながら土塁を構築した敷粗朶の工法が確認され、また大野城跡でも、土塁を積み上げる版築工法の際に使用された柱の痕跡が検出され、積み土の作業単位なども明らかとなった。

また、城門については以前から４か所（太宰府口・坂本口・水城口・宇美口）の存在がわかっていたが、中でも太宰府口城門については、水城西門と同様、掘立柱建物から礎石型式へと変わる３期にわたる変遷が明らかとなっている（写真 31）。そのⅠ期城門の木柱には「孚石部」あるいは「孚石都」と読める刻書が確認されており、城門建設に関わる氏族名または木材搬出等の地名である可能性が指摘されている。

さらに災害復旧に伴う調査の中では、新たに４か所（原口・観世音寺口・北石垣・小石垣）で城門が発見され、中でも北石垣城門では、門の唐居敷の軸受穴に鉄製の軸摺金具が装着された状況で出土し、国内における唯一の出土事例となっている。その後の調査でも、城門は１か所（クロガネ岩）が確認されており、城内に９か所もの城門が設置されるという他の国内の古代山城には見られない特異な状況であることなども判明している。

さらなる大宰府史跡の解明に向けて

以上のように、過去 50 年以上にもわたる福岡県による大宰府史跡の調査概要と成果を概観した。現在も蔵司地区などの大宰府官衙施設の調査研究が進められている。同時に官衙・寺院施設のみならず、条坊域の街区を合わせた古代都市・大宰府の実態の解明も進んだ。特に、近年朱雀大路沿いに大型掘立柱建物や、新羅土器や佐波理とみられる青銅製の匙や椀などの特殊重要遺物が出土する街区は、海外からの使節を饗応するための「客館跡」として特別史跡大宰府跡に追加指定された。

また、条坊内ばかりではなく、平成 28 年（2016）には、筑紫野市若江の前畑遺跡において、丘陵上を数百ｍにもわたって伸びる土塁状遺構が確認され、過去には想定された羅城境界線の近傍にあたることもあり、それが古代大宰府の外郭線を構成する、いわゆる「羅城」ではないかと注目を浴びるようになった。九州歴史資料館では、この前畑遺跡での発見を受け、大宰府史跡調査研究指導委員会に大宰府外郭線部会を設け、関連市町の文化財担当職員と共に、学識経験者の指導に基づき、平成 29 年（2017）から五ヶ年計画で、調査研究に乗り出している。

写真 30　『水城』銘墨書土器

写真 31　大野城跡太宰府口城門

このように、福岡県が大宰府史跡の調査研究を開始して、半世紀を経て、数多くの実像が解明されてきた一方で、また新たに解明すべき課題は残されている。大宰府史跡を末永く保存活用していくためにも、大宰府史跡の調査研究は、今後も進めていく必要がある。

（２）美術工芸

開館と黎明期からの概要

昭和 48 年（1973）２月に太宰府市に開館した九州歴史資料館の、黎明期からしばらくの間の美術工芸担当職員２人が、梵鐘等の金工と仏像をはじめとする彫刻の専門だったこと、そして当館が大宰府管内全域、つまり九州を視野に入れていたことにより、早くから九州における仏教美術の調査研究の中核として認識され、それが美術工芸分野の方向性を定めることになった。以後は館独自の活動を進めつつ、館内他分野や九州大学をはじめと

する大学と連携し、九州山口各県や県内市町村等の協力依頼を受けるなどしながら、存在感を大きくしていった。

昭和63年度（1988）をもって金工の職員が退職した後は、長く美術工芸分野は彫刻の担当1人となり、その職員が3年後に退職を控えた平成7年度（1995）になって、彫刻担当職員が新採されたものの、再び平成10年度（1998）からは1人体制となり、これが再び長く続いた。開館からここまで、仏教美術を中心としながら広く造形遺品を対象とした活動を続け、変わらず仏教美術においては九州全域で活動して開館以来の伝統を継承しつつも、専門性の問題もあり、絵画や工芸等については、十分な水準での対応が行えていなかった。

しかし、平成29年度（2017）に絵画担当職員が新採されたことにより、対応可能な範囲が広がり、仏教美術の調査研究の中核にとどまらない、美術工芸資料なり造形遺品の全体を意識しながらの活動が始まると共に、担当職員が2人に戻ったことで、寺社や個人の所蔵品など、他分野の文化財とは異なる背景や問題をもつ美術工芸資料について、ようやく本来あるべき複数管理体制をとることができるようになった。そして現在、美術工芸担当職員2人は、文化財保護課との兼務辞令を受け、当館の業務のみならず、文化財指定等業務を中心に、文化財保護課と連動し協業しながら、また、他県や市町村等とも一層密に協業しながら、新たな業務に取り組んでいる。

九州の寺社シリーズ

当館の美術工芸分野の仕事として最も広く知られ、評価を受けてきたものは、昭和51年度（1976）に始まった「九州の寺社シリーズ」の刊行である。著名な寺社にも未だ知られざる多くの文化財が存在していることは、文化財関係者の共通認識であるが、「九州の寺社シリーズ」は、各地域の歴史の核となりそれを象徴するような寺社に伝わる文化財を、美術工芸分野に限らず悉皆的に継続調査して基礎資料を作成し、そして要となる資料について報告するという文化財調査報告書である。報告書の後半こそ専門性が高く関係史料も網羅的に収めつつ、所蔵者や関係者に重要性を啓発するため、また広く一般に文化財愛護思想を普及啓発するために、前半は写真を多用した親しみやすい仕様とするなど、従来にはない内容と体裁をもつものであった。

昭和51年度に、栄西や重源ゆかりの誓願寺を採り上げた、『筑前 今津 誓願寺』を第1集として始まり（写真32）、以後毎年基本的に1つの寺社を対象として、美術工芸担当職員を中心に、館内他分野やそれぞれの寺社が存在する県や市町村、大学などと共に調査を行い、成果を蓄積し刊行を続けてきた。展示と連動することもあり、誓願寺や太宰府戒壇院の場合をはじめ、展示図録としての意味をもつものもあるが、体制や予算の問題から基本的に展示は困難であったため、展示図録としての性格は薄く、やはりシリーズを通すと文化財調査報告書としての性格が主ではある。

全体像は本書中の刊行物一覧（156・157頁、第34表）にあるため、ここでは概要のみを記すと、全部で20集が刊行され、その内訳は筑前8、筑後4、豊前1、豊後2、肥前2（うち1は対馬）、肥後1、薩摩1、日向1である。福岡県立の施設でありながら豊前が少ないこと、また、大隅を採り上げられなかったこと等の問題はあるものの、大宰府の解明を務めとする九州歴史資料館にあって、大宰府管内九国二島のうちの八国一島で、「九州の寺社シリーズ」の活動を展開させたことは、大きな成果であったと言える。

なお、「九州の寺社シリーズ」については、文化財関係者からも日々の文化財の直接の守り手たる所蔵者等からも、一般からも支持を受け、また九州歴史資料館協議会などにおいても充実と継続を求める意見が強かったものの、体制に比しての業務量の増大に鑑み、平成17年度（2005）の第20集『筑前 若宮 清水寺』をもって、刊行を休止して今に至る。既に2年に1冊をようやく出すようになっていた中で、福岡県西方沖地震、九州国立博物館開館、当館の移転決定などのことが重なり、業務の逼迫が深刻となったため、移転開館準備に備えるとして休刊したものであった。その際、移転開館なった暁には新たな一歩をとしたが、体制や業務量の問題から果たせていない。多彩な分野の職員を擁する当館ならではの業務だけに、再開ないしは新たな形での出発が課題である。

調査と展示について

美術工芸分野の調査は、長く「九州の寺社シリーズ」にかかるものを中心に行ってきたが、その間も、次の調査対象を意識しつつ九州各地で調査を行い、またそれとは別に、福岡県立の施設として対応するべき県内各地での調査も織り込みながら進めてきた。そのような調査と研究が、文化財指定に結びついた場合も多い。文化財の保護において、文化財の重要性への認識を共有することは重要で、それなくして同意や共感を得ることはできないが、基礎作業である調査研究の蓄積が、指定や保存に効果的に結びついているものである。美術工芸分野においては、九州各県や県内市町村からの依頼による調査や、文化財保護審議会等での指導助言を求められることが開館以来続いており、それが当館らしい成果の蓄積に結びつくとともに館の地位を向上させ、さらなる依頼に結びつくという循環を生んでいる。

九州各県における、その後の文化財保護行政を飛躍させた大型事業への関与だけでも、熊本県や佐賀県における寺社所在文化財の悉皆調査において、彫刻調査の主要メンバーとなり、また長崎県における、大陸渡来文物緊急調査では、陶磁器類以外を一手に担当して調査を進めるなどしたことを挙げることができる。県内市町村での彫刻調査においても、美術館や博物館が少なかった頃は、そのほとんどに当館が関与して、顕彰と保護の基盤をつくる大きな力となって存在意義を示してきた。最近にあっても例えば、県内での首羅山遺跡、宝満山、英彦山と続いた国の史跡指定において、当館美術工芸担当職員が果たした役割は特筆され、県内外での重要調査における

存在感は変わらず大きい。館独自の県内における日々の調査が、基本であることは言うまでもないが、館の予算が限られている中でのこのような依頼による調査は、当館としても先方としても、互いに提供できるものを持ち寄って協業できる意義ある事業となっている。

当館の調査は、九州各県や県内市町村の博物館等施設における展示にも結びついている。そしてもちろん、当館の展示においても、開館からしばしは特別展と常設展示において、また、特別展の継続的な開催が叶わなくなってからも常設展示において、調査の成果を展示し、調査研究が保存活用と有機的に連動するように意識をしてきた。常設展示は、展示空間の関係から展示資料数こそ多くはなく、県内のものに限られるとはいえ、さまざまな時代の作例を揃え、また九州らしく大陸渡来文物も少なからず交えるなど、展示資料の質と要を押さえた内容においては、九州では目を引くものである。

また、平成 22 年度（2010）に小郡市に移転開館してから後は、再び特別展や企画展の予算が継続的に確保されるようになり、美術工芸分野担当のものも既に少なからず開催してきたが、それらの全体については、これも本書中の展示一覧（第 13 表）にあるため、ここでは 2 件の例を示しながら、その志向する所を記しておく。

まずは、平成 26 年度（2014）に開催した特別展「福岡の神仏の世界―九州北部に華開いた信仰と造形―」は、予算規模のこともあり、基本的に展示資料借用先は県内が中心ではあったが、当館の開館以来の調査研究活動の一つの集大成であった。美術工芸分野においては、日々の調査研究で蓄積された成果を展示するという、開館以来の原則をこれからも守っていきたい。

また新たなところでは、令和元年度（2019）に開催した企画展「太宰府天満宮の境内絵図―さいふまいりの江戸・明治―」が、美術工芸資料の全体を意識した活動の本格始動を象徴するものであった。この企画展は、新型コロナウイルス感染症拡大により会期を全うできなかったものの、成果の蓄積を行い次回に期したい。絵画に関しては、福岡藩お抱え絵師の尾形家を中心に、調査研究の蓄積が進んでおり、これも今後展示という目に見える形で成果を示していきたい。

文化財の保護活動

当館では、調査研究活動や市町村等との協業の中で、現地での保管が困難ないし危険であり、かつ当面所在地を離れても地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等を中心に、受け入れを行ってきている。このことにおいては、緊急避難として受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば地元に戻すことを心がけている。当館は通常の博物館ではなく、文化財保護行政の前線拠点であるという性格上、収蔵品を増やすことに重きを置いていない。ただ、環境が整えば地元に戻すことを心がけているとしたものの、近年は地域や寺社のあり方が大きく転換しており、これまで文化財を保存してきた基盤の縮小や弱体化が目立ち、文化財を元には戻せずに、収蔵資料が増えているのが実情である。

また近年では、豪雨等の災害被害を受けた地域の美術工芸資料の緊急避難を受け入れることもある。これは文化財保護課や市町村、そして館内の保存科学分野と協業しながら取り組んでいるものの、地域の伝統的な文化財保護の基盤の縮小や弱体化のみならず、近年の災害の増加に伴う破損やその恐れ、また災害後の温湿度環境の変化や安置場所の破損等に由来する生物被害増大の可能性など、懸念される材料は増える一方であるため、緊急避難施設としての役割は強化してゆく必要がある。一方、関係者で対話を重ね、仏教美術や美術工芸分野にとどまらない、文化財保護の新たな基盤や手法の構築を目指さねばならない。

その他、平成 28 ～ 30 年度にかけての、福岡市美術館のリニューアル工事にともなって、市美術館が所蔵する、薬師如来立像の巨像や仁王像をはじめとする、34 軀の仏像を中心とした東光院旧蔵の文化財一括の一時保管を依頼され、対応したことに代表されるように、博物館や美術館、資料館等からの美術工芸資料の一時保管の依頼にも対応している。東光院の仏像については調査の後、保管中の平成 29 年度に企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」を開催したことも記しておく。

美術工芸分野においては、文化財保護行政の前線拠点にある美術工芸担当として、調査研究と保存活用を有機的に連動させながら、文化財の顕彰と保護にかかる活動を今後も推進する。

最近、ようやく美術工芸資料全体を意識することができる体制になったとはいえ、やはり本来あるべき水準で対応できているのは、彫刻と絵画のみであり、工芸等については十分ではないことが課題である。造形遺品全体としても落としているものが少なくない。しかしそこは当面の間は、考古分野を中心とする館内の他分野と連携してカバーしてゆくしかない。今は、福岡県としてあるべき水準で文化財保護行政を推進していくことができるように、体制の整備を待ちつつ担当職員各人一層の研鑽に努めねばならない。

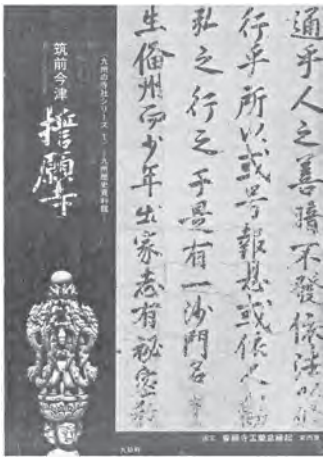


写真 32　九州の寺社シリーズ『筑前 今津 誓願寺』

（3）古文書・典籍（木簡含む）

福岡県の古文書・典籍等の調査研究、保護に関する活動としては、福岡県文化会館が昭和45年(1970)以来、「郷土資料調査」として、古文書の調査と収集を行ってきた。昭和51年（1976）には国庫補助を受けて、福岡県古文書等所在確認調査を実施し、全県調査と重点地域調査を行っている。この郷土資料調査による古文書の調査と収集は、昭和58年（1983）に移転開館した福岡県立図書館に引き継がれ、現在に至っている。

また昭和55年(1980)には福岡県史の編纂が開始され、第1期10年、第2期10年の期間を経て、平成12年(2000)にいったん終了しているが、編纂を担当した西日本文化協会の福岡県地域史研究所も、福岡県史編纂史料として古文書の調査と収集、保管、閲覧等の業務を担ってきた。

九州歴史資料館の調査

福岡県教育庁文化課（文化財保護課）が所管する博物館相当施設として、昭和47年（1972）4月に九州歴史資料館が設置され、翌年2月に開館し、文献史学を専門とする職員が配置された。

しかし、大宰府史跡発掘調査で出土する木簡や墨書土器、刻書土器などの出土文字資料の調査研究と保存、古代大宰府に関する歴史学的研究が中心で、福岡県文化会館や福岡県地域史研究所が担った古文書の調査研究や収集にはほとんど対応していなかった。九州歴史資料館が古文書・典籍等を取扱うのは、「寺社シリーズ」の調査に伴う寺社等の美術工芸品を調査する一環としてわずかに調査を行ったのみである。

なお、昭和48年度（1973）には、九州各県及び山口県に所在する古代から近世にいたる歴史資料（絵画・彫刻・文書・工芸品）の基礎的な調査を行っており、加えて九州の金石文集成も開始した。同年には大宰府史跡第26次調査で、大宰府政庁跡から930点の木簡が出土し、今日総数1300点余とされる大宰府史跡出土木簡の大半を占める成果があった。なお大宰府史跡で最初の木簡が出土したのは、昭和45年(1970)3月7日、第4次調査（蔵司西地区）でのことである。昭和49年度（1974）には、第33次調査で「貞応3年（1224）11月日」の紀年銘がある墨書木札が出土した。

昭和50年度（1975）には、寺社の縁起資料の調査、翌年度には、大分県宇佐市稲積山にあった石造僧頼厳供養碑（妙楽寺に所在）調査など、寺社調査の一環として文字資料の調査が行われた。

昭和54年度（1979）には、太宰府市宮ノ本遺跡の発掘調査で、鉛製買地券が出土した。この買地券の解読は、奈良国立文化財研究所の赤外線カメラを使用して行われ、出土文字資料の調査における赤外線テレビカメラの有効性を認識した。これをふまえて、同年に九州歴史資料館でも同型の赤外線カメラを導入し、以後、木簡をはじめとする出土文字資料の調査に活用された。

平成4年度（1992）には寄贈された柳川藩今村家資料の調査を行い、寄贈品目録を刊行した。

平成6年度（1994）には太宰府市の陶山家所蔵資料の調査・整理を行った。陶山家資料には、月形洗蔵や野村望東尼、五卿関係資料が含まれる。

平成8年（1996）には宮崎市佐土原の大光禅寺の調査に伴い、中世文書等百数十通を撮影・調査した。平成元年（1989）には、福智町の興国寺文書の調査を行った。これらも寺社調査の一環としての古文書調査である。

平成13・14年度（2001・2002）には、大宰府史跡出土文字資料（木簡・墨書土器）の全体にわたって、現状把握のための整理と調査、文字情報のデータ化を行った。

平成14年3月には『大宰府政庁跡』が刊行され、これに伴い、政庁跡出土木簡や墨書土器等の再調査が行われた。以後、正式報告書の刊行にあわせて、大宰府史跡出土文字資料の再調査を継続して実施している。なお、この大宰府史跡出土文字資料の再調査の成果は、九州歴史資料館で随時展示公開されている。

平成15年（2003）には、東九州自動車道の建設に伴う発掘調査が進行し、豊前地域で新たに木簡や墨書土器が出土するようになり、この年は苅田町雨窪遺跡群出土木簡を調査した。同年から翌年にかけて、奈良文化財研究所による大宰府史跡出土木簡の赤外線デジタルカメラでの撮影が行われ、また大刀洗町下高橋官衙遺跡出土墨書土器の調査など、県内市町村の発掘調査で出土した文字資料の解読等にも随時協力している。

平成17年（2005）、奈良文化財研究所と協力した大宰府史跡出土木簡の調査成果の公開として、同研究所ホームページの「木簡字典」に大宰府史跡出土木簡の画像データを提供した。久留米市三潴町塚崎東畑遺跡出土丹塗磨研土器の墨書状痕跡の調査と成果の公表も行った。

平成18年（2006）、観世音寺の正式報告書に観世音寺出土木簡、墨書土器、刻書土器、漆紙文書の調査成果を報告した。漆紙文書は未報告の資料で、赤外線テレビカメラによる調査の結果、宝亀11年（780）具注暦断簡であることが判明した。九州国立博物館において9月15・16日に開催された木簡学会九州特別研究集会の事務局にも参画した。

平成19年（2007）、佐賀県小城市丁永遺跡出土丁亥年（687）銘刻書紡錘車、柳川市矢加部町屋敷遺跡出土木簡、嘉麻市竹生島神社古墳出土墨書土器、田川郡添田町陣屋薬師堂献詠額の解読と調査に協力した。保存科学担当と協力した木簡の保存管理に関する調査を行い、積極的な保存処理とそれ以前の記録の重要性を奈良文化財研究所で開催された木簡ワークショップにて提唱した。

平成20年（2008）、東九州自動車道の建設に伴う行橋市延永ヤヨミ園遺跡の発掘調査で出土した木簡の調査を行った。この木簡と後に発見される墨書土器は、当該遺

跡が豊前国草野津であるとの推定を導く重要な資料となった。この他、朝倉市須賀神社棟札の解読と調査に協力し、また水城跡正式報告書のため、水城に関する古代史料を集成した。木簡づくりなど、木簡の教育普及活動に関する調査研究を行い、奈良文化財研究所の木簡ワークショップにて紹介した。

近現代史料への対応

平成23年（2011）、前年の九州歴史資料館の小郡市への移転開館に伴い、近世・近現代史に関して、本格的に調査研究を開始する。福岡県地域史研究所が保管していた福岡県史編纂史料15万点が、県総務部行政経営企画課から移管され、閲覧・レファレンス、未整理史料の整理を引き継ぐことになった。

また平成17年（2005）3月に閉校した筑豊工業高校資料の受け入れと調査・整理作業を行い、企画展を開催して成果を公表した。みやま市の野田卯太郎関係の史料の調査・整理作業を行い、大野城市目加田文庫の調査を実施した。その他金子智子氏、長谷川暁氏の資料寄贈も受け入れている。

この小郡市移転を契機に、従来福岡県立図書館や福岡県地域史研究所が担って来た古文書調査の機能を、九州歴史資料館が継承することになった。

平成24年（2012）、県史編纂史料のうち、庄崎家資料、花瀬村庄屋文書、山北村庄屋文書、絵はがき資料を整理し、ホームページで目録を公開した。また添田町による英彦山の総合調査に協力し、中核となる神社や旧座主家文書（高千穂（上）文書）を調査した。さらに福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査の一環として、関係文献資料調査を実施した。この調査は報告書の最終巻を刊行した、平成28年度（2016）まで継続した。九州国立博物館に協力して武雄鍋島家資料、上田家文書（熊本県天草市）の調査も行った。夜須郡三牟田村（筑前町）で酒造業を営んでいた金子家文書を受け入れた。

平成25年（2013）、太宰府市陶山家資料を再調査し、成果を企画展「五卿と志士」において公表した。また英彦山の文書調査、武雄鍋島家資料の調査も継続している。

平成26年（2014）、木簡等の調査成果も掲載した不丁地区の正式報告書が完成し、それを記念して特集展示「大宰府の役所―大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区成果展―」を開催した。赤外線スキャナを用いた筑紫野市の大宰府条坊跡出土墨書土器等の調査にも協力している。野田卯太郎文書の整理・調査の成果を企画展「政治家 野田卯太郎から見る日本の近代」で公表した。英彦山の松養家など坊家の文書調査も継続した。

平成27年（2015）、新たに赤外線カメラを導入し、山口県の長門鋳銭司跡、長登銅山跡、周防国府跡出土木簡を調査した。英彦山の文書調査の成果を添田町の報告書に掲載し、小倉藩主小笠原家に関する文書群である小笠原文庫の調査を行い、成果を企画展「小笠原文庫から見た幕末維新」にて公表した。伊東尾四郎文書にみえる九州地方行政協議会の調査も実施している。

平成28年（2016）、大宰府史跡出土木簡の国の文化財指定に向けた状態確認と照合を開始した。この他、柳川市本町遺跡出土木簡など県内出土文字資料の調査も行った。平成26年度（2014）から継続して、古代都市大宰府の構造と機能、その時代的変遷を明らかにするため、出土文字資料をはじめとする特殊遺物の集成や、近世の絵図および明治期の地籍図の調査を行い、成果の一部を企画展「大宰府の役人と文房具」で公表した。

平成30年（2018）、前年度から継続する古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究の成果を、九州国立博物館にて大宰府跡発掘50年記念シンポジウム「展望・大宰府研究　大宰府の官衙―大宰府政庁周辺官衙跡の調査から―」を開催して公開した。また平成28年（2016）からの大宰府跡出土木簡の再調査の成果を受けて、大宰府跡出土木簡113点が令和元年（2019）7月23日に重要文化財指定の告示がなされた。

平成29年度（2017）より福岡県戦争遺跡調査の一環として、自治体史の戦争・軍事関係記述および史料の集成表を作成しており、令和元年度（2019）刊行の報告書に成果を掲載した。同年より久留米市と協力し、古代・中世の高良大社文書を調査した。古代文書については、保存管理班と自然科学的調査を行い、また料紙とその接続関係、印影などについて詳細な調査を行った。成果は令和元年度（2019）特別展「久留米―その歴史と文化―」にて公開し、また当館職員も分担執筆した調査報告書が、同年度末に久留米市より刊行された。

この他、みやま市と協力し、永江文書の中の明治20年代の町村議会の議会史料を調査し、また、福岡県史編纂史料に含まれる永江純一文書を調査し、その成果を企画展「即位の大礼と福岡県」にて公表した。

なお、平成24年（2012）11月18日に福岡共同公文書館が開館したが、公文書以外の古文書・典籍等の歴史資料は、九州歴史資料館が所管することで両者の機能分担と連携を図っている。

九州歴史資料館の移転整備と福岡共同公文書館の開館により、古文書・典籍等の調査研究や保存、公開については以前よりも充実したとはいえ、寺社や旧家に膨大に伝来する古文書等の歴史資料の調査研究や保存の体制は脆弱であり、県と市町村において、専門職員の配置や保存施設の整備を今後とも積極的に進めなければ、対応しきれない状況にある。大学における日本史専攻学生の減少など、この分野を担う人材育成も大きな危機を迎えており、50年の保護活動を経て、依然として課題は山積している。

（4）考古

九州歴史資料館の開館時、考古資料の展示・収集・整理・保存・調査研究を行うため、学芸第二課が設置され、平成 20 年度に学芸調査室学芸班に改変された。設置当初は 4 人体制であったが、現在は考古担当 1 人が配置されている。ここでは、九州歴史資料館学芸部門の考古担当で担ってきた業務のうち、大野城跡の発掘調査を除く（66 頁）、業務について記述する。

九州古代官衙遺跡の調査

朝倉橘広庭宮跡の発掘調査　7 世紀後半、時の斉明天皇が造営した「朝倉橘広庭宮」は、大宰府成立に先立つ宮として重要であることから、大宰府調査と併行して開館間もない昭和 48 年（1973）から 3 ヶ年かけて、学芸第二課を調査担当として、現朝倉市須川の比定地の一つを確認調査した。結果としては、宮跡関連の遺構は確認できなかったが、長安寺廃寺の寺院遺構を検出している。成果は『朝倉橘広庭宮跡伝承地第 1 ～ 3 次発掘調査報告』として報告した（29 頁）。

朝倉橘広庭宮の調査が終了した昭和 51 年度（1976）からは、九州・山口全域における各国府ならびに官道関係の調査及び九州山口の国府出土をはじめとする土器・陶磁器の資料収集を行った。

九州古代官衙遺跡の調査は、昭和 53 年度（1978）で終了したが、その成果は昭和 51 年度（1976）の特別展示「九州の奈良・平安陶磁」、昭和 53 年度（1978）の特別展示「甦る遠の朝廷 - 大宰府展」で成果の一部を公開した。

考古基準資料調査

昭和 54 年度（1979）からは、福岡県を中心とする九州各県の出土遺物のうち、基準となる資料を調査研究、収集、整理する「考古基準資料調査」が考古担当の調査研究のテーマとなり、現在まで継続して実施している。当初は大宰府史跡の調査と同様、5 ヶ年計画で考古基準資料調査を行っていたが、担当者の異動や専門により、ほぼ数年毎にテーマを変えて実施している。

特に大きな成果としては、昭和 54 年度（1979）に実施した弥生時代の青銅武器を対象にした「青銅の武器」展（420 点展示）がある。これはできる限り実物の調査を行うとともに、その来歴を含む情報を整理した図録を刊行し、展示と併せて高い評価を得ている。

以下に、その後の調査研究内容を記述する。なお、考古関係特別展示などの展示については、第 13 表、刊行物は第 34 表に掲載した。

昭和 57～60 年度　中世を中心とする石造物
昭和 61 年度　弥生時代～古代の金属製遺物
昭和 62 年度　古代における漆器生産
昭和 63 年度　古代官衙出土土器、特に墨書土器、中世の在銘石造物の探査・確認作業
平成元年度　縄文時代早期～前期の土器とその交流
平成　2 年度　縄文から弥生文化に転換する文化の接点、弥生から古墳文化に発展する過渡期の文化様相研究
平成　3 年度　弥生時代のガラス生産
平成　4 年度　古墳時代の武器
平成　5 年度　弥生から古墳時代にかけての祭祀（葬送儀礼、銅鐸銅矛信仰、水神信仰等）
平成　6 年度　南筑後地方の礫石器、面の上 1 号墳、経筒・経塚
平成　7 年度　副葬鉄器、豊前坊経塚
平成　8 年度　日永遺跡出土銅戈・銅矛、木工用具、高山経塚出土品、虎ノ尾窟
平成　9 年度　副葬鉄器、経筒・経塚、石器製作実験
平成 10 年度　古代・中世を中心とした鉄製品、経筒・経塚、市町村指定考古資料
平成 11 年度　古代・中世を中心とした鉄製品、市町村指定考古資料
平成 12 年度　古代・中世を中心とした鉄製品（真浄寺 2 号墳出土品）
平成 13 年度　大宰府周辺の金属生産遺物
平成 14 ～ 16 年度　大宰府史跡出土青銅製遺物の自然科学的調査
平成 17 年度　豊前地域出土銅鋺の材質分析
平成 18 年度　若杉向ノ井経塚出土経筒保存科学的調査
平成 19 年度　村山健治収集資料、峠山遺跡出土品
平成 20 年度　有茎式磨製石鏃の調査、漁労具
平成 21 年度　南筑後地域の甕棺、内面朱付着土器、勝浦峯ノ畑古墳出土資料、三沢遺跡、岩﨑光収集資料
平成 22 年度　後漢鏡
平成 23～27 年度　県内山岳霊場遺跡出土資料（H29 まで）、重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土土器保存修理事業（H27 まで）
平成 28・29 年度　出土陶硯の調査研究、手書き遺構実測図の CAD 化作業と遺構分布の空間分析（H30 まで）
平成 30～令和元年度　古代玄界灘における漁労活動（R3 まで）、山岳霊場・信仰遺跡における空間構造の復元的研究
令和　2 年度　戦争遺跡、幕末の城

その他　考古資料の所在調査

平成 6 年度に県内の小・中学校、高等学校等に対し、発掘調査出土品以外の考古資料の所蔵の有無とその内容についてアンケート調査を行っている。

（5）保存科学

福岡県において保存科学を行政として本格的に推進するようになったのは、昭和47年（1972）4月の九州歴史資料館設置からである。九州歴史資料館設置の趣旨には、出土品の修理を行い、保存することが明記されており、開館当初から保存科学は調査研究業務の一つとして位置付けられていた。

設置時は、学芸第二課が所掌し、職員1名が配置された。この当時、保存科学設備を備え、専門職員を配置していた機関は、東京国立文化財研究所、奈良国立文化財研究所、元興寺文化財研究所のみで、当館は関西以西、そして都道府県立博物館等文化財保存施設において初の保存科学を主要業務とする施設であった。その設備は、保存科学室に真空凍結乾燥機、鉄器処理機（樹脂含浸装置）、燻蒸室に燻蒸装置が設置された（写真33）。

開館後の活動として、保存処理は大宰府史跡および県内の発掘調査による出土遺物を中心に、県内市町村が主体となる発掘調査の出土遺物、さらに九州各県や中国地方のほか、遠くは福井県一乗谷朝倉氏遺跡出土遺物の保存処理を受け入れ、地域や機関を分け隔てることなく、広く対応していた。これらの中には現在、国指定文化財になっているものも多くあり、遺物の保存に大きく貢献してきた。このほか、遺物・遺構取り上げ等発掘現場での処置のほか、美術工芸品、古文書等の燻蒸処置、文化財保存に関する講習会（昭和48年から全9回実施、第14表）を行い、保存科学の裾野を広げてきた。

このように、開館当時から当館は、文化財保存のセンター的機能を果たし、その礎を築いてきた。

その後、県内では昭和57年（1982）、福岡市埋蔵文化財センター開設、平成7年（1995）、太宰府市文化ふれあい館開館、平成11（1999）年、福岡市埋蔵文化財センター大規模改修・増築、平成17（2005）年、九州国立博物館開館と、県内でも保存科学施設整備とそれに関わる専門職員の配置が進んだ。その一方、当館は、設備の老朽化、狭隘化、科学分析機器の不備により多様化する保存技術への対応が困難になってきた。また、出土遺物の保存処理に終始し、美術工芸品、古文書等文化財全般の保存科学的調査研究、保存環境整備への対応は大きな課題であった。

そこで平成15年（2003）からの将来構想検討委員会による検討を経て、平成22年（2010）小郡市への移転整備を機に保存科学機能を再整備し、施設を一新した。

移転した施設では、①所蔵文化財の保存処置・保存対策、②保存に関する地域への支援・協力、③文化財の事故等緊急時の保存対策を機能の柱として、機器設備を導入した。特筆するものとして、X線ＣＴスキャナ（以下、ＣＴと略）、モバイル型蛍光Ｘ線分析装置、二酸化炭素・酸化エチレン併用型有害生物処理装置がある。

写真33　旧九州歴史資料館の保存科学室

特に都道府県立文化財機関において初の導入となったＣＴは、当初からその性能を発揮し、久山町個人蔵如来形坐像、飯塚市山王山古墳出土象嵌円頭大刀柄頭、大野城市古野遺跡出土経筒、福岡市元岡Ｇ６号墳出土庚寅銘大刀の調査そして古賀市船原古墳では、平成25年(2013)の発見当初からＣＴを駆使し、国宝級といわれる豪華な馬具等の新発見を導き、ＴＶ等で大きく報道された（写真34)。こうしたCTがもたらす効果は、県内に止まらず、九州各県から近畿地方の機関との調査協力に発展し、広いネットワーク形成へと及んでいる。

保存処理については、未処理量が膨大である木器に対し、最新技術のトレハロースによる処理を開始した。これは適用範囲が広く、かつ処理期間が短縮されることから、木器の保存・活用が大きく前進している。

また、課題であった美術工芸品、古文書等文化財全般への対応として、CT調査のほか有害生物処理の受入、モバイル型蛍光Ｘ線分析装置による、顔料の現地調査等に展開し、文化財全般に幅広く対応できるようになった。

さらに、館内の保存環境を整備し、特別収蔵庫、展示室の温湿度等保存環境の適正な管理を行えるようになり、資料を安全、安心に保存管理できるようになった。保存環境については、県内外の博物館新設、改修時の環境調査支援やカウンセリングへの対応につながっている。

そして、平成29年（2017）7月の九州北部豪雨災害においては、文化財保護課と連携し、被災文化財のレスキューを行い、大量に発生した水損資料の応急処置を行い、災害対応の拠点施設としての機能を新たに発揮した。

移転後の体制は、保存科学を所掌する部署として、平成23年（2011）に保存管理班を設置した。平成24年(2012)に専門職員を1人増員し、現在は2人体制である。

このような保存科学機能の充実により、文化財の保存・活用に保存科学が幅広く貢献できるようになった。令和元年（2019)、大宰府跡出土木簡が国指定重要文化財に指定されたことは、当館の保存科学が全国に先駆けて活動するとともに対象を限定せず、発掘現場から収蔵庫まで一貫した流れを形成し、終始、職員の直営で主体的に

業務を推進してきた成果の到達点である。ここには多くの職員の保存科学に対する理解と連携、協力があったことこそが源泉であることを強調しておきたい。

最後に、福岡県における保存科学の今後は、保存を前提とした活用を推進するために、近年の気候変動に伴う災害発生リスクの増大化に対応した被災文化財レスキュー及び日常的な保存環境管理に関する調査研究、福岡県の特徴を示す、大宰府や装飾古墳の保護のための調査研究、県内市町村への支援強化、これらを推進する体制整備が求められる。

写真 34　発掘現場での遺物取り上げ作業

主な保存処理実績遺跡（S 48 ～ R 2）

【福岡県】

奴山古墳群・竹ヶ元遺跡・津古内畑遺跡・立明寺古墳群・石櫃遺跡・須玖岡本遺跡（梅原資料）・裏の田遺跡・大野城跡・祇園山古墳・竹原古墳・池田古墳・朝倉橘広庭宮推定地・小郡遺跡・五条周辺遺跡・道場山遺跡・水城跡・片山古墳群・吉ヶ浦遺跡・若八幡宮古墳・七夕池古墳群・八隈古墳・湯納遺跡・竹並古墳・五条遺跡・山の前古墳・鈴ヶ山古墳・乙植木古墳群・王城山古墳群・乙金古墳群・勝浦 10 号墳・奴山 5 号墳・塚堂古墳・セスドノ古墳・花そげ 1 、2 号墳・唐人塚古墳・門田古墳・狐塚古墳・名木野古墳群・清田ヶ浦古墳群・東田古墳群・前田山古墳群・門田遺跡・池の上古墳・祇園山 1 号墳・大宰府史跡・古賀町内古墳・西の堂古墳・亀の甲遺跡・観音浦古墳群・久戸古墳群・相原古墳群・百合ヶ丘遺跡・汐井掛遺跡・手光古墳群・神蔵古墳・宮の本 1 号墓・九州横断道調査遺跡・番塚古墳・徳永川の上遺跡・忠隈古墳・井手ノ上古墳・川島古墳・穴ヶ葉山古墳・小郡若山遺跡・以来尺遺跡・隼人塚古墳・牟田尻古墳・新原奴山古墳群・堤当正寺古墳・徳永泉古墳・経塚横穴墓群・諸田仮塚遺跡・小正西古墳・馬渡束ヶ浦遺跡・西新町遺跡・貝元遺跡・永浦古墳・須川ノケオ遺跡・垂水廃寺・阿志岐古墳群・花立山古墳群・伊方石丸遺跡・欠塚古墳・内ヶ磯窯跡・森原 1 号墳・本郷流川遺跡・小伏正田古墳・仙道古墳・観世音寺・新延野田遺跡群・海津横馬場遺跡・浦ノ田遺跡・城腰遺跡・五徳畑ヶ田遺跡・本郷鶯塚 3 号墳・木井馬場井口遺跡・三雲遺跡・建徳寺 2 号墳・本郷鶯塚 1 号墳・正福寺遺跡・三郎丸遺跡・成合寺谷 1 号墳・古月横穴・御笠川南条坊遺跡・向畑古墳群・下高橋馬屋元遺跡・日永遺跡・立野遺跡・椿市廃寺・赤坂 1 号墳・豊前国府惣社地区・宗林寺墓地跡・蒲生大畔遺跡・友田遺跡群・矢加部町屋敷遺跡・蒲船津江頭遺跡・小倉城・黒崎城・若杉向ノ山経塚・宇野谷 1 号墳・野添横穴・伊方古墳・轟尾横穴墓群・雨窪遺跡群・宗石 B 遺跡・筑前国分寺跡・下伊田遺跡群・経塚 3 号墳・見立古墳・小倉城二の丸・小倉城家老屋敷跡・猫迫 1 号墳・観音山古墳群・仙道 2 号墳・下町外畑遺跡・平塚川添遺跡・重住遺跡・神興廃寺・上伊良原榎遺跡・馬場代 2 号墳・長野古墳群・袂水 1・ 2 号墳・延永ヤヨミ園遺跡・太宰府市内薩摩塔・備後守屋敷南側土塁跡・小倉城三の丸・長尾古墳群・三春大碇遺跡・藤の尾垣添遺跡・城山遺跡群・山王山古墳・塔田琵琶田遺跡・五ケ山網取遺跡・池淵遺跡・ハカノ本遺跡・稲童遺跡群・手光波切不動古墳・後牟田横穴墓群・女山長谷古墳・稲童 21 号墳・大宰府条坊跡・冥加塚遺跡・戸山原古墳・皿山古墳群・内橋坪見廃寺・福原長者原遺跡・呰見大塚古墳・ガザメキⅡ -2 号墳・下伊良原竹ノ内遺跡・船原古墳遺物埋納坑・鏡迫古墳群・宮地嶽古墳・時末遺跡・保加町遺跡・上唐原榎町遺跡・原田地区遺跡群・祇園町遺跡・城野遺跡・山ノ神古墳（久山町）・夏吉 21 号墳・大南 A 遺跡・狐が迫横穴群・伊田狐塚横穴群・夏吉 2 号墳・吉井中学校遺跡・久留米城下町遺跡・渡築紫古墳群・三明寺古墳群・龍ヶ鼻権現

【佐賀県】

寄居古墳・久里双水古墳・本村遺跡・藤の木遺跡・神山古墳・土生遺跡・生立ヶ里遺跡・西谷六角遺跡・西福寺遺跡・脊振山上宮東門跡

【大分県】

免ヶ平遺跡・国東町内遺跡・七ツ森古墳・竹田市内古墳・宇佐市内遺跡・臼杵市内遺跡・下山古墳

【熊本県】

熊本大学資料・八反田遺跡・迫原箱式石棺・荻迫横穴墓

【鹿児島県】

別府原古墳・三反田古墳・出水市出土品

【その他】

福井県一乗谷朝倉氏遺跡・広島県内発見鏡・山口県天神山古墳・山口県延行条里遺跡

（6）埋蔵文化財（九歴移転後）

九州歴史資料館の小郡市への移転・開館から約半年後の平成23年度（2011）から、それまで一貫して本庁である福岡県教育庁文化財保護課に置かれていた発掘調査機能を当館に遷す形で発足したのが、文化財調査室である。これによって、大宰府史跡の発掘調査と併せて、福岡県教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査は全て九州歴史資料館を拠点に行うこととなり、当館は県の埋蔵文化財センターとしての機能をも担うこととなった。

埋蔵文化財調査

現在の文化財調査室の主たる業務は、国の機関等と県の事業に関わる埋蔵文化財発掘調査、そして大宰府史跡の発掘調査を中心とする大宰府に関わる調査研究等である。大宰府史跡の調査研究は63～66頁、埋蔵文化財に係わる調査報告書一覧は第32表に記載した。

室の発足当時、東九州自動車道関係、県営伊良原ダム関係、県営五ヶ山ダム関係等の継続事業を抱えていた。

なかでも東九州自動車道は、小倉JCTから大分県境まで、一部で既存の椎田道路を利用する以外は新設の高速道路であり、付随する国・県の事業もある大規模な開発で、平成27年度（2015）までに発掘調査報告書作成を含めた全ての業務を完了させなければならなかった。このため、発掘調査は職員以外にも臨時調査員数名を配置して対応した。こうした対応の結果、東九州自動車道関係では、周防灘沿岸の地域の歴史に新知見をもたらす数々の成果を得ることができた。

行橋市延永ヤヨミ園遺跡は、弥生・古墳時代の竪穴住居跡約900棟が検出された県下屈指の大集落であり、7世紀後半以降の「草野津」の推定地ともなった。同福原長者原遺跡は突出する低丘陵上に官衙域が展開する初期の豊前国府とされ、平成29年（2017）には周辺域を含めて国指定史跡となった。同宝山小出・宝山桑ノ木の両遺跡では室町時代の方形区画の屋敷地が連続して展開する集落で、宝山城の城下町とも考えられた。みやこ町呰見大塚古墳は装飾古墳で（写真35）、従前の分布域の空白地帯を埋める彩色壁画を有しており、出土遺物も豊富で、工法変更により保存されて令和元年（2019）に県指定史跡となった。豊前市塔田琵琶田遺跡は古墳～奈良時代の竪穴住居跡を中心とした大集落で、オンドル状煙道を伴うカマドの比率が高く渡来人の存在を示すものと捉えられた。

伊良原ダム関係では平成18～28年度（2006～2016）に埋蔵文化財発掘調査を実施した。この地区の埋蔵文化財は縄文時代と中世が主体となることが、各遺跡にほぼ共通した特徴といえる。縄文時代では、上伊良原榎遺跡で早期初頭の刺突文土器がまとまって出土しているほか、下伊良原竹の内遺跡では中期にあたる春日式のほぼ完形の土器が出土している。また中世の各遺構は、この地を領有していたと考えられている彦山が最盛期を迎え勢力を拡大する過程を示していると思われる。

写真35　呰見大塚古墳（県史跡）

以上のほかにも国・県等の各種事業に対応しており、県道関係の柳川市西蒲池池淵遺跡では弥生～古墳時代の礎盤式掘立柱建物跡と多数の井戸状土坑を検出し、卜骨を始め多量の遺物が出土した。また、伝習館高校関係の柳川市本町遺跡や河川関係で調査した同上町遺跡・保加町遺跡では柳川城下町の一角の様相が明らかになった。浮羽バイパス関係では弥生時代以来の集落跡である久留米市新開遺跡、山国川築堤事業関係の上毛町下唐原東屋敷遺跡等々の調査を順次実施している。

小郡市三沢遺跡（県指定史跡）は弥生時代の集落跡で、広大な遺跡のほぼ全域が自然豊かな丘陵ごと保存され、九州歴史資料館の隣接地に位置する。平成28・29年度に「九州歴史資料館及び三沢遺跡の整備に係る基本構想」を策定し、県の重点施策事業「ふくおか歴史体感学習事業」として、令和元年度から国庫補助も受けて確認調査を実施しており、今後の整備・活用へと繋げていく計画である。

さらに、現在福岡県はほぼすべての市町村に文化財専門職員が配置されているが、発掘調査体制が整っていなかったり、事業量が過多の場合等には、文化財保護課と連携して協議の上で緊急的に九州歴史資料館から職員を派遣して支援を行っている。

福岡県戦争遺跡調査　平成29～令和元年度（2017～2019）の3か年で、県内に所在する明治以降の戦争遺跡の悉皆分布調査を実施し、今後の保存・活用の基礎資料となる調査報告書を作成した。近現代の「遺跡」に対する保存に向けた取組がなされることが期待される。

福岡県近世窯業関係遺跡調査　戦争遺跡の調査に引き続き、令和2年度（2020）から3か年の予定で、県内に所在する江戸時代以降の窯業関係遺跡の分布調査を実施している。江戸時代を中心とし一部近代に及んで、福岡県の焼物の窯を中心に悉皆調査を行うものである。高取焼・小石原焼・上野焼・須恵焼などを含めた陶磁器類の生産に関する遺跡が把握できると予想される。

展示・活用事業

県内各地に所在する遺跡の発掘調査の成果は、九州歴史資料館の内外でも広く活用している。

毎年「発掘速報展」として、基本的に前年度に調査を行った遺跡を対象に展示・公開し、期間中には調査担当者による発掘報告会等も併せて実施してきた。平成28年度以降は、東九州自動車道関係、五ケ山ダム関係、伊良原ダム関係の各遺跡と、大規模事業の終了ごとに特集的な展示を行った。また、令和2年度は「出土遺物から見た『福岡県の戦争遺跡』」を企画・実施した。

出土遺物など資料の整理・報告書作成業務は、来館者がガラス越しに見学できるようにしているほか「こども考古学体験教室」「中学校職場体験」や「高校生インターンシップ」等でも実際の作業を体験してもらっている。

報告書作成後の出土遺物は収蔵・保管し、一部は当館の展示等に活用するほか、他館・施設への貸出しや資料調査等の要請に対応している。写真資料についても、他館の展示での貸出し、出版物への掲載等にも協力している。また、平成25年度（2013）以降は「収蔵品オンデマンド・飛び出すむかしの宝物」として、出土遺物を職員立会のもとで来館者が直接触れることのできる事業を休日限定で実施している。

研修等

県内市町村の文化財担当職員に対しては、これまでも「埋蔵文化財安全衛生講習会」として安全衛生に関する研修会を行い、知識向上と注意喚起を行ってきた（133頁、第28表）。平成29年度（2017）からは、埋蔵文化財発掘調査の基礎的な内容をテーマとする「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」を実施しており、主に実務経験の少ない市町村の新採職員等を対象としている（写真36）。

文化財調査室の主要業務は、先述の通り遺跡の発掘調査、整理・報告、そして資料の保存・活用であるが、当館全体の活動と相まって実際の業務は多岐にわたる。大規模な開発事業が減少している現在では、業務の比重は、文化財の活用と市町村支援が高まっているといえる。

写真36　埋蔵文化財発掘調査基礎研修

（7）九州歴史資料館分館

九州歴史資料館では、地域の文化財の特徴によって設置目的が異なる以下の3分館を設置している。なお、分館としては当初より地元である豊前市･甘木市（朝倉市）･柳川市に管理運営が委託され、今日まで続いている。

求菩提資料館

求菩提資料館は、全国初の全山が国史跡に指定された豊前修験道の一大霊山である求菩提山とその麓に広がる県内唯一の国の重要文化的景観に選定された「求菩提の農村景観」を含む求菩提山地域の中核的施設としての役割を担う資料館である。

明治初期の神仏分離令及び修験道廃止令によって、修験道に関わる諸資料は放置・盗難・散逸等重要性が認識されない状態が続いていた。しかし、昭和40年代半ばになると、地元市民の間で求菩提山の自然や文化財に対する関心が高まり、福岡県では昭和47年（1972）から求菩提苑地総合公園工事、昭和49年（1974）にはその一角に求菩提山修験道関連資料を展示するための施設として、修験道に特化した展示を行う全国的にも珍しい修験道専門の資料館である求菩提資料館が開館した。

開館当初は福岡県商工観光課が所管する観光施設であったが、昭和50～52年（1975～1977）、県による求菩提山経塚の発掘調査で、銅製経筒・陶製経筒・銅鏡等の多数の経塚関連遺物が発見され、その後「豊前求菩提山経塚出土品」として国重要文化財に指定されたことから、昭和54年（1979）に展示室及び収蔵庫の増設が行われて､県教育委員会に所管替えされて昭和60年(1985)九州歴史資料館の分館とされたことで、資料館としての位置づけがなされた。

その後も昭和63年（1988）、平成9年（1997）に増築改修が行われ、資料館機能は充実したが、近年は施設の老朽化が進んでおり、斜面に建設されたという立地や空調設備の問題などが生じている。

展示としては、平成元年（1989）には県教育委員会に所管替えしてから10周年を記念して10周年記念展「求菩提～祷・行・坊」、平成6年（1994）には開館20周年記念展「幻の仏たち」を開催した。平成9年（1997）の増築改修を記念した特別展「現在チベットマンダラ展」以降、毎年春と秋の2回、企画展や特別展を定期的に開催している。また春の企画展の時期に合わせて、公募による「ふるさと写真コンクール」を行い、入選作品の展示等を行っている。講座としては平成10年（1998）以来「市民歴史講座」を行い、修験道を含めた郷土史学習の場を市民に提供している。

平成17年（2005）には30周年記念展「求菩提山に魅せられた人びと」、40周年記念展として平成26年（2014）には「天狗 山を駆ける」を開催した。平成9年

(1997) には「豊前市史跡ガイドボランティアの会」が発足し、現在まで活発な活動が行われている。

資料館運営体制では、平成 11 年（1999）から専任の学芸員が配置されたことから、多くが未整理のままであった収蔵資料の整理や資料収集が進められている。

甘木歴史資料館

甘木歴史資料館は、昭和 60 年（1985） 5 月、甘木朝倉地方に多く散在している考古・歴史・民俗資料を収集・保管・展示・公開するための施設として開館した。開館当初より九州歴史資料館の分館で、実際の運営は甘木市（現朝倉市）に委託され、県から専門職員（副館長） 1 人を市に派遣し、現在まで館運営にあたっている。

設置の経緯としては、甘木朝倉地方はもともと考古・歴史・民俗資料の豊富な地方であったことから、展示・保管施設の必要性が求められていた。そこで甘木朝倉地方の歴史・民俗を総合的に収蔵・展示・公開するため、県立の地域資料館として開館した。それに加えて、九州横断自動車道の建設に伴う発掘調査により膨大かつ貴重な資料が得られ、これらの資料を展示・公開する施設ともなった。

展示としては、甘木朝倉地方の歴史と民俗をテーマとした常設展示のほか、年間 2 回の企画展を実施し、地域の歴史・考古・民俗・産業・その他の文化・文化財の掘り起こしを行っている。また企画展にあわせて、資料館だよりである『温故』の刊行や歴史バスハイクを実施している。その他、特化した小テーマで短い会期で実施するミニ企画展示や夏休み歴史教室、歴史資料館学習講座「ひみこ」、自主企画展示などを開催し、地域と深く結びついた活動を行っている。

特筆すべき活動の一つとして、平成 29 年（2017）から「石造物調査隊」を結成し、庚申塔の現地調査及び記録作成を行う等、普及事業と文化財情報の充実を併せ持った事業を展開している。

また平成 29 年 7 月、九州北部豪雨災害による被災資料対応の拠点として、県文化財保護課、九州歴史資料館、朝倉市教育委員会と連携し、被災地域の文化財被害の把握と緊急的対応に取り組み、汚泥を被った古文書類や仏像神像、民具を資料館が一時保管するとともに、資料の清掃や整理作業を積極的に進めている（39 頁）。この活動は、地域資料館であると同時に県立施設としての館の特性を活かした取組としてその意義は高い。

柳川古文書館

柳川古文書館は、昭和 60 年（1985）10 月、県南の筑後地方に残る県指定文化財「伝習館文庫」や柳河藩政史料等大名家や家臣家等に伝来した武家文書を中心とする多くの古文書等を収集、保存整理、調査研究、活用公開するための施設として開館した。

全国に「文書館」や「公文書館」はあるが、「古文書館」と冠する館は全国唯一である。開館当初より実際の運営は柳川市に委託され、現在に至っている。以下の内容は『柳川古文書館 30 周年記念誌』柳川古文書館　2017 年をもとに記述した。

古文書館設立の経緯は、県指定「伝習館文庫」は長く県立伝習館高校の図書館で保管されてきたが、管理体制に諸々の問題が生じていたため、「伝習館文庫」は県文化会館、県立図書館等、県立施設を転々とする状況であった。そのため、地元に保管施設を建設すべきとの声が高まり、あわせて旧筑前国や旧豊前国とは異なり古文書の収蔵施設がなかった旧筑後国の古文書の収集・保管・調査研究の拠点として、昭和 60 年（1985）に設立当初より九州歴史資料館の分館として開館した。

古文書館の活動として、県南地域の文書調査を毎年継続して実施することが特徴で、その成果は『安東省菴史料目録』を最初とする『柳川古文書館史料目録』として継続的に刊行されており、その活動は全国的にも知られる。昭和 63 年（1988）からは立花家史料館との連携により、古文書館が同館の文書調査を実施し、その成果をもとに平成 5 年（1993）には「大友家文書」、平成 16 年（2004）には「立花家文書」が国指定重要文化財に指定された。他にも平成 11 年（1999）の「鷹尾神社大宮司家文書」の国指定重要文化財の指定にも古文書館が重要な役割を果たした。

その後、平成 5 年（1993）から柳川市の市史編纂事業が始まり、古文書館はその編纂活動拠点となったことで、学芸員 2 人から 3 人及び嘱託の増員と職員体制も強化された。これら諸事業の一体化した活動により、単に文書史料に留まらず様々な史料が収蔵され、高いレベルの調査研究が現在も行われている。

また柳川市及びその周辺には充分な博物館・美術館施設がないことから、開館以来それらの機能の一部を代替してきた。近年は古文書と併せて刀剣や甲冑等の道具を保管してほしいとの要望も強く、古文書館としての性格にとどまらず、そうした道具類を収蔵することも多くなっている。

展示活動としては、常設展のほか企画展を年 1 回程度開催し、その他年間を通した古文書講座を実施している。平成 7 年（1995）には開館 10 周年記念展「筑後鷹尾文書」、平成 17 年（2005）には 20 周年記念展「田中吉政とその時代」、平成 27 年（2015）には開館 30 周年を記念し、特別企画展「世界のなかの安東省菴」及び同名の国際シンポジウムを開催した。

3　文化財の普及公開事業

（1）文化財保護課の会議・普及公開事業

文化財保護行政に対し理解と協力を得ることは、文化財保護行政を進める上で重要であることから、文化課（文化財保護課）ではこれまで市町村をはじめとする、関係者などを主な対象として、様々な会議、研修会、普及活動を行ってきた。

文化財保護行政に係る会議・研修会

現在、文化財保護課が主催する主な会議・研修会としては県内6教育事務所ごとに年2回行う「文化財行政担当者会」、県内全ての市町村を対象にして年1回行う「文化財担当職員研修会」（126～128頁、第26表）、文化財に対する理解を促進するための「文化財指導者講習会」（129～132頁、第27表）、九州歴史資料館が開催するものとして発掘現場の安全管理のための「埋蔵文化財安全衛生講習会」（133頁、第28表）、新規採用文化財専門職員等を対象にした「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」（年間10回程度）を実施している。

まず昭和44年（1969）に県内市町村教育委員会の文化財を所管する担当者を対象にした文化財指導者研修会（現文化財担当職員研修会）を2日間実施している。内容は1日目に九州大学岡崎敬助教授の講義と県内市町村からの事例発表及び連絡事項の伝達を行い、2日目は大宰府政庁跡発掘現場をはじめとする発掘調査現場をバスで巡る現地研修からなる内容であった。また同年度に県内4地区で地区別の文化財指導者講習会（現文化財行政担当者会）を1日間実施している。この昭和44年は文化課が発足し、組織体制も充実した年である。現在と詳細は異なるものの、県内全域及び地域ごとに開催するという現行の会議・研修会の基本形がこの年に作られたことは注目される。この文化財指導者研修会は昭和50年に市町村文化行政担当者会議として、県内4地区で開催されるようになり、地域の特性に応じて地区ごとの文化財保護行政の課題の解決を図るという、県文化財保護行政の基本方針が確立されたことが窺える。

昭和45年（1970）には市町村文化財保護行政事務担当者会議・文化財保護行政担当者研修会、文化財指導者講習会という構成内容になっている。また45年から環境週間記念行事として文化財めぐり（糸島地域）がはじまっているが、現在文化財めぐりは文化財保護強調週間の事業となっている（135頁、第30表）。

昭和47（1972）年には市町村教育委員会文化財行政担当課長会議が開催され、昭和50年（1975）からは市町村教育委員会文化行政主管課長会議となっているが、市町村主管課長向けの会議はこの年度で終了している。また50年度から年1回の歴史民俗資料館職員等研修会（134頁、第29表）、昭和54年（1979）から年1回の市町村文化行政担当者会議、年2回の文化財指導者講習会、歴史民俗資料館職員研修会という体制になったが、昭和58年（1983）の機構改革により16教育出張所から再編された県内6教育事務所に文化財専門職員が配置されたことに先駆けて、昭和55年（1980）から文化財指導者講習会は教育事務所管内地域ごとに開催されるようになった。

ふくおか歴史彩発見事業

ふるさとの歴史・文化のすばらしさを再発見し、伝えていくために、平成17年度（2005）から始まった事業である。県内市町村が行う文化財関連イベントの周知や、参加促進などのため、県内文化財のガイドブックやのぼり等を作成し、「ふくおか歴史彩発見」と銘打って、一斉公開を行った。これは文化庁主催の文化財保護強調週間（11月1日～7日）を含む時期に合わせて、今日まで継続的に実施している。

また、平成19年度（2007）から「福岡歴史ロマン発信事業」として、「邪馬台国」に関するシンポジウムを3ヶ年連続で実施した。

平成20年3月　2日　「九州VS畿内」
平成21年3月　1日　「卑弥呼は九州にいた!?」
平成22年3月22日　「邪馬台国は九州だ!!」

九州北部三県姉妹遺跡

平成11年（1999）1月21日、飯塚市で開催された九州北部三県知事懇話会において、福岡県・佐賀県・長崎県の三県知事により九州北部三県「姉妹遺跡」締結書が交わされた。三姉妹遺跡は、弥生時代の大規模な拠点集落遺跡である福岡県「平塚川添遺跡」、佐賀県「吉野ヶ里遺跡」、長崎県「原の辻遺跡」を指し、これらの遺跡の共同研究、情報交換を行い、九州北部三県の歴史・文化に関する情報を全国へ発信することや観光などの新しいネットワークの拠点とすることを目的とするものであった。

姉妹遺跡締結記念事業として、平成11年度から3ヶ年、各県がそれぞれ主催する「三遺跡交流こどもフォーラム」を開催した。三県から参加したこどもたちをグループに分けて、遺跡見学や体験事業を行い、弥生時代の研究者から直接講義を受けた。また、弥生時代の食料、政治、風俗などのテーマごとに子どもたちが討論を行い、その成果を発表した。

○平成11年（1999）（8月4日（水）～5日（木））
　場　所：長崎県　原の辻遺跡
　参加者：小学6年生108人（長崎県48人、佐賀県31人、福岡県29人）
　内　容：土器復元、発掘体験、展示館見学、講義（佐原真）

○平成12年（2000）（8月3日（木）～4日（金））
　場　所：佐賀県　吉野ヶ里遺跡

参加者：小学 6 年生 101 人（長崎県 32 人、佐賀県 39 人、福岡県 30 人）

内容：遺跡見学、発掘体験、遺物観察、講義（佐原真）

○平成 13 年（2001）（8 月 2 日（木）～ 3 日（金））

場所：福岡県　平塚川添遺跡

参加者：小学 6 年生 110 人（長崎県 38 人、佐賀県 30 人、福岡県 42 人）

内容：遺跡見学、古代くらし体験、講義（酒井龍一）

また平成 11 年の締結以降、「九州北部三姉妹遺跡連絡会議」を実施し、情報交換等を継続して行ってきた。姉妹遺跡締結 10 周年となる平成 20 年度（2008）には、九州国立博物館を会場として記念事業を実施した。

・トピック展示　8月20日（水）～11月16日（日）

・体験事業　長崎県：壱岐市（8月23・24日）
　佐賀県：神埼市・吉野ヶ里町（8月30・31日）
　福岡県：朝倉市（9月6・7日）

・パネル展示　8月23日（土）～9月7日（日）

・シンポジウム　9月13日（土）

「よみがえる弥生都市　邪馬台国時代のまちづくり」

基調講演　金関恕

基調報告　七田忠昭（吉野ヶ里遺跡）・宮崎貴夫（原の辻遺跡）・川端正夫（平塚川添遺跡）

パネルディスカッション

高島忠平、金関恕、武末純一、寺澤薫、広瀬和雄

魏志倭人伝のクニグニネットワークへ

姉妹遺跡 10 周年を契機として、弥生時代の拠点となる遺跡が所在する三県の市町村を含め、平成 21 年（2009）に「魏志倭人伝のクニグニネットワーク」を発足させ、連携の輪を広げた。

福岡県：福岡市、飯塚市、春日市、朝倉市、糸島市、宇美町

佐賀県：唐津市、神埼市、吉野ヶ里町

長崎県：対馬市、壱岐市

クニグニネットワーク発足以後は、連絡会議を毎年開催し、情報交換を行うとともに、イベント情報の発信を行っている。また募集によりロゴマークの制定を行った。

三姉妹遺跡締結 20 周年及びネットワーク締結 10 周年となる平成 30 年度（2018）には、九州国立博物館でシンポジウムを開催した。

・シンポジウム　8 月 26 日（日）

「クニグニをつなぐ道をたどる」

基調講演　西谷正

事例講演　早川和子

リレートーク　講演者及びクニグニネットワーク参加自治体担当者

（2）旧福岡県公会堂貴賓館の普及活動

活用にむけた整備と指定管理者の導入

建造物の活用と言えば、昭和の終わりまでは復原された室内を見学して、文化財的な価値を実感してもらう、それが当然の時代であった。旧福岡県公会堂貴賓館も同様で入館料を払い、満足な展示・解説もなく室内をただ見学するという期間がしばらく続いた。しかし、福岡県西方沖地震に伴う災害復旧事業を契機に、貴賓館の活用のあり方を見直そうとする機運が高まった。会議、展示、ミニコンサートなど多様な活用の受け入れに必要な最低限の設備を準備することを目的に、別棟で水洗トイレを作り、各部屋にコンセントを引き、冷暖房のための空調を設置し、電話室を改装して厨房を新たに整備し、新たな活用の試みが始まった。ささやかだが、展示のあり方も工夫され、手作りで建物概要や修理時の状況をまとめた解説パネルなどが設置されて文化財の情報提供が行われるようになった。

平成 21 年（2009）4 月から貴賓館単独で指定管理者制度を導入することになり、JMK 都市造園グループが選ばれた。同年には、来訪者に対するサービス向上の一環として飲食の場を提供することが指定管理者から提案された。文化庁の指導を仰ぎながら、一階東半分のスペースを利用して、食品衛生法等の関連法令に準拠しつつ、旧電話室を厨房に改修して水廻り等の整備を実施し、平成 21 年 9 月から旧食堂を中心とした民間業者によるレストラン運営が始まった。なお、平成 29 年度から㈱日比谷花壇に指定管理者が変更されたのを機にレストランは閉鎖され、旧食堂では喫茶のみのサービスとなったものの、㈱日比谷花壇による新たな様々な取組が展開している。

展示施設の整備

ここ 10 年でＩＴ・映像技術の進展、観光立国、多言語化など文化財を取り巻く環境は目まぐるしい勢いで変化し、更なる観光資源としての魅力を向上させるための情報発信の強化が求められるようになった。この頃、国内からの福岡県への観光はもとより、国外からの観光客が著しく増加し、令和になる頃は貴賓館周辺の観光スポットは外国人ではちきれんばかりの状態にあった。こうしたことを背景に貴賓館が建つ公園の再整備の検討が始まり、観光客も利用できるよう公園全体の見直しとともに商業施設の設置が計画された。当館でも多様なニーズに対応するため、自慢のボランティア解説を最大限活かすことを前提に新たな展示づくりに取組むことになった。そのいくつかをご紹介したい。

サイン（外部及び室内）

・建物正面の西側端に総合案内板を設置し、公園内を通行する方への基本情報を提供。

・館内案内用として、１・２階の階段手前に各階の間

写真 37　貴賓館建築展示コーナー（旧休憩室）

取り図を示した室内全体の案内サインと各部屋の入口部分に室名を書いたスタンド型サインを設置。

ミニシアター（１階遊戯室）

・第13回九州沖縄八県連合共進会と天神地区の近代化に焦点をあてながら、迎賓館として建設された貴賓館の建物概要を映像とパネルで紹介。

建築展示コーナー（１階休憩室）（写真 37）

・旧福岡県公会堂貴賓館を設計した三條栄三郎の経歴と業績、貴賓館の見どころ（床と天井）、福岡県内の国指定近代建築（洋風建築）を展示パネルで紹介。

・昭和60年代の修理の際に見つかった金物・タイル等の部材を展示、その一部と壁紙を実際に触れることができる体験コーナーを設置。

レトロ映像（２階談話室）

・２階談話室東側窓から見えた明治・大正期の中洲の風景をイラストで復元し映像で紹介。

解説の多言語対応

・外国人観光客への解説に対応するため英語・韓国語・中国語による多言語解説音声ガイドを整備。

ぜひ、一度貴賓館に足を運んでいただき、明治の天神ビックバン（第13回九州沖縄八県連合共進会）の歴史と貴賓館のレトロな雰囲気を堪能していただきたい。

（３）九州歴史資料館の普及・活用事業

九州歴史資料館では、特別展示などの展示や話題となった文化財に合わせた各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象とした各種イベントや子ども向けの体験講座、職員による来館団体への館内案内など、様々な事業を実施することで、文化財の普及活用及び来館者誘致を図っている（第 14・15 表）。

普及活動の大きな画期としては、移転開館を控えた平成 19 年度（2007）、学芸第一課に指導主事１人（中学校）を配置し、学校に対して文化財の活用を働きかける体制を整備したことである。移転開館後の平成 24 年度（2012）には小学校出身の指導主事１人を増員し、小中学校に対する普及・活用事業が充実することになった。平成 25 年度（2013）には展示や文化財調査等の館活動との連携をより一層図るため、学芸調査室に広報普及班を設置し、学芸員を含めて３人体制となった。平成 30 年度（2018）からは学芸員１人を増員し、現在学芸員２人と指導主事２人の計４人で普及・活用事業の充実を図っている。

講座・講演会・シンポジウム（第 14 表）

特別展・企画展等講演会　特別展・企画展の開催を記念して、展示内容に造詣の深い研究者を講師として講演会を実施している。展示とは別に講師を招いて実施する特別講演会も行っており、令和元年度（2019）には新元号「令和」記念講演会を西鉄ホールで開催した。

シンポジウム　主に館や大宰府発掘周年事業としてシンポジウムを開催している。昭和 58 年度（1983）に開館 10 周年記念を太宰府天満宮余香殿で開催したことから始まり、昭和 63 年度（1988）には大宰府史跡発掘 20 周年記念として東京で開催、平成 20 年度（2008）には大宰府史跡発掘 40 周年記念、平成 30 年度（2018）には同 50 周年記念シンポジウムを開催している（写真 38）。平成 26・27 年度（2014・2015）には、特別史跡水城・大野城・基肄城が築造 1350 年を迎えることを記念して、平成 26 年度は太宰府市中央公民館、平成 27 年度は大野城まどかぴあで記念シンポジウムを開催した。

文化財の保存のための講座　開館後 10 年間実施した行政担当者向けの文化財の専門講座で、主に保存科学分野を中心に技術の向上を図った。

成人大学講座　昭和 52 年度（1977）に実施した一般向け講座で、歴史と文化財をテーマに６回実施した。

九歴講座　平成６年度（1994）から実施した一般向けの講座で、主に当館職員を講師として、３つのテーマで各２～３回実施していたが、平成 13 年度（2001）からはテーマを設定せず、当館職員の調査研究成果などを中心に年４～10 回開催することとなった。移転開館した平成 23 年度（2011）からは毎月第２土曜に実施する定例講座となり、また、外部講師を招き、話題性のあるテーマ

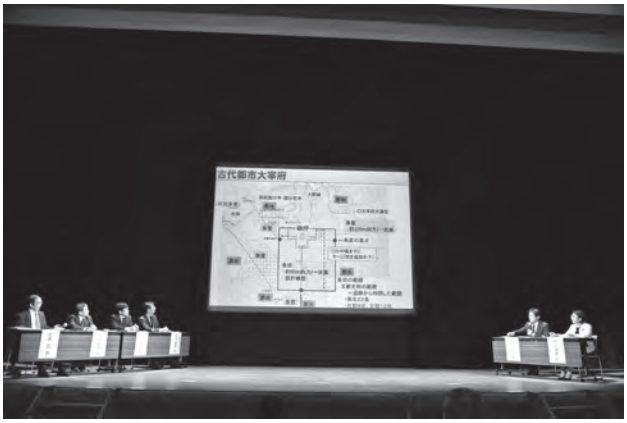


写真 38　大宰府史跡 50 周年記念シンポジウム

で講座を実施している。加えて、求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館の3分館も定期的に講座を担当することになった。令和元年度には新元号「令和」決定記念特別講座を、当館第1展示室を会場として実施した。

新九州歴史資料館紹介講座　小郡市への移転整備を契機に、移転前の平成18年度（2006）から開始した講座で、小郡市埋蔵文化財調査センターを会場として、小郡市教育委員会と共同で実施した。

館長講座・名誉館長講座　平成20年度（2008）に西谷正館長が就任したことを契機として始まった講座で、平成21年度（2009）からは月1回の連続講座となった。移転開館した平成23年度からは毎月第4土曜日前後に実施する定例講座となり、館長退任後の平成25年度（2013）からは名誉館長講座に名称を変更した（写真39）。名誉館長講座は人気を博し、定員を超過することが続いたことから、令和2年度（2020）からは講座の動画を館内タブレットで公開できるようにしている。

放送大学面接授業　平成19年度（2007）から始まった放送大学主催の教養部面接授業で、大宰府の歴史・文化をテーマに年に2日間実施している。講義後には試験を実施し、評価を行っている。

出前講座　公民館や社会福祉協議会、町内会、高齢者団体など地域のグループ、学校、企業やボランティア団体、ＮＰＯなどが実施する集会・勉強会の要請を受けて学芸員を講座に派遣している。県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」の文化部門にも参加しており、本事業を利用した要請にも年間10件前後応じている。

九歴ゼミ　仕事帰りや夜の時間帯に参加しやすい方を対象に、18：30～20：00に行う当館の学芸員による連続講座で、平成23年度（2011）から実施している。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期第2・4週の月2回、計6回ずつ開講している。当初定員を20人としていたが、大幅に上回る応募があったため平成25年度（2013）には30人、平成27年度（2015）以降は50人まで増員した。また、開催日は水曜日としていたが、令和2年度からは木曜日に変更して実施している。

写真39　名誉館長講座

夕べのギャラリートーク　他の来館者の妨げにならないよう、現在は第1展示室での展示解説を控え、代わりに解説シートを無料で配布している。しかし、解説シートは紙面が限られることから、より理解を深めてもらう目的で、平成24年度（2012）から当館の学芸員が展示物について解説を行っている。平成29年度（2017）からは参加者の層と利便性を考慮して、毎月最終金曜日の実施とし、開催時間は16:30～17:30としている（写真40）。

一般来館者対応事業　当館の施設や事業内容、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解してもらうために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスに対応している。

来館者への施設・展示解説　事前申込みのあった団体に対して、職員による解説を行っている。当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼はシニアクラブや生涯学習関係団体が中心ではあるが、学童保育など古代体験と合わせて当館を利用する団体も増加している。令和元年度（2019）からは第2展示室の展示解説についてボランティアにも行ってもらうようにした。

収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」　来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の普及・公開の促進を図るため、平成24年度（2012）から来館者が収蔵資料をその場で見ることができるコーナーを設置した。実施日に閲覧希望者が申請すれば、収蔵品に触れることができるとともに、当館職員から解説を聞くこともできる。当初は土日祝日に実施していたが、令和2年度（2020）からは日曜日のみの実施となった。

体験教室・イベント

あらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じてもらうことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。平成22年度（2010）まではジュニア学芸員モデル事業のワークショップなどを不定期に開催していたが、移転開館後は子どもを対象とした体験教室を中心に、大人にも楽しんでもらえるようにコンサートなども行っている。また、他機関や団体と連携した事業は定例イベントとして定着している。

周年・記念事業としては、平成22年度（2010）に開館プレイベント・開館記念事業を、平成23年度（2011）には1周年、平成24年度に2周年・来館者5万人達成記念（2012）、平成25年度には開館40周年・移転開館3周年（2013）、平成26年度には移転開館来館者10万人達成記念式典（2014）、平成27年度（2015）には移転開館5周年、令和2年度（2020）には移転開館10周年記念式典・イベントを実施した。

ナイトミュージアム in きゅうれき　平成24年度（2012）

写真 40　夕べのギャラリートーク

から、閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、夏休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせることを目的としている。閉館後から夜間という時間帯を生かし、博物館探検、天体観測など多彩な活動を実施している。

なるほど‼こども歴史教室　平成 24 年度（2012）から始まった、夏休みの小学生 3 ～ 6 年生および中学生を対象にしたイベントである。歴史や考古学・博物館に関する疑問・質問を学芸員が答えるものから、モノづくりを通して学習するなどさまざまなスタイルで実施している。

子ども考古学体験教室　平成 24 年度（2012）から始まった事業で、おもに小学生を対象にし、発掘体験や出土品の整理作業を体験するイベントで、埋蔵文化財に対する興味を持ってもらうことを目的としている。

きゅうれき七タイベント　小郡市は七夕神社にちなんだイベントを開催しており、これにならって、当館でも七夕の時期にイベントを開催したことがはじまりである。平成 25 年度（2013）から開始し、平成 26 年度（2014）には企画展「黒田官兵衛と城」にあわせて黒田武将隊を迎えて開催した。近年は梅雨末期の集中豪雨が恒常化し、特に七夕時期は開催が危ぶまれ、実際に中止したこともあったため、令和元年度をもって終了した。

博物館子ども古代体験推進事業「古代体験まつり」

平成 30 年度（2018）から始まったイベントで、過去にボランティアバス研修で訪れた県内の 3 つの博物館・資料館と、関係の深い機関の職員・ボランティアを招いて当館で各館の古代体験を体験してもらう事業である。

屋外展示の石棺発掘体験などイベント用のメニューを提供するとともに、他館のボランティアの交流も目的としている（写真 41）。

このほか、単年度のイベントも実施しているが、平成 28・29 年度（2016・2017）に神楽と太鼓を上演した「神話の世界」は好評を博した。令和 2 年度からは、ナイトミュージアムと七夕イベントをキッズミュージアムとして再編し、竪穴住居組立体験や弓矢体験、古代米稲刈り体験など、体験学習を中心としたプログラムに再編した。

〔共催事業〕

九州歴史資料館・三沢遺跡の森　自然体験活動

当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として平成 25 年度（2013）に発足した NPO「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業である。平成 22 年度（2010）に前身となる「三沢～歴史と自然の丘プロジェクト」が発足し、平成 23 年度（2011）から自然体験活動を中心としたイベントを実施しており、櫨蝋を使ったキャンドル作りは毎年恒例のイベントとなっている。

文化財めぐり　福岡県教育委員会が文化財愛護思想の普及を目的として実施している毎年事業で、平成 23 年度（2011）から当館との共催事業となり、平成 24 年度（2012）以降は当館の特別展・企画展関連イベントとして実施している（135 頁、第 30 表）。

アクロスミュージアムコンサート　アクロス福岡では毎年県内 8 ケ所に各 2 回公演を行う「レインボーコンサート」を行っており、平成 24 年度（2012）の移転開館 2 周年イベント開催以降当館を会場として共催事業で実施している。通常、特別展に合わせた開催記念イベントとしている。

いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

NPO 法人久留米ブランド研究会が主催する「久留米まち旅博覧会」事業で、当館は平成 24 年度（2012）から参加した。平成 26 年度（2014）からは 4 ～ 8 月、10 ～ 3 月に参加者が 2 人以上あれば運行する「いつでもまち旅」に参加している。

記念茶会　小郡市文化協会裏千家との共催で、平成 25 年度（2013）の開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベントでの開催以降、特別展開催期間中に毎年実施しているもので、連携イベントとの相乗効果により例年多数の参加者を得ている。

県立小郡高等学校との連携　当館の近隣にある小郡高等学校の琴部は、当館の移転開館記念セレモニーやイベントでの演奏をきっかけに、平成 27 年度（2015）から卒

写真 41　古代体験まつり

写真 42　小郡高校との連携

業演奏会を当館を会場として開催している。平成 30 年度（2018）からは茶道部の茶会も加わった（写真 42）。

桜コンサート　平成 28 年度（2016）から実施している音楽イベントで、地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が主催する、地域の個人や団体が参加するスタイルのコンサートである。

あすみマルシェ　西鉄あすみパビリオンが当館に隣接する住宅地の販売促進のために春・秋 2 回実施する地域イベントで、令和元年度（2019）から共催している。

このほか、平成 30 年度（2018）に小郡市観光協会との「おごおりバザール」や、福岡県出会い・結婚応援事務局の出会い事業など、不定期のイベントや研究会も開催している。

広報活動（第 15 表）

当館では、主に特別展･企画展･イベント等のポスター･チラシの発送による広報活動を行っている。平成 21 年度からはホームページを大幅に改修し、移転開館による業務形態の変化に合わせて随時改良している。

平成 25 年度（2013）からは広報普及班が設置されたことで、幅広い媒体を活用して広報活動を行っている。公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な広報媒体を活用し、イオンモール小郡のおごおり情報プラザやＪＲ原田駅の待合室掲示板への掲示を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、平成 30 年度（2018）からは近隣の 3 つの公民館で回覧板に添付してもらっている。また、同年度からは公式ツイッターの配信も行い、令和元年度（2019）からは県庁 1 階ロビーのポスター掲示とデジタルサイネージ利用を始め、令和 2 年度からは YouTube による展示紹介動画配信も始めている。

また、来館者の利便性を考慮し、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて、当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行うとともに、県内各市町村の博物館・資料館を紹介するポスターを掲示し、県内文化財施設の情報発信を行っている。

夏休みこども企画　県庁ロビー展　県民情報広報課が主催する事業で、県庁 1 階ロビーで夏休み期間に子供向けのパネル展示を行っている。当館は平成 27 年度（2015）から参加している。

ケーブルテレビ「福岡歴史ロマン」の制作・放送

地元のケーブルテレビ局と連携して制作した当館の展示資料や展示などを中心に福岡県の歴史を紹介する番組で、平成 27 ～ 29 年度（2015 ～ 2017）に月 1 回 1 番組を放送した。平成 30 年度（2018）からは、共催ではないものの催し物のお知らせコーナーで当館の展示やイベントを定期的に放送している。

県政 PR 展示　福岡県立図書館では、県政の PR 活動とともに関係する書籍を展示する事業を行っている。平成 28 年度（2016）から、利用可能な時期に当館の特別展や企画展などの催し物のポスターを掲示している。

アクロスコミュニケーションエリア展示　アクロス福岡文化観光情報ひろばでは、コミュニケーションエリアを地域の文化、芸術、観光情報を紹介する場として提供している。平成 29 年度（2017）から利用可能な時期に当館の催し物のポスター展示や大型モニターでの映像展示を行っている。

出張古代体験　平成 30 年度（2018）より、要請に応じて外部施設のイベントで当館の古代体験を出展している。多くの人が集まるイベントで館の広報活動が可能なため、職員とボランティアで可能な範囲で対応している。

このほか、当館にはミュージアムショップがないことから、平成 26 年度（2014）からお土産品として缶バッヂ･マグネットとポストカードの販売を開始している。また、平成 29 年度（2017）からは福岡県が株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進す「ミュージアム周遊パス」に参加して、来館客誘致を図っている。

（4）ボランティア育成と活動

太宰府市の旧館時代の活動

九州歴史資料館では、平成 12 年（2000）年度より、県立社会教育総合センターの高齢者リーダー養成講座の受講者によって構成された「解説ボランティアつばき会」のメンバー 18 人によって、来館者のうち希望する方に対して展示室の列品解説や小学校等の学習支援に伴う展示解説、九歴講座開催日の受付、受講者の整理などの業務の補助活動を行っていた。

このつばき会は、小郡市への移転及び会員の高齢化などにより、平成 19 年（2007）年 3 月に解散し、活動を終了した。活動開始以来の展示解説実績は、3191 件、22,426 人であった。

	活動年度	当初人数
第 1 期	平成 22 ～ 24 年度	41 人
第 2 期	平成 25 ～ 27 年度	26 人
第 3 期	平成 28 ～ 30 年度	39 人
第 4 期	平成 31 ～令和 4 年度	34 人

第 7 表　九歴ボランティアの変遷

移転開館以後の活動

平成 22 年（2010）年に、小郡市に移転開館するのに合わせて、新たに「九歴ボランティア」（定員 40 人、任期 3 年）を立ち上げた（第 7 表）。現在は第 4 期にあたるボランティアが活動している。活動日は、土曜日、日曜日、祝日を基本とし、平日に要望があれば対応した。

古代体験メニュー	体験者数
「鋳造体験（和同開珎、ミニ銅矛（平成 27 年 12 月より開始）、ミニ銅鏡（平成 30 年 4 月より開始）」（有料）	3,866 人
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本採り）」	4,424 人
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	3,732 人
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の着用体験）」	2,422 人
「土器パズル（復元体験）」	17,549 人
「大宰府政庁建物の復元」	5,152 人
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」（平成 23 年 8 月より開始）	8,148 人
「きゅうおに」のぬり絵に挑戦しよう（平成 24 年 4 月より開始）	2,582 人
「きゅうおに」紙芝居（平成 24 年 6 月より開始）	841 人
飛び出すむかしの宝物（収蔵品オンデマンド）（平成 24 年 7 月より開始）	1,198 人
ぎっちょう（平成 29 年 4 月より開始）、投壺（平成 30 年 4 月より開始）	32 人
バックヤード（第 4 展示室含む）解説	6,092 人
合計	56,038 人

第 8 表　古代体験・バックヤード解説の体験者数

古代体験、バックヤード解説

九歴ボランティアの主な活動内容は、古代体験運営やバックヤード解説である。平成 22 ～ 30 年度（2010 ～ 2018）までの古代体験やバックヤード解説の体験者数は、第 8 表のとおりである。

ボランティア定例研修会

九歴ボランティアとしての知見、識見を高めるとともに、ボランティア間の交流のため、毎月第 2 土曜日の午前中に定例研修会を開催している。

前半は、今後の予定の確認、土・日・祝日の古代体験の担当の調整である。後半は、学びある実践研修として、当館学芸員や外部講師による講話や展示解説、古代体験に係る実践研修などである。主な内容は第 9 表のとおりである。

年度	主な内容
毎年度	特別展、企画展、特集展示、パネル展、床下展示の展示解説
各期の初年度、新メミュー追加の年度	古代体験メニューの実施方法の説明、確認、練習
平成 23 年	「九州歴史資料館の活動について」
平成 25 年	「福岡県史編纂史料について」
	「仏像のみかたについて」
	「当館の教育普及と学校教育について」
	「当館の保存科学活動について」
平成 26 年	「ぎっちょうの歴史と出土遺物について」
平成 28 年	「館内における文化財の生物被害防止に関する取り組みについて」
	「小学校での社会科学習と博物館に期待すること」
	「100 人の大人のおひとりに…」（こどもとの接し方研修）（外部講師）
平成 29 年	「水中遺跡について」
平成 30 年	「障がいをもつ子どもへ接し方」（外部講師）

第 9 表　ボランティア研修の主な内容

である。

バス研修

平成 23 年度（2011）年度より、ボランティアとしての見聞を広めるための研修の一環として、各地の博物館や資料館等を訪問するバス研修を実施している。

訪問先では、施設見学やそこで活動するボランティアの方との意見交流を行っている。これまでに訪問した主な施設は、第 10 表のとおりである。

ボランティアイベント

平成 25 年度末（2013）から、九歴ボランティアが主体的に企画・実施するボランティアイベントを開始した。平成 27 年度（2015）からは、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施している。

歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、イベント会場には歴史的背景や関連する出土資料のパネルなどを設置して、参加者への歴史・文化の普及に供した。これまで開催したイベントは、第 11 表のとおりである。

九州歴史資料館主催イベントのサポート

これまで当館が主催したイベントの際に、必要に応じて九歴ボランティアが運営補助を行っている。これまでにサポートした主なイベントは、以下のとおりである。

《サポートした主なイベント》

・きゅうれき七夕イベント

・ナイトミュージアム in きゅうれき

年度	主な訪問施設
平成 23 年	求菩提資料館
平成 24 年	柳川古文書館、御花、三池カルタ・歴史資料館
平成 25 年	北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）
平成 26 年	海の道むなかた館、宗像大社神宝館
平成 27 年	伊都国歴史博物館、平原遺跡、旧藤島家住宅
平成 28 年	八女市岩戸山歴史文化交流館「いわいの郷」
平成 29 年	有田町歴史民俗資料館、九州陶磁文化館、異人館
平成 30 年	石炭産業科学館、三池カルタ・歴史資料館
令和元年	熊本県立装飾古墳館、歴史公園鞠智城・温故創生館

第 10 表　バス研修

年度	開催したイベント
平成 25 ～ 27 年	おりがみで作ってみよう！ いろいろな『かぶと』
平成 26・27 年	『ぎっちょう』であそぼう！～むかしの遊びを体験しよう～
平成 26 ～ 30 年	作ってみようよ！『Ｍｙおひなさま』『組紐ストラップ』
平成 27 ～ 30 年	こども組紐教室
平成 27 年	石器づくり・貝器づくり－石と貝のやじりを作ろう－
平成 28 ～ 30 年	おりがみでカブトを作ろう！ぎっちょうを体験してみよう！
平成 28 年	古代人を体験しよう！ぎっちょうと石器できこり体験！
令和元年	縄文ポシェット作り
令和元年	大人組紐講座

第 11 表　ボランティアイベント

・きゅうれき万葉イベント
・こども考古学体験教室
・なるほど！こども歴史教室
・古代体験まつり

出張古代体験

当館では、外部からの依頼に応じて、職員やボランティアが出張して古代体験を行う、出張古代体験を実施している。これまでの主な派遣先は、以下のとおりである。

《主な派遣先》

・北筑後教育事務所主催研修会
・筑紫野市御笠コミュニティーセンター
・小郡市三国校区アンビシャス
・小郡アンビフェスタ
・熊本県立装飾古墳館
・福智町ふくちのち
・小郡市のぞみが丘生楽館
・大野城市こころのふるさと館
・みやこ町豊津公民館

自主研究活動

九歴ボランティアは、古代体験の運営やイベントの実施のほかに、ボランティア各自が興味に応じて、グループで研究活動を行っている。1 ～ 2 年かけて調査・研究を進め、活動期間の最終年度には、研究成果の公開として、活動成果展を実施したり（写真 43）、成果発表会を行ったりしている。これまで行ってきた主な研究テーマ、内容は、第 12 表のとおりである。

主な研究テーマ、内容
「韓国研究」グループ 韓半島との文化交流について研究した。
「三沢遺跡研究」グループ 三国丘陵の遺跡の調査と、来館者から聴取した認知度アンケート結果の考察を行った。
「七夕（機織）」グループ 織の歴史・文化の研究し、苧麻（カラムシ）で貫頭衣やきゅうおにのタペストリーの制作を行った。
「街道を行く」グループ 街道、街道沿いの史跡、近代遺産を巡り、そこに息づく文化財や行き交う人々、携わった人々の様子、技術などを追究した。
「神さま仏さま～信仰と伝承～」グループ 天神信仰、神社の由来、仏像や狛犬、絵馬など人々の信仰と伝承について追究した。

第 12 表　自主研究の主なテーマ

写真 43　ボランティア研究成果発表会

（5）九州歴史資料館の展示

年度	区分	展覧会名	期間	特記事項
昭和47年度（1972年）	特別展示	開館記念特別展	1972.2.24～3.31	開館記念
昭和49年度（1974年）	特別展示	高松塚古墳壁画模写と特別公開と出土品	1974.5.28～6.3	
		九州所在の朝鮮・中国仏教美術遺品	1974.8.2～9.15	
		九州の古瓦と寺院	1974.8.2～10.31	
昭和50年度（1975年）	特別展示	九州の古墳壁画展	1976.2.1～2.22	
昭和51年度（1976年）	特別展示	「九州の奈良・平安陶磁」展	1977.2.15～3.13	
		《九州の寺社シリーズ・1》「筑前今津　誓願寺展」	1977.3.22～4.10	
昭和52年度（1977年）	特別展示	《九州の寺社シリーズ・2》「薩摩川内　新田神社展」	1978.3.20～5.7	
昭和53年度（1978年）	特別展示	くらじの里からしらぬいへ―九州縦貫自動車関係埋蔵文化財発掘調査による出土品展―	1978.6.1～9.30	
		―甦る遠の朝廷―大宰府展	1978.10.15～12.25	大宰府史跡発掘調査10周年記念
		《九州の寺社シリーズ・3》「豊後日田　岳林寺展」	1979.3.27～4.29	
昭和54年度（1979年）	特別展示	青銅の武器展	1980.2.20～5.11	
		《九州の寺社シリーズ・4》「筑前博多　善導寺展」	1980.3.25～5.11	
昭和56年度（1981年）	パネル展示	装飾古墳	1981.5.1～5.31	
昭和57年度（1982年）	特別展示	筑後久留米「梅林寺展」	1982.5.11～5.31	
		九州歴史資料館保管　国宝・重要文化財展	1982.11.2～11.14	
昭和58年度（1983年）	特別展示	「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代（九州の飛鳥・白鳳・天平）」	1984.2.25～3.25	開館10周年記念
昭和60年度（1985年）	特別展示	「日本の鐘　中国の鐘　朝鮮半島の鐘」	1985.4.16～5.15	
昭和62年度（1987年）	特別展示	「南九州に伝わる中世の鏡」	1988.2.25～3.24	
昭和63年度（1988年）	特別展示	「―発掘が語る遠の朝廷―大宰府展」	1988.10.18～12.25	大宰府史跡発掘調査20周年記念
平成元年度（1989年）	特別展示	「対外交渉と九州の繁栄」	1989.7.23～8.20	
平成2年度（1990年）	特別展示	「古代の福岡」	1990.9～11	「とびうめ国体」
平成3年度（1991年）	企画展示	「奴国の玉つくり―弥生時代のガラス玉製作―」	1991.10.29～11.17	
平成4年度（1992年）	企画展示	「古墳時代の武器・武具と馬の装い」	1992.10.6～11.29	
	特別展示	「武蔵寺展」	1993.3.2～3.31	
平成5年度（1993年）	特別展示	「戒壇院展」	1993.8.2～10.17	
		「日本の鬼瓦」	1993.10.26～11.28	開館20周年記念
		「筑後柳川藩　今村家寄贈品」	1993.12.7～1994.3.31	
		「西都の祭祀（まつりごと）」	1994.3.8～3.27	
平成6年度（1994年）	企画展示	「近年の発掘調査から」展 ・筑紫野市原遺跡 ・椎田町山崎・石町遺跡 ・粕屋町江辻遺跡 ・浮羽町日永遺跡 ・筑後市森の木遺跡（参考：八女市茶ノ木ノ本遺跡・野田遺跡） ・立花町北山今小路遺跡（参考：大川市下林遺跡）	1994.4.5～1995.4.9 1994.4. 5 ～5.29 1994.5.31～7.31 1994.8.2～10.2 1994.10.4～12.4 1994.12.6～1995.1.29 1995.1.31～4.9	
	特別展示	「大刀飾りの美」	1995.2.7～3.12	
平成7年度（1995年）	企画展示	古代のふるさとシリーズ　第1回「遠賀川源流の古代文化―嘉穂町を中心として―」	1995.4.11～7.2	
		古代のふるさとシリーズ　第2回「古代のテクノポリス鳥栖―青銅器生産を中心に―」	1995.7.4～10.1	
		古代のふるさとシリーズ　第3回「筑紫国造磐井とその周辺―八女市を中心に―」	1995.10.3～1996.1.7	
		古代のふるさとシリーズ　第4回「奴国中枢域の弥生文化―春日市を中心に―」	1996.1.9～3.31	
平成8年度（1996年）	企画展示	古代のふるさとシリーズ　第1回「ヤス王国の実像―夜須町の発掘成果をもとに―」	1996.7.2～9.27	
		古代のふるさとシリーズ　第2回「周防灘の豪族たち―苅田町・行橋市を中心に―」	1996.10.1～1997.1.12	
		古代のふるさとシリーズ　第3回「三国境の古代文化―文化の接点・小郡―」	1997.1.14～3.30	
平成9年度（1997年）	企画展示	古代のふるさとシリーズ　第1回「弥生時代の戯画」	1997.4.15～9.28	
		古代のふるさとシリーズ　第2回「古代の宗像―その繁栄と歴史―」	1997.9.30～12.27	
		古代のふるさとシリーズ　第3回「山岳修験の経塚遺宝」	1997.12.9～1998.3.8	

第13表　九州歴史資料館の展示①

年度	区分	展覧会名	期間	特記事項
平成10年度（1998年）	特別展示	「大宰府復元」	1998.10.23～11.29	大宰府史跡発掘調査30周年記念
	企画展示	「大工道具の歴史」展	1998.7.7～10.24	
		「市町村指定文化財」展―考古資料を中心に―	1998.12.8～1999.1.17	
		「福岡のやきもの (1)～豊前田香焼～」	1999.1.5～3.28	
	館外展示	「大宰府の春―発掘された遠の朝廷―」	1998.4.14～4.20	大宰府史跡発掘調査30周年記念　アクロス福岡交流ギャラリー開催
平成11年度（1999年）	テーマ展示	「米と人間の歴史」展	1999.7.13～9.5	
		「九州横断道発掘調査」展	1999.10.5～12.5	
		「福岡のやきもの (2)～筑後久留米藩窯～」展	2000.2.8～3.26	
平成12年度（2000年）	テーマ展示	「道具の歴史」展	2000.7.18～9.17	
		「古代の文字」展	2000.10.17～12.3	
		「福岡のやきもの (3)～筑前国焼高取永満寺宅間窯～」展	2000.12.5～2001.1.28	
平成13年度（2001年）	テーマ展示	「貿易陶磁器の大宰府流入」展	2001.7.24～10.21	
		「須恵器の美」展	2001.10.23～12.2	
		「福岡のやきもの (4)～豊前上野焼～」展	2001.12.4～2002.1.27	
平成14年度（2002年）	特別展示	「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」展	2003.1.5～3.9	開館30周年記念
	テーマ展示	「大宰府の金属工房」展	2002.4.23～7.21	
		「弥生時代の低地集落―筑後川北岸のくらし―」展	2002.7.23～10.6	
		「大宰府の文字と役人たち」展	2002.10.8～12.15	
平成15年度（2003年）	特別展示	「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く―北部九州・大宰府の交流2000年史―」展	2003.8.9～11.3	
	テーマ展示	「彼岸への旅立ち―太宰府市浦ノ田遺跡の中世火葬墓―」展	2003.3.15～6.15	
		「観世音寺木簡と文化財科学」展	2003.6.17～8.3	
平成16年度（2004年）	特別展示	「大宰府へ、くにが動き、ものが動く」展	2004.4.20～6.27	
平成17年度（2005年）	企画展示	考古基準資料展示	2005.6.14～2006.6.11	
平成18年度（2006年）	特別展示	「観世音寺」展	2006.11.9～12.17	
	企画展示	考古基準資料展示「大宰府出土の硯と文字資料」展	2006.6.15～2007.6.24	
平成19年度（2007年）	企画展示	平成19年度前期企画展 「モノから学ぶ考古学」	2007.6.28～12.24	
		平成19年度後期企画展 「渡来人が伝えるもの ―墓から探る弥生文化成立の実像―」	2008.1.5～6.22	
	調査速報展示	第1回「特別史跡水城跡第39次調査速報展」	2007.6.28～9.2	
		第2回「古代の山岳寺院　みやこ町菩提遺跡の調査成果展」	2007.9.4～11.4	
		第3回「特別史跡大野城跡北石垣地区の調査速報展」	2007.11.6～12.24	
平成20年度（2008年）	企画展示	「天平追想 ―古代都市・大宰府の栄華―」	2008.10.18～12.7	大宰府史跡発掘調査40周年記念、大宰府展示館開催
		「大宰府史跡出土の木簡と文字瓦―出土文字資料の調査と研究―」	2008.6.26～2009.4.12	基準資料展示　平成20年度企画展示
	調査速報展示	「原山無量寺を探る ―太宰府市原遺跡18次の調査成果展―」	2008.9.2～2009.2.1	
平成21年度（2009年）	特集展示	第1回「宗像君の奥津城　津屋崎古墳群出土資料特別展示」	2009.3.17～8.30	
		第2回「岩崎光収蔵資料展」	2009.4.28～8.30	
		第3回「辟邪の意匠　福智町1号墳出土資料」	2009.9.15～2010.3.31	
		第4回「九歴の歩み」	2010.3.2～3.31	
	企画展示	平成21年度調査成果展 「大野城跡出土刻書木柱と軸受金具」	2009.9.4～2010.3.31	
		平成21年度調査成果展 「水城のあゆみ ―水城跡の調査研究成果―」	2009.9.4～2010.3.31	
		平成21年度企画展 「西新町遺跡 ―韓と倭の国々との接点―」	2009.4.17～8.30	基準資料展示
平成22年度（2010年）	特別展示	「大宰府 ―その栄華と軌跡―」	2010.11.21～2011.1.16	開館記念展
	企画展示	第1回:「九州歴史資料館ができるまで―文化財をまもる収蔵庫はどのようにしてつくられたか―」	2010.11.21～2011.4.24	
	特集展示	第1回:「宗像の弥生墓と古墳」	2011.2.1～4.10	
	パネル展示	「福岡県の世界遺産登録推進活動 ―宗像・沖ノ島と関連遺産群、九州・山口の近代化産業遺産群―」	2010.11.21～2011.4.10	
		「装飾古墳のはじまり」	2011.2.1～4.10	
	館外展示	特別史跡大宰府跡・蔵司地区出土資料速報展示	2010.12.4～2011.1.31	大宰府展示館開催
平成23年度（2011年）	特別展示	「発掘された日本列島2011―重要な遺跡・遺物の最新発掘速報展―」	2011.11.15～12.18	文化庁主催
	企画展示	第2回:「九州新幹線発掘調査成果展―南北でたどる福岡の遺跡―」	2011.4.26～7.10	九州新幹線鹿児島ルート全線開業記念
		第3回:「発掘速報展2011」	2011.7.12～9.11	
		第4回:「謎の福原長者原遺跡と古代の豊前」	2011.9.13～10.28	
		第5回:「筑後国府展～筑後国府跡発掘調査50年の軌跡～」	2011.10.30～2012.1.15	久留米市・久留米市教育委員会主催
		第6回:「北部九州の霊山と経塚」	2012.1.5～2.26	開館1周年記念
		第7回:「筑豊工業高校資料展」	2012.1.17～4.22	
	特集展示	「安徳台 ―奴国の拠点集落―」	2011.4.12～10.10	

第 13 表　九州歴史資料館の展示②

年度	区分	展覧会名	期間	特記事項
平成23年度（2011年）	パネル展示	「福岡県の装飾古墳（1）筑後川流域編」	2011.4.12～6.12	
		「甦るまぼろしの山岳寺院　首羅山遺跡」	2011.6.14～7.24	
		「朝鮮半島の文化遺産 ―高句麗の古代山城編―」	2011.9.13～10.30	
		「とっとり倭人伝 ―青谷上寺地遺跡と妻木晩田遺跡―」	2011.12.13～2012.3.4	鳥取県教育委員会主催
		「福岡県史跡　三沢遺跡」	2012.2.21～継続	
		平成23年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～わがまちの宝～」	2012.3.20～3.29	筑紫地区社会教育振興協議会主催
	トピック展示	発掘された日本列島2011地域展「九州最古の狩人とその時代」	2011.10.29～12.18	九州国立博物館開催
	館外展示	「大宰府史跡・大宰府条坊跡発掘調査速報展示」	2011.11.12～12.18	大宰府展示館開催
平成24年度（2012年）	特別展示	「長崎街道 ―世界とつながった道―」	2012.10.30～12.27	長崎街道開通400年記念
	企画展示	第8回:「きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―」	2012.4.24～7.22	
		第9回:「村山健治氏収集資料展」	2012.6.26～9.17	
		第10回:「発掘速報展2012」	2012.7.24～10.28	
		第11回:「発掘された筑紫万葉の世界」	2012.10.30～2013.1.14	
		第12回:「聖地四王寺山」	2013.1.16～3.10	
		第13回:「筑後考古学研究の黎明 ―田中幸夫コレクション展―」	2013.1.16～4.7	
	特集展示	「出土貿易陶磁器の世界 ―大宰府史跡と才田遺跡―」	2013.3.16～6.23	
		「近世英彦山の古文書 ―英彦山座主家文書の世界―」	2013.3.16～7.15	
	パネル展	「朝鮮半島の文化遺産（2）―百済の山城―」	2012.5.8～7.16	
		「周防灘沿岸の戦争遺跡」	2012.10.30～12.27	
		「なかをのぞいてみると・・・―九歴の文化財をX線CTで診る―」	2013.1.5～2.24	
		「朝鮮半島の文化遺産（3）―新羅の山城―」	2013.1.5～2.24	
		「平成24年度筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見～わがまちゆかりの人物～―」	2013.2.26～3.10	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		「ボランティア研究成果展」	2013.2.26～4.21	
	絵手紙展	第1回 きゅうれき絵手紙展	2012.8.28～10.21	
		第2回 きゅうれき絵手紙展	2012.10.23～12.27	
平成25年度（2013年）	特別展示	「戦国武将の誇りと祈り―九州の覇権のゆくえ―」	2013.9.28～11.10	九州歴史資料館開館40周年・移転開館3周年記念
	企画展示	第14回:「きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―」	2013.4.9～7.15	
		第15回:「発掘速報展2013」	2013.7.17～9.16	
		第16回:「いろいろな目で見てみたら・・・―みんなで描いた九歴の収蔵品―」	2013.10.1～11.17	
		第17回:「水城・大野城調査研究事始め」	2013.11.19～2014.1.13	
		第18回:「五卿西竄150年　五卿と志士―維新前夜の太宰府―」	2014.1.5～2.16	
		第19回:「太田静六が見た福岡の建造物―太田静六建築資料展―」	2014.1.15～4.6	
	特集展示	「宗原遺跡出土旧石器県指定記念　筑紫野地峡帯の旧石器」	2013.4.23～7.7	
		「福岡お金の歴史2,000年」	2013.6.25～9.16	
		「福岡鉄道遺産ものがたり ―鹿児島本線編―」	2013.7.17～9.16	
		「彦山・宝満山の本末論争」	2013.11.23～12.27	
		「新春午歳企画・福岡県の装飾古墳 ② 馬 ―館蔵品から―」	2014.1.5～3.2	
		「節分企画・考古基準資料から ② 鬼 ―屋根を護る鬼瓦―」	2014.1.21～3.23	
	パネル展示	「朝鮮半島の文化遺産（4）―高麗の山城―」	2013.4.23～7.15	
		「福岡鉄道遺産ものがたり～鹿児島本線編～」	2013.7.17～10.20	
		「熊本の古代山城　鞠智城展～蘇る百済との歴史～」	2013.11.19～2014.1.13	熊本県教育委員会主催
		「平成25年度筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見～古代の筑紫にタイムスリップ～―」	2014.2.18～3.2	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		「なかにうまっているものは・・・―科学の目で見た古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線―」	2014.3.4～6.15	
	トピック展示	「山の神々 ―九州の霊峰と神祇信仰―」	2013.10.22～12.1	九州国立博物館・太宰府天満宮宝物殿開催
平成26年度（2014年）	特別展示	「福岡の神仏の世界―九州北部に華開いた信仰と造形―」	2014.10.10～11.30	
	企画展示	第20回:「きゅうおにとタイムトラベル ―大昔のくらしと国づくり―」	2014.4.8～7.21	
		第21回:「発掘速報展 2014」	2014.7.23～10.5	
		第22回:「徹底解説!!水城のすべて ―古代の築堤・貯水技術―」	2014.8.16～9.28	
		第23回:「黒田官兵衛と城」	2014.8.16～9.28	
		第24回:「政治家　野田卯太郎から見る日本の近代」	2014.12.9～2015.2.1	
		第25回:「海の王都・一支国 ―原の辻遺跡と壱岐の至宝―」	2014.12.9～2015.3.8	壱岐市教育委員会と共同主催
		第26回:「古墳から火葬墓へ ―北部九州における古墳の終焉―」	2015.3.10～5.10	
	特集展示	「福岡鉄道遺産ものがたり2―糟屋地区編―」	2014.6.17～8.6	
		「大宰府の役所 ―大宰府政庁周辺官衙不丁地区成果展―」	2015.2.10～4.5	
		「日本最古級の導水施設木樋（延永ヤヨミ園遺跡出土）」	2015.3.10～5.10	
	パネル展示	「福岡鉄道遺産ものがたり2～糟屋地区編～」	2014.6.17～8.31	
		「水城・大野城・基肄城築城1350年パネル展示」	2014.9.2～9.28	
		「福岡県の指定文化財―彫刻―」	2014.10.19～11.30	
		「平成26年度筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見 ～いのりの風景～―」	2015.3.10～3.22	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線」	2015.3.24～6.28	

第 13 表　九州歴史資料館の展示③

年度	区分	展覧会名	期間	特記事項
平成27年度	特別展示	「四王寺山の1350年 ―大野城から祈りの山へ―」	2015.10.24～12.6	大野城築造1350年記念移転開館5周年記念
(2015年)	企画展示	第27回:「きゅうおにとタイムトラベル ―大昔のくらしと国づくり―」	2015.3.10～8.16	
		第28回:「小笠原文庫から見た幕末維新～武家礼法から近代教育まで～」	2015.7.16～8.30	福岡県指定有形文化財指定10周年記念
		第29回:「発掘速報展2015」	2015.8.18～11.1	
		第30回:「大宰府史跡みどころ展part.1 貝原益軒―大宰府研究の先賢たち―」	2015.9.3～10.12	
		第31回:「いろいろな目で見てみたら・・・―みんなが描いた九歴の収蔵品―」	2015.11.3～11.29	
		第32回:「古代の鋳造技術 ―筑前の鋳造技術と復元実験―」	2015.12.1～2016.1.24	
		第33回:「沖縄の旧石器人と人類の起源」	2016.1.27～2.28	沖縄県立博物館・美術館主催
		第34回:「西北九州の黒曜石と石刃技法」	2016.1.27～2.28	
	特集展示	モダン福岡を眺める ―没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図―」	2015.5.19～7.12	
	パネル展示	「1974年～75年の太宰府(春夏秋冬)―石丸洋氏寄贈写真から―」	2015.9.3～10.12	
		「朝鮮半島の文化遺産 (5) ―朝鮮王朝の城郭―」	2015.10.6～12.27	
		「ふくおか古墳日和」	2015.12.1～2016.1.24	
		「福岡鉄道遺産ものがたり 3 ～三池の炭鉱鉄道編～」	2016.1.5～3.6	「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録記念
		「第2期九歴ボランティアグループ活動成果展」	2016.3.1～5.15	
		「平成27年度筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見～見てみんね！まちのたから～―」	2016.3.8～3.21	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2015-2016」	2016.3.23～6.19	
	特別展示	伊都国歴史博物館・九州歴史資料館共同開催特別展 「国境の山岳信仰 ―脊振山系の聖地・霊場を巡る―」	2016.1.30～3.13	伊都国歴史博物館開催
平成28年度	特別展示	「八女の名宝」	2016.9.22～11.13	
(2016年)	企画展示	第35回:「きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―」	2016.3.1～7.18	
		第36回:「発掘速報展2016」	2016.6.20～9.11	
		第37回:「大宰府史跡みどころ展Part.2大宰府の役人と文房具」	2016.11.23～2017.1.15	
		第38回:「筑後川北岸の古代遺跡」	2017.1.17～3.20	
	特集展示	「新収蔵品展示 絵葉書にみる福岡の風景」	2016.7.12～9.11	
		「赤い土器―弥生時代の甕棺墓祭祀と丹塗磨研土器―」	2016.11.23～2017.1.15	
		「新春酉歳企画　鳥」	2017.1.5～2.19	
	パネル展示	「シルクロードの文化遺産(1)―オアシスの道―」	2016.6.21～9.4	
		「福岡鉄道遺産ものがたり4～北九州地区編～」	2016.10.25～2017.1.22	
		「薩摩塔と尊像たち」	2016.10.15～2017.3.20	
		「石に込められた願い―朝倉(旧甘木市内)の石造文化財調査より―」	2017.1.24～3.5	
		「平成28年度筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見～うつりゆく風景～―」	2017.3.7～3.20	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2016-2017」	2017.3.22～6.19	
平成29年度	特別展示	「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」	2017.8.5～9.24	英彦山国史跡指定記念
(2017年)	企画展示	第39回:「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」	2017.3.22～7.30	
		第40回:「発掘速報展2017　五ヶ山―山のくらし、いのり、そして埋納銭―」	2017.9.26～12.24	
		第41回:「大宰府史跡みどころ展Part.3大宰府を探るサイエンス」	2017.10.7～12.3	
		第42回:「福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―」	2017.10.7～12.3	福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査成果展①
		第43回:「筑豊工業高校資料展 2　炭鉱と学校の昭和史」	2017.12.26～2018.3.4	
		第44回:「堅粕薬師と東光院の古仏たち」	2018.2.10～4.11	
	特集展示	「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」	2017.4.25～6.18	
		「骨を蔵(おさ)める―古代・中世の火葬骨壺―」	2017.5.30～7.23	
		「懐かしの旧福岡県庁」	2017.5.30～7.23	
	特集陳列	「博多絞り」	2017.12.8～2018.2.4	
	パネル展示	「ユネスコ無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』」	2017.5.16～7.23	
		「福岡鉄道遺産ものがたり5～筑豊本線・日田彦山線編～」	2017.7.25～10.1	
		「日本列島の城」	2017.10.3～12.17	
		「女男石護岸施設と筑後川の堰」	2017.12.19～2018.3.11	
		「福岡県の名園をめぐる旅」	2017.12.26～2018.3.4	
		「平成29年度筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見～交流の足あと～―」	2018.3.13～3.25	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017-2018」	2018.3.22～6.17	
平成30年度	特別展示	「大宰府への道 ―古代都市と交通―」	2018.4.24～6.17	大宰府史跡発掘50年記念
(2018年)	企画展示	第45回:「きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―」	2018.3.6～9.2	
		第46回:「幕末の城 ―近世の沿岸警備と幕末期城郭―」	2018.6.30～8.12	福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査成果展②
		第47回:「発掘速報展 2018―近年の調査成果と大宰府史跡発掘50年のあゆみ―」	2018.9.11～12.2	
		第48回:「歴史の宝石箱　ダイジェスト版」	2018.12.4～2019.3.17	
	速報展示	「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2018-2019」	2019.3.19～7.15	

第 13 表　九州歴史資料館の展示④

年度	区分	展覧会名	期間	特記事項
平成30年度 （2018年）	パネル展示	「シルクロードの文化遺産 (2) ―草原の道―」	2018.6.19～9.9	
		世界遺産登録1周年記念「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」	2018.9.11～12.9	世界遺産登録1周年記念
		「福岡鉄道遺産ものがたり６～平成筑豊鉄道編～」	2018.12.11～2019.3.17	平成筑豊鉄道開業30周年記念
		平成30年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見 ～弥生ものがたり～」	2019.3.19～3.24	筑紫地区社会教育振興協議会主催
		保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2018-2019」	2019.3.26～6.16	
		「大宰府史跡発掘50年記念パネル巡回展」	2018.4.24～12.14	のべ13か所巡回
	特別展示	「等覚寺の山岳信仰と松会」	2018.11.3～12.16	苅田町歴史資料館開催
令和元年度 （2019年）	特別展示	「久留米―その歴史と文化―」	2019.10.12～12.8	
	企画展示	第49回：「きゅうおにとタイムトラベル ―大昔のくらしと国づくり―」	2019.3.18～7.15	
		第50回：「発掘成果展 2019「三沢遺跡と三国丘陵周辺の遺跡」」	2019.7.17～10.6	
		第51回：「船原古墳の世界」	2019.12.21～2020.2.22	
		第52回：「炭都　三池 ～「明治日本の産業革命遺産」企画展 2～」	2019.12.21～2020.1.26	
		第53回：「甘木絞り」	2019.12.21～2020.3.22	
		第54回：「太宰府天満宮の境内絵図―さいふまいりの江戸・明治―」	2020.1.29～2.28	
	関連展示	「大宰府と万葉 ―大伴旅人・家持と梅花の宴―」	2019.4.9～10.6	
	パネル展示	「シルクロードの文化遺産 (3)―海の道―」	2019.6.18～9.16	
		「福岡鉄道遺産ものがたり７ ～筑後地区編～」	2019.9.18～12.15	
		「記念物100年」	2019.12.17～2020.3.1	
	県庁ロビー展示	「祝　新元号「令和」令和のふるさと 福岡県」	2019.4.22～.5.10	福岡県庁　県民ロビー
令和2年度 （2020年）	特別展示	「福岡の至宝に見る信仰と美」	2020.10.6～11.29	移転開館10周年記念
	企画展示	第55回：「きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―」	2020.5.19～7.12	
		第56回：「出土品から見た『福岡県の戦争遺跡』」	2020.7.14～9.13	
		第57回：「福岡の古代豪族」	2020.9.15～11.29	
		第58回：「古代・中世の人びとのくらし」	2020.12.1～2021.3.21	
		第59回：「朝鮮通信使と福岡―福岡県朝鮮通信使総合調査成果展―」	2020.12.12～2021.1.14	ユネスコ「世界の記憶」登録3周年記念・黒田家文書『朝鮮人来聘記・帰国記』修理完成記念
		第60回：「三池港と洞海湾～「明治日本の産業革命遺産」企画展3～」	2020.2.17～3.14	
	特集展示	「即位の大礼と福岡県」	2020.5.19～7.12	
		「北部九州の経塚遺宝―京都国立博物館考古資料相互貸借展―」	2020.12.12～2.28	
	パネル展示	「新九州歴史資料館10年のあゆみ―展覧会ポスター展―」	2020.5.19～6.14、2020.10.6～11.29	
		「邪馬台国への道　前編」	2020.6.16～9.13、2020.12.1～2021.3.28	
		「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島関連遺跡群」	2020.9.15～11.29	

第 13 表　九州歴史資料館の展示⑤

（6）九州歴史資料館の講演会・講座

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
昭和48年度（1973年）	講座	第1回 文化財の保存のための講座「木製品の保存処理について」	1973.5.26	沢田正昭（奈良国立文化財研究所保存科学室）	
	講演会	文化財講演会 「考古学からみた大陸と九州」 「古代九州と朝鮮」 「中国訪問から帰って」 「筑紫観世音寺の歴史」	1973.11.23･24	八幡一郎（上智大学） 田村圓澄（九州大学） 谷口鉄雄（九州大学） 渡邉正気	
昭和49年度（1974年）	講演会	特別展講演会 「高松塚古墳をめぐって」 「高松塚古墳について」	1974.6.2	岡崎　敬（九州大学） 伊達宗泰（奈良県立考古博物館）	
	講座	第2回 文化財の保存のための講座「古美術品の保存と管理について」	1974.6.26	西川杏太郎（東京国立文化財研究所）	
昭和50年度（1975年）	講座	第3回 文化財の保存のための講座 「出土品保存における合成樹脂使用の問題点」	1975.7.11	樋口清治（東京国立文化財研究所）	
	講演会	特別展講演会「九州の古墳壁画について」 映画「王塚古墳」「太陽と舟」上映	1976.2.22	森貞次郎（九州産業大学）	
昭和51年度（1976年）	講座	第4回 文化財の保存のための講座 「文化財の保存環境について」	1976.11.12	江本義理（東京国立文化財研究所）	
	講演会	「唐宋の中国陶磁」 「日本の古代陶磁」	1977.2.27	佐藤雅彦（京都市立美術大学） 櫛崎彰一（名古屋大学）	
昭和52年度（1977年）	講座	第5回 文化財の保存のための講座 「考古学と自然科学」	1977.6.17	横山浩一（九州大学）	
		成人大学講座　郷土の歴史と文化財 1 「九州の歴史と文化財」	1977.11.6	鏡山　猛	
		「書籍・古文書の取扱いと見方」	1977.11.13	財津永次（文化庁）	
		成人大学講座　郷土の歴史と文化財 2 「九州の弥生文化」	1977.11.20	小田富士雄（北九州市立歴史博物館）	
		成人大学講座　郷土の歴史と文化財 3 「弥生文化の遺跡地視察」	1977.11.27	高倉洋彰	
		成人大学講座　郷土の歴史と文化財 4 「九州の古墳文化」	1977.12.4	渡辺正気	
		成人大学講座　郷土の歴史と文化財 5 「筑後地方の主要古墳視察」	1977.12.18	石山　勲（県文化課）	
昭和53年度（1978年）	講座	第6回 文化財の保存のための講座 「土質工学的に見た遺跡の保存対策」	1978.11.17	山内豊聡（九州大学）	
		成人大学講座 大宰府史跡 1 「大宰府研究の歩み」	1978.10.22	鏡山　猛	
		成人大学講座 大宰府史跡 2 「大宰府の発掘調査」	1978.10.29	石松好雄	
		成人大学講座 大宰府史跡 3 「都府楼跡等現地視察」	1978.11.3	横田賢次郎	
		成人大学講座 大宰府史跡 4 「大宰府の組織と官制」	1978.11.12	倉住靖彦	
		成人大学講座 大宰府史跡 5 「大野城史跡群現地視察」	1978.11.19	高橋　章	
		成人大学講座 大宰府史跡 6 「我が国における宮殿、官衙の調査」	1978.11.26	横山浩一（九州大学）	
		成人大学講座 大宰府史跡 7 「韓国における山城の研究」	1978.12.3	成　周鐸（韓国忠南大学）	
		成人大学講座 大宰府史跡 8 「古代の建築について」	1978.12.10	澤村　仁（九州芸術工科大学）	
昭和54年度（1979年）	講座	第7回 文化財の保存のための講座 「青銅器の保存について」	1979.3.13	江本義理（東京国立文化財研究所）	
	講演会	「銅鐸」 特別展「青銅器の武器展」関連講演会 「銅剣・銅矛」	1979.3.16	三木文雄（共立女子大学） 森貞次郎（九州産業大学）	
昭和55年度（1980年）	講演会	「求菩提山銅板経とその周辺」	1980.3.8	市場直次郎（筑紫女子短期大学）	
	講座	第8回 文化財の保存のための講座 「文化財の保存について 」	1980.3.13	増沢文武（元興寺文化財研究所）	
昭和56年度（1981年）				記載なし	
昭和57年度（1982年）	講演会	文化財講演会「中国古代の武器」	1982.11.2	楊　泓氏（中国社会科学院）　通訳：菅谷文則（橿原考古学研究所）	
		「工芸品の見方と取り扱い方－甲冑・馬具・唐櫃・神輿を中心として－」 「樹種同定からみた古代の木材利用」	1983.3.19	鈴木友也（東京国立文化財研究所） 松本　昺（九州大学）	
昭和58年度（1983年）	記念講演会	記念講演会「国宝観世音寺梵鐘について」	1984.3.7	森貞次郎（九州産業大学教授）	開館10周年記念事業
	シンポジウム	「古代の西海道と大宰府」 基調講演：「大宰府と飛鳥・平城宮」 「九州・山口の官衙遺跡の諸問題」 「古瓦からみた大宰府と西海道」	1984.3.12	横山浩一（九州大学） 澤村　仁（九州芸術工科大学） 小田富士雄（北九州市立考古博物館）	
		討論	1984.3.12	横山浩一、澤村　仁、小田富士雄、石松好雄、松村一良、 真野和夫、高島忠平、倉住靖彦、田村圓澄	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）①

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
昭和63年度 （1988年）	記念講演会	大宰府史跡発掘調査20周年記念講演会 第1回「大宰府の組織と機能」	1988.10.23	平野邦雄（東京女子大学）	大宰府史跡発掘調査 20周年記念事業
		第2回「大宰府史跡発掘調査20年の成果と課題」	1988.11.3	横田賢次郎	
		現地説明会「大宰府・史跡めぐり」	1988.11.20	赤司善彦	
		第3回「古代のいのりとまじなひ」	1988.12.11	水野正好（奈良大学）	
		第4回「発掘資料に見る文字の世界」	1988.12.18	原秀三郎（静岡大学）	
	シンポジウム	「甦る遠の朝廷 ―東アジアと大宰府―」 基調講演：「統一新羅の木造建築を中心に」 「発掘が語る大宰府の前身」 「筑紫鴻臚館の発見と大宰府」 「東アジアの都城と大宰府」	1988.9.23	金　東賢（韓国国立文化財研究所） 大塚初重（明治大学） 小田富士雄（福岡大学） 坪井清足（大阪文化財センター）	
		討論		司会：横山浩一（九州大学）、 金　東賢、大塚初重、小田富士雄、坪井清足	
平成 5年度 （1993年）	講演会	特別展記念講演会「鬼瓦の歴史」	1993.10.30	毛利光俊彦（奈良国立文化財研究所）	
平成 6年度 （1994年）	九歴講座	「九州のほとけたち」	1994		毎月第3月曜日　11回
		「遠の朝廷・大宰府」	1994		毎月第3金曜日　11回
		「大宰府を掘る」	1994		隔月第3水曜日　5回
		「近年の発掘調査から」	1994		隔月第3木曜日　6回
平成 7年度 （1995年）	九歴講座	「大宰府の歴史と美術」	1996.2.26～3.1	八尋和泉、倉住靖彦	計5回
		「古代のふるさと」シリーズ　第1回「遠賀川源流の古代文化」	1995.6.27	福島日出海（嘉穂町教育委員会）	計4回
		「古代のふるさと」シリーズ　第2回「古代テクノポリス鳥栖」	1995.9.26	藤瀬禎博（鳥栖市教育委員会）	
		「古代のふるさと」シリーズ　第3回「筑紫国造磐井とその周辺」	1995.12.6	赤崎敏男（八女市教育委員会）	
		「古代のふるさと」シリーズ　第4回「奴国中枢域の弥生文化」	1996.3.6	吉田佳広（春日市教育委員会）	
		「大宰府を歩こう 1」シリーズ　第1回「大宰府の史跡」	1995.8.9	栗原和彦	計5回
		「大宰府を歩こう 1」シリーズ　第2回「大宰府政庁跡」	1995.9.13	横田賢次郎	
		「大宰府を歩こう 1」シリーズ　第3回「水城跡」	1995.10.11	小田和利	
		「大宰府を歩こう 1」シリーズ　第4回「筑前国分寺」	1995.11.8	小川泰樹	
		「大宰府を歩こう 1」シリーズ　第5回「観世音寺」	1995.12.13	杉原敏之	
平成 8年度 （1996年）	九歴講座	「大宰府の歴史と美術」「観世音寺創建の意義」 「観世音寺の仏像と仏師」 「観世音寺の不空羂索観音像」	1997.3.28	倉住靖彦 八尋和泉 井形　進	
		「古代のふるさと」シリーズ　第1回「ヤス王国の実像」	1996.9.4	井上裕弘（県文化課）	計4回
		「古代のふるさと」シリーズ　第2回「周防灘の豪族たち」	1996.11.6	石山　勲	
		「古代のふるさと」シリーズ　第3回「古代鋳造技術の復元」	1996.12.17	遠藤喜代志（佐賀大学）	
		「古代のふるさと」シリーズ　第4回「三国境の古代文化」	1997.3.5	片岡宏二（小郡市教育委員会）	
		「大宰府を歩こう 2」シリーズ　第1回「古代の築堤技術」	1996.7.10	小田和利	計5回
		「大宰府を歩こう 2」シリーズ　第2回「大宰府の官営工房」	1996.9.11	横田賢次郎	
		「大宰府を歩こう 2」シリーズ　第3回「大野城 1」	1996.10.16	小川泰樹	
		「大宰府を歩こう 2」シリーズ　第4回「大野城 2」	1996.11.13	杉原敏之	
		「大宰府を歩こう 2」シリーズ　第5回「基肄城」	1996.12.11	栗原和彦	
平成 9年度 （1997年）	九歴講座	「大宰府の歴史と美術」シリーズ　第1回「戒壇院の歴史」	1997.11.14	倉住靖彦	計3回
		「大宰府の歴史と美術」シリーズ　第2回「戒壇院の本尊について」	1997.11.21	井形　進	
		「大宰府の歴史と美術」シリーズ　第3回「西戒壇の近世復興」	1997.11.28	八尋和泉	
		「古代のふるさと」シリーズ　第1回「弥生時代の戯画」	1997.7.23	常松幹雄（福岡市教育委員会）	計4回
		「古代のふるさと」シリーズ　第2回「古代の宗像－その繁栄と歴史」	1997.10.22	原　俊一（宗像市教育委員会）	
		「古代のふるさと」シリーズ　第3回「古代中世鉄の道具・鉄の武器」	1998.1.21	横田義章	
		「古代のふるさと」シリーズ　第4回「修験の遺宝・経塚を探る」	1998.3.4	重松敏美（求菩提資料館）	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）②

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成 9年度 （1997年）	九歴講座	「大宰府を歩こう３」シリーズ　第1回「石器の話」	1997.7.9	杉原敏之	計5回
		「大宰府を歩こう３」シリーズ　第2回「食器の話」	1997.8.6	赤司善彦	
		「大宰府を歩こう３」シリーズ　第3回「木器の話」	1997.9.10	齋部麻矢	
		「大宰府を歩こう３」シリーズ　第4回「陶磁器の話」	1997.10.8	横田賢次郎	
		「大宰府を歩こう３」シリーズ　第5回「瓦の話」	1997.11.12	栗原和彦	
平成10年度 （1998年）	記念講演会	大宰府史跡発掘調査30周年記念講演会 「大宰府政庁復元研究の歴史」	1998.10.31	山本輝雄（福岡国際大学）	大宰府史跡発掘調査 30周年記念事業
		「大宰府発掘調査の30年」	1998.11.3	栗原和彦	
		「大宰府政庁南門の構造と復元」	1998.11.8	鈴木嘉吉（元奈良国立文化財研究所）	
		「古代東アジアの芸能と観世音寺伎楽の復元」	1998.11.14	野村万之丞（狂言師）	
		「大宰府官僚機構の復元」	1998.11.21	笹山晴生（学習院大学）	
	九歴講座	「福岡のやきもの」シリーズ　第1回　「田香焼窯跡の発掘調査について」	1999.2.14	志満紀郎（大任町教育委員会）	計3回
		「福岡のやきもの」シリーズ　第2回　「上野焼系譜の中の田香焼について」	1999.2.27	副島邦弘	
		「福岡のやきもの」シリーズ　第3回　「上野・高取焼について」	1999.3.13	毛利茂樹	
		「歴史講座」シリーズ　第1回「道具で見る自然破壊の歴史」	1998.7.23	横田義章	計2回
		「歴史講座」シリーズ　第2回「文化財の指定制度について」	1999.1.13	新原正典	
平成11年度 （1999年）	九歴講座	「福岡のやきもの」シリーズ　第1回「筑後朝妻焼窯について」	2000.2.16	水原道範（久留米市教育委員会）	計2回
		「福岡のやきもの」シリーズ　第2回「筑後東野亭窯跡について」	2000.3.8	大石　昇（久留米市教育委員会）	
		「歴史講座」シリーズ　第1回「米と人間の歴史」	1999.7.23	横田義章	計2回
		「歴史講座」シリーズ　第2回「斉明天皇と朝倉宮」	1999.11.10	小田和利	
		「大宰府を歩こう」シリーズ　第1回「観世音寺、政庁・水城跡」	1999.9.22	杉原敏之	計2回
		「大宰府を歩こう」シリーズ　第2回「大野城跡」	1999.10.13	齋部麻矢	
平成12年度 （2000年）	九歴講座	「福岡のやきもの」シリーズ　第1回「筑前国焼高取焼の系譜（1）」	2000.12.13	副島邦弘	計2回
		「福岡のやきもの」シリーズ　第2回「筑前国焼高取焼の系譜（2）」	2001.1.18	吉田悦子（宮田町教育委員会）	
		「歴史講座」シリーズ　第1回「道具の歴史」	2000.8.9	横田義章	計2回
		「歴史講座」シリーズ　第2回「古代の文字」	2000.11.8	新原正典	
		「大宰府を歩こう」シリーズ　第1回「水城跡の現地見学」	2000.10.19	齋部麻矢	計2回
		「大宰府を歩こう」シリーズ　第2回「大宰府史跡発掘調査の成果」	2000.11.16	杉原敏之	
平成13年度 （2001年）	九歴講座	第1回「古墳の壁画～ヒトとモノの文化史Ⅰ～」	2001.8.4	石山　勲	
		第2回「貿易陶磁器に大宰府を見る」	2001.9.1	中島恒次郎（太宰府市教育委員会）、横田賢次郎	
		第3回「最近の邪馬台国問題」	2001.9.29	柳田康雄	
		第4回「水城跡調査の成果」	2001.10.18	小田和利	
		第5回「珍しい須恵器」	2001.11.10	馬田弘稔	
		第6回「豊前：上野焼と久我コレクション」	2001.12.8	副島邦弘	
		第7回「古鏡の話」	2002.2.16	柳田康雄	
平成14年度 （2002年）	九歴講座	第1回「水城の調査成果について」	2002.5.18	小田和利	
		第2回「大宰府の金属工房（宝満山遺跡群23次調査の成果）」	2002.6.29	岡寺　良	
		第3回「吉野ヶ里と奴国の金印」	2002.7.27	柳田康雄	
		第4回「大宰府の文字と役人たち」	2002.10.12	酒井芳司	
		第5回「観世音寺金堂跡発掘調査現地報告会」	2002.11.9	小田和利	
		第6回「ヒミコのまつりごと」	2003.1.18	柳田康雄	
		第7回「大宰府：祭りの原風景」	2003.2.8	横田賢道	
		第8回「水瓶山経塚と雨乞い行事」	2003.2.22	久野隆志（県文化財保護課）	
		第9回「考古学35年のあゆみ」	2003.3.29	柳田康雄	
平成15年度 （2003年）	九歴講座	第1回「太宰府市浦ノ田遺跡の調査成果について」	2003.4.19	辻田淳一郎（県文化財保護課）	
		第2回「観世音寺木簡と文化財科学」	2003.7.26	加藤和歳、酒井芳司	
		第3回「筑紫君磐井の時代」	2003.8.30	石山　勲	
		第4回「斉明女帝と天智天皇の時代」	2003.9.20	小田和利	
		第5回「菅原道真と天神信仰の時代」	2003.10.4	松川博一	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）③

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成15年度（2003年）	九歴講座	第6回「大宰府研究者たちの時代」	2003.10.18	高橋　章、酒井芳司	
		第7回「水城跡発掘調査現地説明会」	2003.10.26	小田和利	
		第8回「護宝螺と直弧文」	2004.1.17	橋口達也	
		第9回「弥生時代の実年代論」	2004.3.13	柳田康雄	
平成16年度（2004年）	九歴講座	第1回「律令制下における九州の行政機構」	2004.5.15	坂上康俊（九州大学）	
		第2回「上岩田遺跡と小郡官衙」	2004.5.29	柏原孝俊（小郡市教育委員会）	
		第3回「古代の官道」	2004.6.12	小鹿野亮(筑紫野市教育委員会)	
		第4回「観世音寺資財帳について」	2004.7.31	酒井芳司	
		第5回「観世音寺の発掘調査成果について」	2004.8.28	小田和利	
		第6回「観世音寺の巨像について」	2004.9.11	井形　進	
		第7回「観世音寺の自然科学的調査について」	2004.9.25	加藤和歳	
		第8回「水城跡発掘調査現地説明会」	2004.10.9	吉村靖徳	
		第9回「弥生時代の戦い」	2005.1.22	橋口達也	
		第10回「5世紀代の甲冑」	2005.3.12	児玉真一	
平成17年度（2005年）	九歴講座	第1回「水城の調査成果について」	2005.6.25	吉村靖徳	
		第2回「朝鮮通信使と博多祇園山笠」	2005.7.9	木下　修	
		第3回「福岡県における近世陶磁器の研究」	2005.9.10	副島邦弘	
		第4回「大野城災害復旧事業の成果」	2005.10.29	入佐友一郎、小澤佳憲（県文化財保護課）	
		第5回「九州古瓦雑考」	2005.11.19	高橋　章	
		第6回「水城跡発掘調査現地説明会」	2005.11.26	杉原敏之	
		第7回「大宰府の葬送」	2006.1.21	中間研志	
		第8回「近代博覧会の一様相 ―太宰府博覧会について―」	2006.3.4	副島邦弘	
平成18年度（2006年）	九歴講座	第1回「大宰府史跡の発掘調査成果」	2006.5.27	岡寺　良	
		第2回「大宰府出土の硯について」	2006.7.1	小田和利	
		第3回「墨書土器からみた古代の文字」	2006.8.26	酒井芳司	
		第4回「大宰府・石に刻まれた保存への願い ―明治・大正・昭和の記念碑―」	2006.10.21	井上理香（財）古都大宰府保存協会）	
		第5回「水城跡発掘調査現地説明会」	2006.12.9	坂本真一	
		第6回「アジアの海商張保皐」	2007.1.13	中間研志	
		第7回「大野城跡の発掘調査成果」	2007.2.10	小澤佳憲	
		第8回「古代の道路」	2007.3.17	坂本真一	
	新九州歴史資料館紹介講座	第1回「九州考古学の歩み」	2007.1.21	西谷　正	
		第2回「大宰府史跡の発掘調査と九州歴史資料館の歩み」	2007.3.24	杉原敏之	
平成19年度（2007年）	放送大学面接授業	大宰府講座（入門編）「大宰府の調査研究の歩み」 「大宰府史跡の発掘調査と整備」 「大宰府出土資料概説」	2007.11.17	小田富士雄（福岡大学） 杉原敏之 岡寺　良	
		フィールドワーク「大宰府史跡の巡見」	2007.11.18	杉原敏之、井形　進、岡寺　良	
	九歴講座	第1回「狛犬のはなし ―石工と彫塑家―」	2007.5.12	石山　勲	
		第2回「観世音寺の調査研究の成果」	2007.6.23	岡寺　良	
		第3回「太宰府の工芸と正倉院宝物」	2007.12.22	木村法光（京都市立芸術大学）	
		第4回「墓から探る弥生時代のはじまり」	2008.2.2	大庭孝夫	
		第5回「水城跡発掘調査現地説明会」	2008.2.16	坂本真一	
		第6回「大野城跡の発掘調査成果」	2008.3.8	小澤佳憲	
	新九州歴史資料館紹介講座	第3回「九州の旧石器文化 ―最終氷期の自然と人類―」	2007.6.16	杉原敏之	
		第4回「九州縄文文化の様相」	2007.7.21	宮地聡一郎	
		第5回「九州の弥生時代 ―弥生人のくらし―」	2007.9.15	山崎頼人（小郡市教育委員会）	
		第6回「九州の弥生時代 ―祭祀― ～縄文と弥生の神と祈り～」	2007.10.20	柏原孝俊（小郡市教育委員会）	
		第7回「九州の古墳時代 ―前方後円墳の出現から磐井の乱まで―」	2007.11.17	杉本岳史（小郡市教育委員会）	
		第8回「九州における古墳時代祭祀」	2007.12.15	下原幸裕	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）④

年度	区分	タイトル	期間	講師名(敬称略)	特記事項
平成19年度 (2007年)	新九州歴史資料館 紹介講座	第9回「大宰府の時代と九州」	2008.1.19	小田和利	
		第10回「九州の仏教美術 ―太宰府周辺地域を中心に―」	2008.2.16	井形　進	
平成20年度 (2008年)	放送大学面接授業	大宰府講座(歴史と環境編)「大宰府の遺跡と環境」 「古代大宰府と西海道」 「大宰府出土資料概説」	2008.12.6	高倉洋彰(西南学院大学教授) 重松敏彦 岡寺　良	
		フィールドワーク「大宰府史跡の巡見」	2008.12.7	杉原敏之、井形　進、岡寺　良	
	館長講座	邪馬台国の謎　第1回「九州の国ぐにと邪馬台国」	2008.12.14	西谷 正	館長講座開始
		第2回「投馬国と邪馬台国」	2009.1.17	西谷 正	
		第3回「倭国の乱の舞台」	2009.2.21	西谷 正	
		第4回「卑弥呼の鏡と墓」	2009.3.14	西谷 正	
	九歴講座	水城の発掘調査	2008.5.31	坂本真一(県文化財保護課)	
		高橋紹運と岩屋城合戦	2008.7.5	岡寺　良	
		大宰府史跡出土の木簡と文字瓦	2008.9.6	岡寺　良、加藤和歳、酒井芳司	
		水城跡発掘調査現地説明会	2008.11.8	一瀬　智	
	新九州歴史資料館 紹介講座	第1回 「筑後地域から見た大宰府の成立」	2008.4.26	田中正日子(元　第一経済大学)	
		第2回 「九歴と大宰府史跡の見学会」	2008.5.24	学芸調査室職員	
		第3回 「夏休みもの作り講座・木簡を作ろう」	2008.8.23	酒井芳司	
	記念講演会	大宰府史跡発掘40周年記念事業 『都府楼』第40号刊行記念講演会 記念講演:「大宰府史跡の歩み」 基調講演:「大宰府成立の問題」	2008.10.18	西谷　正 重松敏彦((財)古都大宰府保存協会事務局長) 岡寺　良	大宰府史跡発掘40周年 記念事業
	講座	大宰府発掘今昔物語 「九州考古学の歩み」	2008.11.29	小田富士雄(福岡大学名誉教授)	
	イベント	天平追想 ―古都大宰府に宴す―	2008.11.1	杉原敏之	
	シンポジウム	九州国立博物館開館3周年 日本考古学協会創立60周年 大宰府史跡発掘40周年記念国際シンポジウム 「百済、倭そして大宰府」	2008.12.6・7		大宰府史跡発掘40周年 記念事業
		古代都市・大宰府の成立を考える 記念講演:「古都大宰府と市民の歩み」 基調講演:「大宰府の成立をめぐる研究史」 問題提起:「大宰府成立の諸問題」 シンポジウム	2008.11.23	森　弘子(太宰府発見塾塾長) 小田富士雄(福岡大学名誉教授) 重松敏彦((財)古都大宰府保存協会事務局長) 井上信正(太宰府市教育委員会)、井形　進、杉原敏之	
	出前講座	大宰府発見連続出前講座	2008.6.17～2009.2.24	釜瀬進一郎、大庭孝夫、杉原敏之、岡寺　良、一瀬　智、井形　進、加藤和歳	
	ミュージアムトーク	企画展「天平追想 ―古代都市・大宰府の栄華―」	2008.10.18	岡寺　良、大庭孝夫	
平成21年度 (2009年)	放送大学面接授業	大宰府講座(通史編 1) 「大宰府成立以前の北部九州」 「古代大宰府と西海道支配」 「大宰府史跡の発掘調査」 「太宰府の仏教美術」 「宗教都市としての太宰府」	2009.11.7	西谷　正 酒井芳司 (県立アジア文化交流センター) 一瀬　智 井形　進 森　弘子(太宰府発見塾)	
		フィールドワーク 「大宰府史跡の巡見」	2009.11.8	岡寺　良、一瀬　智	
	館長講座	テーマ:「邪馬台国への道」 第 1回「中国・魏の洛陽城と帯方郡」	2009.4.25	西谷　正	
		第 2回「韓の国々 ―魏志韓伝の世界―」	2009.5.23	西谷　正	
		第 3回「海岸に循いて水行 ―狗邪韓国―」	2009.6.20	西谷　正	
		第 4回「始めて一海を渡る ―対馬国―」	2009.7.25	西谷　正	
		第 5回「又、南一海(瀚海)を渡る ―一支国―」	2009.8.22	西谷　正	
		第 6回「又、一海を渡る ―末盧国―」	2009.9.26	西谷　正	
		第 7回「東南、陸行 ―伊都国―」	2009.10.24	西谷　正	
		第 8回「東南 ―奴国―」	2009.11.28	西谷　正	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑤

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成21年度 （2009年）	館長講座	第 9回「東行 ―不弥国―」	2009.12.19	西谷　正	
		第10回「南、水行 ―投馬国―」	2010.1.23	西谷　正	
		第11回「邪馬台国九州説について」	2010.2.27	西谷　正	
		第12回「邪馬台国近畿説について」	2010.3.27	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「西新町遺跡　古墳時代集落の調査」	2009.6.27	重藤輝行（佐賀大学）	
		第 2回「西新町遺跡と韓半島」	2009.7.11	西谷　正	
		第 3回「水城跡の調査研究成果」	2009.9.12	一瀬　智	
		第 4回「大宰府史跡蔵司地区発掘調査現地説明会」	2009.10.24	一瀬　智	
		第 5回「大野城跡を発掘する」	2009.11.14	小澤佳憲（県文化財保護課）	
		第 6回「大野城跡を修理する」	2009.12.5	入佐友一郎（県文化財保護課）	
		第 7回「世界遺産登録を目指す―近代化産業遺産群―」	2010.1.16	森井啓次(県世界遺産登録推進室)	
		第 8回「水城・大野城を読み解く」	2010.2.6	酒井芳司(県立アジア文化交流センター)	
		第 9回「世界遺産登録を目指す―宗像・沖ノ島と関連遺産群―」	2010.2.20	岡寺未幾(県世界遺産登録推進室)	
		第10回「九歴のあゆみ」	2010.3.6	石松好雄（元 九州歴史資料館）	
	新九州歴史資料館 紹介講座	第 1回「太宰府とムラの暮らし① ―最盛期の大宰府―」	2010.12.12	小田和利	
		第 2回「太宰府とムラの暮らし② ―国と郡の役所―」	2011.1.9	小田和利	
		第 3回「太宰府とムラの暮らし③ ―ムラの暮らし―」	2011.2.13	小田和利	
		第 4回「太宰府とムラの暮らし④ ―小郡の古代遺跡―」	2011.3.13	小田和利	
	出前講座	大宰府発見連続出前講座	2010.6.4～2011.1.28	釜瀬進一郎、大庭孝夫、太宰府市都市計画課、小嶋　篤、 岡寺　良、一瀬　智、井形　進、加藤和歳	大宰府中学校総合学習
平成22年度 （2010年）	館長講座	テーマ：「アジアの中の福岡・九州」 第 1回「総論・アジアの中の福岡・九州」	2010.4.24	西谷　正	
		第 2回「福岡・九州のあけぼの ―旧石器時代―」	2010.5.22	西谷　正	
		第 3回「自然との共生 ―縄文時代―」	2010.6.26	西谷　正	
		第 4回「農業文化の誕生 ―弥生時代（1）―」	2010.7.24	西谷　正	
		第 5回「首長墓から王墓へ ―弥生時代（2）―」	2010.8.28	西谷　正	
		第 6回「漢・魏と倭 ―弥生時代（3）―」	2010.9.18	西谷　正	
		第 7回「ヤマト王権と前方後円墳 ―古墳時代（1）―」	2010.10.16	西谷　正	
		第 8回「技術革新の世紀 ―古墳時代（2）―」	2010.11.27	西谷　正	
		第 9回「装飾古墳をめぐって ―古墳時代（3）―」	2010.12.25	西谷　正	
		第10回「古墳の終焉と仏教の伝来 ―古墳時代（4）（飛鳥時代）―」	2011.1.22	西谷　正	
		第11回「大宰府の成立 ―白鳳時代―」	2011.2.26	西谷　正	
		第12回「大宰府と西海道九国・三島 ―奈良時代―」	2011.3.26	西谷　正	
	九歴講座	蔵司地区の現地説明会	2010.10.30	小田和利、一瀬　智	
		第 1回「資料館の展示室ができるまで」	2011.2.6	杉原敏之	
		第 2回「平塚川添遺跡について」	2011.2.12	川端正夫（朝倉市教育委員会）	
		第 3回「宗茂と吉政 ―柳川の二人の大名―」	2011.3.5	田淵義樹（柳川古文書館）	
		第 4回「中世～近代の古文書から見る福岡」	2011.3.13	一瀬　智	
		第 5回「求菩提山修験道の世界」	2011.3.19	恒遠俊輔（求菩提資料館）	
	放送大学面接授業	大宰府講座（通史編2） 「旅人と道真 ―大宰府の歌人―」 「高橋紹運と岩屋城合戦―北部九州の戦国時代―」 「江戸時代の宰府宿」	2011.1.15	松川博一 岡寺　良 一瀬　智	
		「大宰府史跡の巡見」	2011.1.16	松川博一、岡寺　良、一瀬　智	
	記念講座	開館記念プレイベント講演会 「展望・大宰府研究 ―蔵司跡の調査から―」 記念講演：「大宰府の機能と律令国家」 調査報告：「蔵司跡の最新調査成果」 研究報告：「大宰府史跡出土の付札木簡」 「大宰府史跡出土の武器・武具」 九歴紹介：「九州歴史資料館と大宰府」 史跡見学：「蔵司跡の現地説明」	2010.10.30	佐藤　信（東京大学大学院） 岡寺　良 酒井芳司 小嶋　篤 松川博一 小田和利、一瀬　智	移転開館記念事業

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑥

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成22年度 （2010年）	シンポジウム	開館記念シンポジウム 「大宰府と西海道 ―古代の役所と人々のくらし―」 記念講演：「大宰府研究の今日」 「日本古代の地方の役所」 調査報告：「大宰府研究の展開」 「筑後国府の展開」 「小郡官衙遺跡と周辺の官衙」 「古代集落の動向」 パネルディスカッション	2010.12.4	笹山晴生（東京大学名誉教授） 山中敏史（奈良文化財研究所名誉研究員） 杉原敏之 神保公久（久留米市文化財保護課） 柏原孝俊（小郡市教育委員会） 小田和利 コーディネーター：西谷　正	移転開館記念事業
	特別展講座	第 1回「大宰府の発掘」	2010.12.18	横田賢道	
		第 2回「大宰府の仏像」	2011.1.8	八尋和泉	
平成23年度 （2011年）	館長講座	テーマ：「古代の朝鮮半島」 第 1回「歴史のあけぼの ―旧石器時代―」	2011.4.23	西谷　正	
		第 2回「櫛目文土器文化の成立と展開 ―新石器時代―」	2011.5.28	西谷　正	
		第 3回「青銅器の登場と農業社会 ―青銅器時代―」	2011.6.25	西谷　正	
		第 4回「鉄器の普及と国家形成への動き ―原三国時代―」	2011.7.23	西谷　正	
		第 5回「桓仁の遺跡群 ―三国時代高句麗前期―」	2011.8.27	西谷　正	
		第 6回「集安の遺跡群 ―高句麗中期―」	2011.9.24	西谷　正	
		第 7回「ピョンヤンの遺跡群 ―高句麗後期―」	2011.10.22	西谷　正	
		第 8回「高句麗の壁画古墳」	2011.11.26	西谷　正	
		第 9回「ソウルの遺跡群 ―百済前期―」	2011.12.24	西谷　正	
		第10回「公州の遺跡群 ―百済中期―」	2012.1.28	西谷　正	
		第11回「扶余の遺跡群 ―百済後期―」	2012.2.25	西谷　正	
		番外編「北朝鮮の遺跡を訪ねて」	2012.3.3	西谷　正	
		第12回「百済の前方後円墳」	2012.3.24	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「九州歴史資料館　展示の科学」	2011.4.6	加藤和歳	
		第 2回「大宰府史跡蔵司地区の最新調査成果」	2011.5.14	小嶋　篤	
		第 3回「北部九州の戦国期城館 ―筑前朝倉地域を中心に―」	2011.6.11	岡寺　良	
		第 4回「水城の築堤年代について」	2011.7.9	小田和利	
		第 5回「安東省菴と朱舜水」	2011.8.5	田淵義樹（柳川古文書館）	
		第 6回「修験道と相撲」	2011.9.10	恒遠俊輔（求菩提資料館）	
		第 7回「朝倉の方言とこぼればなし」	2011.10.8	松田秋廣（甘木歴史資料館）	
		第 8回「筑後国府跡の調査」	2011.11.5	神保公久（久留米市教育委員会）	
		第 9回「元寇記念碑の建立」	2011.12.10	國生知子（県文化財保護課）	
		第10回「北部九州の経塚と埋納経筒」	2012.1.14	森井啓次（県世界遺産登録推進室）	
		第11回「福岡県の近代」	2012.2.11	渡部邦昭	
		第12回「世界遺産登録の今」	2012.3.10	磯村幸男（県世界遺産登録推進室）	
	九歴ゼミ	史料講読（第1期）「史料が語る大宰府の歴史 ―『大宰府・太宰府天満宮史料』を読み解く―」	2011.4.23～6.22	松川博一	
		専門講座（第1期）「大宰府史跡について」	2011.7.13～9.28	小田和利	
		史料講読（第2期）「九歴古文書講座」	2011.10.5～12.21	一瀬　智	
		専門講座（第2期）「北部九州の古代彫刻 ―太宰府を中心に―」	2012.1.11～3.28	井形　進	
	講座	発掘速報展講座「発掘報告会2011」 「行橋市矢留堂ノ前遺跡」 「みやこ町呰見大塚古墳」 「行橋市延永ヤヨミ園遺跡」	2011.7.30	秦　憲二 坂本真一 城門義廣	
	記念講演会	特別展記念講演会 展示講演：「発掘された日本列島2011について」 記念講演：「青銅器と弥生社会」 調査報告1：「田熊石畑遺跡の調査」 調査報告2：「岸田遺跡の調査」 対談：「北部九州の青銅器と弥生社会 ―福岡の新発見資料から―」	2011.11.19	水ノ江和同（文化庁） 西谷　正 白木英敏（宗像市教育委員会） 長家　伸（福岡市教育委員会） 司会：西谷　正／白木英敏・長家　伸	
	放送大学面接授業	「斉明天皇と朝倉宮」 「大宰府と筑後の官衙遺跡」 「大宰府の軍制」	2011.11.12	小田和利 杉原敏之 小嶋　篤	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑦

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成23年度 （2011年）	放送大学面接授業	「筑後の古代官衙関連遺跡の巡見」	2011.11.13	小田和利、杉原敏之、小嶋　篤	
	九歴講座in大宰府	第 1回「大宰府成立以前～一大率・那津官家・筑紫大宰～」	2011.5.21	西谷　正	
		第 2回「大宰府の武器・武具」	2011.6.18	小嶋　篤	
		第 3回「太宰府の中世山城」	2011.7.16	岡寺　良	
		第 4回「朝倉宮と水城大堤」	2011.8.20	小田和利	
	シンポジウム	鳥取発！弥生文化シンポジウム 「とっとり倭人伝　弥生の国邑・市羅の実像 ―集落と交易―」 記念講演：「弥生時代の祭りの起源を探る」 パネルディスカッション：「弥生の国邑・市羅の実像」	2012.2.18	金関　恕（大阪府立弥生文化博物館） パネリスト：井上義也（春日市奴国の丘歴史資料館） 岡部裕俊（糸島市立伊都国歴史博物館） 常松幹雄（福岡市教育委員会） 小口英一郎（鳥取県立むきばんだ史跡公園） 河合章行（鳥取県立埋蔵文化財センター） コーディネーター：西谷　正	
平成24年度 （2012年）	名誉館長講座	テーマ：「古代の朝鮮半島」 第 1回「三国時代新羅の都城と山城」	2012.4.30	西谷　正	
		第 2回「真興王の拓境碑と古墳・山城」	2012.5.26	西谷　正	
		第 3回「新羅古墳の変遷」	2012.6.23	西谷　正	
		第 4回「北朝鮮の遺跡を訪ねて―2012」	2012.7.22	西谷　正	
		番外編「新羅の寺院と仏像」	2012.7.28	西谷　正	
		第 5回「新羅の鉄と鉄器の生産」	2012.8.25	西谷　正	
		第 6回「新羅の国際性」	2012.9.22	西谷　正	
		第 7回「三国時代加耶の諸問題」	2012.10.27	西谷　正	
		第 8回「加耶土器の地域性と編年」	2012.11.24	西谷　正	
		第 9回「金海の遺跡群」	2012.12.22	西谷　正	
		第10回「咸安の遺跡群」	2013.1.26	西谷　正	
		第11回「高霊の遺跡群」	2013.2.16	西谷　正	
		第12回「『任那日本府』説の考古学的検討」	2013.3.23	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「大宰府史跡蔵司地区の最新調査成果」	2012.4.14	下原幸裕	
		第 2回「九州における縄文時代の始まり」	2012.5.12	杉原敏之	
		第 3回「国指定史跡　阿志岐山城跡」	2012.6.9	草場啓一（筑紫野市教育委員会）	
		第 4回「大宰府の軍制」	2012.7.14	松川博一	
		第 5回「国指定史跡　牛頸須恵器窯跡」	2012.8.11	石木秀啓（大野城市教育委員会）	
		第 6回「中近世移行期の立花氏と家臣団」	2012.9.8	白石直樹（柳川古文書館）	
		第 7回「土地に刻まれた歴史」	2012.10.13	馬田弘稔（甘木歴史資料館）	
		第 8回「内野宿茶屋跡の発掘調査成果」	2012.11.10	櫛山範一（飯塚市教育委員会）	
		第 9回「周防灘沿岸の戦争遺跡」	2012.12.8	中原　博（行橋市教育委員会）	
		第10回「九州西側の石造古仏」	2013.1.12	井形　進	
		第11回「私の父田中幸夫と筑紫の古代史」	2013.2.9	田中正日子（元 第一経済大学）	
		第12回「豊前市の岩戸神楽」	2013.3.9	相良悦子（求菩提資料館）	
	九歴ゼミ	第 1期「史料が語る大宰府の歴史」	2012.4.11～6.27	松川博一	
		第 2期「考古基準資料－欠片から探る土器・陶磁器・瓦－」	2012.7.13～9.26	岡寺　良	
		第 3期「薩摩塔の時空－異形の石塔をさぐる－」	2012.10.10～12.26	井形　進	
		第 4期「史料講読「九歴古文書講座」」	2013.1.9～3.27	一瀬　智	
	ギャラリートーク	第 1回　① 仏教美術	2012.5.16	井形　進	
		第 2回　② 古代	2012.7.18	松川博一	
		第 3回　③ 近代	2012.9.19	渡部邦昭	
		第 4回　④ 近世	2012.11.21	一瀬　智	
		第 5回　番外編　仏教美術	2013.1.30	井形　進	
		第 6回　⑤ 考古学	2013.2.20	岡寺　良	
	放送大学面接授業	大宰府講座　「大宰府と豊前国府」 「豊前国の古代寺院」 「豊前国の軍備」	2012.11.17	岡田　諭 下原幸裕 小嶋　篤	
		豊前の遺跡・展示施設巡見	2012.11.18	小田和利、杉原敏之、小嶋　篤	
	講座	九歴講座in太宰府 「大宰府と扶余」	2013.6.16	西谷　正	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑧

年度	区分	タイトル	期間	講師名(敬称略)	特記事項
平成24年度 (2012年)	講座	「大宰府と紫草」	2013.7.21	松川博一	
		「大宰府史跡の最新発掘成果」	2013.8.18	下原幸裕	
		「福岡藩における大宰府跡の保存と顕彰」	2013.9.15	一瀬　智	
平成25年度 (2013年)	名誉館長講座	テーマ:「古代の朝鮮半島」 第 1回「新羅京と渤海京の時代」	2013.4.27	西谷　正	
		第 2回「新羅王京と九州五小京」	2013.5.25	西谷　正	
		第 3回「統一新羅の寺院跡」	2013.6.22	西谷　正	
		第 4回「統一新羅の古墳と王陵」	2013.7.27	西谷　正	
		第 5回「統一新羅の土器・陶器と瓦」	2013.8.24	西谷　正	
		第 6回「正倉院の新羅文物」	2013.9.28	西谷　正	
		第 7回「渤海五京の遺跡(1)」	2013.10.19	西谷　正	
		第 8回「渤海五京の遺跡(2)」	2013.11.23	西谷　正	
		第 9回「渤海五京の遺跡(3)」	2013.12.21	西谷　正	
		第10回「渤海五京の遺跡(4)」	2014.1.25	西谷　正	
		第11回「ロシアの渤海遺跡」	2014.2.22	西谷　正	
		第12回「渤海と日本の考古学」	2014.3.22	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「埴輪が語る古墳時代」	2013.4.13	小嶋　篤	
		第 2回「鴻臚館跡の最新発掘調査成果」	2013.5.11	吉武　学(福岡市大規模史跡整備推進課)	
		第 3回「古代から中世の貿易陶磁器について」	2013.6.8	遠藤啓介	
		第 4回「薩摩塔とその世界」	2013.7.13	井形　進	
		第 5回「鉄道遺産への招待」	2013.8.10	渡部邦昭	
		第 6回「山本作兵衛炭鉱記録画からみた筑豊炭田」	2013.9.14	福本　寛(田川市石炭・歴史博物館)	
		第 7回「国史跡　首羅山遺跡」	2013.10.12	江上智恵(久山町教育委員会)	
		第 8回「瀬高下荘・鷹尾別符と大宮司紀氏鷹尾家」	2013.11.9	田淵義樹(柳川古文書館)	
		第 9回「八幡神序説(1)」	2013.12.14	高橋　章(求菩提資料館)	
		第10回「先史時代の有明海沿岸地域」	2014.1.11	小池史哲(甘木歴史資料館)	
		第11回「絵師がみた幕末の太宰府とその遺産」	2014.2.8	井上理香(太宰府市文化ふれあい館)	
		第12回「八幡造論争史」	2014.3.8	土田充義(鹿児島大学名誉教授)	
	九歴ゼミ	第 1期「仏像拝観基礎講座」	2013.4.10～6.26	井形　進	
		第 2期「九歴古文書講座」	2013.7.10～9.25	一瀬　智	
		第 3期「科学の目で見た文化財」	2013.10.9～12.25	加藤和歳	
		第 4期「史料が語る大宰府の歴史」	2014.1.8～3.26	松川博一	
	報告会・記念講演会	調査報告会2013 「福原長者原遺跡」 「大宰府史跡」 「皿山古墳群」 「上片島遺跡群」	2013.9.7	岡田　諭 下原幸裕 小嶋　篤、小林　啓 城門義廣	
		『戦国武将の誇りと祈り ―九州の覇権のゆくえ―』 「豊臣秀吉と九州の城郭」	2013.10.20	千田嘉博(奈良大学)	
		「戦国武将と連歌」	2013.11.3	有川宜博(北九州市立自然史・歴史博物館)	
		『水城・大野城調査研究事始め』 「大宰府都城研究の現在」	2013.12.7	小田富士雄(福岡大学名誉教授)	
		『五卿西竄150年　五卿と志士 ―維新前夜の太宰府―』 「五卿と薩長同盟・幕長戦争」 「五卿と野村望東尼」	2014.2.1	三宅紹宣(広島大学大学院教授) 谷川佳枝子(福岡地方史研究会会員)	
	夜のギャラリートーク	特集展示「福岡のお金の歴史」 特集展示「福岡の鉄道遺産ものがたり」	2013.8.21	松川博一 渡部邦昭	
		特別展「戦国武将の誇りと祈り」	2013.10.16	松川博一	
		企画展「水城・大野城調査研究事始め」	2013.12.18	岡寺　良	
		仏教美術	2014.1.15	井形　進	
		企画展「五卿と武士」	2014.2.5	一瀬　智	
	放送大学面接授業	大宰府講座 「大宰府と西海道」 「鞠智城と肥後国」 「律令期の生産活動」	2013.11.30	松川博一 木村龍生(熊本県教育委員会) 小嶋　篤	
		巡見:鞠智城・装飾古墳館・山鹿市立博物館	2013.12.1	木村龍生、小嶋　篤	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑨

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成25年度 （2013年）	九歴講座in太宰府	第 1回「筑紫館・鴻臚館と『客館』」	2013.6.15	西谷　正	
		第 2回「古代大宰府の山林利用」	2013.7.20	小嶋　篤	
		第 3回「大宰府と西海道国府」	2013.8.17	杉原敏之	
		第 4回「古仏の殿堂・観世音寺」	2013.9.21	井形　進	
平成26年度 （2014年）	名誉館長講座	テーマ：「中世の朝鮮半島」 第 1回「高麗の首都・開城」	2014.4.26	西谷　正	
		第 2回「三別抄の乱の舞台―江華島・珍島・済州島」	2014.5.31	西谷　正	
		第 3回「高麗の鎮城・山城と長城」	2014.6.28	西谷　正	
		第 4回「高麗仏教の寺院跡と遺物」	2014.7.26	西谷　正	
		第 5回「高麗の王陵と墳墓」	2014.8.24	西谷　正	
		第 6回「高麗の土器・陶磁器と窯跡」	2014.9.27	西谷　正	
		第 7回「高麗青磁の起源」	2014.10.25	西谷　正	
		第 8回「高麗陶磁器の生産と流通 ―沈没船の調査成果―」	2014.11.22	西谷　正	
		第 9回「新安沖海底と中国出土の高麗青磁」	2014.12.2	西谷　正	
		第10回「朝鮮出土の中国陶磁器と日本出土の高麗青磁」	2015.1.24	西谷　正	
		第11回「高麗の祭祀遺跡と双鳳文柄鏡」	2015.2.28	西谷　正	
		第12回「高麗と琉球」	2015.3.28	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「船原古墳遺物埋納坑の科学調査最前線」	2014.4.12	小林　啓	
		第 2回「大宰府史跡の調査成果」	2014.5.10	下原幸裕	
		第 3回「韓国の古仏と石塔」	2014.6.14	井形　進	
		第 4回「福原長者原遺跡と古代の豊前国府」	2014.7.12	岡田　諭	
		第 5回「「庚寅」銘大刀と7世紀の北部九州」	2014.8.9	大塚紀宜（福岡市埋蔵文化財調査課）	
		第 6回「霊峰　宝満山」	2014.9.13	山村信榮（太宰府市教育委員会）	
		第 7回「朝倉地域の歴史と文化」	2014.10.11	小池史哲（甘木歴史資料館）	
		第 8回「中世の北部九州と宗像氏」	2014.11.8	野木雄大（県世界遺産登録推進室）	
		第 9回「柳川ゆかりの洋画家龍駿介がみた山河」	2014.12.13	江島　香（柳川古文書館）	
		第10回「一支国の王都・原の辻の全貌」	2015.1.10	松見裕二（壱岐市教育委員会）	
		第11回「大宰府出土の木簡」	2015.2.14	酒井芳司	
		第12回「求菩提の農村風景」	2015.3.14	坂梨祐子（豊前市教育委員会）	
	九歴ゼミ	第 1期「古代山城について」	2014.4～6	小田和利	
		第 2期「史料が語る大宰府の歴史」	2014.7～9	松川博一	
		第 3期「福岡県の仏像と神像」	2014.10～11	井形　進	
	報告会・記念講演会	調査報告会2014 「延永ヤヨミ園遺跡：古代の文字発見！？」 「本町遺跡：柳川の近世城下町！」 「大宰府跡：言わずと知れた遠の朝廷！」	2014.8.2	酒井芳司、城門義廣 秦　憲二 岡田　諭	
		『黒田官兵衛と城』 「官兵衛の築城を探る ―福岡城を中心に―」	2014.9.7	中井　均（滋賀県立大学）	
		『徹底解説!!水城のすべて ―古代の築堤・貯水技術―』 「水城の構造と築造技術 ―現代土木技術者の視点から―」	2014.9.23	林　重徳（佐賀大学）	
		『福岡の神仏の世界－九州北部に華開いた信仰と造形―』 「福岡県の仏像」	2014.11.1	八尋和泉（元別府大学）	
		「戦国武将と連歌」	2014.11.3	有川宜博（北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員）	
		『政治家 野田卯太郎から見る日本の近代』 「「地方の時代」が生んだ政党政治―野田卯太郎の活動と関係文書の意義―」	2015.1.17	有馬　学（福岡市博物館）	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑩

年度	区分	タイトル	期間	講師名(敬称略)	特記事項
平成26年度 (2014年)	夜のギャラリートーク	企画展「黒田官兵衛と城」	2014.9.3	岡寺　良	
		企画展「徹底解説！水城のすべて」	2014.9.17	岡寺　良	
		特別展「福岡の神仏の世界」	2014.10.24	井形　進	
		企画展「政治家野田卯太郎から見る日本の近代」	2014.12.17	渡部邦昭	
		特集展示「大宰府の役所」	2015.3.4	酒井芳司	
	九歴講座 in太宰府	第 1回「大宰府と寺社」	2014.7.9	松川博一	
		第 2回「大宰府式鬼瓦 ―その正体解明に向けて―」	2014.8.16	井形　進	
		第 3回「水城の構造を探る」	2014.9.20	杉原敏之	
	放送大学面接授業	大宰府講座「肥前国の神籠石と古代山城」 「大宰府と肥前国府」 「防人木簡からみた社会動向」	2014.11.29	小田和利 杉原敏之 小松　譲(佐賀県教育委員会)	
		巡見:唐津市鏡山、武雄市おつぼ山神籠石、佐賀市肥前国庁跡	2014.11.30		
	シンポジウム	水城・大野城・基肄城1350年記念式典・シンポジウム	2014.8.23		
平成27年度 (2015年)	名誉館長講座	テーマ:「近世の朝鮮半島」 第 1回「漢陽(漢城)の遺跡」	2015.4.25	西谷　正	
		第 2回「邑城について」	2015.5.30	西谷　正	
		第 3回「生産関係遺跡・港湾遺跡」	2015.6.20	西谷　正	
		第 4回「関防遺跡・山城と燧燧台」	2015.7.18	西谷　正	
		第 5回「文禄・慶長の役と倭城」	2015.8. 9	西谷　正	
		第 6回「寺院跡と仏教遺物」	2015.9.26	西谷　正	
		第 7回「李朝の王陵と胎室」	2015.10.24	西谷　正	
		第 8回「李朝の民墓と墓誌」	2015.11.28	西谷　正	
		第 9回「朝鮮通信使の遺跡」	2015.12.19	西谷　正	
		第10回「日本出土の李朝陶磁器と釜山窯の御本茶碗」	2016.1.23	西谷　正	
		第11回「古上野・高取と李朝陶磁器」	2016 .2.27	西谷　正	
		第12回「日本における李朝系屋瓦」	2016. 3.26	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「八女古墳群と筑紫君磐井」	2015.4.11	大塚恵治(八女市教育委員会)	
		第 2回「大宰府史跡の最新調査成果」	2015.5.9	岡田　諭	
		第 3回「筑前地域の中近世城館 ―詳細分布調査の成果から―」	2015.6.13	岡寺　良	
		第 4回「名勝水郷柳河 ～北原白秋の詩情を育くんだ風景～」	2015.7.11	堤　伴治(柳川市教育委員会)	
		第 5回「小倉藩主小笠原家と小笠原文庫について」	2015.8.8	川本英紀(みやこ町歴史民俗博物館)	
		第 6回「海西に二巨儒あり ―安東省菴と貝原益軒―」	2015.9.12	田淵義樹(柳川古文書館)	
		第 7回「糟屋官衙遺跡群阿恵遺跡 ―糟屋郡(評)の役所はここだった―」	2015.10.10	西垣彰博(粕屋町教育委員会)	
		第 8回「大宰府と駅家 ―万葉集にみる蘆木・夷守駅家―」	2015.11.14	松川博一	
		第 9回「求菩提歴史散歩」	2015.12.12	相良悦子(求菩提資料館)	
		第10回「大宰府 ―古代都市と迎賓施設―」	2016.1.9	井上信正(太宰府市教育委員会)	
		第11回「沖縄の旧石器人と人類の起源」	2016.2.13	山崎真治(沖縄県立博物館・美術館)	
		第12回「ひみこ講座受講生の石造文化財調査」	2016.3.12	小池史哲(甘木歴史資料館)	
		番外編「大宰府史跡を巡る人たち」	2016.3.21	伊崎俊秋	
	九歴ゼミ	第 1期「史料が語る大宰府の歴史」	2015.4.13～6.22	酒井芳司	
		第 2期「特集講義『中近世城館研究序論』」	2015.7.8～9.23	岡寺　良	
		第 3期「韓国仏像史入門」	2015.10.14～12.6	井形　進	
	報告会・記念講演会	調査報告会2015 「下伊良原高木神社跡:神社跡の下から縄文遺跡発見！」 「水城跡:100年ぶりの土塁断面の調査」 「科学的調査:展示資料の科学的調査」	2015.8.29	飛野博文 杉原敏之 小林　啓	
		「貝原益軒－大宰府研究の先賢たち－」	2015.9.7	大庭卓也(久留米大学)	
		『四王寺山の1350年 ―大野城から祈りの山へ―』 「大宰府四天王寺と秋田城四天王寺」	2015.11.22	三上喜孝(国立歴史民俗博物館) 松川博一	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑪

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成27年度 （2015年）	シンポジウム	『東アジアと列島西端の旧石器文化―朝鮮半島、九州、南西諸島の対比から―』 記念講演：「先史時代の人類文化と交流」 基調報告：「韓半島の旧石器文化と九州」	2016.2.20	小畑弘己（熊本大学） 張　龍俊（韓国国立大邱博物館） 〔通訳：田中聡一（壱岐市教育委員会）〕	
		研究報告第1部 『西北九州の黒曜石産地をめぐる諸問題』 ・「巨大な黒曜石原産地・腰岳」 ・「百花台遺跡群と黒曜石の動向」 ・「西北九州の黒曜石と石刃技法」 ・「西北九州の黒曜石原産地研究の課題」 ・「サヌカイト原産地からみた問題」 研究報告第2部 『南北を弧状に貫く人類文化の様相』 ・「九州における剥片尖頭器の展開」 ・「琉球列島の人類文化の系譜」 ・「韓半島からみた日本九州地域の旧石器」	2016.2.21	芝康次郎（奈良文化財研究所） 辻田直人（雲仙市教育委員会） 杉原敏之（県文化財保護課） 川道　寛（長崎県立埋蔵文化財センター） 越知睦和（佐賀県教育委員会） 藤木　聡（宮崎県立西都原考古博物館） 山崎真治（沖縄県立博物館・美術館） 張　龍俊（韓国　国立大邱博物館） ＊シンポジウム司会：岩谷史記（熊本市観光文化交流局）	
	夜のギャラリートーク	企画展「古墳から火葬墓へ」	2015.4.15	下原幸裕	
		企画展「小笠原文庫の世界」	2015.8.19	渡部邦昭	
		企画展「貝原益軒と大宰府」	2015.9.16	酒井芳司	
		特別展「四王寺の1350年」	2015.11.18	松川博一	
		企画展「黒曜石と石刃技法」	2016.2.17	杉原敏之	
	九歴講座in太宰府	第 1回「大野城の修繕―白村江後の東アジア情勢の変化と大野城跡―」	2015.6.20	小澤佳憲	
		第 2回「大野城跡と大宰府」	2015.7.28	伊崎俊秋	
		第 3回「大宰府と貝原益軒」	2015.815.	酒井芳司	
	放送大学面接授業	大宰府講座「文献から考える大宰府前史」 「大宰府防衛体制について」 「朝鮮半島の古代山城」	2015.5.30	酒井芳司 小田和利 亀田修一（岡山理科大学）	
		九州歴史資料館・水城跡・大野城跡　巡見	2015.5.31		
平成28年度 （2016年）	名誉館長講座	テーマ：「シルクロードの考古学」 第 1回「Ⅰ オアシスの道 (1) ティリァ・テペの遺宝」	2016.4.30	西谷　正	
		第 2回「Ⅰ オアシスの道 (2) ガンダーラ文化と北東アジア」	2016.5.28	西谷　正	
		第 3回「Ⅰ オアシスの道 (3) 西域における漢の文化」	2016.6.26	西谷　正	
		第 4回「Ⅰ オアシスの道 (4) 西域における唐の文化」	2016.7.23	西谷　正	
		第 5回「Ⅰ オアシスの道 (5) 敦煌の遺跡群」	2016.8.20	西谷　正	
		第 6回「Ⅰ オアシスの道 (6) 長城地帯の遺跡群」	2016.9.24	西谷　正	
		第 7回「Ⅱ 草原の道 (1) 黄金のスキタイ遊牧文化」	2016.10.22	西谷　正	
		第 8回「Ⅱ 草原の道 (2) パジリク王墓の発掘」	2016.11.26	西谷　正	
		第 9回「Ⅱ 草原の道 (3) ツングース系民族の文化」	2016.12.26	西谷　正	
		第10回「Ⅲ 海の道 (1) 中世北東アジアの交易」	2017.1.22	西谷　正	
		第11回「Ⅲ 海の道 (2) ベトナムの遺跡と遺物」	2017.2.25	西谷　正	
		第12回「Ⅲ 海の道 (3) タイの仏教遺跡と陶磁器」	2017.3.25	西谷　正	
		番外編 「北朝鮮の遺跡を訪ねて―2016」	2016.8.11	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「船原古墳遺物埋納坑の科学調査最前線」	2016.4.9	小林　啓	
		第 2回「大宰府史跡発掘調査関連　古代山城門出土の軸摺金具」	2016.5.14	小澤佳憲	
		第 3回「豊前地域の中近世城館―詳細分布調査の成果から②―」	2016.6.11	岡寺　良	
		第 4回「東日本大震災の復興と文化財調査」	2016.7.9	宮地聡一郎（県文化財保護課）	
		第 5回「筑紫君磐井の乱と岩戸山古墳」	2016.8.6	酒井芳司	
		第 6回「行橋市・稲童古墳群とその出土品」	2016.9.10	山口裕平（行橋市教育委員会）	
		第 7回「牛頭山谷川寺の仏像―薬師如来立像と仁王像を中心に―」	2016.10.8	井形　進	
		第 8回「柳川藩最後の藩主立花鑑寛と純姫」	2016.11.12	白石直樹（柳川古文書館）	
		第 9回「明治日本の産業革命遺産　製鉄・鉄鋼・造船・石炭産業」	2016.12.10	森井啓次（県世界遺産登録推進室）	
		第10回「甘木絞りの基礎知識」	2017.1.14	遠藤啓介（甘木歴史資料館）	
		第11回「小郡・朝倉地域の古代遺跡－横断道の調査」	2017.2.11	小田和利	
		第12回「山伏の女たち」	2017.3.11	相良悦子（求菩提資料館）	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑫

年度	区分	タイトル	期間	講師名(敬称略)	特記事項
平成28年度 (2016年)	九歴ゼミ	第 1期「史料が語る大宰府の歴史」	2016.4.13～6.22	酒井芳司	
		第 2期「博物館の保存科学－化学分析編―」	2016.7.13～9.28	小林　啓	
		第 3期「神像彫刻入門」	201610.12～12.21	井形　進	
	報告会・記念講演会	調査報告会2016 「京築地域の歴史」	2016.8.27	飛野博文	
		特別展開催記念『八女の名宝』「対外関係から見た磐井の乱」	2016.10.23	熊谷公男(東北学院大学) 岡寺　良	
		企画展開催記念『大宰府の役人と文房具』「古代の役人と文字」	2016.12.23	柴田博子(宮崎産業経営大学)	
	シンポジウム	企画展開催記念『筑後川北岸の古代遺跡』 『古墳時代の対外交流と筑紫―渡来人と馬・須恵器―』 講演:「渡来人と筑紫」 「考古学からみた筑紫の渡来人」 事例報告:シンポジウム	2017.3.18	田中史生(関東学院大学) 亀田修一(岡山理科大学) 小郡市教育委員会、筑前町教育委員会、九歴担当職員 司会:小田和利　、パネラー:講師全員	
	夕べのギャラリートーク	特集展示「絵葉書から見る福岡の風景」	2016.8.17	渡部邦昭	
		特別展「八女の名宝」Part.1	2016.10.5	酒井芳司	
		特別展「八女の名宝」Part.2	2016.10.19	井形　進	
		企画展「大宰府の文房具」	2016.12.7	小田和利	
		企画展「大宰府の役人」	2017.1.11	酒井芳司	
		企画展「筑後川北岸の古代遺跡」	2017.2.22	岡寺　良	
	九歴講座in太宰府	第 1回「太宰府の鉄道127年～夢と現実の狭間で～」	2016.6.18	渡部邦昭	
		第 2回「筑紫観世音寺と朝倉宮」	2016.7.16	小田和利	
		第 3回「大宰府発掘～蔵司地区官衙の最新調査から～」	2016.8.20	下原幸裕	
	放送大学面接授業	大宰府講座 「府の大寺　筑紫観世音寺の成立と展開」 「観世音寺の文化財―仏像を中心に―」 「菅原道真と天神信仰」	2016.5.30・31	小田和利 井形　進 松川博一	
		現地研修: 太宰府天満宮・観世音寺・大宰府政庁など			
平成29年度 (2017年)	名誉館長講座	テーマ:「日本古代史の諸問題」 第 1回「首長墓の出現と王墓の形成過程」	2017.4.22	西谷　正	
		第 2回「奴国の王墓と「漢委奴国王」金印」	2017.5.27	西谷　正	
		第 3回「墳丘墓と前方後円墳」	2017.6.24	西谷　正	
		第 4回「巨大古墳と技術革新の世紀」	2017.7.22	西谷　正	
		第 5回「「神宿る島」宗像・沖ノ島と神社、古墳」	2017.8.19	西谷　正	
		第 6回「筑紫君磐井の乱の背景」	2017.9.30	西谷　正	
		第 7回「装飾古墳と高句麗の壁画古墳」	2017.10.28	西谷　正	
		第 8回「元岡G6号墳出土の庚寅年銘金象嵌大刀」	201711.25	西谷　正	
		第 9回「大宰府の成立過程」	2017.12.23	西谷　正	
		第10回「古代山城の諸問題」	2018.1.27	西谷　正	
		第11回「泰山における封禅」	2018.2.24	西谷　正	
		第12回「日本出土のイスラム陶器」	2018.3.24	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「近年の大宰府史跡の発掘調査―蔵司地区―」	2017.4.8	下原幸裕	
		第 2回「筑後地域の中近世城館―詳細分布調査の成果から③―」	2017.5.13	岡寺　良	
		第 3回「遺跡から見た弥生時代の日韓交流」	2017.6.10	山崎頼人(小郡市教育委員会)	
		第 4回「ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」と福岡県」	2017.7.8	久野隆志(県世界遺産登録推進室)	
		第 5回「霊峰英彦山の神仏の姿」	2017.8.5	井形　進	
		第 6回「史跡「英彦山」の領域と聖域」	2017.9.9	岩本教之(添田町)	
		第 7回「大宰府木簡の自然科学的調査成果」	2017.10.14	酒井芳司	
		第 8回「大友家文書の世界」	2017.11.11	田渕義樹(柳川古文書館)	
		第 9回「湖底に沈む遺跡たち―五ケ山ダム建設に伴う発掘調査の成果―」	2017.12.9	岩満　聡(那珂川町教育委員会)	
		第10回「女男石護岸施設と朝倉地域の治水と利水」	2018.1.13	中島　圭(朝倉市教育委員会)	
		第11回「歴史遺産としての求菩提山の保存と活用」	2018.2.10	栗燒憲児(求菩提資料館)	
		第12回「福岡県の庭園文化」	2018.3.10	正田実知彦(県文化財保護課)	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑬

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成29年度 （2017年）	九歴ゼミ	第 1期「斉明天皇と天智天皇の時代」	2017.4～6	小田和利	
		第 2期「大宰府・太宰府天満宮史料を読む～大宰府の歴史編～」	2017.7～9	酒井芳司	
		第 3期「大宰府・太宰府天満宮史料を読む～菅原道真の生涯編～」	2017.10～12	松川博一	
	講座	特別展関連講座 「山伏が語る峰入り」	2017.8.6	小川泰樹	
	報告会・記念講演会	特別展開催記念講演会 「英彦山の山岳信仰と修験道」	2017.8.20	長野　覺（元駒澤大学教授・日本山岳修験学会顧問）	
		調査報告会2017 『発掘成果展2017　五ケ山―山のくらし、いのり、そして埋納銭―』 「五ケ山ダムができるまで」 「五ケ山の民俗等調査」 「五ケ山発掘！ 埋蔵銭発見！ 回顧録」	2017.10.21	弓削田仁（福岡県五ケ山ダム事務所） 伊崎俊秋 佐々木隆彦(うきは市教育委員会)	
		企画展開催記念 『大宰府を探るサイエンス』「文化財の保存科学100年」	2017.11.3	澤田正昭（東北芸術工科大学）	
		企画展開催記念 『福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―』 「福岡県の城郭研究の歩み」	2017.11.5	廣崎篤夫（城郭研究者）	
		大宰府史跡発掘50年記念特別展プレ講演会 「古代国家と道」	2018.3.18	市　大樹（大阪市立大学） 近江俊秀（文化庁）	
	夕べのギャラリートーク	第 1回 特集展示「骨を蔵める」 「懐かしの旧福岡県庁」	2017.6.30	岡寺　良 渡部邦昭	
		第 2回 特別展「霊峰英彦山」	2017.8.25	井形　進	
		第 3回 企画展「福岡の城」	2017.10.27	岡寺　良	
		第 4回 企画展「大宰府を探るサイエンス」	2017.11.24	加藤和歳、酒井芳司	
		第 5回 企画展「炭鉱と学校の昭和史」	2018.1.26	渡部邦昭	
		第 6回 企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」	2018.2.23	井形　進	
	放送大学面接授業	大宰府講座（大宰府史跡の保存と活用） 「近世における大宰府史跡の保存」 「近現代（発掘調査開始以前）における大宰府史跡の保存 「大宰府史跡の発掘調査」 「大宰府関連史跡の保存と活用―現在から未来へ―」	2017.11.18	一瀬　智（県立アジア文化交流センター） 伊崎俊秋 小澤佳憲 髙橋　学（太宰府市教育委員会）	
		現地研修：太宰府天満宮・観世音寺・大宰府政庁など	2017.11.19		
平成30年度 （2018年）	名誉館長講座	テーマ：「東アジア考古学入門」 第 1回「歴史のあけぼの―旧石器時代―」	2018.4.22	西谷　正	
		第 2回「狩猟・漁撈と採集の生活―縄文時代―」	2018.5.27	西谷　正	
		第 3回「農耕文化の成立―弥生時代（1）―」	2018.6.30	西谷　正	
		第 4回「農耕社会の展開と変化―弥生時代（2）―」	2018.7.15	西谷　正	
		第 5回「東アジア文化圏の形成―古墳時代（1）―」	2018.8.18	西谷　正	
		第 6回「東アジア文化圏の変容―古墳時代（2）―」	2018.9.29	西谷　正	
		第 7回「東アジア世界の形成（1）―奈良時代（1）―」	2018.10.27	西谷　正	
		第 8回「東アジア世界の形成（2）―奈良時代（2）―」	2018.11.24	西谷　正	
		第 9回「東アジア世界の展開（1）―平安時代―」	2018.12.22	西谷　正	
		第10回「東アジア世界の展開（2）―鎌倉時代―」	2019.1.26	西谷　正	
		第11回「中華帝国の発展と東アジア（1） ―南北朝・室町・戦国・安土桃山時代―」	2019.2.23	西谷　正	
		第12回「中華帝国の発展と東アジア（2）―江戸時代―」	2019.3.23	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「特別展「大宰府への道」への招待」	2018.4.14	酒井芳司	
		第 2回「大宰府の諸司と官人」	2018.5.12	松川博一	
		第 3回「大宰府跡蔵司地区の発掘調査成果」	2018.6.9	下原幸裕（県文化財保護課）	
		第 4回「水城・上大利小水城跡と地域社会」	2018.7.14	石木秀啓（大野城市教育委員会）	
		第 5回「古代都市・大宰府」	2018.8.11	井上信正（太宰府市文化財課）	
		第 6回「大宰府の外交施設－鴻臚館―」	2018.9.8	菅波正人（福岡市博物館）	
		第 7回「柳河の明治維新」	2018.10.13	江島　香（柳川古文書館）	
		第 8回「世界遺産「明治日本の産業革命遺産」登録3周年」	2018.12.8	桑波田武志（鹿児島県）	
		第 9回「朝倉橘広庭宮の所在と宮都」	2019.1.12	姫野健太郎（朝倉市教育委員会）	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑭

年度	区分	タイトル	期間	講師名(敬称略)	特記事項
平成30年度 (2018年)	九歴講座	第10回「「神楽と鬼、その正体を求めて」～豊前神楽に見る鬼の役割～	2019.2.9	栗燒憲児(求菩提資料館)	
		第11回「基礎貫徹！やきものの基礎知識」	2019.3.9	遠藤啓介	
	九歴ゼミ	第 1期「大宰府・太宰府天満宮資料を読む～菅原道真の生涯編～」	2018.7.11～9.26	松川博一	
		第 2期「江戸時代の彫刻と絵画」	2018.10.10～12.26	井形　進、日野綾子	
		第 3期「大宰府・太宰府天満宮資料を読む～大宰府の歴史編～」	2019.1.9～3.27	酒井芳司	
	記念講演会	特別展開催記念講演会 「大宰府への道―文明のクロスロード―」	2018.6.3	佐藤　信(東京大学)	
		企画展開催記念講演会 「幕末の城」	2018.7.22	中西祐樹(しろあと歴史館)、岡寺　良	
	タベのギャラリートーク	特別展「大宰府への道 Part.1」	2018.4.27	酒井芳司	
		特別展「大宰府への道 Part.2」	2018.5.25	小田和利	
		企画展「幕末の城」	2018.7.27	岡寺　良	
		企画展「発掘調査展 2018」	2018.10.26	小川泰樹、大庭孝夫	
	シンポジウム	大宰府史跡発掘調査50年記念シンポジウム 講演:「大宰府史跡発掘50年の成果」 シンポジウム:「大宰府史跡発掘50年」	2018.11.10	小田冨士雄 コーディネーター:佐藤　信(東京大学名誉教授) 赤司善彦(大野城市心のふるさと館)、井上理香(財古都大宰府保存協会)、井上信正(太宰府市教育委員会)、小田和利、松川博一	大宰府史跡発掘調査50周年記念事業
平成31年度 (2019年) (令和元年度)	名誉館長講座	テーマ:「鳥丸鮮卑東夷伝の考古学」 第 1回「鳥丸」	2019.4.27	西谷　正	
		第 2回「鮮卑」	2019.5.25	西谷　正	
		第 3回「東夷伝 (1) 挹婁」	2019.6.22	西谷　正	
		第 4回「東夷伝 (2) 東沃沮」	2019.7.27	西谷　正	
		第 5回「東夷伝 (3) 夫餘」	2019.8.31	西谷　正	
		第 6回「東夷伝 (4) 高句麗」	2019.9.28	西谷　正	
		第 7回「東夷伝 (5) 濊」	2019.10.26	西谷　正	
		第 8回「東夷伝 (6) 韓 ①馬韓」	2019.11.23	西谷　正	
		第 9回「東夷伝 (6) 韓 ②弁韓」	2019.12.21	西谷　正	
		第10回「東夷伝 (6) 韓 ③辰韓」	2020.1.25	西谷　正	
		第11回「東夷伝 (7) 倭人　1．暮らし」	2020.2.22	西谷　正	
		第12回「東夷伝 (7) 倭人　2．邪馬台国への道」	2020.3.28	西谷　正	
	九歴講座	第 1回「徳田玉龍―朝鮮の霊峰を描く―」	2019.4.13	國生知子(甘木歴史資料館)	
		第 2回「筑豊炭田遺跡群の歴史的価値について」	2019.5.11	嶋田光一(飯塚市歴史資料館)	
		第 3回「墓形古墳群と筑後の装飾古墳」	2019.6.8	吉村靖徳	
		第 4回「福岡県の近代和風建築」	2019.7.13	松本将一郎(県文化財保護課)	
		第 5回「幕末の道中日記を読む」	2019.8.10	田淵義樹(柳川古文書館)	
		第 6回「市民に守られた三沢遺跡の今日的意義」	2019.9.14	山崎頼人(小郡市教育委員会)	
		第 7回「久留米の原始・古代遺跡」	2019.10.12	神保公久(久留米市)	
		第 8回「神子栄尊と久留米の仏像」	2019.11.9	井形　進	
		第 9回「大宰府跡蔵司地区の最新発掘調査成果」	2019.12.14	大庭孝夫	
		第10回「国史跡安徳台遺跡の価値」	2020.1.11	岩満　聡(那珂川市教育委員会)	
		第11回「修験と薬」	2020.2.8	相良悦子(求菩提資料館)	
		第12回「藤原広嗣の乱」	2020.3.14	松川博一	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑮

年度	区分	タイトル	期間	講師名（敬称略）	特記事項
平成31年度 （2019年） （令和元年度）	九歴ゼミ	第 1期「大宰府・太宰府天満宮資料を読む～大宰府の歴史編～」	2019.7.3～9.25	酒井芳司	
		第 2期「福岡県の彫刻と絵画」	2019.10.9～12.25	井形　進、日野綾子	
		第 3期「大宰府・太宰府天満宮資料を読む～菅原道真編～」	2020.1.8～3.25	松川博一	
	講座・記念講演会	特別展記念講演会 「筑後川流域からみた古代史の展開」	2019.11.16	田中正日子（元 第一経済大学教授）	
		企画展記念講演会 「世界遺産（石炭産業）『明治の三池と筑豊』」	2020.1.19	萩野喜弘（九州大学名誉教授）	
		企画展記念講演会 「さいふまいりの名所の今昔」	2020.2.15	宮崎亮一（太宰府市教育委員会）	
		新元号「令和」決定記念特別講座 「大宰府と万葉集―大伴旅人・家持と梅花の宴」	2019.4.29	松川博一	
		新元号「令和」記念特別講演会・対談 「新元号「令和」と大宰府と～万華の世界～」	2019.6.2	上野　誠（奈良大学）、松川博一	
	タベのギャラリートーク	企画展「三沢遺跡と三国丘陵周辺の遺跡」	2019.7.26	進村真之	
		特別展「久留米―その歴史と文化―Part.1近代洋画を中心に」	2019.10.25	日野綾子	
		特別展「久留米―その歴史と文化―Part.2久留米の伝統工芸」	2019.11.29	遠藤啓介	
		企画展「甘木絞り」	2020.1.31	遠藤啓介	
		企画展「太宰府天満宮の境内絵図」	2020.2.28	日野綾子	
	九歴ゼミ	第1期 「大宰府・太宰府天満宮史料を読む～大宰府の歴史編～」	2019.7.3～9.25	酒井芳司	
		第2期 「福岡県の彫刻と絵画」	2019.10.9～12.25	井形　進、日野綾子	
		第3期 「大宰府・太宰府天満宮史料を読む～菅原道真編～」	2020.1.8～3.25	松川博一	

第 14 表　九州歴史資料館の講演会・講座（年度ごと）⑯

（７）九州歴史資料館の普及イベント

年度	区分	タイトル	期間	特記事項
平成15年度	イベント	企画展ワークショップ「鬼瓦の護り」「水辺のマツリ」	2003.1.25	ジュニア学芸員モデル事業
平成21年度	体験教室	拓本に挑戦しよう	2009.7.22～24	
平成22年度	体験教室	九歴体験講座 ―君も博物館学芸員―	2010.9.25	拓本・写真撮影・製図体験・土器洗い・施設見学
	イベント	開館プレイベント施設見学会	2010.10.21・23	
	イベント	開館記念事業	2010.11.20・21	小郡高校吹奏楽部・琴部演奏、趙国良二胡演奏、京築神楽
	研究会	ユニバーサル・ミュージアム研修会	2011.2.25	講演会ワークショップ； 廣瀬浩二郎(国立民族学博物館)
平成23年度	体験教室	春の自然観察会	2011.5.15	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	体験教室	夏の自然観察会・自然工作（草木染め体験・押し花作り）	2011.8.7	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	研究会	第1回　九州山岳霊場遺跡研究会	2011.8.18	共催事業
	体験教室	自然工作(どんぐり工作)	2011.10.30	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	体験教室	土器どきドキ！！こども考古学体験	2011.11.23	開館1周年記念関連事業
	イベント	開館1周年記念関連事業	2011.11.19	和太鼓演奏
	体験教室	古代体験（機織り体験・どんぐりクッキー作り）	2012.2.4	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	イベント	文化財めぐり	2012.3.20	共催事業
平成24年度	体験教室	自然観察会「三沢遺跡の植物・生き物・野鳥の観察」	2012.5.19	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2012.5～10	
	イベント	クテ打組紐技法入門講座	2012.6.16	平成24年度芸術文化振興基金助成事業
	イベント	きゅうれき七タイベント	2012.7.7	2周年記念イベント
	イベント	アクロス福岡レインボーコンサート	2012.7.7/11.18	2周年記念イベント
	イベント	ナイトミュージアムinきゅうれき	2012.8.4・5	
	研究会	第２回　九州山岳霊場遺跡研究会　「脊振山系の山岳霊場遺跡 ―脊振山・雷山・怡土七ヶ寺―」	2012.8.18・19	共催事業
	体験教室	なるほど!!!子ども歴史教室 ―歴史のギモンを学芸員にきこう―	2012.8.22・23	
	体験教室	自然体験活動「自然工作をやってみよう」	2012.8.26	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	イベント	移転開館後来館者5万人達成記念式典	2012.9.17	
	体験教室	子ども考古学体験教室2012	2012.9.23	発掘速報展2012関連事業
	研究会	第61回埋蔵文化財研究集会　「集落から見た7世紀 ―律令体制成立前夜における地域社会の変貌―」	2012.10.26～28	共催事業
	体験教室	自然体験活動「どんぐりクッキーを作って食べよう」	2012.11.3	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
	イベント	きゅうれき万葉イベント	2012.11.4	2周年記念イベント
	イベント	文化財めぐり「長崎街道を歩く―山家宿から原田宿―」	2012.10.23	共催事業
	体験教室	歴史講座・体験活動「ハゼの実から作ったキャンドルを作ろう!!」	2013.3.2	三沢～歴史と自然の丘プロジェクト
平成25年度	体験教室	「三沢遺跡の森　生物多様性の保全および再生のための調査報告書」発表会　どんぐり（イチイガシ）植樹	2013.4.21	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動
	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2013.5～10	稲刈り：2013.10.14
	体験教室	クテ打組紐技法講座　中級編	2013.5.25・26・31、6.1	平成25年度芸術文化振興基金助成事業
	イベント	きゅうれき七タイベント	2013.7.7	
	イベント	きゅうれき絵画教室 ―九歴の名品を描こう―	2013.7.21・28	
	イベント	ナイトミュージアムinきゅうれき	2013.7.25・26	
	体験教室	館周辺の樹木観察会と木の名札付け・自然材料を使った工作体験	2013.7.28	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動
	体験教室	子ども考古学体験教室2013	2013.8.1／2014.3.23	発掘速報展2013関連事業
	研究会	第３回　九州山岳霊場遺跡研究会　「首羅山をとりまく聖なる山々―糟屋・鞍手の山岳霊場遺跡―」	2013.8.17・18	共催事業
	体験教室	なるほど!!!子ども歴史教室	2013.8.22・23	
	イベント	開館40周年・移転開館３周年記念イベント　「秋月林流抱え大筒披露・記念茶会・琴演奏」	2013.10.14	
	イベント	「秘密のバックヤードツアーin九州歴史資料館」	2013.10.14	久留米まち旅博覧会参加事業
	研究会	第34回　日本山岳修験学会　太宰府・宝満山学術大会	2013.10.26～28	共催事業
	イベント	文化財めぐり「戦国の城と古戦場を歩く―岩屋城と高橋紹運―」	2013.10.20	共催事業
	体験教室	館周辺の樹木観察会と木の名札付け　三沢遺跡の森の自然観察会＋どんぐりクッキーづくり	2013.11.10	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動
	研究会	国際研究発表会「人文系と自然系博物館の教育連携」（ＡＺＥＣ２０１３）	2013.12.9～14	共催事業
	体験教室	植樹体験活動と記念樹の植樹 櫨蝋を使った和ろうそく作り	2014.2.9	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動 佐賀県みやき町　「中原の豊かな自然を守る会」協力
	ボランティアイベント	折り紙でおひなさまをつくろう	2014.3.2	
平成26年度	イベント	第7回　温泉アート展プレイベント 「筑前琵琶と墨象パフォーマンス・ワークショップ」	2014.4.13	共催事業
	体験教室	おりがみで作ってみよう！いろいろな『かぶと』	2014.5.18	ボランティアイベント
	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2014.5～10	
	教育	学校と博物館でつくる来館学習ワークショップin九歴 ～博物館を生かした『あそぶ・まなぶ・たのしむ』学習を先生方とともに～	2014.6.7	近隣小学校教員対象
	イベント	きゅうれき七タイベント	2014.7.7	
	体験教室	子ども考古学体験教室2014	2014.7.27	発掘速報展2014関連事業
	体験教室	夏の生き物探検隊	2014.8.3	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動
	体験教室	「コマ回しをやってみよう！軍師官兵衛・黒田二十四騎のこまで遊びながら福岡の偉人黒田官兵衛を知ろう」	2014.8.21	共催事業 企画展「黒田官兵衛と城」関連イベント
	体験教室	なるほど!!!子ども歴史教室2014 「ふくおか官兵衛君と遊ぶ、めざせ!!お城博士」	2014.8.22	
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき	2014.8.26／2015.2.27	
	研究会	第4回　九州山岳霊場遺跡研究会・平成26年度おおいた石造文化研究会合同研究大会 「国東半島の山岳霊場遺跡 ―六郷満山の寺院と信仰―」	2014.8.30・31	共催事業
	イベント	「福岡黒田武将隊 参上！」	2014.9.6	企画展『黒田官兵衛と城』関連イベント
	体験教室	クテ打組紐技法講座（応用編）―ループ技法でひもを組んでみよう!!―	2014.10.3・4	平成26年度芸術文化振興基金助成事業
	イベント	特別展開催記念茶会	2014.10.13	共催事業
	イベント	特別展開催記念イベント「アクロス福岡ミュージアムコンサート」	2014.10.19	共催事業
	イベント	文化財めぐり　「観世音寺と太宰府の史跡をめぐる」	2014.11.3	
	イベント	移転開館来館者10万人達成記念式典	2014.11.8	
	体験教室	九歴『ぎっちょう』親子大会～木の杖と木の玉を使った昔の遊びをしてみよう～	2014.11.9	ボランティアイベント
	体験教室	「九州歴史資料館のウラガワ探検と『万葉食』いただきます！」	2014.11.16	久留米まち旅博覧会参加事業
	イベント	企画展開催記念「一支国博物館出前体験イベント」	2015.2.1	
	体験教室	和ろうそくを作ろう	2015.2.8	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動 佐賀県みやき町　「中原の豊かな自然を守る会」協力
	体験教室	「作ってみようよ！『Ｍｙおひなさま』『組紐ストラップ』」	2015.3.1	ボランティアイベント

第 15 表　九州歴史資料館の普及イベント①

年度	区分	タイトル	期間	特記事項
平成27年度	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2015.5～10	
	イベント	小郡高等学校琴部演奏会	2015.5.10	共催事業
	体験教室	おりがみで作ってみよう！いろいろな『かぶと』	2015.5.18	ボランティアイベント
	教育	学校と博物館でつくる来館学習ワークショップin九歴 ～博物館を生かした『まなぶ・あそぶ・たのしむ』学習を先生方とともに～	2015.6.23	近隣小学校教員対象
	イベント	きゅうれき七タイベント	2015.7.5	
	体験教室	子ども考古学体験教室2015	2015.8.1	発掘速報展2015関連事業
	体験教室	マイツリーを作ろう（樹木調査と名札付け）	2015.8.2	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動
	イベント	夏休みこども企画「県庁ロビー展示」	2015.8.3～28	共催事業
	体験教室	こども組紐教室	2015.8.4	ボランティアイベント
	体験教室	なるほど!!!子ども歴史教室2015　「むかしの文字に触れてみよう！」	2015.8.21	
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき	2015.8.23／2016.1.11	
	研究会	第5回　九州山岳霊場遺跡研究会　「霧島連山の山岳霊場遺跡」	2015.8.29・30	共催事業
	イベント	特別展記念茶会	2015.10.25	共催事業
	イベント	「バックヤードツアーin九州歴史資料館 特別編」	2015.10.25	久留米まち旅博覧会参加事業
	イベント	文化財めぐり　「四王寺山の聖地をめぐる」	2015.11.3	共催事業
	イベント	移転開館５周年記念イベント 「鼓・舞・楽 ～古（いにしえ）の時代（とき）に思いを馳せて～」	2015.11.7	アクロス福岡ミュージアムコンサートを含む
	教育	教員のための博物館の日 inきゅうれき	2015.11.21	
	体験教室	櫨蝋を作るマイキャンドル	2015.12.20	九州歴史資料館・三沢の森　自然体験活動
	体験教室	石器づくり・貝器づくりー石と貝のやじりを作ろうー	2016.2.14	ボランティアイベント
	体験教室	「作ってみようよ！『Ｍｙおひなさま』　『組紐ストラップ』」	2016.2.28	ボランティアイベント
	体験教室	『ぎっちょう』であそぼう！～むかしの遊びを体験しよう～	2016.3.6	ボランティアイベント
	広報	ケーブルテレビ「福岡歴史ロマン」の製作・放送	月1回	
平成28年度	イベント	桜コンサート	2016.4.2	共催事業
	体験教室	古代の競技『ぎっちょう』を体験しよう！紙で『カブト』を作ってみよう！	2016.5.1	ボランティアイベント
	イベント	小郡高等学校琴部演奏会	2016.5.5	共催事業
	イベント	いつでもまち旅「バックヤードツアーin九州歴史資料館」	2016.5～9／12～2017.3	久留米まち旅博覧会参加事業
	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2016.5～10	
	イベント	きゅうれき七タイベント	2016.7.3	
	体験教室	なるほど!!!子ども歴史教室2016「『木簡』をつくろう！」	2016.7.21	
	イベント	夏休みこども企画「県庁ロビー展示」	2016.7.26～8.30	共催事業
	教育	学校と博物館でつくる来館学習ワークショップin九歴 ～博物館を生かした『楽しみながら学ぶ』学習を先生方とともに～	2016.7.27	小郡市内小学校教員対象
	体験教室	こども考古学「遺跡発掘」体験教室2016	2016.7.31	発掘速報展2016関連事業
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき	2016.8.3／2017.1.6	
	体験教室	こども組紐教室	2016.8.19	ボランティアイベント
	研究会	第6回　九州山岳霊場遺跡研究会　「多良岳と山麓の霊場遺跡」	2016.8.27・28	共催事業
	イベント	文化財めぐり「岩戸山古墳と五條家をたずねる」	2016.9.22	共催事業
	イベント	アクロス福岡ミュージアムコンサート	2016.10.15	
	イベント	特別展開催記念茶会	2016.10.16	共催事業
	教育	八女地域の歴史を知る in九州歴史資料館	2016.10.26	特別展「八女の名宝」関連
	教育	教員のための博物館の日inきゅうれき	2016.10.29	
	体験教室	古代人を体験しよう！ぎっちょうと石器できこり体験！	2016.11.5	ボランティアイベント
	イベント	櫨蝋を作るマイキャンドル	2016.12.18	九州歴史資料館・三沢遺跡の森　自然体験活動
	イベント	神話の世界～朗読・神楽×太鼓	2017.3.5	
	体験教室	「作ってみようよ！『Ｍｙおひなさま』　『組紐ストラップ』」	2017.2.26	ボランティアイベント
	広報	ケーブルテレビ「福岡歴史ロマン」の製作・放送	月1回	共催事業
平成29年度	イベント	桜コンサート	2017.4.2	共催事業
	イベント	西鉄レール&ハイク	2017.4.1	共催事業
	体験教室	おりがみでカブトを作ろう！ぎっちょうを体験してみよう！	2017.4.29	ボランティアイベント
	イベント	小郡高等学校琴部演奏会	2017.5.3	共催事業
	イベント	いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」	2017.5～9／12～2018.3	久留米まち旅博覧会参加事業
	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2017.6～10	
	イベント	きゅうれき七タイベント	2017.7.2	
	広報	夏休みこども企画「県庁ロビー展示」	2017.8.1～8.25	
	体験教室	Ｑ歴ＴＡＩＫＥＮマイスター〔組紐教室〕	2017.8.3	博物館子ども古代体験推進事業
	体験教室	こども組紐教室	2017.8.3	ボランティアイベント
	体験教室	なるほど!!子ども歴史教室2017　「山伏のひみつ～ほら貝の笛を作ってみよう！～」	2017.8.18	
	教育	英彦山の歴史を知る in九州歴史資料館～特別展「霊峰英彦山」から～	2017.8.24	特別展「霊峰英彦山－神仏と人と自然と－」関連
	研究会	第7回　九州山岳霊場遺跡研究会　「英彦山 ―信仰の展開と転換―」	2017.8.26・27	共催事業
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき　夏	2017.9.2	
	イベント	文化財めぐりバスツアー「霊峰英彦山をめぐる」	2017.9.10	
	教育	教員のための博物館inきゅうれき	2017.9.16	
	イベント	特別展開催記念茶会	2017.9. 24	
	広報	県立図書館県政PR展示	2017.11.1～9／11.25～12.3／2018.1.13～1.30	県立図書館1階ロビー
	イベント	アクロス福岡ミュージアムコンサート	2017.11.19	
	体験教室	冬の組紐教室	2017.12.16	ボランティアイベント
	体験教室	櫨蝋を作るマイキャンドル	2017.12.17	九州歴史資料館・三沢遺跡の森　自然体験活動
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき　冬	2018.1.5	
	教育	学校と博物館でつくる来館学習ワークショップin九歴 ～博物館を生かした『楽しみながら学ぶ』学習を先生方とともに～	2018.2.3	小郡市内小学校教員対象
	体験教室	世界でひとつ！「作ってみようよ！『Ｍｙおひなさま』　『組紐ストラップ』」	2018.2.25	ボランティアイベント
	イベント	おもちゃ病院 in 九州歴史資料館	2018.2.25	
	体験教室	体験ワクワクものづくりイベント　木うその絵付け体験	2018.3.3	青柳建夫（太宰府木うそ保存会）
	体験教室	体験ワクワクものづくりイベント　ランタン作り	2018.3.11	三上真輝（ランタン作家）
	体験教室	体験ワクワクものづくりイベント　手すき和紙作り	2018.3.17	名刺工房「まつお」
	イベント	「神話の世界２～朗読・神楽×太鼓」	2018.3.4	
	広報	ケーブルテレビ「福岡歴史ロマン」の製作・放送	月1回	

第 15 表　九州歴史資料館の普及イベント②

年度	区分	タイトル	期間	特記事項
平成30年度	イベント	桜コンサート	2018.4.1	共催事業
	イベント	おごおりバザール〔レール＆ハイク〕	2018.4.8	共催事業
	体験教室	おりがみでカブトを作ろう！ぎっちょうを体験してみよう！	2018.4.28	ボランティアイベント
	イベント	いつでもまち旅 「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」	2018.5～9／2018.12～2019.3	久留米まち旅博覧会参加事業
	イベント	“古代米の本格栽培に向けて…”プロジェクト	2018.6～10	
	イベント	小郡高等学校琴部演奏会・茶道部茶会	2018.5.3	共催事業
	広報	県立図書館　県政PR展示	2018.5.10～6.17	
	イベント	特別展開催記念茶会	2018.5.20	共催事業
	教育	大宰府を知る in九州歴史資料館～特別展「大宰府への道 ―古代都市と交通―」から	2018.6.15	特別展「大宰府への道」関連
	出張古代体験	熊本県装飾古墳館ミュージアムキッズ	2018.6.23	
	イベント	きゅうれき七タイベント	2018.7.7	
	出張古代体験	大野城市こころのふるさと館オープニングイベント	2018.7.21	
	出張古代体験	小郡アンビフェスタ	2018.7.22	
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき　夏	2018.7.28	
	広報	夏休みこども企画 「わたしたちの福岡県展 2018」	2018.8.1～8.24	共催事業（福岡県庁１階ロビー）
	体験教室	なるほど!!子ども歴史教室 2018 「きゅうおにの謎にせまる」	2018.8.10	
	体験教室	こども組紐教室	2018.8.2／12.15	ボランティアイベント
	研究会	第8回　九州山岳霊場遺跡研究会「肥後の山岳霊場遺跡 ―池辺寺と阿蘇山を中心に―」	2018.8.25・26	共催事業
	イベント	アクロス福岡ミュージアムコンサート	2018.10.8	共催事業
	イベント	博物館子ども古代体験推進事業「古代体験まつり」	2018.11.4	博物館子ども古代体験推進事業
	出張古代体験	福智町ワークショップ	2018.11.23	
	体験教室	櫨蝋で作るマイキャンドル	2018.12.16	九州歴史資料館・三沢遺跡の森　自然体験活動
	イベント	出会い事業	2019.1.20	共催事業
	体験教室	Ｍｙおひなさま・組紐ストラップ作り	2019.2.24	ボランティアイベント
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき　冬	2019.2.16	
令和元年度	イベント	桜コンサート	2019.4.7	共催事業
	イベント	あすみマルシェ春	2019.4.14	共催事業
	イベント	小郡高等学校琴部演奏会・茶道部茶会	2019.4.28	共催事業
	イベント	いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」	2019.5～9／2019.12～2020 9.2	久留米まち旅博覧会参加事業
	広報	県立図書館県政PR展示	2019.5.8.10	
	体験教室	大人組紐講座	2019.5.16･23、11.21･28	ボランティアイベント
	教育	太宰府中学校飛梅タイム出前授業	2019.6～7	全5回
	教育	太宰府高校文化祭レクチャー	2019.6.1	
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき　夏	2019.6.15	
	体験教室	縄文ポシェット作り	2019.6.15	ボランティアイベント
	出張古代体験	熊本県装飾古墳館ミュージアムキッズ	2019.6.23	
	出張古代体験	大野城市こころのふるさと館１周年記念イベント	2019.7.23	
	体験教室	平日古代体験	2019.7.30、8.7	ボランティアイベント
	イベント	きゅうれき七タイベント	2019.8.3	
	教育	教員のための博物館in九歴	2019.8.7	
	広報	県庁ロビー夏休み子ども企画・出張古代体験	2019.8.19～23	
	体験教室	なるほど!!こども歴史教室2019	2019.8.23	
	出張古代体験	のぞみ地域文化祭	2019.10.20	
	広報	アクロスコミュニケーションエリアパネル展	2019.10.21～26	
	イベント	特別展記念茶会	2019.10.27	共催事業
	イベント	あすみマルシェ秋	2019.10.27	共催事業
	出張古代体験	小郡アンビフェスタ	2019.11.4	
	体験教室	こども考古学体験教室2019	2019.11.10	
	イベント	アクロスミュージアムコンサート	2019.11.10	共催事業
	教育	大宰府史跡フィールドワーク　～観世音寺～	2019.11.22	中学校教員対象
	イベント	文化財めぐり	2019.11.24	特別展「久留米」関連
	教育	教員対象研修会特別展「久留米」	2019.11.29	小学校教員対象
	イベント	古代体験まつり	2019.11.30	博物館子ども古代体験推進事業
	イベント	ナイトミュージアム in きゅうれき　冬　&おもちゃ病院	2019.12.22	
	イベント	企画展関連「ＶＲ船原 ―船原古墳発掘現場を体感する―」	2020.1.12	企画展「船原古墳の世界」関連
	体験教室	機織り教室 ―機織り機でコースターを作ろう―	2020.2.11	ボランティアイベント

第 15 表　九州歴史資料館の普及イベント③

Ⅲ　参考資料

表目次

第 16 表　福岡県文化財保護組織の変遷…… 110
第 17 表　福岡県文化財保護審議会委員…… 112
第 18 表　福岡県文化財保護指導委員…… 115
第 19 表　九州歴史資料館協議会委員…… 116
第 20 表　大宰府史跡調査研究指導委員会委員…… 118
第 21 表　大宰府史跡発掘調査一覧…… 119
第 22 表　水城跡発掘調査一覧…… 122
第 23 表　筑前国分寺跡発掘調査一覧…… 123
第 24 表　大野城跡発掘調査一覧…… 124
第 25 表　埋蔵文化財関係主要事業の推移…… 125
第 26 表　文化財担当職員研修会…… 126
第 27 表　文化財指導者講習会…… 129
第 28 表　埋蔵文化財安全衛生講習会…… 133
第 29 表　歴史民俗資料館等研修会…… 134
第 30 表　文化財めぐり…… 135
第 31 表　九州民俗芸能大会…… 136
第 32 表　福岡県文化財調査報告書…… 137
第 33 表　大宰府史跡発掘調査報告書…… 147
第 34 表　九州歴史資料館刊行物…… 149
第 35 表　福岡県文化財関係刊行物…… 159
第 36 表　県内の文化財保護条例…… 161

1　組織の変遷　（1）福岡県文化財保護組織の変遷

西暦	和暦	部	課	係・班						備　　考
				調査・記念物				文化	庶務	
1948	昭和23		社会教育							7.15 教育委員会法
1949	昭和24	—	社会教育					文化芸術		
1950	昭和25	—	社会教育	文化財保護				文化教育		文化財保護法〔文化財保護係長;武藤正行〕
1951	昭和26	—	文化(6/1～)	文化財保護						〔文化財保護係長;武藤正行〕
1952	昭和27	—	文化	文化財保護						〔文化財保護係長;武藤正行〕
1953	昭和28	—	文化	文化財保護						9.1『筑紫の文化』第1号〔文化財保護係長;武藤正行〕
1954	昭和29	—	文化(～6/15)、社会教育	文化財保護						〔文化財保護係長;武藤正行〕
1955	昭和30	—	社会教育	文化財保護						福岡県文化財保護条例
1956	昭和31	教務	社会教育	文化財保護						
1957	昭和32	教務	社会教育	文化財保護						
1958	昭和33	—	社会教育	文化財						
1959	昭和34	—	社会教育	文化財						
1960	昭和35	—	社会教育	文化財						
1961	昭和36	—	社会教育	文化財						
1962	昭和37	—	社会教育	文化財						
1963	昭和38	—	社会教育	文化財						
1964	昭和39	—	社会教育	文化財						文化会館開館(11.3)
1965	昭和40	—	社会教育	文化財						
1966	昭和41	—	社会教育	文化財						
1967	昭和42	—	社会教育	文化財						
1968	昭和43	—	社会教育	文化財						
1969	昭和44	—	文化		調査			文化	庶務	文化課発足
1970	昭和45	—	文化		調査			文化	庶務	
1971	昭和46	—	文化		調査			文化	庶務	
1972	昭和47	—	文化		調査			文化	庶務	九州歴史資料館設置〔S48.2.24開館〕
1973	昭和48	—	文化		調査			文化	庶務	
1974	昭和49	管理	文化		調査一	調査二		文化	庶務	
1975	昭和50	指導第一	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	
1976	昭和51	管理	文化		調査一	調査二		文化	庶務	
1977	昭和52	管理	文化		調査一	調査二		文化	庶務	
1978	昭和53	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	
1979	昭和54	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	北九州市教育文化事業団設置
1980	昭和55	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	
1981	昭和56	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	
1982	昭和57	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	
1983	昭和58	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	6教育事務所(文化財専門職員配置)
1984	昭和59	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	
1985	昭和60	管理	文化		調査第一	調査第二		文化	庶務	甘木歴史資料館・県立美術館開館
1986	昭和61	指導第二	文化	記念物	調査班			文化	庶務	
1987	昭和62	指導第二	文化	記念物	調査班			文化	庶務	
1988	昭和63	指導第二	文化	記念物	調査班			文化	庶務	国博対策班
1989	平成 1	指導第二	文化	記念物	調査班			文化	管理	国博対策室
1990	平成 2	指導第二	文化	記念物	調査班			文化	管理	
1991	平成 3	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	文化財保護室
1992	平成 4	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	
1993	平成 5	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	12/27:国博対策室が企画振興部へ
1994	平成 6	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	教育事務所生涯学習課文化班、国博対策室が総務部へ
1995	平成 7	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	
1996	平成 8	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	
1997	平成 9	指導第二	文化	文化財保護	調査班			文化振興班	管理	
1998	平成10	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二			管理	文化財保護課に改編
1999	平成11	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二			管理	
2000	平成12	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二			管理	
2001	平成13	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	重要大規模遺跡対策班		管理	重要大規模遺跡対策班設置
2002	平成14	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	重要大規模遺跡対策班		管理	
2003	平成15	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	重要大規模遺跡対策班		管理	
2004	平成16	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	大規模遺跡対策・災害復旧班		管理	大規模遺跡対策・災害復旧班/教育事務所文化班解消
2005	平成17	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	大規模遺跡対策・災害復旧班	新九歴班	管理	新九州歴史資料館対策班 / 教育事務所配置解消
2006	平成18	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	大規模遺跡対策・災害復旧班	新九歴班	管理	
2007	平成19	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	大規模遺跡対策・災害復旧班	新九歴班	管理	
2008	平成20	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	大規模遺跡対策・災害復旧班	新九歴班	管理	
2009	平成21	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二	大規模遺跡対策・災害復旧班	新九歴準備室	管理	新九州歴史資料館準備室 / 世界遺産登録推進室
2010	平成22	総務	文化財保護	文化財保護	調査第一	調査第二		新九歴対策室	管理	大規模・災害復旧班廃止、7.1:九歴が小郡移転
2011	平成23	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	調査第一・第二の大半が九歴へ
2012	平成24	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	
2013	平成25	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	
2014	平成26	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	
2015	平成27	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	
2016	平成28	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	
2017	平成29	総務	文化財保護	文化財保護	企画				管理	
2018	平成30	教育総務	文化財保護	文化財保護	企画・埋蔵文化財				管理	
2019	令和 1	教育総務	文化財保護	文化財保護	企画・埋蔵文化財				管理	
2020	令和 2	教育総務	文化財保護	文化財保護	企画・埋蔵文化財				管理	

第 16 表　福岡県文化財保護組織の変遷　①（福岡県文化課（文化財保護課））

西暦	和暦	総務	大宰府調査	文化財調査	学芸・保存管理・広報普及			備　　考
1965	昭和40							
1966	昭和41							
1967	昭和42							
1968	昭和43		10.19鍬入式、11.28発掘調査開始					
1969	昭和44							4.1 文化課発足
1970	昭和45							9.21 大宰府史跡の追加指定
1971	昭和46							3. 8 九州歴史資料館起工式 / 9.25 定礎式
1972	昭和47	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		九州歴史資料館設置〔S48.2.24開館〕
1973	昭和48	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1974	昭和49	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1975	昭和50	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1976	昭和51	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1977	昭和52	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1978	昭和53	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1979	昭和54	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1980	昭和55	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1981	昭和56	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1982	昭和57	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1983	昭和58	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		6教育事務所（文化財専門職員配置）
1984	昭和59	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1985	昭和60	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		甘木歴史資料館・県立美術館開館
1986	昭和61	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1987	昭和62	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1988	昭和63	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1989	平成 1	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1990	平成 2	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1991	平成 3	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1992	平成 4	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1993	平成 5	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1994	平成 6	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		教育事務所生涯学習課文化班、国博対策室が総務部へ
1995	平成 7	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1996	平成 8	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1997	平成 9	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
1998	平成10	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		文化財保護課に改編
1999	平成11	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
2000	平成12	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
2001	平成13	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		重要大規模遺跡対策班設置
2002	平成14	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
2003	平成15	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		
2004	平成16	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		大規模遺跡対策・災害復旧班/教育事務所文化班解消
2005	平成17	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		新九州歴史資料館対策班 / 教育事務所配置解消
2006	平成18	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		新九州歴史資料館対策班
2007	平成19	総務課	調査課		学芸第一課	学芸第二課		新九州歴史資料館対策班
2008	平成20	総務室	学芸調査室調査班		学芸調査室学芸班			新九州歴史資料館対策班
2009	平成21	総務室	学芸調査室調査班		学芸調査室学芸班			新九州歴史資料館準備室
2010	平成22	総務室	学芸調査室調査班		学芸調査室学芸班			新九州歴史資料館対策室、7.1:九歴が小郡へ移転
2011	平成23	総務室	学芸調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸学芸普及班	文化財調査室保存管理班		文化財保護課の調査第一・第二の大半が九歴へ
2012	平成24	総務室	学芸調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸学芸普及班	文化財調査室保存管理班		
2013	平成25	総務室	学芸調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	文化財調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2014	平成26	総務室	学芸調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	文化財調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2015	平成27	総務室	学芸調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	文化財調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2016	平成28	総務室	文化財調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	学芸調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2017	平成29	総務室	文化財調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	学芸調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2018	平成30	総務室	文化財調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	学芸調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2019	令和 1	総務室	文化財調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	学芸調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	
2020	令和 2	総務室	文化財調査室調査研究班	文化財調査室文化財調査班	学芸調査室学芸研究班	学芸調査室保存管理班	学芸調査室広報普及班	

第 16 表　福岡県文化財保護組織の変遷　②（九州歴史資料館）

（2）福岡県文化財保護審議会委員

	氏名	部会	分野	S25	S28	S29	S30	S31	S32	S33	S34	S35	S36	S37	S38	S39	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1	木下盛枝			□																																																																			
2	武藤直治			□																																																																			
3	石野義助			□																																																																			
4	岩田長次郎			□																																																																			
5	江口幸雄			□																																																																			
6	金尾直敬			□																																																																			
7	薄　與莊			□																																																																			
8	波多江一俊			□																																																																			
9	竹岡勝也			□																																																																			
10	森　克己			□																																																																			
11	干潟龍祥	有形	美術、工芸、文書	□	○				○	○																																																														
12	楠本正継	有形	美術、工芸、文書		○						○	○	○	○																																																									
13	谷口鉄雄	有形	美術、工芸	□	○		○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																									
14	裏辻憲道	有形	美術、工芸	□	○		○	○	○	○											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																								
15	豊田勝秋	有形	美術、工芸		○				○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○																																																	
16	竹内理三	有形	文書典籍	□	○		○	○	○	○																																																														
17	杉浦正一郎	有形	文書典籍		○		○																																																																	
18	倉野憲司	有形	文書典籍		○		○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																		
19	秀村選三	有形	文書典籍		○		○	○	○	○														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	△	△	△	△																	
20	鷹部屋福平	有形	建築		○																																																																				
21	鏡山　猛	有形	考古学		○		○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																																					
22	田中幸夫	有形	考古学	□	○		?○	○	○	○																																																														
23	森貞次郎	有形	考古学	□	○		○	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																															
24	渡邉正気	有形	考古学		○		○	○	○	○																												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																										
25	金関丈夫	有形	考古学(人類)		○		○	○	○	○																																																															
26	玉泉大梁	有形	考古学文書		○		○	○	○	○																																																																
27	谷村　熙	有形	刀剣		○						○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																												
28	松本勝次郎	有形	刀剣		○		○	○																																																																	
29	箭内健次	有形	文書典籍		○		○	○	○	○																																																																
30	江崎悌三	名勝・天然	昆虫	□	○		○	○																																																																	
31	木下亀城	名勝・天然	鉱物	□	○		○	○	○	○																																																															
32	内田恵太郎	名勝・天然	魚類	□	○		○	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																											
33	佐藤敬二	名勝・天然	樹木	□	○		○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆																														
34	小島　均	名勝・天然	植物	□	○																																																																			
35	鳥山隆三	名勝・天然	地質		○		○	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																															
36	安部幸六	名勝・天然	鳥類	□	○																																																																			
37	古野清人	無形	民俗芸能		○		○	○	○	○																																																														
38	北西鶴太郎	無形	民俗芸能		○		○	○	○	○																																																														
39	喜多野清一	無形	民俗		○		○																																																																	
40	西尾陽太郎	有形	文書典籍		○		○	○	○	○																																																														
41	桧垣元吉	無形	芸能民俗		○		○	○	○	○																																																														
42	山室三良	有形	文書典籍				○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																															
43	岩猿敏生	無形	民俗資料				○																																																																			
44	劉　寒吉	無形	民俗資料				○	○	○	○												○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																																					
45	原田大六	有形	史跡				○	○																																																																	
46	山内六郎	名勝・天然	名勝				?○																																																																	
47	土岐義順	名勝・天然	植物				○	○	○	○																																																														
48	平岩馨邦	名勝・天然	動物				○	○	○	○																																																														
49	松下久通	名勝・天然	地質				○	○																																																																
50	菊池　祖						?○	○																																																															
51	橋田有一						○	○	○	○																																																													
52	待鳥喜久大						○	○	○	○																																																													
53	三宅安太郎	無形	民俗資料					○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																								
54	都築頼助	無形	民俗資料					○	○	○																																																														
55	美和弥之助	有形	美術工芸						○	○																																																														
56	千々岩助太郎	有形	建造物						○	○																																																														
57	安松京三	名勝・天然	昆虫						○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																				
58	香川　勇	名勝・天然	動物						○	○																																																														
59	上野正澄	無形	民俗資料・無形						○	○	○	○	○	○	○		○	○																																																					
60	長沼賢海	有形	史跡								○	○	○	○	○																																																								
61	太田静六	有形	民俗資料								○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																		
62	岸田　勉	有形	史跡								○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																								
63	藤田亮策	有形	史跡								○																																																											

第17表　福岡県文化財保護審議会委員及び専門委員　①

	氏名	部会	分野	S25	S28	S29	S30	S31	S32	S33	S34	S35	S36	S37	S38	S39	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
64	野田勢次郎	有形	天然記念物								○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○																																																	
65	岡田陽一	有形	天然記念物								○	○																																																												
66	牧川鷹之祐	有形	天然記念物								○	○	○	○	○		○	○	○	○																																																				
67	岡崎　敬	有形	史跡・考古学										○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	△	△	△	△	△	△	△																														
68	浜田陸一	有形	民俗資料										○	○	○		○	○	○	○	○																																																			
69	与崎　淳	有形	工芸										○	○																																																										
70	二宮秀夫	有形	工芸										○	○																																																										
71	多田隈豊秋	有形	工芸												○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																										
72	波多野皖三	有形	書跡												○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																													
73	新城常三	有形	書跡														○	○	○																																																					
74	永井昌文	有形	史跡・考古学・人類学														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
75	友石孝之	無形	民俗資料														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																					
76	三宅貞祥	名勝・天然	動物														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																									
77	筑紫　豊	無形	民俗資料															○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆																																							
78	加藤退介	名勝・天然	名勝																		○	○	○	○	○	○																																														
79	川添昭二	有形	書跡																		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																						
80	熊谷宣夫	有形	絵画																		○	○	○																																																	
81	菰田宗二郎	有形	彫刻																		○	○	○	○	○	○																																														
82	田村圓澄	有形	史跡・歴史																		○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																							
83	細川隆英	名勝・天然	植物																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																									
84	小田富士雄	有形	史跡・考古学																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	△	△	△	△							
85	唐木田芳文	名勝・天然	地質																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																					
86	平田　寛	有形	絵画																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																
87	沢村　仁	有形	建造物																						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆																											
88	佐々木哲哉	無形	民俗																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	△	△	△	△																	
89	重松敏美	無形	民俗																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																							
90	太田博太郎	有形	建造物																								△	△																																												
91	橋本　武	審議委員																									△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																													
92	都留大治郎	審議委員																									△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																																
93	田中子玉	審議委員																									△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																																			
94	丸山雍成	有形	史跡・歴史																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆																
95	鈴木健二	有形	工芸																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																									
96	中村正夫	無形	民俗文化財																													○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆																							
97	須崎民雄	名勝・天然	植物																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																														
98	尼川大録	名勝・天然	植物																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																									
99	原田文枝	審議委員																														△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																									
100	中村　質	有形	史跡・歴史																															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																							
101	平山和彦	無形	民俗文化財																															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
102	横山浩一	有形	史跡・考古学																																	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	△	△	△																				
103	土田充義	有形	建造物																																	○	○	○	○																																	
104	米津三郎	無形	民俗文化財																																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
105	平嶋義宏	名勝・天然	動物																																	○	○	○	○																																	
106	坂井孝之	審議委員																																				△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△																			
107	佐藤正彦	有形	建造物																																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△													
108	錦織亮介	有形・委員	彫刻																																						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	△	△	△	△	△	△	△	△	△	▲					
109	西谷　正	有形	史跡・考古学																																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	▲	
110	柏木　實	無形・委員	民俗文化財																																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	△	△	△	△											
111	宮島　寛	名勝・天然	植物																																									☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	△	△	△	△																	
112	杉本正美	名勝・天然	名勝																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	△	△	△	△	△	△			
113	矢幡　久	天然・委員	植物																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	★					
114	太田正道	名勝・天然	地質																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													
115	緒方世喜子	審議委員																																											△																												
116	山野喜久夫	審議委員	学校教育																																										△																											
117	宮本雅明	有形	建造物																																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
118	森　弘子	無形・民俗	民俗文化財																																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
119	湯川久子	審議委員	弁護士																																											△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△															
120	西村強三	有形	工芸																																													○	○	○	○	○	○	○	○																	
121	三輪英夫	有形	絵画																																													○	○	○	○	○																				
122	白石　哲	名勝・天然	動物																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
123	神野展光	名勝・天然	植物																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆	△
124	副島三喜男	有形	絵画																																													△	△	△	△	△	△	△	△	△	△															
125	長　節子	審議委員	中世史																																													△	△	△	△	△	△	△	△	△	△															
126	竹中圭子	審議委員	社会教育																																													△	△	△	△	△	△	△	△	△	△															

第 17 表　福岡県文化財保護審議会委員及び専門委員　②

	氏名	部会	分野	S25	S28	S29	S30	S31	S32	S33	S34	S35	S36	S37	S38	S39	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
127	藤田　等	有形	史跡・考古学																																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													
128	服部英雄	史跡	史跡・歴史																																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●					
129	田中丸勝彦	無形	民俗文化財																																											○	○																					
130	小林法子	有形	絵画																																														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆
131	佐伯弘次	有形	歴史・古文書																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
132	関　一敏	無形・民俗	民俗																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
133	重信幸彦	無形・民俗	民俗																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
134	井上　晋	名勝・天然	植物																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆
135	石橋　澄	名勝・天然	鉱物																																													○	○	○	○	○	○	○	○													
136	福島建治	審議会																																																△	△	△	△	△	△	△	△	△	△									
137	中橋孝博	史跡	史跡・考古学・人類学																																															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
138	長野　覚	無形・民俗	民俗																																															○	○																	
139	吉永陽三	無形・民俗	陶芸																																															○	○	○	○															
140	木村法光	有形	工芸品																																																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	▲	
141	白川琢磨	無形・民俗	民俗																																																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
142	満生登代子	審議委員	学校教育																																																		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	▲					
143	坂上康俊	史跡	古代史																																																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
144	山野善郎	有形	建造物																																																			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
145	井手誠之輔	有形	彫刻																																																			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
146	石村眞一	無形・民俗	無形																																																			○	○	○	○	○	○	○	○							
147	段上達雄	無形・民俗	民俗																																																			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
148	古川澄子	審議委員	社会教育																																																			△	△	△	△	△	△	△	△	△	▲					
149	狩野啓子	審議委員	近代文学																																																			△	△	△	△	△	△	△	△	△	▲					
150	辻本育子	審議委員	弁護士																																																			△	△	△	△	△	△									
151	高倉洋彰	史跡	史跡・考古学																																																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	△
152	坂井　卓	名勝・天然	地質学																																																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
153	上原誠一郎	名勝・天然	鉱物学																																																					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
154	三輪宗弘	史跡	近代史																																																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
155	毛利孝之	名勝・天然	動物学																																																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
156	河上信行	有形	建造物																																																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
157	吉留　徹	無形・民俗	民俗																																																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
158	榎本重孝	審議委員	文化振興																																																									△	△	△	△	△	△	△	△	△
159	古江　賢	審議委員	弁護士																																																									△	△	△	△	△	△			
160	包清博之	名勝・天然	造園学																																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○
161	宮本一夫	史跡	考古学																																																											○	○	○	○	○	○	○
162	須永　敬	無形・民俗	民俗																																																											○	○	○	○	○	○	○
163	後藤　直	史跡	考古学																																																												○	○	○	○	●	
164	植野かおり	有形	工芸品																																																													○	○	○	○	○
165	小河誠司	名勝・天然	植物学																																																													○	○	○	●	
166	羽広志信	審議委員	学校教育																																																													△	△	△	▲	
167	小川亜弥子	審議委員	日本史																																																													△	△	△	△	△
168	西村澄子	審議委員	社会教育																																																													△	△	△		
169	中野　等	史跡	中世史																																																													○	○	○	○	○
170	木下　明	審議委員	弁護士																																																															△	△	△
171	内藤妙子	審議委員	社会教育																																																																△	△
172	鈴田由紀夫	無形	陶芸																																																																○	○
173	原田あゆみ	無形	染織																																																																○	○
174	川畑憲子	無形	漆芸																																																																○	○
175	友永尚子	無形	竹工																																																																○	○
176	後藤　治	臨時	法制度																																																																○	○
177	木川りか	臨時	防災																																																																○	○
178	重藤輝行	史跡	考古学																																																																○	○
179	田島　卓	臨時	文化																																																																○	○
180	大久保昭彦	臨時	マスコミ																																																																○	○
181	古賀弥生	臨時	民間団体																																																																○	○
182	石硯昭雄	臨時	学校教育																																																																○	○
183	丸林禎彦	臨時	行政																																																																○	○
184	髙尾栄市	臨時	行政																																																																○	○
185	岩切優子	審議委員	学校教育																																																																	△
186	小畑弘己	史跡	考古学																																																																	○
187	伴野　豊	天然	生物学																																																																	○
188	猪上信義	天然	樹木																																																																	○
189	宮島淳二	天然	森林保護学																																																																	○

第 17 表　福岡県文化財保護審議会委員及び専門委員　③

（3）福岡県文化財保護指導委員

※　昭和51年から文化財保護指導委員、網かけ部分は文化財管理調査員

年	筑　紫	糟　屋	宗　像	糸　島	中間・遠賀	直　鞍	三井・小郡	朝　倉	浮　羽	山門・三池	三　潴	八女・筑後	嘉　穂	田　川	京都・行橋	京都・行橋	豊　前	築　上
45年	木村明敏	岩崎三男	立部祐道	大神邦博	鈴木長敏	許斐義博	美山　進	高山　明	金子文夫	久賀愛策	堤　昭南	木附光雄	原田　衛	吉田基衛	定村責二	植山荒二郎	重松敏美	大森勝留
46年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	原口信行	↓	↓	↓
47年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
48年	前田軍治	安河内乙	永島俊一	↓	↓	↓	山本信夫	村山義男	↓	↓	山浦吉郎	↓	↓	↓	↓	↓	↓	宮本　工
49年	↓	↓	↓	↓	↓	小方良臣	↓	菊池法信	上杉吉雄	↓	徳永　保	↓	↓	↓	川本義継	↓	↓	↓
50年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	林　清昭	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
51年	↓	↓	↓	與小田寛	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	水上薩摩	↓	↓	濱島三司	↓
52年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
53年	↓	↓	↓	松吉俊實	↓	↓	↓	↓	上野美之	↓	↓	↓	↓	↓	↓		↓	↓
54年	↓	↓	↓	↓	古野千年	↓	↓	↓	↓	↓	古賀智勝	↓	盛内直美	↓	↓	一川淳江	↓	↓
55年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
56年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	久保山教善	↓	金子文夫	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
57年	和田利徳	↓	↓	↓	↓	牛嶋英俊	↓	鬼木和憲	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
58年	↓	↓	↓	↓	古野嘉久	↓	赤川正秀	↓	↓	↓	堤　昭南	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
59年	↓	平ノ内幸治	↓	↓	↓	↓	↓	↓	佐藤　力	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
60年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
61年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	八田保政	↓	↓	↓	↓	↓
62年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	仲田善則	↓	↓	佐藤　誠	古賀智勝	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
63年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
元年	↓	↓	石井　忠	↓	↓	↓	堀田秀茂	内田恵三	池尻　赳	近本喜續	↓	佐々木四十臣	↓	↓	↓	↓	↓	↓
2年	↓	↓	↓	諸岡利寛	旗生良徳	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
3年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	西見泰俊	↓	久賀愛策	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
4年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
5年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	井上和人	↓	↓	築地原正英	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
6年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	石井康夫	↓	↓	↓	綿島一彦	山岸靖治	↓	↓	↓	↓
7年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	佐藤和四郎	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
8年	高橋慎二	和田利徳	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	桃坂　豊	↓	↓	↓	↓
9年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	井手訓真	古澤典子	↓	↓	↓	↓	↓	橋本幸作	↓	↓	↓
10年	↓	↓	↓	波多江大	↓	↓	↓	↓	東　典子	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
11年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
12年	↓	↓	↓	↓	長野浩久	↓	↓	合原朝幸	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
13年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	良永芳博	↓	↓	築地原正英	久富真人	↓	山本浩一郎	↓	↓	↓	三谷敏彦	↓
14年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	安達照眞	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
15年	↓	↓	↓	東田紀元	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	米田鐵也
16年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	宮崎伸二	矢野公一	↓	↓	松山高久	↓	↓	↓	↓	大森　丘	↓	↓
17年	↓	↓	↓	↓	吉永洋一	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	城戸淳一	↓	↓	↓
18年	↓	↓	（鎌田隆徳）	↓	↓	↓	↓	↓	伊藤正和	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
19年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	内田恵三	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
20年	↓	↓	鎌田隆徳	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	（鳥取英記）	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
21年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	尾座本雅光	
22年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
23年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	佐藤好英	↓	↓	↓	↓	↓	↓	藤本孝彦	↓	
24年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
25年	↓	↓	↓	↓	吉岡　学	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
26年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
27年	↓	↓	↓	洞龍二郎	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
28年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	菰方正理	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
29年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	小野剛史	↓	↓	
30年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	棚田規生6/1～	↓	↓	
31年	↓	↓	↓	↓	↓	↓	堀田秀茂	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
2年	↓	↓	↓	↓	水口一志	↓	↓	↓	東　典子	↓	↓	↓	↓	↓	白川正樹	中谷秀俊	↓	

第18表　福岡県文化財保護指導委員

（4）九州歴史資料館協議会委員

	氏　名	所　属（就任時）	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
1	谷口鉄雄	九州大学教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
2	田村圓澄	九州大学教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																								
3	岡崎　敬	九州大学教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																														
4	森貞次郎	九州産業大学教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																													
5	川添昭二	九州大学助教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																							
6	佐藤敬二	九州大学名誉教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																															
7	瓦林　潔	九州電力社長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																			
8	濱　正雄	九州・山口経済団体連合会専務理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																			
9	筑紫　豊	福岡県文化財審議会専門委員	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																								
10	吉久勝美	福岡県副知事	○	○																																															
11	蔵田　蔵	奈良国立博物館長	○	○																																															
12	内山　正	奈良国立文化財研究所長	○	○																																															
13	坂本太郎	東京大学名誉教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																								
14	竹内理三	早稲田大学教授	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																			
15	小山富士夫	陶磁研究家	○	○	○																																														
16	太田博太郎	九州芸術工科大学長			○	○	○	○	○	○	○																																								
17	川邊善郎	太宰府町長			○	○	○	○	○																																											
18	鶴田鋭彦	福岡県文化会館長						○	○	○																																										
19	有吉林之助	太宰府町長								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																							
20	原田文枝	芙蓉保育園長										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
21	澤村　仁	九州芸術工科大学教授										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
22	岩下光弘	福岡県文化会館長										○	○	○	○	○	○	○																																	
23	鑓水速太	福岡県公民館連合会長											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
24	滝口凡夫	博物館等建設推進九州会議事務局長															○	○																																	
25	賀川光夫	別府大学教授															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																					
26	長　洋一	西南学院大学教授															○	○	○	○	○	○	○	○	◇	◇	◇	◇	◎	◎	○	○																			
27	伊藤善佐	太宰府市長																	○	○	○	○	○	○	○																										
28	佐藤善郎	太宰府市長																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○															
29	稲積謙次郎	博物館等建設推進九州会議事務局長																	○	○	○																														
30	西谷　正	九州大学教授																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎													
31	前田　淑	福岡女学院短期大学教授																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
32	渡邉正気	福岡県文化財審議会専門委員																	○	○	○	○																													
33	永井昌文	福岡県立看護専門学校長																			○	○	○	○	◎	◎	◎	◎																							
34	石崎憲司	博物館等建設推進九州会議事務局長																				○	○	○	○																										
35	岡田茂弘	国立歴史民俗博物館																					○	○	○	○	○	○	○	○																					
36	後藤正二	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館長																					○	○	○	○																									
37	佐原　真	奈良国立文化財研究所																					○	○																											
38	河原純之	奈良国立文化財研究所																							○																										
39	工楽善通	奈良国立文化財研究所																								○	○	○	○	○																					
40	佐々木哲哉	田川石炭資料館長																							○	○	○	○	○	○	○	○																			
41	佐藤正彦	九州産業大学教授																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○															
42	錦織亮介	北九州大学教授																							○	○	○	○	○	○	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◎										
43	多田昭重	博物館等建設推進九州会議事務局長																								○	○	○	○	○																					
44	田中欣一	福岡市弥生小学校長																								○	○	○																							
45	鴨川洋子	福岡県PTA母親委員会副委員長																									○	○																							
46	木下尚子	熊本大学教授																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◇	◇	◎	◎									
47	大村幸子	福岡市立金山小学校長																											○	○																					
48	安河内チエ子	粕屋町立粕屋中学校長																											○	○																					
49	徳本（井上）理香	古都大宰府保存協会																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
50	沢田正昭	奈良国立文化財研究所埋文センター長																													○	○	○	○																

第 19 表　九州歴史資料館協議会委員　①　　◎：会長　◇：副会長

	氏　名	所　属　（就任時）	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
51	田辺征夫	奈良国立文化財研究所埋文センター長																																	○																
52	毛利光俊彦	奈良文化財研究所埋文センター長																																		○															
53	安田龍太郎	奈良文化財研究所埋文センター長																																			○	○													
54	肥塚隆保	奈良文化財研究所埋文センター長																																					○	○											
55	松井　章	奈良文化財研究所埋文センター長																																							○	○	○								
56	難波洋三	奈良文化財研究所埋文センター長																																										○	○	○					
57	小池伸彦	奈良文化財研究所埋文センター長																																													○				
58	高妻洋成	奈良文化財研究所埋文センター長																																														○	○	○	○
59	玉川孝道	博物館等建設推進九州会議事務局長																													○	○																			
60	小林法子	美術史学会会員																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
61	満生登代子	太宰府市立太宰府南小学校長																													○	○	○	○	○	○	○	○													
62	関　敏治	太宰府市立学業院中学校長；太宰府市教育長																													○						○	○	○	○	○	○	○								
63	矢木信男	太宰府市立学業院中学校長																														○	○	○	○	○															
64	古賀信行	太宰府市立学業院中学校長																																			○	○	○	○											
65	木村甚治	太宰府市教育長																																										○	○	○	○	○			
66	樋田京子	太宰府市教育長																																															○	○	○
67	近藤喬一	山口大学教授																														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
68	田中正日子	第一経済大学教授																															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
69	本田光子	別府大学教授																															○	○	○	○	○	○	○	○	◇	◇									
70	今津節生	九州国立博物館博物館科学課長																																									○	○	○	○					
71	木川りか	九州国立博物館博物館科学課長																																													○	○	○	○	◎
72	郡田　弘	博物館等建設推進九州会議事務局長																															○	○	○	○															
73	宮本雅明	九州大学芸術工学研究院教授																																			○	○	○	○	○										
74	正平辰男	東和大学教授																																			○	○	○	○	○	○	◇	◇							
75	森醇一朗	久留米大学比較文化研究所教授																																					○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
76	川述昭人	八女市岩戸山歴史文化交流館長																																																	○
77	八尋郁子	太宰府市立太宰府東小学校長																																					○	○	○	○	○	○							
78	高尾美鈴	那珂川町立安徳小学校長																																											○	○					
79	清武　輝	小郡市教育委員会教育長																																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
80	秋永晃生	小郡市教育委員会教育長																																																	○
81	藤口悦子	鍋島報效会徴古館主任学芸員																																							○	○	○	○	◇	◇	◇	◇	◇	◇	
82	植野かおり	立花家史料館長																																																	○
83	豊福美恵子	小郡市立立石中学校長																																							○	○									
84	塚本桂子	小郡市立三国中学校長																																									○	○	○	○					
85	松枝昭生	小郡市立大原中学校長																																													○	○			
86	工藤正則	小郡市立三国中学校長																																															○	○	○
87	熊谷久子	春日市立須玖小学校																																													○	○			
88	古賀淳子	大野城市立平野小学校長																																															○	○	
89	花田睦子	那珂川市立安徳小学校長																																																	○
90	河上信行	河上信行建築事務所所長																																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
91	佐古和枝	関西外国語大学教授																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○
92	柴田博子	宮崎産業経営大学教授																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○
93	福田千鶴	九州産業大学教授																																									○	○	○	○	○	○			
94	中野　等	九州大学大学院教授																																															○	○	○
95	小林（緒方）知美	筑紫女学園大学専任講師																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○
96	瓜生郁義	桂川町教育長																																											○	○	○	○	○		
97	黒田修三	宇美町立図書館長																																																○	◇

第 19 表　九州歴史資料館協議会委員　②

◎：会長　◇：副会長

（5）大宰府史跡調査研究指導委員会委員

	氏　名	分野	所属(就任時)	年	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
				西暦	1968	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	竹内理三	国史	早稲田大学教授		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																					
2	坂本太郎	国史	東京大学名誉教授		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																							
3	井上光貞	国史	東京大学教授		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																						
4	岸　俊男	国史	京都大学教授		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																		
5	井上辰雄	国史	熊本大学教授		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																				
6	岡崎　敬	考古	九州大学助教授		○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	○	○	○																												
7	坪井清足	考古	奈良国立文化財研究所		○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																								
8	浅野　清	建築史	大阪市立大学教授		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																
9	太田静六	建築史	九州大学教授		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																				
10	鏡山　猛	考古	九州大学教授		●	●	●	●										○	○	○																																				
11	小田富士雄	考古	九州大学助手		幹事	幹事	幹事	幹事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
12	平野邦雄	国史	東京女子大学教授																		●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																								
13	狩野　久	国史	奈良国立文化財研究所																		○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
14	笹山晴生	国史	東京大学助教授																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎									
15	澤村　仁	建築史	九州芸術工科大学教授																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
16	杉本正美	造園	九州芸術工科大学教授																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	中村　一	造園	京都大学教授																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													
18	横山浩一	考古	九州大学教授																		○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎																					
19	渡辺定夫	都市工学	東京大学教授																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	八木　充	国史	山口大学教授																						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
21	川添昭二	国史	九州大学教授																						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○															
22	鈴木嘉吉	建築史	奈良国立文化財研究所																						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
23	西谷　正	考古	九州大学教授																										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													
24	佐藤　信	国史	東京大学教授																												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25	坂上康俊	国史	九州大学教授																														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	田中　琢	考古	奈良国立文化財研究所																														○	○	○																						
27	町田　章	考古	奈良国立文化財研究所																																	○	○	○	○	○	○															
28	山中　章	考古	三重大学教授																																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	田辺征夫	考古	奈良国立文化財研究所																																						○	○	○	○	○	○										
30	林　重徳	土木工学	佐賀大学教授																																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
31	石松好雄	考古	元九州歴史資料館副館長																																									○	○	○	○									
32	尼崎博正	造園学	京都造形芸術大学教授																																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	松村恵司	考古	(独)奈良文化財研究所																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	森　公章	国史	東洋大学教授																																													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	高橋　章	考古	求菩提資料館長																																														○	○	○						
36	箱崎和久	建築史	(独)奈良文化財研究所																																															○	○	○	○	○	○	○	○
37	包清博之	造園学	九州大学大学院教授																																																				○	○
38	増渕　徹	国史	京都橘大学教授																																																				○	○
39	亀田修一	考古	岡山理科大学教授																																																				○	○
40	伊東龍一	建築史学	熊本大学大学院教授																																																				○	○
41	末次大輔	土木工学	宮崎大学教授																																																				○	○
			人数		10	10	10	10	10	10	9	9	9	10	10	10	10	10	9	9	13	13	12	11	13	13	13	12	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	15	15
			開催日						5/8～9	5/7～8	5/8～9	5/26	5/17・2/26	5/20～21	5/12～13・12/6	5/22～23	5/20～21	5/20～21	5/12～13	5/17～18	5/21～22	5/20～21	6/3～4	5/21～22	5/13～14	5/17～18	5/24～25	5/15～16	5/28～29	5/20～21	5/18～19	5/25～26	5/15～16	5/28～29	5/21～22	5/27～28	5/25～26	5/24～25	10/31～11/1	10/30～31	10/7～8	10/24～25	10/19～20	10/18～19	10/20～21	10/20～21	12/2～3	10/20～21	10/16～17	10/17～18	10/21～22	10/29～30	9/27～28	10/24～25	10/16～17	10/23～24	10/14～15

※　所属は就任当時

※　◎は委員長、●は副委員長（S47～H11の間は推定の部分もある）

※　委員会は昭和43年7月1日発足。S58までは「大宰府史跡発掘調査指導委員会」。S59から名称変更

※　大宰府史跡の発掘調査は、昭和43～46年は県教育委員会、昭和47年以降は九州歴史資料館が担当

第 20 表　大宰府史跡調査研究指導委員会委員

2　事業の変遷

（1）大宰府史跡調査

次数	調査地区		調査年度	調査要因	調査主体
1	大宰府跡	政庁南門・中門	1968	計画調査	県文化課
2	大宰府跡	政庁外濠	1969・1970	計画調査	県文化課
3	大宰府学校院跡	学校院跡	1969	計画調査	県文化課
4	大宰府跡	周辺官衙・蔵司西地区	1969・1970	宅地造成	県文化課
5	観世音寺及子院跡	観世音寺東南隅	1970	住宅建設	県文化課
6	大宰府跡	政庁西南地区	1970	計画調査	県文化課
7	大宰府跡	周辺官衙・後背地区（住ケ元地区）	1970	住宅建設	県文化課
8	観世音寺及子院跡	子院地区（安養寺跡）	1970	住宅建設	県文化課
9	大宰府学校院跡	学校院東辺部	1970・1971	計画調査	県文化課
10	筑前国分寺跡	国分寺西辺地区	1971	住宅建設	県文化課
11	大宰府跡	周辺官衙・後背地区（観世音寺北辺部）	1971	その他開発事業	県文化課
12	大宰府条坊跡	条坊右郭西限	1971	学校建設	九州歴史資料館
13	大宰府条坊跡	条坊右郭西限	1971		九州歴史資料館
14	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1971	住宅建設	九州歴史資料館
15	大宰府跡	政庁回廊東北隅	1971・1972	計画調査	九州歴史資料館
16	観世音寺及子院跡	観世音寺（推定中軸）	1971	住宅建設	九州歴史資料館
17	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1971	住宅建設	九州歴史資料館
18	大宰府学校院跡	学校院北辺部	1972	開発事業	九州歴史資料館
19	大宰府跡	周辺官衙・来木地区	1972	開発事業	九州歴史資料館
20	観世音寺及子院跡	観世音寺東北部	1972	開発事業	九州歴史資料館
21	観世音寺及子院跡	子院地区（安養寺跡）	1972	住宅建設	九州歴史資料館
22	大宰府学校院跡	学校院東南隅	1972	住宅建設	九州歴史資料館
23	観世音寺及子院跡	観世音寺東南地区	1972	開発事業	九州歴史資料館
24	大宰府跡	周辺官衙・後背地区（政庁北西部）	1972	計画調査	九州歴史資料館
25	政庁周辺官衙跡	日吉地区（条坊左郭5条2坊）	1972	開発事業	九州歴史資料館
26	大宰府跡	政庁東北隅	1973	計画調査	九州歴史資料館
27	大宰府条坊跡	条坊左郭5条4坊	1973	宅地造成	九州歴史資料館
28	観世音寺及子院跡	条坊左郭5条4坊	1973	宅地造成	九州歴史資料館
29	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1973	宅地造成	九州歴史資料館
－	大宰府跡	周辺官衙・来木地区（来木北瓦窯跡）	1973	宅地造成	九州歴史資料館
30	大宰府跡	政庁西脇殿	1973・1974	計画調査	九州歴史資料館
31	大宰府跡	周辺官衙・月山南地区	1973・1974	計画調査	九州歴史資料館
32	政庁周辺官衙跡	日吉地区（左郭5条2坊）	1973	住宅建設	九州歴史資料館
33	大宰府条坊跡	条坊左郭7条10坊	1974	宅地造成	九州歴史資料館
34	大宰府跡	周辺官衙・月山東地区	1974	計画調査	九州歴史資料館
30補足	大宰府跡	政庁東北隅	1974	史跡整備	九州歴史資料館
35	大宰府跡	周辺官衙・月山南地区	1974	計画調査	九州歴史資料館
36	大宰府学校院跡	学校院東辺部	1974・1975	計画調査	九州歴史資料館
37	大宰府学校院跡	学校院中央部	1975	計画調査	九州歴史資料館
38	大宰府学校院跡	学校院東南部	1975	計画調査	九州歴史資料館
39-1	観世音寺及子院跡	条坊	1975	県道拡幅	九州歴史資料館
39-1補足	大宰府跡	政庁中門	1975	史跡整備	九州歴史資料館
40	大宰府条坊跡	条坊左郭6条11坊	1975	住宅建設	九州歴史資料館
39-2	観世音寺及子院跡	条坊	1975・1976	県道拡幅	九州歴史資料館
33補足	大宰府条坊跡	条坊左郭7条9坊	1976	住宅建設	九州歴史資料館
41	大宰府跡	政庁北門	1976	計画調査	九州歴史資料館
39-3	観世音寺及子院跡	条坊	1976	県道拡幅	九州歴史資料館
42	大宰府学校院跡	学校院東辺部	1976	住宅改築	九州歴史資料館
43	観世音寺及子院跡	観世音寺僧房推定地	1976	計画調査	九州歴史資料館
44	大宰府条坊跡	条坊左郭9条8坊	1976	住宅建設	九州歴史資料館
45	観世音寺及子院跡	観世音寺東辺部	1977	計画調査	九州歴史資料館
46	大宰府条坊跡	条坊左郭8条3坊	1976	住宅建設	九州歴史資料館
47	観世音寺及子院跡	観世音寺	1977	住宅建設	九州歴史資料館
48	観世音寺及子院跡	観世音寺西辺部	1977	住宅改築	九州歴史資料館
49	大宰府跡	政庁後殿地区	1977	計画調査	九州歴史資料館
50	大宰府条坊跡	条坊左郭8条2・3坊	1977	学校建設	九州歴史資料館
51	その他	遠賀団印出土隣接地	1977	学校建設	九州歴史資料館
52	大宰府跡	周辺官衙・後背地区（政庁北辺部）	1977		九州歴史資料館
53	大宰府跡	周辺官衙・来木瓦窯跡	1977	町道拡幅	九州歴史資料館
54	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	1977・1978	計画調査	九州歴史資料館
33補足2	大宰府条坊跡	条坊左郭7条9坊	1977	住宅建設	九州歴史資料館
55	観世音寺及子院跡	観世音寺回廊西南隅	1978	住宅改築	九州歴史資料館
56	大宰府条坊跡	条坊左郭8条1・2坊	1978	学校建設	九州歴史資料館
57	観世音寺及子院跡	子院地区（推定金光寺）	1978	計画調査	九州歴史資料館
58	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区（条坊中軸）	1978	計画調査	九州歴史資料館
59	大宰府条坊跡	条坊左郭10条3・4坊	1978	住宅建設	九州歴史資料館
60	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	1978・1979	計画調査	九州歴史資料館
61	観世音寺及子院跡	観世音寺	1978	史跡整備	九州歴史資料館
62	その他	新町遺跡	1978	住宅建設	九州歴史資料館
63	大宰府学校院跡	学校院北辺部	1979	公民館建替	九州歴史資料館
64	その他	御笠団印出土地周辺	1979	住宅建設	九州歴史資料館
65	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	1979	計画調査	九州歴史資料館
66	観世音寺及子院跡	観世音寺	1979	住宅建設	九州歴史資料館
67	観世音寺及子院跡	子院地区（推定金光寺）	1979・1980	計画調査	九州歴史資料館
68	観世音寺及子院跡	観世音寺北西・子院地区（安養寺跡）	1979	住宅建設	九州歴史資料館
69	大宰府跡	周辺官衙・来木地区	1979	住宅建設	九州歴史資料館
70	観世音寺及子院跡	観世音寺小子房	1980	計画調査	九州歴史資料館
71	観世音寺及子院跡	観世音寺	1980	計画調査	九州歴史資料館
72	大宰府跡	周辺官衙・月山地区	1980	計画調査	九州歴史資料館
73	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区（条坊中軸）	1980	計画調査	九州歴史資料館
74	大宰府学校院跡	学校院東辺部	1980	計画調査	九州歴史資料館
75	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1980・1981	計画調査	九州歴史資料館
76	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1981	計画調査	九州歴史資料館
77	大宰府学校院跡	学校院東辺部	1981	計画調査	九州歴史資料館
78	観世音寺及子院跡	観世音寺北西・子院地区（安養寺跡）	1981・1982	計画調査	九州歴史資料館
79	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1981	計画調査	九州歴史資料館
80-1	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1982	計画調査	九州歴史資料館
80-2	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1982	計画調査	九州歴史資料館
80-3	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1982	計画調査	九州歴史資料館
81	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1982	計画調査	九州歴史資料館
82	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1982		九州歴史資料館
83	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1982	計画調査	九州歴史資料館
84	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1982・1983	計画調査	九州歴史資料館
84補足	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1983	計画調査	九州歴史資料館
85	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1983	計画調査	九州歴史資料館
86	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1983	集合住宅建設	九州歴史資料館
87	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1983	区画整理	九州歴史資料館
14補足	政庁周辺官衙跡	大楠地区（南北大溝）	1983	計画調査	九州歴史資料館
88	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1983・1984	区画整理	九州歴史資料館

第 21 表　大宰府史跡発掘調査一覧　①

次数	調査地区		調査年度	調査要因	調査主体
89	大宰府学校院跡	学校院西辺部	1984		九州歴史資料館
90	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1984	区画整理	九州歴史資料館
91	大宰府学校院跡	学校院北辺部	1984	開発事業	九州歴史資料館
92	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1984	計画調査	九州歴史資料館
93	観世音寺及子院跡	観世音寺北西・子院地区（安養寺跡）	1984	開発事業	九州歴史資料館
94	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1984・1985	計画調査	九州歴史資料館
95	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1985	区画整理	九州歴史資料館
96	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1985	区画整理	九州歴史資料館
97	観世音寺及子院跡	子院地区（推定金光寺）	1985	計画調査	九州歴史資料館
98	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1985	住宅建設	九州歴史資料館
99	大宰府跡	周辺官衙・月山地区	1985・1986	計画調査	九州歴史資料館
100	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1986	計画調査	九州歴史資料館
101	大宰府跡	周辺官衙・月山東地区	1986	住宅建設	九州歴史資料館
102	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1986	計画調査	九州歴史資料館
103	観世音寺及子院跡	観世音寺南辺部	1986	住宅建設	九州歴史資料館
104	政庁周辺官衙跡	右郭6条2坊	1986	区画整理	九州歴史資料館
105	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1986・1987	計画調査	九州歴史資料館
106	大宰府学校院跡	学校院西辺部	1987	住宅建設	九州歴史資料館
107	観世音寺及子院跡	子院地区（推定金光寺石塔群）	1987	計画調査	九州歴史資料館
108	大宰府跡	周辺官衙・月山地区	1987	住宅建設	九州歴史資料館
109	観世音寺及子院跡	観世音寺南門前面域	1987	計画調査	九州歴史資料館
110	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1987	住宅建設	九州歴史資料館
111	観世音寺及子院跡	観世音寺南門前面域	1987・1988	計画調査	九州歴史資料館
112	大宰府学校院跡	学校院北辺部	1987	開発事業	九州歴史資料館
113	観世音寺及子院跡	子院地区(推定妙見寺)	1988	公共事業	九州歴史資料館
114	政庁周辺官衙跡	日吉地区（左郭5条2坊）	1988	住宅建設	九州歴史資料館
115	観世音寺及子院跡	戒壇院前面域	1988	計画調査	九州歴史資料館
116	観世音寺及子院跡	戒壇院	1988	開発事業	九州歴史資料館
117	観世音寺及子院跡	観世音寺東南部	1988	計画調査	九州歴史資料館
118	観世音寺及子院跡	観世音寺西辺部	1988	開発事業	九州歴史資料館
119	観世音寺及子院跡	観世音寺東辺中央部	1988・1989	計画調査	九州歴史資料館
120	観世音寺及子院跡	観世音寺北辺中央部	1989	計画調査	九州歴史資料館
70補足	観世音寺及子院跡	観世音寺北辺中央部	1989		九州歴史資料館
121	観世音寺及子院跡	観世音寺東辺部	1989・1990	計画調査	九州歴史資料館
122	観世音寺及子院跡	観世音寺前面東半部	1990	計画調査	九州歴史資料館
123	観世音寺及子院跡	観世音寺北辺東半部	1990	住宅改築	九州歴史資料館
124	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1990	住宅改築	九州歴史資料館
125	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1990	住宅建設	九州歴史資料館
126	観世音寺及子院跡	観世音寺講堂跡	1990・1991	計画調査	九州歴史資料館
127	観世音寺及子院跡	観世音寺大房跡	1991		九州歴史資料館
128	大宰府学校院跡	学校院北西部	1990		九州歴史資料館
129	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1991	集合住宅建設	九州歴史資料館
130	観世音寺及子院跡	観世音寺南門・南辺	1991～1993	計画調査	九州歴史資料館
131	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1991	宅地造成	九州歴史資料館
132	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1991	区画整理	九州歴史資料館
133	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1991	住宅建設	九州歴史資料館
134	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1991	区画整理	九州歴史資料館
135	観世音寺及子院跡	子院地区（推定金光寺）	1991	住宅建設	九州歴史資料館
136	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1991	住宅建設	九州歴史資料館
137	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1991	住宅建設	九州歴史資料館
138	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1991	住宅建設	九州歴史資料館
139	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1991	住宅建設	九州歴史資料館
140	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1992	区画整理	九州歴史資料館
141	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1992	区画整理	九州歴史資料館
142	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1992	区画整理	九州歴史資料館
143	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1992	住宅建設	九州歴史資料館
144	観世音寺及子院跡	観世音寺北辺部	1992	区画整理	九州歴史資料館
145	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1992	住宅建設	九州歴史資料館
146	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1992	区画整理	九州歴史資料館
147	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1992	区画整理	九州歴史資料館
148	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1992	区画整理	九州歴史資料館
149	観世音寺及子院跡	子院地区（推定金光寺）	1992	区画整理	九州歴史資料館
150	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1993	住宅改築	九州歴史資料館
151	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1993	住宅改築	九州歴史資料館
152	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1993	集合住宅建設	九州歴史資料館
153	政庁周辺官衙跡	日吉地区	1993	集合住宅建設	九州歴史資料館
154	観世音寺及子院跡	観世音寺前面	1993	住宅改築	九州歴史資料館
147-2	政庁周辺官衙跡	不丁地区	1993	開発事業	九州歴史資料館
96補足	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1993	区画整理	九州歴史資料館
155	観世音寺及子院跡	観世音寺南面築地	1993	開発事業	九州歴史資料館
156	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1993	宅地造成	九州歴史資料館
157	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1993・1994	住宅建設	九州歴史資料館
158	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	1994	宅地造成	九州歴史資料館
159	大宰府学校院跡	学校院北辺部	1994	住宅改築	九州歴史資料館
160	大宰府跡	周辺官衙・来木地区（丘陵西）	1994	集合住宅建設	九州歴史資料館
161	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地・崇福寺跡）	1994	住宅建設	九州歴史資料館
162	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1994	住宅改築	九州歴史資料館
163	観世音寺及子院跡	戒壇院庫裡	1994	開発事業	九州歴史資料館
164	政庁周辺官衙跡	日吉地区東	1994		九州歴史資料館
165	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1994	住宅改築	九州歴史資料館
166	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1994	住宅建設	九州歴史資料館
167	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1994	住宅建設	九州歴史資料館
168	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1994	区画整理	九州歴史資料館
169-1・2	大宰府跡	周辺官衙・来木地区	1995	住宅建設	九州歴史資料館
170	大宰府跡	周辺官衙・来木地区	1995	公共事業	太宰府市教育委員会
171	政庁周辺官衙跡	大楠地区	1995	住宅建設	九州歴史資料館
172	観世音寺及子院跡	子院地区	1995	住宅改築	九州歴史資料館
173	政庁周辺官衙跡	日吉地区東	1995	開発事業	九州歴史資料館
174	大宰府学校院跡	大宰府学校院跡	1995		九州歴史資料館
175	政庁周辺官衙跡	広丸地区	1996	住宅建設	九州歴史資料館
176	大宰府学校院跡	学校院西部	1996	公共事業	九州歴史資料館
169-3	政庁周辺官衙跡	来木瓦窯跡周辺	1996・1997	住宅建設	九州歴史資料館
177	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	1997	住宅建設	九州歴史資料館
178	大宰府跡	周辺官衙・月山東地区	1997	公共事業	九州歴史資料館
179	―				
180	大宰府跡	政庁正殿	1997～1999	計画調査	九州歴史資料館
181	大宰府跡	周辺官衙・月山地区	1998	開発事業	九州歴史資料館
182	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	2000	住宅改築	太宰府市教育委員会
183	大宰府跡	周辺官衙・後背地区	2000	公共事業	九州歴史資料館

第 21 表　大宰府史跡発掘調査一覧　②

次数	調査地区		調査年度	調査要因	調査主体
184	観世音寺及子院跡	子院地区（推定安養寺）	2000	住宅改築	九州歴史資料館
185	観世音寺及子院跡	子院地区（推定安養寺）	2001	災害復旧	九州歴史資料館
186	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2001	区画整理	九州歴史資料館
187	政庁周辺官衙跡	不丁地区	2002	計画調査	九州歴史資料館
188	観世音寺及子院跡	観世音寺金堂跡	2002		九州歴史資料館
189	観世音寺及子院跡	子院地区（推定安養寺）	2002	宅地造成	太宰府市教育委員会
190	大宰府跡	政庁東部	2002	公共事業	九州歴史資料館
186補足	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2002	市道建設	九州歴史資料館
191	大宰府跡	周辺官衙・月山東地区	2003	開発事業	九州歴史資料館
126補足	観世音寺及子院跡	観世音寺講堂	2003・2004		九州歴史資料館
192	政庁周辺官衙跡	不丁地区	2004	住宅建設	九州歴史資料館
193	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2005	住宅建設	九州歴史資料館
194	政庁周辺官衙跡	大楠地区	2005	住宅建設	九州歴史資料館
136-2	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2005	住宅建設	九州歴史資料館
195	観世音寺及子院跡	子院地区（推定安養寺）	2005	住宅改築	九州歴史資料館
195補足	観世音寺及子院跡	子院地区（推定安養寺）	2005	宅地造成	九州歴史資料館
196	政庁周辺官衙跡	大楠地区	2006	住宅建設	九州歴史資料館
197	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2006	住宅建設	九州歴史資料館
86-2	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2006	住宅建設	九州歴史資料館
92-3	政庁周辺官衙跡	大楠地区	2007	住宅建設	九州歴史資料館
198	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2007	住宅建設	九州歴史資料館
199	大宰府跡	周辺官衙・後背地区・松ヶ浦	2005・2008	住宅建設	太宰府市教育委員会
200	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2008	住宅建設	九州歴史資料館
201	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2008	住宅建設	九州歴史資料館
168-2	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2008	住宅建設	九州歴史資料館
202	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2008	公共事業	九州歴史資料館
203	観世音寺及子院跡	観世音寺西辺域	2008	住宅改築	九州歴史資料館
202-2	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2009	公共事業	九州歴史資料館
204	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2009	住宅建設	九州歴史資料館
205	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2009・2010	計画調査	九州歴史資料館
206	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2009	開発事業	九州歴史資料館
207	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2009	住宅建設	九州歴史資料館
208	観世音寺及子院跡	子院地区（推定安養寺）	2010	住宅改築	九州歴史資料館
209	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2010	計画調査	九州歴史資料館
210	観世音寺及子院跡	子院地区	2010	災害復旧	太宰府市教育委員会
211	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2011	住宅建設	太宰府市教育委員会
17-2	政庁周辺官衙跡	不丁地区	2011	住宅建設	太宰府市教育委員会
212	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2011	計画調査	九州歴史資料館
213	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2011	住宅建設	太宰府市教育委員会
214	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2011	住宅建設	九州歴史資料館
215	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2012	住宅改築	九州歴史資料館
216	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2012	計画調査	九州歴史資料館
217	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2012	住宅建設	九州歴史資料館
218	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地）	2013	住宅建設	九州歴史資料館
219	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地）	2013	住宅建設	九州歴史資料館
220	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2013	計画調査	九州歴史資料館
221	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2014	道路擁壁改修	九州歴史資料館
222	その他	水城跡関連（丸山遺跡）	2013	住宅建設	九州歴史資料館
223	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2013	住宅建設	太宰府市教育委員会
224	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2014	住宅建設	九州歴史資料館
225	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2014	計画調査	九州歴史資料館
226	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地）	2015	住宅建設	九州歴史資料館
227	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地）	2015	住宅建設	九州歴史資料館
228	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2015～2017	計画調査	九州歴史資料館
229	観世音寺及子院跡	子院地区（坂本地区）	2015	住宅建設	九州歴史資料館
230	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2016・2017	計画調査	九州歴史資料館
231	政庁周辺官衙跡	大楠地区	2016	倉庫建設	九州歴史資料館
232	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地）	2016	住宅建設	九州歴史資料館
233	観世音寺及子院跡	子院地区（東観世団地）	2016	住宅建設	九州歴史資料館
234	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2016	駐車場整備・便益施設建設	九州歴史資料館
235	大宰府学校院跡	大宰府学校院跡	2016	住宅建替	九州歴史資料館
236	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2017～2019	計画調査	九州歴史資料館
237	観世音寺及子院跡	子院地区	2017	溜池改修	九州歴史資料館
238	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2017	集合住宅建設	九州歴史資料館
239	観世音寺及子院跡	子院地区	2018	住宅建設	九州歴史資料館
240	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2018	災害復旧	九州歴史資料館
241	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2018	住宅建設	九州歴史資料館
242	政庁周辺官衙跡	周辺官衙・来木地区	2018	災害復旧	九州歴史資料館
243	政庁周辺官衙跡	広丸地区	2019	住宅建設	九州歴史資料館
244	政庁周辺官衙跡	政庁前面広場地区	2019	住宅建設	九州歴史資料館
245	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2019～	計画調査	九州歴史資料館
246	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2019～	計画調査	九州歴史資料館
247	政庁周辺官衙跡	日吉・五反田地区	2020	住宅建設	九州歴史資料館
248	政庁周辺官衙跡	日吉地区	2020	住宅建設	九州歴史資料館
249	観世音寺及子院跡	子院地区	2020	住宅建設	九州歴史資料館
250	大宰府跡	周辺官衙・蔵司地区	2020～	計画調査	九州歴史資料館
	大宰府条坊跡第127次	条坊右郭	1992	道路建設	九州歴史資料館
	市ノ上遺跡	条坊右郭8・9坊14条	1967	公共事業	福岡県史跡調査会・阿部義平
	崇福寺	観世音寺子院（東観世団地）	1967	宅地造成	福岡県史跡調査会・長沼賢海
	普賢遺跡	観世音寺子院（東観世団地）	1969	学術調査	県文化課
	御笠川南条坊遺跡1次	条坊左郭6・7坊8・9条	1971・1972	道路建設	県文化課
	御笠川南条坊遺跡2次	条坊左郭6・7坊8・9条	1972	道路建設	県文化課
	御笠川南条坊遺跡3次	条坊左郭6・7坊8・9条	1972・1973	道路建設	県文化課
	御笠川南条坊遺跡4次	条坊左郭6・7坊8・9条	1973	道路建設	県文化課
	御笠川南条坊遺跡5次	条坊左郭6・7坊8・9条	1973	道路建設	県文化課
	御笠川南条坊遺跡6次	条坊左郭6・7坊8・9条	1974	道路建設	県文化課
	御笠川南条坊第7次（君畑遺跡）	条坊左郭8坊10条	1980	道路建設	県文化課
	市ノ上遺跡	条坊右郭8・9坊14条	1977		県文化課
	御笠川南条坊遺跡（平野遺跡）	条坊左郭6・7坊8・9条	1977	学校建設	県文化課
	都府楼前条坊	条坊右郭1・2坊6・7条	1977	道路建設	県文化課
	西鉄ストア（旧寿屋）	条坊左郭8坊9条	1977	民間開発	県文化課
	南ＢＰ第4地点（伝刈萱関）	条坊右郭8坊4条	1978	道路建設	県文化課
	南ＢＰ第3地点（通古賀）	条坊右郭	1979	道路建設	県文化課

第 21 表　大宰府史跡発掘調査一覧　③

次数	調査地区		調査年度	調査要因	調査主体
1	御笠川	御笠川欠堤部	1970	道路建設	県文化課
2	御笠川	御笠川欠堤部	1972	道路建設	九州歴史資料館
3	東土塁	東下成土塁前面部・東外濠部	1972	道路建設	九州歴史資料館
4	東土塁	御笠川欠堤部	1973	道路建設	九州歴史資料館
5	西土塁	東外濠部・東門木樋部	1975	環境整備	九州歴史資料館
6	東土塁	東内濠部	1975	その他民間開発	九州歴史資料館
7	東土塁	西内濠部	1976	住宅建設	九州歴史資料館
8	西土塁	東丘陵部・東門木樋部	1977	環境整備	九州歴史資料館
9	東土塁	西下成土塁後面部	1978	住宅建設	九州歴史資料館
10	東土塁	東下成土塁後面部	1978	環境整備	九州歴史資料館
10-2	東門	東門南側	1979	環境整備	九州歴史資料館
11	東土塁	東下成土塁後面部	1986	災害復旧	太宰府市教育委員会
12	西土塁	西内濠部	1983	住宅建設	太宰府市教育委員会
13	西土塁	東内濠部	1986	住宅建設	太宰府市教育委員会
14	西土塁	西内濠部	1986	住宅建設	太宰府市教育委員会
15	西土塁	西内濠部	1986	住宅建設	太宰府市教育委員会
16	東土塁	東門南側	1988	住宅改築	太宰府市教育委員会
17	西土塁	西内濠部・木樋部	1990	集合住宅建設	太宰府市教育委員会
18	東土塁	東門南側	1990	住宅建設	太宰府市教育委員会
19	西土塁	西内濠部	1991	住宅建設	太宰府市教育委員会
20	東土塁	東門南側	1992	住宅建設	九州歴史資料館
21	西土塁	西下成土塁後面部	1992	住宅建設	太宰府市教育委員会
22	東土塁	東内濠部	1992	住宅建設	太宰府市教育委員会
23	西土塁	東内濠部	1992	その他公共事業	太宰府市教育委員会
24	東土塁	東下成土塁後面部	1993	計画調査	九州歴史資料館
25	西土塁	西下成土塁後面部	1993	その他公共事業	太宰府市教育委員会
26	西門	西門	1994・1995	計画調査	九州歴史資料館
26補1	西門	西門・水城経塚	1996	計画調査	九州歴史資料館
26補2	西土塁	西下成土塁前面部	2000	住宅建設	九州歴史資料館
27	西土塁	東内濠部	1994	住宅建設	九州歴史資料館
28	西土塁	西内濠部	1998	住宅建設	太宰府市教育委員会
29	御笠川	御笠川欠堤部	1998	その他公共事業	九州歴史資料館
29-2	御笠川	御笠川欠堤部	2005	計画調査	九州歴史資料館
30	東土塁	東内濠部	1999	集合住宅建設	太宰府市教育委員会
31	東土塁	東下成土塁後面部・瓦窯	1999	環境整備	太宰府市教育委員会
32	西土塁	西外濠部・木樋部	1999・2000	計画調査	九州歴史資料館
33	西門	西下成土塁後面部	2000・2001	計画調査	九州歴史資料館
34	JR欠堤部	JR欠堤部	2000	その他公共事業	太宰府市教育委員会
35	東土塁	東下成土塁後面部	2001	計画調査	九州歴史資料館
36		西丘陵部	2003	計画調査	九州歴史資料館
37	西土塁	西下成土塁後面部	2003	計画調査	九州歴史資料館
38	西門	西外濠西端部・西下成土塁前面部	2004	計画調査	九州歴史資料館
39	御笠川	西下成土塁部・西外濠部	2005	計画調査	九州歴史資料館
39補	御笠川	西外濠部	2006	計画調査	九州歴史資料館
40	西土塁	西下成土塁部・西外濠部	2007	計画調査	九州歴史資料館
40補	西土塁	西下成土塁部・木樋推定部	2008	計画調査	九州歴史資料館
41	東門	東門	2005		太宰府市教育委員会
42	東土塁	東上成土塁部	2007		太宰府市教育委員会
43	西土塁	西上成土塁前面部	2007	災害復旧	大野城市教育委員会
44	西土塁	西内濠部	2007		九州歴史資料館
45	西土塁	西内濠部	2008		九州歴史資料館
46	西土塁	西上成土塁前面部	2008	緊急修理	大野城市教育委員会
47	西土塁	西土塁前面部	2009	緊急修理	大野城市教育委員会
48	西土塁	西土塁南側	2009	市道建設	太宰府市教育委員会
49	東門	東門西側下成土塁	2009	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
50	欠堤部	欠堤部	2010	災害復旧	太宰府市教育委員会
51	欠堤部	欠堤部	2010	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
52	西土塁	西土塁前面部	2010	緊急修理	大野城市・太宰府市教育委員会
53	欠堤部西側	欠堤部西側土塁	2011	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
54	西土塁	西土塁後面部	2011	緊急修理	大野城市・太宰府市教育委員会
55	欠堤部	欠堤部	2012	記録保存	大野城市教育委員会
56	東門	東門東側丘陵裾部	2012	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
57	西土塁	西土塁前面部	2012	緊急修理	大野城市教育委員会
58	JR欠堤部	JR欠堤部	2013・2014	環境整備	九州歴史資料館 （整備主体は県文化財保護課）
59	東門	東門	2014	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
60	東門	東門太宰府側官道部	2015	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
61	西門	西門	2015～2017	整備に伴う確認調査	大野城市教育委員会
62	東門	東門西側土塁	2016	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
63	西門	西門西側土塁	2018	整備に伴う確認調査	太宰府市教育委員会
64	欠堤部	欠堤部	2018・2019	整備に伴う確認調査	大野城市教育委員会
65	東門	東門西側土塁	2018・2019	災害復旧	太宰府市教育委員会
No.1	東門	東門	1968	開発に伴う工事立会	県社会教育課
No.2	東土塁	水城瓦窯	1991	開発に伴う工事立会	九州歴史資料館
No.3	東土塁	水城瓦窯	1993	開発に伴う工事立会	九州歴史資料館
No.4	西土塁	西土塁太宰府側テラス	1997	開発に伴う工事立会	九州歴史資料館
No.5	東土塁	東土塁博多側外濠部	2000	開発に伴う工事立会	九州歴史資料館
No.6	JR欠堤部	ＪＲ欠堤部土塁		開発に伴う工事立会	九州歴史資料館

第 22 表　水城跡発掘調査一覧

次数	調査地区	調査年度	調査要因	調査主体
	講堂	1960	緊急(その他民間)	九州大学
1	国分西地区	1971	緊急(住宅建設)	県文化課
2	金堂	1974	緊急(その他民間)	県文化課
3	推定回廊	1976	環境整備	九州歴史資料館
4	塔跡	1976	環境整備	九州歴史資料館
5	参道東側溝	1977	緊急	九州歴史資料館
6	講堂・東面回廊	1977	環境整備	九州歴史資料館
7	東外郭線	1977	緊急	九州歴史資料館
8	推定僧坊	1979	環境整備	九州歴史資料館
9	南外郭線外側	1983	緊急(集合住宅)	太宰府市教育委員会
10	南門南側	1985	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
11	西外郭線	1990	緊急(道路)	太宰府市教育委員会
12	東面回廊	1991	環境整備	九州歴史資料館
13	南面築地	1990	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
14	東外郭線	1991	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
15	寺域東限	1992	緊急(宅地造成)	太宰府市教育委員会
16		1992	環境整備	九州歴史資料館
17	西寺域外	1992	緊急(集合住宅)	太宰府市教育委員会
18	推定僧坊	1992	環境整備	九州歴史資料館
19	東外郭線	1994	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
20	西外郭線	1994	緊急(集合住宅)	太宰府市教育委員会
21-1	南西部外郭線	1996	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
21-2	南西部外郭線	1996	緊急(その他民間)	太宰府市教育委員会
22	東外郭線	1996	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
23	東外郭線	1997	緊急(住宅改築)	太宰府市教育委員会
24	東外郭線	1999	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
25	金堂	1999	緊急(その他民間)	九州歴史資料館
26	西外郭線	2001	緊急(その他民間)	太宰府市教育委員会
27	南面築地	2001	緊急(集合住宅)	太宰府市教育委員会
28	東外郭線	2011	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会
29	東外郭線	2018	緊急(住宅建設)	太宰府市教育委員会

第 23 表　筑前国分寺跡発掘調査一覧

次数	調査地区	調査年度	調査要因	調査主体	
				事業主体	調査担当
1	太宰府口西方土塁地区	1971	林道拡幅・付け替え	県文化課	
2	屯水土塁地区	1971	林道新設	県文化課	
3	太宰府口北方土塁地区	1971	林道拡幅・付け替え	県文化課	
4	尾花礎石群地区	1971	林道拡幅・付け替え	県文化課	
5	増長天礎石群地区	1973	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
6	百間石垣地区	1974	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
7	大石垣地区	1975	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
8	八ツ並礎石群地区	1975	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
9	八ツ並礎石群地区	1976	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
10	猫坂礎石群地区	1976	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
11	主城原礎石群地区	1977	大宰府歴史公園整備前期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
12	主城原礎石群地区	1978	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
13	主城原礎石群地区	1979	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
14	北石垣地区	1979	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
15	主城原礎石群地区	1980	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
16	村上礎石群地区	1981	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
17	村上礎石群地区	1982	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
18	坂本口北方土塁地区	1982	大宰府歴史公園整備後期五ヵ年計画	県文化課	九州歴史資料館
19	毘沙門天礎石群地区	1983	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
20	毘沙門天礎石群地区	1984	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
21	太宰府口城門地区	1985	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
22	太宰府口城門地区	1986	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
23	太宰府口城門地区	1987	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
24	太宰府口城門地区	1988	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
25	尾花土塁地区	1990	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
26	小石垣地区	1990	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
27	太宰府口城門地区	1992	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
28	太宰府口北方土塁地区・ 太宰府口東方土塁地区・尾花土塁地区	1994	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
29	水ノ手石垣地区	1995	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
30	太宰府口城門地区・太宰府口東方土塁地区	1996	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
31	太宰府口城門地区	1997	環境整備	県文化課	九州歴史資料館
32	水ノ手石垣地区	1998	環境整備	県文化財保護課	九州歴史資料館
33	尾花土塁地区	1999	H11災害復旧	県文化財保護課	九州歴史資料館
34	百間石垣地区	2001	環境整備	県文化財保護課	九州歴史資料館
35	百間石垣地区	2002	環境整備	県文化財保護課	九州歴史資料館
36	百間石垣地区	2003	環境整備	県文化財保護課	九州歴史資料館
37	百間石垣地区	2004	環境整備	県文化財保護課	九州歴史資料館
38	鮎返り地区（窯跡）	2004	H15災害復旧	県文化財保護課	
39	百間石垣地区	2004	H15災害復旧	県文化財保護課	
40	尾花土塁地区・太宰府口東方土塁地区・太宰府口城門地区	2004	H15災害復旧	県文化財保護課	
41	原土塁地区	2004	H15災害復旧	太宰府市教育委員会	太宰府市教育委員会
42	大石垣上方内周土塁地区	2005・2006	H15災害復旧	県文化財保護課	
43	大石垣地区	2005	H15災害復旧	県文化財保護課 太宰府市教育委員会	
44	猫坂礎石群地区	2005	H15災害復旧	県文化財保護課	
45	屯水土塁地区	2005	H15災害復旧	県文化財保護課	
46	北石垣地区	2006・2007	H15災害復旧	県文化財保護課	
47	主城原礎石群地区	2006	H15災害復旧	県文化財保護課	
48	観世音寺口城門地区	2006	H15災害復旧	太宰府市教育委員会	太宰府市教育委員会
49	小石垣地区	2007	H15災害復旧	県文化財保護課	
50	小石垣地区	2008	H15災害復旧	県文化財保護課	
51	増長天礎石群地区	2008・2009	環境整備	県文化財保護課	
52	増長天礎石群地区	2010	環境整備	県文化財保護課	
53	増長天礎石群地区	2011	環境整備	県文化財保護課	
5-2	増長天礎石群地区	2011	環境整備	県文化財保護課	
54	クロガネ岩城門地区	2012	確認調査	九州歴史資料館	九州歴史資料館
54-2	クロガネ岩城門地区	2013	確認調査	九州歴史資料館	九州歴史資料館
5-3	増長天礎石群地区	2013・2014	環境整備	県文化財保護課	九州歴史資料館
55	原地区	2016	確認調査	九州歴史資料館	九州歴史資料館
56	水城本堤東側丘陵部	2019	確認調査	九州歴史資料館	九州歴史資料館

第 24 表　大野城跡発掘調査一覧

（2）埋蔵文化財関係主要事業の推移

年		九州縦貫道	今宿BP	福岡南BP	山陽新幹線	福間BP	福岡東BP	二丈浜玉道路	若宮宮田工業	冷水BP	浮羽BP	九州横断道	岡垣BP	二〇〇号BP	牛頸ダム	八木山BP	筑紫野BP	修猷館高校	椎田BP	椎田道路	豊前BP	行橋BP	有明沿岸道路	山国川改修	広川IC	筑紫野IC	覗山無線	飯塚田川BP	仲哀改良	九州新幹線	東九州道	五ヶ山ダム	伊良原ダム	二〇一号BP
1969	S44	◎	◎	◎																														
1970	S45	◎	◎	○																														
1971	S46	◎	○	○	○	○																												
1972	S47	○	◎	○	○	◎	(○)																											
1973	S48	◎	○	○	○	(○)	(○)																											
1974	S49	◎		◎	○	▲	▲																											
1975	S50	◎	▲	◎	◎			○																										
1976	S51	◎	▲	▲	◎				○	○																								
1977	S52	▲		◎	◎				○																									
1978	S53	▲	○	○	◎			○	◎																									
1979	S54		○	◎				▲	◎		○	○																						
1980	S55		○								○	○	○																					
1981	S56		▲					▲		◎	○	◎	▲	○																				
1982	S57		◎								◎	◎		○	○	○																		
1983	S58		◎								▲	◎		◎	○	▲																		
1984	S59		▲								◎	○			○		○	◎																
1985	S60					○					○	◎			○		▲																	
1986	S61										○	◎	○		○				○															
1987	S62										◎	◎			▲				○	○	○	○												
1988	S63					○						○			▲				◎	○	○													
1989	H1		○			▲					○	◎	▲						◎	○	○													
1990	H2		▲								○	◎					○		▲	○	○	◎												
1991	H3											▲					○		▲		○	▲	□											
1992	H4										▲	▲					○			▲	○			○	○									
1993	H5										◎	▲					○			▲	○		▲	○	○									
1994	H6										○	▲					◎			▲	◎			○										
1995	H7										○	▲								▲	▲			○		○	○						□	
1996	H8											▲					▲			▲	▲			◎	○	○	○	○					□	
1997	H9										▲	▲					◎				▲			▲	▲	▲	▲						□	
1998	H10											▲					▲	○						▲		▲		◎	○				▲	
1999	H11																	▲						▲					○					
2000	H12																	◎						▲					○					
2001	H13																	◎										○		○	○			
2002	H14																	◎					○					▲	◎	○	○	□		
2003	H15																	○					○							○	▲	□		
2004	H16																	▲					◎						○	◎		○		
2005	H17										▲							▲					○							◎		□		
2006	H18																	○					◎						▲	◎		○	○	
2007	H19										▲							◎					◎							◎	○	◎	○	
2008	H20																	▲					▲							▲	○	○	◎	○
2009	H21																						▲							▲	○	○	○	○
2010	H22																						▲								○	○	◎	○
2011	H23																						▲								◎	○	◎	○
2012	H24																														◎	◎	○	◎
2013	H25																														◎	◎	○	○
2014	H26																														▲		○	▲
2015	H27																														○		○	
2016	H28																															▲	◎	
2017	H29																																▲	
2018	H30										○																							
2019	R1																																	
2020	R2																																	

○　現場のみ
◎　現場と報告書
▲　報告書のみ
□　民俗・文献等調査

第 25 表　埋蔵文化財関係主要事業の推移

（3）文化財担当職員研修会

年度	会議名称	内 容	講 師	会 場	開催日
昭和44年	文化財指導者研修会	1日目(12月10日) 講義:『埋蔵文化財について』 『文化財行政における当面の課題』 ・事例発表:北九州市(民俗芸能の記録)、春日町(民俗資料館)、久留米市(史跡環境整備計画)、苅田町(文化財普及活動)) ・参加者全員で研究協議 2日目(12月11日)	岡崎　敬(九州大学助教授) 県教育庁文化課職員 関係市町村文化財担当職員	福岡県文化会館講堂	12月10・11日
昭和45年	市町村文化財保護行政事務担当者会議	・45年度文化財保護行政の問題点 ・45年度文化財保護行政事業計画 ・協議　文化財保護行政のあり方をめぐって ・芸術文化行政事業の連絡事項		福岡県文化会館講堂	6月10日
	文化財保護行政担当者研修会	・八並遺跡発掘調査現地見学 ・事例発表(4市町村) ・研究協議「開発と文化財保護」		夜須町公民館	11月17日
昭和46年	文化財保護行政事務研修			第一勧業銀行	3月10日
昭和47年	文化財行政担当課長会議			県住宅供給公社第1会議室	11月10日
昭和48年	文化財保護行政事務担当者会議			福岡市民会館国際会議室	6月5日
昭和49年	文化財保護行政事務担当者会議			福岡県文化会館講堂	7月10日
昭和50年	筑前地区市町村文化行政担当者会議	講演	筑紫　豊	筑紫野市中央公民館	7月30日
	筑後地区市町村文化行政担当者会議	講演	川添昭二	久留米市市民会館	8月6日
	筑豊地区市町村文化行政担当者会議	講演	田村圓澄	直方市役所	8月8日
	北九州・京築地区市町村文化行政担当者会議	講演	波多野晥三	三原文化会館	7月29日
	市町村教育委員会文化財行政主管課長会議			町村会館講堂	9月26日
昭和51年	市町村文化行政担当者会議			福岡県母子福祉センター	11月30日
	西日本地区文化財指導者講習会		鏡山　猛 文化庁職員	福岡県立勤労青少年文化センター	10月13～15日
昭和52年	市町村文化行政主管課長会議			福岡県町村会館	6月24日
	市町村文化行政担当者会議			太宰府町立働く婦人の家	7月13日
昭和53年	市町村文化行政主管課長及び担当者会議			福岡県町村会館	8月1日
昭和54年	市町村文化行政担当者会議			福岡県町村会館	6月11日
昭和55年	市町村文化行政担当者会議			福岡県町村会館	6月13日
昭和56年	市町村文化行政担当者会議			那の津荘	6月17日
	文化財担当者会議			久留米市立図書館	10月16日
昭和57年	市町村文化行政担当者会議			県庁2号会議室	6月18日
昭和58年	市町村文化行政担当者会議			県立図書館講堂	5月13日
昭和59年	市町村文化行政担当者会議			県立社会教育総合センター	5月24日
平成11年	文化財担当職員研修会	講義:「地域文化財・歴史的遺産活用による地域おこし事業について」 講義:「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」 事例報告:「前原市内文化財整備基本計画について」	古保里学(福岡県地域政策課) 橋口達也(県教育庁文化財保護課) 林　覚(前原市教育委員会)	吉塚合同庁舎	10月22日
平成12年	文化財担当職員研修会	講話:「保存科学の現状と課題について」 事例報告:「広域圏における古墳同時公開の成果と課題」 最新発掘調査報告:「立石遺跡」 最新発掘調査報告:「鴻臚館」	横田義章(九州歴史資料館) 長谷川清之(桂川町教育委員会) 境　靖紀(春日市教育委員会) 池崎譲二(福岡市教育委員会)	福岡リーセントホテル	9月22日
平成13年	文化財担当職員研修会	講義:「中世博多と元寇防塁」 報告:「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」 事例報告:「平塚川添遺跡公園の活用計画について」 最新発掘調査報告:「元岡・桑原遺跡群」 最新発掘調査報告:「馬渡・東ヶ浦遺跡群」	柳田純孝(福岡市教育委員会) 佐々木隆彦(県教育庁文化財保護課) 川端正夫(甘木市教育委員会) 吉留秀敏(福岡市教育委員会) 井　英明(古賀市教育委員会)	県庁講堂	9月14日

第 26 表　文化財担当職員研修会　①

年度	会議名称	内　容	講　師	会　場	開催日
平成14年	文化財担当職員研修会	講話:「鏡から見た北部九州の弥生文化」 報告:「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」 （文化財補助事業の遂行について） （会計検査院の実施検査について） （重要大規模遺跡対策班の活動について） （発掘調査の積算基準について） 事例報告:「史跡公園と五郎山古墳の活用と課題」 最新発掘調査報告:「唐原古代山城」	柳田康雄(九州歴史資料館) 池辺元明(県教育庁文化財保護課) 伊崎俊秋(県教育庁文化財保護課) 飛野博文(県教育庁文化財保護課) 草場啓一(筑紫野市教育委員会) 末永浩一(大平村教育委員会)	吉塚合同庁舎	9月17日
平成15年	文化財担当職員研修会	報告:「平成16年度文化財関係予算等について」 報告:「国の新指定文化財について」 説明:「平成15年度会計検査の指摘事項について」 説明:「九州国立博物館の建設状況について」 事例報告:「福岡県指定有形文化財(建造物)戸島氏邸の保存整備事業について」 最新発掘調査報告:「正福寺遺跡の調査」 最新発掘調査報告:「観世音寺金堂跡の調査」	池辺元明(県教育庁文化財保護課) 伊崎俊秋(県教育庁文化財保護課) 小池史哲(県教育庁文化財保護課) 松川博一(県総務部国立博物館対策室) 堤　伴治(柳川市教育委員会) 熊代昌之(久留米市教育委員会) 小田和利(九州歴史資料館)	吉塚合同庁舎	3月24日
平成16年	文化財担当職員研修会	研修:「文化財補助事業の留意事項」 研修:「文化財調査報告書作成業務」 説明:「文化財保護法改正に伴う事務について」 説明:「ふるさとの歴史再発見事業について」	野中　顯(県教育庁文化財保護課) 小池史哲(県教育庁文化財保護課) 久野隆志(県教育庁文化財保護課) 國生知子(県教育庁文化財保護課)	吉塚合同庁舎	8月17日
平成17年	文化財担当職員研修会	講演:「地名から考える歴史・福岡県の場合」 報告:「特別史跡大野城跡の被災と災害復旧」 報告:「福岡西方沖地震による指定文化財の被害について」 説明:「文化財保護行政にかかる留意事項について」	服部英雄(九州大学大学院比較社会文化研究院教授) 入佐友一郎(福岡県教育庁文化財保護課) 國生知子(福岡県教育庁文化財保護課) 小池史哲(県教育庁文化財保護課) 伊崎俊秋(県教育庁文化財保護課)	吉塚合同庁舎	12月2日
	文化財保護指導委員会議	講演:「地名から考える歴史・福岡県の場合」	服部英雄(九州大学大学院比較社会文化研究院教授)	吉塚合同庁舎	12月2日
平成18年	文化財担当職員研修会	説明:「文化財保護行政に係る留意事項について」 事例報告1:「埋蔵文化財事前審査の拡充と改善―福岡市の文化財行政40年―」 事例報告2:「埋蔵文化財発掘調査への民間調査組織の活用～太宰府市～」 調査報告:「小倉城跡外堀の調査について」	伊崎俊秋(県教育庁文化財保護課) 小田和利(県教育庁文化財保護課) 吉村靖徳(県教育庁文化財保護課) 齋部麻矢(県教育庁文化財保護課) 小澤佳憲(県教育庁文化財保護課) 吉留秀敏(福岡市教育委員会) 中島恒次郎(太宰府市教育委員会) 前田義人(北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室)	吉塚合同庁舎	9月22日
	文化財保護指導委員会議	講演:「文化財の保存と活用について」	磯村幸男(県教育庁文化財保護課)	吉塚合同庁舎	6月2日
平成19年	文化財担当職員研修会	講演:「景観法と景観計画」 報告:「柳川市の文化的景観」 説明:「文化財保護行政の動向について」	江頭美紀(県建築都市部都市計画課) 堤　伴治(柳川市教育委員会) 小田和利(県教育庁文化財保護課) 伊崎俊秋(県教育庁文化財保護課)	吉塚合同庁舎	10月10日
	文化財保護指導委員会議	報告:「世界遺産登録に向けた活動について」 講演:「近代化遺産保存活用の取組―大牟田市を事例としてー」	伊崎俊秋(県教育庁文化財保護課) 坂井義哉(大牟田市教育委員会)	吉塚合同庁舎	6月8日
平成20年	文化財担当職員研修会	説明:「文化財保護行政に係る留意事項について」 事例報告1:「民間大規模開発の対応」 事例報告2:「民間大規模開発の対応(大保横枕遺跡)」 方針説明:「法92条の取扱いについて」 調査報告:「宗像市田熊石畑遺跡について」	小田和利(県教育庁文化財保護課) 田上　稔(県教育庁文化財保護課) 齋部麻矢(県教育庁文化財保護課) 小澤佳憲(県教育庁文化財保護課) 吉田高穂(筑紫野市教育委員会) 片岡宏二(小郡市教育委員会) 小池史哲(県教育庁文化財保護課) 白木英敏(宗像市市民活動推進課)	吉塚合同庁舎	10月29日
	文化財保護指導委員会議	報告:「平成19年度県指定文化財の指定等について」 講演:「地域から取り組む文化財ー黒木町を事例としてー」	県教育庁文化財保護課 大島真一郎(黒木町教育委員会)	吉塚合同庁舎	6月6日
平成21年	文化財担当職員研修会	報告:「天然記念物(樹木)保護の現状」 講演:「天然記念物(樹木)の再生」 報告:「国指定天然記念物隠家森の再生事業」 説明:「文化財保護行政の動向について」	今井涼子(県教育庁文化財保護課) 矢幡　久(県文化財保護審議会専門部会委員) 松尾　宏(朝倉市教育委員会) 県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	10月7日
	文化財保護指導委員会議	報告:「世界遺産登録に向けての筑豊の鉄道網」 報告:「平成21年度県指定文化財の指定報告等について」 講演:「鞍手町の文化財保護の現状と課題」	桃坂　豊(県文化財保護指導委員) 県教育庁文化財保護課 古後憲浩(鞍手町教育委員会)	吉塚合同庁舎	6月10日
平成22年	文化財担当職員研修会	報告1:「GISを用いた遺跡情報の管理と活用」 報告2:「文化財写真の保存と活用」 報告3:「首羅山遺跡の現状と今後」 事業報告:「日韓古代山城の比較研究―日韓学術文化交流事業報告―」	本田岳秋(久留米市文化財保護課) 上田龍児(大野城市教育委員会) 江上智恵(久山町教育委員会) 小澤佳憲(県教育庁文化財保護課) 県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	10月22日
	文化財保護指導委員会議	報告:「平成21年度県指定文化財の指定報告等について」 講演:「新宮町の文化財保護の現状と課題」	県教育庁文化財保護課 西田大輔(新宮町教育委員会)	吉塚合同庁舎	6月4日

第 26 表　文化財担当職員研修会　②

年度	会議名称	内 容	講 師	会 場	開催日
平成23年	文化財担当職員研修会	説明1:「発掘調査のてびきについて」 説明2:「埋蔵文化財行政の事務手続き」 説明3:「文化財の保存管理計画について」 説明4:「史跡の保存管理計画」 説明5:「文化的景観・名勝の保存管理計画」 説明6:「九州歴史資料館の活動報告」	近江俊秀(文化庁記念物課) 吉村靖徳(県教育庁文化財保護課) 重藤輝行(佐賀大学准教授) 今井涼子(県教育庁文化財保護課) 田上　稔(県教育庁文化財保護課) 松川博一(九州歴史資料館)	吉塚合同庁舎	9月30日
	文化財保護指導委員会議	報告:「平成22年度県指定文化財の指定報告等について」 講演:「九州歴史資料館開館について」	県教育庁文化財保護課 松川博一(九州歴史資料館)	吉塚合同庁舎	6月3日
平成24年	文化財担当職員研修会	事例報告1:「福原長者原遺跡の調査成果」 事例報告2:「歴史まりづくり法の取り組み」 事例報告3:「女男石護岸施設の役割」 説明:「文化財保護行政の動向について」	岡田　論(九州歴史資料館) 城戸康利(太宰府市教育委員会) 川端正夫(朝倉市教育委員会) 県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	11月7日
	文化財保護指導委員会議	「平成23年度県指定文化財の指定報告等について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月8日
平成25年	文化財担当職員研修会	報告1:「近代の庭園・公園の特徴とその文化財的価値」 報告2:「国指定名勝伊藤傳右エ門氏庭園の保存修理」 説明:「福岡県名勝調査事業について」	正田実知彦(県教育庁文化財保護課) 毛利哲久(飯塚市歴史資料館) 正田実知彦(県教育庁文化財保護課)	吉塚合同庁舎	11月1日
	文化財保護指導委員会議	「平成24年度県指定文化財の指定報告等について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月7日
平成26年	文化財担当職員研修会	説明1:「文化財の防災とレスキュー事業」 説明2:「福岡県の文化財防災計画の策定について」 説明3:「九州歴史資料館の危機対応」	西谷大・三上喜孝(国立歴史民俗博物館) 田上　稔(県教育庁文化財保護課) 加藤和歳(九州歴史資料館)	吉塚合同庁舎	10月28日
	文化財保護指導委員会議	「平成25年度県指定文化財の指定報告等について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月6日
平成27年	文化財担当職員研修会	説明1:「文化財保護行政における近年の動向」 説明2:「世界遺産の取組みについて」 説明3:「文化財建造物の登録について」 説明4:「名勝調査事業の取組みと文化財庭園フォーラムについて」 説明5:「福岡県における文化財の防災・防犯対策について」 説明6:「福岡県文化財保護課企画係からの連絡」	杉原敏之(県教育庁文化財保護課) 福岡県企画・地域振興部世界遺産登録推進室 田上　稔(県教育庁文化財保護課) 正田実知彦(県教育庁文化財保護課) 県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	10月22日
	文化財保護指導委員会議	「平成26年度県指定文化財の指定報告等について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月5日
平成28年	文化財担当職員研修会	説明1:「水中遺跡保護の取組み」 説明2:「二つの震災と文化財保護支援」 説明3:「歴史資料の取扱いについて」 説明4:「新規研修制度の実施について」 説明5:「史跡の管理・整備について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	11月2日
	文化財保護指導委員会議	「平成27年度県指定文化財の指定報告等について」 「指定文化財を中心とした巡視について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月3日
平成29年	文化財担当職員研修会	説明1:「文化財保護行政の動向」 説明2:「無形文化財・民俗文化財の管理」 説明3:「天然記念物の現状と課題」 説明4:「平成 29 年 7 月九州北部豪雨による文化財被害について」 説明5:「係からの連絡事項」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	11月2日
	文化財保護指導委員会議	「平成27年度県指定文化財の指定報告等について」 「指定文化財を中心とした巡視について」 「巡視における視点について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月2日
平成30年	文化財担当職員研修会	説明1:「文化財保護法の改正について」 説明2:「平成 30 年 7 月豪雨による文化財被害について」 説明3:「平成 28 年熊本地震の復興に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する職員派遣について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	10月26日
	文化財保護指導委員会議	「平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業説明」 「県指定文化財の新指定等について」 「指定文化財を中心とした巡視について」 「平成 29 年九州北部豪雨災害に係る文化財への対応について」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	6月1日
令和元年	文化財担当職員研修会	「文化財保護法の改正に伴う大綱・地域計画、保存活用計画等について」 「発掘調査現場の安全対策について」 「平成 29 年九州北部豪雨災害からの復興に係る発掘調査等の状況について」 「国宝・重要文化財の防火対策について」 「県からの連絡事項」	県教育庁文化財保護課	吉塚合同庁舎	10月25日
	文化財保護指導委員会議	「平成 30年度事業報告及び令和元年度事業説明」 「国・県指定文化財の新指定等について」 「文化財の分類及び視点について」 「文化財保護法の改正について」 「文化財保護に関する意見交換」	県教育庁文化財保護課	福岡教育事務所	5月31日
令和2年	文化財担当職員研修会	「文化財保存活用大綱・地域計画、保存活用計画等について」 「福岡県戦争遺跡調査の成果について」 「県からの連絡事項」	県教育庁文化財保護課	県庁講堂	10月21日
	文化財保護指導委員会議	報告1:「国・県指定文化財の新指定等について」 報告2:「福岡県文化財保存活用大綱の策定状況について」 議題1:「文化財の巡視について」 議題2:「各地域における文化財の課題に関する意見交換」	県教育庁文化財保護課	県庁講堂	11月20日

第 26 表　文化財担当職員研修会　③

（4）文化財指導者講習会

年度	地区	テーマ・内容	分野等	講　師	会　場	開催日
昭和44年	北九州	講演(劉寒吉)、説明、研究協議		劉　寒吉(作家)	北九州市小倉区	1月27日
	北筑後	現地研修(善道寺、岩戸山古墳、水田天満宮、山椒窯、御塚古墳、権現塚古墳			久留米市、筑後市、八女市	2月25日
	南筑後	現地研修(清水本坊庭園、清水寺三重塔、女山神籠石、風浪神社、戸島氏庭園			大牟田市	3月21日
	京都	講演(友石孝之)、説明、研究協議		友石孝之(美夜古文化懇話会会長、医師)	苅田町中央公民館	2月6日
昭和45年		・研究協議 ・文化財視察ならびに発掘現場見学			太宰府天満宮文書館	3月17日
昭和46年	北筑後				八女市中央公民館	12月14日
	浮羽				教育庁浮羽出張所	11月30日
昭和47年	築上				豊前市民会館	10月16日
	遠賀・宗像・粕屋				宗像大社	1月17日
	筑豊				立岩収蔵庫、飯塚市中央公民館	3月22日
	全体				天神ビル	11月21日
昭和48年	糸島・福岡				前原市中央公民館	11月28日
	京都・築上				苅田町三原文化会館	12月4日
	筑後				筑後市中央公民館	12月18日
	筑豊				田川市立図書館	2月15日
昭和50年	筑前	講演		平田　寛	筑紫野市中央公民館	3月17日
	筑後	講演		岸田　勉	小郡市体育館	3月18日
	筑豊	講演		筑紫　豊	飯塚市文化センター	3月24日
	北九州・京築	講演		重松敏美	北九州市立視聴覚センター	3月26日
昭和51年	前期	講演		劉　寒吉(作家) 太田正道 小田富士雄	北九州市立視聴覚センター	10月26日
	後期	講演		都留大治郎 沢村　仁 川添昭二	福岡県母子福祉センター	10月28日
昭和52年	前期	講演		児島隆人 佐々木哲哉	飯塚市文化センター	8月31日
	後期	講演		平田　寛 内田恵太郎	柳川市役所	9月6日
昭和53年	前期	講演		田村圓澄 鳥山隆三	中間市中央公民館	8月25日
	後期	講演		秀村選三 唐木田芳文	春日市中央公民館	8月30日
昭和54年	前期	講演		中村正夫 丸山雍成	筑紫野市中央公民館	8月27日
	後期	講演		16mm映画「西都大宰府」「士のうた」 8mm映画「今津人形芝居」「新開能」 オートスライド「筑豊炭田の歴史」	北九州市立中央図書館	8月28日
昭和55年	福岡	『地域文化のあり方について』	文化	梅木利巳 中村正夫	宗像町役場	8月10日
	福岡	『天然記念物の保存について』	天然記念物	須崎民雄	那珂川町中央公民館	9月27日
	北九州	『福岡の方言について』	民俗	奥村三雄	芦屋町文化福祉センター	8月20日
	北筑後	『装飾古墳の保存について』 見学:珍敷塚古墳、日岡古墳	考古	森貞次郎	吉井町中央公民館	8月2日
	筑豊	『神籠石の性格と保存について』 見学:鹿毛馬神籠石	考古	森貞次郎	頴田町公民館	8月23日
	南筑後	『民俗芸能の伝承について』 見学:新開能　16mm映画「大江の幸若舞」上映	民俗	佐々木哲哉	高田町公民館	10月17日
昭和56年	全域	講演『弥生人』 スライド『三雲及び周辺の遺跡』 見学:伊都国歴史資料館	考古	永井昌文	前原町役場	3月19日
昭和57年	福岡	『社寺建築の見方について』 見学:太宰府天満宮	建築	沢村　仁	太宰府天満宮余香殿	8月24日
	北九州	『装飾古墳の保存について』 見学:竹原古墳	考古	森　貞次郎	若宮町中央公民館	7月30日
	北筑後	『文化財保護活動について』 見学:小郡官衙遺跡	保護	須崎民雄 美山　進	小郡市体育館	8月3日
	北筑後	『神籠石の性格と保存について』 見学:杷木神籠石	考古	小田富士雄	杷木町老人福祉センター	8月19日
	南筑後	『天然記念物の保存について』 見学　:霊巌寺	天然記念物	唐木田　芳文	黒木町開発センター	8月6日
	筑豊	『民俗芸能の保存について』 見学:大分の獅子舞	民俗	佐々木哲哉	筑穂町大分公民館	10月1日
昭和58年	福岡	『国宝 観世音寺の梵鐘及び京都妙心寺の梵鐘とその時代』 見学:九州歴史資料館	工芸	松岡　史(九州歴史資料館)	九州歴史資料館	3月15日
	北九州	『民俗資料の収集について』	民俗	佐々木哲哉	鞍手町中央公民館	11月24日
	北筑後	『建築学からみた古代家屋の復元』	建築	山本輝雄	久留米市中央公民館	10月17日
	南筑後	『八女地区の古墳群について』 見学:立山山古墳群、田代風流	考古	木附光雄	八女市東公民館	12月8日
	筑豊	『古文書の調査』 見学:飯塚市歴史資料館	歴史	三池賢一	飯塚市歴史資料館	11月25日
	京築	『明治初年の豊津』 見学:町並、豊前国分寺	歴史	古賀武夫	豊津町中央公民館	8月27日
昭和59年	福岡	『遺物から見た古代北九州人と畿内人の気質の違い』	考古	下條信行(西南学院大学助教授)	九州歴史資料館	10月26日
	北九州	『筑前廻船史について』	歴史	高田茂広(福岡市歴史資料館) 鈴木長敏(芦屋町立歴史民俗資料館)	芦屋町中央公民館	10月23日
	北筑後	『神籠石とその周辺』	考古	西谷　正(九州大学助教授)	県甘木総合庁舎	9月25日
	南筑後	『福岡県の民謡について　－民謡調査の意義について－』	民俗	友野晃一郎(久留米市立目吉小学校校長)	瀬高町中央公民館	10月19日
	筑豊	『仏教関係遺品の調査』	美術	八尋和泉(九州歴史資料館)	田川市青少年文化ホール	8月29日
	京築	『豊前宇都宮氏について』	歴史	松下辰章(築上郡文化財協議会会長)	豊前市中央公民館	8月25日
昭和60年	福岡	『弥生時代人－金隈遺跡出土人骨を中心として－人類学的研究の現段階』	人類学	中橋孝博(九州大学医学部助手)	九州歴史資料館	8月23日
	北九州	『福岡県の工芸史』	工芸	鈴木健二(九州芸術工科大学教授)	直方市中央公民館	8月20日
	北筑後	『浮羽の古代史』	考古	金子文夫(吉井町文化財専門委員会会長)	吉井町中央公民館	8月27日
	南筑後	『古文書概説－柳川古文書館開館に向けて－』	歴史	三池賢一(福岡県立図書館郷土課長)	柳川古文書館	8月30日
	筑豊	『文化財の保存方法について』	保存科学	横田義章(九州歴史資料館)	桂川町公民館	8月22日
	京築	『豊前国分寺をめぐる諸問題』	考古	定村責二	豊津町中央公民館	10月8日
昭和61年	福岡	『弥生時代の日朝関係』	考古	後藤　直(福岡市埋蔵文化財センター所長)	福岡市埋蔵文化財センター	8月26日
	北九州	『遠賀川流域考古学』	考古	小田富士雄(北九州市立考古博物館館長)	中間市中央公民館	8月29日
	北筑後	『筑紫君磐井の祖先たち』	考古	片岡宏二(小郡市教育委員会)	小郡市体育館	8月30日
	南筑後	『筑紫君磐井と八女古墳群』	考古	佐田　茂(東海大学助教授)	南筑後教育事務所	8月1日
	筑豊	『天台寺跡をめぐる諸問題』	考古	小田富士雄(北九州市立考古博物館館長)	田川市石炭資料館	11月14日
	京築	『八幡古表神社の神相撲と傀儡子』	民俗	重松敏美(求菩提資料館館長)	吉富町老人福祉センター	8月6日
昭和62年	福岡	『弥生時代の青銅器』	考古	高倉洋彰(九州歴史資料館)	福岡市埋蔵文化財センター	8月20日
	北九州	『遠賀川流域における庶民生活の民俗学』	民俗	中村正夫(熊本大学教授)	若宮町中央公民館	8月28日
	北筑後	『甘木・朝倉の木蠟からの考察』	民俗	豊原　徳(甘木歴史資料館館長)	甘木歴史資料館	8月1日
	南筑後	『いまなぜ磐井の乱か』	歴史	田村圓澄(九州歴史資料館館長)	南筑後教育事務所	8月24日
	筑豊	『筑豊教育事務所管内昭和61年度発掘調査報告会』	考古	管内関係市町村文化財担当職員	飯塚市歴史資料館	7月25日
	京築	『前方後円墳について』	考古	横山浩一(九州大学教授)	苅田町中央公民館	11月18日
昭和63年	福岡	『日本出土の漢代古銭を中心にして』	考古	塩屋勝利(福岡市歴史資料館)	福岡市埋蔵文化財センター	8月29日
	北九州	『古代人のマイホーム－原始時代の家屋復元―』	建築	山本輝雄(九州大学工学部助手)	芦屋町中央公民館	8月24日
	北筑後	『古代人の生活と文化』	考古	川述昭人(甘木歴史資料館副館長)	浮羽町中央公民館	7月30日
	南筑後	『南筑後における文化財の諸問題』	考古	川述昭人(甘木歴史資料館副館長)	南筑後教育事務所	7月24日
	筑豊	『筑豊教育事務所管内昭和62年度発掘調査報告会』	考古	管内関係市町村文化財担当職員	飯塚市歴史資料館	7月23日
	京築	『古代の豊前』	考古	渡邉正気(県文化財保護審議会専門委員)	福岡県豊前総合庁舎	8月5日

第 27 表　文化財指導者講習会　①

年度	地区	テーマ・内容	分野等	講　師	会　場	開催日
平成元年	福岡	『近年の発掘成果報告会』	考古	管内関係市町村文化財担当職員	福岡市埋蔵文化財センター	8月28日
	北九州	『北部九州の仏教美術』	美術	錦織亮介(北九州大学教授)	鞍手町中央公民館	9月28日
	北筑後	『吉野ヶ里遺跡と邪馬台国』	考古	渡邉正気(県文化財保護審議会専門委員)	久留米市中央公民館	8月22日
	南筑後	『邪馬台国時代の吉野ヶ里』	考古	七田忠昭(佐賀県教育委員会)	南筑後教育事務所	8月25日
	筑豊	『筑豊教育事務所管内昭和63年度発掘調査報告会』	考古	管内関係市町村文化財担当職員	飯塚市歴史資料館	7月22日
	京築	『豊前国における古代仏教文化』	考古	村上久和(大分県教育委員会)	京築教育事務所	7月31日
平成2年	福岡	『中国の遺跡をめぐって』	考古	高倉洋彰(西南学院大学教授)	福岡市埋蔵文化財センター	8月27日
	北九州	『北部九州の古代文化』	考古	奥野正男(郷土史家)	中間市勤労青少年ホーム	11月28日
	北筑後	『九州横断道発掘調査の成果から』	考古	小田和利(県教育庁文化課)	甘木歴史資料館	9月1日
	南筑後	『漂着物考』	歴史	石井　忠(光陵高校教諭)	南筑後教育事務所	8月24日
	筑豊	『筑豊教育事務所管内平成元年度発掘調査報告会』	考古	管内関係市町村文化財担当職員	飯塚市歴史資料館	7月21日
	京築	『豊前国における古墳時代の動向』	考古	長嶺正秀(苅田町教育委員会)	京築教育事務所	8月10日
平成3年	福岡	『古代のふくおか　1990年の考古学調査の成果』 「最新の韓国考古学情報」 「管内・市町村の発掘調査の成果発表」	考古	小田富士雄(福岡大学教授) 管内市町村文化財担当職員	宗像市中央公民館	8月10日
	北九州	『地域に根ざした芸能活動の実践』	民俗	筑豊大介(京都大学霊長類研究所研究員) 井出川泰子(鞍手町歴史民俗資料館)	鞍手町中央公民館	8月28日
	北筑後	『蘇った吉野ヶ里王国』	考古	七田忠昭(佐賀県教育委員会)	甘木歴史資料館	8月23日
	南筑後	『八女の文化財－近年の調査成果を踏まえて』	考古	赤崎敏男(八女市教育委員会)	南筑後教育事務所	8月30日
	筑豊	『筑豊教育事務所管内平成2年度発掘調査報告会』	考古	小田富士雄(福岡大学教授) 管内関係市町村文化財担当職員	飯塚市歴史資料館	7月27日
	京築	『石塚山古墳から古代寺院へ―畿内文化と渡来文化のクロスロードをみる』	人類学	森　浩一(同志社大学教授)	苅田町中央公民館	8月5日
平成4年	福岡	『出土人骨が物語るもの』	人類学	中橋孝博(九州大学医学部講師)	九州歴史資料館	7月27日
	北九州	『西安の文化と日本』	歴史	張　満良(九州大学工学部)	水巻町中央公民館	10月1日
	北筑後	『稲作の伝来と弥生文化』	考古	高倉洋彰(西南学院大学教授)	久留米市市民図書館	8月17日
	南筑後	『邪馬台国と筑後・卑弥呼のふるさと』	考古	渡邉正気(県文化財保護審議会専門委員)	南筑後教育事務所	7月22日
	筑豊	『生涯学習時代における文化財活動』	考古	小田富士雄(福岡大学教授)	飯塚市歴史資料館	7月20日
	京築	『文化財保存活動について』	保存	小倉正五(宇佐市教育委員会)	京築教育事務所	8月5日
平成5年	福岡	『米づくりを始めたムラ―江辻遺跡・雀居遺跡をめぐって－』	考古	田中良之(九州大学文学部助教授) 新宅信久(粕屋町教育委員会) 下村　智(福岡市教育委員会)	福岡教育事務所	8月24日
	北九州	『最近の発掘成果でみる韓日交渉の考古学－環濠集落などを中心に－』	考古	金　宰賢(九州大学大学院博士後期課程)	小竹町中央公民館	10月28日
	北筑後	『トイレの考古学』	考古	山崎純男(福岡市教育委員会)	小郡市七夕会館	9月18日
	南筑後	『筑後地区の古文書』	歴史	中野　等(柳川古文書館学芸員)	南筑後教育事務所	8月9日
	筑豊	『地域づくりに活かす文化財活動』	考古	小田富士雄(福岡大学教授) 管内関係市町村文化財担当職員	飯塚市歴史資料館	3月6日
	京築	『甘木市平塚川添遺跡の調査から』	考古	井上裕弘(福岡県教育委員会)	京築教育事務所	7月21日
平成6年	福岡	『考古学に学ぶ―文化財体験学習のノウハウを学ぶ－』	活用	力武卓治(福岡市教育委員会) 新原正典(甘木歴史資料館副館長) 山村淳彦(筑紫野市立歴史民俗資料館)	福岡教育事務所	8月24日
	北九州	『古代の海上交通』 『山のファッションデザイナー』	考古	松本　肇(宗像大社神宝館学芸課長) 旗生良徳(福岡県文化財保護指導委員)	遠賀町中央公民館	10月28日
	北筑後・南筑後	『六道銭の考古学』	考古	櫻木晋一(九州帝京短期大学助教授)	福岡県青少年科学館	8月26日
	筑豊	『筑豊の発掘最前線』	考古	小田富士雄(福岡大学教授) 佐々木武彦(中間市歴史民俗資料館副館長)	飯塚市歴史資料館	3月5日
	京築	『福岡市の文化財保護』	考古	折尾　学(福岡市教育委員会埋蔵文化財課長)	豊津町歴史民俗資料館	8月30日
平成7年	福岡	『遺跡の整備と活用を考える』	考古	原　俊一・安部裕久(宗像市教育委員会)	福岡教育事務所	8月22日
	北九州	『岩戸山古墳から見る夢－史跡から街づくりへアプローチ―』	考古	赤崎敏男(八女市教育委員会)	直方市中央公民館	7月21日
	北筑後	『装飾古墳について―装飾古墳の保存と活用―』	考古	田中正日子(第一経済大学教授)	田主丸町中央公民館	8月26日
	南筑後	『筑紫国、大き地動。地裂くる…－地震考古学からの検証―』	考古	松村一良(久留米市教育委員会)	南筑後教育事務所	8月30日
	筑豊	『掘ったばい筑豊95－平成6年度発掘調査速報展―』	考古	小田富士雄(福岡大学教授)	穂波町郷土資料館	7月23日
	京築	『臼杵石仏群の保存と活用』	考古	菊田　徹(臼杵市教育委員会)	行橋市中央公民館	7月28日
平成8年	福岡	『水城の大堤・鹿毛馬神籠石にみる古代のハイテク』	考古	小田和利(九州歴史資料館) 須原　縁(頴田町教育委員会)	福岡教育事務所	8月30日
	北九州	『地震を掘る－考古学からのアプローチ』 『地震を掘る－兵庫県派遣　被災地発掘リポート』	考古	松村一良(久留米市教育委員会) 秦　憲二(県教育庁文化課)	岡垣町サンリーアイ	7月19日
	北筑後	『みっけた!!下高橋遺跡―奴国から筑紫へ　その成り立ち』	考古	高倉洋彰(西南学院大学教授)	大刀洗町中央公民館	8月31日
	南筑後	『去年もエライ掘ったバイ－管内遺跡発掘報告会』	考古	馬田弘稔(北九州教育事務所) 管内市町村文化財担当職員	南筑後教育事務所	8月29日
	筑豊	『筑豊の民俗いろいろ』	民俗	中島忠雄(日本民俗学会会員)	庄内町立図書館	8月4日
	京築	『古代のむなかた』	考古	原　俊一(宗像市教育委員会)	吉富フォーユー会館	8月30日
平成9年	福岡	『絵画にこめられた弥生人の思い』	考古	岡部裕俊(前原市教育委員会)	福岡教育事務所	8月8日
	北九州	『ほね、ほね、HONE…古人骨～骨からわかるこんな事～』	人類学	中橋孝博(九州大学大学院助教授)	若宮町中央公民館	7月14日
	北筑後	『土器に描かれた弥生人の世界』 『夜須町大木遺跡の弥生絵画』 『海を渡ってきた馬』	考古	常松幹雄(福岡市博物館) 佐藤正義(夜須町教育委員会) 宮田浩之(小郡市教育委員会)	小郡市文化会館	10月4日
	南筑後	『仏像のみかた』	美術	楠井隆志(県教育庁文化課)	南筑後教育事務所	7月30日
	筑豊	『掘ったバイ筑豊'97』 平成8年度管内発掘調査速報会 『石炭産業遺産を生かしたまちづくり』 基調報告とシンポジウム	考古	平島勇夫(大牟田市石炭産業科学館) 橋本　周(穂波町教育委員会) 森本弘行(田川市石炭資料館) 田上　稔(福岡県教育庁文化課)	ヤングワークFUKUOKA	9月20日
	京築	『古代の豊と大分県の文化財』	考古	清水宗昭(大分県教育庁文化課)	吉富フォーユー会館	8月29日
平成10年	福岡	『明かり雑学考』	文化	中矢眞人(福岡教育事務所)	福岡教育事務所	10月18日
	北九州	『博物館はいきている』	活用	赤司善彦(九州歴史資料館) 平島勇夫(大牟田市石炭産業科学館)	芦屋町中央公民館	7月30日
	北筑後	『古代山城　神籠石』	考古	倉住靖彦(九州歴史資料館) 小田和利(南筑後教育事務所) 神保公久(久留米市教育委員会) 乙藤　慎(杷木町教育委員会)	杷木町社会教育総合センター	9月12日
	南筑後	『大宰府と地方官衙』	考古	赤司善彦(九州歴史資料館) 山田朗子(八女市教育委員会) 尾崎源太郎(広川町教育委員会)	八女文化会館	8月7日
	筑豊	『立岩遺跡発掘のころ』	考古	藤田　等(静岡大学名誉教授)	王塚装飾古墳館	8月2日
	京築	『ダムに沈む村　伊良原』	歴史	佐々木哲哉(田川市石炭資料館館長) 野中邦重(前豊津町歴史資料館館長) 一川淳江(福岡県文化財保護指導委員) 川本義継(豊津町教育委員会教育長) 服部英雄(九州大学大学院教授) 長尾正剛(北九州市立歴史博物館主幹) 宮本雅明(九州芸術工科大学教授) 錦織亮介(北九州大学教授) 太田正道(北九州市立自然史博物館顧問)	犀川町中央公民館	8月28日
平成11年	福岡	『文化財の活用と学校教育』	活用	宮田浩之(小郡市教育委員会) 東　典子(田主丸中学校教諭) 高橋　章(福岡県立少年自然の家「玄海の家」)	福岡教育事務所	8月26日
	北九州	『生かそう！石炭産業遺産』	歴史	荒川　彰(建設省北九州国道工事事務所) 森本弘行(田川市石炭資料館)	小竹町中央公民館	7月27日
	北筑後	『古代のまつり』	考古	森　弘子(県文化財保護審議会専門部会) 平嶋文博(三輪町教育委員会) 平川祐介(浮羽町教育委員会) 小田和利(南筑後教育事務所)	めくばーる三輪	9月11日
	南筑後	『日本建築のみかた』	建築	田上　稔(県教育庁文化財保護課)	南筑後教育事務所	9月24日
	筑豊	『北部九州の縄文文化・古環境』	考古	賀川光夫(別府大学名誉教授)	碓井町琴平文化館	9月25日
	京築	『ヒノキと人のつきあいー特に京築ヒノキを含めてー』	天然記念物	宮島　寛(九州大学名誉教授)	椎田町文化会館	8月26日
平成12年	福岡	『歴史の道を尋ねて』	歴史	河島悦子(旧長崎街道を歩く会) 森山栄一(筑紫野市教育委員会) 安部裕久(宗像市教育委員会)	筑紫野市歴史博物館「ふるさと館ちくしの」	8月26日
	北九州	『水没した遺跡－立屋敷遺跡と弥生文化』	考古	梅崎恵司(北九州市教育文化事業団) 大坪　剛(水巻町教育委員会)	水巻町中央公民館	7月28日

第 27 表　文化財指導者講習会　②

年度	地区	テーマ・内容	分野等	講　師	会　　場	開催日
平成12年	北筑後	『北筑後の歴史の道』	歴史	河島悦子(旧長崎街道を歩く会) 吉武孝礼(甘木市教育委員会) 小河誠嗣(吉井町教育委員会) 佐藤雄史(小郡市教育委員会)	小郡市松崎公民館	9月2日
	南筑後	『樹木の保護・保存について』	天然記念物	野口喜好(樹木医)	南筑後教育事務所	8月28日
	筑豊	『古代のアクセサリー』	考古	木下尚子(熊本大学教授)	飯塚市歴史資料館	8月20日
	京築	『近代建築の保存と活用』	建築	田上　稔(県教育庁文化財保護課)	行橋市中央公民館	8月31日
平成13年	福岡	『水辺の考古学・水中の考古学』	考古	石井　忠(古賀市歴史資料館) 石原　渉(九州・沖縄水中考古学会)	粕屋町立歴史資料館	8月24日
	北九州	『受け継がれる伝統芸能"六嶽神楽"』 六嶽神楽による神楽公演	民俗	石松貞男(六嶽神楽保存会会長)	鞍手町中央公民館	7月25日
	北筑後	『筑後川流域の弥生時代とムラのくらし』	考古	伊﨑俊秋(県教育庁文化財保護課) 白木　守(久留米市教育委員会) 杉本岳史(小郡市教育委員会) 平川祐介(吉井町教育委員会) 吉田東明(県教育庁文化財保護課)	えーるぴあ久留米	9月1日
	南筑後	『古墳は語る南筑後の古代－近年発掘調査された古墳の調査成果から－』	考古	坂井義哉(大牟田市教育委員会) 東　竜雄(山川町教育委員会) 大塚恵治(八女市教育委員会) 小田和利(九州歴史資料館) 佐田　茂(佐賀大学文化教育学部)	南筑後教育事務所	8月5日
	筑豊	『平成13年度発掘調査事例報告』	考古	八木健一郎(頴田町教育委員会) 野村健一(香春町教育委員会) 松浦宇哲(碓井町教育委員会) 進村真之(県教育庁文化財保護課) 櫛山範一(筑穂町教育委員会) 岩本教之(添田町教育委員会) 福島日出海(嘉穂町教育委員会) 小畑弘巳(熊本大学文学部)	筑穂町郷土資料館	8月25日
	京築	『中津街道と椎田湊』	街道	山内公二(行橋市史編纂室)	椎田町コマーレ	8月24日
平成14年	福岡	『こどもと文化財～学者融合の推進に向けて～』	活用	高田浩二(海の中道生態科学館) 山村信榮(太宰府市教育委員会)	福岡県吉塚合同庁舎	8月23日
	北九州	『どう活かす？"地域の文化財"～地域・学校・行政～』	活用	髙橋　章(九州歴史資料館) 加島昭二(中間市歴史民俗資料館友の会)	中間市中央公民館	7月26日
	北筑後	『墓から見た筑後川流域の弥生・古墳時代の社会』	考古	田中良之(九州大学比較社会文化研究院) 片岡宏二(小郡市教育委員会) 松尾　宏(甘木市教育委員会) 江島伸彦(田主丸町教育委員会) 江島尚子(吉井町教育委員会)	ムラおこしセンター(吉井町)	9月7日
	南筑後	『修験道関係』	民俗	久富真人(福岡県文化財保護指導委員) 小川泰樹(南筑後教育事務所) 井形　進(九州歴史資料館)	清水寺	7月28日
	筑豊	『平成14年度発掘調査報告会』	考古	杉内　郷(筑穂町教育委員会) 岩本教之(添田町教育委員会) 櫛山範一(筑穂町教育委員会) 須原　緑(頴田町教育委員会) 八木健一郎(頴田町教育委員会) 福本　寛(田川市石炭博物館) 樋口嘉彦(飯塚市歴史資料館) 松浦宇哲(碓井琴平文化館) 福島日出海(嘉穂町教育委員会) 亀田修一(岡山理科大学総合情報学部)	香春町町民センター	8月24日
	京築	『中世山城跡の整備と現状』	考古	辛島眞治(勝山町教育委員会)	障子ヶ岳城跡	8月9日
平成15年	福岡	『考古学はどこへ向かうのか～調査・研究の現状とその活用～』 「考古学のエコノミー；研究の深化と学説の形成」 パネルディスカッション：「考古学はどこへ向かうのか」	活用	溝口孝司(九州大学比較社会文化研究院) 杉村幸一(福岡教育事務所) 中島恒次郎(太宰府市教育委員会) 加藤和歳(九州歴史資料館)	福岡県吉塚合同庁舎	8月22日
	北九州	『地域に息づく仏教文化財』 「仏像のみかた(仮) 「板碑から見た遠賀川流域」 「蓮華文の古代瓦」	美術	末吉武史(福岡市博物館) 牛嶋英俊(福岡県文化財保護指導委員) 齋部麻矢(北九州教育事務所)	マリーホール宮田	7月25日
	北筑後	『歴史民俗資料館と学校教育の連携』 「『学校教育』と融合する博物館活動」 「資料館側からの報告」 「学校教育側からの報告」	活用	緒方　泉(九州産業大学) 吉留優子(太宰府市文化ふれあい館) 村中真治(久留米市立津福小学校)	福岡県青少年科学館	8月22日
	南筑後	『職人の目から見た文化財建造物』 「旧清力酒造株式会社事務所の復元工事について」 「葦葺について」 「南筑後の伝統的木工技法」	建築	森　光吉((株)永尾組) 中尾　初(全国社寺屋根工事技術保存会) 築地原正英(福岡県文化財保護指導委員)	大川勤労者総合福祉センター	7月7日
	筑豊	『平成14年度発掘調査報告会』 『考古学講演会　筑豊考古学の展望』	考古	岩本教之(添田町教育委員会) 櫛山範一(筑穂町教育委員会) 井上勇也(方城町教育委員会) 野村憲一(香春町教育委員会) 須原　緑(頴田町教育委員会) 八木健一郎(頴田町教育委員会) 松浦幸一(赤村教育委員会) 樋口嘉彦(飯塚市歴史資料館) 志満紀郎(大任町教育委員会) 杉原敏之(筑豊教育事務所) 福島日出海(嘉穂町教育委員会) 小田富士雄(福岡大学)	サンヒルズ庄内	8月23日
	京築	『神籠石の歴史的意義を探る』 「北部九州地域における神籠石山城の分布とその意義」 「御所ヶ谷神籠石」 「唐原古代山城」 「唐毛馬神籠石」	考古	小田和利(九州歴史資料館) 小川秀樹(行橋市教育委員会) 末永浩一(大平村教育委員会) 須原　緑(頴田町教育委員会)	行橋市中央公民館	7月31日
平成16年	福岡	『弥生時代・古墳時代の対外交流と福岡』 講演：「弥生時代・古墳時代の対外交流」 見学：九州歴史資料館展示室 事例報告：「対外交流の窓口 －福岡市早良区西新町遺跡－」	考古	河野一隆(九州国立博物館(仮称)設立準備室) 重藤輝行(福岡教育事務所)	九州歴史資料館	8月27日
	北九州	『海辺に学ぶ －響灘沿岸のおいたちと風景－』 講演：「響灘沿岸の古砂丘」 報告：「岡垣町の古代遺跡」 報告：「三里松原の植生と景観」 フリートーク：「海辺の風景から学ぶ」	古環境	下山正一(九州大学大学院) 下川航也(岡垣町教育委員会) 猪上信義(福岡県森林林業技術センター)	岡垣町中央公民館	7月28日
	北筑後	『筑後川流域の希少生物を学ぶ』 講演：「筑後川流域の希少生物(仮)」 報告：「ヒナモロコの保護と活用(仮)」	天然記念物	宮﨑保幸(田主丸町立竹野小学校) 袋野栄三郎(田主丸町立川会小学校)	筑後川発見館くるめハウス	8月24日
	南筑後	『民間伝承が語るもの －言い伝えと郷土の歴史－』 講演：「伝説の誕生」 講演：「南筑後の昔話と文化財」	民俗	森　弘子(福岡県文化財保護審議会委員) 佐々木四十臣(福岡県文化財保護指導委員)	広川町産業展示会館	8月7日
	筑豊	『平成15年度発掘調査報告会』 発掘調査報告 講演：「資料館が変わる、ボランティアと変わる」	活用	岩本教之(添田町教育委員会) 杉原敏之(北九州教育事務所) 毛利哲久(穂波町教育委員会) 尾園　晃(桂川町教育委員会) 福本　寛(田川市教育委員会) 井上勇也(方城町教育委員会) 八木健一郎(頴田町教育委員会) 松浦幸一(赤村教育委員会) 志満紀郎(大任町教育委員会) 緒方　泉(九州産業大学美術館)	大任町役場	8月7日

第 27 表　文化財指導者講習会　③

年度	地区	テーマ・内容	分野等	講　師	会　場	開催日
平成16年	京築	『戦争遺跡の現状と活用』 講演:「宇佐市の戦争遺跡と活用事例」 シンポジウム:「戦争遺跡の現状と活用」	歴史	小倉正五(宇佐市教育委員会) 中原　博(行橋市教育委員会) 山本有一(橋北小学校) 吉田東明(京築教育事務所)	椎田町文化会館コマーレ	7月29日
平成17年	福岡	『まちづくりに文化財をどう活かすか』 講演:「新たなる文化財概念とまちづくり」 報告1:「まちづくり事業等について(仮)」 報告2:「太宰府市文化財活用整備基本指針について」	活用	西山徳明(九州大学教授) 角田陽介(国土交通省九州地方整備局) 城戸康利(太宰府市教育委員会)	九州国立博物館	9月16日
	北九州	『文化財を活用した体験学習』 講義1:「学校教育における文化財の活用事例について」 講義2:「遺跡公園の体験学習活動について」 体験活動:「文化財を活用した体験学習」①土器づくり　②石器づくり 見学:「船迫窯跡公園」	活用	常盤　洋(八屋中学校) 隈部敏明(甘木市教育委員会) 岩永雅彦(多久市教育委員会) 高尾栄市(築上町教育委員会)	船迫窯跡公園	10月15日
	筑後	『筑後の陶磁器』 講演:「筑後窯業史の概要」 事例報告:「久留米市内の調査から　ー窯跡と消費地ー」	工芸	西健一郎(九州大学) 大石　昇・水原道範(久留米市教育委員会)	星野村総合保健福祉センター そよかぜ	9月29日
	筑豊	『掘ったバイ筑豊2005関連事業』	考古	池田善文(山口県美東町教育委員会) 石橋　毅(地域研究家) 笘内市町村文化財担当者	糸田町町民会館	7月30日
平成18年	福岡・北九州	『化石から考える響灘沿岸の風景』 講演1:「福岡県北部の主な脊椎動物化石ー地層、年代と特徴」 講演2:「脊椎動物化石の採集と保護」	化石	岡崎美彦(北九州市立自然史・歴史博物館)	小竹町中央公民館	10月4日
	筑後	『実践！　古代体験』 講習・フリーディスカッション 講習テーマ:「火起こし体験にひと工夫」 「本物!?　土器づくり・石器づくり」 「紡ぐ・織る・染めてみる」	活用	赤崎敏男　(八女市教育委員会) 岩永雅彦　(多久市教育委員会) 園井正隆　(久留米市文化財保護課) 平ノ内幸治(宇美町教育委員会)	平塚川添遺跡公園	9月5日
	筑豊	『筑豊民俗誌ー民俗からみた筑豊の姿ー』 基調講演:「年中行事からみた筑豊」 田川の民俗芸能:「伊加利人形芝居【三番叟】」実演 シンポジウム:「筑豊民俗誌ー民俗からみた筑豊の姿ー」	民俗	佐々木哲哉(元福岡県文化財保護審議会委員) 香月靖晴　(嘉飯山郷土研究会会長) 長谷川清之(王塚装飾古墳館) 安蘓龍生　(田川市石炭・歴史博物館)	田川文化センター・ 青少年文化ホール	7月29日
平成19年	福岡・北九州	『いのりの山―福岡における山岳信仰―』 基調講演『北部九州地域の山岳信仰』 事例紹介1:『宝満山』 事例紹介2:『白山』	民俗	山村信榮(太宰府市教育委員会) 江上智恵(久山町教育委員会)	吉塚合同庁舎	10月5日
	筑後	『装飾壁画から見る古墳時代の地域性』 講演1:「筑後川流域の装飾壁画の独自性と共通性(仮)」 講演2:「遠賀川流域の装飾壁画の独自性と共通性(仮)」 講演3:「装飾古墳に見られる独自性と共通性(仮)」	考古	丸林禎彦(久留米市教育委員会) 尾園　晃(桂川町) 石山　勲(日本考古学協会会員)	エールぴあ久留米	9月29日
	京築	『近世文書を読む・まもる・伝える～京築地区を事例として～』 講演:「文化財としての近世文書　～京築地区を事例として～」 事例報告:「苅田郷土史研究会古文書部会の活動について」 実地見学:「古文書からものをみる　～生立八幡宮～」	歴史	川本英紀(みやこ町歴史民俗博物館) 田中昭年(苅田郷土史研究会)	みやこ町歴史民俗博物館	8月31日
平成20年	福岡・北九州	『あなたが守る　活かす　文化財』 講演1:「九州国立博物館ボランティア」 講演2:「みんなで文化財を考える・使う」 講演3:「歴史ボランティアの活動について」	活用	上野智彦(九州国立博物館) 城戸康利(太宰府市教育委員会) 増井幸憲(歴史ボランティア直方を語る会とおれんじ)	九州国立博物館	10月9日
	筑後	『地域の伝統文化に学ぶ』 講演:「北部九州の宗教文化ー神仏混淆と神仏分離ー」 記録映像上映・解説:「竹崎観世音寺の修正鬼会(佐賀県竹崎島)」 「熊野神社の修正会(筑後市)」	民俗	白川琢磨(福岡大学教授)	大牟田市生涯学習支援センター	11月10日
	筑豊・京築	『筑豊の鉄道遺産　ー近代化遺産としての鉄道・駅舎ー』 講演1:「筑豊地域の近代化遺産について」 講演2:「近代化を支えた鉄道・駅舎」 講演3:「'油須原駅'の保存と活用」	歴史	長弘雄次(九州共立大学名誉教授) 桃坂　豊(県文化財保護指導委員) 松浦幸一(赤村教育委員会)	香春町町民センター	9月29日
平成21年	福岡・北九州	『福岡の文化財　世界遺産に!』	活用	磯村幸男(県世界遺産登録推進室) 森井啓次(県世界遺産登録推進室) 岡寺未幾(県世界遺産登録推進室)	北九州市立自然史・歴史博物館	12月8日
	筑後	『黒木町黒木重要伝統的建造物群と町づくり』	建築	大森洋子(久留米工業大学) 大島真一郎(黒木町教育委員会)	黒木町地域交流センター	12月11日
	筑豊・京築	『福岡の中世山城と調査法』	考古	岡寺　良(九州歴史資料館) 高尾栄市(築上町教育委員会)	赤村住民センター	2月25日
平成22年	福岡・北九州	『海と共にいきる～受け継がれる海の文化～』	歴史	楠本　正(宗像市文化財保護審議会委員)	アクシス玄海	10月29日
	筑後	『水をめぐる営み　～筑後川中流域編～』	歴史	鍋田康成(筑後川まるごと博物館運営委員会事務局長)	ピーポート甘木	1月25日
	筑豊・京築	『豊穣なる学問の風土　～激動期京築の学び場～』	歴史	竹本英代(福岡教育大学) 城戸淳一(県文化財保護指導委員) 恒遠俊輔(求菩提資料館館長) 川本英紀(みやこ町教育委員会)	旧福岡県立豊津中学校講堂思永館(福岡県立育徳館高校)	9月30日
平成23年		『ふくおかにおける石炭生産　～三井三池炭鉱跡に学ぶ～』 展示説明:「大牟田市域における石炭採掘」 説明:「旧三井三池炭鉱に関わる文化財」	歴史	大牟田市石炭産業科学館ボランティア 江藤彰子(大牟田市教育委員会)	大牟田市石炭産業科学館	2月29日
平成24年		『ふくおかにおける石炭生産　～筑豊炭田に学ぶ～』 基調講演:「筑豊の炭鉱開発の歴史ー大手炭鉱を中心にー」 事例報告1:「近代遺跡保存の取り組みについて」 事例報告2:「世界記憶遺産を活用した学校現場での取り組みについて」 現地見学	歴史	北澤　満(九州大学経済学研究院准教授) 吉田東明(県教育庁文化財保護課) 福本　寛(田川市教育委員会)	田川市石炭・歴史博物館	3月25日
平成25年		『ふくおかにおける石炭生産　～糟屋炭田に学ぶ～』 講演:「志免鉱業所について」 報告1:「糟屋炭田における石炭の鉄道運搬について」 報告2:「ふくおかにおける石炭生産～指導者講習会で取組んで～」	歴史	徳永博文(志免町教育委員会) 渡部邦昭(九州歴史資料館) 今井涼子(県教育庁文化財保護課)	九州歴史資料館	2月25日
平成26年		『古代の役所を掘るということ　～調査と保存の課題』 講演1:「古代の地方統治制度　～文献から解ること」 講演1:「大宰府史跡の保存と発掘調査の歩みから」 報告:「下高橋官衙遺跡の調査と保存」 説明:「官衙遺跡の発掘調査方法」	考古	酒井芳司(九州歴史資料館) 杉原敏之(九州歴史資料館) 赤川正秀(大刀洗町教育委員会) 赤司善彦(県教育庁文化財保護課)	小郡市埋蔵文化財センター	3月3日
平成27年		『文化財としての信仰の山-福岡の山岳霊場遺跡-』 講演 1:「山岳霊場遺跡の学術的重要性」 講演 2:「説話・伝承から考える山岳霊場遺跡」 説明 1:「山岳霊場遺跡の保護について」 説明 2:「山岳遺跡の保存と整備」	考古	山村信榮(太宰府市教育委員会) 吉田扶希子(西南学院大学) 坂元雄紀(県教育庁文化財保護課) 入佐友一郎(県教育庁文化財保護課)	九州歴史資料館	2月15日
平成28年		『福岡県における文化財としての水利施設について』 講演 1:「九州北部の歴史的水利施設について」 講演 2:「女男石護岸施設について」 講演 3:「堀川文化財総合調査の成果と今後の保存に向けて」	歴史	島谷幸宏(九州大学工学研究院教授) 川端正夫(朝倉市教育委員会) 大坪　剛(水巻町教育委員会)	吉塚合同庁舎	2月17日
平成29年		『文化遺産としての戦争遺跡』 講演 1:「文化遺産としての戦争遺跡」 講演 2:「考古学から見た戦争遺跡の現状と課題」 講演 3:「福岡県の郷土部隊と関連歴史資料」	歴史	有馬　学(福岡市博物館館長) 池田　拓(宗像市教育委員会) 小川泰樹・渡部邦昭(九州歴史資料館)	九州歴史資料館	2月23日
平成30年		『建造物の保存と活用～近代和風建築を中心に～』 報告 1:「近代和風建築総合調査の概要と今後の取り組み」 講演 1:「近代和風建築のみどころ」 報告 2:「旧藏内家住宅と古民家の保存と活用」 報告 3:「文化財保護法の改正について」	建造物	河上信行(県文化財保護審議会専門部会委員) 高尾栄市(築上町教育委員会) 松本将一郎(県教育庁文化財保護課)	福岡教育事務所	3月6日

第 27 表　文化財指導者講習会　④

（５）埋蔵文化財安全衛生講習会

年度	講習内容	講師			実施日
平成2年度	発掘調査現場の安全管理について	森　保徳	森安全コンサルタント事務所	所長	
平成3年度	発掘調査現場の安全管理について	北本良也	建設業労働災害防止協会	安全管理士	
平成4年度	21世紀の健康管理	中村興睿	精神保健福祉センター	所長	
平成5年度	発掘現場の安全衛生管理	北本良也	建設業労働災害防止協会	安全管理士	
平成6年度	発掘現場の安全衛生管理	西城戸昇	福岡中央労働基準監督署	安全衛生課長	
平成7年度	心の安全衛生管理	阿部和彦	産業医科大学精神科	教授	
平成8年度	調査現場の安全管理	藤代一也	産業医科大学実務研修センター	専任講師	
平成9年度	安全で衛生的な発掘調査を	橋口達也	県教育庁文化課	総括	
平成10年度	働く女性の職場環境	尾崎緯津美	県教育庁労働部労働福祉課		
平成11年度	発掘調査における安全管理	江登正宜	建設業労働災害防止協会	専務理事	
平成12年度	高齢者雇用に際しての安全衛生上の留意点と管理責任など	北本良也	福岡産業保険推進センター		
平成13年度	安全衛生上の法的責任について	青木善政	建設業労働災害防止協会	安全管理士	
平成14年度	高齢者雇用に際しての安全衛生上の留意点と管理責任について	青木善政	建設業労働災害防止協会	安全管理士	
平成15年度	発掘調査現場における健康管理と緊急時の救急救命実習	日本赤十字社福岡県支部			
平成16年度	発掘現場における熱中症予防と対策	堀江正知	産業医科大学産業生態化学研究所	教授	
平成17年度	発掘調査現場における事故の防止法について	青木善政	建設業労働災害防止協会	安全管理士	
平成18年度	埋蔵文化財発掘調査機関における健康管理	井那波良一	岐阜大学大学院医学研究科産業衛生分野	助教授	
平成19年度	事故を起さないために	小池史哲	県教育庁文化財保護課	参事兼課長技術補佐	
平成20年度	安全衛生推進者養成講習	田村浩一 中原恵典	福岡中央労働基準協会	安全衛生コンサルタント	
平成21年度	発掘作業における安全衛生対策について	西島一勝	福岡中央労働基準監督署安全衛生課	産業安全専門官	
平成22年度	応急手当	福岡市消防局			
平成23年度	職場のメンタルヘルス～鬱病の早期発見と対応～	五島俊子	北筑後保健福祉環境事務所健康増進課		6月24日
平成24年度	環境省熱中症対策に係る自治体等担当者向け講習会（伝達講習）	岡田　諭	九州歴史資料館	主任技師	7月3日
平成25年度	身近な大気汚染とその対策を目指して 発掘調査・整理作業で使用する溶剤・薬剤等の特徴と安全管理	下原孝章 加藤和歳	福岡県保健環境研究所 九州歴史資料館	大気課長 技術主査	6月27日
平成26年度	埋蔵文化財発掘調査及び整理作業における熱中症対策	大田原美奈子	大塚製薬株式会社福岡支店		7月1日
平成27年度	健診結果を生活習慣改善に活かそう ～埋蔵文化財発掘調査現場等での健康づくり～	吉田純子	北筑後保健福祉環境事務所健康増進課		7月15日
平成28年度	応急手当	久留米広域消防本部三井消防署三国出張所			6月24日
平成29年度	発掘作業における安全衛生対策について	弥吉栄輝	久留米労働基準監督署	産業安全専門官	6月27日
平成30年度	発掘作業における安全衛生対策について	弥吉栄輝	久留米労働基準監督署	産業安全専門官	8月9日
令和元年度	職場のメンタルヘルス～メンタルヘルス不調の早期発見と対応～	高田淳子	北筑後保健福祉環境事務所	保健監	7月17日
令和2年度	発掘調査の安全について	宮本雅史	建設業労働災害防止協会	事務局長	11月19日

第 28 表　埋蔵文化財安全衛生講習会

（6）歴史民俗資料館等研修会

開催 年度	テーマ 講義内容	講 師	会 場	開催日
昭和50年		秀村選三	須恵町歴史民俗資料館	3月10日
昭和51年		重松敏美 佐々木哲哉	県立英彦山青年の家	3月22･23日
昭和52年		裏辻憲道	九州歴史資料館	3月22日
昭和53年		板橋謙吉	芦屋町文化福祉センター	2月28日
昭和54年		森貞次郎 平山和彦	浮羽町立歴史民俗資料館	3月7･8日
昭和55年		中村正夫	宇美町中央公民館 宇美町立歴史民俗資料館	3月6日
昭和56年		中村正夫	飯塚市歴史資料館 見学：飯塚市歴史資料館、嘉穂劇場	3月16日
昭和57年		荻野喜弘	田川市青少年文化ホール 見学：田川市石炭資料館	3月9日
昭和58年		金子文夫	吉井町中央公民館 見学：吉井町歴史民俗資料館、日岡古墳、 珍敷塚古墳等	3月2･3日
昭和59年		佐田　茂（東海大学助教授）	八女市岩戸山歴史資料館 見学：八女市岩戸山歴史資料館、岩戸山古墳	3月22日
昭和60年		佐々木哲哉（西南学院大学助教授）	鞍手町中央公民館 見学：鞍手町歴史民俗資料館	3月18日
昭和61年		石山　勲（甘木歴史資料館）	県立少年自然の家「玄海の家」 見学：宗像大社「神宝館」	2月12･13日
昭和62年		田村圓澄（九州歴史資料館長） 亀井明徳（九州歴史資料館参事補佐）	前原町立伊都歴史資料館	3月18日
昭和63年		田村圓澄（九州大学名誉教授） 米津三郎（八幡大学教授）	中間市勤労青少年センター	3月17日
平成元年		田村圓澄（九州大学名誉教授） 重松敏美（求菩提資料館長）	求菩提資料館	3月23･24日
平成2年		田村圓澄（九州大学名誉教授）	コスメイト行橋	3月12日
平成3年	「那津と難波」 「筑豊と美術」	田村圓澄（九州大学名誉教授） 谷口治達（九州造形短期大学教授）	田川市美術館	3月19日
平成4年	「亀井少栞と原采蘋」	庄野寿人（能古博物館館長）	財亀陽文庫、能古博物館	3月18日
平成5年	「水族館と展示について」	森友忠生（海の中道海洋生態科学館長） 平島勇夫（大牟田市歴史資料館） 江島　香（柳川古文書館）	海の中道海洋生態科学館	10月28日
平成6年	「地域の歴史と古文書の必要性について」 「資料館におけるボランティア養成活動について」	三池賢一（福岡県立図書館郷土課長） 佐々木武彦（中間市立歴史民俗資料館副館長）	柳川古文書館	11月 8日
平成7年	「人と文化財のふれあい―眠らない博物館―」 「博物館の運営について」	味酒安則（太宰府天満宮文化研究所主管学芸員） 横山浩一（福岡市博物館館長）	福岡市博物館	10月27日
平成8年	「北九州市立美術館におけるボランティア活動について」 「田川市美術館におけるワークショップについて」	中島順一（北九州市立美術館学芸課長） 工藤健志（田川市美術館学芸員）	北九州市立美術館	11月19日
平成9年	「カルタと遊文化」 「石炭産業科学館の運営と展示について」	西田哲治（大牟田市立三池カルタ記念館長） 平島勇夫（大牟田市立石炭産業科学館）	大牟田市石炭産業科学館	10月22日
平成10年	講演：「装飾古墳の保存と活用」 研修：「王塚装飾古墳館の運営状況について」	石山　勲（福岡県立図書館参事兼郷土課長） 長谷川清之（桂川町教育委員会）	王塚装飾古墳館	10月14日
平成11年	研修：「ふるさと館ちくしの」開館1周年」 事例報告：「史跡と市民と博物館」	松尾禮次郎（筑紫野市教育委員会） 山村淳彦（筑紫野市教育委員会）	筑紫野市歴史博物館「ふるさと館ちくしの」	11月19日
平成12年	研修：「学ぶ心を育てる博物館をボランティアと創る」 事例報告：「美術館のボランティア」 事例報告：「豊前市の史跡ガイドボランティア活動について」	緒方　泉（福岡県立社会教育総合センター） 松浦　仁（福岡アジア美術館） 恒遠俊輔（求菩提資料館長）	福岡アジア美術館	12月14日
平成13年	研修：「民俗資料のデータベース化」 事例報告：「民俗資料と教育活動」 報告：「九州国立博物館（仮称）の進捗状況について」	吉留　徹（豊北町歴史民俗資料館） 吉田東明（甘木歴史資料館） 濱田信也（県総務部国立博物館対策室）	古賀市歴史資料館	11月16日
平成14年	講義：「屋外展示・屋内展示から何を伝えるか」 報告：「甘木歴史資料館について」 視察：甘木歴史資料館	内田俊和（甘木市教育委員会） 脇山國美（甘木歴史資料館）	甘木市総合市民センター	11月29日
平成15年	講演：「文化施設に求められるもの」 報告：「特別展『沖ノ島　大国宝展』を通じた企画・運営のあり方について」	高橋信幸（株式会社トータルメディア開発研究所） 重住真貴子（宗像大社神宝館）	香春町町民センター	11月28日
平成16年	講演：「伊都国と伊都国歴史博物館」 講演：「九州国立博物館の教育普及について」 視察：伊都国歴史博物館	西谷　正（伊都国歴史博物館館長） 池内一誠（県総務部国立博物館対策室）	伊都国歴史博物館	11月26日

第 29 表　歴史民俗資料館等研修会

（7）文化財めぐり

年度	名　称	内　容	講　師	会　場	開催日
昭和45年	糸島の文化財めぐり	前原町、志摩町、二丈町	筑紫　豊（県文化財専門委員） 孤田宗二郎（県文化財専門委員）		3月19日
昭和48年	環境週間記念行事「大宰府史跡めぐり」	大宰府関係史跡			6月10日
	文化財保護強調週間行事「大宰府の文化財めぐり」	「大宰府の歴史と環境」についての報告・解説及び史跡めぐり		九州歴史資料館 大宰府関係史跡	11月 4日
昭和49年	環境週間記念行事「大野城跡史跡めぐり」	特別史跡大野城跡			6月 9日
昭和50年	環境週間記念行事「前原町内史跡めぐり」	怡土城跡、井原・三雲遺跡、雷山			6月 8日
昭和51年	環境週間記念行事「長峰丘陵の古墳めぐり」	岩戸山古墳、乗場古墳、童男山古墳			6月 6日
	文化財保護強調週間行事「柳川の文化財めぐり」	戸島邸、白秋生家、柳川城跡、民家町並、立花邸、三尊板碑、安東省菴墓、三柱神社			11月14日
昭和52年	環境週間記念行事「求菩提山修験道遺跡古墳めぐり」	求菩提資料館、五窟、上宮、中宮、安浄寺跡、岩屋坊、座主坊跡、みそぎ場			6月 5日
	文化財保護強調週間行事「大宰府歴史散歩（講演と史跡めぐり）」	見学コース　水城跡、国分尼寺、国分寺跡、国分瓦窯跡、大宰府政庁跡、学校院跡、観世音寺	講演　田村圓澄、高倉洋彰	九州歴史資料館	11月5・6日
昭和53年	環境週間記念行事「瀬高の文化財めぐり」	清水寺本坊庭園、同楼門、同三重塔、法華経千部逆修板碑、女山神籠石			6月 4日
	文化財保護強調週間行事「飯塚の文化財めぐり」	立岩遺跡、同収蔵庫、麻生社史資料室、高取焼初代墓跡、伊藤伝右衛門本邸、嘉穂劇場、飯塚宿場跡	講演　児島隆人、林黒土、桑原三郎、深町純亮		11月19日
昭和54年	環境週間記念行事「八女の史跡めぐり」	岩戸山古墳、乗場古墳、丸山古墳、善蔵塚古墳等長峰丘陵古墳群めぐり			6月10日
	文化財保護強調週間行事「秋月の文化財めぐり」	秋月城跡、眼鏡橋等秋月の古社寺、町並めぐり			11月 3日
昭和55年	環境週間記念行事「柳川の文化財めぐり」		井上　勇		6月 8日
	文化財保護強調週間行事「大宰府の文化財めぐり」		藤田敏彦		11月 9日
昭和56年	環境週間記念行事「大野城跡の文化財めぐり」				6月 7日
	文化財保護強調週間行事「怡土城跡の文化財めぐり」				11月 1日
昭和57年	環境週間記念行事「久留米市高良山の文化財めぐり」				6月 6日
	文化財保護強調週間行事「甘木市秋月の文化財めぐり」				1月 7日
昭和58年	環境週間記念行事「太宰府市・大野城跡の文化財めぐり」				6月 5日
	文化財保護強調週間行事「八女市の長峰丘陵古墳めぐり」				11月 6日
昭和59年	環境週間記念行事「山門郡瀬高町の文化財めぐり」				6月 3日
	文化財保護強調週間行事「太宰府市有智山城跡外史跡めぐり」				11月 4日
昭和60年	文化財保護強調週間行事「八女古墳群オリエンテーリング」				12月 1日
昭和61年	文化財保護強調週間行事「瀬高町女山神籠石周辺オリエンテーリング」				10月26日
昭和62年	文化財保護強調週間行事「筑後市文化財オリエンテーリング」				3月20日
平成2年	文化財めぐり「宝満山」	宝満山	小西信二（太宰府天満宮文化研究所）		3月17日
平成3年	文化財めぐり「糸島」	前原町内	川村　博（前原町教育委員会）	前原町内	11月10日
平成4年	文化財めぐり「筑後吉井」	吉井町内　吉井町立歴史民俗資料館	吉井町教育委員会職員	吉井町内 吉井町立歴史民俗資料館	11月 8日
平成5年	文化財めぐり「芦屋町」	芦屋町内　安長寺、山鹿貝塚、芦屋町歴史民俗資料館	芦屋町教育委員会職員	芦屋町内 芦屋町歴史民俗資料館	11月 7日
平成6年	文化財めぐり「豊津町」	豊津町内　豊前国府、思永館、豊前国分寺跡、甲塚古墳、豊津町歴史民俗資料館	県文化財保護指導委員	豊津町内 豊津町歴史民俗資料館	11月 6日
平成7年	文化財めぐり「柳川市」	柳川市内　三柱神社、安藤省菴墓、福巌寺、戸島氏邸、白秋記念館、柳川古文書館	柳川古文書館学芸員	柳川市内 柳川古文書館	11月 5日
平成8年	文化財めぐり「桂川町・筑穂町」	桂川町・筑穂町内　王塚古墳、大分廃寺、大分八幡宮、養源寺	綿島一彦（福岡県文化財保護指導委員）	桂川町・筑穂町内 王塚古墳館	11月 4日
平成9年	文化財めぐり「甘木市秋月地区」	秋月地区内　旧武家屋敷、眼鏡橋、秋月城跡、石田家住宅、長屋門、黒門	甘木市教育委員会職員	甘木市秋月地区内 秋月中学校	11月 8日
平成10年	文化財めぐり「筑紫野市　太宰府市」			筑紫野市、太宰府市	11月 7日
平成11年	文化財めぐり「中間市」			中間市	11月 7日
平成12年	文化財めぐり「八女市」			八女市	11月 5日
	文化財めぐり「行橋市」			行橋市	11月12日
平成13年	文化財めぐり「甘木市」			甘木市	10月27日
	文化財めぐり「赤村」			赤村	11月10日
平成14年	文化財めぐり「篠栗町」			篠栗町	10月20日
	文化財めぐり「直方市」			直方市	11月24日
平成15年	文化財めぐり「行橋市」			行橋市	11月15日
	文化財めぐり「大牟田市」			大牟田市	11月30日
平成16年	文化財めぐり「浮羽町」			浮羽町	10月17日
	文化財めぐり「穂波町」			穂波町	10月30日
平成17年	文化財めぐり「福岡市」			那珂川町	11月 3日
	文化財めぐり「北九州市・水巻町」			北九州市、水巻町	11月12日
	大野城ウオーク			太宰府市	10月30日
平成18年	文化財めぐり「築上町」	本庄のクス、大楠神社のサカキ、宇都宮氏館跡、貴船神社大クス、旧藏内家住宅、岩戸見神社のイチイガシ、智恵の文殊菩薩、龍神の石畳記念碑 他	高尾栄市（築上町教育委員会）	築上町	11月12日
	文化財めぐり「黒木町」	東今地区上井手用水沿、東上町酒蔵通[旭松酒造・後藤酒造]、黒木のフジ、黒木堰、東上町通[三谷家他]、上町通り[旧松本家]、中町通りの町並み、南仙橋、覚法寺、下町通りの町並み、谷川水系沿い、専勝寺、旧隈本邸　他	大島真一郎（黒木町教育委員会）	黒木町	11月25日
	大野城ウオーク			太宰府市、宇美町	10月28日
平成19年	遠賀川流域古墳バスツアー			飯塚市、宮若市、桂川町	10月20日
平成20年	筑後川流域古墳バスツアー			筑紫野市、久留米市、うきは市	11月20日
平成21年	「よみがえる平塚川添への道」			朝倉市	11月22日
平成24年	「長崎街道を歩く―山家宿から原田宿―」	九州歴史資料館見学、山家宿、原田宿、筑紫神社	本年度以降、九州歴史資料館が事務局に		11月23日
平成25年	「戦国の城と古戦場を歩く―岩屋城と高橋紹運―」	高橋紹運首塚、観世音寺、金光寺跡、岩屋城跡、大野城跡太宰府口城門			11月 4日
平成26年	「観世音寺と大宰府の史跡をめぐる」	水城跡、大宰府政庁跡、学校院跡、観世音寺および宝蔵、朝日地蔵、天満宮門前			11月 3日
平成27年	「四王寺山の聖地をめぐる」	観世音寺、朝日地蔵、横岳崇福寺跡、西正寺、岩屋城跡、大野城跡			11月 3日
平成28年	「岩戸山古墳と五條家をたずねる」	八女伝統工芸館、五條家、岩戸山歴史文化交流館			9月22日
平成29年	「霊峰英彦山をめぐる」	英彦山神宮奉幣殿、修験道館、財蔵坊（添田町歴史民俗資料館）			9月10日
令和元年	「久留米をめぐる」	久留米城跡、有馬記念館、青木繁旧居、井上籃胎漆器、久留米絣工房蘭生庵			11月24日

第 30 表　文化財めぐり

（8）九州地区民俗芸能大会

年度	回数	担当県	開催地	出演団体(福岡県)	開催日
昭和34年	1	福岡県	久留米市	曲(太宰府町)　博多独楽(福岡市)	5月
35年	2	長崎県	長崎市三菱会館	直方日若踊(直方市)	2月25日
36年	3	熊本県		稚児風流(筑後市)	
37年	4	宮崎県		沼楽(小倉市)	10月5・6日
38年	5	佐賀県		杖楽(川崎町)	10月7・8日
39年	6	大分県	別府市	赤幡神楽(築城町)	12月13日
40年	7	鹿児島県	鹿児島市	一朝軒伝明暗流法竹(福岡市)	11月21日
41年	8	福岡県	福岡市民会館		10月23日
42年	9	長崎県	長崎市公会堂	はんや舞(星野村)	10月 8日
43年	10	佐賀県	佐賀県体育館	道原楽(北九州市小倉区)	10月23日
44年	11	熊本県	八代市厚生会館	土師獅子舞(桂川町)	9月10日
45年	12	宮崎県	宮崎市民会館	横代神楽(北九州市)	10月17日
46年	13	福岡県	福岡市民会館	筑前琵琶、山野の楽	9月19日
47年	14	大分県	由布院町	鵜ノ木の獅子舞(甘木市)	3月17日
48年	15	鹿児島県	鹿児島市	宝満神社の奉納能楽(高田町)	
49年	16	長崎県	大村市	田代の風流(黒木町)	
50年	17	佐賀県	武雄市文化会館	太祖神楽(篠栗町)	
51年	18	熊本県	熊本市市民会館	山田の感応楽(豊前市)	
52年	19	沖縄県	那覇市	綱分八幡宮の獅子舞(庄内町)	
53年	20				
54年	21	宮崎県	宮崎市民会館	寒田神楽(築上町)	10月18日
55年	22				
56年	23				
57年	24	沖縄県	沖縄市民会館	横代神楽(北九州市)	10月17日
58年	25	福岡県	北九州市小倉市民会館	2団体出演	10月16日
59年	26	熊本県	熊本県立劇場	もぐら打行事(山川町)	10月 7日
60年	27	長崎県	長崎県公会堂	土師の獅子舞(桂川町)	10月13日
61年	28	佐賀県	佐賀市市民会館	今古賀風流(三橋町)	10月 5日
62年	29	宮崎県	高鍋町中央公民館	林流抱え大筒(甘木市)	10月18日
63年	30	大分県	大分県立芸術会館	蜷城の獅子舞(甘木市)	10月16日
平成元年	31	鹿児島県	指宿市民会館	宝満神社奉納能楽(高田町)	10月29日
2年	32	長崎県	長崎市公会堂	木屋瀬盆踊(北九州市)	10月14日
3年	33	沖縄県	那覇市民会館	直方市日若踊(直方市)	10月20日
4年	34	福岡県	福岡市南市民センター テーマ「まつりと狂言」	「はんや舞」(星野村) 「元岡の祇園ばやし」(福岡市)	10月18日
5年	35	熊本県	人吉カルチャーパレス テーマ「太鼓の響き」	小倉祇園太鼓(北九州市)	11月14日
6年	36	佐賀県	佐賀市文化会館 テーマ「仮面の祈り」	宇美神楽(宇美町)	10月30日
7年	37	宮崎県	宮崎県立芸術劇場 テーマ「神々のつどい」	等覚寺の松会(苅田町)	10月29日
8年	38	大分県	大分県立芸術会館	松尾山のお田植祭(大平村)	10月27日
9年	39	鹿児島県	川内市民会館	ぜんでこ踊りとひゅうたん廻し(大牟田市)	
10年	40	沖縄県	マティダ市民劇場	竹の曲(太宰府市)	
11年	41	福岡県	サザンクス筑後	香椎宮奉納獅子楽(福岡市) 稚児風流(筑後市)	
12年	42	長崎県	長崎市ブリックホール	秋鼓会・光月流太鼓(甘木市)	
13年	43	熊本県	やつしろハーモニーホール	平八月祭り(若宮町)	
14年	44	佐賀県	武雄市文化会館	上伊田西地区獅子楽(田川市)	
15年	45	宮崎県	宮崎県立芸術劇場	蜷城の獅子舞(甘木市)	
16年	46	大分県	竹田文化会館	幸若舞(瀬高町)	
17年	47	鹿児島県	かごしま県民交流センター	植木三申踊(直方市)	
18年	48	沖縄県	うるま市民芸術劇場	直方日若踊(直方市)	
19年	49	福岡県	アクロス福岡	太祖神楽(篠栗町) 志賀島の盆踊り(福岡市)	
20年	50	長崎県	諫早文化会館	今津人形芝居(福岡市)	
21年	51	熊本県	宇城市松橋総合体育文化センター	舟舞台囃子(柳川市)	
22年	52	佐賀県	基山町民会館	岩戸神楽(那珂川町)	
23年	53	宮崎県	小林市文化会館	稲童神楽(行橋市)	
24年	54	大分県	くすまちメルサンホール	道場寺神楽(行橋市)	
25年	55	鹿児島県	奄美振興会館	直方市若踊(直方市)	
26年	56	沖縄県	読谷村文化センター	植木三申踊(直方市)	
27年	57	福岡県	プラム・カルコア太宰府	竹の曲(太宰府市) おくんち(朝倉市)	
28年	58	長崎県	長崎市市民会館	今井神楽(行橋市)	
29年	59	熊本県	芦北町しろやまスカイドーム	高良山獅子舞(久留米市)	
30年	60	佐賀県	佐賀市市民会館	沖端水天宮舟舞台囃子(柳川市)	
令和元年	61	宮崎県	都城市総合文化ホール	稲童神楽(行橋市)	11月17日
2年	62	大分県	中津文化会館	感応楽(豊前市)	11月8日

第 31 表　九州民俗芸能大会一覧

3　刊行物

（1）福岡県文化財調査報告書

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -1-	福岡県文化財調査報告書 第1集	島田寅次郎、他	1925	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -2- 〔史跡の部・天然記念物の部〕	福岡県文化財調査報告書 第2集	(史跡の部) 島田寅次郎 (天然記念物の部) 川口孫次郎、鍋島興市	1926	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -3-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第3集	島田寅次郎、石塚常彦、武藤直治、伊東尾四郎、黒岩万次郎、春山育次郎、石橋為次、上滝満次郎	1928	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -4-〔史跡の部・天然記念物の部〕	福岡県文化財調査報告書 第4集	(史跡の部) 末岡作太郎、岡　茂政、伊東尾四郎、武藤直治、島田寅次郎 (天然記念物の部) 川口孫次郎、栗田鼎造、鍋島興市	1929	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -5-〔天然記念物の部〕	福岡県文化財調査報告書 第5集	武藤直治、伊東尾四郎、石野義助、中山平次郎、玉泉大梁、島田寅次郎、竹岡勝也、 山本　通、岡　茂政、他	1930	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -6-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第6集	中山平次郎、竹岡勝也、玉泉大梁、長沼賢海、武藤直治、岡　茂政、伊東尾四郎、 末岡作太郎、島田寅次郎	1931	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -7-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第7集	中山平次郎、玉泉大梁、武藤直治、島田寅次郎、長沼賢海、竹岡勝也、山本　通、 伊東尾四郎、岡　茂政	1932	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -8-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第8集	中山平次郎、武藤直治、玉泉大梁、竹岡勝也、川上市太郎、島田寅次郎、伊東尾四郎	1933	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -9-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第9集	中山平次郎、鏡山　猛、青木庄一郎、川上市太郎、宮崎勇蔵、島田寅次郎、玉泉大梁	1934	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -10- 〔史跡の部・名勝の部・天然記念物の部〕	福岡県文化財調査報告書 第10集	(史跡の部) 石野義助、宮崎勇蔵、島田寅次郎、鏡山　猛、玉泉大梁、川上市太郎、武藤直治 (名勝の部) 金尾宗平、木村尚文 (天然記念物の部) 纐纈理一郎、山崎又雄、阿部幸六、江崎悌三	1935	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -11-〔名勝の部〕	福岡県文化財調査報告書 第11集	金尾宗平、木下盛枝	1935	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -12-〔史跡の部・名勝の部〕	福岡県文化財調査報告書 第12集	(史跡の部) 島田寅次郎、武藤直治、鏡山　猛、玉泉大梁 (名勝の部) 金尾宗平	1937	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -13-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第13集	島田寅次郎、石野義助、武藤直治、宮崎勇蔵、川上市太郎	1940	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -14-〔天然記念物の部〕	福岡県文化財調査報告書 第14集	木下盛枝、萩原武平、阿部幸六、纐纈理一郎、玉井虎太郎、山崎又雄	1941	福岡県
福岡県史跡名勝天然紀念物調査報告書 -15-	福岡県文化財調査報告書 第15集	島田寅次郎	1944	福岡県
福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書 -16-〔史跡の部〕	福岡県文化財調査報告書 第16集	小林行雄、有光教一、森貞次郎	1952	福岡県教育委員会
筑前国朝倉郡狐塚古墳〔二分冊の一〕 福岡県神社祭事暦〔二分冊の二〕	福岡県文化財調査報告書 第17集	渡邉正気、古賀精里 木原邦雄	1954	福岡県教育委員会
天然記念物〔二分冊の一〕 傀儡(八幡古表神社)〔二分冊の二〕	福岡県文化財調査報告書 第18集	阿部幸六 筑紫　豊	1955	福岡県教育委員会
矢部村の歴史と民俗	福岡県文化財調査報告書 第19集	渡邉正気、小田富士雄、檜垣元吉、岩下正忠、都築頼助、三宅安太郎、筑紫　豊	1959	福岡県教育委員会
観世音寺重要文化財仏像修理報告書	福岡県文化財調査報告書 第20集	倉田文作、他	1960	福岡県教育委員会
きよう塚古墳	福岡県文化財調査報告書 第21集	児島隆人、渡邉正気、佐野　一	1961	福岡県教育委員会
竹ヶ本遺跡	福岡県文化財調査報告書 第22集	渡邉正気	1961	福岡県教育委員会
名勝・天然記念物(指定物件)	福岡県文化財調査報告書 第23集	麻生繁樹	1961	福岡県教育委員会
志賀海神社祭事資料集	福岡県文化財調査報告書 第24集	三宅安太郎、上野正澄、筑紫　豊	1962	福岡県教育委員会
博多独楽資料集	福岡県文化財調査報告書 第25集	三宅安太郎、上野正澄、筑紫　豊	1962	福岡県教育委員会
八幡古表神社傀儡子資料集	福岡県文化財調査報告書 第26集	三宅安太郎、上野正澄、筑紫　豊	1963	福岡県教育委員会
増補福岡県神社祭事暦	福岡県文化財調査報告書 第27集	木原邦雄	1963	福岡県教育委員会
銀冠塚	福岡県文化財調査報告書 第28集	渡邉正気、松岡　史、小田富士雄、永井昌文、柳ヶ瀬勉	1963	福岡県教育委員会
須玖岡本遺跡	福岡県文化財調査報告書 第29集	鏡山　猛、森貞次郎、岡崎　敬、渡邉正気、小田富士雄	1963	福岡県教育委員会
史跡 福岡城跡	福岡県文化財調査報告書 第30集	筑紫　豊、首藤次男、髙野狐鹿	1964	福岡県教育委員会
史跡 福岡城跡	福岡県文化財調査報告書 第31集	波多野晥三、松岡　史、渡邉正気	1964	福岡県教育委員会
弥永原遺跡調査概報	福岡県文化財調査報告書 第32集	渡邉正気、松岡　史	1965	福岡県教育委員会
平原弥生古墳調査概報	福岡県文化財調査報告書 第33集	原田大六、大神邦博、松岡　史、渡邉正気、岡崎　敬	1965	福岡県教育委員会
昭和38年度民俗資料緊急調査(筑後・豊前の部)	福岡県文化財調査報告書 第34集		1965	福岡県教育委員会
塔原廃寺	福岡県文化財調査報告書 第35集	松岡　史、石松好雄、小田富士雄、宮小路賀宏	1967	福岡県教育委員会
伯玄社遺跡調査概報 1966夏・秋・冬	福岡県文化財調査報告書 第36集	松岡　史、亀井　勇	1968	福岡県教育委員会
炭焼古墳群	福岡県文化財調査報告書 第37集	柳田康雄、亀井　勇、宮小路賀宏、永井昌文	1968	福岡県教育委員会
今宿古墳群	福岡県文化財調査報告書 第38集	松岡　史、宮小路賀宏	1968	福岡県教育委員会
小郡遺跡発掘調査概報	福岡県文化財調査報告書 第39集	工楽善通	1968	福岡県教育委員会
大宰府史跡 昭和43年度調査概報	福岡県文化財調査報告書 第40集	藤井　功、亀井明徳	1969	福岡県教育委員会
石櫃山古墳	福岡県文化財調査報告書 第41集	渡邉正気、宮小路賀宏、古賀　寿	1969	福岡県教育委員会
油田古墳群	福岡県文化財調査報告書 第42集	渡邉正気、柳田康雄、亀井　勇、高田一美	1969	福岡県教育委員会
野添・大浦窯跡群	福岡県文化財調査報告書 第43集	小田富士雄、真野和夫、柳田康雄	1970	福岡県教育委員会
筑後国分寺	福岡県文化財調査報告書 第44集	藤井　功、横田賢次郎、亀井明徳	1970	福岡県教育委員会
浦城跡	福岡県文化財調査報告書 第45集	栗原和彦、宮小路賀宏、前川威洋	1970	福岡県教育委員会
片山古墳群	福岡県文化財調査報告書 第46集	石山　勲、松岡　史、前川威洋、副島邦弘	1970	福岡県教育委員会
大宰府史跡 昭和45年度発掘調査の概要	福岡県文化財調査報告書 第47集	亀井明徳、森田　勉、横田賢次郎	1971	福岡県教育委員会
日上遺跡	福岡県文化財調査報告書 第48集	酒井仁夫、浜田信也、長谷川誠一、川述昭人、宮小路賀宏	1971	福岡県教育委員会
小郡遺跡発掘調査概報 1967・'68・'70	福岡県文化財調査報告書 第49集	工楽善通	1971	福岡県教育委員会
古門窯跡	福岡県文化財調査報告書 第50集	上野精志	1973	福岡県教育委員会
峠山遺跡	福岡県文化財調査報告書 第51集	橘　昌信、牧野義則、上村佳典	1973	福岡県教育委員会
井原・三雲遺跡発掘調査概報 昭和49年度	福岡県文化財調査報告書 第52集	柳田康雄、橋口達也、児玉真一、小池史哲、宮崎貴夫	1975	福岡県教育委員会
井原・三雲遺跡発掘調査概報 昭和50年度	福岡県文化財調査報告書 第53集	柳田康雄、宮崎貴夫、小田雅文、丸山康晴	1976	福岡県教育委員会
薪原・奴山古墳群	福岡県文化財調査報告書 第54集	石山　勲、川述昭人	1977	福岡県教育委員会
須玖・岡本遺跡	福岡県文化財調査報告書 第55集	佐々木隆彦、宮小路賀宏	1980	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　①

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
春日御供田区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告	福岡県文化財調査報告書 第56集	井上裕弘、浜田信也、川述昭人、森田　勉、佐々木隆彦	1980	福岡県教育委員会
羽根戸古墳群	福岡県文化財調査報告書 第57集	浜田信也、木下　修	1980	福岡県教育委員会
三雲遺跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第58集	柳田康雄、小池史哲、橋口達也、森田　勉、馬田弘稔、川村　博、児玉真一	1980	福岡県教育委員会
干潟遺跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第59集	橋口達也、副島邦弘、田崎博之、横田賢次郎、森田　勉	1980	福岡県教育委員会
三雲遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第60集	柳田康雄、小池史哲、馬田弘稔、池邉元明、立石雅文、丸山康晴、荒武麗子、 森田　勉、木下　修、新原正典 、中間研志	1981	福岡県教育委員会
筑前秋月荒平城跡	福岡県文化財調査報告書 第61集	副島邦弘、木下　修、磯村幸男	1982	福岡県教育委員会
浜山遺跡B地点	福岡県文化財調査報告書 第62集	中間研志	1982	福岡県教育委員会
三雲遺跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第63集	柳田康雄、小池史哲、森田　勉、児玉真一、丸山康晴、川村　博、平田定幸、 馬田弘稔、橋口達也	1982	福岡県教育委員会
阿弥陀堂遺跡	福岡県文化財調査報告書 第64集	宮小路賀宏、根来昭仁	1982	福岡県教育委員会
三雲遺跡Ⅳ	福岡県文化財調査報告書 第65集	小池史哲、柳田康雄、森田　勉、桜井康治、荒武麗子、木下　修、児玉真一、新原正典 、馬田弘稔、 池邉元明、立石雅文、川村　博、片岡宏二、副島邦弘、橋口達也	1983	福岡県教育委員会
三沢蓮ヶ浦遺跡	福岡県文化財調査報告書 第66集	宮小路賀宏、片岡宏二	1984	福岡県教育委員会
国道200号線バイパス関係埋蔵文化財調査概報	福岡県文化財調査報告書 第67集	柳田康雄、栗原和彦、橋口達也、浜田信也、中間研志、小池史哲、伊崎俊秋、 木下　修、馬田弘稔、永井昌文、三辻利一	1984	福岡県教育委員会
桂川・土師古墳	福岡県文化財調査報告書 第68集	井上裕弘	1984	福岡県教育委員会
三雲遺跡南小路地区編	福岡県文化財調査報告書 第69集	柳田康雄、馬田弘稔、小池史哲、立石雅文、馬淵久夫、平尾良光	1985	福岡県教育委員会
東小田遺跡群 一峰遺跡・七板遺跡F区―	福岡県文化財調査報告書 第70集	佐土原逸男、佐々木隆彦、石山　勲	1985	福岡県教育委員会
観音丸遺跡・向野古墳群・三船山遺跡	福岡県文化財調査報告書 第71集	川述昭人、池邉元明、木下　修	1985	福岡県教育委員会
西新町遺跡	福岡県文化財調査報告書 第72集	柳田康雄、赤司善彦	1985	福岡県教育委員会
草場河床遺跡	福岡県文化財調査報告書 第73集	井上裕弘	1985	福岡県教育委員会
瀬高地区遺跡(権現塚南遺跡・大江南遺跡)・上長延1～3号墳	福岡県文化財調査報告書 第74集	川述昭人	1986	福岡県教育委員会
千鳥古墳群Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第75集	飛野博文、浜田信也	1987	福岡県教育委員会
大江北遺跡	福岡県文化財調査報告書 第76集	川述昭人、田中康信	1987	福岡県教育委員会
冥加塚遺跡	福岡県文化財調査報告書 第77集	川述昭人、伊崎俊秋、飛野博文、栗原和彦	1987	福岡県教育委員会
仙道古墳群	福岡県文化財調査報告書 第78集	石山　勲	1987	福岡県教育委員会
箱崎遺跡	福岡県文化財調査報告書 第79集	浜田信也、栗原和彦	1987	福岡県教育委員会
牛頸窯跡群Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第80集	池邉元明、川述昭人、森田　勉、赤司善彦	1988	福岡県教育委員会
広石古墳群 V-1号墳	福岡県文化財調査報告書 第81集	栗原和彦、飛野博文	1988	福岡県教育委員会
上枇杷遺跡・金栗遺跡	福岡県文化財調査報告書 第82集	川述昭人	1988	福岡県教育委員会
吉木遺跡	福岡県文化財調査報告書 第83集	高橋　章、谷口知子、小池史哲	1989	福岡県教育委員会
求菩提山修験道遺跡	福岡県文化財調査報告書 第84集	高橋　章、重松敏美、宮小路賀宏、丹羽　博	1989	福岡県教育委員会
矢留遺跡	福岡県文化財調査報告書 第85集	飛野博文、高橋　章	1989	福岡県教育委員会
乙隈天道町遺跡	福岡県文化財調査報告書 第86集	児玉真一、水ノ江和同	1989	福岡県教育委員会
干潟遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第87集	伊崎俊秋、宮小路賀宏	1989	福岡県教育委員会
御笠ノ森遺跡	福岡県文化財調査報告書 第88集	浜田信也	1989	福岡県教育委員会
牛頸窯跡群Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第89集	池邉元明、飛野博文、川述昭人、倉住靖彦、赤司善彦、日高正幸、森田　勉	1989	福岡県教育委員会
小路遺跡・若宮古墳群・堂の浦古墳群	福岡県文化財調査報告書 第90集	児玉真一	1990	福岡県教育委員会
犬鳴Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第91集	副島邦弘、小方良臣、古野千枝子、中村正夫、大村利通、中橋孝博	1990	福岡県教育委員会
山家人形原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第92集	小池史哲	1990	福岡県教育委員会
井牟田古墳群	福岡県文化財調査報告書 第93集	小池史哲	1991	福岡県教育委員会
犬鳴Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第94集	馬田弘稔、副島邦弘、飛野博文、小方良臣	1991	福岡県教育委員会
白峯遺跡	福岡県文化財調査報告書 第95集	中間研志	1992	福岡県教育委員会
菩提寺古寺古墳群	福岡県文化財調査報告書 第96集	児玉真一	1992	福岡県教育委員会
吉塚本町遺跡	福岡県文化財調査報告書 第97集	井上裕弘、日高正幸	1992	福岡県教育委員会
駿河遺跡	福岡県文化財調査報告書 第98集	池邉元明	1992	福岡県教育委員会
荒堀雨久保遺跡	福岡県文化財調査報告書 第99集	池邉元明	1992	福岡県教育委員会
犬鳴Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第100集	馬田弘稔、小方良臣	1992	福岡県教育委員会
遺跡詳細分布調査報告書	福岡県文化財調査報告書 第101集	井上裕弘	1992	福岡県教育委員会
戸原堀ノ内遺跡	福岡県文化財調査報告書 第102集	小池史哲	1993	福岡県教育委員会
砥上上林遺跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第103集	小池史哲	1993	福岡県教育委員会
小柳遺跡	福岡県文化財調査報告書 第104集	中間研志	1993	福岡県教育委員会
真奈板遺跡	福岡県文化財調査報告書 第105集	飛野博文、水ノ江和同、栗焼憲児	1993	福岡県教育委員会
莵ギ坂古墳群	福岡県文化財調査報告書 第106集	木下　修	1993	福岡県教育委員会
大宰府条坊跡 第127次	福岡県文化財調査報告書 第107集	赤司善彦	1993	福岡県教育委員会
久富市ノ玉遺跡	福岡県文化財調査報告書 第108集	赤司善彦	1993	福岡県教育委員会
高江原口遺跡	福岡県文化財調査報告書 第109集	赤司善彦	1993	福岡県教育委員会
下唐原居屋敷遺跡	福岡県文化財調査報告書 第110集	飛野博文	1993	福岡県教育委員会
池ノ本遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第111集	飛野博文	1993	福岡県教育委員会
辻の上遺跡	福岡県文化財調査報告書 第112集	木下　修	1993	福岡県教育委員会
福岡県の近代化遺産	福岡県文化財調査報告書 第113集	児玉真一	1993	福岡県教育委員会
別所次郎丸遺跡	福岡県文化財調査報告書 第114集	小川泰樹	1994	福岡県教育委員会
前田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第115集	赤司善彦	1994	福岡県教育委員会
宗原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第116集	水ノ江和同	1994	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　②

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
草野古川遺跡	福岡県文化財調査報告書 第117集	飛野博文	1994	福岡県教育委員会
史跡筑前国分寺跡	福岡県文化財調査報告書 第118集	川述昭人	1994	福岡県教育委員会
原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第119集	赤司善彦	1994	福岡県教育委員会
栗崎遺跡	福岡県文化財調査報告書 第120集	馬田弘稔、小川泰樹	1995	福岡県教育委員会
三毛門放生田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第121集	吉田東明	1995	福岡県教育委員会
新延貝塚	福岡県文化財調査報告書 第122集	小池史哲	1995	福岡県教育委員会
龍頭遺跡	福岡県文化財調査報告書 第123集	中間研志、佐藤昭則	1996	福岡県教育委員会
久富斗代遺跡	福岡県文化財調査報告書 第124集	吉田東明	1996	福岡県教育委員会
町口遺跡・西森田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第125集	赤司善彦、赤川正秀	1996	福岡県教育委員会
浦ノ田A・B遺跡	福岡県文化財調査報告書 第126集	井上裕弘	1996	福岡県教育委員会
塚崎東畑遺跡	福岡県文化財調査報告書 第127集	佐々木隆彦	1997	福岡県教育委員会
崑沙門遺跡	福岡県文化財調査報告書 第128集	飛野博文	1997	福岡県教育委員会
下高橋馬屋元遺跡(1)	福岡県文化財調査報告書 第129集	赤司善彦、重藤輝行	1997	福岡県教育委員会
堅粕遺跡群 ―千代1丁目遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第130集	池邉元明	1997	福岡県教育委員会
君畑遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第131集	池邉元明	1997	福岡県教育委員会
下林西田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第132集	伊崎俊秋	1998	福岡県教育委員会
下高橋馬屋元遺跡(2)	福岡県文化財調査報告書 第133集	赤司善彦、重藤輝行、田上稔	1998	福岡県教育委員会
下原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第134集	飛野博文	1998	福岡県教育委員会
松崎城跡	福岡県文化財調査報告書 第135集	森井啓次	1998	福岡県教育委員会
天然記念物カササギ生息地保存管理計画策定調査報告	福岡県文化財調査報告書 第136集	児玉真一	1999	福岡県教育委員会
天生田大池遺跡	福岡県文化財調査報告書 第137集	吉村靖徳	1999	福岡県教育委員会
久泉遺跡	福岡県文化財調査報告書 第138集	新原正典 、水ノ江和同 、小田和利	1999	福岡県教育委員会
新代広ミ遺跡	福岡県文化財調査報告書 第139集	新原正典 、岸本　圭	1999	福岡県教育委員会
大鎧遺跡・倉谷古墳群	福岡県文化財調査報告書 第140集	飛野博文	1999	福岡県教育委員会
野添遺跡	福岡県文化財調査報告書 第141集	飛野博文、吉村靖徳 、中橋孝博	1999	福岡県教育委員会
芦屋町山鹿地区芦屋層群漸新世化石群調査報告	福岡県文化財調査報告書 第142集	水ノ江和同	1999	福岡県教育委員会
伊良原 ―民俗文化財の調査―	福岡県文化財調査報告書 第143集	小池史哲、野中邦重、川本義継、緒方順年、一川淳江、清水哲夫、木村達美、 松原孝俊、佐々木哲哉、服部英雄、永尾正剛、宮本雅明、錦織亮介、太田正道、 真鍋　徹、藪本美考、飛野博文、太田泰弘	1999	福岡県教育委員会
羽熊遺跡	福岡県文化財調査報告書 第144集	飛野博文	2000	福岡県教育委員会
陣山屋敷遺跡	福岡県文化財調査報告書 第145集	小川泰樹、野村憲一、中橋孝博	2000	福岡県教育委員会
寄原遺跡・長者原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第146集	小池史哲、飛野博文、大澤正己、鈴木瑞穂	2000	福岡県教育委員会
竹重遺跡	福岡県文化財調査報告書 第147集	森井啓次	2000	福岡県教育委員会
森原・藤坂古墳群	福岡県文化財調査報告書 第148集	飛野博文、森井啓次、本田光子	2000	福岡県教育委員会
頓野横道遺跡・浦田池南遺跡	福岡県文化財調査報告書 第149集	馬田弘稔、木下　修、水ノ江和同	2000	福岡県教育委員会
横溝中島遺跡	福岡県文化財調査報告書 第150集	小田和利	2000	福岡県教育委員会
北大手木遺跡	福岡県文化財調査報告書 第151集	飛野博文、本田岳秋	2000	福岡県教育委員会
上別府沖代遺跡・上別府園田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第152集	小池史哲、伊崎俊秋、重藤輝行	2000	福岡県教育委員会
築城五反田遺跡・築城小迫遺跡	福岡県文化財調査報告書 第153集	小池史哲	2000	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第154集	重藤輝行、森井啓次、大庭孝夫	2000	福岡県教育委員会
浦ノ田遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第155集	吉田東明	2000	福岡県教育委員会
曽根田前田遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第156集	岡寺　良	2001	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第157集	森井啓次、重藤輝行、大庭孝夫、唐木田芳文	2001	福岡県教育委員会
長野古墳群	福岡県文化財調査報告書 第158集	小田和利	2001	福岡県教育委員会
農林漁業用揮発油税財源身替農免農道関係埋蔵文化財調査報告	福岡県文化財調査報告書 第159集	小池史哲、飛野博文、中橋孝博	2001	福岡県教育委員会
川原西遺跡(第3地点)	福岡県文化財調査報告書 第160集	水ノ江和同	2001	福岡県教育委員会
越路六郎遺跡・越路貴船遺跡	福岡県文化財調査報告書 第161集	小池史哲、飛野博文	2001	福岡県教育委員会
屋永東原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第162集	飛野博文、重藤輝行、吉武孝礼	2001	福岡県教育委員会
内ヶ磯窯跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第163集	岸本　圭、岡寺　良、大庭孝夫	2001	福岡県教育委員会
山ノ上遺跡・赤坂古墳群	福岡県文化財調査報告書 第164集	小田和利	2001	福岡県教育委員会
本郷流川遺跡	福岡県文化財調査報告書 第165集	重藤輝行	2001	福岡県教育委員会
徳政宮ノ上遺跡	福岡県文化財調査報告書 第166集	飛野博文	2002	福岡県教育委員会
彼坪遺跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第167集	飛野博文、吉村靖徳、本田岳秋	2002	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅳ	福岡県文化財調査報告書 第168集	吉田東明、宮地聡一郎	2002	福岡県教育委員会
宝満山遺跡群・浦ノ田遺跡跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第169集	森井啓次、岡寺　良、野口未幾、平尾和久、他	2002	福岡県教育委員会
内ヶ磯窯跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第170集	岸本　圭、大庭孝夫	2002	福岡県教育委員会
流川地区遺跡群	福岡県文化財調査報告書 第171集	飛野博文、森井啓次、寺島克史、大澤正巳、清水芳裕、(財)九州環境管理協会	2002	福岡県教育委員会
殖木平田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第172集	重藤輝行	2003	福岡県教育委員会
和泉トノエ遺跡	福岡県文化財調査報告書 第173集	小川泰樹 、永見秀徳	2003	福岡県教育委員会
尻高後椀遺跡	福岡県文化財調査報告書 第174集	宮地聡一郎	2003	福岡県教育委員会
南原西門田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第175集	飛野博文	2003	福岡県教育委員会
越路長様遺跡・越路鍛冶屋原遺跡・築城小迫遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第176集	秦　憲二、森井啓次、岡寺未幾	2003	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　③

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
植松遺跡	福岡県文化財調査報告書 第177集	吉村靖徳	2003	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅴ	福岡県文化財調査報告書 第178集	吉田東明、坂元雄紀	2003	福岡県教育委員会
市丸城居屋敷遺跡・六郎堂ノ前遺跡・六郎神田遺跡・六郎桜木遺跡	福岡県文化財調査報告書 第179集	秦　憲二、小池史哲、飛野博文	2003	福岡県教育委員会
湯無田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第180集	杉原敏之	2003	福岡県教育委員会
内ヶ磯窯跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第181集	岸本　圭、大庭孝夫	2003	福岡県教育委員会
彼坪遺跡Ⅱ・下高橋敷町遺跡・下高橋十ノ江遺跡	福岡県文化財調査報告書 第182集	飛野博文、岡寺未幾、杉原敏之、下山正一、(株)古環境研究所、重藤輝行	2003	福岡県教育委員会
木井馬場井口遺跡・味噌ヶ谷越古道跡	福岡県文化財調査報告書 第183集	飛野博文、宮地聡一郎、岡寺　良、他	2003	福岡県教育委員会
長崎街道	福岡県文化財調査報告書 第184集	丸山雍成、佐々木哲哉、服部英雄、宮本雅明、中野　等、稲津義行、佐藤尚隆、 山品信義、水上　裕、牛嶋英俊、吉田　保、則行　侄、檜和田數俊、貝嶋亮三、 大町秀一、百富進美、水城泰年、深町希彦	2004	福岡県教育委員会
朝田塚花遺跡	福岡県文化財調査報告書 第185集	平尾和久	2004	福岡県教育委員会
本庄節畑遺跡	福岡県文化財調査報告書 第186集	飛野博文、木村達美	2004	福岡県教育委員会
雨窪前田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第187集	宮地聡一郎、進村真之	2004	福岡県教育委員会
竹野小学校遺跡	福岡県文化財調査報告書 第188集	岸本　圭	2004	福岡県教育委員会
浦ノ田遺跡Ⅳ	福岡県文化財調査報告書 第189集	辻田淳一郎、岸本　圭、進村真之、坂本真一、岡寺　良、加藤和歳、中橋孝博、小田裕樹	2004	福岡県教育委員会
寺ノ前遺跡	福岡県文化財調査報告書 第190集	飛野博文、杉内　郷	2004	福岡県教育委員会
徳永宮地遺跡	福岡県文化財調査報告書 第191集	森井啓次	2004	福岡県教育委員会
下町外畑遺跡・宮野運輪遺跡	福岡県文化財調査報告書 第192集	岡寺未幾、姫野健太郎、重藤輝行、飛野博文、辻田淳一郎	2004	福岡県教育委員会
三島下遺跡	福岡県文化財調査報告書 第193集	重藤輝行	2004	福岡県教育委員会
福富小畑遺跡B地点	福岡県文化財調査報告書 第194集	秦　憲二、森井啓次	2004	福岡県教育委員会
秋月街道	福岡県文化財調査報告書 第195集	丸山雍成、佐々木哲哉、服部英雄、宮本雅明、中野　等、山本公一、村上利男、 桃坂　豊、石井晴美、豊福英之、金光久雄、松本祥憲、矢野公一、黒岩　弘	2004	福岡県教育委員会
本郷流川遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第196集	岸本　圭	2005	福岡県教育委員会
中州遺跡	福岡県文化財調査報告書 第197集	進村真之	2005	福岡県教育委員会
古賀ノ前遺跡	福岡県文化財調査報告書 第198集	杉原敏之	2005	福岡県教育委員会
吉木臼木遺跡	福岡県文化財調査報告書 第199集	森井啓次	2005	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅵ	福岡県文化財調査報告書 第200集	岡寺未幾、岸本　圭、坂元雄紀	2005	福岡県教育委員会
庄司山ノ内遺跡・庄司日掛遺跡	福岡県文化財調査報告書 第201集	進村真之	2005	福岡県教育委員会
彼坪遺跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第202集	重藤輝行、吉田東明、吉村靖徳	2005	福岡県教育委員会
上庄秀遺跡	福岡県文化財調査報告書 第203集	坂元雄紀	2005	福岡県教育委員会
立屋敷丸ノ内遺跡	福岡県文化財調査報告書 第204集	杉原敏之、大坪　剛	2005	福岡県教育委員会
御供田遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第205集	重藤輝行	2005	福岡県教育委員会
古坊遺跡・高野ムカエ遺跡	福岡県文化財調査報告書 第206集	杉原敏之 、森井啓次 、岡崎健治 、中橋孝博 、志賀智史	2006	福岡県教育委員会
入道町遺跡群	福岡県文化財調査報告書 第207集	坂本真一、飛野博文、杉原敏之、進村真之、(株)古環境研究所	2006	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅶ	福岡県文化財調査報告書 第208集	重藤輝行 、坂本真一	2006	福岡県教育委員会
芦屋町山鹿地区芦屋層群漸新世化石群調査報告Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第209集	森井啓次、太田泰弘	2006	福岡県教育委員会
特別史跡大野城跡整備事業 ―太宰府口城門・尾花地区・百間石垣整備事業報告―	福岡県文化財調査報告書 第210集	田上　稔	2006	福岡県教育委員会
浦松遺跡	福岡県文化財調査報告書 第211集	杉原敏之	2007	福岡県教育委員会
明神面遺跡	福岡県文化財調査報告書 第212集	森井啓次	2007	福岡県教育委員会
古毛遺跡	福岡県文化財調査報告書 第213集	岸本　圭	2007	福岡県教育委員会
和泉小山口遺跡	福岡県文化財調査報告書 第214集	坂本真一	2007	福岡県教育委員会
五ヶ山・小川内	福岡県文化財調査報告書 第215集	伊崎俊秋、宮島　寛、東　和敬、服部英雄、吉良国光、佐々木哲哉、松村利規、 佐藤正彦、山野善郎、綿織亮介、井上　晋、山下正一、川野良信、柚原雅樹、 永渕成樹、松原孝俊、吉田洋一、本田佳奈、寺崎直利、中西裕二、谷　智子	2008	福岡県教育委員会
彼岸原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第216集	吉田東明	2008	福岡県教育委員会
竹重遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第217集	岸本　圭	2008	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅷ	福岡県文化財調査報告書 第218集	吉村靖徳、斎藤　努	2008	福岡県教育委員会
原遺跡18次	福岡県文化財調査報告書 第219集	重藤輝行	2008	福岡県教育委員会
赤坂古墳群Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第220集	岸本　圭、下原幸裕	2008	福岡県教育委員会
西新町遺跡Ⅸ	福岡県文化財調査報告書 第221集	下原幸裕、重藤輝行、吉村靖徳、秦　憲二、吉田東明、岡寺　良、大庭孝夫、平尾和久	2009	福岡県教育委員会
伊良原Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第222集	吉田東明	2009	福岡県教育委員会
長畑遺跡	福岡県文化財調査報告書 第223集	坂元雄紀	2009	福岡県教育委員会
西海道跡	福岡県文化財調査報告書 第224集	坂本真一	2009	福岡県教育委員会
特別史跡大野城跡整備事業Ⅴ〔上・下巻〕	福岡県文化財調査報告書 第225集	小澤佳憲、齋部麻矢、入佐友一郎	2010	福岡県教育委員会
山門ガラン遺跡〔上巻〕・山門牛島遺跡〔中巻〕・本吉遺跡〔下巻〕	福岡県文化財調査報告書 第226集	岸本　圭、小川泰樹、小田和利、吉村靖徳、秦　憲二、坂元雄紀、城門義廣	2010	福岡県教育委員会
竹重遺跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第227集	齋部麻矢、岸本　圭、下原幸裕、城門義廣	2010	福岡県教育委員会
福富小畑遺跡D地点	福岡県文化財調査報告書 第228集	小澤佳憲、岡田　諭	2010	福岡県教育委員会
伊良原Ⅱ〔上・下巻〕―上伊良原榎遺跡・上高屋台ノ原遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第229集	吉田東明 、下原幸裕	2011	福岡県教育委員会
井手ヶ浦窯跡群	福岡県文化財調査報告書 第230集	一瀬　智、城門義廣、坂本真一	2011	福岡県教育委員会
平原2号墳平原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第231集	今井涼子	2011	福岡県教育委員会
伊良原Ⅲ ―下伊良原塚本遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第232集	岸本　圭	2012	九州歴史資料館
大久保向原遺跡・大藪遺跡	福岡県文化財調査報告書 第233集	岸本　圭 、吉田東明	2012	九州歴史資料館
築城千代遺跡	福岡県文化財調査報告書 第234集	吉田東明、岸本　圭、下原幸裕	2012	九州歴史資料館

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　④

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
宮原金山遺跡 ―遺構・土器篇―	福岡県文化財調査報告書 第235集	下原幸裕	2012	九州歴史資料館
下木佐木安堂遺跡・東蒲池蓮池遺跡・西蒲池池田遺跡	福岡県文化財調査報告書 第236集	齋部麻矢、坂元雄紀	2012	九州歴史資料館
五ヶ山Ⅰ ―五ケ山大野遺跡・五ケ山川口遺跡・五ケ山網取遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第237集	吉田東明、岡寺未幾、今井涼子、岸本　圭、佐々木隆彦、飛野博文	2013	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡 ―V-1・2・3区―	福岡県文化財調査報告書 第238集	岡田　諭、宮地聡一郎、小澤佳憲、大庭孝夫、坂本真一	2013	九州歴史資料館
西蒲池池淵遺跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第239集	齋部麻矢 、城門義廣	2013	九州歴史資料館
東蒲池門前遺跡	福岡県文化財調査報告書 第240集	坂元雄紀、岸本　圭、齋部麻矢、城門義廣、高椋浩史、舟橋京子、田中良之、 畑山智史、中村賢太郎、米田恭子、佐々木由香、バンダリスダルシャン	2013	九州歴史資料館
彼岸原遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第241集	小澤佳憲	2013	九州歴史資料館
久路土芝掛遺跡・久路土高松遺跡	福岡県文化財調査報告書 第242集	小澤佳憲	2013	九州歴史資料館
西蒲池池淵遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第243集	齋部麻矢、城門義廣、加藤和歳、小林　啓、山崎悠郁子、(株)パリノ・サーヴェイ、(株)パレオ・ラボ	2014	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡 ―V-4～7区―	福岡県文化財調査報告書 第244集	飛野博文、宮地聡一郎	2014	九州歴史資料館
宮原金山遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第245集	下原幸裕、大澤正巳、井澤英二、中西哲也、(株)パリノ・サーヴェイ	2014	九州歴史資料館
長畑遺跡群Ⅱ地区	福岡県文化財調査報告書 第246集	吉田東明	2014	九州歴史資料館
永満寺桜馬場遺跡	福岡県文化財調査報告書 第247集	飛野博文	2014	九州歴史資料館
五ヶ山Ⅱ ―東小河内遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第248集	佐々木隆彦、岸本　圭	2014	九州歴史資料館
福岡県の中近世城館跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第249集	岡寺　良、一瀬　智、今井涼子	2014	福岡県教育委員会
福岡県の中近世城館跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 第250集	岡寺　良、一瀬　智、伊津見孝明、今井涼子、酒井芳司	2015	福岡県教育委員会
和井田遺跡・成恒山ノ内遺跡・八ッ並下ノ原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第251集	齋部麻矢、飛野博文、小池史哲、秦　憲二	2016	九州歴史資料館
塔田琵琶田遺跡第3･5次・塔田五反田遺跡・塔田キカス遺跡第2次	福岡県文化財調査報告書 第252集	大庭孝夫、小澤佳憲、吉村靖徳、渡部邦昭、細石朋希、(株)パリノ・サーヴェイ	2016	九州歴史資料館
湯柱遺跡	福岡県文化財調査報告書 第253集	吉村靖徳、岸本　圭	2016	九州歴史資料館
福岡県の中近世城館跡Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第254集	岡寺　良、酒井芳司、坂元雄紀	2016	福岡県教育委員会
伊良原Ⅳ ―上伊良原マトコロ遺跡・下伊良原フラノ遺跡 ・下伊良原東向川原遺跡・下伊良原羽後屋敷遺跡 ・下伊良原中ノ切遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第255集	小川泰樹、木下　修、小澤佳憲	2017	九州歴史資料館
伊良原Ⅴ ―下伊良原高木神社跡・下伊良原庄屋屋敷跡 ・下伊良原宮園遺跡・上伊良原高木神社跡 ・上伊良原善治遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第256集	飛野博文、杉原敏之、木村達美	2017	九州歴史資料館
伊良原Ⅵ ―下伊良原西の塚遺跡・下伊良原下地ヶ原遺跡 ・下伊良原平原遺跡・下伊良原中ノ坪遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第257集	小川泰樹、吉村靖徳、秦　憲二、城門義廣	2017	九州歴史資料館
五ケ山Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第258集	坂本真一、佐々木隆彦、秦　憲二	2017	九州歴史資料館
知恩寺跡	福岡県文化財調査報告書 第259集	吉村靖徳、小澤佳憲	2017	九州歴史資料館
福岡県の中近世城館跡Ⅳ 附.福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡	福岡県文化財調査報告書 第260集	岡寺　良、一瀬　智、酒井芳司、坂元雄紀、飛野博文、中井　均、西谷　正、服部英雄、松川博一	2017	福岡県教育委員会
伊良原Ⅶ ―下伊良原竹の内遺跡・下伊良原宮久保遺跡―	福岡県文化財調査報告書 第261集	小川泰樹、飛野博文、吉村靖徳、城門義廣	2018	九州歴史資料館
伊良原Ⅷ ―下伊良原の石造物と小堂―	福岡県文化財調査報告書 第262集	飛野博文、木下　修、木村達美	2018	九州歴史資料館
彼岸田遺跡Ⅰ	福岡県文化財調査報告書 第263集	小田和利、小林　啓、安木由美	2018	九州歴史資料館
上町遺跡2次	福岡県文化財調査報告書 第264集	坂本真一	2018	九州歴史資料館
本町遺跡	福岡県文化財調査報告書 第265集	秦　憲二	2018	九州歴史資料館
山城遺跡群・片島遺跡群	福岡県文化財調査報告書 第266集	小川 泰樹	2018	九州歴史資料館
津島福市遺跡	福岡県文化財調査報告書 第267集	坂本真一	2018	九州歴史資料館
特別史跡水城跡整備事業Ⅲ	福岡県文化財調査報告書 第268集	入佐友一郎、杉原敏之、(株)古環境研究所、(株)大塚オーミ陶業	2018	福岡県教育委員会
福岡県の近代和風建築	福岡県文化財調査報告書 第269集	田上　稔、松本将一郎	2018	福岡県教育委員会
保加町遺跡	福岡県文化財調査報告書 第270集	秦　憲二	2019	九州歴史資料館
宮ノ前遺跡	福岡県文化財調査報告書 第271集	飛野博文、坂本真一	2019	九州歴史資料館
三明寺古墳群	福岡県文化財調査報告書 第272集	岡田　諭	2020	九州歴史資料館
中原遺跡	福岡県文化財調査報告書 第273集	岡田　諭	2020	九州歴史資料館
福岡県の戦争遺跡	福岡県文化財調査報告書 第274集	伊崎俊秋、小川泰樹、森井啓次、渡部邦昭	2020	福岡県教育委員会
鈴ヶ山遺跡・広ミ遺跡	広川I.C関係埋蔵文化財調査報告	小池史哲、岸本　圭、佐々木隆彦	1998	福岡県教育委員会
祇園山古墳・宗崎遺跡・甲塚遺跡・広川平原遺跡・広川赤坂遺跡・駕輿丁遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -1-	副島邦弘、渡邉正気、大川　清、高橋　章、伊藤博幸、増田精一、柳田康雄、西谷　正	1970	福岡県教育委員会
扇祇古墳群・筑後川河床遺跡・鰐口古墳・大地田遺跡・年の神遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -2-	栗原和彦、波多野晥三、川述昭人、大川　清、井　博幸、柳田康雄、副島邦弘、 櫻井康治、山崎茂孝、水城一俊	1971	福岡県教育委員会
鈴ヶ山遺跡群・鈴ヶ山古墳群・山の前古墳群・平原古墳群・平原遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -3-	西谷　正、栗原和彦、石山　勲、川述昭人、佐田　茂、 松本　肇、酒井仁夫、森田　勉、高山　純	1972	福岡県教育委員会
川原庵山6･7･8号墳・下別当1号墳・道田1号墳・原口1号墳・塔ノ原遺跡・ (付)杉塚廃寺・八並住居址	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -4-	石山　勲、酒井仁夫、川述昭人、中間研志、高橋　章	1974	福岡県教育委員会
西中隈遺跡・宮裏遺跡・上棚田遺跡・ハサコの宮遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -5-	酒井仁夫、西谷　正、上野精志、Richard pearson、山手誠治	1974	福岡県教育委員会
萩原遺跡・扇祇3号墳・山の口 遺跡・畑添1・2地点・桶田山遺跡・向佐野遺跡・長浦窯跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -6-	川述昭人、栗原和彦、中間研志、酒井仁夫、佐藤保雄、川述公記、中牟田賢治、 亀井明徳、高橋　章	1975	福岡県教育委員会
八隈遺跡 ―古墳群・集落遺跡―	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -7-	酒井仁夫、松村一良、松浦宥一郎、	1976	福岡県教育委員会
平原遺跡・柳ヶ谷遺跡・都地原遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -8-	池邉元明、酒井仁夫、上野精志、松村一良	1977	福岡県教育委員会
王城山C古墳群・吉野C古墳群・原口古墳・喜一田古墳・唐山古墳・ 王城山A古墳群・古野A古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -9-	酒井仁夫、尾崎喜左雄、小林敏夫、石川克博、右島和夫、近藤喬一、寺島孝一、 田中勝弘、松浦俊和、川述昭人、橋本久和、森田　勉、石山　勲、浜田信也	1977	福岡県教育委員会
乙植木古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -10-	石山　勲、藤口悦子	1977	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　⑤

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
小原遺跡・小原古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -11-	児玉真一、酒井仁夫、副島邦弘、佐土原逸男、松村一良	1977	福岡県教育委員会
向山遺跡・向山古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -12-	中間研志、稲富裕和、上野精志、宇野慎敏	1977	福岡県教育委員会
鞍手郡鞍手町所在遺跡群、 高木遺跡群・真福寺貝塚・火ノ尾古墳群・八尋旭古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -13-	副島邦弘、石山　勲、佐土原逸男、平ノ内幸治、日高正幸、 江本義理、児玉真一、宇野慎敏、	1977	福岡県教育委員会
大道端遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -14-	関　晴彦、山口信夫、木川雅樹、高田弘信、馬田弘稔、佐土原裕昌、杉野悦郎、 森田　勉、副島邦弘、平ノ内幸治、稲富裕和、田中良之、宮内克己、西谷　正、大澤正巳	1977	福岡県教育委員会
五万騎塚遺跡・東光寺城遺跡・岩井城遺跡・高良山大宮司邸遺跡・ 高良山大祝邸遺跡・鏡山御躰所遺跡・祇園山西側遺跡・宗崎遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -15-	副島邦弘、酒井仁夫、大川　清、戸田有二、川述昭人、藤村東男、波多野晥三、 八尋和泉、藤口悦子	1977	福岡県教育委員会
遠園遺跡・茶臼山城跡・茶臼山遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -16-	上野精志、栗原和彦、亀井明徳、森本朝子、松村一良	1977	福岡県教育委員会
裏ノ田遺跡・雉子ヶ尾窯跡・成屋形遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -17-	酒井仁夫、岩瀬正信、川述昭人	1977	福岡県教育委員会
唐人塚遺跡・前田遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -18-	川述昭人、森田　勉、平ノ内幸治、大澤正巳	1977	福岡県教育委員会
西中ノ沢遺跡・坊野遺跡・野口遺跡・道添遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -19-	酒井仁夫、関　晴彦	1977	福岡県教育委員会
咲花遺跡・北田遺跡・都地遺跡、汐井掛墳墓	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -20-	上野精志	1978	福岡県教育委員会
太田町遺跡・川原庵山遺跡・水上遺跡・深町1･2号墳・原口B1号墳・古野古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -21-	石山　勲、中間研志	1978	福岡県教育委員会
汐井掛古墳	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -22-	上野精志、池邉元明、渡辺健二、酒井仁夫、中牟田賢治、副島邦弘、中間研志、 石山　勲、増田精一、蒲原宏行	1978	福岡県教育委員会
段の上遺跡・後牟田遺跡、音丸城遺跡、(付)福岡県中世山城地名表	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -23-	副島邦弘、倉住靖彦、近沢康治	1978	福岡県教育委員会
剣塚遺跡群〔上･下巻〕	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -24-	石山　勲、中間研志、石松好雄、森田　勉、高橋　章、亀井明徳、平島勇夫	1978	福岡県教育委員会
道場山遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -25-	川述昭人	1978	福岡県教育委員会
水城跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -26-	亀井明徳、酒井仁夫、山本輝雄	1978	福岡県教育委員会
祇園山古墳・祇園山2号墳・七曲山古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -27-	石山　勲、大川　清、吉本堯俊、永井昌文、古賀　寿、樋口一成、横田義章、森田　勉、高橋　章、 本田光子、橋口達也、副島邦弘、平ノ内幸治	1979	福岡県教育委員会
汐井掛遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -28-	池邉 元明、児玉真一、平ノ内幸治、酒井仁夫、関　晴彦	1979	福岡県教育委員会
中屋敷遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -29-	上野精志、副島邦弘	1979	福岡県教育委員会
辻畑遺跡・西尾山古墳群	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -30-	石山　勲、馬田弘稔、平ノ内幸治	1979	福岡県教育委員会
北牟田遺跡・ハサコの宮遺跡・松尾口遺跡 〔上･中･下巻〕	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -31-	酒井仁夫、橋口達也、森田　勉、馬田弘稔	1979	福岡県教育委員会
上々浦遺跡・西原遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -1-	佐々木隆彦、石山　勲	1982	福岡県教育委員会
立野遺跡・下原遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -2-	佐々木隆彦、児玉真一	1983	福岡県教育委員会
西原C遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -3-	中間研志	1984	福岡県教育委員会
柿原古墳群Ⅰ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -4-	新原正典、中間研志、池邉元明、平嶋文博	1984	福岡県教育委員会
立野遺跡(2)	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -5-	児玉真一、木下　修、伊崎俊秋、武田光正	1984	福岡県教育委員会
柿原古墳群Ⅱ〔上･中･下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -6-	中間研志、新原正典、平嶋文博、永井昌文	1986	福岡県教育委員会
小郡正尻遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -7-	小池史哲、木下　修、児玉真一、佐々木隆彦、伊崎俊秋、赤川正秀、小田和利、林　弘也	1986	福岡県教育委員会
立野遺跡(3) 〔上･中･下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -8-	伊崎俊秋、児玉真一、武田光正、木下　修、佐々木隆彦	1986	福岡県教育委員会
塔ノ上遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -9-	伊崎俊秋 、木下　修 、宮田浩之	1987	福岡県教育委員会
井上薬師堂遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -10-	緒方　泉、児玉真一、木村幾多郎、井上裕弘、倉住靖彦、畑中健一、野井英明、林　弘也	1987	福岡県教育委員会
小郡前伏遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -11-	小田和利、高橋　章	1987	福岡県教育委員会
柿原古墳群Ⅲ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -12-	小池史哲、新原正典、小田和利、日高正幸、武田光正	1987	福岡県教育委員会
薬師堂東遺跡 〔上･中･下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -13-	中間研志、小田和利、森山栄一、平嶋文博	1988	福岡県教育委員会
宮原遺跡Ⅰ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -14-	児玉真一、井上裕弘、石山　勲、武田光正	1988	福岡県教育委員会
大板井遺跡 〔上･下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -15-	速水信也、柏原孝俊	1988	福岡県教育委員会
高松家墓地	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -16-	小田和利、井上裕弘、中間研志、片岡宏二、林　愃昭、田中康信、中橋孝博、林　弘也	1990	福岡県教育委員会
宮原遺跡Ⅱ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -17-	伊崎俊秋、武田光正、児玉真一	1990	福岡県教育委員会
上の原遺跡Ⅰ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -18-	井上裕弘、木村幾多郎	1990	福岡県教育委員会
柿原遺跡群Ⅳ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -19-	小池史哲、新原正典、日高正幸、武田光正	1990	福岡県教育委員会
上ノ宿遺跡・惠蘇山遺跡・稗畑遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -20-	井上裕弘、木下　修	1991	福岡県教育委員会
杷木宮原遺跡・中町裏遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -21-	小田和利、高橋　章、日高正幸、佐々木隆彦	1991	福岡県教育委員会
鎌塚遺跡・山ノ神遺跡・鎌塚西遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -22-	井上裕弘、木下　修、小池史哲、水ノ江和同	1992	福岡県教育委員会
山田遺跡群	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -23-	小池史哲、中橋孝博、土肥直美、栗原和彦、伊崎俊秋、日高正幸	1992	福岡県教育委員会
大迫遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -24-	小田和利、中橋孝博、林　弘也	1992	福岡県教育委員会
鞍掛遺跡・前田遺跡・西ノ迫遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -25-	佐々木隆彦、高橋　章、中間研志、日高正幸	1993	福岡県教育委員会
宮巡遺跡・春園遺跡・十三塚遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -26-	木下　修、馬田弘稔、伊崎俊秋、平嶋文博	1993	福岡県教育委員会
上の原遺跡Ⅱ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -27-	小田和利、井上裕弘	1993	福岡県教育委員会
狐塚南遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -28-	小池史哲	1994	福岡県教育委員会
妙見古墳群・堤古墳	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -29-	佐々木隆彦、小池史哲	1994	福岡県教育委員会
長田遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -30-	井上裕弘、木村幾多郎、大澤正巳	1994	福岡県教育委員会
高原遺跡・ロノ坪遺跡 〔上･下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -31-	木下　修、伊崎俊秋、小田和利	1994	福岡県教育委員会
治部ノ上遺跡・座禅寺遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -32-	中間研志、児玉真一、水ノ江和同	1994	福岡県教育委員会
上の原遺跡Ⅲ 〔上･下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -33-	小田和利、高橋　章	1995	福岡県教育委員会
長島遺跡Ⅰ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -34-	小池史哲	1995	福岡県教育委員会
外之隈遺跡Ⅰ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -35-	伊崎俊秋、小田和利、田中良之、金　宰賢、本田光子、奥田　尚、佐藤尚隆	1995	福岡県教育委員会
大庭・久保遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -36-	佐々木隆彦 、中橋孝博 、本田光子 、井上裕弘	1995	福岡県教育委員会
柿原Ⅰ縄文遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -37-	中間研志	1995	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　⑥

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
井上薬師堂遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -38-	児玉真一、佐々木隆彦	1996	福岡県教育委員会
中道遺跡・石成久保遺跡・大還端遺跡 〔上・下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -39-	高橋　章、伊崎俊秋、小田和利	1996	福岡県教育委員会
外之隈遺跡Ⅱ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -40-	小田和利、井上裕弘、伊崎俊秋、時枝克安、伊藤清明、齋藤　努	1996	福岡県教育委員会
柿原遺跡群Ⅵ・大谷遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -41-	小池史哲、伊崎俊秋、小田和利	1996	福岡県教育委員会
天園遺跡・夕月遺跡・上池田遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -42-	中間研志、井上裕弘	1996	福岡県教育委員会
クリナラ縄文遺跡・若宮遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -43-	中間研志 、伊崎俊秋	1997	福岡県教育委員会
笹隈遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -44-	伊崎俊秋	1997	福岡県教育委員会
志波桑ノ本遺跡・志波岡本遺跡・江栗遺跡 〔上・下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -45-	小池史哲、中間研志、岸本　圭	1997	福岡県教育委員会
宮原遺跡Ⅲ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -46-	児玉真一、武田光正、伊崎俊秋	1997	福岡県教育委員会
西法寺遺跡・経塚遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -47-	佐々木隆彦、小田和利	1997	福岡県教育委員会
才田遺跡・東才田遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -48-	伊崎俊秋、宮田浩之	1998	福岡県教育委員会
楠田遺跡・小覚原遺跡・二十谷遺跡・陣内遺跡・上野原遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -49-	中間研志、伊崎俊秋、佐々木隆彦、井上裕弘、大澤正巳、杉原敏之	1998	福岡県教育委員会
原の東遺跡・中妙見遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -50-	小池史哲	1998	福岡県教育委員会
宮原遺跡Ⅳ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -51-	児玉真一、木下　修、武田光正、伊崎俊秋	1998	福岡県教育委員会
宮原遺跡Ⅴ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -52-	児玉真一、武田光正、伊崎俊秋	1998	福岡県教育委員会
原の東遺跡Ⅱ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -53-	佐々木隆彦、木下　修、水ノ江和同、杉原敏之	1999	福岡県教育委員会
金場旧石器縄文遺跡 〔上・下巻〕	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -54-	中間研志	1999	福岡県教育委員会
長島遺跡Ⅱ	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -55-	小田和利	1999	福岡県教育委員会
畑田遺跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -56-	伊崎俊秋	1999	福岡県教育委員会
雨窪遺跡群	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -1-	飛野博文、坂元雄紀、杉原敏之、酒井芳司、坂本真一	2004	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅱ区1	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -2-	城門義廣、松川博一	2012	九州歴史資料館
カワラケ田遺跡2次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -3-	坂本真一、藤島志考	2012	九州歴史資料館
馬場長町遺跡・馬場仁王免遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -4-	秦　憲二、坂元雄紀	2013	九州歴史資料館
岩尾古墳群・上片島遺跡群	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -5-	城門義廣、進村真之	2013	九州歴史資料館
竹並大内田遺跡・草場角名遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -6-	飛野博文、池邉元明、宮田　剛、大里弥生	2013	九州歴史資料館
ハカノ本遺跡2·3次調査・安雲山田遺跡1地点	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -7-	秦　憲二、小川泰樹、宮田　剛	2013	九州歴史資料館
緒方古墳群・七ツ枝遺跡・龍毛遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -8-	飛野博文、吉村靖徳、荻　幸二、末永浩一、他	2013	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅰ区1	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -9-	飛野博文	2014	九州歴史資料館
砦見川ノ上遺跡・カワラケ田遺跡2次・八ツ重遺跡2次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -10-	坂本真一、城門義廣、宮田　剛	2014	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅱ区2	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -11-	城門義廣	2014	九州歴史資料館
宝山小出遺跡・宝山桑ノ木遺跡・流末溝田遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -12-	小川泰樹、吉村靖徳、秦　憲二、城門義廣、大里弥生	2014	九州歴史資料館
福原長者原遺跡第3次・福原寄原遺跡第2・3次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -13-	岡田　論、飛野博文、小林　啓、大澤正巳、鈴木瑞穂、杉山真二	2014	九州歴史資料館
京ヶ辻遺跡(1·3区)・国作三角遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -14-	坂本真一、大庭孝夫、海出淳平、宮田　剛	2014	九州歴史資料館
石堂大石ヶ丸の氷室・福間菜切古墳群2次・中村西峰尾遺跡 ・中村山柿遺跡2次・松江黒部遺跡・川内下野添遺跡1·2次 ・大村上野地遺跡・荒堀山田原遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -15-	小澤佳憲、新原正典、秦　憲二、城門義廣、藤島志考、大森真衣子、細石朋希	2014	九州歴史資料館
土佐井遺跡2区・土佐井小迫遺跡・唐原山城跡 ・穴ヶ葉山南古墳群2次・新地南古墳	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -16-	飛野博文、吉村靖徳、荻　幸二	2014	九州歴史資料館
砦見大塚古墳・カワラケ田遺跡2次調査Ⅳ区	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -17-	坂本真一、小嶋　篤、朽津信明、中牟田義博、岩橋由季、大澤正巳、㈱アクト・ビズ	2015	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅰ区2	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -18-	飛野博文	2015	九州歴史資料館
矢留堂ノ前遺跡〔上巻〕	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -19-	秦　憲二	2015	九州歴史資料館
矢留堂ノ前遺跡〔下巻〕	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -19-	秦　憲二	2015	九州歴史資料館
京ヶ辻遺跡(2区)・安武·深田遺跡(B2·C区)	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -20-	坂本真一、秦　憲二、城門義廣、海出淳平、白石　純、㈱パリノ・サーヴェイ	2015	九州歴史資料館
鳥越下屋敷遺跡・大村湯福遺跡・鬼木鉾立遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -21-	小川泰樹、吉村靖徳、岡田　論	2015	九州歴史資料館
塔田琵琶田遺跡第2次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -22-	小澤佳憲、大森真衣子、㈱古環境研究所	2015	九州歴史資料館
ガサメキ古墳群・皿山古墳群	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -23-	飛野博文、吉村靖徳、齋部麻矢、小嶋　篤、松﨑友理、㈱古環境研究所、末次大輔、 秦　憲二、城門義廣	2015	九州歴史資料館
時来遺跡第1·2次・永久笠田遺跡第2次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -24-	小澤佳憲、吉村靖徳、岩橋由季	2016	九州歴史資料館
西ノ原遺跡第3·4次・大西遺跡第4次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -25-	飛野博文、小澤佳憲、坂本真一、海出淳平	2016	九州歴史資料館
塔田琵琶田遺跡第4次〔本文編〕	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -26-	小澤佳憲、細石朋希、小林　啓、(株)パレオ・ラボAMS年代測定グループ	2016	九州歴史資料館
塔田琵琶田遺跡第6次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -27-	小澤佳憲、細石朋希、白石　純、石田智子、足立達郎、田尻義了、小山内康人	2016	九州歴史資料館
四ツ塚山遺跡・鏡迫古墳群・上唐原榎町遺跡3·4次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -28-	秦　憲二、坂本真一、小嶋　篤、志賀智史	2016	九州歴史資料館
小山田墓地・下松尾墓地・京尾遺跡・若宮条里遺構・田尻遺跡 ・別当塚古墳・杉園遺跡・門田2号墳	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -1-	柳田康雄、木下　修、靏久嗣郎、井上裕弘、小池史哲、佐々木隆彦、宮﨑貴夫、 甲元真之、松井忠春	1976	福岡県教育委員会
33地点・原古墳群・井手ノ原遺跡	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -2-	井上裕弘、木下　修、柳田康雄、靏久嗣郎、松本　昺、小池史哲	1976	福岡県教育委員会
門田遺跡 ―門田地区・下原遺跡・油田遺跡―	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -3-	井上裕弘、柳田康雄、丸山康晴、木下　修、佐々木隆彦、宮﨑貴夫、藤瀬禎博、 宮小路賀宏、大澤正巳	1977	福岡県教育委員会
柏田遺跡の調査 〔上・下巻〕	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -4-	小池史哲、松岡　史、井上裕弘、馬田弘稔、藤瀬禎博、富永直樹、高田弘信、 石橋新次、若月省吾、橘　昌信	1977	福岡県教育委員会
観音山古墳群の調査	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -5-	柳田康雄、井上裕弘、池邉元明、木下　修、小林義彦、小田雅文、櫻井康治、 大澤正巳、松本　昺、亀井　勇	1978	福岡県教育委員会
門田遺跡 ―門田地区甕棺墓群―	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -6-	佐々木隆彦、柳田康雄、木下　修、丸山康晴、永井昌文、木村幾多郎	1978	福岡県教育委員会
門田遺跡 ―辻田地区―	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -7-	井上裕弘、久村貞男、萩原博文、木下　修、小池史哲、藤瀬禎博、石橋新次、 佐々木隆彦、藤原宏志、西田正規、大澤正巳	1978	福岡県教育委員会
深原遺跡	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -8-	木下　修、橘　昌信	1978	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　⑦

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
門田遺跡 ―辻田地区墳墓群―	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -9-	井上裕弘、木下　修、小池史哲、丸山康晴、柳田康雄、永井昌文、沢田正昭、秋山隆保、大澤正巳、布目順郎、本田光子、江本義理	1978	福岡県教育委員会
原遺跡	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -10-	木下　修、柳田康雄、小林義彦、永井昌文、藤瀬禎博	1979	福岡県教育委員会
門田遺跡 ―谷地区―	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -11-	井上裕弘、木下　修、小池史哲、荒武麗子、安田喜憲、粉川昭平、松本　勗、林　弘也	1979	福岡県教育委員会
辻田遺跡	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -12-	小池史哲、木下　修、石橋新次、井上裕弘、小林義彦、粉川昭平、松本　勗、林　弘也、横田義章	1979	福岡県教育委員会
竹原八幡塚古墳・井手ノ元遺跡・久保遺跡・鳥ノ巣A地点遺跡 ・鳥ノ巣B地点遺跡・立石遺跡・立ノ口の石碑・井手ノ原A地点遺跡 ・井手ノ原B地点遺跡	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -13-	井上裕弘、小池史哲、柳田康雄、松本　勗、林　弘也、荒武麗子、橘　昌信、櫻井康治、木下　修	1979	福岡県教育委員会
海津横馬場遺跡	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -1-	進村真之、宮地聡一郎	2005	九州歴史資料館
海津横馬場遺跡Ⅱ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -2-	宮地聡一郎	2006	九州歴史資料館
山門前田遺跡	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -3-	大庭孝夫、坂元雄紀、高田知恵、(株)パレオ・ラボ	2006	九州歴史資料館
郡領ノ一遺跡	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -4-	今井涼子	2006	九州歴史資料館
西牟田大立遺跡・西牟田北原遺跡・西牟田平原遺跡2次	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -5-	秦　憲二、今井涼子	2006	九州歴史資料館
山門北池遺跡	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -6-	大庭孝夫、一瀬　智、(株)パレオ・ラボ	2007	九州歴史資料館
小川柳ノ内遺跡Ⅰ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -7-	進村真之	2007	九州歴史資料館
小川柳ノ内遺跡Ⅱ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -8-	進村真之、今井涼子	2008	九州歴史資料館
藤の尾垣添遺跡Ⅰ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -9-	大庭孝夫、宮地聡一郎	2008	九州歴史資料館
松田掛畑遺跡・岩本下内遺跡	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -10-	小川泰樹、一瀬　智	2008	九州歴史資料館
観音山古墳群中原Ⅲ群・観音山古墳群瀬戸Ⅳ群・内河遺跡群1次	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -11-	大庭孝夫、飛野博文、秦　憲二、林　知恵	2008	九州歴史資料館
観音山古墳群平石Ⅳ・Ⅴ群・観音山古墳群瀬戸Ⅱ群	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -12-	飛野博文、小川泰樹、海出淳平	2009	九州歴史資料館
上北島野町下遺跡・上北島河原田遺跡・常用前野遺跡・津島餅町3次	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -13-	一瀬　智、進村真之、大庭孝夫、秦　憲二	2009	九州歴史資料館
藤の尾垣添遺跡Ⅱ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -14-	大庭孝夫、城門義廣、今井涼子	2009	九州歴史資料館
観音山古墳群 平石Ⅲ群	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -15-	飛野博文、荻　幸二、海出淳平	2010	九州歴史資料館
藤の尾垣添遺跡Ⅲ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 -16-	大庭孝夫、進村真之、城門義廣、杉原敏之、西堂将夫	2010	九州歴史資料館
塚堂遺跡Ⅰ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	馬田弘稔、石山　勲、金子文夫、小池史哲、新原正典	1983	福岡県教育委員会
塚堂遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	副島邦弘、馬田弘稔、小池史哲	1984	福岡県教育委員会
塚堂遺跡Ⅲ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	佐々木隆彦、副島邦弘	1984	福岡県教育委員会
塚堂遺跡Ⅳ D地区	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	馬田弘稔	1984	福岡県教育委員会
塚堂遺跡Ⅴ E地区(1・3～6地点)	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	馬田弘稔	1988	福岡県教育委員会
日永遺跡Ⅰ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	緒方　泉	1993	福岡県教育委員会
日永遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	緒方　泉	1994	福岡県教育委員会
堺町遺跡・大碇遺跡	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -8-	水ノ江和同、飛野博文	1994	福岡県教育委員会
鷹取五反田遺跡Ⅰ・稲崎A・B遺跡	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -9-	水ノ江和同、小池史哲、井上裕弘、木下　修、小田和利	1998	福岡県教育委員会
鷹取五反田遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -10-	水ノ江和同、井上裕弘、木下　修、小田和利	1999	福岡県教育委員会
船越三ノ上遺跡	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -11-	吉田東明、齋部麻矢、進村真之	1999	福岡県教育委員会
仁右衛門畑遺跡Ⅰ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -12-	吉田東明、重藤輝行、進村真之	2000	福岡県教育委員会
船越高原A遺跡Ⅰ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -13-	齋部麻矢、吉田東明、進村真之	2000	福岡県教育委員会
仁右衛門畑遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -14-	吉田東明、平尾和久、松井敏也、九州環境管理協会	2001	福岡県教育委員会
船越高原A遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -15-	進村 真之、秦　憲二、斎部麻矢、吉田東明、今井涼子	2001	福岡県教育委員会
船越高原A遺跡Ⅲ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -16-	進村真之、齋部麻矢、吉田東明	2002	福岡県教育委員会
堂畑遺跡Ⅰ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -17-	重藤輝行、小川泰樹、進村真之	2002	福岡県教育委員会
松門寺A遺跡	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -18-	今井涼子、伊崎俊秋	2002	福岡県教育委員会
大的遺跡Ⅰ・日詰遺跡Ⅰ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -19-	今井涼子 、大庭孝夫 、児玉真一 、小澤佳憲 、坂元雄紀	2003	福岡県教育委員会
堂畑遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -20-	大庭孝夫、今井涼子 、進村真之 、小澤佳憲	2004	福岡県教育委員会
大的遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -21-	今井涼子	2004	福岡県教育委員会
日詰遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -22-	小澤佳憲、小畑弘己	2005	福岡県教育委員会
堂畑遺跡Ⅲ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -23-	大庭孝夫、小澤佳憲、能登原孝道、㈱古環境研究所、平尾良光、淀川奈緒子、谷水雅治、㈶元興寺文化財研究所	2005	福岡県教育委員会
日詰遺跡Ⅲ	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -24-	小澤佳憲、小畑弘己	2006	福岡県教育委員会
玉田遺跡・船越高原A遺跡Ⅳ・西隈上中川原遺跡	一般国道210号 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -25-	小澤佳憲、宮地聡一郎、一瀬　智	2008	福岡県教育委員会
東蒲池榎町遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	今井涼子	2005	福岡県教育委員会
東蒲池大内曲り遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	坂本真一	2007	福岡県教育委員会
矢加部町屋敷遺跡Ⅰ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	秦　憲二	2007	福岡県教育委員会
坂井長永遺跡(1・2次)・西蒲池古塚遺跡(1～4次) ・西蒲池将監坊遺跡(1・2次)・西蒲池古溝遺跡 ・西蒲池下里遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	秦　憲二、今井涼子、坂本真一、一瀬　智	2008	福岡県教育委員会
矢加部南屋敷遺跡・矢加部五反田遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	進村真之	2009	福岡県教育委員会
蒲船津江頭遺跡Ⅰ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	坂元雄紀	2009	福岡県教育委員会
旧柳河藩干拓遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	児玉真一、飛野博文、大庭孝夫、小澤佳憲、猿渡真弓、堤　伴治	2009	福岡県教育委員会
蒲船津江頭遺跡Ⅱ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -8-	坂元雄紀	2010	福岡県教育委員会
矢加部町屋敷遺跡Ⅱ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -9-	秦　憲二	2010	福岡県教育委員会
蒲船津江頭遺跡Ⅲ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -10-	坂元雄紀、酒井芳司、(株)パレオ・ラボ	2011	福岡県教育委員会
矢加部町屋敷遺跡Ⅲ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -11-	秦　憲二	2011	福岡県教育委員会
矢加部町屋敷遺跡Ⅳ・蒲船津西ノ内遺跡・蒲船津水町遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -12-	秦　憲二、進村真之、小川泰樹	2012	九州歴史資料館

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　⑧

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
宇野代遺跡Ⅰ	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	小川泰樹、柳田康雄	1995	福岡県教育委員会
上唐原遺跡Ⅰ	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	小池史哲	1995	福岡県教育委員会
池ノ口遺跡	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	池邉元明、秦　憲二、杉原敏之	1996	福岡県教育委員会
金居塚遺跡Ⅰ・西方古墳	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	飛野博文	1996	福岡県教育委員会
上唐原遺跡Ⅱ・山崎遺跡	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	小池史哲	1996	福岡県教育委員会
ウツケ畑遺跡・三ツ溝遺跡・長田遺跡・大池添遺跡・ 竹ノ下遺跡〔上巻〕・桑野遺跡・上の熊遺跡・小松原遺跡〔下巻〕	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	杉原敏之、小川泰樹、池邉元明、飛野博文、秦　憲二	1997	福岡県教育委員会
金居塚遺跡Ⅱ	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	飛野博文、横田義章、栗焼憲児	1997	福岡県教育委員会
上桑野遺跡・宇野代遺跡Ⅱ（付)長田遺跡	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -8-	池邉元明、小川泰樹	1998	福岡県教育委員会
大塚本遺跡	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -9-	小川泰樹、副島邦弘、中橋孝博	1998	福岡県教育委員会
郷ヶ原遺跡	豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -10-	飛野博文	1998	福岡県教育委員会
辻垣ヲサマル遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -1-	副島邦弘 、畑中健一	1993	福岡県教育委員会
辻垣畠田遺跡・辻垣長通遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -2-	柳田康雄、杉原敏之、本田光子、成瀬正和	1994	福岡県教育委員会
団後遺跡・西一丁田遺跡・炭山遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -3-	緒方　泉、副島邦弘、飛野博文	1994	福岡県教育委員会
徳永川ノ上遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -4-	緒方　泉、柳田康雄	1995	福岡県教育委員会
鋤先遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -5-	副島邦弘、中橋孝博、古賀英也、櫻木晋一	1995	福岡県教育委員会
居屋敷遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -6-	副島邦弘、飛野博文、伊藤清明、時枝克安、土肥直美	1996	福岡県教育委員会
徳永川ノ上遺跡Ⅱ	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -7-	柳田康雄、本田光子、斎藤　努	1996	福岡県教育委員会
中村石丸遺跡（付)黒峰尾10号墳	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -8-	水ノ江和同、緒方　泉	1996	福岡県教育委員会
徳永川ノ上遺跡Ⅲ	椎田道路関係埋蔵文化財調査報告 -9-	柳田康雄、緒方　泉、副島邦弘、横田賢次郎、横田義章、水ノ江和同	1997	福岡県教育委員会
弓田遺跡・八ッ重遺跡	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	末永弥義、柳田康雄	1989	福岡県教育委員会
石堂中後ヶ谷古墳群・菜切古墳群・頭無古墳	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	緒方　泉、馬田弘稔、田村　悟	1990	福岡県教育委員会
鬥見遺跡・カワラケ田遺跡・下原遺跡	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	緒方　泉	1991	福岡県教育委員会
安武遺跡・深田遺跡、安武遺跡・土井ノ内遺跡 〔上・下巻〕	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	木下　修、水ノ江和同	1991	福岡県教育委員会
広末遺跡・安永遺跡	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	小田和利	1991	福岡県教育委員会
神手遺跡	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	緒方　泉、水ノ江和同	1992	福岡県教育委員会
山崎遺跡Ⅰ・Ⅱ、尾久保遺跡、日奈古・寺尾遺跡 〔上・下巻〕	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	小池史哲、柳田康雄	1992	福岡県教育委員会
赤幡森ヶ坪遺跡・塞ノ神遺跡・十双遺跡 〔上・中・下巻〕	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -8-	小田和利	1992	福岡県教育委員会
広幡城跡	椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -9-	伊崎俊秋、木下　修、磯村幸男、松下辰章	1992	福岡県教育委員会
水城・五條地区・池田遺跡・大曲り遺跡・野黒坂遺跡・永岡遺跡	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	栗原和彦、宮小路賀宏、前川成洋、坂田武彦、伊藤玄三、近藤喬一、寺島孝一、 田中勝弘、松岡　史、副島邦弘、賀川光夫、橘　昌信、新原正典 、中村幸史郎	1970	福岡県教育委員会
御笠川南条坊遺跡（1）	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	前川威洋、新原正典、浜田信也	1975	福岡県教育委員会
御笠川南条坊遺跡（2）	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	新原正典、前川威洋、倉住靖彦	1976	福岡県教育委員会
永岡甕棺遺跡（図版篇）	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	新原正典	1976	福岡県教育委員会
永岡甕棺遺跡（本文篇）	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	浜田信也、新原正典	1977	福岡県教育委員会
御笠川南条坊遺跡（3）	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	前川威洋、新原正典、馬田弘稔	1977	福岡県教育委員会
君畑遺跡	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	新原正典、馬田弘稔	1977	福岡県教育委員会
御笠川南条坊遺跡（4）	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -8-	前川威洋、浜田信也、新原正典、馬田弘稔	1978	福岡県教育委員会
総集編　―水城・五條地区・池田遺跡・大曲遺跡・野黒坂遺跡・永岡遺跡―	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -9-	橋口達也	1980	福岡県教育委員会
合の原遺跡・真竹遺跡	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	佐々木隆彦 、橋口達也	1986	福岡県教育委員会
久良々遺跡・倉良遺跡・天神田遺跡	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	秦　憲二、馬田弘稔 、飛野博文、水ノ江和同	1995	福岡県教育委員会
仮塚南遺跡	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	水ノ江和同	1995	福岡県教育委員会
以来尺遺跡Ⅰ	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	秦　憲二、馬田弘稔、水ノ江和同、齋部麻矢、杉原敏之	1997	福岡県教育委員会
諸田仮塚遺跡	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	小川泰樹、柳田康雄、杉原敏之、岸本　圭	1998	福岡県教育委員会
以来尺遺跡Ⅱ	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	齋部麻矢、馬田弘稔、秦　憲二、杉原敏之	1998	福岡県教育委員会
以来尺遺跡Ⅲ・筑前御境枯松跡二国境石	筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	杉原敏之、馬田弘稔、水ノ江和同、齋部麻矢、秦　憲二、森井啓次	1999	福岡県教育委員会
延永ヤヨミ園遺跡Ⅲ区Ⅰ	一般国道201号 行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 -1-	大庭孝夫、進村真之	2013	九州歴史資料館
上片島遺跡群6地区	一般国道201号 行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 -2-	城門義廣、(株)パリノ・サーヴェイ	2015	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅳ区Ⅰ	一般国道201号 行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 -3-	下原幸裕、城門義廣	2015	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅳ区Ⅱ	一般国道201号 行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 -4-	大庭孝夫、進村真之、下原幸裕、城門義廣、小林　啓、酒井芳司、岩橋由季、 (株)古環境研究所、(株)パレオ・ラボ、(財)元興寺文化財研究所	2015	九州歴史資料館
延永ヤヨミ園遺跡Ⅲ区Ⅱ	一般国道201号 行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 -5-	城門義廣、大庭孝夫、吉村靖徳、小林　啓、酒井芳司、岩橋由季、 (株)古環境研究所、(株)パレオ・ラボ	2015	九州歴史資料館
上唐原稲本屋敷遺跡	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 -1-	小池史哲	1997	福岡県教育委員会
下唐原宮園遺跡	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 -2-	吉田東明	1998	福岡県教育委員会
百留居屋敷遺跡	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 -3-	吉田東明	1999	福岡県教育委員会
上唐原了清遺跡Ⅰ	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 -4-	秦　憲二、吉村靖徳	1999	福岡県教育委員会
上唐原了清遺跡Ⅱ	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 -5-	吉村靖徳	2000	福岡県教育委員会
上唐原了清遺跡Ⅲ	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 -6-	吉村靖徳、伊崎俊秋、中野　等	2001	福岡県教育委員会
湯納遺跡・宮ノ前遺跡E地点・高崎古墳群・大又遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	浜田信也	1970	福岡県教育委員会
若八幡宮古墳・飯氏馬場遺跡・飯氏鏡原遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	柳田康雄、浜田信也、副島邦弘、永井昌文	1971	福岡県教育委員会
高崎古墳群・大又遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -3-	栗原和彦、上野精志、井沢洋一	1973	福岡県教育委員会
湯納遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -4-	栗原和彦、上野精志、馬田弘稔	1976	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　⑨

報告書名	シリーズ名	編著者	刊行年	発行機関
湯納遺跡・今宿大塚南遺跡・今宿高田遺跡・今宿小塚遺跡・ 糸島平野の条里・古野遺跡・上鑵子遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -5-	栗原和彦、上野精志、稲富裕和、関　晴彦	1977	福岡県教育委員会
波多江遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -6-	橋口達也、馬田弘稔、高橋　章、小池史哲、林　弘也、松本　勗、大澤正巳	1982	福岡県教育委員会
鎮懐石八幡宮裏古墳・赤岸遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -7-	橋口達也、中間研志、大澤正巳	1982	福岡県教育委員会
石崎曲り田遺跡Ⅰ	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -8-	橋口達也、中間研志、上原周三、長　哲二	1983	福岡県教育委員会
石崎曲り田遺跡Ⅱ	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -9-	橋口達也、中間研志	1984	福岡県教育委員会
今宿高田遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -10-	佐々木隆彦、橋口達也	1984	福岡県教育委員会
石崎曲り田遺跡Ⅲ	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -11-	橋口達也、中間研志、佐々木稔、村田朋美、伊藤　薫	1985	福岡県教育委員会
東・太田遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -12-	橋口達也、佐々木隆彦	1985	福岡県教育委員会
奈良尾遺跡	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -13-	中間研志、八尋和泉、日高正幸、大澤正巳	1991	福岡県教育委員会
津留遺跡	一般国道10号線 行橋バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	副島邦弘	1991	福岡県教育委員会
金屋遺跡	一般国道10号線 行橋バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	副島邦弘	1992	福岡県教育委員会
スダレ遺跡・ウラン山遺跡・長浦横穴遺跡	八木山バイパス関係埋蔵文化財調査報告	浜田信也、伊崎俊秋	1983	福岡県教育委員会
池田8号墳・池田遺跡・浮殿A～D遺跡・大島遺跡・八ヶ坪遺跡	冷水バイパス関係埋蔵文化財調査報告	浜田信也、中間研志、栗原和彦、馬田弘稔	1982	福岡県教育委員会
貝元遺跡Ⅰ	九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う 筑紫野市所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告 -1-	中間研志、吉村靖徳	1998	福岡県教育委員会
貝元遺跡Ⅱ	九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う 筑紫野市所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告 -2-	中間研志、小池史哲、吉村靖徳、秦　憲二、重藤輝行、岸本　圭、大澤正巳、 鈴木瑞穂、和佐野喜久生、真鍋智子	1999	福岡県教育委員会
長尾古墳・津丸五郎丸遺跡・久保長崎遺跡	福間バイパス関係埋蔵文化財調査報告	松岡　史、池田善文、上野精志、宮原種生	1973	
佐谷・脇田山古墳	福間バイパス・福岡東バイパス関係埋蔵文化財調査報告	松岡　史	1974	福岡県教育委員会
汐井掛遺跡・高平古墳群・南ヶ浦古墳群	若宮宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告 -1-	児玉真一、池邉元明	1979	福岡県教育委員会
汐井掛遺跡・天神の上遺跡	若宮宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告 -2-	池邉元明、児玉真一	1980	福岡県教育委員会
柳ヶ谷遺跡・都地遺跡・平原古墳群	若宮宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告 -3-	児玉真一、池邉元明、浜田信也、小池史哲、平ノ内幸治、二宮修治、佐藤貴義、 小島淑子、大沢眞澄	1980	福岡県教育委員会
広田遺跡・竹戸遺跡・長須隈遺跡	二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告 -1-	中間研志、小池史哲、粉川昭平、馬田弘稔、石山　勲	1980	福岡県教育委員会
水付古墳・広田遺跡・多々羅遺跡	二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告 -2-	中間研志	1982	福岡県教育委員会
穴田古墳群・覗山城跡	覗山無線中継所関係埋蔵文化財調査報告書	吉村靖徳	1998	福岡県教育委員会
菩提遺跡Ⅰ	一般国道201号 仲哀改良工事関係埋蔵文化財調査報告 -1-	今井涼子、伊崎俊秋、大庭孝夫	2003	福岡県教育委員会
菩提遺跡Ⅱ	一般国道201号 仲哀改良工事関係埋蔵文化財調査報告 -2-	秦　憲二、宮地聡一郎	2007	福岡県教育委員会
堀池ロヶ坪遺跡	一般国道201号 飯塚バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	吉村靖徳、水ノ江和同	1999	福岡県教育委員会
忠隈宮坂遺跡・鶴三緒七浦遺跡	一般国道201号 飯塚庄内田川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	進村真之、松岡高弘、伊崎俊秋	2003	福岡県教育委員会
高田遺跡・塚本遺跡・トヲノ尾遺跡	福岡東バイパス関係埋蔵文化財調査報告	緒方　泉、副島邦弘、飛野博文、馬田弘稔	1990	福岡県教育委員会
野間窯跡群	一般国道3号　岡垣バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	橋口達也、川述昭人、小池史哲	1982	福岡県教育委員会
山田沖古墳群	一般国道3号　岡垣バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -2-	馬田弘稔	1990	福岡県教育委員会
干拓遺跡(旧柳河藩領)	高田大和バイパス関係埋蔵文化財調査報告 -1-	副島邦弘、中野　等	1994	福岡県教育委員会

第 32 表　福岡県文化財調査報告書　⑩

（2）大宰府史跡発掘調査報告書

報告書名	調査次数	刊行年	発行元	編著者名
大宰府史跡昭和43年度調査概報	1	1970	福岡県教育委員会	藤井　功、亀井明徳
大宰府史跡昭和44年度発掘調査の概要	1補・2・3・4	1970	福岡県教育委員会	
大宰府史跡第4次発掘調査概要	4	1970	福岡県教育委員会	
大宰府史跡第5次発掘調査概要	5	1970	福岡県教育委員会	
大宰府史跡昭和45年度発掘調査の概要	4～8	1970	福岡県教育委員会	亀井明徳、森田　勉、横田賢次郎、藤井　功、江上幹幸
大宰府史跡第9・10・11次発掘調査概要	9～11	1971	福岡県教育委員会	
大宰府歴史公園整備の現状		1976	福岡県教育委員会	
水城　昭和50年度発掘調査報告	東門	1976	福岡県教育委員会	高橋　章、亀井明徳、坂田武彦、堤　壽一、松本　昺
特別史跡大野城跡	大石垣・八並	1976	福岡県教育委員会	横田義章、高橋　章、高倉洋彰、石丸　洋
特別史跡大野城跡Ⅱ	八並・猫坂	1977	福岡県教育委員会	高倉洋彰、横田義章、高橋　章、倉住靖彦、森田　勉、磯村幸男、芳沢　要
筑前国分寺昭和51年度発掘調査概報		1977	福岡県教育委員会	森田　勉、高橋　章
筑前国分寺−昭和52年度発掘調査概要−		1978	福岡県教育委員会	森田　勉、高橋　章、倉住靖彦、八尋和泉、沢田康夫
特別史跡大野城跡 環境整備事業実施報告書		1978	福岡県教育委員会	芳沢　要、磯村幸男、倉住靖彦
水城　昭和51・52・53年度の発掘調査概報と史跡環境整備事業実施概要		1979	福岡県教育委員会	高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章、倉住靖彦、芳沢　要
特別史跡大野城跡Ⅲ	主城原1・2	1979	福岡県教育委員会	横田義章、芳沢　要
特別史跡大野城跡Ⅳ	主城原・北石垣	1980	福岡県教育委員会	横田義章、芳沢　要、倉住靖彦
特別史跡大宰府跡　環境整備事業実施報告書Ⅰ		1980	福岡県教育委員会	芳沢　要
特別史跡大野城跡　環境整備事業実施報告書Ⅱ		1980	福岡県教育委員会	芳沢　要
特別史跡水城跡 昭和54年度環境整備事業実施報告書Ⅱ		1980	福岡県教育委員会	芳沢　要
史跡筑前国分寺跡および国分瓦窯跡　整備事業実施報告書		1980	福岡県教育委員会	芳沢　要、倉住靖彦
特別史跡大野城跡Ⅴ	主城原4、村上1	1982	福岡県教育委員会	横田義章、高橋　章
特別史跡大野城跡Ⅵ	村上2・坂本口土塁	1983	福岡県教育委員会	横田義章、横田賢次郎、森田　勉、倉住靖彦
特別史跡大野城跡　環境整備事業実施報告書Ⅲ		1984	福岡県教育委員会	大塚　健、倉住靖彦
推定金光寺跡　環境整備事業報告書		1990	福岡県教育委員会	大塚　健
特別史跡大野城跡Ⅶ	太宰府口城門	1991	福岡県教育委員会	横田義章、倉住靖彦
大宰府史跡昭和46年度発掘調査略報	9～12・14～17	1972	九州歴史資料館	
大宰府史跡昭和47年度発掘調査略報	15・18～25	1973	九州歴史資料館	
大宰府史跡昭和48年度発掘調査概報	26～29、来木北瓦窯	1974	九州歴史資料館	
大宰府史跡第30・31・32次発掘調査概報	30～32	1974	九州歴史資料館	
朝倉橘廣庭宮跡伝承地　第1次発掘調査報告		1974	九州歴史資料館	鏡山　猛、渡邉正気、松本憲明、亀井明徳、副島邦弘
大宰府史跡昭和49年度発掘調査略報	33・34・30補・35・36	1975	九州歴史資料館	
大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報	30・33～35	1975	九州歴史資料館	
朝倉橘廣庭宮跡伝承地　第2次発掘調査報告	2	1975	九州歴史資料館	副島邦弘、横田義章、亀井明徳、渡邉正気
大宰府史跡昭和50年度発掘調査概報	36・37・39−1・40・1補	1976	九州歴史資料館	
朝倉橘廣庭宮跡伝承地　第3次発掘調査報告	3	1976	九州歴史資料館	横田義章、亀井明徳、渡邉正気
大宰府史跡出土木簡概報（一）		1976	九州歴史資料館	倉住靖彦、松本　昺、林　弘也
大宰府史跡昭和51年度発掘調査概報	33補・38・39−2・39−3・41～43	1977	九州歴史資料館	石松好雄、高倉洋彰、倉住靖彦、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章、山本信夫、沢田康夫、松沢直子、伊藤かの子
大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報	44～51・53	1978	九州歴史資料館	石松好雄、高倉洋彰、倉住靖彦、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章、山本信夫、沢田康夫、真玉秀樹、伊藤かの子、井上トシ子
大宰府史跡昭和53年度発掘調査概報	33・54～62	1979	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章、山本信夫、真玉秀樹
大宰府史跡昭和54年度発掘調査概報	60・63・64・65−1・65−2	1980	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章
般若寺跡　大宰府史跡　昭和54年度発掘調査概報別冊		1980	九州歴史資料館	高倉洋彰、高橋　章
大宰府史跡昭和55年度発掘調査概報	67・72・73	1981	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章
大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報	70・74～77	1982	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章
大宰府史跡昭和57年度発掘調査概報	78・80・81	1983	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章
大宰府史跡昭和58年度発掘調査概報	17・83～86	1984	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章
大宰府史跡昭和59年度発掘調査概報	14・87・88・90・92	1985	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、高橋　章
大宰府史跡出土木簡概報（二）		1985	九州歴史資料館	
大宰府史跡昭和60年度発掘調査概報	94～96	1986	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、赤司善彦
大宰府史跡昭和61年度発掘調査概報	98・99・102・103	1987	九州歴史資料館	石松好雄、倉住靖彦、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、赤司善彦
大宰府史跡昭和62年度発掘調査概報	97・104・105・107	1988	九州歴史資料館	石松好雄、高倉洋彰、横田賢次郎、森田　勉、赤司善彦、倉住靖彦
般若寺跡Ⅱ　大宰府史跡　昭和62年度発掘調査概報別冊	3・4	1988	九州歴史資料館	高倉洋彰、石松好雄
大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報	109～112・114	1989	九州歴史資料館	石松好雄、横田賢次郎、森田　勉、赤司善彦、吉村靖徳
大宰府史跡平成元年度発掘調査概報	115・117・119・120・70補	1990	九州歴史資料館	石松好雄、横田賢次郎、赤司善彦、吉村靖徳
大宰府史跡平成2年度発掘調査概報	121～125	1991	九州歴史資料館	栗原和彦、橋口達也、横田賢次郎、赤司善彦、吉村靖徳
大宰府史跡平成3年度発掘調査概報	126・129・131・133・134・136	1992	九州歴史資料館	栗原和彦、橋口達也、横田賢次郎、赤司善彦、吉村靖徳
大宰府史跡平成4年度発掘調査概報	130・137～142・144・146	1993	九州歴史資料館	栗原和彦、橋口達也、横田賢次郎、小田和利、吉村靖徳
大宰府史跡平成5年度発掘調査概報	96・147・152、水城20・24	1994	九州歴史資料館	栗原和彦、横田賢次郎、小田和利、吉村靖徳、小川泰樹
大宰府史跡平成6年度発掘調査概報	153・154・156・157・159・160・162	1995	九州歴史資料館	栗原和彦、横田賢次郎、小田和利、吉村靖徳、小川泰樹

第 33 表　大宰府史跡発掘調査報告書　①

報告書名	調査次数	刊行年	発行元	編著者名
大宰府史跡平成7年度発掘調査概報	116・163・165～167・170・172、水城26・27	1996	九州歴史資料館	栗原和彦、横田賢次郎、小田和利、小川泰樹、杉原敏之、吉村靖徳、狭川真一、大隈和子
大宰府史跡平成8年度発掘調査概報	169-1・175、水城26	1997	九州歴史資料館	小田和利、栗原和彦、横田賢次郎、小川泰樹、杉原敏之
大宰府史跡平成9年度発掘調査概報	169-2・176～178	1998	九州歴史資料館	栗原和彦、横田賢次郎、赤司善彦、齋部麻矢、杉原敏之
大宰府史跡平成10年度発掘調査概報	180・181、水城28	1999	九州歴史資料館	栗原和彦、横田賢次郎、赤司善彦、齋部麻矢、杉原敏之
大宰府史跡平成11年度発掘調査概報	180、国分寺25	2000	九州歴史資料館	栗原和彦、横田賢次郎、赤司善彦、齋部麻矢、杉原敏之
大宰府史跡出土軒瓦・叩打痕文字瓦型式一覧		2000	九州歴史資料館	栗原和彦
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅰ　平成12年度	182～184、水城26・32	2001	九州歴史資料館	齋部麻矢、栗原和彦、横田賢次郎、中間研志、城戸康利
大宰府政庁跡	1・1補・2・6・15・26・30・30補・41・49・180	2002	九州歴史資料館	石松好雄、高倉洋彰、栗原和彦、横田賢次郎、中間研志、赤司善彦、小田和利、杉原敏之、岡寺　良、松川博一、酒井芳司、八木　充、澤村　仁、山本輝雄、伊東隆夫、須崎民雄、大澤正巳、㈱古環境研究所
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅱ　平成13・14年度	185～187、水城33・35	2003	九州歴史資料館	中間研志、小田和利、横田賢次郎、高橋　章、杉原敏之、高橋愼二、比佐陽一郎、井上　晋、牛島恵輔、水永秀樹、㈱パリノ・サーヴェイ
大宰府史跡発掘調査報告書　平成15年度	186・191、水城36・37	2004	九州歴史資料館	小田和利、高橋　章、吉村靖徳
観世音寺-伽藍編-	43・55・126・126補・130・163・188	2005	九州歴史資料館	小田和利、高橋　章、吉村靖徳、石松好雄、横田賢次郎
観世音寺-寺域編-	5・16・20・23・28・39-1・39-2・39-3・45・47・48・61・66・70・70補・71・103・109・111・115・117～123・130・144・154	2006	九州歴史資料館	小田和利、吉村靖徳
観世音寺-遺物編1-	1・5・16・20・23・28・39-1・39-2・39-3・43・45・47・48・55・61・66・70・70補・71・103・109・111・115～123・126・126補・127・130・144・154・	2007	九州歴史資料館	岡寺　良、高橋　章、小田和利
観世音寺-遺物編2-	1・5・16・20・23・28・39-1・39-2・39-3・43・45・47・48・55・61・66・70・70補・71・103・109・111・115～123・126・126補・127・130・144・154・	2007	九州歴史資料館	岡寺　良、高橋　章、児玉真一、杉原敏之、酒井芳司
観世音寺-考察編-		2007	九州歴史資料館	岡寺　良、小田和利、酒井芳司、加藤和歳、杉原敏之、井形　進、松川博一、横田賢道、高倉洋彰、石松好雄、笹山晴生、小田富士雄、澤村　仁、重松敏彦、川添昭二、森　哲也、比佐陽一郎、大澤正巳、㈱パリノ・サーヴェイ
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅳ　平成16・17年度	192～195・195補	2007	九州歴史資料館	岡寺　良、児玉真一、下高大輔
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅴ　平成18・19年度	136-2・196・197・86-2・92-3・198・松ヶ浦、大野城大願寺・46	2008	九州歴史資料館	杉原敏之、児玉真一、岡寺　良、坂本真一、小澤佳憲、酒井芳司、下高大輔、杉山真二、大澤正巳
水城跡-上巻-	水城1～10・20・24・26・27・29・32・33・35～40・44・45	2009	九州歴史資料館	杉原敏之、一瀬　智、岡寺　良、小田和利、酒井芳司、加藤和歳、下山正一、磯　望、林　重徳、井上　晋、牛島恵輔、杉山真二、西谷　正、小田富士雄、下高大輔、㈱パリノ・サーヴェイ、加速器研究所
水城跡-下巻-	水城1～10・20・24・26・27・29・32・33・35～40・44・45	2009	九州歴史資料館	杉原敏之、一瀬　智、岡寺　良、小田和利、酒井芳司、加藤和歳、下山正一、磯　望、林　重徳井上　晋、牛島恵輔、杉山真二、西谷　正、小田富士雄、下高大輔、㈱パリノ・サーヴェイ、加速器研究所
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅵ　平成20・21年度	201・203・207	2010	九州歴史資料館	岡寺　良、小田和利、小嶋　篤、小澤佳憲、杉山真二
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅰ-政庁前面広場地区-	58・73・81・82・86・86-2・131・134・136・136-2・140・156・162・168・168-2・177・200・204・206	2010	九州歴史資料館	岡寺　良、小田和利、一瀬　智、小嶋　篤、杉山真二
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅱ-日吉地区-	25・32・75・79・80・114・143・145・153・164・173・198・201・207	2011	九州歴史資料館	岡寺　良、小田和利、一瀬　智、小嶋　篤、金田明大
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅲ-不丁地区 遺構編-	14・17・76・83・84・85・87・90・98・104・110・124・129・147・187・192	2012	九州歴史資料館	杉原敏之、小田和利、下原幸裕、小嶋　篤
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅶ　平成22・23年度	17-2・205・208～210・211・213	2012	九州歴史資料館	小嶋　篤、小田和利、岡寺　良、一瀬　智、杉原敏之、遠藤　茜、金田明大
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅳ-不丁地区 遺物編1-	14・17・76・83・84・85・87・90・98・104・110・124・129・147・187・192	2013	九州歴史資料館	下原幸裕、小田和利、杉原敏之、小嶋　篤
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅴ-不丁地区 遺物編2-	14・17・76・83・84・85・87・90・98・104・110・124・129・147・187・192	2014	九州歴史資料館	杉原敏之、小田和利、下原幸裕、小嶋　篤、松川博一、岡田　諭、酒井芳司、比佐陽一郎、大澤正巳
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅷ　平成24・25年度	214・215～219・222・223、大野城54	2014	九州歴史資料館	下原幸裕、小嶋　篤、岡田　諭、小澤佳憲、金田明大、杉山真二
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅵ-不丁地区 図版編-	14・17・76・83・84・85・87・90・98・104・110・124・129・147・187・192	2015	九州歴史資料館	杉原敏之
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅶ-大楠地区 遺構編-	14・14補・76・88・92・94・104・104補・110・125・138・139・146・152・171・194・196	2015	九州歴史資料館	下原幸裕、小田和利、杉原敏之、松川博一、岡田　諭
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅷ-大楠地区 遺物編-	14・14補・76・88・92・94・104・104補・110・125・138・139・146・152・171・194・196	2016	九州歴史資料館	下原幸裕、小田和利、小澤佳憲、大庭孝夫、杉原敏之、松川博一、㈱パリノ・サーヴェイ
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅸ　平成26・27年度	221・224・226・227・229、大野城5-3・54-2	2016	九州歴史資料館	下原幸裕
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅸ-大楠地区 総括・図版編-	14・14補・76・88・92・94・104・104補・110・125・138・139・146・152・171・194・196	2017	九州歴史資料館	下原幸裕、小田和利
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅹ-広丸地区 遺構編-	29・95・96・96補・132・133・137・142・148・157・165・166・167・175・186補・193・202・202-2・211・214・223・224	2017	九州歴史資料館	小澤佳憲、小田和利
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅺ-広丸地区 遺物編-	29・95・96・96補・132・133・137・142・148・157・165・166・167・175・186補・193・202・202-2・211・214・223・224	2018	九州歴史資料館	下原幸裕、小田和利、小澤佳憲、大庭孝夫
大宰府史跡発掘調査報告書Ⅹ　平成28・29年度	212・216・220・231～235・237・238、大野城55	2019	九州歴史資料館	大庭孝夫、下原幸裕、岡田　諭、小嶋　篤、大澤正巳、㈱古環境研究所
大宰府政庁周辺官衙跡Ⅻ-蔵司地区 平地部編1-	4・54・60・65-1・65-2	2020	九州歴史資料館	吉田東明、小田和利、大庭孝夫、岡寺　良、吉村靖徳、酒井芳司
大宰府政庁周辺官衙跡ⅩⅢ-蔵司地区 平地部編2-	4・54・60・65-1・65-2	2020	九州歴史資料館	吉田東明、小田和利、大庭孝夫、岡寺　良

第 33 表　大宰府史跡発掘調査報告書　②

（3）九州歴史資料館刊行物

区分	書 名	所収論文名	執筆者名（筆頭は編集者）	刊行年	発行機関	特記事項
論集	九州歴史資料館研究論集1	右手の不使用―南海産巻貝製腕輪着装の意義―	高倉洋彰	1975.3.31	九州歴史資料館	
		いわゆる不改常典について	倉住靖彦			
		日本出土の越州窯陶磁器の諸問題	亀井明徳			
	九州歴史資料館研究論集2	はしがき	鏡山　猛	1976.3	九州歴史資料館	
		弥生時代副葬遺物の性格	高倉洋彰			本文
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕筑前飯盛神社神宮寺文殊堂文殊菩薩騎獅像および豊前大興善寺如意輪観音像について ―九州西大寺末寺の仏像新資料二例―	八尋和泉			本文
		八重山の名号碑石	鏡山　猛			本文
		西北九州における縄文時代の一剥片石器群	横田義章			研究ノート
		大宰府出土の瓦について	石松好雄、高橋　章			研究ノート
		大宰府出土の蓮華唐花文塼の文様について	西村強三			研究ノート
		大宰府出土の土師器に関する覚え書き	横田賢次郎、森田　勉			研究ノート
		大宰府学校院について	倉住靖彦			研究ノート
		両浙路市舶司公憑の陶磁	亀井明徳			研究ノート
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕中世博多仏師の存在とその作品	八尋和泉			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集3	文徳朝の貴族(一)	渡邉正氣	1977.3	九州歴史資料館	本文
		大宰府出土の土師器に関する覚書(2)	森田　勉			研究ノート
		大宰府政庁の庁域について	石松好雄			研究ノート
		大宰府検出の井戸―とくに形態分類を中心として―	横田賢次郎			研究ノート
		筑紫観世音寺子院小考	高倉洋彰			研究ノート
		不比等と旅人―懐風藻の二人の詩―	渡邉正氣			研究ノート
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕灋士珍作頂相彫刻二例 ―筑後崇久寺及び同霊厳寺開山像―	八尋和泉			研究ノート
		古墳時代鉄製品の修復例から	横田義章			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集4	大宰府出土の輸入中国陶磁器について ―型式分類と編年を中心として―	横田賢次郎、森田　勉	1978.3	九州歴史資料館	本文
		文徳朝の貴族(二)	渡邉正氣			本文
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕 延徳三年銘銅造毘沙門天像について―筑前高倉神社境内―	八尋和泉			本文
		Outline of the Chinese Ceramics excavated in Japan from the Nara to the Heian Periods	Meitoku Kamei			本文
		大形甕棺の編年について ―ことに型式設定の手続きの問題に関して―	高倉洋彰			研究ノート
		大宰府出土の瓦について(二)	石松好雄、高橋　章			研究ノート
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕 仏像銘文中の『作者』の意味するもの	八尋和泉			研究ノート
		太宰府天満宮蔵の慶長五年在銘鰐口について	西村強三			研究ノート
		田川市セスドノ古墳出土鉄製品の保存修復処置	横田義章			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集5	佐賀県小城町岩蔵寺の大般若経について	鏡山　猛	1979.3	九州歴史資料館	本文
		八・九世紀の大宰府高級府官在任年表	渡邉正氣			研究ノート
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕 正安三年銘千手観音立像―筑前 宗像・梅谷寺―	八尋和泉			研究ノート
		最近の出土品保存処置例	横田義章			研究ノート
		大宰府出土の土師器に関する覚書き(3)	横田賢次郎			研究ノート
		重要文化財 今八幡宮の鰐口	西村強三			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集6	東南アジアにおける陶磁研究	鄭　徳坤　（訳：亀井明徳）	1980.3	九州歴史資料館	本文
		福岡県筑紫郡太宰府町宮ノ本発見の買地券判読次第	横田義章			研究ノート
		福岡県古賀町発見の古墳時代資料	横田義章			資料
		文徳朝の貴族(三)	渡邉正氣			資料
	九州歴史資料館研究論集7	星宿劫と星宿図	田村圓澄	1981.8.31	九州歴史資料館	本文
		S字状文仿製鏡の成立過程	高倉洋彰			本文
		天智四年の築城に関する若干の検討	倉住靖彦			本文
		いわゆる「神子柴型石斧」の資料	横田義章			研究ノート
		中国古窯跡地名表(1)	亀井明徳			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集8	宗像沖ノ島祭祀の歴史的諸段階	田村圓澄	1982.12	九州歴史資料館	
		老司式軒先瓦について	石松好雄			
		筑前飯盛山瓦経(前編)	八尋和泉			
		五世紀代古墳出土刀装具の例	横田義章			研究ノート
		経筒新資料について	亀井明徳			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集9	福岡県内出土の硯について―分類と編年に関する一試案―	横田賢次郎	1983.12	九州歴史資料館	
		鹿児島県下の神社に傳わる中国宋元時代の鏡	西村強三			
		九州仏像の現所在と原所在 ―造立時の寺院を離れた仏像五例―	八尋和泉			
		『観世音寺資財帳』に見える小野常實の官職名について	倉住靖彦			研究ノート

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　①

区分	書 名	所収論文名	執筆者名(筆頭は編集者)	刊行年	発行機関	特記事項
論集	九州歴史資料館研究論集10	磐井の乱の歴史的評価	田村圓澄	1984.3.31	九州歴史資料館	
		初期鉄器の普及と画期	高倉洋彰			
		明代華南彩釉陶をめぐる諸問題・補遺	亀井明徳			
		古墳時代の象嵌文様―九州の諸例紹介を中心として―	横田義章			研究ノート
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕筑前岡垣 海蔵寺の馬頭観音像	八尋和泉			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集11	大宰府統命院の建置	倉住靖彦	1986.3	九州歴史資料館	
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕 日田永興寺文治三年銘 毘沙門天像と九州の「藤末鎌初」について	八尋和泉			
		太宰府天満宮蔵の中国・朝鮮鏡	西村強三			
		〔金属器の修復と観察〕 圭頭と頭椎―柄頭の取り付けと柄作り手順―	横田義章			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集12	大宰府創建考	田村圓澄	1987.3	九州歴史資料館	
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕英彦山今熊野窟嘉禎三年銘磨崖仏	八尋和泉			
		宮崎県東臼杵郡北郷村発見の大形槍先形石器(一)	横田義章			研究ノート
		近世博多の鋳物師 大田・山鹿家(一)	西村強三			研究ノート
		梵鐘竜頭の鋳造に関する一資料 ―山口・興隆寺鐘と福岡・光明寺鐘(中国明時代)―	西村強三			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集13	筑前国司をめぐる若干の検討	倉住靖彦	1988.3	九州歴史資料館	
		〔九州在銘彫刻シリーズ〕 運慶九代作文明七年銘大日如来像―筑前粕屋・寺浦大日堂―	八尋和泉			研究ノート
		国東長安寺蔵『屋山関係年代記』について	八尋和泉			研究ノート
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集14	王莽銭の流入と流通	高倉洋彰	1889.3	九州歴史資料館	
		韓国原三国時代の銅鏡	高倉洋彰			
		《金属器の修復と観察》銅鉾三例とその修復	横田義章			研究ノート
		大宰府出土土器の検討―八世紀後半の資料から―	赤司善彦			研究ノート
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集15	九州における平瓦一枚作り	栗原和彦	1990.3	九州歴史資料館	
		都市大宰府をめぐる若干の考察	倉住靖彦			
		いわゆる「神子柴型石斧」の資料(二)	横田義章			研究ノート
		〔金属器の修復と観察〕錆着破片のある鏡の修復	横田義章			研究ノート
		大宰府出土の風字硯四例について	横田賢次郎			研究ノート
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集16	『大宰府探究』補遺	田村圓澄	1991.3	九州歴史資料館	
		〔金属器の修復と観察〕短甲の修復例	横田義章			研究ノート
		観世音寺出土の扁行忍冬唐草文軒平瓦	栗原和彦			研究ノート
		朝鮮製無釉陶器の流入 高麗期を中心として	赤司善彦			研究ノート
		経筒三例	宮小路賀宏			研究ノート
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集17	大宰府の職掌の二元性	田村圓澄	1992.3	九州歴史資料館	
		法隆寺金堂釈迦三尊像台座の墨書について	田村圓澄			
		大形棺成立以前の甕棺の編年	橋口達也			
		弥生時代の戦い―武器の折損・研ぎ直し―	橋口達也			
		九州における横穴式石室の石棚について	吉村靖徳			
		いわゆる神子柴型石斧の資料(三)	横田義章			研究ノート
		太宰府市来木出土の弥生前期土器	赤司善彦、橋口達也			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集18	装飾古墳の蕨手文・双脚輪状文―その源流をさぐる―	橋口達也	1993.3	九州歴史資料館	
		朝倉橘広庭宮の再検討 ―杷木町志波地区の大規模建物跡群とその歴史的位置づけ―	小田和利			
		〔金属器の修復と観察〕古墳時代の銀象嵌二例	横田義章			研究ノート
		大宰府史跡出土の特異な柱状片刃石斧	橋口達也			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集19	豊前出土の北陸系土器について	小田和利	1994.3	九州歴史資料館	
		観音寺経塚の調査	宮小路賀宏			
		観世音寺戒壇院『西戒壇』銘軒丸瓦の調査	栗原和彦			
		瓦・塼の笵形彫り直しについて	石松好雄			研究ノート
		大宰府出土の挽物について	吉村靖徳			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集20	権衡に関する一考察―福岡県内出土権状製品の検討と課題―	吉村靖徳	1995.3	九州歴史資料館	
		山川町・面の上一号墳の再検討	佐々木隆彦			研究ノート
		太宰府天満宮絵馬堂の丸瓦	栗原和彦			研究ノート
		国宝・観世音寺鐘と妙心寺鐘	横田賢次郎、石丸 洋			資料紹介
		筒野経塚の紹介	宮小路賀宏			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　②

区分	書 名	所収論文名	執筆者名(筆頭は編集者)	刊行年	発行機関	特記事項
論集	九州歴史資料館研究論集21	製塩土器からみた律令期集落の様相	小田和利	1996.3	九州歴史資料館	
		嘉麻郡西郷村所在瓦工房の瓦笵	栗原和彦			
		九州の「尖頭器石器群」(一)―宗原遺跡出土石器群の再検討―	杉原敏之			研究ノート
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集22	九州の「尖頭器石器群」(二)―筑紫平野の「槍先形尖頭器」―	杉原敏之	1997.3	九州歴史資料館	
		日永遺跡出土の銅矛・銅戈	佐々木隆彦			
		神籠石と水城大堤 ―水城の築堤工法からみた神籠石の築造年代について―	小田和利			
		偏行忍冬唐草紋と宝相華紋 ―筑前大分廃寺出土新羅系軒瓦の検討―	栗原和彦			
		人吉願成寺所蔵の十王図	井形 進			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集23	折り曲げた副葬鉄器	佐々木隆彦	1998.3	九州歴史資料館	
		大宰府史跡出土の軒丸瓦	栗原和彦			
		大宰府跡についての若干の検討	倉住靖彦			
		経塚資料覚書(一)	宮小路賀宏			
		周防国分尼寺出土の軒丸瓦	栗原和彦			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集24	九州細石刃石器群の石器組成	杉原敏之	1999.3	九州歴史資料館	
		奈良時代大宰府の瓦は縄目瓦であった ―第98次南北溝SD2340調査から―	栗原和彦			
		経塚資料覚書(二)	宮小路賀宏			
		徳之島カムィヤキ古窯跡採集の南島陶質土器について	赤司善彦			
		日向大光寺の頂相二躯と造像の環境	井形 進			
		北部九州における近世古窯跡の研究 ―筑前国鞍手郡山口村(現鞍手郡若宮町)浅ケ谷窯跡について―	副島邦弘			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集25	大宰府史跡出土の軒平瓦	栗原和彦	2000.3	九州歴史資料館	
		北部九州における近世古窯跡の研究 ―磁器への道(福岡県の場合)―	副島邦弘			
		糸田町古賀ノ峯出土銅戈の再検討	新原正典			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集26	太宰府出土瓦に見られる朝鮮半島統一新羅時代文化の影響	栗原和彦	2001.3	九州歴史資料館	
		経塚資料覚書(三)筥崎宮出土瓦経	宮小路賀宏			
		福岡県の相撲絵馬について	副島邦弘			
		八女市真浄寺2号墳出土資料	横田義章			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集27	摩滅鏡と踏返し鏡	柳田康雄	2002.3	九州歴史資料館	
		宗像興聖寺の色定法師坐像	井形 進			
		福岡県八女市大字山内所在の戦国期城館 (犬尾城・鷹尾城・東館遺跡)の検討	岡寺 良			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集28	大宰府式鬼瓦小考	井形 進	2003.3	九州歴史資料館	
		大宰府史跡出土青銅製遺物の自然科学的調査 ―大楠地区出土銅鋺の構造と材質について―	加藤和歳			
		筑後市彼岸田遺跡出土の呪符木簡	小田和利			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集29	日本・朝鮮半島の中国式銅剣と実年代論	柳田康雄	2004.3	九州歴史資料館	
		地割計画についての覚書―第Ⅱ期大宰府政庁を中心として―	吉村靖徳			
		大宰府式鬼瓦小考補記	井形 進			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集30	明器銅戈考	橋口達也	2005.3	九州歴史資料館	
		石棚雑感―九州における系譜と評価をめぐって―	吉村靖徳			
		大宰府史跡蔵司西地区出土木簡の再検討	酒井芳司			
		行橋市安楽寺の五劫思惟阿弥陀坐像	井形 進			
		観世音寺出土銅および銅合金製遺物の材質に関する 基礎的調査	加藤和歳			
		福岡県の農耕絵馬について	副島邦弘			
		福岡県立朝倉高等学校蔵 栗田経田遺跡出土祭祀関連資料の再検討(一)	馬田弘稔			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集31	大野城出土柱根の刻書	杉原敏之	2006.3	九州歴史資料館	
		豊前地域出土銅鋺の材質分析	加藤和歳			
		太宰府岩屋城の研究(上)～城郭構造(縄張り)からの検討～	岡寺 良			
		筑前国焼高取焼の様式変化について	副島邦弘			
		塚崎東畑遺跡出土丹塗磨研土器の墨書状痕跡について	酒井芳司			資料紹介
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　③

区分	書 名	所収論文名	執筆者名(筆頭は編集者)	刊行年	発行機関	特記事項
論集	九州歴史資料館研究論集32	大宰府政庁のⅠ期について	杉原敏之	2007.3	九州歴史資料館	
		若杉向ノ山経塚出土経筒の保存科学的調査	加藤和歳			
		観世音寺の木造不空羂索観音立像	井形 進			
		太宰府岩屋城の研究(下)〜城絵図からの検討〜	岡寺 良			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集33	甕棺墓から壺棺墓へ ―峠山遺跡1号墳壺棺墓出土資料の紹介―	大庭孝夫	2008.3	九州歴史資料館	
		小田観音堂の三駆の観音立像	井形 進			
		大宰府政庁の終焉	杉原敏之			
		宝満山近世僧坊跡の調査と検討―山岳寺院の平面構造調査―	岡寺 良			
		近代の文化財保存修復に関する現状と課題 ―福岡県内の状況から―	加藤和歳			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集34	筑紫野地峡帯の旧石器	杉原敏之	2009.3	九州歴史資料館	
		墳墓副葬有茎式磨製石鏃の一考察	大庭孝夫			
		倭王権の九州支配と筑紫大宰の派遣	酒井芳司			
		太宰府所在薩摩塔の応急的保存修復処置	加藤和歳			
		筑前一嶽城と亀尾城 ―国人領主・筑紫氏の城郭としての視点から―	岡寺 良			
		福岡藩における大宰府跡の保護・顕彰について	一瀬 智			
		「宗像興聖寺の色定法師坐像」補記	井形 進			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集35	首長墓の出現と王墓の形成過程	西谷 正	2010.3	九州歴史資料館	
		朝倉橘広庭宮と観世音寺―宮の所在地についての再検討―	小田和利			
		大宰府・観世音寺出土の唐三彩	岡寺 良			
		大宰府政庁跡出土小札の検討	小嶋 篤			
		北谷地蔵堂の地蔵菩薩立像 ―平安時代の竈門山と北部九州造像界の一遺例―	井形 進			
		土器に付着した白色物質の推定に関する予察	加藤和歳			研究ノート
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集36	東アジアのクレタ島―壱岐島―	西谷 正	2011.3	九州歴史資料館	
		西北九州の出現期石鏃	杉原敏之			
		弥生時代葬送儀礼の一様相 ―福岡県みやま市松延遺跡三号甕棺墓を巡る諸問題―	大庭孝夫			
		水城大堤の築堤年代についての一私論	小田和利			
		大宰府の兵器―大宰府史跡蔵司地区出土の被熱遺物―	小嶋 篤			
		福岡県久山町の個人蔵の古仏	井形 進			
		筑前朝倉地域の戦国期城館―東峰村烏嶽城について―	岡寺 良			
		九州歴史資料館新築工事における保存環境整備に関する研究	加藤和歳			
		〈附〉九州歴史資料館 研究論集 総目次				
	九州歴史資料館研究論集37	墓制と領域―胸肩君一族の足跡―	小嶋 篤	2012.3	九州歴史資料館	論文
		大宰府軍制の特質と展開―大宰府常備軍を中心に―	松川博一			論文
		戦国期城郭としての筑前益富城	岡寺 良			論文
		伊東尾四郎文書本『筑前国続風土記附録』について	一瀬 智			論文
		いわゆる薬壺形短頸壺の基礎的検討―福岡平野を中心に―	下原幸裕			研究ノート
		土器に付着した白色物質の推定に関する予察 その二	加藤和歳			研究ノート
		門田遺跡の局部磨製石斧	杉原敏之			資料紹介
		破鏡に見られる工具痕 ―福岡県みやま市藤の尾垣添遺跡出土破鏡の観察から―	大庭孝夫			資料紹介
		野田大塊文書における明石元二郎書簡	渡部邦昭			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集38	九州北部の渡来人集団と地域社会 ―古寺・池の上墳墓群と吉武遺跡群の検討―	小嶋 篤	2013.3	九州歴史資料館	論文
		筑前における古墳文化終焉の一様相 ―観音山古墳群の再検討―	下原幸裕			論文
		須恵器擂鉢について	小田和利			論文
		九州西側の石造古仏	井形 進			論文
		小規模コンクリート造収蔵庫内における温湿度環境 ―福岡県内個人宅収蔵庫の事例から―	加藤和歳			論文
		九州における尖頭器石器群の出現をめぐって	杉原敏之			研究ノート
		「胸形」国の可能性	西谷 正			研究ノート
		京築地域の古代道路	坂本真一			研究ノート
		「大宰府史跡」出土木製品の用材調査 ―観世音寺出土木製品の用材傾向―	小林 啓			研究ノート

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　④

区分	書　名	所収論文名	執筆者名（筆頭は編集者）	刊行年	発行機関	特記事項
論集	九州歴史資料館研究論集38	博物館における教育普及の新たな取り組みについて ―九州歴史資料館の移転開館を機に―	柳 正彦、朝山 陽一郎	2013.3	九州歴史資料館	研究ノート
		伝平戸松浦家旧蔵の獣帯鏡	大庭孝夫			資料紹介
		福岡県立筑紫丘高等学校所蔵の瓦経片	岡寺　良			資料紹介
		野田大塊文書における原敬・高橋是清書簡	渡部邦昭			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集39	「日ノ岳型尖頭状石器」について	杉原敏之	2014.3	九州歴史資料館	論文
		北部九州における横口式石槨の影響	下原幸裕			論文
		磐瀬宮における諸問題	小田和利			論文
		小郡官衙遺跡出土鉄鏃の研究	小嶋　篤			論文
		鉢伏山金剛寺跡―脊振山系の山岳霊場遺跡の一様相―	岡寺　良			論文
		博物館におけるX線CTスキャナを利用した研究の課題と展望	加藤和歳			論文
		「大宰府史跡」出土木製品の用材調査Ⅱ ―水城跡の出土木製品を対象として―	小林 啓			研究ノート
		博多湾鉄道汽船の経営	渡部邦昭			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集40	駅家と餞宴―蘆城駅家と夷守駅家をめぐる一考察―	松川博一	2015.3	九州歴史資料館	論文
		天台寺跡とその周辺	杉原敏之			論文
		鹿部観音堂の聖観音立像	井形　進			論文
		豊前長岩城平面構造考	岡寺　良			論文
		小規模書庫の温湿度環境 ―その評価と空調制御に関する検討―	加藤和歳			論文
		前方後円墳の終焉と「終末期」の開始	下原幸裕			研究ノート
		朝倉軌道の経営	渡部邦昭			研究ノート
		昭和六年の水城跡木樋発見	伊崎俊秋			研究ノート
		「大宰府史跡」出土木製品の用材調査Ⅲ ―不丁地区の出土木製品を対象として―	小林　啓			研究ノート
	九州歴史資料館研究論集41	筑紫における総領について	酒井芳司	2016.3	九州歴史資料館	論文
		流末溝田遺跡の縄文晩期土器―九州地方周防灘沿岸部における刻目突帯文土器出現期の様相―	宮地聡一郎			研究ノート
		装飾古墳の方形区画―筑前・桜京古墳の再検討―	吉村靖徳			研究ノート
		「大宰府史跡」出土木製品の用材調査Ⅳ ―政庁前面広場地区の出土木製品を対象として―	小林　啓			研究ノート
		九州地方行政協議会の姿―伊東尾四郎文書から―	渡部邦昭			研究ノート
		豊前市四郎丸窯跡表採資料の紹介―米田鉄也氏コレクション―	小澤佳憲			資料紹介
		四王寺山の独鈷杵	井形　進			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集42	Ⅰ期大宰府の成立について	小田和利	2017.3	九州歴史資料館	論文
		鴻臚館Ⅰ式軒瓦の再検討	下原幸裕			論文
		長門三隅の熊野権現社の宋風獅子	井形　進			論文
		大野城跡出土柱根刻書再考	酒井芳司			研究ノート
		永江文書における九州鉄道関係資料―経路選定を中心に―	渡部邦昭			研究ノート
		八女市亀ノ甲・山ノ上遺跡の鑿状鉄器について ―岩崎光氏収集資料の紹介（一）―	大庭孝夫			資料紹介
		大野城跡出土の鉄製武器	小澤佳憲			資料紹介
		熊本県玉名郡和水町坂本城―熊本県北地域における畝状空堀群を有する中世城郭の事例―	岡寺　良			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集43	第Ⅱ期大宰府政庁の造営過程―軒瓦の検討から―	下原幸裕	2018.3	九州歴史資料館	論文
		律令制下の大宰府と古代山城	松川博一			論文
		若宮地域の小規模城館群にみる戦国時代	岡寺　良			論文
		最近の出土遺物における科学的調査事例―東九州自動車道発掘調査に係る出土金属質遺物を対象にして―	小林　啓			研究ノート
		太宰府天満宮境内絵図 ―九州歴史資料館・太宰府天満宮所蔵資料から―	日野綾子			研究ノート
		八女市亀ノ甲遺跡出土イモガイ製腕輪について ―岩崎光氏収集資料の紹介（三）―	大庭孝夫			資料紹介
		豊前市荒堀雨久保遺跡出土木葉文甕の共伴遺物 ―7世紀後葉頃の土錘・鍛冶関連遺物ほか―	小澤佳憲			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集44	筥崎宮周辺の中国渡来石造物―恵光院の作例を中心に―	井形　進	2019.3	九州歴史資料館	論文
		出土琥珀の保存科学的研究の現状と課題	安木由美			論文
		高鳥居城の平面構造に関する再検討	岡寺　良			研究ノート
		石垣高尾遺跡の星形刻印を施した石材について	小田和利			研究ノート
		守房の画稿―尾形家絵画資料より―	日野綾子			研究ノート
		旧庁舎を転用した書庫の温湿度環境 ―その評価と保存管理に関する検討―	加藤和歳			研究ノート
		筑後市若菜出土の巴形銅器 ―岩崎光氏収集資料の紹介（三）―	大庭孝夫			資料紹介
	九州歴史資料館研究論集45	大宰府政庁周辺官衙の動向―政庁南面域官衙跡を中心に―	小田和利	2020.3	九州歴史資料館	論文
		薩摩川辺の水元神社の薩摩塔	井形　進			論文
		被災した組織体文書記録の応急処置と保存管理に関する検討 ―平成29年7月九州北部豪雨による被災資料を事例として―	加藤和歳			研究ノート
		「大宰府史跡」出土木製品の用材傾向Ⅴ ―木簡削り屑を対象として―	小林　啓			研究ノート
		八女市亀ノ甲遺跡出土の銅鏡 ―岩崎光氏収集資料の紹介（四）―	大庭孝夫			資料紹介
		大宰府史跡出土資料紹介	小田和利、松川博一、遠藤啓介、岡寺　良			資料紹介

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　⑤

区分	書　名	執筆者名(筆頭は編集者)	刊行年	発行機関	特記事項
図録	九州歴史資料館開館記念展示目録		1973.2.24	九州歴史資料館	
	九州の古瓦と寺院		1974.8.1	九州歴史資料館	
	九州所在 中国・朝鮮の仏教美術遺品展	倉住靖彦、西村強三、八尋和泉	1974.8.2	九州歴史資料館	
	九州の奈良・平安陶磁		1977.2.15	九州歴史資料館	
	発掘10周年記念　甦る遠の朝廷　大宰府展		1978.10.15	九州歴史資料館	
	くらじの里からしらぬいへ -九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査による出土品展-		1979.3	九州歴史資料館	
	青銅の武器―日本金属文化の黎明―　付・日本青銅武器出土地名表		1980.2.20	九州歴史資料館	
	九州古瓦図録		1982.3	九州歴史資料館	柏書房
	九州歴史資料館開館十周年記念展 「国宝観世音寺鐘 妙心寺鐘とその時代―九州の飛鳥・白鳳・天平―」	倉住靖彦、西村強三、八尋和泉	1984.2.23	九州歴史資料館	
	大宰府史跡発掘調査20周年記念「発掘が語る遠の朝廷　大宰府」		1988.9.12	九州歴史資料館	
	「南九州に伝わる中世の鏡」展パンフレット		1988	九州歴史資料館	
	平成元年特別展示 「対外交渉と九州の繁栄 」		1989.7.18	九州歴史資料館	
	「筑紫の古代文化展」パンフレット		1989	九州歴史資料館	
	特別展 「古代の福岡」		1990.9.1	九州歴史資料館	
	戒壇院展(リーフレット)		1983.8.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館20周年記念特別展 「日本の鬼瓦」		1993.10.26	九州歴史資料館	
	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展 「大宰府復元 」	赤司善彦、森　弘子、井形　進、完戸　鶴、倉住靖彦、栗原和彦、 齋部麻矢、狭川真一、杉原敏之、田上　稔、野村万之丞、林　重徳、 広田五男、松川博一、宮田浩之、山村信榮、山本輝雄、横田義章、 横田賢次郎、和田博志	1998.10.23	九州歴史資料館	
	福岡のやきもの～豊前田香焼～(リーフレット)		1999.1.5	九州歴史資料館 大任町教育委員会	
	企画展 「大宰府へ　こころが動き　ものが動く」	九州歴史資料館(学芸第一課・二課、調査課)、　久野隆志	2003.1.5	九州国立博物館誘致推進本部 九州歴史資料館	
	特別展示・パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり～鹿児島本線編～」 (リーフレット)		2013.7.17	九州歴史資料館	
	特別展 「大宰府へ　ひとが動き　ものが動く」(平成15年度九州国立博物館誘致推進本部 「ジュニア学芸員モデル事業テキスト」)		2003.8.9	九州国立博物館誘致推進本部 九州歴史資料館	
	特別展 「大宰府へ　くにが動き　ものが動く」	吉村靖徳、小田和利、加藤和歳、酒井芳司、高橋　章、比嘉えりか、 馬田弘稔	2004.3.31	九州歴史資料館	
	特別展 「観世音寺」	井形　進、岡寺　良、加藤和歳、酒井芳司、杉原敏之	2006.11.9	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館記念特別展 「大宰府　―その栄華と軌跡―」	杉原敏之、松川博一、井形　進、一瀬　智、大庭孝夫、岡寺　良、 小田和利、加藤和歳、釜瀬進一郎、小嶋　篤、西谷　正	2010.11.21	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館1周年記念企画展 「北部九州の霊山と経塚」	森井啓次、井形　進、一瀬　智、岡寺　良、松川博一	2011	九州歴史資料館	
	トピック展示 「九州最古の狩人とその時代」	杉原敏之	2011.10.29	九州歴史資料館	
	長崎街道開通400年記念特別展 「長崎街道―世界とつながった道―」	一瀬　智、井形　進、岡寺　良、松川博一、渡部邦昭	2012.10.30	九州歴史資料館	
	第12回企画展 「聖地四王寺山」	井形　進、岡寺　良、小嶋　篤、下原幸裕、杉原敏之、松川博一	2013.1	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館40周年・移転開館3周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り　―九州の覇権のゆくえ―」	松川博一、井形　進、一瀬　智、岡寺　良、渡部邦昭	2013.9.28	九州歴史資料館	
	第18回企画展 「五卿西竄150年　五卿と志士―維新前夜の太宰府―」	一瀬　智、松川博一、渡部邦昭	2014.1.5	九州歴史資料館(編集)、公益財団法人太宰府顕彰会	
	特別展示・パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり2～糟屋地区編～」 (リーフレット)		2014.6.17	九州歴史資料館	
	特別展 「福岡の神仏の世界―九州北部に華開いた信仰と造形―」	井形　進、江上智恵、加藤和歳、國生知子、小林貴代、杉原敏之	2014.10.8	九州歴史資料館	
	第22回企画展・水城築堤1350年記念企画 「徹底解説!!水城のすべて」(リーフレット)		2014.8.16	九州歴史資料館	
	第23回企画展 「黒田官兵衛と城」	岡寺　良、一瀬　智、酒井芳司、松川博一、渡部邦昭	2014.8.16	九州歴史資料館	
	第24回企画展 「政治家野田卯太郎から見る日本の近代」(リーフレット)		2014.12.9	九州歴史資料館	
	大野城築造1350年・九州歴史資料館移転開館5周年記念特別展 「四王寺山の1350年―大野城から祈りの山へ―」	松川博一、井形　進、伊崎俊秋、遠藤啓介、岡寺　良、小澤佳憲、 小田和利、酒井芳司、下原幸裕、西谷　正、森井啓次、渡部邦昭	2015.10.24	九州歴史資料館	
	第30回企画展 「大宰府史跡みどころ展Part.1　貝原益軒―大宰府研究の先賢たち―」		2015.8.21	九州歴史資料館	
	第34回企画展 「西北九州の黒曜石と石刃技法―旧石器時代の“石の匠”の技を探る―」		2016.1.26	九州歴史資料館	
	パネル展 「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録記念 「福岡鉄道遺産ものがたり3～三池の炭鉱鉄道編～」(リーフレット)		2016.1.5	「福岡県近代化産業遺産」世界遺産登録連絡会議	
	特別展 「八女の名宝」	井形　進、松川博一、遠藤啓介、岡寺　良、酒井芳司、渡部邦昭	2016.9.22	九州歴史資料館	
	第37回企画展 「大宰府の役人と文房具」	小田和利、松川博一	2016.11	九州歴史資料館	
	特別展 「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」	井形　進、岩本教之、岡寺　良、酒井芳司、正田実知彦、須永　敬、 長野　覺、西山紘二、日野綾子、松川博一	2017.8.15	九州歴史資料館	
	第41回企画展 「大宰府を探るサイエンス」	加藤和歳、酒井芳司、小林　啓	2017.10.7	九州歴史資料館	
	第42回企画展 「福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―　」 福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業完了記念	岡寺　良	2017.10.7	九州歴史資料館	
	第44回企画展 「堅粕薬師と東光院の古仏たち」	井形　進	2018.2.10	九州歴史資料館	
	大宰府史跡発掘50年記念特別展 「大宰府への道―古代都市と交通―」	酒井芳司、赤司善彦、井形　進、伊崎俊秋、石松好雄、大庭孝夫、 岡寺　良、小澤佳憲、小田和利、小田富士雄、齋部麻矢、下原幸裕、 松川博一	2018.4.24	九州歴史資料館	
	第46回企画展 「幕末の城―近世の沿岸警備と幕末期城郭―」	岡寺　良	2018.6.30	九州歴史資料館	
	記念図録　大宰府史跡発掘50年 (『大宰府史跡発掘50年記念特別展　大宰府への道―古代都市と交通―』 増補版)	酒井芳司、赤司善彦、井形　進、伊崎俊秋、石松好雄、大庭孝夫、 岡寺　良、小澤佳憲、小田和利、小田富士雄、齋部麻矢、下原幸裕、 松川博一	2018.11.10	九州歴史資料館	
	特別展 「久留米―その歴史と文化―」	遠藤啓介、井形　進、酒井芳司、日野綾子、松川博一	2019.10.12	九州歴史資料館	
	第51回企画展 「船原古墳の世界」	加藤和歳	2019.12.21	九州歴史資料館	
	第54回企画展 「太宰府天満宮の境内絵図―さいふまいりの江戸・明治―」	日野綾子	2020.1.29	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館移転開館10周年記念特別展 「福岡の至宝に見る信仰と美」	酒井芳司、井形　進、遠藤啓介、西谷　正、日野綾子、松川博一、 渡部邦昭	2020.10.6	九州歴史資料館	
	第59回企画展 「朝鮮通信使と福岡」(リーフレット)		2020.12.12	九州歴史資料館	

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　⑥

区分	書 名	執筆者名(筆頭は編集者)	刊行年	発行機関	特記事項
目録	筑後大本山善導寺 歴史資料調査目録		1981.3.30	九州歴史資料館	
	筑後梅林寺 歴史資料調査目録		1982.3.30	九州歴史資料館	
	田中幸夫寄贈品目録	亀井明徳	1982.3.30	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館収蔵資料目録 1	横田義章	1982.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館収蔵資料目録 2	横田義章	1983.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館収蔵資料目録 3	横田義章	1984.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館収蔵資料目録 4	石松好雄	1987.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館収蔵資料目録 5	横田義章	1989.3.31	九州歴史資料館	
	柳川藩今村家寄贈品目録		1993.3	九州歴史資料館	
パンフレット	九州歴史資料館および太宰府周辺のご案内		1976	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館		1979.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館 総合案内		1983.10.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館 展示案内		1987.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館 展示案内		1992.3.31		
	交流のかなめ ふくおか 九州歴史資料館展示案内	井形 進、遠藤啓介、大庭孝夫、岡寺 良、小田和利、酒井芳司、下原幸裕、杉原敏之、松川博一、宮地聡一郎、渡部邦昭	2017.2.20	九州歴史資料館	
	見学のしおり きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―		2012	九州歴史資料館	
	新町遺跡展示資料	橋口達也	1988	九州歴史資料館	新町遺跡展示パンフレット
	九州歴史資料館施設要覧		2010	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館 リーフレット		2010	九州歴史資料館	
	常設展示解説シート (1～21)		2010	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (22～30)		2012.10.～2013.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (31～43)		2013.4.～2014.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (44～47)		2014.7.～2015.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (48～55)		2015.5.～2016.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (56～62)		2016.6.～2017.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (63～69)		2017.4.～2018.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館解説シート (70～73)		2018.6.～2018.12	九州歴史資料館	
ガイドブック	特別史跡水城跡	松川博一、一瀬 智、岡田 論、岡寺 良、小田和利、下原幸裕、杉原敏之	2014.3.31	九州歴史資料館	大宰府史跡ガイドブック 1
	特別史大野城跡	松川博一、岡寺 良、井形 進、岡田 論、小澤佳憲、小田和利、酒井芳司、下原幸裕、杉原敏之、赤司善彦、入佐友一郎	2015.3.31	九州歴史資料館	大宰府史跡ガイドブック 2
	特別史跡大宰府跡	遠藤啓介、岡寺 良、松川博一、大庭孝夫、小田和利、酒井芳司、吉田東明、吉村靖徳	2018.11.10	九州歴史資料館	大宰府史跡ガイドブック 3
年報	九州歴史資料館年報 昭和47年度		1974.3.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和48年度		1974.11.30	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和49年度		1975.2	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和50年度		1976.8.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和51年度		1977.8.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和52年度		1978.8.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和53年度		1979.8.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和54年度		1980.8.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和55年度		1981.11.10	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和56年度		1982.12.10	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和57年度		1983.8	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和58年度		1984.7	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和59年度		1985	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和60年度		1986.8.15	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和61年度		1987.7.15	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和62年度		1988.8.1	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 昭和63年度		1989.8.1	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成元年度		1990.8.15	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 2年度		1991.10.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 3年度		1992.8.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 4年度		1993.7.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 5年度		1994.8.1	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 6年度		1995.6.15	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 7年度		1996.6.28	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 8年度		1997.6.13	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報 平成 9年度		1998.7.25	九州歴史資料館	

第 34 表 九州歴史資料館刊行物 ⑦

区分	書　名	執筆者名（筆頭は編集者）	刊行年	発行機関	特記事項
年報	九州歴史資料館年報　平成10年度		1999.7.26	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成11年度		2000.7.24	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成12年度		2001.8.24	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成13年度		2002.6.24	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成14年度		2003.7.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成15年度		2004.5.31	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成16年度		2005.6.21	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成17年度		2006.6.19	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成18年度		2007.7.6	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成19年度		2008.6.26	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成20年度		2009.7.1	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成21年度		2010.6.1	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成22年度		2011.7.29	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成23年度		2012.6.29	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成24年度		2013.7.22	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成25年度		2014.6	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館年報　平成26年度		2015.7.30	九州歴史資料館	電子化開始
	九州歴史資料館年報　平成27年度		2016	九州歴史資料館	電子化
	九州歴史資料館年報　平成28年度		2017.8.22	九州歴史資料館	電子化
	九州歴史資料館年報　平成29年度		2018.8.26	九州歴史資料館	電子化
	九州歴史資料館年報　平成30年度		2019.7.24	九州歴史資料館	電子化
	九州歴史資料館年報　令和元年度		2020.9.30	九州歴史資料館	電子化
シンポジウム	九州歴史資料館 開館十周年記念 シンポジウム 「古代の西海道と大宰府」	亀井明徳	1984.3.10	九州歴史資料館 博物館等建設推進九州会議	
	「甦る遠の朝廷　－東アジアと大宰府－」 大宰府史跡発掘調査20周年記念	横山浩一、金　東賢、坪井清足、大塚初重、小田富士雄	1988.9.23	福岡県教育委員会	昭和63年9月23日　東京都千代田区公会堂ホール
	シンポジウム「府の大寺観世音寺の創建を探る」 （平成18年度大宰府文化発信事業太宰府発見塾公開講座）	小田和利、井形　進、笹山晴生、小田富士雄、高倉洋彰	2006	福岡県教育委員会	大宰府文化発信事業 平成18年11月18日　太宰府市中央公民館
	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業 シンポジウム 「古代都市・大宰府の成立を考える」		2008.11.23	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館記念シンポジウム 「大宰府と西海道　―古代の役所と人々のくらし―」		2010.12.4	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館1周年記念シンポジウム 九州国立博物館大宰府学研究シンポジウム 「祈りの世界　―北部九州の霊山と経塚―」		2012.1.29	財団法人大宰府顕彰会	
	大宰府史跡発掘調査50年記念シンポジウム 「展望・大宰府研究　大宰府の官衙―大宰府政庁周辺官衙跡の調査から―」		2018.12.15	九州歴史資料館 九州国立博物館	
科研費	戦前期地域交通と政党・軍部の経済的関係の研究 （課題番号:24720315　平成24～26年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書）	渡部邦昭（研究代表者）	2015.3.31	九州歴史資料館	
	古墳時代墓制の終焉過程からみた律令国家形成期の北部九州 （課題番号:24720370　平成24～26年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書）	下原幸裕（研究代表者）	2016.3.31	九州歴史資料館	
	九州島における石材産地と石刃技法の成立に関する研究 （課題番号:25370907　平成25～27年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書）	杉原敏之（研究代表者）、川道　寛、芝康次郎、田中聡一、 張　龍俊、辻田直人、藤木　聡、山崎真治	2017.3.31	九州歴史資料館	
	背振山の山岳信仰の研究―背振山系山岳信仰・霊場遺跡現地調査報告書― （課題番号:25770291　平成25～28年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書）	岡寺　良（研究代表者）、井形　進、小林　啓、山本義孝、 吉田扶希子	2017.3.31	九州歴史資料館	
	九州に偏在する中国系彫刻についての基礎的研究 ―薩摩塔と宋風獅子の基準設定にかかる考察― （課題番号:26370155　平成26年～29年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書）	井形　進（研究代表者）、江上智恵	2018.3.31	九州歴史資料館	
	古代都市大宰府の研究―出土文字資料と文学作品からみた大宰府の諸相― （課題番号:26370785　平成26～29年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書）	松川博一（研究代表者）	2018.3.30	九州歴史資料館	
	木簡による大宰府の西海道統治の実態に関する研究 （課題番号:15K02855　平成27～29年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書）	酒井芳司（研究代表者）、加藤和歳	2018.3.31	九州歴史資料館	
	大宰府管内出土陶硯の科学分析的研究 （課題番号:26370914　平成26～29年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書）	小田和利（研究代表者）	2018.3.31	九州歴史資料館	
	等覚寺の山岳信仰と松会 （科学研究費　課題番号16K03180　（研究代表者　岡寺　良）の成果を含む）	岡寺　良（研究代表者）、若杤善満、山本義孝	2018	苅田町教育委員会 （九州歴史資料館）	
	X線CTスキャナによる船原古墳出土遺物の研究 （課題番号:16H03517　平成28年度～令和元年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書）	加藤和歳（研究代表者）、重藤輝行	2020.3.31	九州歴史資料館	
	彦山六峰・等覚寺の山岳信仰の研究 ―豊前等覚寺の山岳霊場・信仰遺跡現地調査報告書― （課題番号:16K03180　平成28～令和元年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書）	岡寺　良（研究代表者）、國生知子、山本義孝、山口裕平、 若杤善満	2020.3.31	九州歴史資料館	
寺社	《九州の寺社シリーズ　1》筑前今津 誓願寺	西村強三、八尋和泉	1977.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ　2》薩摩川内 新田神社	八尋和泉、西村強三	1978.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ　3》豊後日田 岳林寺	八尋和泉、有川宜博、高倉芳男	1979.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ　4》筑前博多 善導寺	八尋和泉、池畑裕樹、吉良国光	1980.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ　5》筑後大本山 善導寺	八尋和泉、有川宜博、川添昭二、丸山千秋、山本輝雄	1981.3.27	九州歴史資料館	

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　⑧

区分	書 名	執筆者名(筆頭は編集者)	刊行年	発行機関	特記事項
寺社	《九州の寺社シリーズ 6》筑後 梅林禅寺	西村強三、菊竹淳一、東海大光、山本輝雄	1983.3.31	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 7》筑後柳川 福厳禅寺　付・筑後の黄檗寺院	八尋和泉、越中哲也、錦織亮介、山本輝雄	1985.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 8》筑前粕屋 若杉山の仏教遺跡	八尋和泉、森山みどり	1986.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 9》豊後くにさき 長安寺	八尋和泉、松本文尋	1988.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 10》筑前怡土 雷山千如寺 大悲王院	八尋和泉、佐伯弘次、山本輝雄	1989.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 11》肥前相知 鵜殿石佛　附 立石観音・花峰の観音	八尋和泉、志佐惲彦	1991.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 12》対馬樫根 法清寺観音堂　附・対馬六観音	八尋和泉、阿比留徳勇	1992.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 13》筑前太宰府 戎檀院	八尋和泉、大賀郁夫、佐藤正彦	1994.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 14》筑前太宰府 光明禅寺	八尋和泉、澤村 仁、渡邊雄二	1995.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 15》肥後人吉 願成寺	八尋和泉、井形 進、鶴嶋俊彦	1996.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 16》日向佐土原 大光禅寺	八尋和泉、青山幹雄、山本輝雄、渡邊雄二	1998.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 17》豊前上野 興国寺	井形 進、有川宜博、小川泰樹、佐藤正彦	2000.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 18》筑前大分 大分宮と養源寺	井形 進、石山 勲、酒井芳司、佐藤正彦、杉原敏之	2002.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 19》筑後八女 谷川寺	井形 進、石山 勲、岡寺 良、國生知子、酒井芳司	2004.3	九州歴史資料館	
	《九州の寺社シリーズ 20》筑前若宮 清水寺 ―西山東麓の神仏の姿―	井形 進、酒井芳司、國生知子、大庭孝夫、佐藤正彦	2006.3	九州歴史資料館	
九歴だより	九歴だより No. 1		1995.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 2		1995.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 3		1996.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 4		1996.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 5		1997.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 6		1997.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 7		1998.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 8		1998.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No. 9		1999.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.10		1999.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.11		2000.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.12		2000.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.13		2001.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.14		2001.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.15		2002.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.16		2002.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.17		2003.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.18		2003.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.19		2004.3.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.20		2004.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.21		2005.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.22		2005.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.23		2006.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.24		2006.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.25		2007.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.26		2007.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.27		2008.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.28		2008.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.29		2009.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.30		2009.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.31		2010.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.32		2010.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.33		2011.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.34		2011.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.35		2012.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.36		2012.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.37		2013.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.38		2013.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより No.39		2014.4.	九州歴史資料館	

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　⑨

区分	書　名	執筆者名（筆頭は編集者）	刊行年	発行機関	特記事項
九歴だより	九歴だより　No.40		2014.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.41		2015.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.42		2015.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.43		2016.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.44		2016.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.45		2017.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.46		2017.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.47		2018.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.48		2018.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.49		2019.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.50		2019.10.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.51		2020.4.	九州歴史資料館	
	九歴だより　No.52		2020.10.	九州歴史資料館	
その他	大宰府の文化財	九州歴史資料館（学芸第一課・二課、調査課）	1974.3.3	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館概要調書（付:九州歴史資料館ご案内パンフレット）		1976	九州歴史資料館	
	文化財の保存　1		1981.3.31	九州歴史資料館	
	柳川福厳寺歴史資料調査報告書―付・筑後の黄檗寺院―		1983.3	九州歴史資料館	
	九州北部の板碑 ―筑前・筑後―		1984.3.	九州歴史資料館	
	九州歴史資料館開館10周年記念　大宰府古文化論叢　上・下	田村圓澄、倉住靖彦、横田賢次郎、石松好雄、柳田康雄、横田義章、高倉洋彰、磯村幸男、高橋　章、栗原和彦、森田　勉、亀井明徳、中間研志、八尋和泉、西谷　正、佐田　茂、井上辰雄、王仁波（鈴木敦）、岸　俊男、澤村　仁、平野邦雄、八木　充、直木孝次郎、松崎英一、正木喜三郎、今泉隆雄、鬼頭清明、板楠和子、栄原永遠男、木下　良、日野尚志、波多野晥三、池畑耕一、田平徳栄、永留久恵、島津義昭、藤田俊雄、金正基、小田富士雄、森貞次郎、竹内理三、太田静六、山本輝雄、亀田修一、森　郁夫、李　蘭暎、森　弘子、中西　進、賀川光夫、井口喜晴、斎藤忠、松岡　史、西村強三、岡崎　敬、坪井清足	1983.12.20	九州歴史資料館	吉川弘文館
	大宰府史跡発掘50周年記念論文集　大宰府の研究	小田富士雄、松川博一、酒井芳司、杉原敏之、小澤佳憲、赤司善彦、入佐友一郎、小嶋　篤、大高広和、野木雄大、岡寺　良、井形　進、下原幸裕、齋部麻矢、小田和利、遠藤啓介、加藤和歳、伊崎俊秋、森　公章、八木　充、菅波正人、岩永省三、重藤輝行、日野尚志、上田龍児、山村信榮、重松敏彦、神保公久、西谷　正、亀田修一、林　重徳、小西龍三郎、大淵博文、木村龍生、矢野裕介、瓜生秀文、井上信正、小鹿野亮、高倉洋彰、森　弘子、栗原和彦、石木秀啓、中島恒次郎、主税英徳	2018.11		高志書院
	古代・中世における金属溶解技術の解明に関する研究 ―復元鋳造実験および展覧会の記録―	筑前鋳造技術研究会、九州歴史資料館 芦屋釜の里　（担当　加藤和歳、岡寺　良）	2019.3.31	九州歴史資料館	
	新年号「令和」記念特別講演会 「新元号「令和」と大宰府と　～万葉の世界～」資料		2019.6.2	九州歴史資料館	
	斎宮歴史博物館連携公開講座 西の都・大宰府と沖の島 東の都・斎宮と伊勢神宮 ～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～		2020	斎宮歴史博物館 （斎宮活性化実行委員会） （九州歴史資料館） （九州国立博物館）	

第 34 表　九州歴史資料館刊行物　⑩

（4）福岡県文化財関係刊行物

区分	書名	執筆者名	刊行年	発行機関	特記事項
シンポジウム	大宰府と新羅、百済の文化	石松好雄、金　正基、西谷　正、坪井清足、小田富士雄、田村圓澄	1987	福岡県教育委員会	第1回 国際シンポジウム　昭和62年3月7日　都久志会館
	九州における古墳文化と朝鮮半島	柳田康雄、西谷　正、金　基雄、小田富士雄、坂元義種、町田　章	1988	福岡県教育委員会	第2回 国際シンポジウム　昭和63年3月12日　都久志会館
	弥生文化の成立と東アジア	小池史哲、韓　炳三　、西谷　正、甲元眞之、佐原　眞、永井昌文	1989	福岡県教育委員会	第3回 国際シンポジウム　平成元年3月11日　都久志会館
	東アジアからみた日本稲作の起源	高倉洋彰、橋口達也、全　榮來、西谷　正、田村晃一、岡内三眞、渡部　武	1990	福岡県教育委員会	第4回 国際シンポジウム　平成2年3月17日　都久志会館
	卑弥呼の銅鏡百枚の謎　－銅鏡の製作と分布－	伊崎俊秋、井上裕弘、徐　萃芳、沈　奉謹、樋口隆康、水野正好、岡村秀典、西谷　正	1991	福岡県教育委員会	第5回 国際シンポジウム　平成3年3月16日　都久志会館 ここまで県職員による中国・韓国との国際交流事業成果報告シンポジウム
	径百余歩なる卑弥呼の墓　－東アジアにおける王墓の形成－	兪　偉超、姜　仁求、西谷　正、岩崎卓也、高島忠平、永島暉臣慎	1991	福岡県教育委員会	第6回 国際シンポジウム　平成3年11月26日　福岡市立中央市民センター
	伽耶の王墓と副葬品	申　敬澈、猪熊兼勝、和田　萃、早乙女雅博、西谷　正	1992	福岡県教育委員会	第7回 アジア文明国際シンポジウム　平成4年10月3日　都久志会館
	7万余戸なる卑弥呼の都する所の謎	厳　文明、崔　鍾圭、賀川光夫、石野博信、春成秀爾、西谷　正	1993	福岡県教育委員会	第8回 アジア文明国際シンポジウム　平成5年10月9日　都久志会館
	鬼道　－衆を惑わせた卑弥呼の正体を探る－		1994	福岡県教育委員会	第9回 アジア文明国際シンポジウム　平成6年10月22日　都久志会館
	鉄の九州、石の畿内　邪馬台国出現前夜における鉄製武器の普及	李　康承、都出比呂志、下條信行、高倉洋彰、板橋旺爾	1995	福岡県教育委員会	第10回 アジア文明国際シンポジウム　平成7年10月28日　アクロス福岡
	歴史の散歩道　大昔の人びとと私たち　－探訪　邪馬台国－		1996	福岡県教育委員会	第11回 アジア文明国際シンポジウム　平成8年6月18日　大手門会館
	大陸貿易と博多　－新安沖沈没船が語る東アジアの交流－	李　浩官、弓場紀知、大庭康時、佐伯弘次、木下良弘	1997	福岡県教育委員会	第12回 アジア文明国際シンポジウム　平成9年10月25日　都久志会館
	大宰府学事始め(1)　水城と大野城　－大宰府成立の謎に迫る－	横田賢次郎、坂上康俊、林　重徳、下向井龍彦、田中正日子	1998	九州国立博物館誘致推進本部	第13回 アジア文明国際シンポジウム　平成10年10月24日　アクロス福岡
	アジアンロード　～衣・食と人　21世紀の文化交流を考える	甲斐大策、武田佐知子	2001	九州国立博物館誘致推進本部	第15回 アジア文明国際シンポジウム　平成13年3月10日　アクロス福岡
	冥界を彩る　墓室壁画にこめられた諸民族の祈りと思い	ジーナ・リー・バーンズ、フランソア・マセ、金　元龍、西嶋定生、大林太良、白石太一郎	1992	九州国立博物館誘致推進本部	第1回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成4年7月31日　有楽町朝日ホール
	磐井の乱、起る　畿内・継体王朝VS.九州・筑紫君	平野邦雄、山尾幸久、猪熊兼勝、西谷　正、大塚初重	1993	九州国立博物館誘致推進本部	第2回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成5年7月31日　日経ホール
	金印、一海を渡る　何故、志賀島から出土したのか…	菅谷文則、久米雅雄、森　博達、塩屋勝利、鈴木靖民、松岡資明	1994	九州国立博物館誘致推進本部	第3回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成6年7月29日　日経ホール
	前方後円墳の原風景　－その起源と伝播の意義を探る－	猪熊兼勝、和田晴吾、小林三郎、西谷　正、宮代栄一	1995	九州国立博物館誘致推進本部	第4回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成7年6月13日　日経ホール
	石の埴輪・木の埴輪・土の埴輪　－ハニワのおこりとこころを探る－	西谷　正、辰巳和弘、橋本博文、矢澤高太郎	1996	九州国立博物館誘致推進本部	第5回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成8年11月14日　日経ホール
	骨が語る古代家族と生活	馬場悠男、鈴木隆雄、小池裕子、田中良之、宮代栄一	1997	九州国立博物館誘致推進本部	第6回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成9年7月24日　日経ホール
	いま、縄文がおもしろい　－北の三内丸山・南の上野原、土から甦る縄文のくらし－	岡田康博、新東晃一、林　謙作、西田正規、田中良之	1999	九州国立博物館誘致推進本部	第7回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成10年7月31日　日経ホール
	邪馬台国が見えた　～再び「銅鏡百枚の謎」邪馬台国所在地論争を整理する～	樋口隆康、福永伸哉、高島忠平、奥野正男、宮代栄一	1999	九州国立博物館誘致推進本部	第8回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成11年11月16日　日経ホール
	邪馬台国が見えたⅡ　文献史学から邪馬台国問題を整理する	平野邦雄、関　和彦、李　成市、金子修一、鈴木靖民	2000	九州国立博物館誘致推進本部	第9回 シンポジウム「古代史におけるアジアと日本」　平成12年11月30日　日経ホール
	よみがえる弥生都市　邪馬台国時代のまちづくり	金関　恕、七田忠昭、宮崎貴夫、川端正夫、高島忠平、武末純一、寺沢　薫、広瀬和雄	2008	福岡県教育委員会 他	九州北部三県姉妹遺跡締結10周年記念　平成20年9月13日　九州国立博物館
	卑弥呼は九州にいた!?	狩野　久、七田忠昭、小澤　毅、片岡宏二、中村俊介、西谷　正	2009	福岡県教育委員会 他	福岡歴史ロマン発信事業　平成21年3月1日　福岡市民会館
シンポジウム書籍	大宰府と新羅、百済の文化	石松好雄、金　正基、西谷　正、坪井清足、小田富士雄、田村圓澄	1988	学生社	第1回 国際シンポジウム記録集
	九州における古墳文化と朝鮮半島	柳田康雄、西谷　正、金　基雄、小田富士雄、坂元義種、町田　章	1989	学生社	第2回 国際シンポジウム記録集
	弥生文化の成立と東アジア	小池史哲、韓　炳三、西谷　正、甲元眞之、佐原　眞、永井昌文	1993	学生社	第3回 国際シンポジウム記録集
ガイドブック	ふくおかの民俗芸能(上)		2001	福岡県教育文化振興財団	福岡県の民俗芸能　福岡県民俗芸能緊急調査報告から抜粋
	ふくおかの民俗芸能(下)		2002	福岡県教育文化振興財団	福岡県の民俗芸能　福岡県民俗芸能緊急調査報告から抜粋
講演会	倭国大乱　－西ノ迫高地性集落の謎－	中間研志、水野正好	1987	福岡県教育委員会	昭和62年8月30日文化講演会（杷木町体育館）資料
	異文明とのであい　－九州各地に文明交流のあとをたどる－	藤田　等、田村圓澄、横山浩一、三浦朱門、古賀幸雄、谷口治達、近藤喬一、米津三郎	1989	九州国立博物館誘致推進本部	県内4地区で開催
図録	邪馬台国への道のり	職員多数執筆	1993	九州国立博物館　誘致推進本部	福岡県教委編集　日本・中国・韓国、三国合同企画展示「邪馬台国への道のり」 平成5年10月9日～11月14日　福岡県立美術館
教育普及	三遺跡交流こどもフォーラム　記録集		2002	福岡県教育委員会	平成13年8月2・3日三姉妹交流こどもフォーラム記録集
パンフレット	筑紫の文化　第1号	高島多吉、谷口鉄雄、鏡山　猛、裏辻憲道	1953	日本交通公社	福岡県教育庁文化課編集　当初は隔月刊行予定
	筑紫の文化　第2・3号	裏辻憲道、森貞次郎、朝日新聞、毎日新聞	1954	日本交通公社	福岡県教育庁文化課編集　当初は隔月刊行予定
	筑紫の文化　第4号	筑紫　豊、鏡山　猛、森貞次郎、吉田　聖、彌永泰正	1954	日本交通公社	福岡県教育庁文化課編集　第5号以降は刊行せず
	筑紫の文化　第6・7・8号		1956	観世音寺復興会	太宰府町　福岡県教育委員会編集
	太宰府文化展目録		1957	福岡県教育委員会 九州文化綜合研究所 毎日新聞社	昭和32年1月4日～13日　岩田屋
	国指定重要文化財　旧福岡県公会堂貴賓館		1988	福岡県教育委員会	26頁
	ふくおか歴史　彩発見　文化財ガイドブック		2006	福岡県教育委員会	大宰府文化発信事業
国際交流	日韓交流史理解促進事業報告書　平成13(2001)年度		2002	日韓交流史理解促進事業実行委員会	福岡県・佐賀県・長崎県・山口県及び大韓民国各地との共同交流事業
	日韓交流史理解促進事業報告書　平成14(2002)年度		2003	日韓交流史理解促進事業実行委員会	福岡県・佐賀県・長崎県・山口県及び大韓民国各地との共同交流事業
	日韓交流史理解促進事業報告書　平成15(2003)年度		2004	日韓交流史理解促進事業実行委員会	福岡県・佐賀県・長崎県・山口県及び大韓民国各地との共同交流事業
	日韓交流史理解促進事業報告書　平成16(2004)年度		2005	日韓交流史理解促進事業実行委員会	福岡県・佐賀県・長崎県・山口県及び大韓民国各地との共同交流事業
	日韓交流史理解促進事業調査研究報告書	福岡県職員8人執筆	2006	日韓交流史理解促進事業実行委員会	福岡県・佐賀県・長崎県・山口県及び大韓民国各地との共同交流事業
目録	福岡県国寶　重要美術品等　史蹟名勝天然紀念物一覧		1949	福岡県	
	福岡県重要文化財解説　国寶篇	波多江一俊、竹岡勝也、森　克己、松本勝次郎、鏡山　猛、谷口鉄雄、檜垣元吉、森貞次郎、岡崎譲治	1952	福岡県教育委員会	旧国宝篇
	福岡懸内文化財一覧　昭和28年2月		1953	福岡県教育委員会	A5版
	福岡懸内文化財解説		1953	福岡県教育委員会	
	福岡県文化財図録　第1輯		1954	福岡県教育委員会	
	福岡県下指定文化財一覧　昭和32年3月現在		1957	福岡県教育委員会	
	福岡県の文化財 1958	筑紫　豊、馬場常彦、岡崎林平、上野正澄、佐藤啓二、谷口鉄雄、田中幸夫、都築頼助、待鳥喜久太、三宅安太郎、渡邉正気、橘田有一	1958	福岡県教育委員会	昭和33年段階の概説書、巻末に目録

第35表　福岡県文化財関係刊行物　①

区分	書名	執筆者名	刊行年	発行機関	特記事項
目録	福岡県下指定文化財要覧　1960.11.3		1960	福岡県教育委員会	
	福岡県. 国. 県指定文化財一覧（昭和41年3月現在）		1966	福岡県	市町村別、県教委監修
	郷土の史跡と庭園 附・福岡県指定史跡一覧　郷土史研究資料２	筑紫　豊	1966	官公庁弘報	福岡県教委監修　非売品
	福岡県文化財総覧（種目別）　郷土史研究資料３	筑紫　豊	1967	官公庁弘報	福岡県教委監修　非売品
	福岡県文化財名の正しい読み方　郷土史研究資料４	筑紫　豊編	1967	官公庁弘報	非売品
	福岡県の文化財（明治百年記念）	筑紫　豊、伊藤　薫、渡邊正気編	1968	福岡県教育委員会	昭和43年2月15日現在の国・県指定文化財全部の写真と解説
	福岡県文化財目録（市町村別）(国指定・県指定)		1971	福岡県教育委員会	初版、市町村別
	福岡県文化財目録（種目別）(国指定・県指定)		1971	福岡県教育委員会	初版、種目別
	福岡県文化財目録（増補改訂）1976		1976	福岡県教育委員会	増補改訂、種目別
	福岡県文化財目録（追録）		1978	福岡県教育委員会	
	福岡県文化財目録（新訂）1982		1982	福岡県教育委員会	新訂、種目別
	福岡県文化財目録（昭和60年度版）		1986	福岡県教育委員会	種目別
	福岡県文化財目録（平成2年度版）		1991	福岡県教育委員会	種目別
	福岡県文化財目録（平成6年度版）		1995.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県文化財目録（平成10年度版）		1999	福岡県教育委員会	種目別
	福岡県文化財目録　2006		2006	福岡県教育委員会	種目別
分野別図録	福岡縣の天然記念物	麻生繁樹	1962	福岡県教育委員会	県報18輯の補遺
	福岡県の史跡		1977	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第1巻
	福岡県の民俗芸能	三池賢一編、根来昭仁	1978	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第2巻
	福岡県の名勝・天然記念物	三池賢一編、磯村幸男	1979	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第3巻
	福岡県の民族　－有形民俗文化財－		1980	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第4巻
	福岡県の美術工芸品Ⅰ　－工芸・書跡・工芸技術－	三池賢一編、根来昭仁、磯村幸男	1981	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第5巻
	福岡県の美術工芸品Ⅱ　－彫刻－	三池賢一、根来昭仁	1983	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第6巻
	福岡県の考古資料		1984	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第7巻
	福岡県の美術工芸品Ⅲ　－絵画－		1988	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第8巻
	福岡県の建造物		1989	福岡県教育委員会	福岡県の文化財シリーズ 第9巻
悉皆調査報告	福岡県の民家　緊急調査報告書	太田静六	1972	福岡県教育委員会	昭和43・44年度悉皆調査
	福岡県の近世社寺建築　近世社寺建築緊急調査報告書	根来昭仁、澤村　仁、佐藤正彦、山本輝雄、宮本雅明	1984	福岡県教育委員会	昭和58年度悉皆調査
	福岡県の民謡　民謡緊急調査報告書（昭和60・61年度）		1987	福岡県教育委員会	昭和60・61年度悉皆調査
	福岡県の諸職　福岡県諸職関係民俗文化財調査報告書		1990	福岡県教育委員会	昭和63年、平成元年度悉皆調査
	福岡県の民俗芸能　福岡県民俗芸能緊急調査報告	高橋　章編	1992	福岡県教育委員会	平成2・3年度悉皆調査
分布地図	福岡県史蹟名勝天然紀念物国宝分布図	島田貫次郎	1930	福岡県教育委員会	B1　1枚
	福岡県内指定文化財所在地図		1970	福岡県教育委員会	
	福岡県文化財地図		1992	福岡県教育委員会	B1　1枚
	福岡県遺跡等分布図（豊前市・築上郡編）		1976.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（行橋市・京都郡編）		1976.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（田川市・田川郡編）		1977.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（中間市・遠賀郡編）		1977.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（浮羽郡編）		1977.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（宗像郡編）		1977.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（大牟田市・柳川市・山門郡・三池郡編）		1978.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（甘木市・朝倉郡編）		1978.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（直方市・鞍手郡編）		1979.3.24	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（久留米市・小郡市・三井郡編）		1979.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（大川市・筑後市・三潴郡編）		1979.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（粕屋郡編）		1979.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（飯塚市・山田市・嘉穂郡編）		1980.2.29	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（八女市・八女郡編）		1980.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（筑紫野市・春日市・大野城市・筑紫編）		1980.3.31	福岡県教育委員会	
	福岡県遺跡等分布図（糸島郡編）		1981.3.25	福岡県教育委員会	
建築報告	重要文化財　旧福岡県公会堂貴賓館保存修理工事報告書	湧田森徳編、屋部憲右	1987	福岡県教育委員会	財団法人文化財建造物保存技術協会が執筆
	福岡県指定文化財 旧福岡県立豊津中学校講堂「思永館」保存修理工事報告書	髙橋　章、近藤光雄編、福本都治	1993	福岡県教育委員会	財団法人文化財建造物保存技術協会が執筆
有形報告	九州の石塔　－福岡県の部－	多田隈豊秋	1974	福岡県教育委員会	
民俗報告	筑前の荒神琵琶　昭和58年度地域文化伝承活動報告書	筑紫　豊、根来昭仁	1984	福岡県教育委員会	昭和44年調査
	筑前の荒神琵琶 付録 “くずれ詞書”昭和58年度地域文化伝承活動報告書	筑紫　豊、根来昭仁	1984	福岡県教育委員会	昭和44年調査
	豊前神楽調査報告書　－京築地域の神楽を中心として－		2012	福岡県文化財調査研究委員会	京築地域の神楽悉皆調査
史跡報告	特別史跡王塚古墳の保存－装飾古墳保存対策研究報告書－	根来昭仁・佐田茂編、坂上　務、関野　克、江本義理、山脇　忍、樋口清治、佐治泰次、山内豊聡、巻内勝彦、安原一哉、森貞次郎、岡崎　敬、小田富士雄、西村二馬、桂川町教育委員会	1975	福岡県教育委員会	昭和44～46年委託事業報告
保存計画	長崎街道・秋月街道報告書　歴史の道保存活用計画策定業務		2005	福岡県教育委員会	㈱alpha planning委託報告
基準	埋蔵文化財調査に関する安全規準（1976、1979改訂）		1979	福岡県教育委員会	
手引	文化財保護行政事務の手引		1973	福岡県教育委員会	
	文化行政の手引		1988	福岡県教育委員会	
	埋蔵文化財取扱いの手引		1997	福岡県教育委員会	
方針	文化財保存活用基本指針（建議）		1996	福岡県文化財保護審議会	
	福岡県重要・大規模遺跡の保存活用基本計画（建議）		2001	福岡県文化財保護審議会	
	福岡県文化財保護基本指針		2010	福岡県文化財保護審議会	

第 35 表　福岡県文化財関係刊行物　②

4　その他

（1）県内市町村の文化財保護条例

福岡県　S26. 8. 6　福岡県文化財保存規則〈福岡県教育委員会規則第 9号〉〔全11条〕
S28. 5.27　福岡県文化財保護条例〈福岡県条例第43号〉〔全　条〕
S30. 4. 1　福岡県文化財保護条例〈福岡県条例第25号〉〔全39条；S28の条例を全部改正〕
S50.12.27　福岡県文化財保護条例〈福岡県条例第40号〉〔全49条；文化財保護法改正に伴う改正〕

2019.11.30

	番号	市町村	施行年	条例制定年	条例改正年	委員会名	定数
1	401005	**北九州市**	S38. 2.10	S45. 4. 1	H17. 3.31	文化財保護審議会	15
		門司区					
		若松区					
		戸畑区					
		小倉北区					
		小倉南区					
		八幡東区					
		八幡西区					
2	401307	**福岡市**	M22. 4. 1	S48. 3.31	H24. 3.29	文化財保護審議会	20内
		東区					
		博多区					
		中央区					
		南区					
		西区					
		城南区					
		早良区					

【福岡教育事務所】

3	402176	筑紫野市	S47. 4. 1	S48.10.26	H17. 4. 1	文化財保護審議会	15内
4	402184	春日市	S47. 4. 1	S49. 4. 1	H17. 3.25	文化財専門委員会	15
5	402192	大野城市	S47. 4. 1	S49. 4. 2	H17. 3.28	文化財保護審議会	10
6	402206	**宗像市**	H17. 3.28	(S60. 9.26)	H17. 4. 1	文化財保護審議会	10
		玄海町	(S30.4.1)	S48.10. 1			
		大島村	(M22.4.1)	H 6. 9.19			
7	402214	太宰府市	S57. 4. 1	S54. 4. 1	H17. 3.29	文化財専門委員会	10
8	402231	古賀市	H 9.10. 1	S58. 7.15	H17. 4. 1	文化財保護審議会	5
9	402249	**福津市**	H17. 1.24	H17. 1.24	H21.12.16	文化財保護審議会	10
		福間町	(S29.4.1)	S56.10. 5			
		津屋崎町	(S30.3.1)	H 3. 6.27			
10	402303	**糸島市**	H22. 1. 1	H22. 1. 1	－	文化財保護委員会	10
		前原市	(H4.10.1)	S45. 6.29			
		二丈町	(S40.4.1)	S41. 3. 3			
		志摩町	(S40.4.1)	S53. 9.29			
11	403059	那珂川市	H30.10. 1	S63. 3.25	H30. 6.27	文化財専門委員会	10
12	403415	宇美町	T 9.10.20	S63. 4. 1	H17. 9.30	文化財専門委員会	6
13	403423	篠栗町	S30. 4. 1	S51. 4. 1	－	文化財専門委員会	5
14	403431	志免町	S14. 4.17	H 8. 6.21	H13.10. 1	文化財保護審議会	10
15	403440	須恵町	S28. 4. 1	S51. 6.18	H17. 3.25	文化財専門委員会	10
16	403458	新宮町	S30. 4. 1	H 8.10. 3	－	文化財保護委員会	10
17	403482	久山町	S31. 9.30	H 5. 7. 7	－	文化財保護審議会	8
18	403491	粕屋町	S32. 3.31	S55. 4. 3	－	文化財保護委員会	10内

【北九州教育事務所】

19	402044	直方市	S 6. 1. 1	S60. 9.30	H31. 3.22	文化財専門委員会	10
20	402150	中間市	S33.11. 1	S53. 4. 1	－	文化財専門委員会	10
21	402265	**宮若市**	H18. 2.11	H18. 2.11	－	文化財保護委員会	6
		宮田町	(S30.3.31)	S54. 4. 1			
		若宮町	(S30.3.31)	S60. 9.28			
22	403814	芦屋町	M38.11. 5	S53. 3.25	H19. 3.19	文化財保護委員会	7
23	403822	水巻町	S15. 2.11	H 5. 3.31	H26. 6.24	文化財保護委員会	5
24	403831	岡垣町	S37.10. 1	S53.12.21	－	文化財専門委員会	4
25	403849	遠賀町	S39. 4. 1	S61. 3.31	－	文化財保護委員会	5
26	404012	小竹町	S 3. 1. 1	H 5. 4. 1	－	文化財保護委員会	5内
27	404021	鞍手町	S30. 1. 1	S36. 4. 6	S44. 6.30	文化財保存協議会	6

【北筑後教育事務所】

28	402036	**久留米市**	H17. 2. 5	S47.10.20	H17. 4. 1	文化財専門委員会	25
		田主丸町	(S29.12.1)	S55. 9.29			
		北野町	(S30.3.1)	H 4.			
		城島町	(S30.2.1)	S62.			
		三潴町	(S31.11.1)	S51. 7. 1	H 3.		
29	402168	小郡市	S47. 4. 1	S49. 4. 1	H22. 4. 1	文化財保護審議会	16内
30	402257	**うきは市**	H17. 3.20	H17. 3.20	－	文化財保護審議会	10内
		浮羽町	(S26.4.1)	S53. 3.29			
		吉井町	(S30.1.1)	S54.			
31	402281	**朝倉市**	H18. 3.20	H18. 3.20	－	文化財専門委員会	12
		甘木市	(S29.4.1)	S46.12.28			
		杷木町	(S26.4.1)	S42.10. 1			
		朝倉町	(S37.4.1)	S43. 6.24			
32	404471	**筑前町**	H17. 3.22	H17. 3.22	－	文化財保護審議会	6
		三輪町	(S37.4.1)	S37.12.13			
		夜須町	(S37.4.1)	S62. 3.19			
33	404489	**東峰村**	H17. 3.28	H17. 3.28	－	文化財専門委員会	5内
		小石原村	(S55.4.1)	S57. 6.28			
		宝珠山村	(S55.4.1)	S60.			
34	405035	大刀洗町	S30. 3.31	H 4. 3.25	H23.12.22	文化財専門委員会	10内

【南筑後教育事務所】

35	402028	大牟田市	T 6. 3. 1	S33. 4.19	H31. 4. 1	文化財保護審議会	10
36	402079	**柳川市**	H17. 3.21	(S52. 4. 1)	H17. 3.21	文化財専門委員会	10
		大和町	(S27.9.1)	S51.10.15			
		三橋町	(S27.6.1)	S56.			
37	402109	**八女市**	H22. 2. 1	S56. 3.25	－	文化財専門委員会	10
		黒木町	(S32.3.31)	S53. 6.12	H19.		
		上陽町	(S33.3.31)	S57.			
		立花町	(S30.4.1)	S57. 3.16		(文化財専門委員会)	
		矢部村	(M22.4.1)	S52. 9.30			
		星野村	(M22.4.1)	S39.11.30			
38	402117	筑後市	S29. 4. 1	S60. 3.30	－	文化財専門委員会	10
39	402125	大川市	S29. 4. 1	S62. 4. 1	－	文化財専門委員会	10
40	402290	**みやま市**	H19. 1.29	H19. 1.29	－	文化財専門委員会	10
		瀬高町	(S31.9.30)	S43. 3.12	S52.		
		山川町	(S44.2.1)	S62.			
		高田町	(S33.8.1)	H 2.			
41	405221	大木町	S30. 1. 1	S59. 3.23	H11. 3.31	文化財専門委員会	10
42	405442	広川町	S30.12. 1	S59. 3.10	－	文化財専門委員会	7

【筑豊教育事務所】

43	402052	**飯塚市**	H18. 3.26	S61.10.15	H18. 3.26	文化財保護審議会	10
		筑穂町	(S30.3.31)	H 2. 4. 1			
		穂波町	(S32.11.3)	H 3. 4. 1			
		庄内町	(S33.11.1)	H 2. 3.26			
		頴田町	(S34.1.1)	H 5. 3.25			
44	402061	田川市	S18.11. 3	S60.10. 1	H17. 9. 2	文化財専門委員会	10内
45	402273	**嘉麻市**	H18. 3.27	H18. 3.27	－	文化財保護審議会	10
		山田市	(S29.4.1)	S62.10. 5			
		稲築町	(S16.4.17)	H 1.10. 3			
		碓井町	(S16.4.17)	H 5. 4. 1			
		嘉穂町	(S30.1.1)	S53. 6.27			
46	404217	桂川町	S15. 4.17	S61. 3.25	－	文化財保護審議会	7
47	406015	香春町	S31. 9.30	S47. 7.29	S59.12.25	文化財保存協議委員会	5
48	406023	添田町	S30. 1. 1	S54. 3.30	－	文化財専門委員会	5
49	406040	糸田町	S14. 1. 1	H 4. 4. 1	－	文化財専門委員会	6
50	406058	川崎町	S13. 8.15	H 1.12.25	H19. 9.18	文化財専門委員会	10
51	406082	大任町	S35. 1. 1	S49.12.25	H17. 3.18	文化財専門委員会	6
52	406091	赤村	M22. 4. 1	S54. 9.13	H24. 3.14	文化財専門委員会	7
53	406104	**福智町**	H18. 3. 6	H18. 3. 6	－	文化財専門委員会	6
		金田町	(T5.5.28)	H 5.			
		赤池町	(S14.11.3)	S62.			
		方城町	(S31.8.1)	S51. 8.			

【京築教育事務所】

54	402133	行橋市	S29.10.10	S35. 3.28	H14. 7. 2	文化財調査委員会	10
55	402141	豊前市	S30. 4.10	S42.12.27	S57. 7. 5	文化財保護審議会	7
56	406210	苅田町	S30. 1. 1	S41. 7. 1	S63. 4. 1	文化財保護審議会	10
57	406252	**みやこ町**	H18. 3.20	H18. 3.20	－	文化財保護委員会	9
		犀川町	(S31.9.30)	S54. 8. 2			
		勝山町	(S30.3.1)	S62.			
		豊津町	(S30.3.1)	S58.			
58	406422	吉富町	S17. 5.19	S54. 3.20	S54.12.27	文化財保護委員会	5
59	406465	**上毛町**	H17.10.11	H17.10.11	－	文化財保護委員会	7内
		新吉富村	(S30.3.1)	S53. 3.23			
		大平村	(S30.4.1)	S45. 6. 1			
60	406473	**築上町**	H18. 1.10	H18. 1.10	－	文化財保護委員会	6
		椎田町	(S30.1.1)	S63.			
		築城町	(S30.4.1)	S54. 9.22			

＊地方文化行政調査をもとに作成
・施行年は、現行の市町村制を施行した年を示す
・条例改正年は、最新の改正年を示す
・二丈町は、S41.3.3の後に全部改正があるが、日時不明
・小郡市は、S52.3.28にも改正あり
・旧宗像市は、S56.4.1に市制施行、H15.4.1に条例改正あり
・旧久留米市はM22.4.1に市制施行
・旧柳川市は、S27.4.1に市制施行
・旧八女市は、S29.4.1市制施行
・旧飯塚市は、S7.1.20に市制施行

第 36 表　県内の文化財保護条例

編集後記

このたび、福岡県の文化財保護行政の歩みを振り返る初めての記念誌を刊行することができました。初めての史跡指定から100年、福岡県教育庁文化課（現文化財保護課）設立から50余年の歴史を持つ本県ですが、これまで特別展やイベント等周年事業を行ってきた九州歴史資料館を含めて、本県の文化財保護行政の歩みを記録した本格的な「記念誌」という形での周年事業を行ったのは今回が初めての試みとなりました。企画から刊行に至るまでは、非常に短期間の作業となり、多忙な業務を抱えた多くの方を巻き込んでの準備となりました。改めまして、御協力いただきました関係者の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

なお、記念誌執筆に当たっては、時代背景や社会情勢を織り交ぜながら、本県の文化財保護行政が積み重ねてきた歴史を参考資料としてデータ化し、過去の歩みを読み解ける資料を作成するとともに、各類型・分野の歩みも簡潔な文章として掲載して、関係者のみならず、県民の皆様にも親しんでいただける内容となるように心がけました。

また、本県初の埋蔵文化財専門職員である故渡邉正氣氏の生前の聞き語りを掲載するなど、本県文化財保護行政の過去と未来を繋ぐ貴重な冊子を完成させることができました。

100年という節目を迎えましたが、今回の記念誌刊行を契機に、現状を維持することのみでなく、福岡県ならではの、福岡県らしい、今後の100年を見据えた文化財保護行政の取組を進めて参ります。次の記念誌が作成される際には更に充実した内容となることを願っています。

そのためにも今後とも、本県文化財保護行政の御理解・御協力賜りますようお願い申し上げます。

令和３年３月　『福岡県の文化財保護行政の100年』記念誌企画編集担当

九州歴史資料館　伊﨑俊秋
福岡県教育庁文化財保護課　大庭孝夫

大宰府史跡指定
100年事業

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2120253
登録年度 2	登録番号 2

福岡県文化財保護行政の100年
大宰府史跡指定100年記念誌

令和３（2021）年３月

発　行　福岡県教育委員会
福岡県福岡市博多区東公園７-７

印　刷　株式会社　四ヶ所
〒838-8512
福岡県朝倉市馬田336